創刊2周年記念やんけ!
世紀末マット界をメッタ斬り!!

紙のプロレス RADICAL

No.14

大特集
アレキサンダー・カレリン
これが"人類最強の男"の正体だ!!

快進撃男ロング・インタビュー
金原弘光

舌好調!
本誌でしか読めない大型連載
谷津嘉章のマット界目ぇつぶって30秒!

幻のSWSを再考察
『S〜多重トンパチ〜』
折原昌夫

祝・30周年記念企画
『全女・脱走伝説』

ブレイク寸前! 要チェック!
D²Tが止まらない!!

戦慄のカレリン戦迫る!
泣いても笑っても、この一戦が
ラスト・オブ・アキラだ!!
独占ロング・インタビュー!!
前田日明

ファイター・前田日明
最後の大航海!!

世界征服への第一歩完了!
バトラーツ
11・23両国 好きに描いて好きに感じる大総括

特集『髙田道場1999!』
マット界のマイトガイ・髙田道場勢総登場!
髙田延彦/桜庭和志
佐野友飛/松井駿介/豊永稔

特集:『虎の尾を踏む男たち'99』
ブラジルを倒したMr.PRIDE 小路晃
4代目吠える! タイガーマスク
憎さあまって可愛さ100倍! 宇野薫
UFOに乗った若き館長 村上一成

紙のプロレス RADICAL No.14
前田日明、最後の大航海!!
世にも元気なプロレス雑誌

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体743円+税

格闘探偵団バトラーツ

'99年1月12日(火)
東京・後楽園ホール
17:30開場　18:30試合開始

BATI BATI バチバチ

祭りの後のバトラーツは原点回帰で勝負します!!

これがBの原点だ!
メインイベント 新春バチバチお年玉スペシャルマッチ
石川雄規・アレクサンダー大塚 vs 池田大輔(この日が復帰戦)・モハメド・ヨネ

降るか、血の雨!?
セミ・ファイナル キング・オブ・トンパチ決定戦
折原昌夫 vs 小野武志

チケットは絶賛発売中!! 残りわずか、急げ!!
SRS席 ¥6000 (SOLD OUT!)　指定席 ¥4000
特別席 ¥5000　立見 ¥4000 (当日のみ)
チケット取扱所■チケットぴあ／TEL.03-5237-9999■後楽園ホール／TEL.03-5800-9999

いよいよ今年もバチバチ納め! バトラーツタッグバトル'98

公式戦日程（カッコ内は試合開始時間）
12月16日（水）埼玉・本川越ぺぺホール～開幕戦～（18:30）
12月18日（金）千葉・船橋アリーナ（18:30）
12月19日（土）茨城・ひたちなか市松戸体育館（18:30）
12月23日（水）静岡・沼津ピアオオトミイベントホール（19:00）
12月25日（金）東京・TOKYO FMホール～決勝戦～（18:30）

バチバチ怒涛の九州2連戦『THE name is BATTLARTS!』
'99年2月12日（金）長崎・長崎文化放送ncc&スタジオ（18:30）／'99年2月14日（日）福岡・アクロス福岡（12:00）

お問い合せは TEL.0489-63-0005 格闘探偵団バトラーツまで
バトラーツ情報満載の公式ホームページはこちら! http://www.ops.dti.ne.jp/~batbat

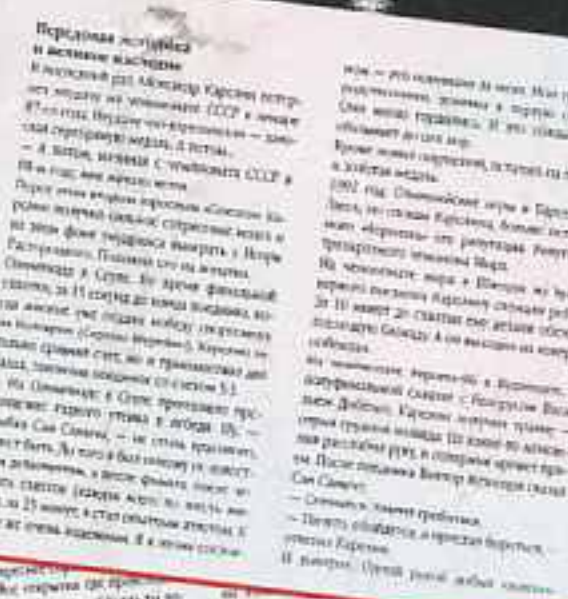
1999
2.21

ALEXANDER KARELINE VS AKIRA MAEDA

前田日明が
引退試合に選んだ男を
我々はもっと
知る必要がある——。

栄光のゴールか、
沈没か!?

"人類最強の男(カレリン)"の
脅威が、前田日明の
最後の大航海を襲う!!

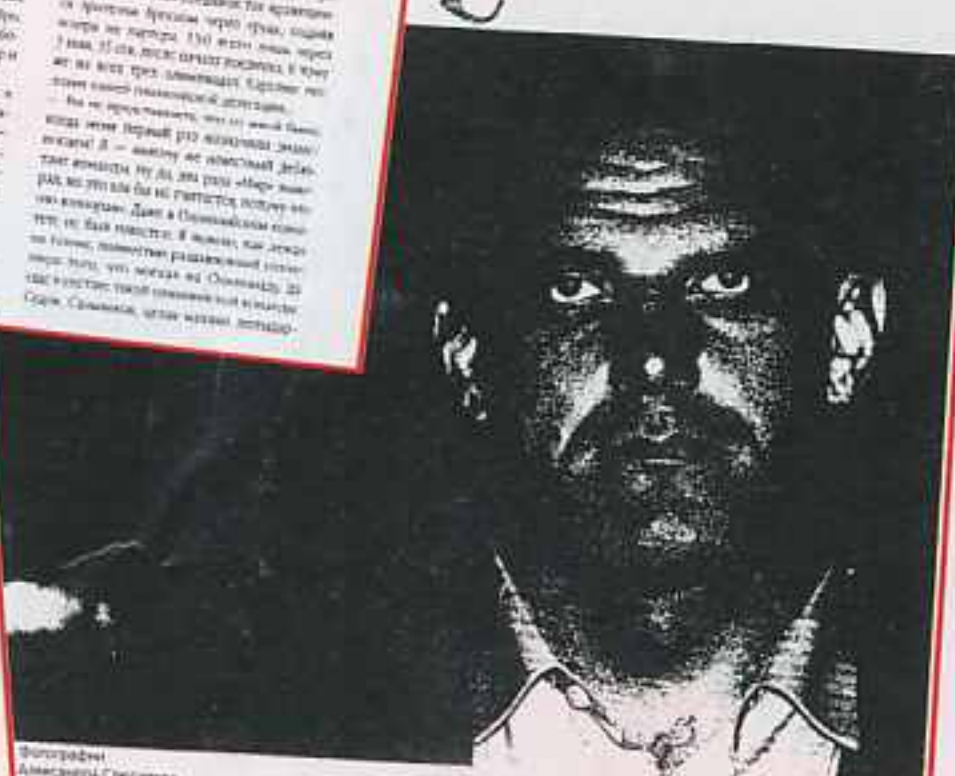
格闘
DREAM CAST
"人類最強の男"降臨!!

“人類最強の男”が

カレリンの発した言葉だ!!

格闘 DREAM CAST
“人類最強の男”降臨!!

ロシアのスポーツ誌での「カレリン・インタビュー」を発掘

前田日明が言うように、カレリンは「時間に劣化されない相手」だ。それはカレリンの実像が見えてくればくるほど如実になってくる。アレキサンダー・カレリン。世界中から”人類“最強”と括られるこの男は一体何者なのか——。

Я стараюсь не думать о победах. А хроническая непобедимость в сказках бывает.

«Динамовец» Александр Карелин. Для многих — просто Сан Саныч. Рост: 191 см. Вес: 130 кг. Герой России, Олимпийский чемпион Сеула-88, Барселоны-92 и Атланты-96. Семикратный чемпион мира и десятикратный чемпион Европы по греко-римской борьбе. За последние 11 лет он не проиграл ни одной схватки. В 1989, 1990, 1992, 1994 годах был признан спортивными журналистами России «Лучшим борцом года».

「成績は言葉より明確だ。控えめに言うと負けることが嫌いになる。例え鬼ごっこする時でもね。しかし真面目に言うと、勝つことは考えないようにしている。”恒常的な無敗“は神話の中にしかない話だ。大事なのはやるべきことをやる。そうすれば成功もついてくる。リーダーシップというのは認められた”エゴイズム“だね。マットに上がって勝ち、ベストになるチャンスを他者から奪う。そして他人のスポーツにおける出世を破壊したりする。とくに勝ち続ける期間が長すぎるとそういうことになる。ということは、私は”長すぎたエゴイスト“なわけだ」

対戦相手に「彼に勝つにはゴリラにレスリングを教え込むしかない」とまで言わしめたアレキサンダー・カレリンが最後に負けたのは、87年のソ連選手権。

ふつう、”銀メダル“を獲得すれば喜びのあまり涙にむせぶものだが、カレリンが”銀メダル“を獲得することは、「カレリンの惨敗」を意味する。つまり、負けることが”銀メダル獲得“なのだ。

カレリンは最後に負けた翌年の88年のソウルを皮切りに、92年バルセロナ、96年アトランタと3連続でオリンピックの金メダルを獲得。他にも世界選手権大会に9回優勝、ヨーロッパ選手権でも12回優勝している。

この約12年間、無敗を誇る。

凄すぎる！　いや、凄いということがわからなくなるくらい非現実的に思える数字と記録である。しかし、これはリアルに残された世界中が認める記録なのだ。

かつてマット界には”未知の強豪“が続々来日を果たした。銀髪鬼、鉄の爪、

バトラー

これが

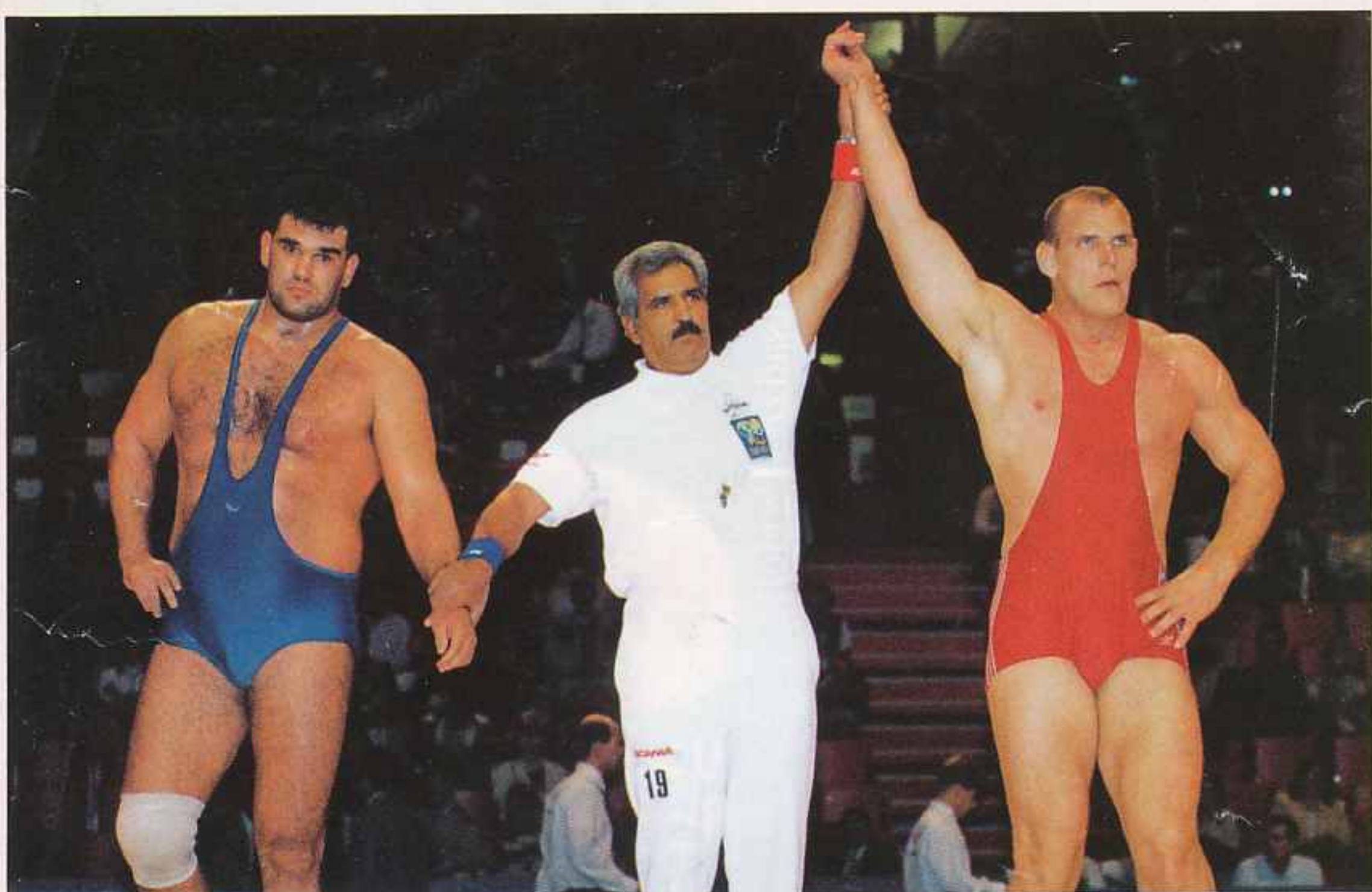
生傷野郎、人間風車、人間起重機、お化けカボチャ、450戦無敗……。その中にはホンモノもいれば、とんだ一杯喰わせ者もいた。

99年2月21日、前田日明の引退試合の相手はカレリンに決定した。

誰もが実現不可能と思っていたカレリンとの対戦が遂に実現するのだ。

身長191cm、体重130kg。人はカレリンをこう形容する。

〝人類最強の男〟——。

〝世界最強〟ではない。〝人類最強〟だ。単位が違う。格闘技ファンといわれる人たちは、「当然、名前は知っている」

89、90、92、94年にはロシア・スポーツメディアの評論家の間による「年間ベスト・レスラー」の称号も得ているカレリン。オリンピック・チームの合宿の時には、〝夜中に起きて練習を始め、みんなに勝つとようやく寝る〟という逸話を残したほどの練習好きだ。ちなみにカレリンは〝サン・サヌィッチ〟という愛称で呼ばれている。

と言いつつも、カレリンの何が凄いのかをまだわかっていない。

〝未知の強豪〟——究極のリアル版上陸……。

ここに『ЦЕРСОНА』(『ペルソナ』=98年発行)というオールカラーのロシアのスポーツ誌がある。そこに、あまり目に触れることはなかったカレリンのインタビューが掲載されているのを発見した。

その記事は、「さすが芸術の国・ロシアだ」と思わせる叙情的な表現が並ぶジャーナリストの地の文章と、カレリンのインタビューの受け答えによって構成されている。

冒頭の言葉は、そのジャーナリストの「失敗はどうやって受けとめるんですか?」という質問にカレリンが答えたものだ。

たった1日のモスクワ滞在中を縫って行われたそのインタビューに与えられた時間は僅か。カレリンのスケジュールは1分ごとに決められている。カレリンは25歳で国内軍の少佐号を授与され、28歳で税務警察局の大佐になると同時にロシア・レスリング協会の副会長に。「カレリン基金社」の社長も務めている大物中の大物だ。どこにでも顔が利く。

この錚々たる肩書きの根っこには、当然〝本職〟のレスリングがある。

カレリンは、「ロシアの英雄」という国家勲章を授かっている。「英雄」というアダ名ではなく、国から授かった「英雄」という勲章である。カレリンは記録だけではなく、ロシアの人々の記憶にも刻み込まれているのだ。

67年9月19日、ロシア・ノボシビルスク市でカレリンは生まれた。

「14歳まではレスリングというスポーツが存在することさえ知らなかった。クズネツォフは私の最初で唯一のコーチだ。彼は私に闘うことを教えてくれた。マット上の闘いだけではなく人生においてのね。14歳の私はもちろん小柄じゃなかった。当時、身長178cm、体重78kg。ところが懸垂することが一度もできなくて、ただヒヒのようにぶら下がっているだけだったよ(笑)」

格闘家には闘うことのみならず、人生にまで影響を受けた人物が必ずいるものだ。カレリンにとってはコーチのヴィクトル・ミハイロヴィッチ・クズネツォフ氏がそれに当たる。

そのクズネツォフコーチは、96年のヨーロッパ選手権大会の準決勝終了後、カレリンにこう言った。「帰ろう。身体を壊すのはもう十分だ」。カレリンは準決勝で胸の筋肉を切っていたのだ。

しかしカレリンは「大丈夫、俺は闘いにきたんだ」と答え、一本しか動かない手で全欧レベルの優勝をさらった。そしてさらには閉会式で若い選手と模範試合まで行った。

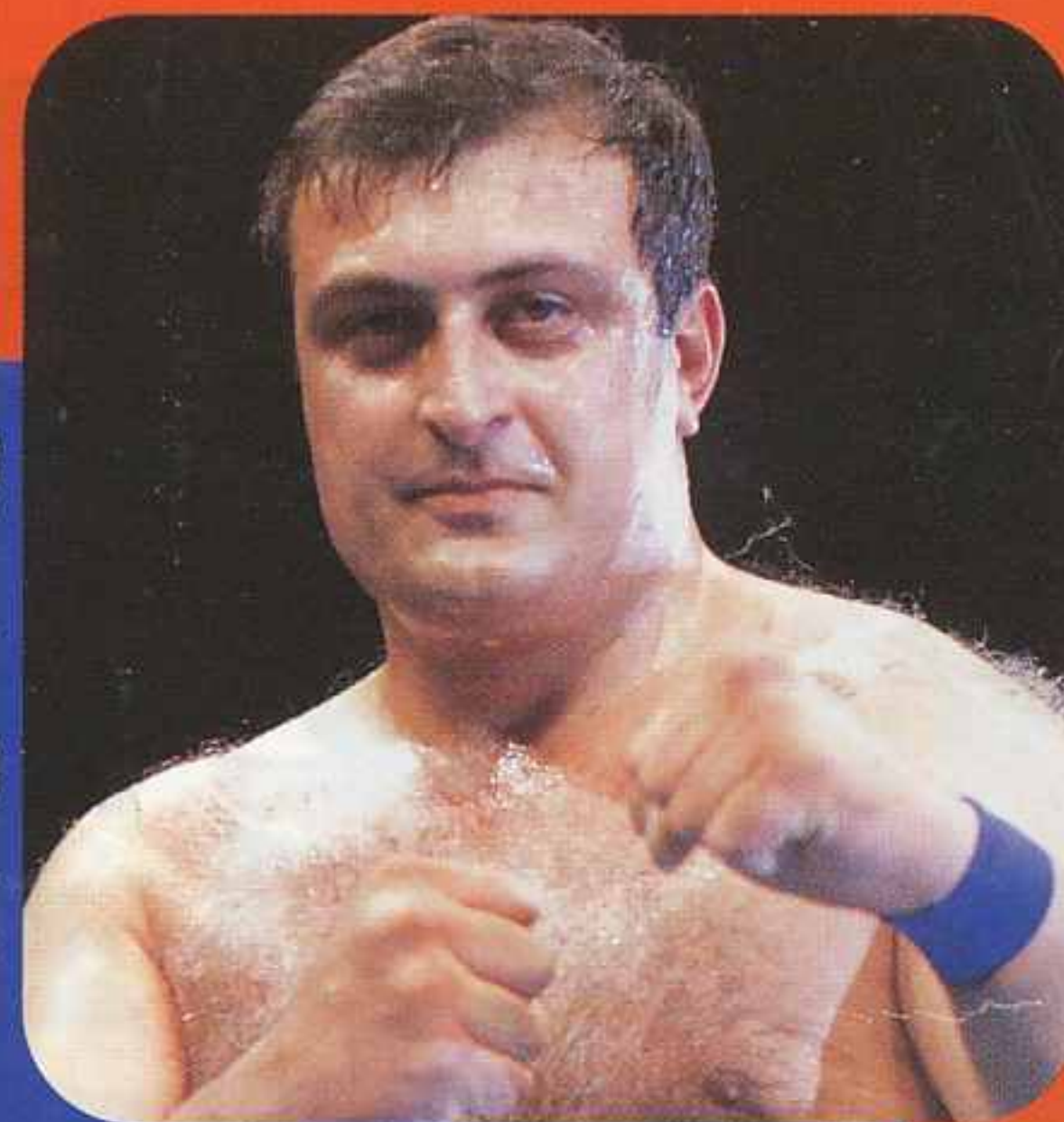
88年のソ連選手権では脳震盪を起こしていたにもかかわらず優勝。スウェーデンの世界選手権では肋骨を折っていたものの、試合が始まる10分前に麻酔を打って勝ち続けた。

懸垂が一度もできなかった14歳の体格のいい少年は、いまや人間としては「規格外れ」のボディを誇り、当然のことながら、怪我がないときにはとんでもない強さを発揮する。

無傷で臨んだ96年の世界選手権では、グラウンドで技をかけながら、コーチに目配せする余裕を見せ、観客が唸る〝胸回転投げ〟で勝った。

「幼い頃、私はよく図書館に行った。最初に読んだのは英雄、勇士たちが登場する古代民話。とにかくブィリーナ(古代ロシアの英雄叙情詩)が好きだった。それからすべてが変わった」

いまや、自らが英雄になり、誰も文句をつけられない〝リアルな記録を持つ男〟となったカレリン相手に、〝リアルな魂を持つ男〟・前田日明はいかにして闘うのだろうか。

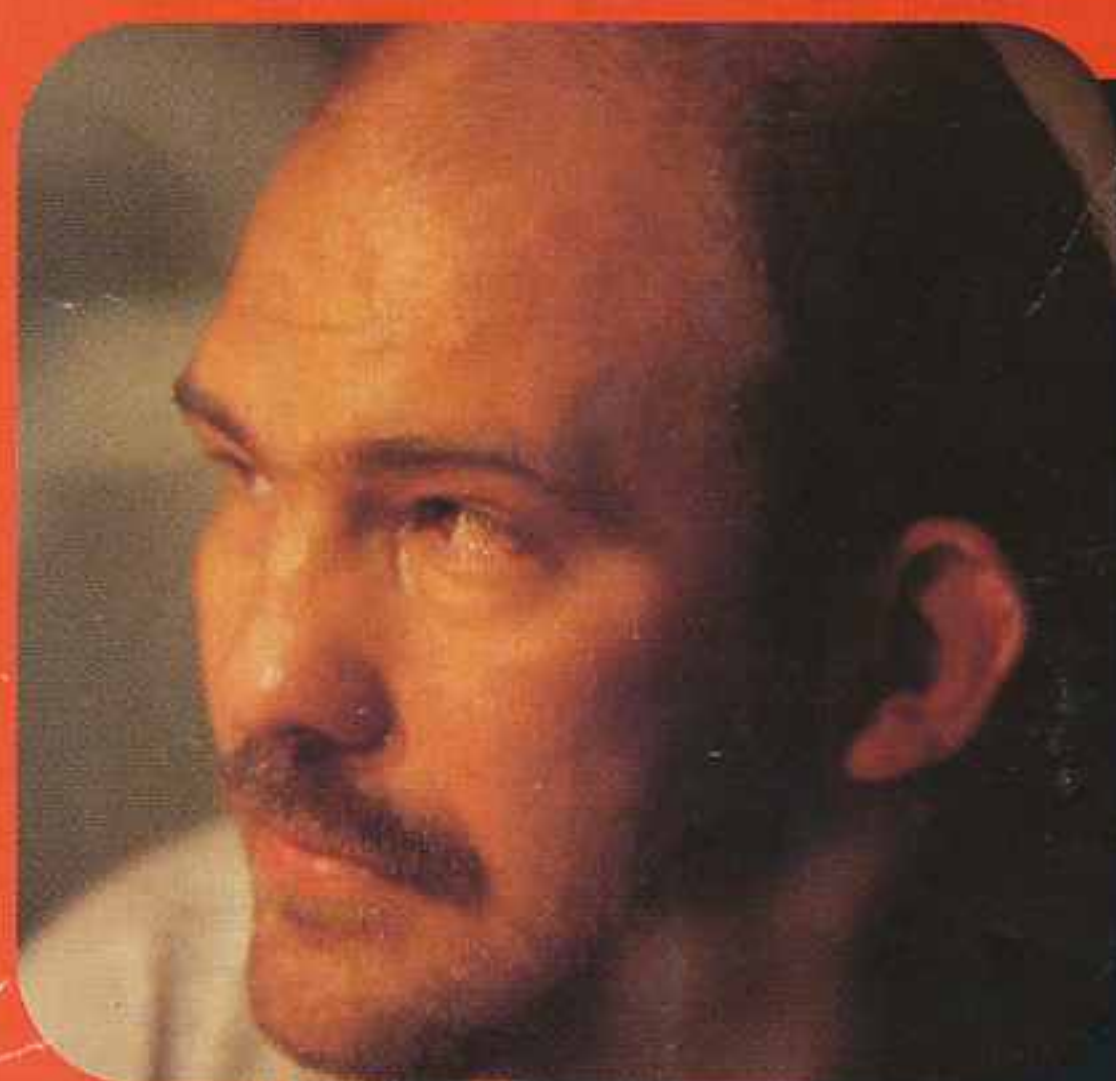
2・21は、すぐそこまできている。

リングス無差別級王者
ビターゼ・タリエル
【リングス・グルジア】

Bitsadze Tarieli

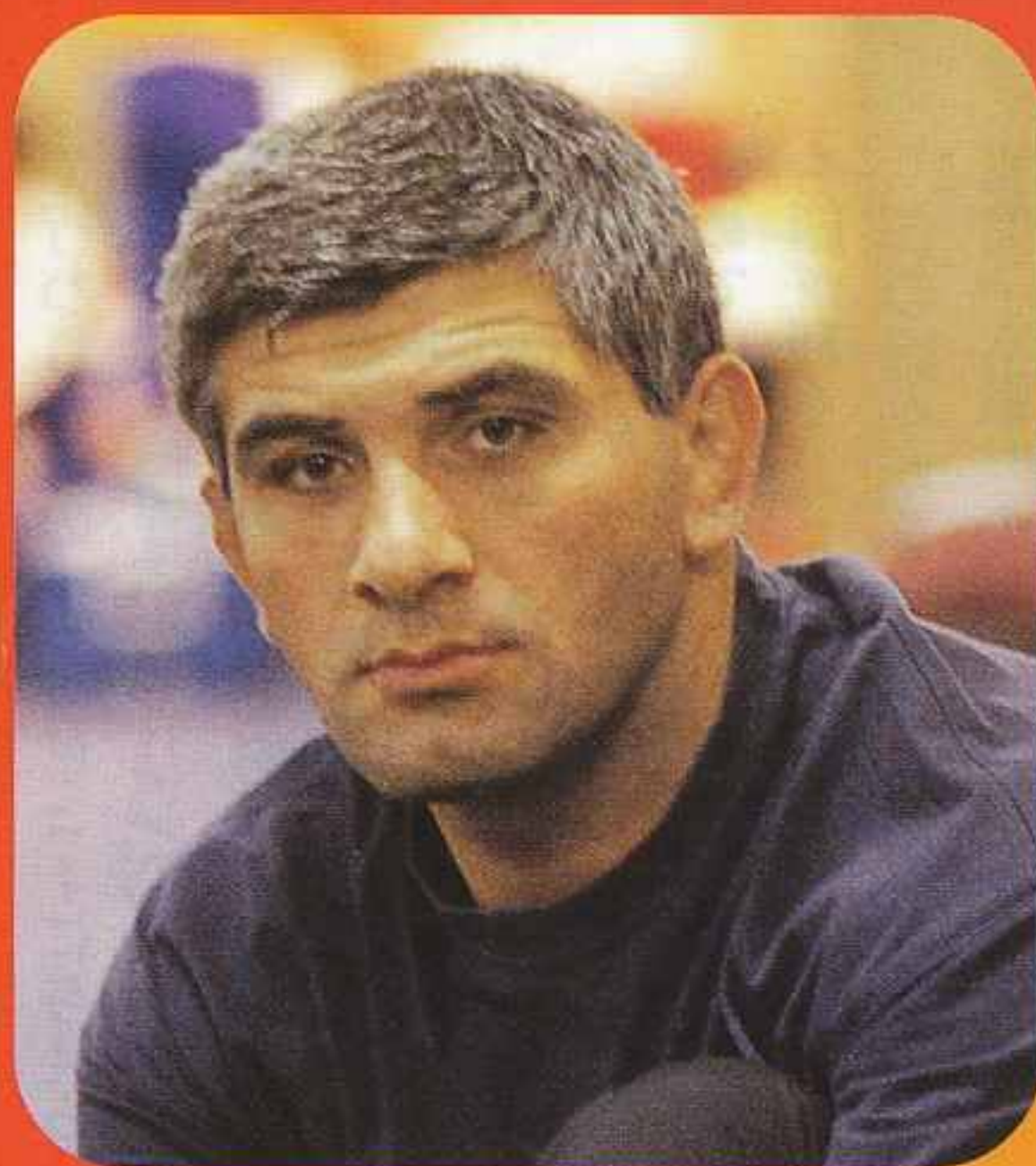
私がカレリンとリングス・ルールで闘うとしたら、まず組み合わないでしょう。私の方が背が高いし体重もありますが、組み合ったらとても勝ち目はない。ただし、私には打撃があるので負けることは考えたくありません。

国は違えどグルジア国内でも、カレリンは最も知られた、最も尊敬されるスポーツ選手です。恐らく知らない人は一人もいないでしょう。1度、モスクワのホテルで会ったことがあります。長い間、負けたことのない男ですが、そういうことに傲ることなく、スポーツマンとしてのマナーを備えた人物だと思いましたね。

ヒクソン・グレイシーとカレリンだったら、もちろんカレリンの方が強いでしょう。

今度、Mr.マエダがカレリンと闘うわけですが、カレリンと試合すること自体とても難しいと思います。マエダが勝つとしたらやはり打撃でしょう。もちろん私はMr.マエダを応援します(笑)。

コマンド・サンボ・マスター
アンドレィ・コピィロフ
【リングス・ロシア】

Andrei Kopylov

Mr.マエダとカレリンが試合することを今回、日本に来て初めて聞きました。**カレリンのことはよく知ってますが、心が素晴らしい、とても偉大な選手です。**私がリングス・ルールでカレリンに勝つとしたら、関節技しかないでしょう。カレリンはグレコローマンの中では最強ですから。

柔術怪獣を倒した男
グロム・ザザ
【リングス・グルジア】

Grom Zaza

"人類最強の男"と日本では言われているようだが、私もその言葉に賛成だ。体力、テクニック、頭脳。どれをとってもズバ抜けている。私は1986年にスウェーデンで行われた世界選手権大会にフリースタイルで優勝したが、カレリンはその時グレコローマン・スタイルで優勝している。とても強いという印象だった。彼は"ロシアの英雄"というタイトルのメダルも授与されているんだ。

ヒクソン・グレイシーを知っているか? もちろん知っている。私はいつでも彼を相手にする用意はできてる。**カレリンがヒクソンとバーリ・トゥードで闘っても、勝つのは当然カレリン。**ただし、Mr.マエダと闘う場合はカレリンも気をつけた方がいい。Mr.マエダは関節技を知り尽くしているが、グレコローマンにはその技術はない。そこが不利だろう。

もし私がカレリンと闘うとしたら? リングス・ルールでは一番強い者が勝つ。ただそれだけだ。

ソ連から日本に虹をかけた世界の拳
勇利アルバチャコフ
【プロボクシング元WBC世界フライ級王者】

Iouri Arbatchakov

競技の違う私の目から見ても**カレリンはバケモノじみた強さを感じますね。人間離れしていると思います。彼はロシア国内において大変有名な人物であることは言うまでもありません。**現在はロシアのメディアをほとんど目にすることがないのでよくわかりませんが、カレリンは非常に有名で、実力についてはロシアのメディアでも相応に評価されているに違いないと思います。

ヒクソン・グレイシーについて? 残念ながら、その格闘家のことは知りません。

"人類最強の男"に関する証言ファイル

本当にカレリンは凄いのか？
凄いのならどう凄いのか？
カレリンを知る11人からの
短くもリアルな証言は、
その凄さを伝えるには十分だった。

マルコ・ファスに劇勝し、ウォリアーズに敗れた格闘パーマン
アレクサンダー大塚
【格闘探偵団バトラーツ】

Alexander Otsuka

前田さんはこの世界の大先輩ですが、そういうことを度外視しても**ボクはカレリンに勝ってほしいです。カレリンは学生時代からの憧れですから。**んむはぁ。

初めて彼を見たのは高校2年生の時で、相手をリフトして投げる時の"鬼の形相"と言うんですかね。その姿を見て凄いカッコイイなと思って。それと人並み外れた身体ですよね。**世界のトップクラスの中でも、130キロ級であんな均整の取れた身体は見たことないです。**

練習期間がしっかりあればリングス・ルールにも対応できるでしょうけど、もうあまり日にちがないですから、サブミッションとかを考えると不利とは思います。ただ、リフト技はリングス・ルールでも使えると思いますよ。足を掴んではいけないグレコのルールでこそ可能な技と言われてるみたいですけど、彼なら別の上げ方をするでしょう。

本当はグレコ以外の試合には出てほしくないんですけど、やる以上はカレリンに勝ってほしいですね。この「アレクサンダー」というリングネームは彼にあやかって付けたんですから。彼には強くあってもらいたいです。

関節技の鬼
藤原喜明
【藤原組組長】

Yoshiaki Fujiwara

まあ、ルールなんだよね、一番のネックは。だから、勝敗はルールで決まりますよ。

（ルールを無視した場合、カレリンの怖さは想像もできないとアマレス関係者が言う場合が多いです）

いや、ちょっと待て！前田も怖いよ！

物騒なる銀メダリスト
太田章
【早稲田大学人間科学部助教授／ソウル、ロサンゼルス五輪・レスリング銀メダリスト】

Akira Ota

いまからでもいいですから、やめた方がいいですよ、前田さんは。命が危ないですよ。最終的に怒らせたら何をするかわからないじゃないですか。

カレリンは森を愛し、詩を愛しという優しい男ですから、そんなことはないと思いますけど本当に自分の身の危険を感じたら、相手の安全なんか気にせず、倒しにいくでしょう。受け身の取れない落とし方ってありますしね。**レスリングを知ってる人たちは誰もカレリンと試合しようとは思わないですよ。**

カレリンは組んでいってクラッチして投げるっていうレスリングですからタックルとかはやらないですよ。差し合いですから、グレコローマンは。ただ、足を取られてもまず倒れないと思いますよ。それにあの太い手ですからね、パンチやキックの破壊力もありますよ。まともに当たったら死にますよ。それだから**前田さんがいままで味わったことのない本物の恐怖を味わいたいんなら、やればいいんじゃないですか。**

カレリンと闘ったという噂を持つ男
鈴木賢一
【バルセロナ、アトランタ五輪
グレコローマン130キロ級日本代表／
現・広告代理店勤務】

Kenichi Suzuki

カレリンと試合で当たったことは実はないんですけど、一緒に練習をしたことはあります。やはり身体全体からにじみ出てくる凄みがありましたね。今回、前田選手と試合するということですが、**ルールを把握して、その練習をすればカレリンが絶対に勝ちますね。**何がカレリンの凄さかと言えば、身体を絞って130キロですからね。筋肉が本当に詰まってるんですよね。規格外の身体なんですよ。人間じゃないですよ。

だから、前田さんと僕はスパーリングでいいですから一度やってみたいですね。僕はカレリンとも練習してますから比べられると思いますね。

え？　カレリン選手が怒ったとしたらどうなるかわかりませんよ。ともかく、**前田さんはカレリン選手を本当に知ってるのか疑問ですね。**

カレリンと2度闘った男
神子沢健一
【ワールドカップレスリング選手権
グレコローマン130キロ級日本代表／現・自衛官】

Kenichi Mikozawa

87年のレスポワールでカレリン選手と当たったんですけど、もう見た感じで違いました。**ケタ外れだったですね。できることなら試合したくないぐらいに思いました。**よく、立ってる間がないって言いますけど、僕の場合は寝てるヒマがないくらい？もう、そのぐらいリフトで持ち上げられては投げられてましたね。当時カレリンは20歳でまったく今のように注目されてはいなかったですけど、絵に書いたような筋肉してましたから。

それで翌年、ワールドカップの団体戦でも当たったんですけど、予選で勝ち上がるのが嫌だったですから。だって、勝つとカレリン選手と試合しなきゃいけないじゃないですか。もうやる前からビビリが入っていた状態。**身体が全然違うんですよ。手もデカイし、履いてたadidasのサンダルも軽く30センチは超えてましたよ。**もう、説明がしようがないくらい強いですよ。レスリングをやらせたら彼は最強ですね。

今度、前田さんと試合するそうですけど、ルールとかの問題はやっぱりあるとは思いますが、掴まれたらかなり危ないと思いますよ。

高田道場のマットの番人
安達巧
【高田道場コーチ／
レスリング・アジア大会優勝】

Takumi Adachi

前田さんが勝つ可能性は十分にあるでしょう。**アマレスと違って、こちらのルールでは極めなきゃいけませんからね。**

カレリンもポジショニングでは負けないと思いますよ。ポジショニングを知っていれば関節技を覚えるのも早いでしょうし。ただ、フリーとグレコではポジショニングの取り方が違うんですね。関節ありの世界ではフリーのポジショニングの方が有効なんですよ。だから、フリー出身のマーク・ケアーとグレコのカレリンだったら、ケアーの方が強いんじゃないでしょうかね。バーリトゥード系の闘いでは。

スタミナの部分でもなんとも言えないですね。カレリンはいつも短いタイムで勝つから、5分2ラウンドも試合をしたことないと思うんですよ。だから前田さんに勝機がないとは言えませんね。

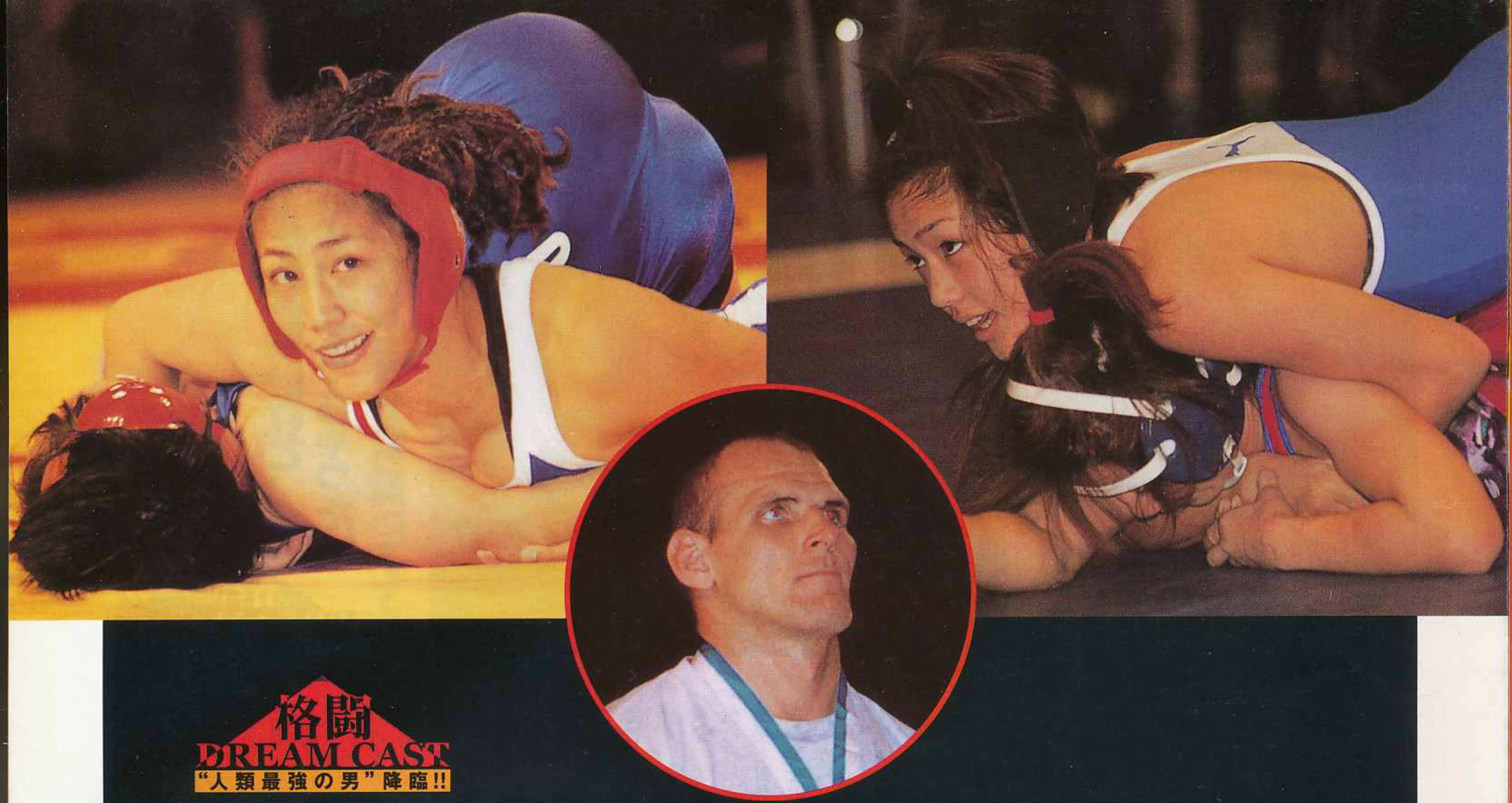
格闘 DREAM CAST
"人類最強の男"降臨!!

活字レスリングの達人
樋口郁夫
【『ワールド格闘技』初代編集長／
元『月刊レスリング』編集長】

Ikuo Higuchi

前田選手が注意しなきゃならないのは、グレコローマン流の投げじゃなくて、タックルからの持ち上げです。カレリンは確かにフリースタイル流のタックルはしませんけど、胴タックルはしますよ。

前田選手は本格的なアマチュア・レスリングの選手じゃありませんから、胴タックルに入られた時に首を抱えちゃうと思うんです。**そうするとカレリンは簡単に持ち上げることができるわけですよ。そのまま後頭部から落とされたら、それで終わりかなって気はしますよね。**ただ、カレリンズ・リフトはハッキリ言って使えません。相手の足にしがみつけば簡単に防ぐことができます。足を掴んじゃいけないグレコローマンだから使える技なんですね。前田選手がもし勝つとしたら強烈なローキックと関節技でしょう。とにかく持ち上げられて叩き落とされないように動き回ることじゃないですかね。アマレスに関節技がないと言ってもフルネルソンなど固め技として凄いものはあります。

カレリンを一言で表現すると"史上最強のレスラー"ですね。"史上最強の男"とは敢えて言いませんけど、レスリングの中では不世出のレスラーですよ。もともと重量級っていうのは、体力にまかせた"押しくら饅頭"っていう部分があったんですよ。それをリフトにしてもタックルにしても腕取りにしても、ちゃんとした技術を持ってますから凄いですね。軽量級のテクニックを重量級に持ってきたわけですから頭も抜群にいいわけです。

格闘 DREAM CAST
“人類最強の男”降臨!!

「前田vsカレリン」を巡って レスリング史上例をみない 親子ゲンカが勃発!?

池田美憂 vs 山本聖子 vs 山本郁栄（2人の親父）

世界的トップ女子レスラーの池田美憂&山本聖子。そして二人にレスリングを教え込んだ父・山本郁栄氏が「前田vsカレリン戦」について語り合った。この世紀の一戦は、二人の天才美形レスラーとレスリング一徹の“ザ・日本の親父”の血をも熱くたぎらせた!!

――今日はアレキサンダー・カレリンは凄いということは知ってても、どう凄いのかがわからないという人のために“アマレスのことなら山本親子”ということで、お三方にカレリンについて語っていただきたいんですが。

父　美憂はスイスの世界選手権の時にカレリンとは会ってるよな。

美憂　中3ぐらいの時かな。ちょうどホテルの廊下で腰にバスタオル一枚巻いて出てきたんですよ。

――セクシーじゃないですか（笑）。

美憂　すっごく貴重ですよね（照）。廊下で立ち話してるんですね、その格好で（笑）。ジーッと見ちゃいましたね。ボディービルの筋肉と違って、しなやかな動きができるような凄い身体でしたね。

父　ああいう選手はもう当分出てこないですよ。動きからパワーからみんなね。あの体重で軽量級ぐらいの動きしますよ。魅せるレスリングをするんですよ。怪物ですよ。しかも紳士。スターの要素を全部持ってますよ。

――オオ！　大絶賛ですね。

美憂　ホントに凄い人だもんねぇ。

父　あれはもう“ミスター・レスリング”ですよ。いままでの歴史の中ではいないですよ。ヘラクレスみたいなもんだから。

――神に近い存在？

父　プロ野球で例えるなら、長嶋茂雄みたいなもんですよ。

――すいません。いまの例えでよくわかんなくなっちゃったんですけど（笑）。で、そのカレリン選手が前田選手と闘うわけです。

美憂　前田日明って知ってるの、パパ？

父　うん。どういうルールでやるわけですか？

――微調整はこれからですけど、打撃があって関節技があるルールですね。

父　そうなると別だよね。

聖子　え？……でも、あのカレリンの関節

司会＆構成＆撮影／中村カタブツ君（35歳）

「前田さんは強いけど、いまちょっと太っちゃった」って聞いたし【美憂】

格闘 DREAM CAST
"人類最強の男"降臨!!

【池田美優（いけだ・みゆ）】元女子アマレス世界チャンピオンにして最近マットに復帰を果たした美形レスラー。愛息の怜くん（2歳）は身体がでかく未来の格闘技界を背負って立つ逸材になるといまから注目されている（たぶん）

なんて極められないと思うよぉ。

父　とは思うけど一瞬にして極められちゃうってのもあるんだよ。どんな強い選手だってやっぱりその道の人には、そりゃあ、なかなかァ。

美憂　だってカレリンだってしっかり練習すれば……。

父　やれば別だよ。でも持ち上げたりブン投げたりとか、そういうキレイな技は長けてるけど、関節技とか締めとかね。昔、カシアス・クレイと猪木がやりましたよね。あれだってルールが違うんだから、お互いが倒すことができなかったよね。

美憂　モハメド・アリのこと？

父　猪木が立ってたら一発でやられますよ。だから寝たでしょ。やっぱり猪木だって賢いですよ。そうなる可能性はありますよ。

美憂　ねぇ、前田日明って知ってるの？

父　けっこう彼は強いよね。この間、美憂は彼と対談しただろ？

美憂　それはマイク・ベルナルド！

父　ガハハハ、そうか（笑）。プロレスだろ。知ってるよォ！（笑）。前田は結構、強いじゃないの。でも、カレリンは前田をなかなか掴めないと思うよ。

美憂　え？　何で？

父　カレリンでも前田は掴めないよ。例えばレスリングだったら逃げちゃいけないわけですよ。一歩下がるとコーションを取られるんですよ。だけど、逃げてもいいんでしょ？

――それはもちろん。

父　バーッと殴って、パッといってパーッとできるんでしょ。体重的にも変わらないんでしょ？

――う～ん、いまはあまり変わらないかもしれないですね。前田さんはちょっと太り気味ですから（笑）。でも、絞ってくればカレリンの方が重いです。

美憂　浜ちゃん（浜口京子）も言ってたけど「前田さんは強いけど、いまちょっと太っちゃった」って（笑）。

聖子　太ってるって、どんだけぇ？

――いま120キロくらいあるはずですね。

聖子　それは脂肪なの？

――だから、最近ちょっと太り気味です（笑）。

父　だけど僕は面白いと思うね。カレリンは偉大だし、アマチュアのルールでやれば問題なくカレリンだけど、関節とか殴るのがあれば、結構面白いかもわかんないね。僕だってね、もし体重が同じプロレスラーとオリンピック・ルールでやるなら全然怖くないよ。

――そうスかァ！

父　オォ！　全然怖くないよォ！　逆にプロがね、プロのルールでオリンピック・チャンピオンとやるのも怖くないはずですよ。自分のルールでやるんだから。そりゃあ怖くないですよ。フォールってのはあるわけ？

――いえ、ギブアップか、KOですね。

父　それはね、僕はね、7vs3で凄い有利だと思いますよ、前田が。

美憂　前田日明って見たことあるのォ？

聖子　そうだよぉぉ！

父　知ってるよォ。けっこうカワイらしい顔してるよ。

聖子　昔でしょ、それは。

美憂　顔がカワイければ勝てるの？

父　ワハハハハハ！　そうかぁ（笑）。だから、最後にはカレリンが勝つと思うけど、そりゃあイイ勝負をするよ。カレリンも応援するけど、やっぱり俺は日本人だから前田日明を応援したいよね。

聖子　聖子はやっぱり、レスリングのカレリンだな。

美憂　私もかな。

父　いやぁ、それはそれとして（笑）。だけど、ルールがオリンピック・ルールじゃないんだもん。ハンディをもの凄く背負ってるんだよ、カレリンは。

聖子　いかに背負ってても絶対勝つって！

父　でもね、いくらでも逃げる方法ってあるんだよね。

聖子　でもね、2月に試合があるんだから、それまでには絶対……。

美憂　練習してるでしょ。

父　するさ。

美憂　でしょ。だからちゃんとルールを把握すれば……。

父　そうだね。ルールを知って練習もバッチリやってればカレリンの方が上だね。

聖子　（マットをバンバン叩きながら）そうでしょ～。だって期間もあるし、ルールももう知ってるわけじゃん（ちょっと涙目）。

父　だから、フォールがあるかどうかなんですよ。

――だけど、プロのマットに上げる以上、どちらかが極端に不利になるルールにはならないと思いますよ。ルール折衝でのせめぎ合いも含めての闘いがプロですから。

父　そうだよね。

聖子　だけど当日ルールを教えられるわけじゃないじゃぁぁん（涙目）。

美憂　フォールがないのはわかるけど。

父　前田って強いんでしょ？

聖子　だけどさぁ、前田がカレリンに首を抱えられたらさぁ。

――シバキ合いでの強さは抜群ですね。

美憂　ガブられたら終わりだよ。

聖子　ガブられたら終わりじゃん。

父　ガーッと首締められてな。

聖子　こうやって落とされる前に前田は反撃しないと、接近戦になったら終わりだよ。

――ガブられたらってどういうことですか。

美憂　（愛息・怜ちゃんを実験台にガブる状態を再現）だから、こうやってタックル来たところを首を抱えて締め上げるんですよ。

聖子　落ちるよ。それも変に逃げようとすると、それがもっとよくないんだよね。

どんなにハンディを背負ってても絶対カレリンが勝つよぉぉぉ（涙目）【聖子】

やっぱり俺は日本人だから前田日明を応援したいよね【父】

【山本聖子（やまもと・せいこ）】全日本女子アマレス・シニアクラス（20歳以上のクラス）チャンピオン。これからの女子アマレス界をけん引する、強さと美貌を兼ね備えた若手女子レスラーの代表格（ホント）

—フロント・ネックロック状態ですね。

聖子　聖子は美憂にやられて逃げようとすると、ドンドンドンドン苦しくなってくるからタップするよ（笑）。

—じゃあ、前田さんはタックルに行ったら危ない？

父　足なんかタックルにいったら、カンッとやられますよ。

聖子　だけど蹴ったりとかされるとアマチュア・レスラーって弱いからね。蹴られ慣れしてないからね。

—蹴りはありのルールになりそうですね。

父　じゃあ面白いね。

聖子　でもカレリンは、頭がいいから防御のコツとかすぐに掴みそうじゃな～い。

美憂　ヴォルク・ハンに教えてもらえばいいのにね。リングス・ロシアの人に。

聖子　パパ、ヴォルク・ハンに似てない？　アハハハ（笑）。

父　ワハハハハハ！

聖子　WOWOWを見てると頭とか禿げてるから似てるな～って（笑）。

—ハン選手も禿げてないです（笑）。

美憂　ヴォルク・ハンって知ってる？

父　凄いハンサムな人でしょ（笑）。で、前田っていうのは何が一番強いの？

—打撃から関節から凄いですけど、一番強いのは喧嘩です（笑）。

美憂&聖子　エッ！

—一番怖いのは荒れた時かも。ほつれた試合になった後とか（笑）。

聖子　試合後も試合続行ぉ？

—そんなことはないでしょうけど、カレリン選手が前田さんの面子を潰すような闘いを仕掛ければ、その時はもう試合じゃなくなってるかもしれません。

父　その通りだね。格闘技が強くても、喧嘩となったら喧嘩の強いのが勝つからね。力の大小関係なくて。だからヤクザなんか喧嘩が得意だから、それはもう強いよ。

美憂　相手はケンカ野郎かぁ。

聖子　ケンカ野郎かぁ……。

父　だから一概にカレリンが100%勝つってことはないっちゅうわけよ。

聖子　土壇場で「それいけ」ってカーッとくるのかなぁ。

父　前田がやってきたルールでやるんだったら前田はかなりイイ線いくよ。

美憂　また話が戻ってきたよ（笑）。

—そろそろ話をまとめましょう（笑）。聖子さんは前田とカレリンだったらどっちが勝つと思いますか？

聖子　もうカレリンの圧勝（笑）。

父　僕は五分五分だね。僅差。

美憂　僅差でどっち？

父　まっ……カレリンだな（笑）。そうなっちゃうとね（笑）。前田を応援したいんだけど、そんなブチョっとした身体だとね。

聖子　だってカレリンは重量級で軽量級並みの動きができるでしょ。前田日明さんはねぇ。

美憂　猫だましとかやりそうかな（笑）。

—ワハハ。相撲じゃないんですから（笑）。

美憂　だけど私は頭がいい方が勝つと思います（キッパリ）。

—それは間違いないですね。闘い自体が頭が良くないと勝てないものですし、今回は試合前からのルール折衝を含めた闘いもあるわけですから、頭がいい方が勝つというのはまさに的を得た答えだと思います。

美憂　そうですね。

—じゃあ最後の質問ですが、男としてはどちらがいいですか？（笑）。

聖子　カレリンでしょう（笑）。

美憂　カレリンかなぁ（笑）。

父　男だってカレリンに惚れるよ！

聖子　身体は大きいけど優しいし。

美憂　世界のトップに立ってるし。

聖子　紳士だし。

—ワハハハハ！　ベタボメだ（笑）。

父　でも、面白いね。見たいね。格闘技をやる人は全部見にくるんじゃないですか。

美憂　見たいよね、絶対！

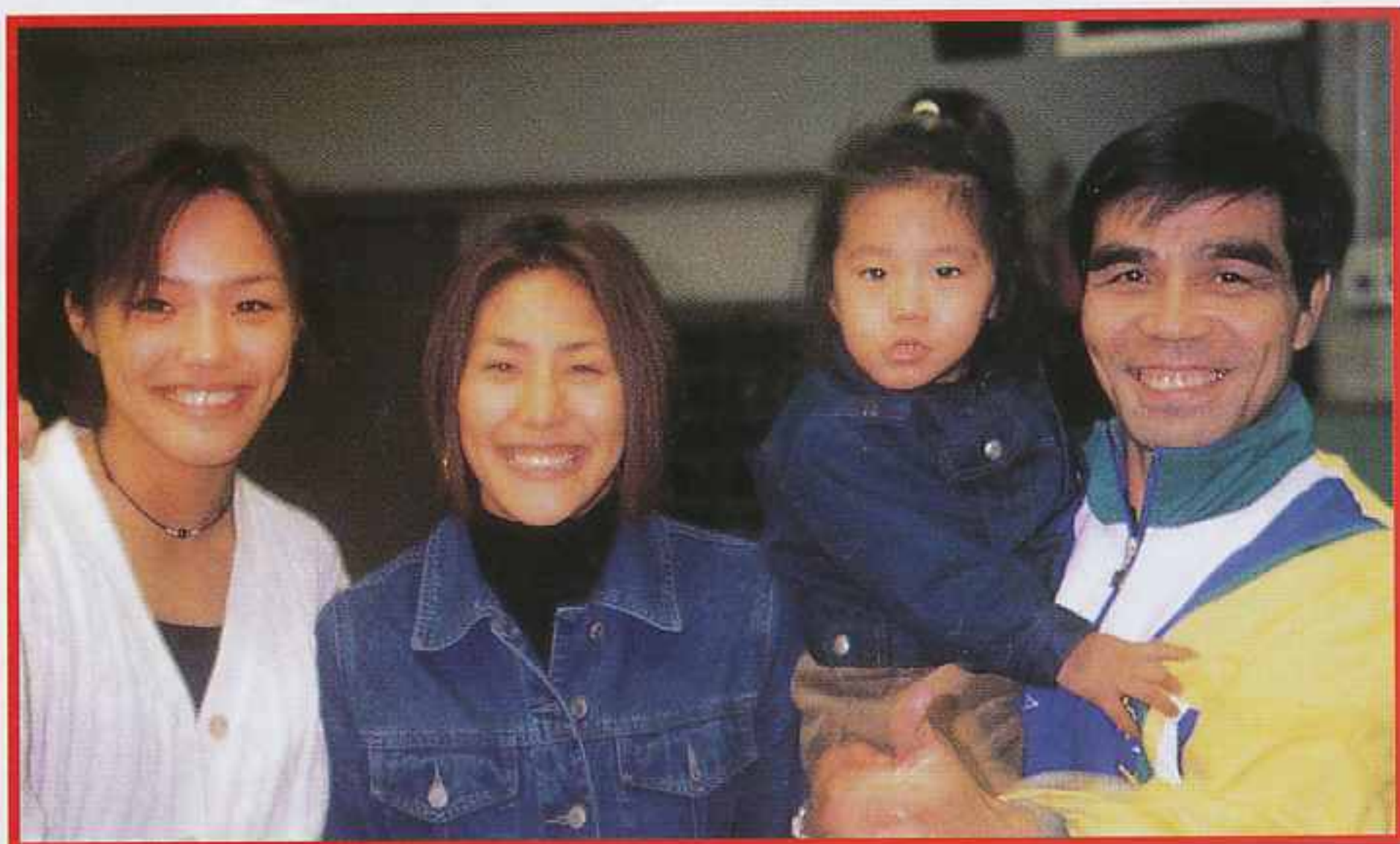
聖子　見たい、見たいぃ！

—ところで美憂さんと聖子さんは、なんでそんなに前田さんが嫌いなんですか？（笑）

聖子　嫌いじゃないですよぉ！

美憂　カレリンが好きなんですよぉ！　レスリングの英雄ですから。

父　聖子を嫁に出すならカレリンだよ（笑）。

【98年11月24日／日体大レスリング道場にて収録】

意見が割れたものの、最後は仲良くフォー・ショットに収まったレスリング親子。写真は元祖ボンコツ、中村カタブツ君（35歳）が撮ったため、ブレてしまいました。ごめんなさい。【山本郁栄（やまもと・いくえい）＝写真右】日体大教授にしてミュンヘン五輪レスリング日本代表の、眉毛が印象的なイイ顔のオヤジ。娘・二人（美優&聖子）を女子アマレス界のトップに育て上げた手腕といい、フラの入ったしゃべくりといい、抜群の魅力を持つ男だ（恐らく）

カレリンは時間に劣化されない相手くすまない相手間違いなく歴史に残る相手やね!!

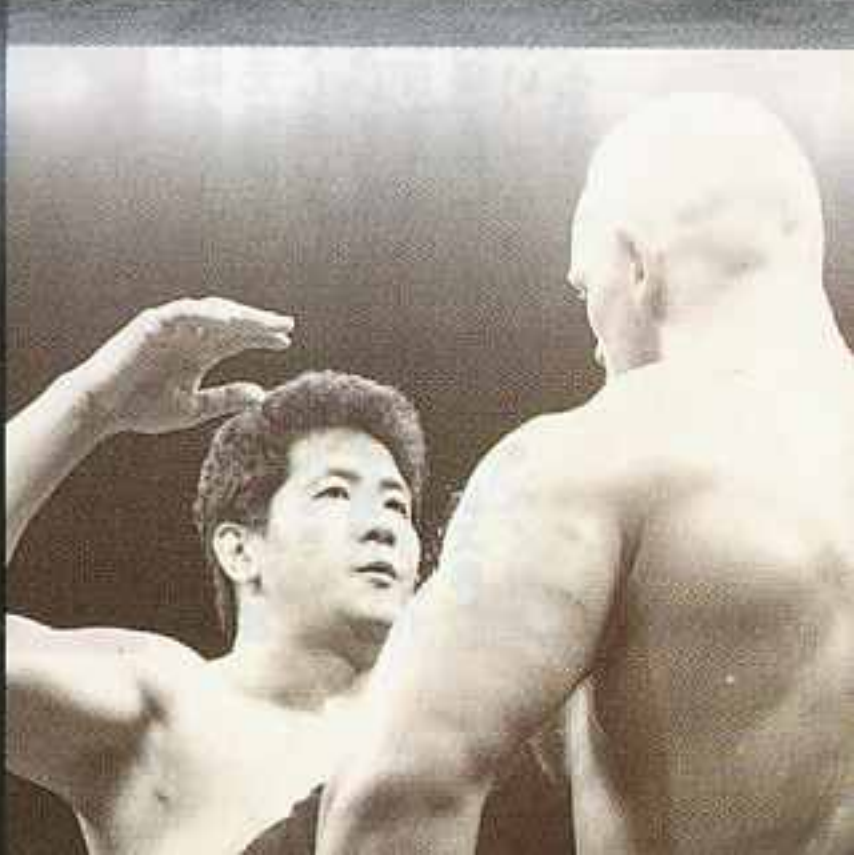
聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

前田日明

Akira Maedsa

1999.2.21

Interview

引退試合

99年4月18日にメルボルンを発ち、無寄港で大阪まで航行するヨットレース「大阪カップ・メルボルン／大阪ダブルハンドレース1999」に、前田日明がエントリーされているという報道が一部でなされた。

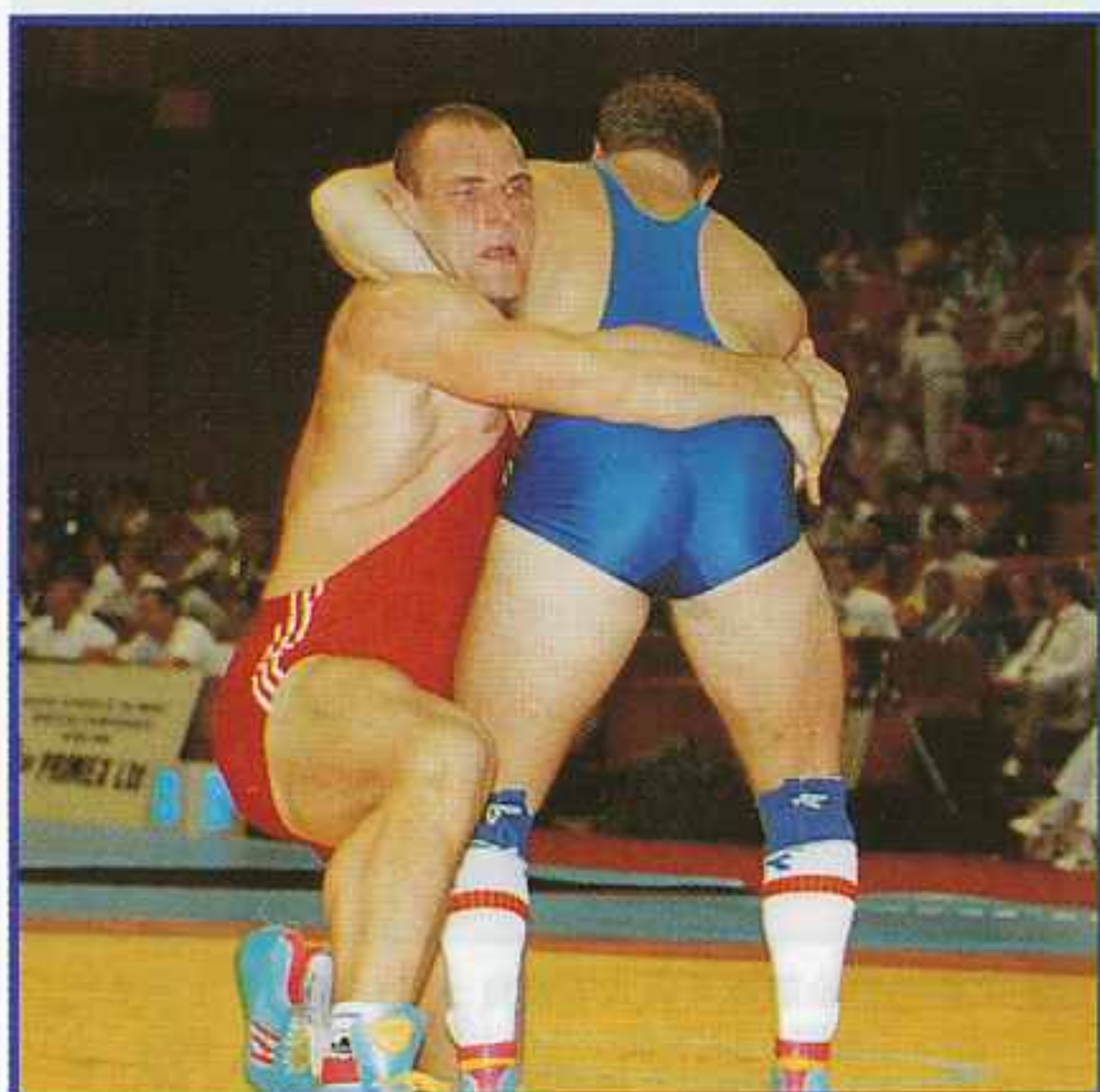
自らの引退試合、しかもアレキサンダー・カレリンという、"ただものではない"という言い方さえも陳腐に思えてしまうほどの相手を前にしてヨット!? なにをコラァ、ヨットにうつつをぬかしている場合か！ 2・21に照準を絞るのが当たり前の話やんけ!! と日明兄さん調に突っ込みを入れたくなるのが人の情けというもの。

しかし、このヨット・レース。調べてみるとただごとではなかった。

2人乗りのヨットによって太平洋を縦断するもので、1日24時間を3時間交替で操船や帆の上げ下ろしをしながら、昼夜勤行で突き進む苛酷なレースだという。

航行期間は順調にいって1ヵ月。ヘタをうったら行方不明。過去、この大会で5人くらいが行方不明になっている、掛け値なしに命がけのレースなのだ。

海と空に大いなる夢を馳せる前田日明は、引退してからも命がけの旅に出る計画をしているらしいのだが、この件に関しては、いまだリングス側からの正式発表はなし。

やきもきしていたファンの皆さん、ごめんなさい。日明兄さんの視線はカレリン戦に定まってます。格闘技者としての"最後の大航海"に向けて、前田日明はすでに帆のチェックを始めていました。

98・7・20。リングス・ラストマッチとなった山本宜久戦を終えたあとには、試合を振り返り「凄い"静か"だったね。試合前にああいう気持ちって体験したことないよね。『緊張しなくても試合ってできるんだなぁ』って思うと、なんか面白かったな」と語っていた前田日明。

いままでにない闘いの新しいステージへと駆け上がったかのようなこの発言。

引退試合とはいえ、相手の存在が大きければ大きいほど燃える前田日明が、"人類最強の男"を相手にどんな闘いぶりを突き刺してくれるのか——。

この闘いを見終わっても20世紀は10ヶ月残っているが、断言します！ 見届けます、カレリン戦!!

前田　いや～、なんかこの前聞いた話では、カレリンが120～130キロの冷蔵庫を最上階まで1人で運んだらしいんだよ。

——ゲ！ 120～130キロの冷蔵庫を1人で！

前田　友達の引っ越しの手伝いでさ、軽々と口笛を吹きながら運び上げたらしいよ。15階の最上階まで。カレリンにクラッチされたら、誰も切れないとロシアの連中は言ってるね。

——そういう声は多いですね。クラッチされて、プロレスでいうベアハッグでもされた日には。

前田　ホントに背骨が折れるらしい。真剣に折れるんだって。

——真剣に折れるって、他人事じゃな

Akira Maeda

新生 U.W.F 第1回記者会見

前田日明 Akira Maedsa

カレリンが120～130キロの冷蔵庫を、口笛を吹きながら15階まで1人で運び上げたらしいよ

いんですから。前田さんが試合するんですよ（笑）。

前田　それぐらいの力があるっちゅーこっちゃ。

――リングスに来てるロシア勢、グルジア勢に聞いても、カレリンは「ロシアのヒーロー」だって言いますね。なにせ戦歴も凄いけど、ロシア税務警察局の大佐、ロシアレスリング協会の副会長という顔も持ってますからね。

前田　あのな、アイツはアラブの石油王と遜色ないぐらいの大金持ちやで！

――「カレリン基金社」の社長でもあるわけですね。でも、よく実現できましたよね、そんな人との試合を。結局ファイトマネーの問題じゃないわけですからね。

前田　そう。ファイトマネーの問題じゃない。人の繋がりの問題！

――前田日明あるいはリングスが積み上げてきたものに、カレリンは、なにかしら引きつけられたわけですよね。

前田　そうだね、普通だったら選手を呼んできてギャラを渡して終わりってなるじゃない？　リングスがやってきたことはネットワークですよ。「日本でやるだけじゃなくて、君たちも自分の国に帰って日本と同じような独立形態を作りなさい」ってことだから。「そのためには応援しますよ」ってズッと言い続けてきたしね。その通りに協力もしたし、実現もさせたし。

――言ってみれば、格闘フランチャイズですね（笑）。

前田　そうそう（笑）。うちはロシアとは7年くらいやってるけどトラブルは1回もない！こっちが我慢したり、向こうが我慢したりとかはいろいろあったけど、まずトラブルがなかったね。

――WWFとかアメフトのNFLが凄い額の契約金を積んでも、カレリンは動かなかったらしいじゃないですか。

前田　誘われた時は一番高い時のドルだからね。100万ドルが1億4千万。その時に200万ドルとか300万ドルを積んだのに全然動かなかったらしいで。

――リングス・ネットワーク恐るべしですね！

前田　そう。ロシアン・コネクションは凄いよ。ミグ29からミス・ロシアまで調達できる！

――ガハハハハハ！　戦闘機から色気まで。

前田　ほんまかいな（笑）。

――ホントだということにしときましょう（笑）。でも、なぜカレリンなのかということがファンには正直いって届き切ってないんですよね。特別な因縁や伏線があってわけでもないし。

前田　カレリンのことを知るにつれて、それはわかってくるよ。俺が試合する前からわかってくるかもしれないし、試合のあとになるかもわかんないしね。”カレリンって、そんなに凄い奴だったんだ“って、間違いなく歴史の中では評価されるから。

――この前、「なぜカレリンなのか？」って聞いた時は、「うちらの業界にいるノータリンとクルクルパーにショックを与えるためや」って言ってましたよね。

前田　そう。ショックを与えて余計な脳味噌の皺を伸ばすためや！

――要するに、ズバリ言うと、”ヒクソンやブラジル勢がなんぼのもんじゃい！“ってことですか？

前田　なんていうかね、日本のエンターテインメント・ビジネスってあるやん？　ボクシングも大相撲も芸能界も全部ひっくるめてね。やってることは昔と全然変わらないんだよ。

――昔っていうと、美空ひばりの時代からですか？（笑）。

前田　いや、もっと昔。大道芸の”四六のガマの油売り“とかと変わらないんだよね。知ってる、ガマの油売り？

――少しは。

前田　どうやってやるか知ってる？

――詳しくはわかりません。

前田　俺が見た時は、「このガマの油

120～130kgの冷蔵庫を一人で背負って15階まで上がるカレリンにとって人間を投げることなど雑作もない。必殺”カレリンズ・リフト“は前田を何度宙に舞わすのだろうか――

を沖縄では空手の練習にも使ってます！ 塗るとタチどころにこういうことができるようになります。ボク、ちょっと来なさい」って前にいる奴を呼ぶわけや。それで出ていった奴が何をやるかと言えば、「さあ、ボク！ これを塗って」って手にガマの油を塗られてね。塗られたその手で瓦を殴ったらバリバリバリって割れるねん（笑）。

――割れますか！（笑）。

前田　それを見てた中学生や高校生がさ、「俺も俺も」ってガマの油を買っていくねん、みんな（笑）。

――実に素朴だけど、実にマヌケですね（笑）。

前田　それでね、出ていったそいつは、たまたま俺の知ってる奴だったんだよ。空手をやってる奴でね。あとで聞いたらサクラだった。1000円もらってやったらしいねん（笑）。

――ガハハハ！ 空手をやってるサクラでしたか。

前田　結局、サクラって〝ギミック〟でしょ。芸能界でもなんでもエンターテインメント・ビジネスは同じなんだよ、原理は。それをもっと緻密にやってるだけの話でさ。基本的にギミックとサクラと、もちろん本人の力もあるよ。それだけの迫力と実力が伴わなきゃダメだよ。だから信じれるものもある。でも、全部信じられるかって言ったら、「それは違うよ」って俺は言いたいよね。

――深そうな話ですね。

前田　例えば、スマップを例にとると……。

――そこでスマップの名前が出るのが素敵ですね（笑）。

前田　「いまスマップは30代の女性にウケてる」みたいに言うじゃない。なんか知らんけど。でもハッキリ言って、ハナタレじゃない。そのハナタレに30代の女性がキャーキャー言う方がおかしいねん。それを戦略にうまく乗っけてバーッと膨らませて、いかにもブームがあるかのように作りあげて大衆をノセてしまう。格闘技の世界でそれをやったのがプロレスだったんだよね。

――格闘技の世界をエンターテインメントに仕立てあげた。

前田　そのプロレスがバラバラに解体されて、そういった力が弱まったでしょ。そのあとどっから来るかと思ったら、ブラジルから来たからね。ヒクソンの試合前の山篭りとか、あんなんプロレスラーの常套手段みたいなもんだったやんけ。

――よくやってましたね（笑）。

前田　「なんでそれが山篭りなの？」って感じやなのに、わけのわからん奴らが「いや〜、神秘的ですね〜」って。アホか！ でも、だからといってヒクソンが悪いとかなんとか言うんじゃないんだよ。それはプロフェッショナルなヒクソンにとって正当なやり方なんだよね。スポーツ・マネージメントとしてのシンガーやミュージシャンやスポーツ選手を売り込むこととまったく同じことで、それに乗っかってやってるだけのことなんだよ。だけどビックリしたのは、周りがみんな、カンペキに乗っかっちゃったでしょ。

――業界からして見事なくらいに乗りましたからね。

前田　でもね、いつかはそういうことも皮が剥げてくるんだよね。もっと大きな力でもって、包み隠さずにシミとか漏れとかをさらけ出していれば、いつまでもホツれないんだろうけどさ。ブラジルの連中っていうのは小っちゃなところでやってるから、いつかは崩れる。そうなった時にどうなるかっていったら「な〜んだ、あんなのにダマされて踊らされてたの？」「俺は知ってたも〜ん」っていう、アホなええかっこしいのおぼっちゃま君が出てくるんだよ。おぼっちゃまって、常に知ったかぶりするんだよ。村松友視みたいに。

――ガハハハハ！ 村松さんの名がそこで出ますか。

前田　もう、そういうのに付き合って誤魔化されて頭にきてね、ポンポコポンポコやるのは飽きたよ！ 頭にくるだけ損や!!

――バカらしくなった？

前田　間違いのないものっていうのは、これしかないじゃない。

――要するに「本物中の本物を連れてくれば文句ないやろ！」ということですか。

前田　マネージメントも何も関係あらへん。カレリンはそういうものに乗っからずに、ホントに己の力だけでノシ上がってきた奴でしょ。

――例えば450戦無敗とかのプロモーションを一切する必要はないってことですね。

前田　まったくない！ だって400戦無敗っていうヒクソンの言葉にはストリート・ファイトも入ってるわけでしょ。「おいおい、ちょっと待てや」ってなっちゃうよね（笑）。

――それなら前田日明も2000戦無敗になっちゃうわけですよね（笑）。

前田　だから、時間に劣化されない相手！ くすまない相手！ 間違いなく歴史に残る相手！ それがカレリンということですよ。

――逆に時間が経つに連れて評価が大きくなっていくような世界ですよね。そういった意味では猪木vsアリ戦以来じゃないですか。

前田　そういった意味で言えばね。

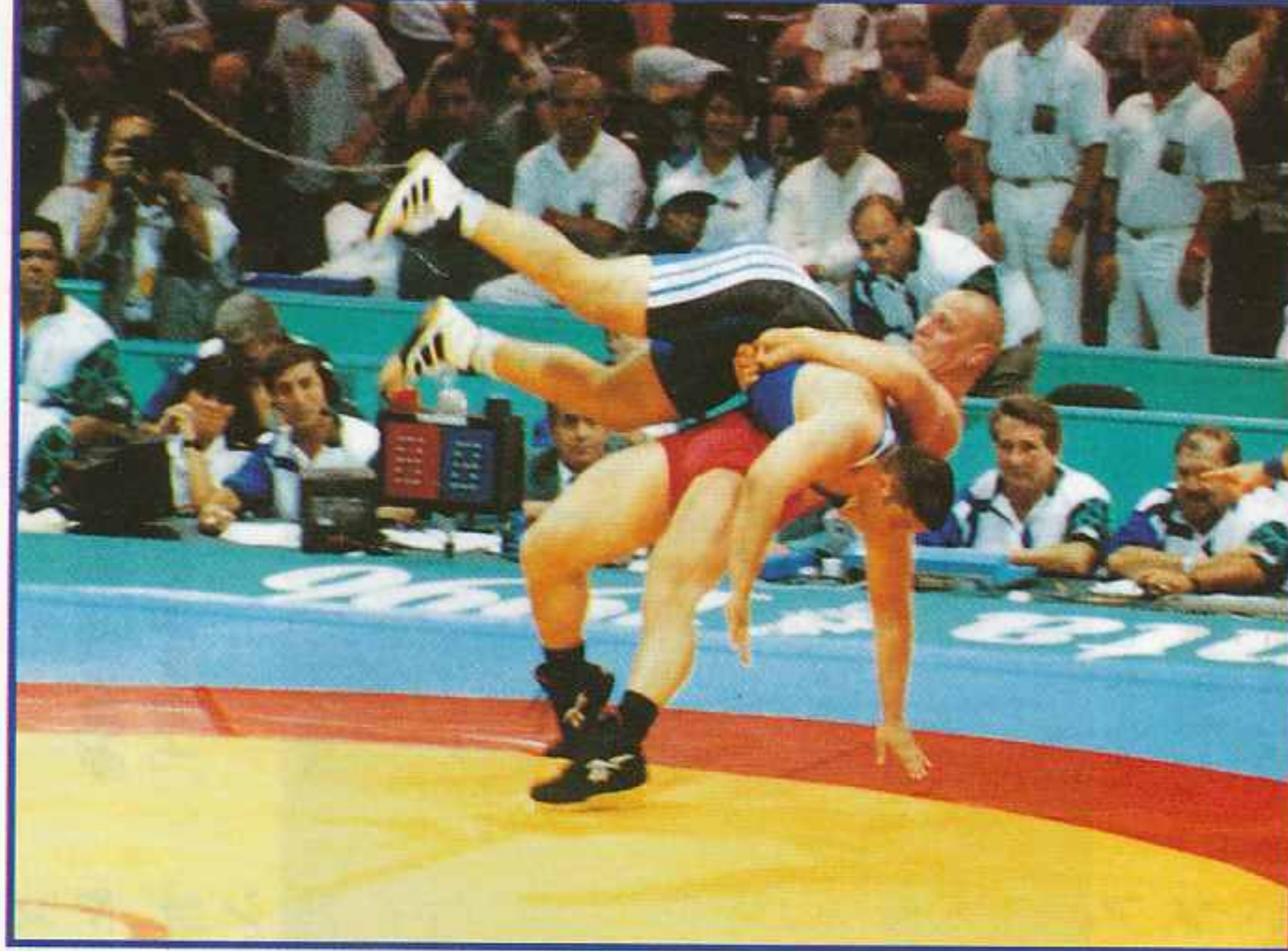
――問題は、そういう大きな一戦にも関わらず、プロモーションをかけてないから、いまいち盛り上がってないですよね。プロモーションかけないとバカはわからないですから。業界もファンも含めて。

前田　でね、ヒクソンのことに関していうと、去年（97年）、高田（延彦）がいかれたあと、3試合やらせてくれ

幼い頃から自然に親しみ、ボクシング、重量挙げ、バスケット、バレー、クロス・カントリーなどのスポーツをやっていたカレリン。その力と技術はレスリング関係者の誰もが唸る

ってオファーしたんだよ。それで決まりかけてたんや。

――そうらしいですね。

前田　そうしたら、（98年の）1月になって急にやらないってことになったわけでしょ。で、急にKRSのリングに上がるって記者会見開いてさ。それでなんで俺ばかりがゴチャゴチャ言われなきゃあかんの？　なぁ！　おかしいやんけ!!

――「前田が逃げた」とか「前田はやるって言ったのに結局やらない」とかの声のことですね。

前田　じゃあ、俺とヒクソンの立場が逆になったこと考えてみな？　それでも「俺が逃げた」ってみんな非難するで。なんで俺ばっかり、逃げたとかなんとか言われなあかんねん。「ヒクソンが逃げた」って言う奴いないじゃない。ノセられてしまってね。ハッキリ言っとくけど、意見や批判をするのは構わない。でも「逃げた」っていうのは侮辱やで。批判と侮辱は違う。そのへんがわかってないんだよ！　侮辱は許さないよ！　ヒクソンの問題に関して一番迷惑をこうむったのは俺とヒクソン戦を支援してくれた人たちですよ。

――誰がいったい迷惑をかけてるんでしょう。

前田　ファンとヒクソンだね！　もし俺がいま死んだら、日本の格闘技界が滅びるように悪鬼となって動き回ってやるよ。

――でも裏を返せば、それだけヒクソンの幻想も大きくなってるし、前田さんに対する期待も大きかったってことですよ。

前田　それだったら、今年（98年）の1月の時点でな、ヒクソン側が「今年中にはできない」ってなった時に、なんでファンが盛り上げて「ヒクソン逃げるんか!?」ってことで追い詰めてくれなかったんだよ。エ！「逃げた」と言われたのは俺の方ばっかりじゃない。なんやねん、それ!!

――結局、プロレスがガマの油売りの原理で動いてる中で、ヒクソンがガンッと上がっちゃいましたからね。それによって前田さんもガマの油売りの範疇なんだと思われちゃったところはあるでしょうね。

前田　アホか！　寝言は寝て言え!!

――そういう侮辱をかましたファンや関係者の脳味噌にガツンッと鉄槌をくだすのがカレリン戦なわけですね。

前田　そうそう。

――で、そのカレリンですけど、あるアマレス関係者が「普通130キロ級だと脂肪がたくさん付いてるんだけど、絞って130キロ。筋肉が凝縮して詰まってる感じだ」って言ってるんですね。

前田　全然脂肪なんかついてない。だから、普段は140〜150kgはあるんじゃないかな。

――その身体のことを考えるだけでバケモノですよね。

前田　普通はああいう身体にならないんだよね。アーノルド・シュワルツネッガーでもボディービルの世界で〝奇跡の身体〟って言われたんだよ。ミスター・ワールドばっかり集めるオリンピアの大会で5連覇くらいしたやん。その全盛期のシュワルツネッガーでも187センチの110キロだったからね。それより20キロも重い身体で、それも見せる筋肉じゃなくて、動く筋肉でしょ。そんなことすら誰もわかってないんだよ。

――太田章さんは、「頭から落とされたら死にますよ。前田さん、いまからでもいいからおやめなさい」って言ってましたね。

前田　太田さん、いまからでもいいからその発言を撤回しないと、俺と会った時に張り倒されるよ！　と言っておきますよ。

――高田道場の安達（巧）コーチは「こういった闘い（リングス・ルール）は最後は極め合いだから、カレリンがその練習をしてるかどうかで勝敗は決まる」って言ってましたよ。

Akira Maeda

格闘 DREAM CAST

"人類最強の男"降臨!!

前田　うーん、でもロシアの連中っていうのは日本の相撲みたく、わりとサンボと親しんでるわけでしょ。対応力はあると思うんだよね。あとは、どこまでやってるかだろうね。

――それから打撃にどのくらい対応できるかなんだけど、父親がボクサーで、自分もボクシングをやってたそうじゃないですか。オイオイオイですよね(笑)。

前田　オイオイオイだね（笑）。どこで突破口を探すかだよね。

――打撃も突破口にできないとなった場合、どうするんですか？

前田　掴まらないように逃げ回っててもしょうがないから、自分の有利なポジションで掴まえにいくことだよね。バカみたいにグルグル回っててもしょうがないからね。この前も言ったけど、蹴ろうが掴まえようがビクともしなくて、ウンウン唸ってる自分の姿が夢に出てくるからね。でも、未知の相手とやる時は、やる前に周りの未経験の人間のああだこうだということを信用するよりも、自分自身の経験っていうものをモノサシにして測らないとね。そうしないとわけのわからんことになっちゃうんだよね。恐怖感だとか威圧感だけが自分の中で大きくなってしまって試合にならない。だから、自分の経験というモノサシでカレリンを測っていくしかないね。

――で、この試合で、泣いても笑っても前田日明のファイトを見れるのは最後なんですよね。

前田日明
Akira Maedsa

前田　そう。生きた前田日明の姿が見られるのはこれが最後かもしれないよ。カレリン戦のあとにちょっと考えてることがあるからね。

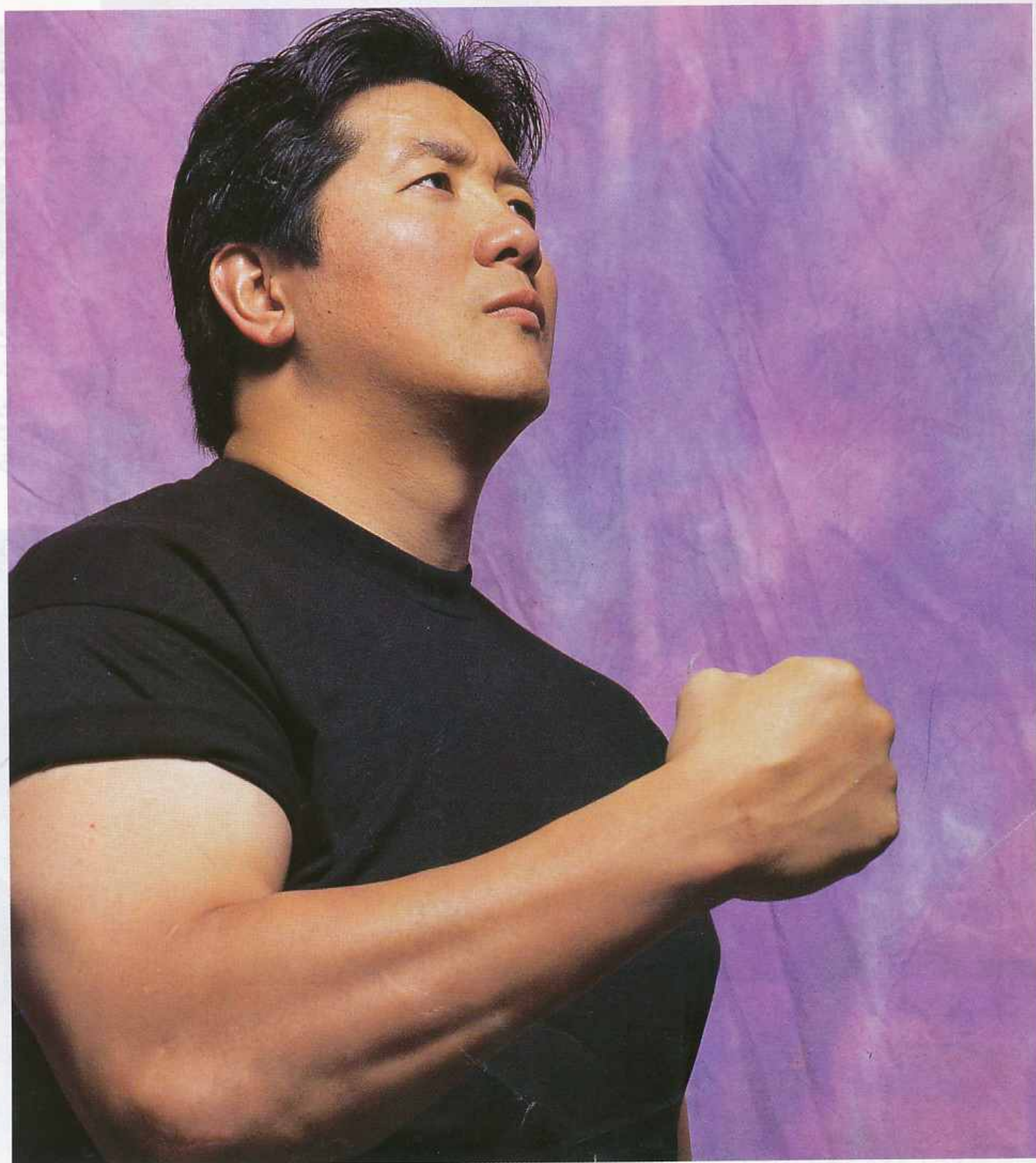
――僕は、前田日明なら何をやっても許されると常々言ってる立場なんですけど、今回ばかりは何を差し置いても、まずはカレリン戦を考えてくれないと困りますよ（笑）。

前田　順番だからね（笑）。

――12月の中旬ぐらいにカレリン側とルール折衝があるとも聞きましたが。

前田　細かい部分のね。でも、今回ラウンド制になったでしょ。5分2Rの延長1Rに。だからかえって良かったと思うんだけどね。1Rにもし捕まったとしても5分間だからなんとか凌げるでしょ。

――例のヒクソン戦が決まりかけた時に、「最後にムキになってやり合いますよ」っていう発言がありましたけど、カレリン戦は意識としてはまた違うんですか。

前田　とにかく凄い楽しみだね。ただ、カレリン戦はムキになってやり合うなんとかいうよりも、自分の経験を総動員してやるだけだよ。いろんな意味でね。

とにかく楽しみだね。自分の経験を総動員してやるだけだよ。いろんな意味で

――ただムキになってやるだけじゃ勝てない？

前田　そう。ある意味で冷静になってやらないと。

――経験を総動員するということは、前田日明の集大成が見れるということですね。

前田　集大成がどうのこうのっていうのは他人が決めることだから、勝手にやってください。バカなファン相手にいまさらそんなこと言ってもしょうがないよ。

――最近冷たいですね、ファンに（笑）。

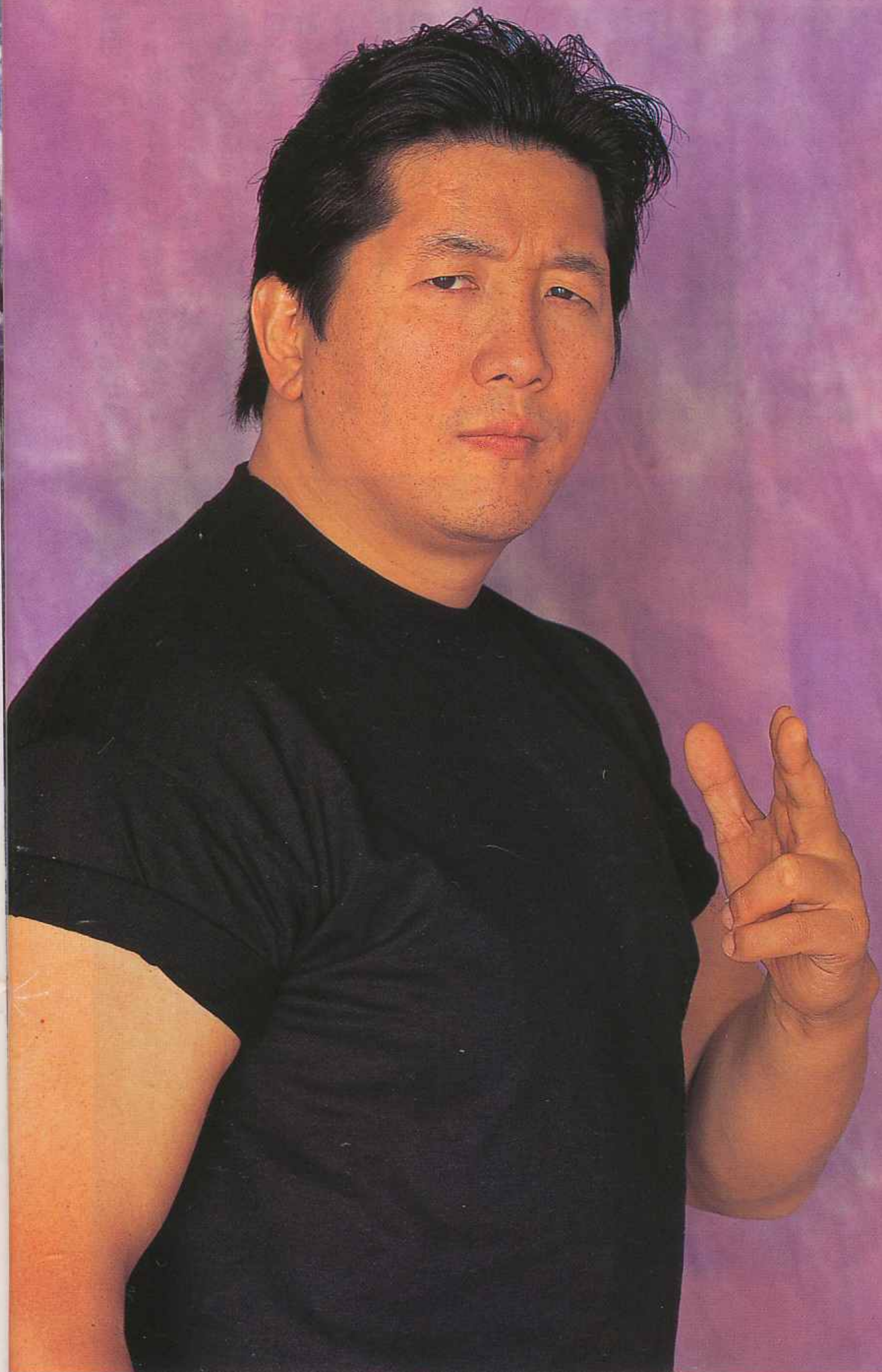
前田　ヒクソンのこともあるからね。もう、"こいつらのために頑張るなんて冗談じゃない"と思ったよ。ファンがそんなだから、いまの選手はみんな「自分のために頑張る」ってなっちゃうんだよ。なんか日本人ってみっともなくなったよな。熱がない。ホントに熱がない。

――お祭りのやり方も知らないですよね、基本的に（笑）。

前田　昔は日本って東洋一熱い国だったけどね。熱すぎて戦争しちゃったけどさ（笑）。

――前田さんもいよいよリングを去るわけですけど、リングスの現状は前田日明の目にはどう映ってるんですか。

前田　過渡期やね。いままで俺が殻となって大事に守ってきたっていう感じだったけど、パッと殻を割って中を取り出してね、外気に触れることに慣れてるというか順応してる状態でしょ。

Akira

来年からは羽化して外の世界に対して出て行くってことがあるんじゃない。

—逆に外からも新しい血が入ってくる？

前田　来るだろうね。

—10月の愛知、11月の大阪は入ってなかったですよね。「前田さんがいる頃は入ってた。だから自分たちがもっと力を付けなければ」というようなことを金原選手も言ってますけど。

前田　そんなん全然心配することないよ。俺がユニーバーサル（第一次UWF）で試合した時は観客が20何人とかあったじゃない（笑）。

—伝説の荻大会（笑）。

前田　スタッフや選手の方が多かったからね。リングスはいま入ってないといっても何千人単位で入るわけでしょ。全然違いますよ、そんなの。〝何を言ってるんだよ、お前ら〟って感じですよ。

—前田さんがいる時はキチッと入ってたってことですよ。

前田　俺らの頃なんかチャンコ銭もなかったくらいでね、道場もなくてさ。高田と二人で練習場所探して、あっちウロウロこっちウロウロしたりしてたんだから。いまは道場もちゃんとあるじゃない。ただ、自分で道場を作ったらそっちに入り浸りになって前田道場に来なくなったりとか、カードが決まった瞬間に「対戦相手とは一緒に練習できません」とか女々しいことを言い出すからね。それはスケールが小さい！　練習の時に対戦相手ビビらしたらエエやんけ!!　道場の練習なんて前哨戦なんやから。

—ガハハハハ！　ビビらした方が勝ち！　その辺の価値観はさすが前田日明ですよ（笑）そう言われると、妙にスポーツライクってことに媚びてますよね、最近の選手は。

前田　周りが考えてくれた〝スポーツマン〟とか〝格闘家〟っていうものに踊らされてるよね。よい子に収まりすぎや。自分の感覚でもなんでもないんだよ。なんかシミッたれてるよ。

—でも、そうはいっても、これからは20代の選手が音頭を取っていかなきゃしょうがないですからね。

前田　だから、みんなね、たまにノータリンなことを言うんだよ。最近は時限スイッチを入れてね、そういう時でも、いきなり怒るようなことはしませんよ。ちゃんと説明するよ。それで「わかった」って言ったにもかかわらず、わかってないことをしたら、それは怒るよ。でしょ？

—じゃあ、これからの若手選手が観客を動員するためには何をやっていったらいいんですか。

前田　簡単に言えば、もっと〝凄く〟なること!!　あとはカワイコぶらないこと!!　わかりやすくなんなくていい。

—優等生になる必要はない？

前田　優等生であってほしいんだけど、「俺をわかってほしいんだ〜、僕ちゃんをわかってほしいの〜」っていうのはいらないよね。そんなん、ただの寂しいオカマやん。いまね、オカマの方がヘタしたら男らしいからね。

—なんか、男が忘れたものを持ってそうですよね（笑）。

前田　持ってる持ってる（笑）。昔はそのオカマに対して、一般の男が、男らしい見地に立ってしゃべったんだか

Maeda

前田日明
Akira Maedsa

大山総裁と同じで"こいつに任したら大丈夫"って思ったら、全部やるよ！

らさ。昔の男がいかに男らしかったかってことだよ。

——日本人よりも日本人らしいエンセン井上と一緒ですね（笑）。

前田　どっかにそういうものを置き忘れてきたんだね。ダメですよ、ホントに。

——マット界全体を見渡すと、新日本のリングに大仁田厚が上がったりとかいろいろありますけど。

前田　大仁田が新日本に上がるっていうことは、新日本まで"底抜け脱線ゲーム"になるのかと思うとイヤだけどね。でも、もう勝手にやってくれ！それこそプロレスこそがプロスポーツの世界で"なんでもあり"だよ。リング上でアルティメットよりヒドイ喧嘩になる時もあるしね。

——いまさら聞くことでもないかもしれないですけど、リングスは新日本のような方向とは一線を画していくんですよね。

前田　画するもなにも交わることもないよ！どうしても、そんなのと手を合わさなきゃならないんなら俺は手を離す！俺は一生リングスにブラ下がって食ってこうなんて気はサラサラないからね。

——オォ！実に男らしいですね。

前田　大山（倍達）総裁と同じで優秀な奴がいて、"こいつに任したら大丈夫だな"って思ったら全部やるよ。

——太っ腹だなぁ。

前田　それで夏はヒマラヤ、冬は太平洋。その間はゼロ戦とムスタングで過ごすのさ（笑）。

——過ごすのはいいですけど、その前にカレリン戦がありますからね（笑）。

前田　昨日、「練習さぼった」って言ったら、スタッフの内田に、ちょうど手に持ってた『紙プロ』でド突かれたよ（笑）。

——ガハハハハハ！それはド突かれるでしょうとも。

前田　おっかねえんだよ（笑）。でも、なんかね、みんなカッコ悪いんだよ、いまの選手は。全員カッコ悪すぎる。

——カッコ悪い？それは面白そうですね。

前田　俺がイギリスに行った時にパッと思ったのは、70～80kgの普通のサイズの奴がいっぱいリングに上がってたわけ。これはアカンなって思ったよ。正直言って。

——見るに耐えないということですか？

前田　そう。そんなのがね、いくら強くてもリアリティーがないし、金も取れないよ。プロはね、ヘビー級でなきゃダメ。もう一点は、最近の奴らはな～んも考えずにしゃべってる。その辺の渋谷のチーマーのアンチャンと変わらないことを、な～んも考えずにしゃべってる。俺はUWFの頃から、考えずにしゃべったことなんて1回もないよ。でも、俺が頭がいいのはね、考えてるんだけど考えてないフリをするんだよ。

——考えてないフリだったんですか（笑）。

前田　そこが違うとこですよ。ガマの油売りと同じですよ。へっへっへ。

——ガハハハハハ！自分で言ってどうするんですか（笑）。でも、プロは対応力と戦略ですからね。

前田　そう。だけどいまの選手はな～んも考えずにしゃべるんだよね。試合の話でも自分のことでもなんでも。なんか妙におぞましいナルシストになるか、こいつアホちゃうか？っていう夢見るハーチャンになってるか、そのどっちかなんだよね。もうケツは青いし、クチバシは黄色いし

——辛辣ですねえ。

前田　いまだったら俺がパッと見て「プロ」だって言えるのはとりあえずエンセン（井上）ぐらいやな。あとはみんな大ペケ。エンセンだってハナ丸はあげられるけど五重丸は上げられない。昔ね、山鹿俎行っていう国学者がいて『身分論』って書いたんだよね。武士というのは、あらゆる身分の中で唯一生産に関与しない階級で、他の身分の人に食わしてもらってる連中だ

誰も文句のつけられない記録を持つ"人類最強の男"に対して、前田日明は"人類最強の人間力"で対抗する。この屈強なボディにはたして打撃は有効なのか——。

前田日明

Akira Maedsa

俺がやらなきゃ誰がやる そういう気概を持って やらなきゃダメなんだよ

と。だから武士は何をすればいいかというと、他者に対して模範になる行動や発言があったりとか、世の中の規範になるような立場にならないとダメだと。それ以外に武士が武士として存在する意義はない。まさにプロも同じことですよ。「あんな奴、俺の方が強いんじゃないか？」って思われてるようじゃダメなんだよ。俺だってたまにバカなことを言うよ、頭にきてさ。「ブッ潰す」とか、「ブッ殺す」とか言うけどさ、それは理由があって言うわけじゃない。侮辱されたら、それは怒りますよ、常識として。

――"ナマ"ですからね。前田さんは（笑）。

前田　ナマは気持ちいい（笑）。みんなね、余計なものをつけちゃってるんだよ。

――でも、リングスの田村（潔司）選手や高阪（剛）選手は素材としてはピカイチですよね。

前田　ピカイチだよ！　でも高阪は気が回りすぎるんだよ。あいつは凄く頭がいいからね。だから、そういう部分がわかったら、もっと面白い選手になれるね。

――でも田村選手にしたってよく考えてるし。

前田　考えてるっていっても、なんかチンマイ世界で考えてるよね。大向こうを「オ！」っと唸らせるようなことを言わないとね。マニアばっかり相手にしてたってしょうがないんですよ。田村とか高阪を全然知らない人が、たまたま彼らの発言とかを目にして、「素晴らしいことを言ってるな、じゃあ注目して見てみよう」っていうぐらいのものがほしいね。そのくらい言葉っていうものを考えてほしい。俺が言ってる言葉っていうのは、「アイツを殺して脳ミソをススってやるゼ！」みたいな時代がかったことを言えってことじゃないからね。誰が見ても「こいつは頭がいい」「素晴らしい！」と思うことを、自分の感覚をフルに働かせて言いなさいっていうことですよ。

――なんか人生相談みたいになってきましたね（笑）。

前田　でも、いい子になる必要はまったくないんだよ。筋の通ったちゃんとしたことを言うようになりなさいってことですよ。

――プロは、リング上だけでなく、言葉をも"鎧"としないといけないですからね。

前田　そうそう。みんな自分の言葉で自分の身を削ってガリガリ亡者みたいになってしまった。醜い醜い。

――そういえば、カレリンも自分のことを「夢想家」だって言ってるんですよね。ファンタジーを生み出すには、自らが夢見なければならないでしょうからね。

前田　結局、ファンタジーを創るのが男の役目でしょ。女はそのファンタジーを現実にするんだよ。どっかへ飛んでいこうとする男に、女が現実の重みをつけるんだよ。

――その話でいうと、いまの選手たちは、前田さんの作りだしたファンタジーを現実にやろうとして女っぽくなっちゃったんじゃないんですか？（笑）。

前田　それはわかんない（笑）。

――いずれにしても前田さんのファンタジーがデカすぎるってことですよ（笑）。

前田　この間ね、山岳同志会の人とたまたま酒を飲む機会があってね。俺がなんで山登りの人が好きかっていうと、これは何かで読んだ話なんだけど、K2っていう世界で2番目に高くて、登るのが凄く難しい山があるんだよね。四角錐に近いピラミッド型をした山で、一番の難所が8000メートルの高所で、みんなでザイルをつないで横切るわけ。何人めかの横断の途中で、その人間を中心に表層雪崩が起きた。それに巻き込まれた人が何をしたかっていうと、ほかの人間を巻き込まない

「試合よりも練習の方が面白い。すべての発見は授業中に起こる。試合は試験と同じように問題に答えるのか答えないのかが要求される。レスリングも一緒だ」――カレリンは頭脳と肉体の両輪を転がすタイプだ

ようにして自分のザイルをナイフで切って、崩れていく雪の壁と一緒に、みんなに手を振りながら落ちていったんだって。

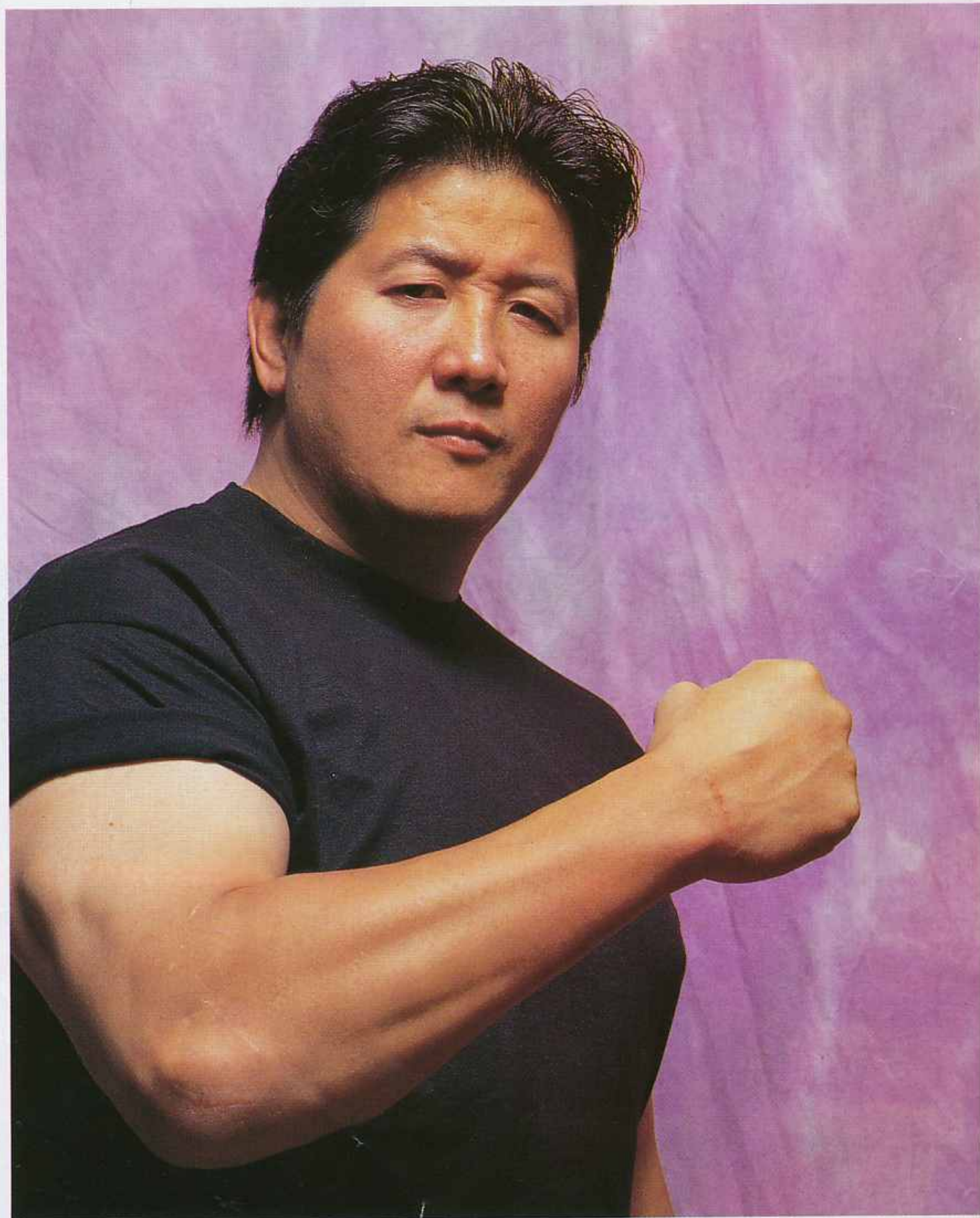
――うわぁー。かっこいい話ですね。

前田 そういう話が現実にいっぱいあるからね、山の話には。俺の知り合いで世間的には無名なんだけど凄い人もおるねん。その人がエベレストを登ってる時に仲間が1人潰れてしまった。本人は体力があったんだけど、仕方がないから一昼夜ビバークした。標高8000メートルっていうと、酸素は平地の4分の一でしょ。結局筋肉って酸素を取ることによって活力が湧くわけよ。だけど、酸素が供給できないから末端からイカれちゃうんだね。その人曰く、「その一昼夜の間に足の指が一本一本死んでいくのがわかった」って。

――小指から親指まで。

前田 結局足の指を全部取っちゃったんだよね。潰れた仲間を助けるために。「自分の命のことだけ考えてないと、いつか命を落とすぞ」って、その人の先輩の1人が言ったらね、「僕もそう思うんですけど、そういう現場にあっちゃうと放っておけないんですよ～」ってサラリと言っちゃうんですよ。

――前田さんが常に言ってるようなことが現実にある世界なわけですね。

前田 その人の話で、もうひとつ凄い話があるんだよ。エンゼルフォールっていう、落差が何千メートルもあるような滝が南米にあるんだよ。その人はそこをエッチラオッチラ登ったんだよね。1週間ぐらいかけて。そうしたらイタリアのハンググライダー乗りが、そのエンゼルフォールに登ってハンググライダーで降りることにトライしたんだって。「バカなことしてるな」って苦々しく思ってたら、案の定、途中でイタリア人は引っ掛かって宙ぶらりんになっちゃった。その人はその時、落石にあってアバラを三本ぐらい折ってたんだけど、それでも助けに降りていって、イタリア人を背負って降りてきたんだって。その話をしてる時も「なんか見てたらかわいそうになってきてね～」って言うんだよ。凄い人やねん。

Akira

――見事なくらい腹が括れてるわけですね。

前田 そういう気概を持ってやらないとダメだよ、何事も。俺がやらなきゃ誰がやる！ みたいなさ。新造人間キャシャーンですよ（笑）。

――俺がやらなきゃ誰がやる！ これがカレリン戦の裏テーマですね（笑）。とくと見届けさせてもらいます。

【98年11月27日／リングス事務所にて収録】

男祭りのバトル・フィクション

98・11・23両国大会大成功!
世界征服への第一歩完了!!

プロレスの歴史は否定の歴史でもある。馬場プロレスを否定したアントニオ猪木。その猪木プロレスを否定したUWF。UWFを否定したパンクラス。しかし、「未来を準備するためには、過去を見なければならないこともある」(byカール・ゴッチ)。バトラーツは過去を見つめることで、プロレスファンの「抑圧されたもの」を吹き飛ばしたのだ。んむはぁ

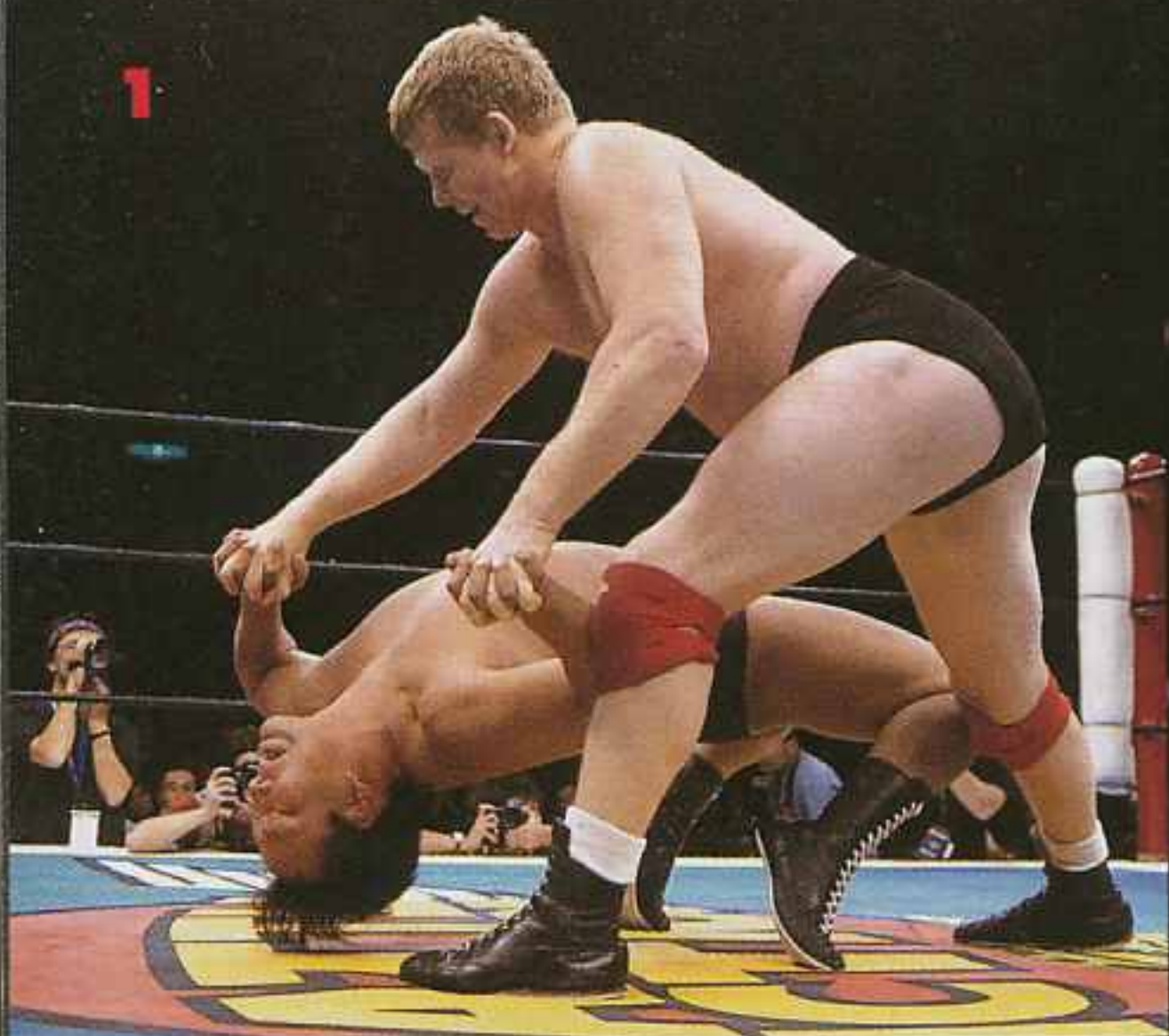
聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

1.手四つの力比べをブリッジで切り返す石川雄規。そういえば、手四つからの手に汗握る攻防というのも「ゴールデンタイム時代」にはよく見られた光景だ。こういうクラッシックな攻防にはボブさんはピタリとはまる
2.「ゴールデンタイム時代」には、ジワリと観客席に伝わっていくアナログな攻防もよく見られた。グラウンドの攻防はドーム・プロレスの前に淘汰されてきたが、ズバリ言って試合は総デジタル化しちゃいけねぇんです
3.出た！　キーロック!!　古くはカール・ゴッチも片手で持ち上げていたが、このキーロックを巡る攻防は、ボブさんの試合には欠かせないシーンだ。ボブさんはこの日２試合目にもかかわらず、３度目で石川をリフトアップ！
4.フィニッシュは卍！　『Ｂ―ＣＵＰ』は石川社長がボブさんを下し制覇。「まだまだ厚い壁を感じた。まだまだ俺たちの時代は来ませんね。でも……」このあと石川の情念節が両国に轟いたのはいうまでもない。
5.過去を否定して進化してきたのがプロレスの歴史だが、「過去をリスペクトする」というプロレス史にはない手法で両国大会を成功に導いた石川社長。これは「レトロ感覚」ではなく新しい進化の過程である
6.石川雄規の背中には、「情念」の二文字がギラつく。「300人しか入らない会場に６万人の行列を作る！」「犬や猫までもが振り向くプロレスをやってやる」「南極でプロレスをやる」。情念が勝つか、見てる方が気が狂うか、勝負はこれからだ！

98年11月23日。バトラーツの両国大会。「縁日」や「テーマパーク」に行く気分ではなく、まさに「祭り」に行く気分だった。
すでに「祭り」が終わってから2週間たっている。あのときの昂揚した気分はさすがにもう残っていない。「祭り」については、かなりの数の人と話したので、話し疲れたというのもある。
というわけで、ちょっとの間休憩するので、これでも読んでいてください。コッ！

★

かつて、梶原一騎の「劇画」の世界を具現化した男がいる。
〃世界の英雄〃モハメド・アリ戦、〃熊殺し〃ウイリー・ウイリアムス戦、〃黒い刺客〃ザ・モンスターマン戦、〃地下プロレスの雄〃ローランド・ボック戦、はたまた劇画から飛び出してきた〃謎の覆面空手家〃ミスターX戦――。
まさに劇画でしかありえない世界だった、夢とロマンと凄み溢れる闘いを「格闘技世界一決定戦」という現実として見せてくれた男――。
その名はアントニオ猪木――。
猪木は様々なジャンルの人々に影響を与えた。

1

2

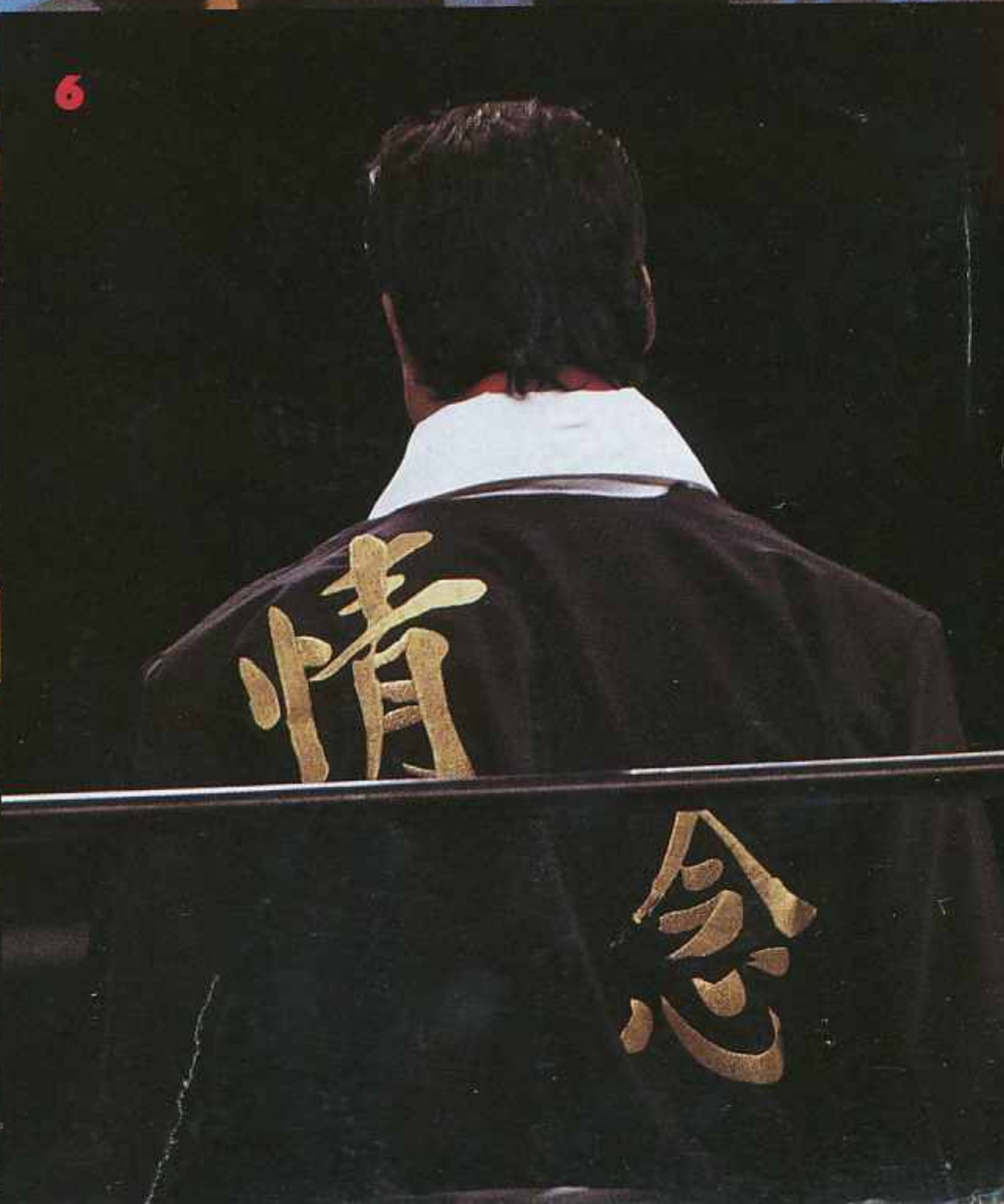
3

4

BATTLE FICTION

蘇れ ゴールデンタイム伝説

6

5

その多大なる影響を受けた人の中には漫画家の小林まことも含まれる。
少年時代に、梶原一騎の劇画をバイブルにした人々がたくさんいるのと同じように、その小林まことの漫画をバイブルとした世代もある。
小林まことの代表作は、いわずとしれた『1・2の三四郎』。
ドジでマヌケでお茶目な男たちがプロレスラーを志し、実際にプロレス入りしてからも、世界一強いプロレスラーを目指す物語である。
そうだ！　バトラーツは、まさにその『1・2の三四郎』の世界なのだ。
ただし、小林まことの世界は「劇画」ではなく「漫画」である。
リング上では、どこよりも激しいバチバチを展開する彼らも、リングを降りれば文字どおり漫画に登場しそうな、気さくでドジでマヌケでとんでもないアンチャンたちばかりである。
となると、バトラーツ社長である石川雄規は、まさに漫画でしかありえない世界を現出させた張本人ということになる。
梶原一騎、アントニオ猪木。
小林まこと、石川雄規。
一見なんの共通点もないような4人が「夢」と「ロマン」と「情念」という、いまの時代が忘れかけているキーワードをもとに結びついた。
猪木世代と石川世代。
梶原世代と小林世代。
シリアスとコミカル。
「劇画」と「漫画」。
違いはあれど、奇妙にも求めているものは一緒かもしれない。
「劇画」だからといってシリアスである必要もないし、「漫画」だからといってコミカルである必要もない。
「劇画」も「漫画」も表現方法は違えど、〝根っこ〟が一緒であれば、何も問題はないのである。
石川雄規以下、バトラーツ勢は、この先も「漫画」を超える勢いで「世界一強いプロレスラー」を目指してほしい。
そして、世界が平和でありますように――。

★

休憩おしまい！
いま読んでもらったのは、97年1月21日。2年前に行われたバトラーツ後楽園ホール進出第2弾『プロジェクトB～地球征服作戦～』のパンフに僕が書いたものだ。
バトラーツはその頃、「バチバチ・スタイル」を引っ提げ、関東近郊を中心にして全国を飛び回り、コップの〝陰〟を描き続けていた。
「コップを描くには、コップそのものを描くのではなく、〝陰〟を描かなければならない」
「いまの時代、〝実〟ばかりを追っている人がいる。それは〝陰〟のデッサンをしていないからだ。だから人に感動を与えられない」
これは、かつて石川雄規が僕にしてくれた話だ。
今年のバトラーツも、「祭り」という作品の〝陰〟の部分を地道に描き続け、ついにこの両国で全体を描きあげてしまった。
10・11。東京ドームでマルコ・ファスを破ったアレクサンダー大塚は、この日、ロード・ウォリアーズに胸踊るようなフォール負けを喫した。
感動なきドキュメンタリーは無能なり。
ドキュメントなきドラマもまた無能なり。
アレクがマルコに勝った瞬間に生じた気分が〝プロレス万歳〟だとするならば、ウォリアーズに残念ながら敗れた瞬間に生じた気分も、これまた〝プロレス万歳〟なのである。
プロレスというのは、それくらい〝広い〟ものだということを思い出させてくれたのが、両国の「祭り」だったということだ。
「ドキュメンタリー」と「ドラマ」。
この、異なるものの根っこに共通して流れていなければならないのは「リアリティ」である。
それを「情念」と言い換えてもいい。
この日の両国を見て、バトラーツに「単なるハシャいだお祭り団体」というようなイメージを持った人もいるかもしれない。「祭り」にのめりこめなかった人たちだ。キミか？
ズバリ言ってそういう人たちは、プロレスの〝陰〟を見ていく能力と体力を身につけた方がいい。
バトラーツは、来年はまた違う作品を描くために、新たなる〝陰〟を描く作業に入る。来年描かれる絵は「祭り」とは限らないだろう。
「道理」と「不条理」という相反するものを飲み込んだ、ゴールデン・タイム時代のプロレス団体にあったバイタリティを、奇跡的にバトラーツは懐に忍ばせている。
この日の大会名は、「バトル」と「フィクション」を合わせたバト語で、『バトル・フィクション』という――。コッ！

1. “路上の王”マルコに勝ったアレクが、ロード・ウォリアーズの前に玉砕。最後はダブル・インパクトでアニマルにフォールを奪われてしまった。“路上でネズミを喰っていた男たち”は強かった
2. バーリ・トゥードでもジャイアント・スゥイングを狙った男がウォリアーズが相手だからといってビビるわけがない。強引に狙う。しかし、バッド・コンディションのためか回しきれなかった
3. 久々の来日となるロード・ウォリアーズ。『アイアンマン』が場内に流れたときは、両国が異様な興奮に包まれた。峠を越したウォリアーズをもバトラーツは「回復」させてしまった
4. モハが蹴る、蹴る、蹴る！「ラブ・ウォリアーズ」を名乗ったアレクサンダー大塚＆モハメド・ヨネだったが、暴風のような本家ウォリアーズの前に轟沈。連携プレーも1回見せただけに止まった
5. バトではデカイ方のアレク＆ヨネもウォリアーズの前では大人と子供。アレクは額に「愛」、モハは「ＬＯＶＥ」。ペイント（というのか）でも張り合ったが、ラリアットでなぎ倒された
6. ウォリアーズ相手に鉄柱越えノータッチ・トペコンを炸裂させたアレクだが、タバスコ一気飲みパワーでリフトアップされてしまう。「レベルが違うよ」「殺されちゃうよ」という声も上がっていた
7. この日高熱を出していたアレクだが、普段通りリング設営主任として両国入りした。東京ドームでは、このリング設営がいい方向に転んだが、このあとアレクに、まさか地獄が待っていようとは……

BATTLE FICTION

蘇れゴールデンタイム伝説

1

2

3

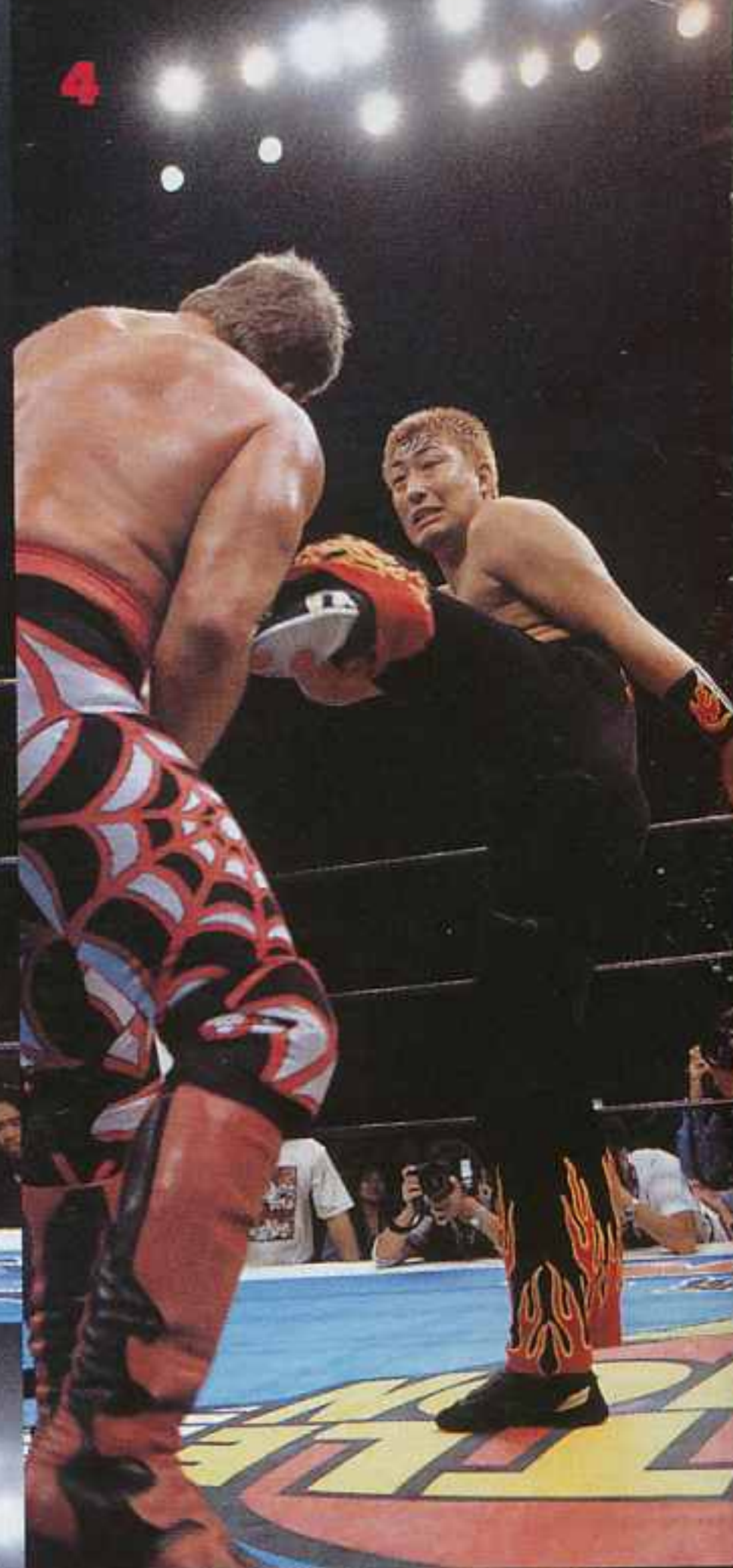
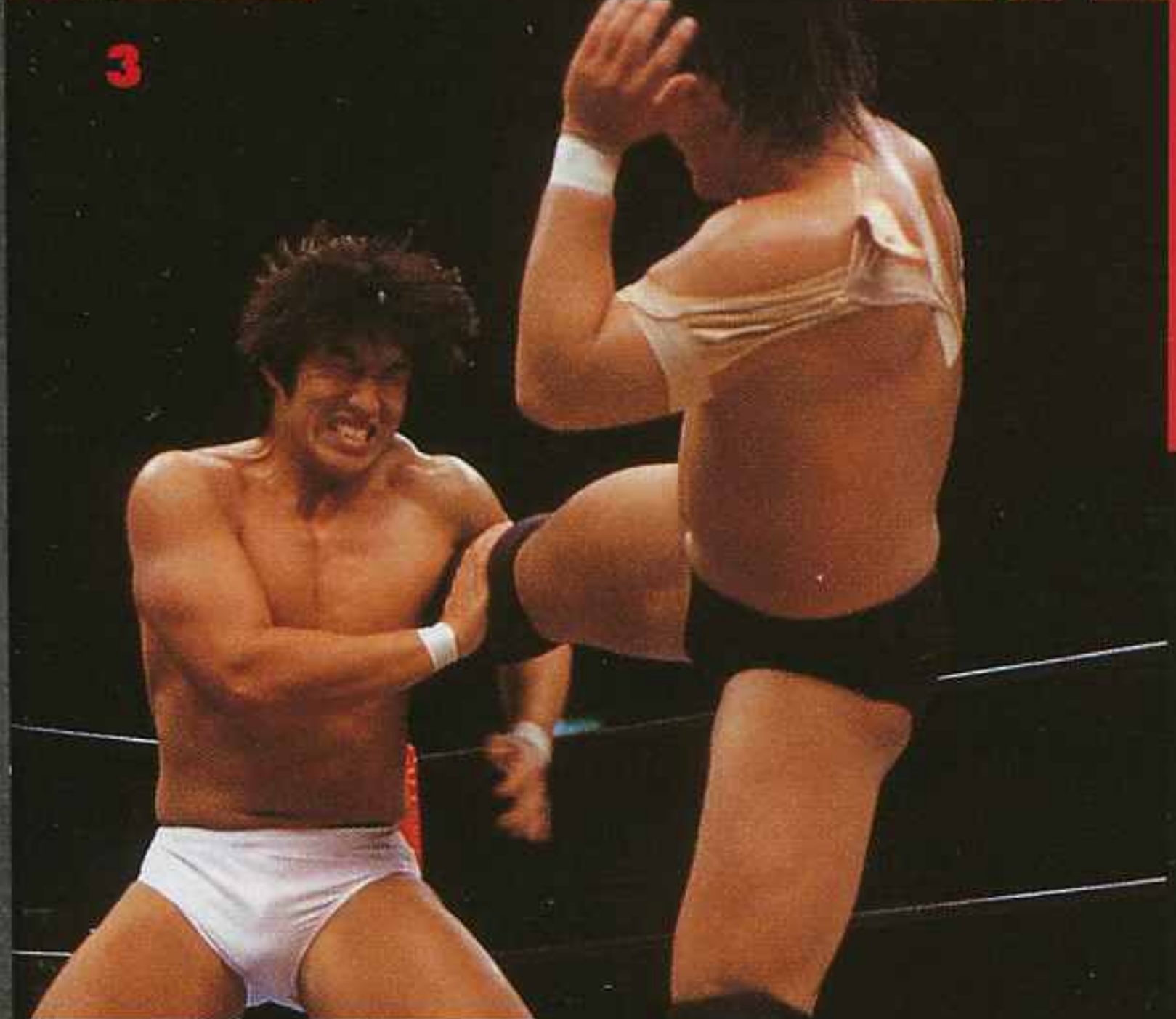
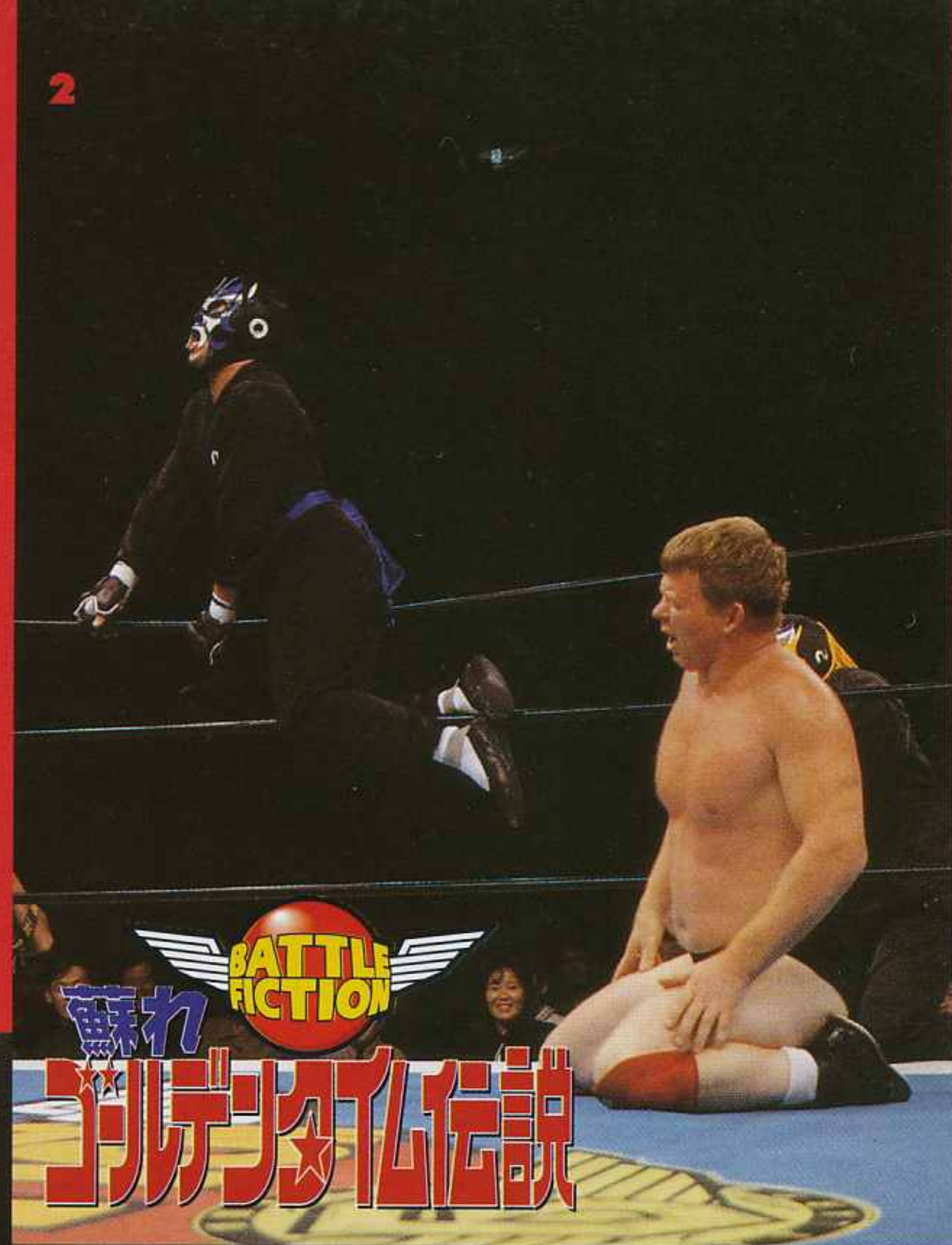
4

5

6

7

一気に見せます！（写真で）男祭りのバトル・フィクション

BATTLE FICTION 蘇れゴールデンタイム伝説

1.いまの時代に忘れ去られた「ロマン」を賭けて競り合った『B—CUP』準決勝第1試合は、“猪木な”石川と“猪木最後の付け人”大矢剛功戦。コクのあるプロレスが大会場で見られるとは

2.これぞ異次元対決！　SASUKEvsボブの『B—CUP』準決勝第2試合。教育、政治方面にも興味があるボブからすると、この日のワルSASUKEの狼藉ぶりは許せなかったに違いない

3.JYBスーパーバウトの決勝戦、田中稔vs星川尚浩戦。この日のベストバウト候補だったが、両国のエアポケットに入り込んだか両者ともに持ち味を発揮できず。星川が辛うじて勝利した

4.ウォリアーズにゃ負けねぇ！　生ラップに乗った入場でド肝を抜いた折原＆武志のトンパチ・マシンガンズ。プロディジーを意識したという話だが、この度胸っぷりの良さは本物だ。コッ！

5.3日前にFMWマットで冬木弘道と激闘を展開したハヤブサ。冬木に「あんな試合やって3日後に両国出てるなんて、あいつはバケモノだ」といわしめたが、この日も飛んだ！　勝った！

6.TAKAみちのく＆ショー船木（船木勝一）がWWFマットから逆上陸！　注目のタッグマッチは終始、TAKA組のリズムで進められた。本場の空気の前に日高郁人＆藤田穣組ペース掴めず

7.日本プロレス時代、CM中に“リング清掃の雄”として活躍した三菱の電気掃除機・風神。97年10月から名称が復活。いまなら電気屋さんでお求めになれます（いや、これホント！）

8.休憩後には、バチバチ・シングル。池田大輔vs臼田勝美のB純血決戦だ。高熱の中のフルファイトの末に勝利した大ちゃんは、「俺がバトラーツだ！」と叫んだが、両国が終わると緊急入院

9.こいつがKPG（キッド・プロレス軍団）の刺客・ビッグバン・クルーガーだ！　カール・グレコと組んで、トンパチを撃破。正体は意外にもビクターだった（いや、これホント！）

10.オープニングマッチは、望月成晃＆マッハ純二vs瀬野優＆土方隆司。勝者の望月＆マッハ組には『紙プロ』から勝利者賞として「『紙プロ』3年分と金一封」が贈られた。プレゼンテーターは巨人

11.TPGのビートたけしは嵐のようなブーイングを浴びたが、浅草キッドと若手芸人軍団によるKPGは歓声で迎えられた。ここにも劇画の時代と漫画の時代のファン気質の違いがある

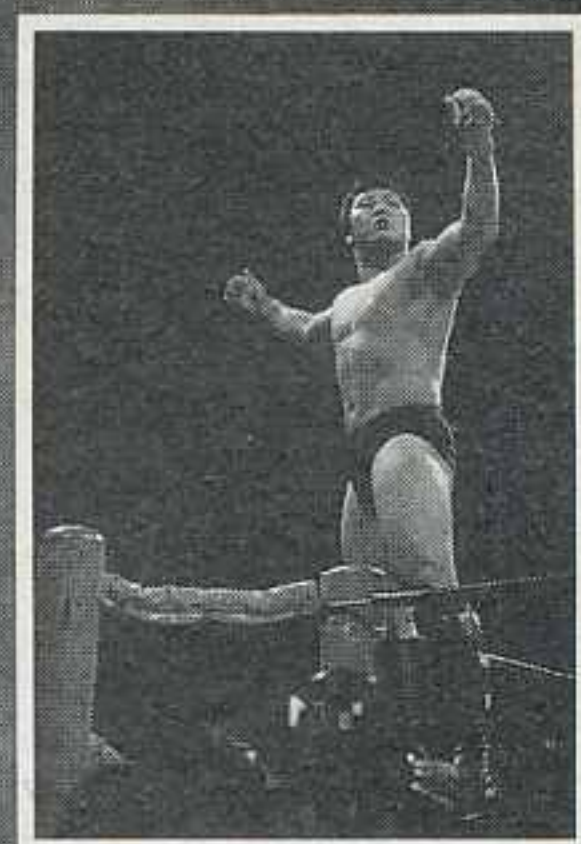
WANTED

現在怒涛の11連勝中！
金原を止めるのは誰だ!!

聞き手／ぴのこ
interview by Pinoko
撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Mori

金原弘光
（リングス・ジャパン）

¥100000000?

ボクはUインターの先輩方のシゴキに耐えて強くなりました（笑）

—前から思ってたんですけど金原さんってビッグマウスですよね（笑）。

金原　そうッスか。俺、ビッグマウスですかねぇ。ハッハッハッ！

—強気な発言が多くていいなぁって思ってたんですよ。もちろん結果も残してますから説得力もありますし。それで今、バーリ・トゥードとかで勝利を収めているのは、高阪（剛）選手にしろ桜庭（和志）選手にしろ、アマチュアでビッチリやってた選手が多いじゃないですか。そんな中で金原さんは、格闘技経験もなくプロレスラーになって強くなったワケですよね？

金原　そうですそうです。

—「プロレスラーはホントは強いんです」っていう桜庭さんの言葉がピッタリ当てはまりますね、金原さんは。

金原　ボクはUインターの先輩方のシゴキに耐えて強くなりました（笑）。

—でも最初は新日に入りたかったんですよね、新日本プロレス学校に行ってたくらいですから？

金原　最初はね、タイガーマスクのああいう動きに憧れてたんですよ。ちっちゃい頃はブルース・リーとかジャッキー・チェンの方が好きだったんだけど、ジャッキー・チェンのパンフレット見たらタイガー・マスクが載ってたんですよ。2人で握手してる写真が。プロレスラーになったらジャッキー・チェンに会えるのかな、と思って（笑）。

—ジャッキーに会いたくて（笑）。

金原　それで、タイガーマスクを見てみたら面白いなと思ってね。それで新日本プロレスに入りたいな、と思ったんですけどね。それからプロレス学校で、多少なりとも関節技とか覚えちゃったじゃないですか。そういうの知っちゃって、やっぱり新日本のスタイルよりUWFとか、そっちの方がいいと思ったんですよ。ちょうどその頃UWFも解散して、今がチャンスかなって思って。

—それでUインターの第1回入門テストに合格したわけですね？

金原　インターに入った頃もほとんど格闘技って知らなかったですからね。素人に毛が生えてるぐらいッスね。

—じゃあ、道場では先輩方にギューギュー言わされてたんですね（笑）。

金原　メチャクチャ言わされましたねぇ（笑）。

—誰に一番シゴかれたんですか？

金原　高田（延彦）さんの付き人してたんですよ。だから高田さんとは毎日スパーリングしてましたからね。でも高田さんが道場に来るのが遅かったんで、一日3人ぐらいに回されましたね。

—ガハハ！　回されましたか（笑）。

金原　もう、ホントに回されてフラフラになりましたからね。で、終わってフラフラしてる頃に高田さんが練習に来るんですよ。そしたらまたイチから練習するじゃないですか。また高田さんとスパーリングして（笑）。ホントかっなり鍛えられましたよ。

—ガハハハハハ！　それは強くならない方がおかしいですね（笑）。それだけシゴかれて辞めるっていう気にはならなかったんですか？

金原　いや〜、もう早くリングに上がって顔殴りてぇなと思って（笑）。

—ガハハハハ！　素晴らしい！　いい思い出って何かないんですか？（笑）

金原　インター時代はあんまりないですね〜。ボクはあんまりいい待遇受けてなかったんで。マッチメイクとかも。

—いつぐらいから自分の強さに対する自信がついてきたんですか？

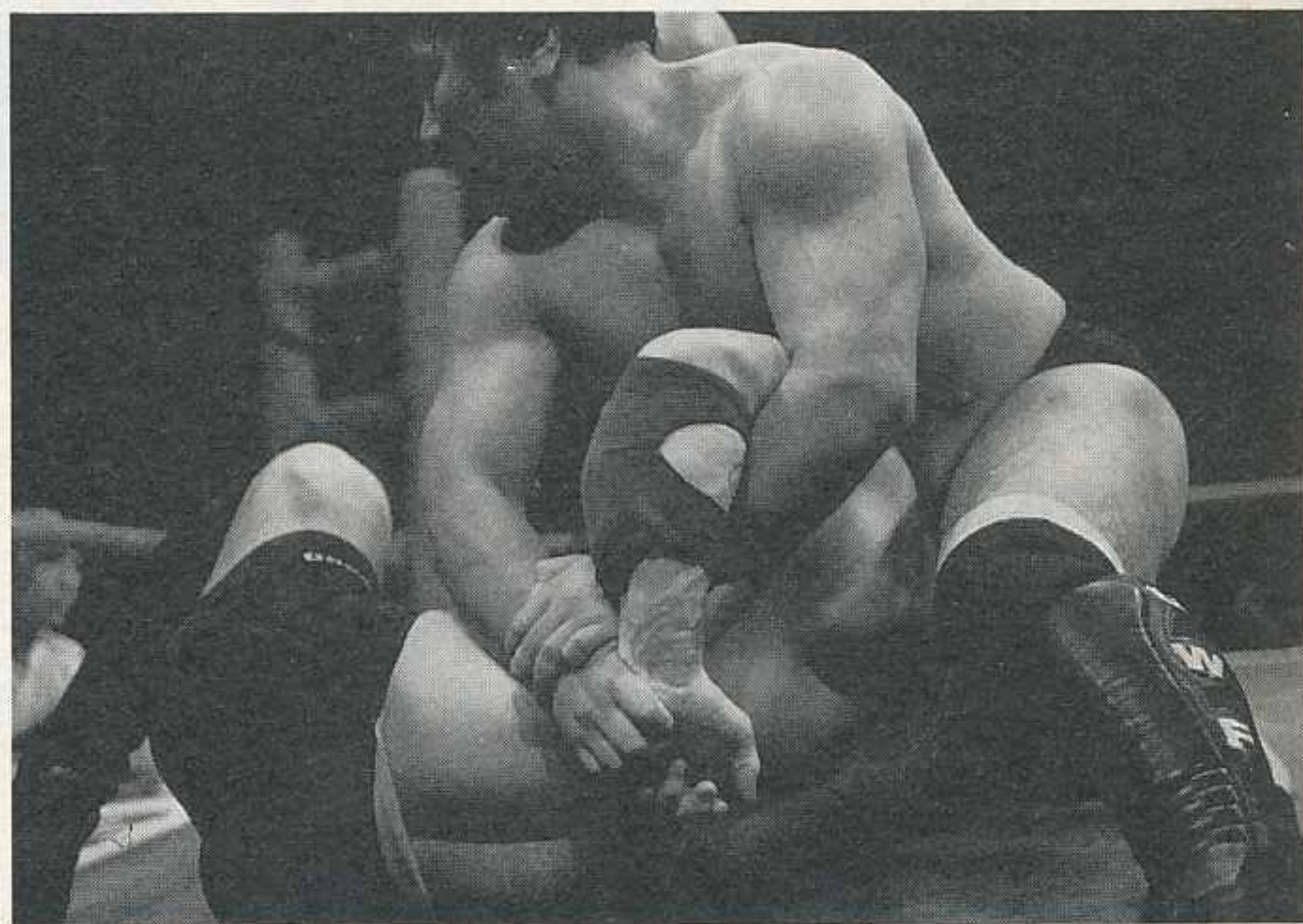
金原　いつぐらいですかね？　先輩とやったらもう負けねぇだろうなっていうのは、きっとある程度感じてたと思います。

—インターの後期には新日本との対抗戦がありましたけど。本音で言えば対抗戦はやりたくなかったっていうのはありますか？

金原　やりたくないっていうか、あの当時の立場として、「新日本と対抗戦やるけどどうする？」って言われたらNOとは言えない立場だっていうのはわかるじゃないですか。田村（潔司）さんぐらいの地位がある人だったら拒否することもできるかもしれないですけど、ボクなんかはそんなこと言える立場じゃなかったんで。仕事だからやりますって感じでしたね。

—逆に田村さんぐらいの地位があったらやってなかったと？

金原　多分やってなかったですね。でも、今思えば何でも経験ですからいいんじゃないかと思いますけどね。花道出たら凄いブーイング浴びたりね。

—一発目のドームの試合後だったかに金原さんは「新日でホントに強い選手は石沢（常光）選手と永田（裕志）選手。石沢選手は上になる技術はあるんだけど、そこから先が何もできない」って言ってましたよね。

11・20大阪大会。ファンだけでなく金原自身も楽しみにしていた山本宜久戦だったが山本の負傷欠場により直前でカード変更となってしまった。ドールマンからの刺客、オランダ・パワーリフティング王者D・V・デ・フェーンを相手に、金原は慌てず騒がす、そのぶっとい腕をアームロックに極め、勝利。連勝記録を11と伸ばした。つえ〜や！

Kanehara Hiromitsu

金原　そうッスね。確かにそうだと思いますよ。ただ、アルティメットなんかやったら彼らが一番いいかもしれないですね。やっぱりアマチュア上がりっていうのはアルティメットとかでは強いと思うんですよ。ポジション取る技術は最高のモノを持ってますからね。ボクなんか日体大とかへレスリングの練習に行くと簡単に転がされますからね。でも、ああいう技術を持った選手がUWFとか入ったら凄い強い選手になると思いますね。

—新日本の選手は、実績から、体格から一流の選手ばっかりですからね。

金原　対抗戦の頃って凄く打撃にこだわってたんですよ。タイかぶれで（笑）。コーチのボーウィー（・チョーワイクン）と、1回キックのスパーリングやったらボッコボコにされて、自分の蹴りは全部スカされたんですよ。ボーウィーが65キロぐらいなんで、チョロいっていうのがあるじゃないですか。でもそういう次元じゃないんですよね。やっぱり痛いし、痛さを伝えるには打撃が一番だし、客が見ても打撃っていうのは受けがいいし、そういうのがあって打撃に興味を持ったんですよ。

—新日との対抗戦もキックスタイルでしたよね。トランクスに素足でっていう。

金原　グラウンドなんかやってもしょうがないって思ってたんで。

—木村さんとの試合も、ホントにボコボコにやってましたよね（笑）。

金原　そうッスね（笑）。でもパワーボムとかホント痛いですよ。あれはホント痛いですよ。よく毎日やってるなぁと思って。あんなの毎日やれって言われてもできないですよ。ラリアットとかもメチャメチャ痛いんですよ。

—ガハハハハ！　新日本マットで何か学んだことってありますか？

金原　ああいうデカい選手っていうのは蹴っても効かないんだなっていうのを学びましたね（笑）。

—エンセン（井上）さんと練習し始めたのは、その頃からですよね？

金原　そうッスね。インターの末期ぐらいに、エンセンが来てくれるようになったんですよ。でもちょっとしたら潰れちゃったんですけどね（笑）。

――エンセンさんが潰したワケじゃないですけどね（笑）。

金原　ハッハッハッ！　エンセンと初めてスパーリングした時は、まだガードポジションも知らなかったし、テイクダウンの技術とかも全然なかったんですよ。あと安達（巧）さんが来てからタックルとか教わって、そういう技術が重要なんだってことが凄いよくわかりましたね。

――安達さんは身体はそんなに大きくないですけど、やっぱり簡単にタックルとか取られるもんなんですか？

金原　簡単に取られますよ。それにコロッコロ転がされるし。あんなちっちゃいのに（笑）。

――でも金原さんは、今はタックルにかなり自信を持ってるんですよね。

金原　そんなことないッスよ（笑）。だって俺そんなタックル巧くないですもん（笑）。でも新日とやってた時は石沢選手とかあの辺にスコーンと倒されたりしましたけど、今だったら逆に倒されない自信はありますね。タックルを切る技術とか覚えたんで。

――キングダム勢の中でも、金原さんと桜庭さんが一気に飛び出したって感じですよね。リングスに入ってからの金原さんの怒涛の11連勝もそうだし、桜庭さんのバーリ・トゥードでの活躍もそうだし。

金原　それはやっぱりお互いによくスパーリングしてたからじゃないですか。ウェイトとかバンバンやる人は多いかもしれないけど、スパーリング一番やってたのは俺たちじゃないですかね。とにかくキングダムの時も桜庭とか練習生使ってスパーリングはしょっちゅうやってたから。スパーリングを毎日やってたら強くなりますよ。

――高田さんは、インター時代はウェイトばっかりで、技術的な進歩はストップしてたって言ってましたけど。

金原　そうですね、ウェイト中心にやってましたね。先輩たちは入ったばっかりの練習生ってバンバン極まるからスパーリングやるんですけど、だんだん極めづらくなってくるし、もしかしたら自分が極められる可能性も出てくるわけですよ。その頃になると「スパーリングやろう」って言ってこなくなるんですよ。そういう風潮があったんで。逆にボクとか桜庭とかは下の奴にでも、極められても別にタップすればいいやって思ってたし、練習でいくら極められてもいいやって考えがあったんで。安生（洋二）さんなんかも同じ考えなんでよく練習しましたよ。そういった意味で技術が進歩していったんじゃないですか。あと、昔ながらのスパーリングって一回上の人が極めるじゃないですか。極めたらその続きから、また違う技極めてていう。

――よくテレビとかで見ますね。ダブルリストロックでタップ、V1アームロックでタップって感じの。

金原　そうそう。結局アレはイジメのスパーリングなんですよね。1回腕取って極めるじゃないですか。そしたらその腕離すだけで上に乗ったまままなんですよ。腕極められて腕が痺れてるのに、そこからまた逃げろといわれてもまた極められるのがオチじゃないですか。そういうスパーリングだったんで、ボクたちが変えたんですよ。1回極まったらまた立ってスタートしようって。

――そういった道場革命がボクらの知らないところで進んでたんですね。それで今のマット界って、バーリ・トゥードやPRIDEとかで勝ったら一気に評価されるってとこがありますよね。金原さんみたいに連勝街道を突っ走ってようやく評価されるっていう状況は面白くないですよね？

金原　そうッスよ。結局、PRIDEで勝てばすごいとか、そういうイメージがついちゃってるじゃないですか。今はプロレスラーよりも、格闘技の選手の方が上っていうイメージがありますよね。だからプロレスラーが格闘技の選手に勝てば凄いって思われちゃうんですよ。もともとは逆で、いつの間にか逆転しちゃったんですよ。

――やっぱりバーリ・トゥードにプロレスラーが出て行って負けたっていうのが大きいんでしょうね。

金原　だから、今年とか来年はプロレスラーが格闘技の上に来なきゃいけないですよ。まあプロレスラーって言ってもどっからどこまでがプロレスラーっていうかも難しいですけどね。

――プロレスラーって認めたくない選手もたくさんいるんですか？

金原　そんなのいっぱいいますよ！　だって、素人とケンカしても勝てないような奴、いっぱいいるじゃないですか。よく飲み屋とかで「プロレスラーって強いんですよね」とか言われるんですけど、「強い人もたくさんいるんだけど、素人にも負ける奴いっぱいいるから、ケンカしてみれば？」って言うんですよ。そういうレスラーに素人がどんどんケンカ売ったら面白いですよね（笑）。

――ガハハ！　タチ悪いですね（笑）。

金原　デスマッチでもルチャでも、ホントに強い人がやるのはいいんですよ。だから、いわゆる昔のレスラーですよね。シュートもできるし、飛んだり跳ねたりもできるっていうレスラーだったら全然OKなんですけど。プロレスラーと名乗りたいんだったら、まず最初に強さを求めて欲しいですね。ホント同じ雑誌に載るのもどうかなって思ってますよ！（怒）

――……で、個人的には、金原さんと（ヒカルド・）モラエスの試合を見てみたいんですよ。まあモラエスに勝てる素人はいないと思

Kanehara Hiromitsu

95・10・9、東京ドームで行われたUインターと新日本の対抗戦第1弾。一部ではメインの高田vs武藤戦を上回る評価を得た、金原、桜庭vs永田、石沢戦の一戦。これぞ対抗戦と呼ぶに相応しい激しすぎる闘いとなった。徹底的に打撃で攻める金原に対し、新日ファンからは強烈なブーイングが飛んだが、それを逆手に取った金原はヒールに徹し、持ち味を十分に発揮した。試合後も「新日勢は打撃ができない。上になっても関節を知らないから怖くない」と金原節を炸裂させた。

素人とケンカしても勝てないような奴いっぱいいるじゃないですか！

いますけど（笑）。

金原 ハッハッハッ！　モラエスとはやりたいッスよね。ああいうのに俺みたいなちっちゃい人間が勝つと凄い説得力があると思うんですよ。モラエスとか、コイツに勝ったら名前が上がるとか、客が興味を持ってくれる人と組んでもらえれば一番いいですよね。

――11連勝もしてたら、「誰々とやりたい」って発言権もあるんじゃないですか？

金原 どうなんですかね？　その辺は全部前田（日明）さんに任せてますから。誰とやりたいって言ったらボクは、田村さんとやりたいですね。Uインター時代から、田村さんとやったことって1回もないんですよ。ホントに初対決になるんですよ。

――田村選手と金原さんってタイプ的には全然違いますよね。

金原 俺とは正反対の動きをするんで、まぁ、全く違うタイプの選手ですよね。田村さんは抑え込む前に極めるタイプで、俺の場合はしっかり抑え込んでから極めるタイプなんですよ。リングスルールだったら、田村さんはいいと思うんですけど、バーリ・トゥードだとどうかなって思いますね。でも昔からのリングスファンから見れば、俺みたいに、あとから入ってきた人間が負けることを望むでしょうね。そういう人たちに「どうだ！」っていうのを見せたいですね。

――田村選手もリングスに途中から入って最初はそういう目で見られてましたよね。

金原 やるとなるともちろん自信もありますし、実際そういう闘いをしていかないとリングス自体も盛り上がらないじゃないですか。やっぱり、下から這いあがってきた人間が上を倒して、さらにその下から這いあがってきた人間が上を倒していって具合にドンドン回っていかないと面白くないですよね。最終的には日本人の中で誰が一番強いのか決めたら一番盛り上がりますよ。見たくないっスか？

――それは見たいですね。それで最終的には金原さんがベルトを巻くと？

金原 ベルトは欲しいですね～。ベルトってやっぱり格好いいじゃないですか（笑）。アダ名もチャンピオンになりたいですね（笑）。

――ガハハハハ！　「チャンピオン最近調子どう？」とか言われてみたいと（笑）。金原さんは、大阪大会（11・20）の試合後、20連勝、30連勝したいって言ってましたけど、そうなったら黙っていても注目されますよね。チャンピオンとも呼ばれてるだろうし（笑）。

金原 ハッハッハッ！　今、（ヴォルク・）ハンの15連勝が最高らしいんですよ。それは抜きたいですね。

――そういえば金原さんは高阪選手ともやりたいって言ってますよね。

金原 高阪さんとはね、ボクがベルト穫ったら、一発目の防衛戦でやりたいと思ってますね。そう決めてます（笑）。

――決めちゃってるんですか（笑）。

金原 やっぱり強い人と試合するのって楽しいじゃないですか。高阪さんは肉体的にも凄いと思うし、関節もよく知ってると思うし。でもそのためには取りあえずランキングに入らなきゃいけないんで。いつまでも（ビターゼ・）タリエルがチャンピオンじゃリングスも面白くないですよね。

――やっぱり日本人がチャンピオンの方が盛り上がりますからね。

金原 タリエルも大きくて凄く強いと思いますけど、彼がチャンピオンじゃ盛り上がらないですよ、会社自体も。やっぱり日本人がチャンピオンにならないとダメですよ。だってボクが入った頃は、どこも満員だったんですよ。前田さんのリングスラストマッチぐらいまでは結構お客さん入ってたんですけど、最近あんまり入ってないですから。やっぱり前田さんは偉大なんだって痛感してますよ。

――やっぱりお客さんが入ってるのと入ってないのじゃ違うでしょうね。

金原 大きい会場で歓声を聞きたいなっていうのはありますよ。入場の時にボルテージが上がって、すごくいい気持ちになるんですよ。ボクは声援があると頑張れるタイプなんで。入場の時にさびしい声援だと、試合にもちょっと影響はありますね。

――もっと自分が客を呼べる選手にならないとって思ってるんですね。

金原 そうッスね。それはホント思ってますよ。そういう意味でもうまく世代交代して一人一人が有名にならなきゃダメなんですよね。

――前田さんみたいな存在って一朝一夕でなれるもんじゃないですからね。

金原 前田さんは例外です（笑）。百年に一人出るか出ないかって人ですから。でも自分らも、もっともっとマスコミに露出しないと難しいですよね。

――バーリ・トゥードに出て勝てば有名になるとは思いますけど、金原さんは出たいって気持ちはあるんですか？

金原 出たいとは思いますけど、今はリングスで1勝するのは凄いことなんだっていうイメージを強めたいって思ってるんですよ。リングスっていうのは、それだけ総合格闘技の凄い地位にあるんだということを見せつけないと。まあアルティメットでもPRIDEでもK－1でも、前田さんが「いいよ」って言ってくれれば出たいですけどね。

――金原さんは、リングス内での試合がそれぐらい注目されるようにしていきたいっていう気持ちなんですね。

金原 そうなるには、さっき言ったモラエスとか、そういう名前のある選手に勝たないと

金原弘光【かねはら・ひろみつ】1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。178cm／94.5kg。高校卒業後レスラーを目指し「新日本プロレス学校」へ通い始める。そしてUインターへ入門。来る日も来る日もスパーリングに明け暮れる。ムエタイにも興味を持ち、バンコクに数回渡り修行を重ねる。キングダムを経て、今年３月よりリングスへ参戦しミーシャ相手に敗れはしたが、その後怒涛の11連勝で、その存在感と強さを強烈にアピールしている格闘技男である。

6・20後楽園大会では坂田と対戦。金原が飛びヒザ蹴りを出せば、坂田もニールキックを出すなど、互いに積極的に攻め合う好勝負となった。最後は腕十字で金原の勝利。会場にはかつての同志、桜庭、高山、垣原、さらにはエンセンも来場し、バックステージでは、リングス、元インター、高田道場、大和魂と興味深いショットがいたるところで見られた。

前田日明のラストマッチが行われた7・20横浜大会。この日から正式にリングス・ジャパン所属となった金原は、フライを相手に臆することなく打撃で立ち向かい、会場を大いに沸かせた。フライから2度のエスケープを奪い、最後は4分22秒、腕十字でフィニッシュ。現時点での力の差をまざまざと見せつけた。金原はこの勝利で連勝記録を6と伸ばした。

8・28新潟大会では、あの柔術怪獣ヒカルド・モラエスを下しているグロム・ザザと対戦。ザザの奇想天外なサブミッションとナチュラルパワーに苦しめられるが、金原も負けずにロストポイントを奪い返し、白熱のシーソーゲームを繰り広げた。最後はグルジアのレスリング男を裸絞めで破り、金原の連勝記録は気がつけば7となっていた。

一番盛り上がりますよね リングスとパンクラスの対抗戦やったら

ダメでしょうね。まあ俺がチャンピオンになって、何回か防衛戦やって、統一戦をやれたら一番いいと思うんですけどね。ボクシングのWBA、WBCとかを見習って。それでルールを1つ作って、そのルールでできる人を集めてね。エンセンとか。

――リングスの無差別級チャンピオン対修斗ヘビー級チャンピオンのダブルタイトルマッチ！　金原vsエンセンとか（笑）。

金原　面白いでしょうね。パンクラスのチャンピオンとかも出てもらって。やっぱりパンクラスと交流できたら一番面白いですよね。……でも絶縁って言われるのかもしれないですね（笑）。

――ガハハハハ！

金原　でも一番盛り上がりますよね。リングスとパンクラスの対抗戦やったら。年に何回かやれるような感じになればいいんですよね。ランキング1位から10位までが全員揃って。ドームでもできるんじゃないですか？

――それが実現したらドームも十分埋まると思いますよ。金原さんは、ヒクソン（・グレイシー）と闘ってみたいっていうのはあるんですか？

金原　やってみたいッスよ。誰でもやってみたいと思ってますよ。それで聞いた話では椿山荘に泊まってるらしいんで、襲おうかと思ってたんですよね。それが一番いいかなって（笑）。

――道場破りならぬホテル破り！　よくわかんないけど椿山荘っていうのはいいロケーションですね（笑）。実際ヒクソンと闘ったとしても金原さんは勝つ自信はあるんですよね？

金原　自信はありますけど、それはやってみないとわからないッスよ。まあ試合前は勝つイメージを作らないとダメですからね。猪木さんじゃないですけど、「やる前から負けること考える奴がいるか！」って感じなんで。ホントいいこと言うなぁって思いますよ、猪木さんは。でもヒクソンヒクソンって騒がれますけどリングスの外人とかも、みんな強いですからねえ。今度は（アレキサンダー・）カレリンみたいな化け物とか来ますし。

――そうですよね。リングスの外人は強いしデカいし、化け物もいるし（笑）。

金原　こないだも控室でタリエル兄弟が殴り合いやってるんですよ。試合前のウォーミングアップとかいって。もう、控室入りたくなかったですよ（笑）。バシバシやってるんですよ。コイツら同じ人間かって思いましたよ。

――タリエル兄弟の殴り合いはメチャクチャ迫力ありそうですね（笑）。

金原　ああいうの見ちゃったら、なにが最強か、ホントわかんないッスよ。

――リングスの外人勢なんか、例えばPRIDEに来てる外人勢と比べても全然遜色ないですからね。

金原　リングスの外国人勢がPRIDEのリングに上がったらそれはそれで面白いですよ。PRIDE対リングスの対抗戦も面白いかもしれないですね。

――（ディック・）フライ対マーク・ケアーとか（グロム・）ザザ対ウゴ（・デュアルチ）とかタリエル対（ゲーリー・）グッドリッジも見たいですね。ホント盛り上がる要素はいろんなところにありますよね。

金原　リングスの外人は、みんな握手した瞬間に手が折れるんじゃないかと思うような奴らばっかりッスよ。そういうイメージももっとマスコミが伝えなきゃダメですよ。ヒクソンみたいに。

――ヒクソンも幻想が一人歩きしてる部分がありますよね。

金原　ヒクソンも結局、高田さんとやったからですよね。高田さんとやらなかったらそういうのないですからね。

――イメージ的に400戦無敗だとか、侍だとかっていうのを全面に押し出して幻想を作り上げましたからね。もちろん強さも間違いなくありますけど。

金原　あれは、400戦戦無敗だとかって売り出した広報が凄かったんでしょうね。実際ヒクソンは何試合してるかわかんないじゃないですか。無敗じゃないだろうし。

――その点、金原さんの11連勝はちゃんと記録として残ってますし（笑）。

金原　一応（笑）。

――目指せ400戦連勝！

金原　ハッハッハッハッ！　その頃は、オジイちゃんになってますよ（笑）。

【11月26日／前田道場にて収録】

Kanehara Hiromitsu

『WORLD MEGA-BATTLE TOURNAMENT 1998 SEMI FINAL』

～第1回国別対抗戦FNRカップ～

福岡国際センター
1998.12.23（WED）OPEN16:00／START17:00

ナイマンは金原の連勝記録を止めることはできるのか？ 必見！

坂田亘（リングス・ジャパン）	vs	ディック・フライ（リングス・オランダ）
成瀬昌由（リングス・ジャパン）	vs	ヨープ・カステル（リングス・オランダ）
金原弘光（リングス・ジャパン）	vs	ハンス・ナイマン（リングス・オランダ）
田村潔司（リングス・ジャパン）	vs	山本健一（リングス・ジャパン）

国別対抗戦トーナメントSEMI FINAL

［グルジア］		［ロシアB］
ビターゼ・タリエル グロム・ザザ ビターゼ・アミラン	VS	ニコライ・ズーエフ アンドレィ・コピィロフ バロージャ・クレメンチェフ

※この日行う予定だったジャパンAvsオランダの一戦は、ジャパンAチームの山本宜久選手が「椎間板ヘルニア」により今大会は欠場となり、ジャパンAチームは無念の不戦敗となった。これにより、闘わずしてオランダチームの決勝進出が決定した。尚、対抗戦以外のカードは試験的にグラウンドでの首から下へのパンチが認められることになった。こちらも要注目！

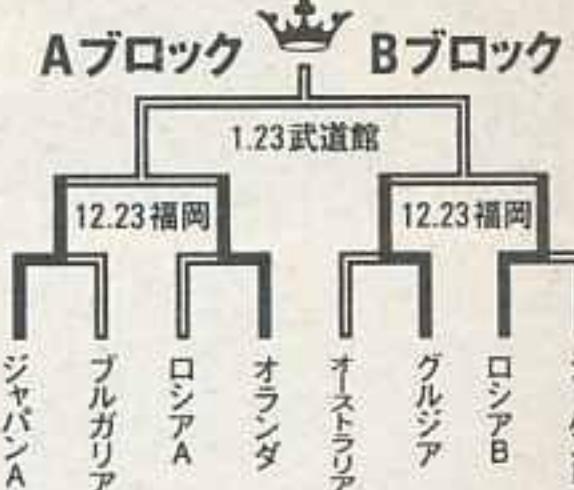
WORLD MEGA BATTLE TOURNAMENT 1998 SEMI FINAL

12.23(WED.)福岡国際センター

●OPEN 16:00 | START 17:00●

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…¥20,000／アリーナリングサイド…¥15,000
リングサイド…¥10,000／アリーナSS…¥6,000／スタンドS…¥7,000
スタンドA…¥5,000／スタンドB…¥3,000
学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000

◉発売場所
チケットぴあ ☎092-708-9999
博多スターレーン(店頭販売のみ) ☎092-451-0011
九州・山口地区のローソンチケット

ワールド・メガバトル・トーナメント1998
〜第1回国別対抗戦・FNRカップ〜
Aブロック　Bブロック
1.23武道館
12.23福岡　12.23福岡
ジャパンA　ブルガリア　ロシアA　オランダ　オーストラリア　グルジア　ロシアB　ジャパンB

◉お問い合わせ
キョードー西日本 ☎092-714-0159 *チケット絶賛発売中!*

グルジアチーム B.タリエル G.ザザ B.アミラン vs ロシアBチーム N.ズーエフ A.コピィロフ V.クレメンチェフ

WORLD MEGA BATTLE TOURNAMENT 1998 GRAND FINAL

'99.1.23(SAT.)日本武道館

●OPEN 17:00 | START 18:30●

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…¥20,000(16,000)／アリーナリングサイド…¥15,000(12,000)
リングサイド…¥10,000(8,000)／アリーナSS…¥6,000／スタンドS…¥7,000(5,600)
スタンドA…¥5,000(4,000)／スタンドB…¥3,000(2,400)
学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000
※( )内の特別セット割引料金は2月に行われる横浜アリーナ大会と一緒にご購入いただいた方に限ります。また、ローソンチケットでの販売は致しません。

◉発売場所
チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999／CNプレイガイド ☎03-5802-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード33701)／オデッセー ☎03-3796-9999／後楽園ホール ☎03-5800-9999／レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056／書泉ブックマート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237／フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999 *チケット絶賛発売中!*

前田日明引退試合〜THE Final〜

'99.2.21(SUN.)横浜アリーナ

●OPEN 12:00 | START 13:30●

◉入場料金
特別席A…¥50,000／特別席B…¥30,000／ロイヤルリングサイド…¥20,000(16,000)
アリーナリングサイド…¥15,000(12,000)／リングサイド…¥10,000(8,000)
アリーナSS…¥6,000／スタンドS…¥7,000(5,600)／スタンドA…¥5,000(4,000)
スタンドB…¥3,000(2,400)／学生特別優待席A…¥2,000／学生特別優待席B…¥1,000
※( )内の特別セット割引料金は1月に行われる日本武道館大会と一緒にご購入いただいた方に限ります。また、ローソンチケットでの販売は致しません。

◉発売場所
チケットぴあ ☎03-5237-9999／チケットセゾン ☎03-3250-9999／CNプレイガイド ☎03-5802-9999／ローソンチケット ☎03-3569-9900(Lコード34110)／オデッセー ☎03-3796-9999／後楽園ホール ☎03-5800-9999／レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078／レッスル池袋店 ☎03-3989-0056／書泉ブックマート ☎03-3294-0011／大山アメリカン ☎03-3962-6443／ビデオショップ・チャンピオン ☎03-3221-6237／フィットネスショップ水道橋店 ☎03-3265-4646

◉お問い合わせ
オデッセー ☎03-3796-9999 *チケット絶賛発売中!*

前田日明 対 アレキサンダー・カレリン

FIGHTING NETWORK RINGS

主催

BS-5ch WOWOW
FIGHTING NETWORK RINGS

マット界

nちょうの出来事！ ST(with)F
特別編 ジニアス君のアメリカ日記

○ジニアスからエアメールが送られてきた。中身は何と『ジニアス君のアメリカ日記』。おそらくジャイジャイ日記にライバル意識を燃やしてのモノと思われるが……今回だけだよ。ジージー。

○数々の不祥事を積み重ね、頭がB（意味あり）のチョロです。「女性を狙った痴漢が出没しています」と、我が地元のあちこちに貼り紙が出ている。出没って…キンキンじゃないよな！ でも断じて、それは私ではない。たしかに私は15歳ぐらいまでは、手を出し…いや、胸を撫でたりしちゃうほどの女好きだったけど今ではすっかり男好き（意味なし）。

1998 10.27〜11.28

○長いこと隠し続けてきたのだが、『ゴング』にスッパ抜かれてしまった。まあプロレスマニアの中には気付いていた人もいただろうが、ボクの正体は……そう、グラン・シーク。中野区在住のしがないプロレスラーさ。応援よろしく！

チョロの正体はグラン・シーク

▷15分1本勝負
アジアン・クーガー（エビ固め、10分25秒）グラン・チョロ

▲第1試合に登場したグラン・チョロは中野区在住のメキシカン、グラン・シーク。『危ない刑事』にも出演中である。

（『週刊ゴング』NO.739より）

★「2月の猪木引退試合への名乗りを東スポは載せなかったくせに新間さんの猪木挑戦は載せるのか？ どういうことだ？ ファイトも俺の猪木挑戦は冗談で新間さんは本気か？ ふざけるのもいい加減にしろ！」となにがなにやら怒り心頭、セッド・ジニアス君の『ジニアス君のアメリカ日記』を中心にお届けします。

★**10・27**■デルタ航空でロスに向かう。客席最後部4席がスチュワーデス専用シート？ になっており、スチュワーデスが交代で寝に来るのである。座席4席使いジャイ子のように寝ているのである。日本人スチュワーデスも寝に来たが、寝相が悪く大股開きの大サービス。こんな航空会社初めてだ。バージニア着。

10・24【ジョルト・ジョーカーズ（JJ）】アジアン・クーガーが神田美智子さんと挙式をおこなった。いつまでもお幸せに！

★**11・3**■あのルー・テーズ道場に行った。今は倉庫になっていて中には入れないが、怒りが、いや、懐かしさが込み上げてくる。「やっぱり、1度は蝶野正洋と闘いたい！」追悼興行でやるか。マスター・オブSTF・元祖vs本家ジニジニ。

10・24【UFO】鬼の様な形相で控室を探していたフライ。たまたま通りかかった僕が教えてあげた。「フライ、うしろ、うしろ！」（そこはトンパチ控室）

★**11・4**■ホテルでボクシングをやっていたのでヘンリー・ロビンソンと見に行ったが、ビールを飲みながら女の子とおっぱいの話しをしていたらいつの間にか終わっていた。「アメリカン・ガールのおっぱいはなんでそんなにBIGなの？ バスケットボールみたいだよ。乳輪だけでも10cm近くあるし乳首だってレスラー猪木寛至のお●ん●ん位あるよ。粉ミルクを飲んで大きくなったの？」と聞くと「粉ミルクじゃないわよ。ボーイフレンドのミ・ル・ク！ よかったら、あなたのも飲ましてくれる？」うまか棒ピンチ！ 人参ジュースをジョッキで6杯飲まなければ……俺のテポドンが国境を越えてヒーヒー言うぜ！ ちなみに、レスラー猪木寛至の「人参ジュース異変事件」の話しをしたところ、「紹介して欲しい！」とのこと。でも、「レスラー猪木寛至はもうおじいちゃんだよ」と言うと「OH! NO THANK YOU!」ジニジニ。

10・25【バリジャパ】rAwチームのセコンドとして来日したトム・エリクソン。エンセンとの対決がチト見たい。今日は軽い予行練習！ 大和魂娘をお持ち帰り!?

★**10・30**■大西洋でコートを着てローラーブレードをやったがこの時期ちと寒い！ この海を行けばどうなるものか……迷わず行けよ そこは地中海！

11・1【みちのく】ゼブラ、カ・シン、ティガそしてタモン。豪華メンバーが集結したオブニ旗揚げ戦!? だった。

★**11・7**■夜、NBCニュースを見たら、ビンス・マクマホンが出ているので、また何か事件を起こしたのかと思ったら、ジェシー・ベンチュラがミネソタ州知事になった特集番組だった。コングラッチュレション、ジェシー・ベンチュラ！ 素晴らしいことだ！ でも、誰かさんみたいに女秘書が出てきて、脱税だ売春だなんてことにはくれぐれもないように……。

○**11・10**【狂乱の貴公子】／（日刊スポーツ11・10付）■『WCWのリック・フレアーが、米国の有名誌「TIME」選出による「今世紀の100人」を世界中の読者投稿で選ぶものの中で、フレアーはヒトラー、キリストに続いて3位に。企画当初から票を集め、雑誌関係者も驚くほどの人気ぶりだ。今後プロレスファンの「組織票」もあれば、来年2月の最終得票ではキリストを追い抜くことも夢ではない。アメリカンプロレスの象徴と呼ばれる男に、また一つ勲章が増えそうだ』フレアーのこの異常とも思われる人気ぶりは一体何なのだろうか。ヒトラー、キリストを抜いて1位に輝くために、プロレスファンよフレアーに清き（清くなくてもよし）一票を！ ちっと、ちっと応募方法が分からねぇや。ちっとタイム！ 調べてくるわ。なっ！

11・11【プロレス道場】アレクの応援に駆け付けたサウスポー。初公開、ちと嬉しいサウスポーの私服姿。ファイファイファ〜イ。

★**11・18**■あの時22才。夢と希望に満ちあふれていた1988年11月18日。そう、ちょうど10年前の今日、ルー・テーズ道場を卒業し、日本に帰国したのだ。ルー・テーズさんとマーク・フレミングに見送られて、ノーフォーク空港から日本に帰国したのだ。人参ジュースを飲んだ時のごとく下半身に、いや、股間に、いや目頭に熱いものがこみ上げてきたのを昨日のことのように思い出す。別れ際にテーズさんが言った「約束」はいまだに守られていない……ありがとう。

★**11・19**■都心から成田空港は遠すぎる。総理大臣は外遊する際羽田から特別機で出国するが、ふざけるな！ 成田まで行け成田まで！ 特別機だ？ 格安航空券のエコノミークラスで行け！ 国民の苦労を肌で感じろ！ 内閣は総辞職しろ！ レスラー猪木寛至は俺と試合しろ！

★**11・20**■日本の学校教育は素晴らしい！ ボディスラムやる時には連立方程式の計算が必要だし、ブレーンバスターやる時にはルートや因数分解の計算が必要になる。アメリカに初めて来た時、アニマルの発音が通じなくてショックを受けた。HOW ARE YOU? が通じないこともあった。文部省は総辞職しろ！ ちゃんと英語を話せるようになりたければ日本の学校で英語を習ってはダメ。三つ子の魂百までで発音とか直せなくなってしまう。レスラー猪木寛至は俺と試合しろ！ 尚、教育問題に関しては、1月より「読売新聞」で連載が予定されている「天才が語る育児と教育」にて詳しくリポート（USO）。

★**11・26**■恐い夢を見た。マサ斎藤さんが襲ってくるのだ。パンプアップしたバディをブルブル震わせて襲ってくるのだ。殴っても蹴ってもそれが「栄養」と「エネルギー」になってしまいもっと襲ってくるのだ。「やめてくだちゃいよね。人の夢に出てくるのは！」ジニジニ。

○**11・28**【誠心会館】／東京スポーツ（11／29付）■『放浪の格闘家〟青柳政司がドン・キング氏と合体し、日本マットに逆上陸するという仰天計画を明らかにした。ボクシング界を牛耳るキング氏はK-1からジェロム・レ・バンナを引き抜き、9月のホリフィールド戦の前座にバンナのキック戦を行うなど、今秋から格闘路線をスタートさせている。これに目を付けた青柳は米国の空手関係者を通じ、キング氏側と接触。日本の窓口になれる可能性が出てきたという。「本来ならこの前、中止になったホリフィールドの世界戦に行き、話してくるハズだったんだ」という青柳は来年3月にキング氏側に直談判することも決定。「ボクを通じて日本人を向こうの格闘戦に出したり、ファイターを引き抜いて新日、全日、UFOなどに送り込むのも面白い」。ここで話がまとまればキング軍団が日本マット界に殴り込みをかけてくることになる。現在、青柳は夢工場の所属だが、このプランを実現するために来年はプロダクションを設立して〝団体内独立〟する予定。すでに有望株の福田雅一の米国投入まで考えているという』青柳館長の打倒プロレス！ の夢はまだまだ終わらない。止まらない。

11・22【バトラーツ】両国大会前夜祭に現れたSASUKE。一体どうやったらサスケ組に入れるんだ。教えて監督！

11・22【慧舟會】早々と今年の忘年会を行った慧舟會。慧舟會のアキラ兄さんこと小路晃のPRIDEシリーズでのマイク再現にガンガン呆れ果てる仲間達。

★**11・28**■只今、本を執筆中。タイトルは「今明かされる衝撃の真実！ 鉄人の功罪」（仮題）乞うご期待。

■ジニアス君のひとりごと

『紙プロ』の評判が良くない。非常によろしくない。アメリカ人に『紙プロ』を見せたのだが評判が実によろしくない。みんながみんな言うのだ。「読めない！」

○今回紹介したのは『ジニアス君のアメリカ日記』のほんの一部。（毎週送るぞ！）と意気込んでいるジニアス君だけに、今後も『ジニアス君のアメリカ日記』は忘れた頃に送られてくることだろう。悲しき天才は忘れた頃にやってくるのだ。そこで提案！ 内容は保証付き！『ジニアス君のアメリカ日記』を掲載してくれる媒体を大募集！ どんなことにも賛否両論はあるが、「プロレスラーが日記を公開すること」の是非ほど、この業界を二分するテーマは他にない。避けて通った方が賢明なケモノ道。しかし多大なリスクを承知で挑んでいく〝ジニアス君〟に「カラスの勝手」と知らんぷりを決め込むのもちっと寂しい。掲載希望者からのお電話待ってます。

○はチョロ　★はジニアス君が書いたものです。

紙のプロレス RADICAL

1998 no.14

みなさまのおかげで
『RADICAL』は創刊２周年！
そして、もうすぐお正月！
おめでた続きで、行きますかぁぁ！

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

●NO.14 MAIN-EVENT

アレクサンダー・カレリン
これが“人類最強の男”の正体だ!! 1

池田美憂・山本聖子vs父・親子ゲンカ!?　対談
MIYU IKEDA/SEIKO YAMAMOTO&DADDY
太田章、勇利アルバチャコフ、アレクサンダー大塚、他
AKIRA OTA/IOURI ARBATCHAKOV/ALEXANDER OTSUKA/etc.

ファイター・前田日明、最後の大航海!!
RINGS
前田日明総帥 AKIRA MAEDA 10

● SPECIAL EVENT

好きに描いて、好きに感じる大総括
世界征服への第一歩完了！
バトラーツ11・23両国大会 20

RADICAL版　ゆく年くる年'98～'99
『マット界へ愛をこめて』
編集部座談会 34

● SEMI-FINAL

RINGS JAPAN
快進撃男の強さに迫る!
金原弘光 26
HIROMITSU KANEHARA

SPWF
舌好調!
マット界、目ぇつぶって30秒!
谷津嘉章 54
YOSHIAKI YATSU

BATTLARTS
ミスター・レフェリング
再び登場!
島田裕二 78
YUJI SHIMADA

MEBIUS
幻のSを再考察
『S～多重トンパチ』
折原昌夫 89
MASAO ORIHARA

ブレイク寸前!　要チェック!
DDTが止まらない 49
DDT

RINGS
格闘王から相談王へ
前田日明の人生相談
堂々復活
『人生は語らず』 73
AKIRA MAEDA
JINSEIWA KATARAZU

●髙田道場1999

マット界のマイトガイ・
髙田道場勢総登場！

ノブと話した
「ヒクソン」「プロレス」
「バーリ・トゥード」「マット界」
髙田延彦 58
NOBUHIKO TAKADA

和志クンと話した
「ファッション」「プロレス」
「バーリ・トゥード」「マット界」
桜庭和志 64
KAZUSHI SAKURABA

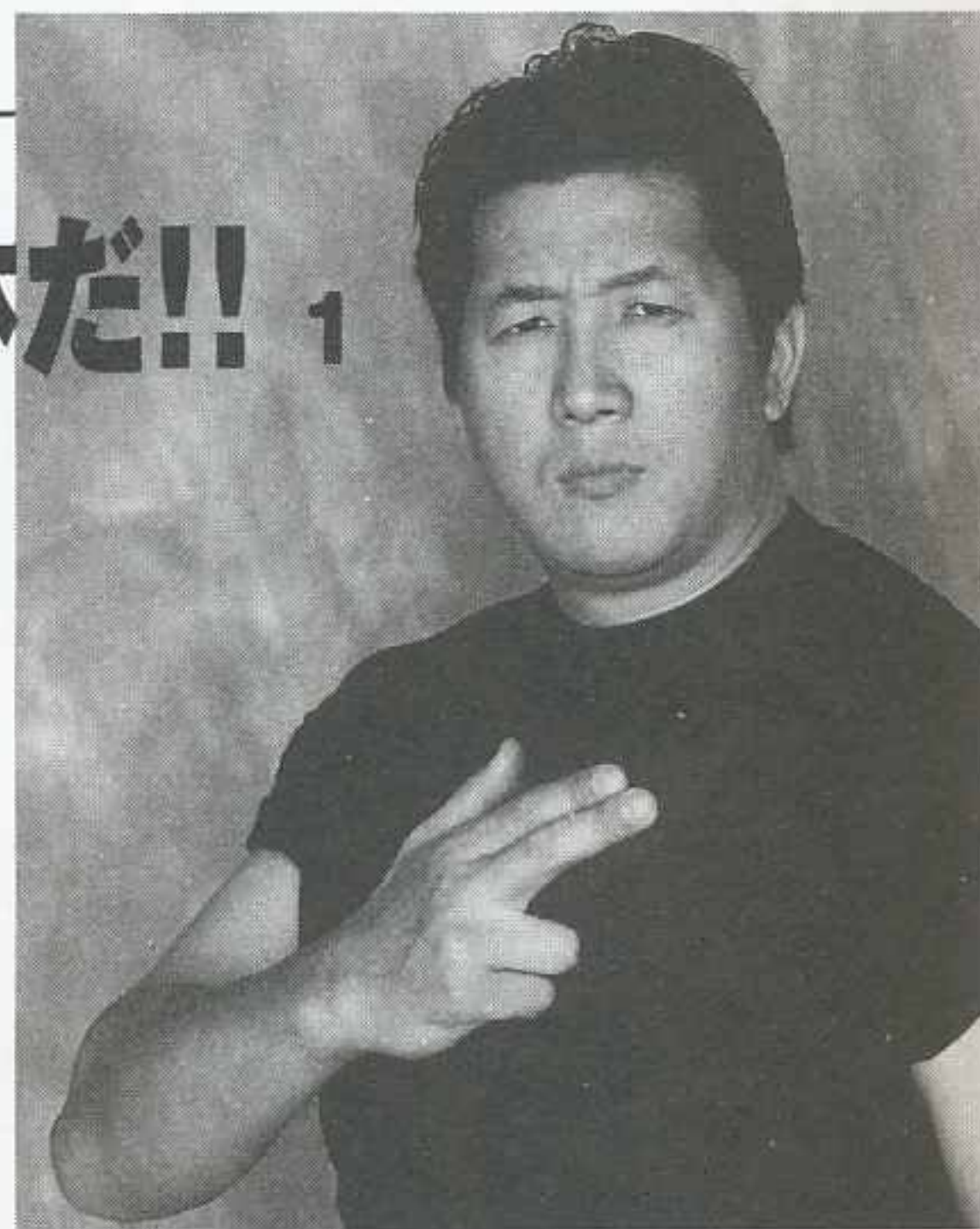
ザ・プロレスラーが語る
これからの標的
佐野友飛 68
YUHI SANO

「炎の男」が大炎上！
松井駿介 70
SHUNSUKE MATSUI

髙田道場の斬り込み隊長
豊永稔 72
MINORU TOYONAGA

●祝・30周年記念企画

全女・脱走伝説 81

愛嬌は最強！　全女が誇る変態アイドル初登場！
脇澤美穂 84
MIHO WAKIZAWA

●虎の尾を踏む男たち'99

A³-GYM
ブラジルを倒したMr.PRIDE
小路晃 122
AKIRA SYOJI

MICHINOKU PRO WRESTRING
４代目、吠える！
4代目
タイガーマスク 128
4TH TIGER MASK

UFOに乗った若き館長
村上一成 134
KAZUNARI MURAKAMI

WAJUTSU KEISYUKAI
憎さあまって可愛さ100倍
宇野薫 138
KAORU UNO

● RADICAL FIGHT

RADICAL名物・だって観戦記なんだもん！
『RADICAL BOUT REVIEW』――97
チョロ&ジニアス君入魂！　マット界トピックス
『ちょうの出来事&ジニアス君日記』――32
大好評！　読者を大切にする『紙プロ』の
『青空プロレス道場』リポート――46
物販クイーン・ジャイ子の
『ジャイジャイ日記』――88

● SPECIAL NOVELS

格闘プロレス小説第13回　**無比人**　真樹日佐夫　104

● COLUMNS

マット外からマット界を撃つページ『プロレス狂の詩』
花くまゆうさく／椎名基樹／せきしろ／中田潤――113
読者勝ち抜き作文ページ『PRIDE.0』――116
祝殿堂入り！　武田いづみちゃん勝ち抜き記念ページ　44
必読！　石川雄規の『闘いの美術館』――102
毒々！　吉田文豪人生劇場『書評の星座PART２』――100

● ANOTHER

ドクシャ、元気！『ハガキ道場』――108
メリークリスマス！　超巨大読者プレゼント――142

『RADICAL MYSTERY TOUR』と『ENTERTAINMENT WRSTRING VIDEO』は、健忘症の担当者が、ページをつくり忘れたため、今回は休載いたします。次号に乞うご期待！押忍! 押忍!! 押忍!!!

※ピンポンパンポーン。T印刷の大杉様、T印刷の大杉様。今月はお土産ナシですか?　それなら酔っぱらって若いギャルにイタズラしたことバラしますよ!　ピンポンパンポーン。

読者のイラストを勝手にポスターにするコーナー
山口県・シャドウ乗り君（17）の作品
モデルUFO総帥・アントン（多分）

RADICAL特製
★ポートレート★
バトラーツ両国大会大成功記念
サウスポー&ボブ・バックランド&池田大輔

Art Director
出田さん●San Ideta
Design／two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル／前田日明
撮影／斉藤ユーリ
スタイリング／Akira Maeda
ヘア&メイク／Akira Maeda

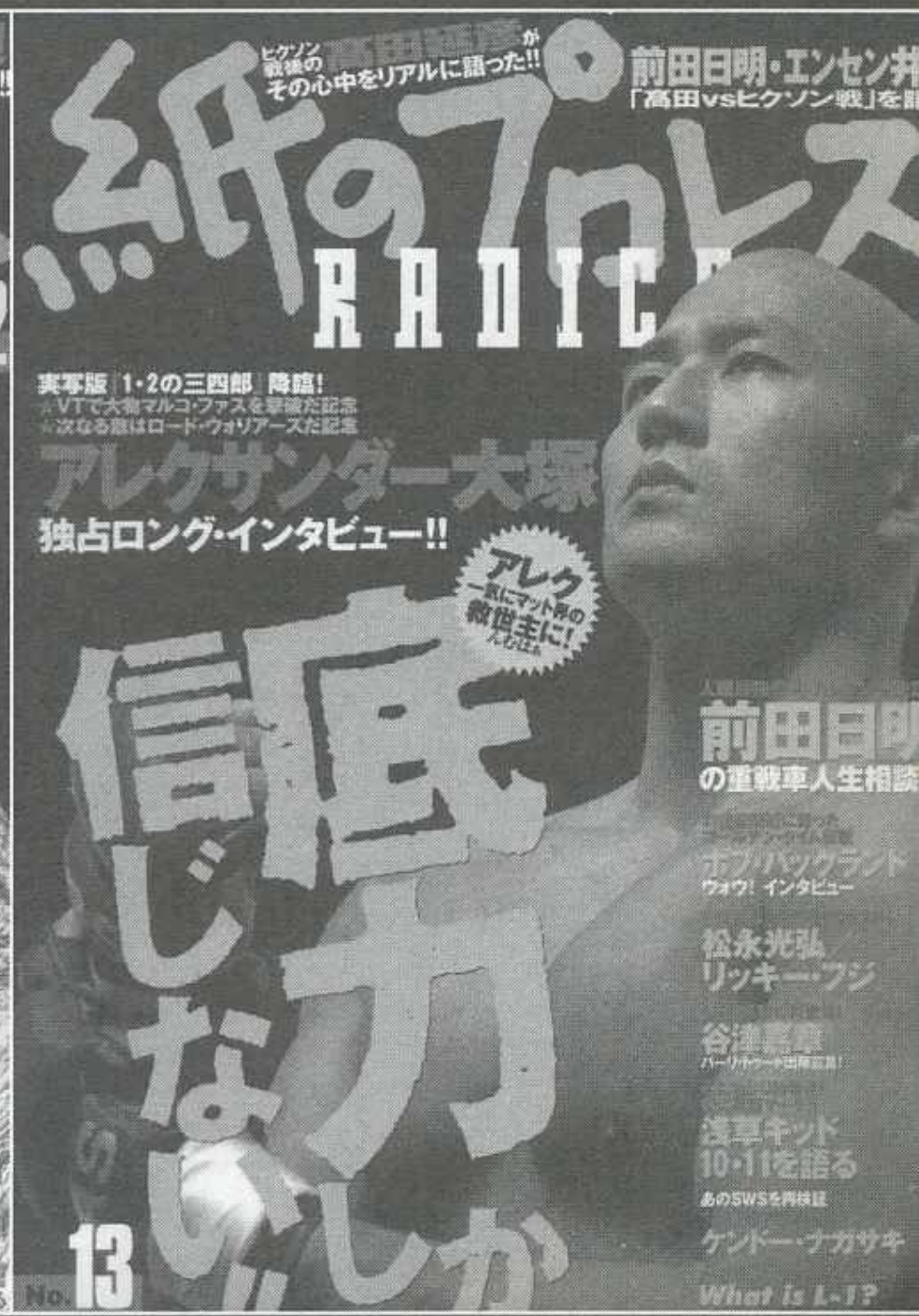
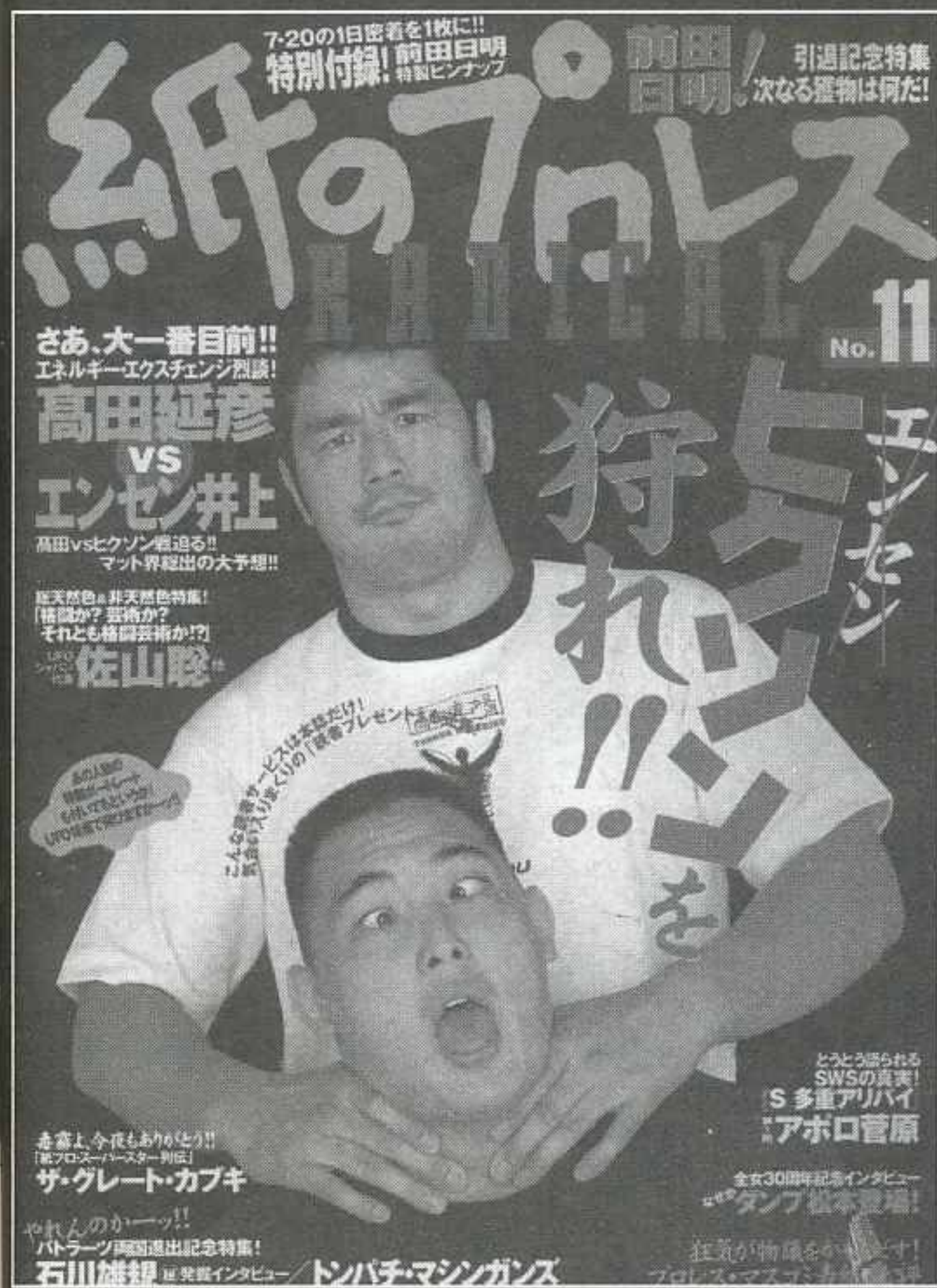
※「RADICALとは何か?」なに?　アレ。ヒト?あ、RADICALね。「根源的」、「根本的」って意味やねん、わかった?　ね!(小さいガッツポーズ)

※'98年をいろどった武骨な顔した本誌の表紙たち

RADICAL版　ゆく年くる年'98—'99座談会

マット界へ愛をこめて

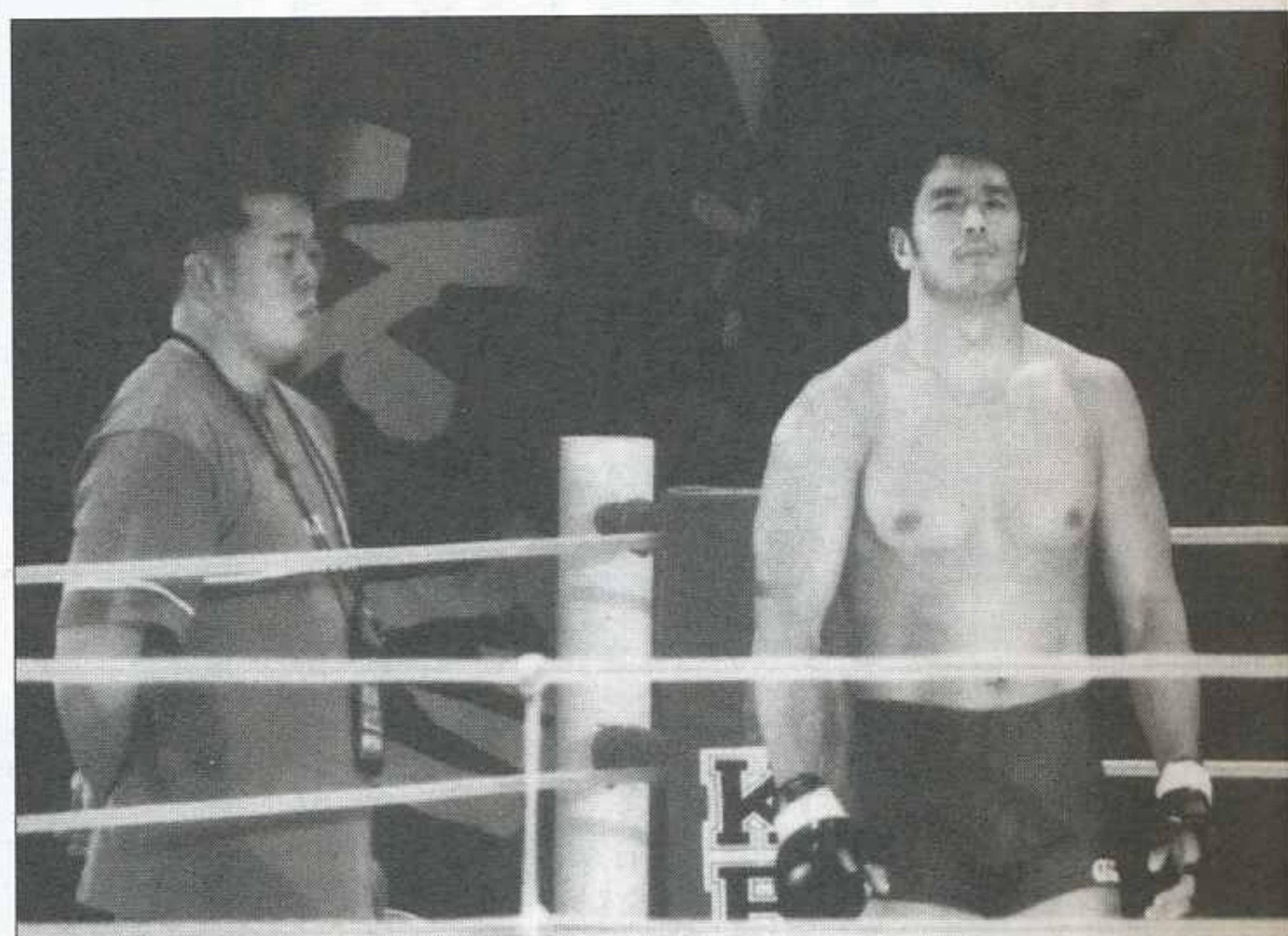
全国1200万人の『紙プロ』ファンの皆様、ごきげんいかがでしょうか？　マット界の総合誌『紙のプロレスRADICAL』が、今年1年を振り返ります。マット界が怒涛の勢いで流れていく中、本誌は今年1年を通じて「プロレス界」と「格闘技界」を隔てる見えない壁をブチ壊し続けてきました。さあ、これを読んで今年がいかに素晴らしい1年であったかを振り返りましょう!! でも、明日になったら忘れちゃうんだろうな。

参加者／山口日昇、吉田豪、坂井ノブ、松澤チョロ、中村カタブツ君、ジャイ子

RADICAL 座談会
マット界へ愛をこめて

今年の高田は今までからは考えられない。裸で大地を走ってくれたね(山口)

ノブ 今回、司会をやらせて頂きます。よろしくお願いします。
山口 1回失敗してるんだよね、この座談会。ノブの司会のせいで。
豪 今日こそは有意義な座談会になるはずだよね?
ノブ まかしてください! 今日は3つのテーマを用意してきました。
一同 オオーッ。
ノブ 『プロレス衰退』、『プロレス回復』『プロレス絶頂計画』の3本柱です。どうですか?
山口 なんでもいいから、さっさとやれよ(笑)。

◎プロレスの衰退

ノブ まず、『プロレス衰退』を話しましょう。まず、去年(97年)の10・11の高田の負けを今年のプロレス界は引きずってるわけですよね。
豪 まあ、大仁田(厚)が「ダメージがあった」とは言ってたね。それから、FMWはダメージを受けないエンターテイメント方面に流れていった、と。
山口 爆破やってりゃダメージ受けるよ。傷だらけだもん(笑)。
豪 高田(延彦)が怒りそうですよね。「オレの中で抹殺」って(笑)。
ノブ 今年はプロレス業界のどこに行っても「不景気、不景気」って言われてますけどね。
豪 『紙プロ』は昔からずっと不景気なんだけどね。
ブチ オレも腹減ってるし(笑)。
ノブ 「衰退」ってひとくちに言っても、衰えたのは観客動員だけじゃないと思うんですよ。
豪 ノブの能力も衰えたし(笑)。
山口 よりによって一番衰えちゃいけない奴が衰えたよね(笑)。体重も増えたし。な、能なしデブ。
ノブ 失礼な。高田ノブ兄さんも今年は「負け太り」なんて言われてましたよ。
山口 ターザン山本が言ってたね。
豪 日明兄さんは勝ち太りですかね。
山口 ノーコメント(笑)。
豪 じゃあ辞め太りっていうか。
山口 まぁ、あと一戦あるからね。ベストシェイプできてくれるでしょう。
ノブ それに今年の高田はいろんなことを告白してくれましたしね。
山口 今までの高田からは考えられない。裸のまま大地を走ってくれたね。来年はどうなのかなぁ。
豪 「お化け(馬場)」バッシングでボクの中で、高田とユセフ・トルコが一本の線でつながりましたよ(笑)。でも、高田はこれからが辛いわけですよね。ついでに言えばウチのノブもこれからが辛い。2人のノブがこれから辛いわけよ、致命的な負けによって。
ノブ ボクも今年は思いきり高田にシンクロしましたね。
豪 高田は数年前に「近い将来引退します」と言って引退しなかったわけだけど、今年は猪木たちが引退していった。みんな何度も引退を匂わせる発言をして、伏線は張ってたでしょ。長州なんて何回も噂になったよね。猪木さんは自分からは言ってないけど。
山口 猪木さんはもう「気持ちの中ではとっくに引退してた」って言ってたもんね。まわりがカウントダウンを重ねていったというか。
豪 長州の場合は、G1のたびに引退だなんだと匂わせたりしてたから、ある意味では引退で商売した大仁田と同じことしてきたわけだよね。
山口 その長州と大仁田がリンクするっていうのも……ね?
豪 すべてつながってきますよね。
山口 寂しいオカマ現象というか(笑)。なんてこと言わすんだよ!
ノブ それ前田の言葉ですよね。その前田も引退ですね。最後のカレリン戦がありますけど。
山口 あとはカブキも引退したね。
チョロ 北尾(光覇)と石川(孝志)なんて、突然、何の前ぶれもなく引退しましたよね。
山口 石川はもう復帰しちゃったね。
ジャイ子 あとジャガー。
豪 まだだよ!
ジャイ子 あとキューティー。
豪 まだだっつってんだろ! 巨人!
ジャイ子 ムォ～! 今年は今年でしよぉ!
山口 ジャイジャイと(笑)。まあ、今年は一時代を築いた人たちが、次々と辞めていった年だということだよね。考えてみれば、猪木、長州、前田が引退するってスゴい年だよね。
ノブ 会長(山口日昇のアダ名)もそろそろ引退したらどうですか?
山口 したいよ、したい。とっとと引退したいね。
豪 引退で商売しなきゃダメですよ。普段から「売れなかったら引退!」って言い張ってみたりとか(笑)。
ノブ 山口日昇引退号でもつくりましょうか。
山口 カウントダウンしていこうか。
一同 うんうん。
山口 なんで「うんうん」なんだよ! お前ら!
豪 すぐ復帰すりゃいいんですよ。どうせ1号ぐらい休めばいいだけでしょ。
ノブ いま、長州も復帰だなんだって言われてますけどね。
豪 復帰は1回なら許されるのかな? 長州は引退を発表した時点から伏線張ってるわけでしょ。「会社がピンチになったら出るよ」って。だから復帰しても嘘はついてないんだよね。
山口 でも、長州と大仁田の絡みは、昔のプロレスっぽくて面白いよね。昔のプロレスって、政治的な背景まで含

97年10月11日、今年はここから始まった! ってなんか何か変だな? しかし、高田が一歩踏み出したことによって、今年のプロレス界の流れは大きく変わったのである!!

本誌編集長 山口日昇 選定

MVP'98
(モースト・バイアグラ・プレーヤー)

石川雄規

今年の「プロレス大賞」を選べといわれたら文句なくアレクを選出するが、そんな権威は私にはないので、個人的にMVP(モースト・バイアグラ・プレイヤー)を差し上げたい。この賞は、今年一番勃起させてくれたプロレスラーを選ぶものではなく、今年"きょこん"ぶりを発揮した人、つまり"プロレスの巨魂"に贈りたい。

そうなると、石川雄規しかいない。

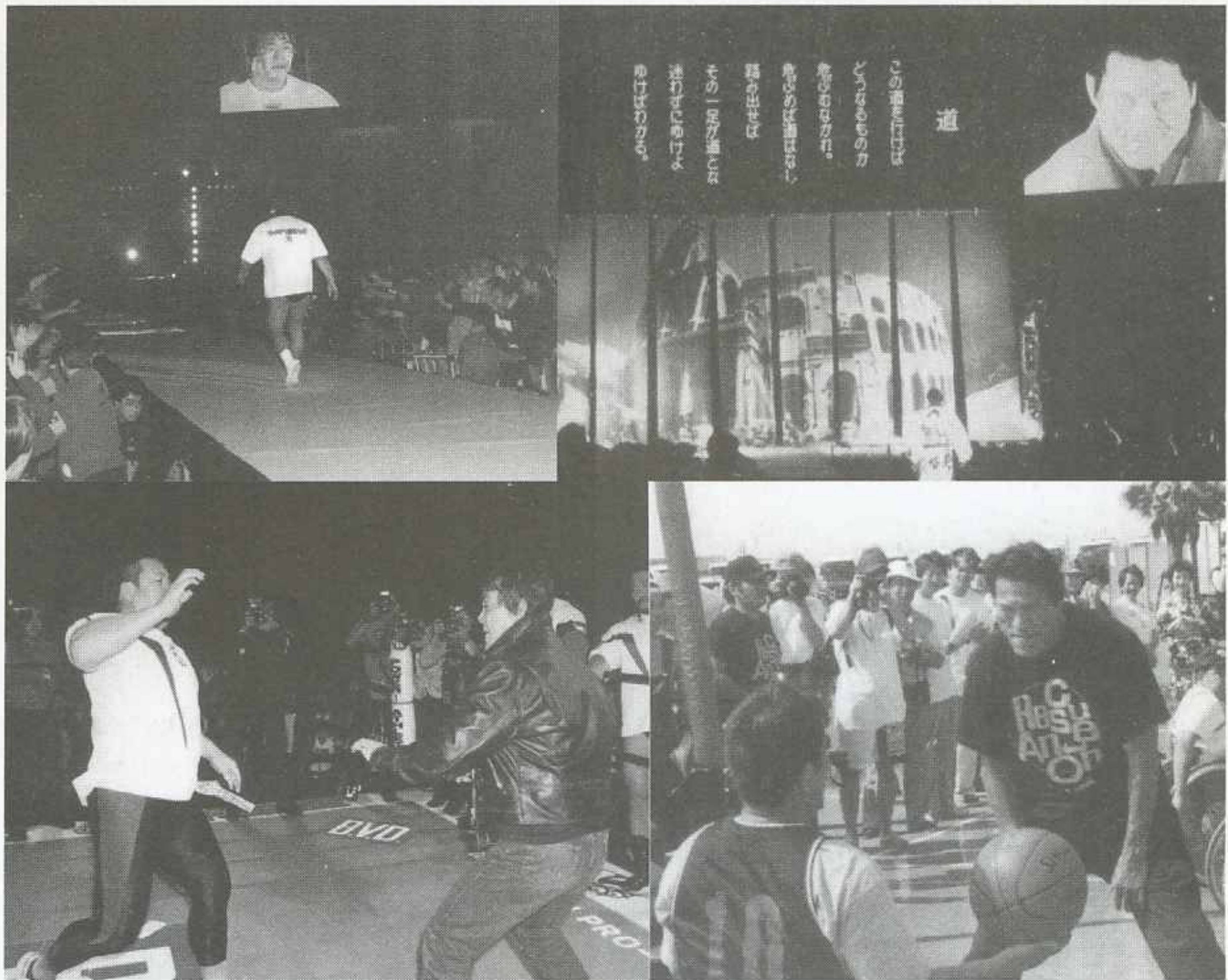
やはり、"芯を守るためにはいくらでもフニャフニャ曲がる"というコロンブスの卵的な発想で、バトラーツという素敵な変態集団をブレイクさせた情念は素晴らしい。アレクの勝利を呼び込んだのも、両国成功も、プロレスに対していつも勃起している石川雄規の"巨魂"ぶりが功を奏した結果だと思うからだ。

アレクはね見えにくいけど『度を超えてる』んだよ（山口）

んで楽しんでたでしょ？
ノブ　リング上から綱引きが見えるということですね。
山口　そうそう、水面下での綱引きも見えるしね。いろいろ想像もできる。
豪　いま新日の一部の選手は大仁田参戦に本気で怒ってるからね。
ノブ　ここ最近、水面下の綱引きを楽しむようなプロレスはなかったですからね。
山口　それも揺り戻しじゃないの？やっぱり、あまりにも今のリング上とかリング下が平板すぎるから、刺激が欲しいという尻馬に乗って、こういうのが出てきたんじゃないですか？
豪　新日では、誠心会館勢が乗り込んだのが最後ぐらいだよね。
山口　ＵＷＦが新日本に乗り込んで来たときなんてすごかったもんなぁ。
豪　しかし、誠心会館が乗り込んできただけで、なんであんなに刺激になったのかも不思議なムーブメントだったよね（笑）。オレも見てて熱くなったし。単純に面白かったでしょ。発端が本当にただのイザコザだったからだろうけど。
山口　浅草キッドも言ってるじゃない。「抗争劇は人の心に引っかかるもんだ」っていうようなことを。
豪　それが面白いんですよ。それを格闘技も取り込むべきなんですよね。
山口　抗争劇がないよね。高田vsヒクソン戦なんかは、そういう意味ではいい抗争劇だった。２連敗によって薄れちゃったけどね。

ノブ　いまは長州vs大仁田っていう引退した２人の抗争劇がマスコミの話題の中心ですよね。
山口　猪木、長州、前田の引退って、考えてみれば、やっぱり『度を超えた人たち』がいなくなったってことだよね。度を超えた人たちがいっぺんに辞めたわけでしょ。それでいま、トップスターと言われてる人たちとか、スターになりかけの人たちは、オレとか豪ちゃんから見ると、そこはかとなく食い足りないんだよね。
豪　だから、猪木が辞めて馬場が残った、長州が辞めて藤波が残った、前田が辞めて高田が残った、という見方すると非常にわかりやすいですよね。いわば保守と革新というか。
山口　高田はやってることは革新的なんだけどね。でもさ、度を超えた人たちがはじかれる時代なのか、逆にスマートな人たちじゃなきゃダメな時代なのか、そのへんがよくわかんないんだよね。
豪　度を超えた人たちが「プロレスいち辞～めた」で、違うところに行っちゃっただけって感じがしますよね。
ノブ　海とか、ＵＦＯとか（笑）。
豪　会社を動かす側に入るとかね。今のマット界は選手としてやってると、もの足りないんじゃないの？

◎プロレスの回復

ノブ　プロレスを回復させるのは、そういう『度を超えた人』ですよね。
山口　アレクは度を超えてるね。気がつきにくいけど。普段はすごくおとなしくて優しそうで普通のアンちゃんじゃない。バトラーツの他のレスラーもそうなんだけど、アレクはね、見えにくいけど、すごく度を超えた人だよ。
ノブ　どこらへんですか？
山口　格闘技側からしてみれば、バーリ・トゥードの前にリング設営をするっていうこと自体、まず度を超えてるよね。それから、バーリ・トゥード初戦で、マルコ・ファスっていう大物に勝っちゃうことも度を超えてる。バトラーツ自体も、２００人ぐらいの観客の前でやってきて、いきなり両国大会を成功させちゃう。バトラーツは強引なまでの「度の超え方」じゃないんだけど、よくよく考えてみると、度を超えたことやってるんだよね。
豪　アレク個人というよりは、そんなアレクにリング設営をさせてるバトラーツが度を超えてるってことですよね。
山口　そうそう。その度を超えた匂いがかすかにするところにオレは引っ掛かってたんだよ。猪木とか前田とか長州とか、まがまがしいほどの迫力は伝わってこないけども、新しい時代の「度の超え方」っていういう気はするんだよね。バトラーツも団体とは名乗ってるけども、プロレスも格闘技も関係なく、ほとんどの他団体に出ていったり、他流派に出ていったり、プロダクション制度の先駆けみたいなこともやってるわけでしょ。それも今までのプロレス団体と比較してみると、よくよく考えたら度を超えてるよね。これだけいろんな団体に出てるとこないでしょ？
豪　インディーでも、選手の貸し借り自体はよくあるでしょ。でもバトラーツはちゃんといろんな収穫を持ってくる貪欲さがあるわけですよね。
ノブ　全日に出てた大ちゃんが２ヵ月後にＦＭＷに出たりとか。
山口　それも業界の常識から考えたら度を超えてるんだよね。でもさ、時代が変わってもファンが求めてるものは、度を超えてるものだという気がするね。もっとバトラーツには、調子に乗って、ガンガン度を超えて欲しいよ。
チョロ　島田さんは「国立競技場でやる」って言ってましたけどね（笑）。
山口　バカか、あの男は（笑）。そこまでいくと、度を超えたとい

1月4日、長州力は5人掛けマッチ（vs藤田、吉江、高岩、飯塚、ライガー）で引退。しかし、11月18日には大仁田相手にド迫力の乱闘を展開、マスコミ各誌は一斉に長州復帰の可能性を追った。一方、4月4日のvsドン・フライ戦で引退した猪木は、7月18日のイベントで餅をついたり、バスケットに挑戦したりと大ハッスル。そこではリング上で素人をリングに上げてスパーリングを披露している

本誌 吉田豪選定
ベスト興行'98

7月18日
千葉・金田海岸／猪木イベント
10時間にわたる内容のないイベントだったが、猪木は最高！

うよりも、ノータリンだね（笑）。

チョロ 台風の日にやるそうです。

ブチ 台風なら使用料安いだろって（笑）。

山口 そういう、食っていくためのまがまがしさも度を超えてるよね。U系の選手に「リング設営しろ」「グッズ販売やれ」とか言っても、普通はできないよ。選手なら。そういう部分でも、バトラーツという生命体には度を超えたものを感じるなぁ。豪ちゃんがなんかの原稿に書いてたけどさ、昭和の芸能人。勝新太郎とか、横山やすしとか、あの人たちって度を超えた迫力を持ってるよね。その人のナマの力を突き刺してもらうと気持ちいいっていうかさ。猪木も前田も長州もそうだったんだよね。でも今、それに値する人がいないじゃない。

豪 要するに一般常識や法律を当てはめちゃいけないような人ですよね。

山口 そうそう、そういう人たちに惹かれるんだけど、キミら若い世代はどうなの？

チョロ エンセン（井上）はいいッスよね。あと郷野！

山口 エンセンも久しぶりに出てきた度を超えた人だね（笑）。

豪 常識とか法律当てはめたら、大変なことになるタイプだし（笑）。

山口 何回捕まるかわかんないよ（笑）デブはどうなの？ あ、ノブか。

ノブ 見たい……ですねぇ。

山口 なんだよ、お前は！ 4代目タイガー（・マスク）が「ボクは欲がないんですよ」とか言ってたらしいじゃん。今の選手は欲がないのかね。隠してるだけ？

豪 どうせ、そこそこの意欲だったら、もっと下を目指せばいいのにね。「常にヨネ原人と第一試合でやりたいです」とか（笑）。そういう潔さが欲しいよね。本田多聞が「早くファミリー軍団と毎日闘えるようになりたい」とか言い切ってみるような。

山口 藤原（喜明）組長もそうだったよね、「下には下があるということを見せてやる」ってさ、下へ下へと行って存在感を示したわけでしょ。

ノブ 菊田（早苗）が下に向かってるんじゃないですか？

山口 菊田はどうすんの？ プロとしてやってくの？ 強いんだから性根据えてやってほしいけどね、ゼヒ。大きなお世話？

ブチ シューティングも、あんな試合ばっかりやってたら呼ばなくなるよ。

チョロ それでも客の反応はよかったですからね。

豪 アレクはマルコ戦の勝利で、普通だったらグーンと上がるところじゃないですか。でもバトラーツは団体として、アレクのウォリアーズ戦の敗戦も含め一丸となって下がる方向へと向かいましたよね。これって凄いことですよね。

山口 来年もまた2～300人の中でやっていくわけだからね。そのギャップが刺激になる。ふだんそういう底力をつける方向に足が向いてるから、ギャンブル打つと楽しいんだろうね。

ノブ いまはみんな、ギャンブルしないですもんね。

山口 というより今の選手はストレートな赤裸々さがないよね。時代なのかなぁ？

豪 でも会長の中で、それを嘆いてもしょうがないって考えはあるわけですよね。だから、そういう人たちの面白さを探す、それが桜庭（和志）とかですよね。

山口 そう。桜庭、高阪（剛）、アレクにはビンビン感じるものがあるんだけど、でも猪木、長州、前田の持ってるドギツサと比べちゃうと……。

豪 まあ、種類がちがうんですよね。

山口 人としてのジャンルが違うって気がするんだよ、なんか。そういうのはマット界に限ったことじゃないと思うんだけどね。昔の幻影ばっかり追ってもしょうがないし、さあ困ったっていう部分はあるんだけどね。

豪 幻影を追いつつ、新しい魅力をいかに伝えるか、っていうことを『紙プロ』はやってるわけですよね。

ノブ 今年は、初登場の人を表紙にしましたよね。そういう意味で、猪木、長州、前田みたいな絶頂な人を探していかなきゃいけないわけじゃないですか。

山口 探す必要はないと思うんだよね。度を超えたものっていうのは、必ず向こうから飛び込んでくるもんだと思うから。

豪 考えてみれば、『週プロ』が表紙にしない人をウチで表紙にしちゃったんですよね。

ブチ 向こうは毎週出てるのにねぇ。

山口 だから、結局専門誌も、長州、大仁田とかに頼らざるを得ない。それはわかるよ。

豪 そして、若い世代がまた怒る。

山口 スポーツ新聞もそうだよね。話題になるのは猪木であり、長州であり、大仁田であり、前田であり。それで若い選手たちがやるせなくなるっていうのもわかるんだけど、そこを一歩突き抜けて欲しいよね。

ノブ （唐突に）きっと上の世代が死ねばいいんですよ！

山口 なんだよ、お前は唐突に！ お前が死ね！

豪 失礼な男だなぁ（笑）。

山口 なんでレスラーを殺すんだよ！

豪 しかも、いま指差してたの、長州の写真でしたよ（笑）。

山口 ヒドい男だなぁ、天下の長州力に向かって（笑）。

ノブ いや、力道山が死んだから、猪木&馬場にすんなり世代交代できたんですよ。言葉のアヤです。

山口 じゃあ、死ねばいいレスラーをリストアップしてみろよ！ 誰？

ノブ ちょっとボクの口からは……。

一同 ガハハハ。

ノブ ボクが言いたいのは、それぐらい……どこかに消えちゃうぐらいのことしないと、ガラッと変わるのは難し

7月20日リングス・ラストマッチに臨んだ日明兄さん。山本宜久相手に20分間闘い抜き、判定勝ち。その前日には北尾光覇がキャプチャーのリング（マット？）でラストマッチをひっそりと行った

本誌 坂井ノブ選定

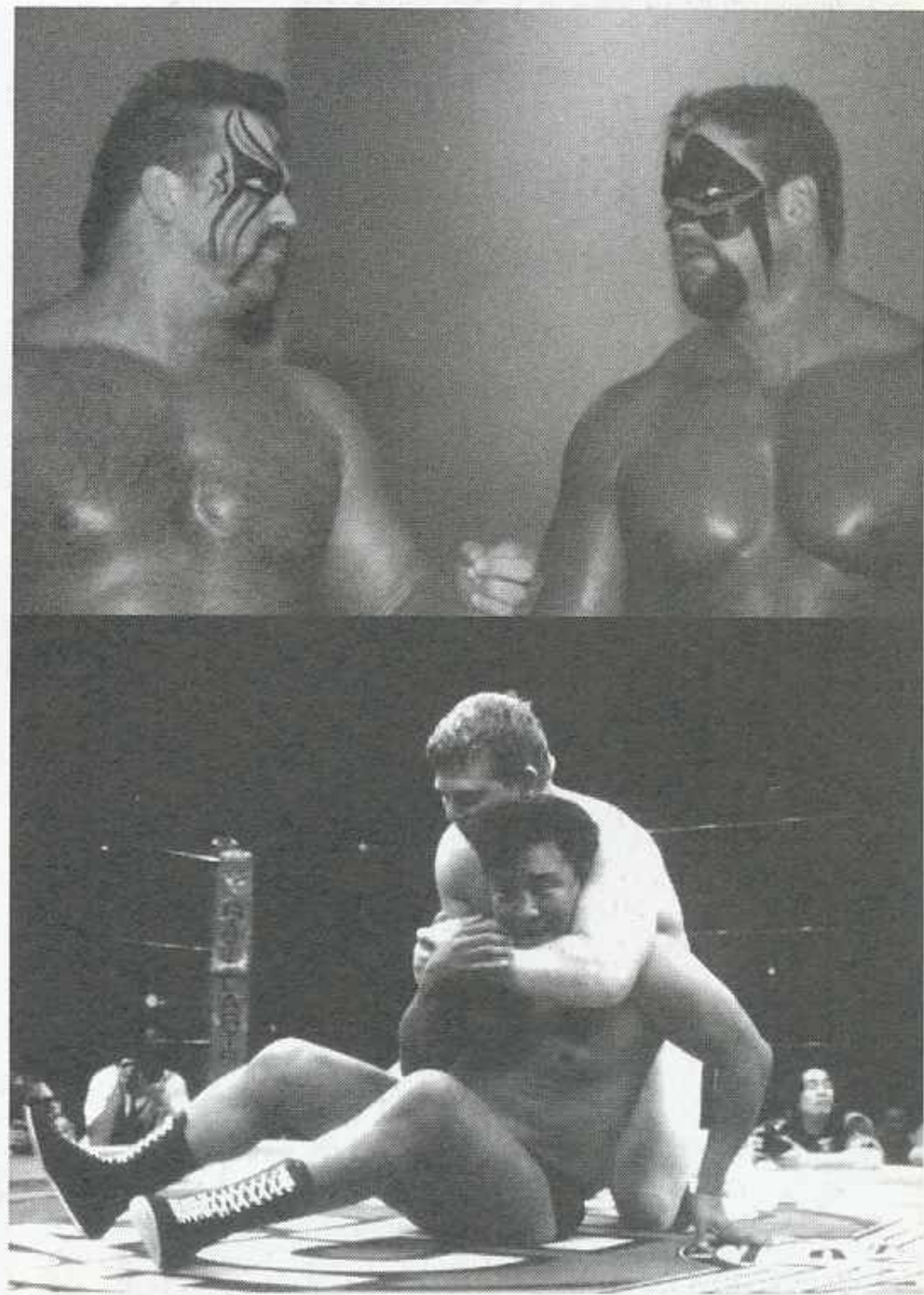
最優秀女子レスラー'98

高橋奈苗

“貧乏会社の若手”という似たような状況に身を置くボクとしては、多忙、貧乏、重労働をプロレスの肥やしにして輝いた全女の若手のたくましさをリスペクトします。その中でも、年間を通じて貧乏に負けずにかなりの勢いで太った高橋奈苗を表彰します。その恰幅の良さを活かしきった闘い方は、今年「デブ」1年生となったばかりのボクに夢と勇気と希望を与えてくれた人生の教科書のようなものです。

でも、そこでノートと鉛筆を忘れてしまうのがボクのスタイル。要するに物忘れが激しいんです。ね？

いってことですよ。個人的には消えてほしいレスラーなんかひとりもいないですから。
豪 普通に考えれば、引退試合で負けることが世代交代になるわけですよね。ところが猪木はアルティメット王者に勝ち、前田もああいう勝ち方をして、長州は5人掛けっていうエキジビション的なやり方で、しかも4試合勝っちゃったと。みんな勝ち逃げしてるんですから、普通に考えれば世代交代なんかできるわけないでしょ。
山口 だから、勝ち逃げするぐらいの精神力というか、ずるさというか、図太さが今の世代の選手にはないよね。
ノブ たぶん、下の選手たちは「しょうがねえじゃん」ってボヤいてると思うんですよ。
山口 なんでボヤいてばっかなのかがよくわかんないんだよなあ。
豪 いや、ボヤくのはわかるんですよ。それを今度はどうするかですよね。
ノブ ボヤくと親方がカチ喰らわすんでしょうからね。
山口 蹴散らしゃいいじゃん。
豪 蝶野（正洋）ホントに頑張ってますね。
山口 お前も早くオレを蹴散らせ！　オレを引退に追い込んでくれ！
ノブ 消えりゃいいんですよ！
一同 ガハハハ。
山口 お前、出てけ！
ブチ 他の選手は、上の人間が去っていくことだけを待ってる状態？
豪 でも、去ったと思ったら戻って来ちゃったりするわけでしょ。そういうせめぎ合いが面白いわけじゃん。
山口 サスケ（現・SASUKE）のところもそうだしね。ある意味では。サスケは年齢若いけども。それはね、そこを作った人たちなんだから、出ていくのをただ待ってたって、出ていかないよ。普通に考えたって。
ノブ 逆に、若い方が出ていくしかないですよね。
山口 だけど、「新日本プロレスの中で、飛び出さずに改革していく」って蝶野がよく言うでしょ。最近の選手は飛び出していくことっていうか、リスクを背負うことの危険さをよくわかってるんだよね。
豪 三沢（光晴）も蝶野も内部革命派ですよね。
ノブ 今年は一歩踏み出した人がいなかったということですよね。
山口 バトラーツが団体として、一歩踏み出したよね。総合力で。
ノブ スーパースターは出てこないんですかね？
山口 なに言ってんだよ、お前は！　お前と話してるとケツの穴が痛くなってくるよ。
豪 そんなこと会長が知ってるわけないじゃないかよ（笑）。バカ！　でも、スーパースター候補をしいて挙げれば『タモリ倶楽部』で大人を相手にガンガン極めまくった高田道場の中学生ですかね。
山口 すごい素質を持ってるらしいね。
豪 ただ、それもプロレスラーじゃないでしょ。どこまでプロレスラーとしてみればいいのかっていうのはないですか？　桜庭とかはプロレスラーなのか？　まあ、新日本に1回でも出てればプロレスラーって気はしますよね。
ブチ じゃあ、高阪はどうなるんですか？　プロレスラー色が薄い気がするんですよ。
山口 オレの中ではプロレスラーだね。そう思いたい。
豪 その線引きって、すごい気になるんだよね。
ノブ エンセンはどうですか？
山口 エンセンはオレの中では、バッグンにプロレスラーだね。
豪 ジャンルは格闘技だけど、人としてはプロレスラーだね。逆に、高阪の方が格闘家的な考え方してるよね。
チョロ 慧舟會勢はみんなプロレスラーって感じですよ、オレの中では。
豪 みんな誠軍団なんだ（笑）。
山口 どこからどこまで線引きするのかって言われると困っちゃうんだけど、桜庭がいいこと言ってんだよ。今やってるのがバーリ・トゥードでしょ。新日本プロレスの東京ドーム（95・10・9）で金原（弘光）と組んで、石沢（常光・現ケンドー・カ・シン）＆永田（裕志）とやったときはプロレスでしょ。で、それはどういう線引きなのかって聞いたら「点線です」って言うんだよね。点線だから隙間がある。その隙間を縫って行き来できる。プロレスとK－1の場合は長い点線。長い棒

「本誌」としてMVPを選定するとしたら、アレクは間違いなく当確するだろう。今年のアレクの闘いにはそれだけ幅と奥行きがあったからだ。パーマンとして、プロレスラーとして、そしてミックスド・タッグの鬼としてプロレスラーの鏡といえる大活躍をやってのけたアレクに心から乾杯!!

「できんのかーっ!!」と陰では言われ続けたバトラーツの両国大会は大成功を収めた。昭和のプロレスを知らない世代にまで、その凄味を届けたのは石川雄規の情念の深さのなせるわざに他ならない

本誌 松澤チョロ選定
ニューウェーブレスラー賞'98

谷津嘉章

今日は評論家としていうんだけどな、評論家としては、キャプチャーの地下室マッチが良かったな。ヘタな格闘技見るより全然迫力もあるしなっ！　アレはくるわなッ！　地下室見てるか？　あとはやっぱり宇宙パワーだな。宇宙人が試合やるなんて夢があるじゃんよぉ。滅多に負けないもんな。アイツは強いな。でもよぉ宇宙人だからってＵＦＯに乗るのは違うと思うぞ！　やるんだったらバーンと総合の方に出ててもらいたいよな。それとアジアン・クーガー、アレはよく飛ぶな。さしずめフラインだな。飛んでるかぁ！　まあ総評するとなると、結局み〜んなＳＰに上がってた選手なんだよ。だからよぉ賞は谷津だよなぁ。ニューウェーブレスラー賞。なっ！

リングは真剣勝負 道場でマイクの練習 それがプロ格闘技の闇の部分(笑)(山口)

があって、小さい点があって、また長い棒がある点線だって。だから、隙間は普通の点線に比べると少ないわけ。だから、そうそう行ったり来たりはできない。立ち技に長けてる人しか行けない。だから、新日本もバーリ・トゥードもK―1もウチにとってみれば競技は違えど、同じマット界だよね。

豪 もともと全部一つだったと思うんですよ。古い『週プロ』とか読んでると、極真の大会の結果がカラーで出てるんですよね。「骨法がなんでプロレス雑誌に載るんだ！」って叩かれてたけど、極真までマット界に入れてたわけでしょ。いまのウチより広かったんですよ。『ゴン格』とか『格通』は、もともとプロレス込みで誌面作りしてたし。『ザ・ラリアート』とか『ザ・カラテチョップ』とかの特集をやってた。本来そうだと思うんですよね。それが、あまりに細かく分類されすぎたのがパワーダウンしてる原因だよね。

山口 格闘家がプロになったら、それは「プロレスラー」になるんじゃないの？　って思うんだけどね。

豪 プロレスラーって言い方も、別にいらないんですよね。要はプロかアマかだけなんですよね。

山口 そしてボクらは、プロを見ている、ということです。

豪 レスラーの中にもプロ意識のないヤツはいるし。プロ格闘家にも同じことが言えますよね。

山口 だから『週刊プロレス』と『格闘技通信』をムリヤリ分けちゃうからいけないんだよ。初期の『格通』は面白かったよ。それがだんだんプロレスと二極分化しちゃってさ。

豪 でも最近、格闘技雑誌はプロレスに対して不思議な感情ムキだしにした誌面づくりをしてて面白いですよね。『格通』も、彼らが「プロレスに裏切られたと思ってる人たち」っていうフィルターを通して見れば抜群に面白いんですよ！　そういうふうにマット界を全体的に見れば、面白くなってきてるとは思うんですよね。

山口 いまはプロレスと格闘技を同じフィールドで見ないとつまんないよね。『週プロ』の浜部編集長が言ってたよね。「『紙プロ』はインサイダーではなくアウトサイダーだと思う」って。

豪 浜部さんはインサイダー気取りなのに、中に入れてないんですよね（笑）。

山口 ガハハハハ、ヒドいなぁ。

豪 だって、インサイダーは『ゴング』だけじゃないですか！

山口 そういう意味ではそうか。

豪 『週プロ』ってそもそもアウトサイダーなのに、ターザン山本の辞職以降、インサイダーになろうとしてるわけですよね。でも、入りきれない。まあ、勝手気ままにアウトサイダーやってる『紙プロ』がアウトサイダー呼ばわりされるのはわかるんですけどね。

山口 でも、ウチはインサイダーとアウトサイダーの境界線をギリギリ綱渡りしてるよ。そういう意味ではスゴい緊張感あるしね。

豪 あんまり気付かれてないですけどね。「昔の『紙プロ』の方がよかった」とか言う人には気付かれてないけど。

山口 誰か評価して欲しいよね（笑）。話を戻すと、プロレスvs格闘技の対立っていったってさ、プロレスの道場で行なわれてるものっていうのは格闘技なわけでしょ。昔の新日本プロレスで行なわれてたことなんかはさ。だから、〝闇〟の部分がちゃんとあった。光があったら闇があるのが当たり前なんだから。その両方が見えないと面白くないじゃん。プロレスだけで独立して格闘技をわけると、今度は〝光〟だけになっちゃうから味気ないよね。

豪 UFOって、道場で強い人たちがショーアップされた格闘技をするという意味では新日的な団体なんだよね。

山口 でも今度は時代が違ってきてるから、エンセンみたいに「バーリ・トゥードをプロレスにするのは許せない」っていう意見も出てくるから、また複雑なんだけどね。だから、プロ格闘技から見ればプロレス的なショーアップされた部分っていうのは、逆の意味で〝闇〟の部分なんだよね。格闘技としてリングの上でせめぎあってるのに、プロとしてやっていくには道場でショーアップの部分を練習するとかさ（笑）。

豪 慧舟會はマイクの練習ね（笑）。

山口 入場とか、マイクアピールのしかたとかさ。

チョロ じゃあ、慧舟會は時代の先っちょをいってますよ。ボクが取材に行ったときはやってましたから（笑）。

山口 プロとしてやっていくんだったら、そういうことを練習してもいいと思うんだよ。リングは真剣勝負で、道場ではマイクアピールを練習する。それが、一般の人には見えないプロ格闘技の〝闇〟の部分（笑）。ダメ？

豪 UFOのやり方を格闘技団体が取り入れたら最強なんですよね。試合前に相手の道場に道場破りにいったりすれば、報道もしやすいし、見る側も盛り上がるし。そこまでやれるバイタリティーがあれば面白いんですけどね。

山口 そう！　今の時代に足りないのはバイタリティーですよ。バトラーツにはバイタリティーあるもんね。見てみ、島田（裕二）のあのバイタリティー。あれ、あそこまでバイタリティーありすぎると、アホだよ、断言しとくけど（笑）。

ノブ （唐突に）あの、面白いプロレスってなんなんですかね。

山口 へ？　キミはボクに聞きたいんだよ、このバカ！

ノブ （無視して）今、メチャメチャ面白いのはWWFなんですけどね。

山口 は？　お前、見てんの？

ノブ （無視して）強さとは別問題の

今年最初の号（ラジカル8号）に登場した村浜の発言で、様々な問題が噴出した。佐藤ルミナは数回、取材申請を出したが「プロレス雑誌には出ない」とのこと。格闘技界にもプロフェッショナルな人材はいくらでもいる

フリー 中村カタブツ君（35歳）選定

新人賞'98

高田延彦

「自分にとってはこれからがスタート」から丸1年。リスタートした高田延彦の開き直りは凄まじかった。マルコ・ファスの道場修行を『FRIDAY』に"極めまくられた"と叩かれれば編集部に乗り込み、返す刀で**馬場&大仁田**を罵り、今年の10・11ではヒクソンから小気味イイ泣きっ面を引き出したのだから非の打ち所なし。偉大なるバーリ・トゥード1年生に大きくガッツ・ポーズ！

修斗・ザ・シュート賞

エンセン井上の愛犬・修斗君

ジャイ子に熱い汁を3度もかけ、終わった後は見向きもしないオスの性をオレは是非とも見習うぜ！　押忍!!

幻想を売りにするのがプロ 強さを売りにする人も必要 だけどそれだけじゃなくてもいい（豪）

エンターテインメントですね。

ブチ　だけどエンターテインメントは強い人がやるから面白いんでしょ。

豪　デカい人とかね。

ブチ　だけど、日本のエンターテインメントプロレスって強い人に見えないわけじゃないですか。

豪　ＦＭＷの欠点がそこなんでしょ。ズバ抜けてデカいヤツとかアルティメットチャンピオンとか有名人とかが当たり前のようにリング上で闘う、そのスケール感がないんだよね。

ブチ　基本的には「やっぱり強い人なんだな」と思わせてくれないと、ショーだろうがなんだろうが安心して楽しめないと思うんですよ。

豪　強い人がやるショーアップされたものっていう意味では、いわばＵＦＯにも通じるわけですよね。ボク内では、幻想を売りにするのがプロなんで、強さを売りにする人も必要だとは思うけれど、それだけじゃなくてもいいと思いますよ。全日だって昔、幻想を売りにしてたじゃないですか。（ミスター・）ポーゴあたりでも、ちゃんとデカさとかで幻想あったわけですよね。そのへんのつくりが弱くなったっていう気はしますよね。

山口　肉体的な強さや技術だけを追い求めるんなら、アマチュアでやってた方がいいよね。

豪　強さを売りにすると、それがプロレス側の隙になるんですよね。強さを売りにしない団体はいいけれども、売りにする団体は許さないよってことになりますから、格闘技側の主張は。

山口　格闘技側といわれている人たちは強さを売りにするしか武器がないからね。

豪　強さを売りにされたら、商売仇になりますからね。

ブチ　それでプロレス側が「じゃあ、潰しますよ」ってなればいいんですけど。負けちゃうじゃないですか。

豪　高田のこと？　佐野のこと？　佐野は強さを売りにしてないはずなんですけどね。なんで強さの舞台に上がったのかが不思議ですよね。

山口　測定不可能だね（笑）。

豪　とにかくデカいとか、ダメガイジンでもいいから見た目でスゴいヤツをドンドン格闘技側が取り込んでいくべきだよね。それやったらプロレスも危なくなっていくと思うよ、ってそんな話してどうすんだ（笑）。

山口　格闘技が盛り上がってくれれば、プロレス界にも危機感が出ていいんじゃないの？

ノブ　見た目でアッと思うような人がプロレスラーでも減ってますよね。

豪　いまでも前田が服脱ぐと、ボクはアッて思いますよ。

山口　ノーコメント（笑）。

チョロ　でも、ウォリアーズを間近で見たら、全然迫力が違いましたね。

豪　ウォリアーズのどよめきは完全にそれだよね。デッカいのが、心の準備する前に走って出てきて（笑）。

山口　アッという間に終わっちゃって（笑）。あれも度を超えてるよね。いかんせん銭取ってるんだから、ナンかしらの度を超えたもの見せなきゃ客は来ないよね。そういうところはいくら時代が変わっても変わらないと思うんだけどな。

豪　力道山は小さかったんですけどね。アレは性格が度を超えてたんですかね？

山口　人として度を超えてたんでしょ（笑）。

豪　馬場さんは身長が度を超えてる。

山口　猪木さんも、人として完全に度を超えてるよね。

豪　もしくは試合が度を超えてる。

山口　なんでもいいから、度を超えたものを見たいよね。平均化したら面白くない。

豪　会長は度を超えて、犬殺したりしてますからね（笑）。

ブチ　度を超えて締切を守らないし（笑）。

山口　ところでジャイ子も度を超えてるね。

豪　デカさですか、バカさですか？

山口　両方（笑）。

ジャイ子　ムォ～！　バカじゃないもん！

ノブ　でも、どういうわけかジャイ子が顔出してから部数が伸びましたね。

豪　ブス？

ジャイ子　部数って言ったんでしょ！

豪　伸びたブス？

山口　度を超えたブス？

チョロ　会長、ジャイ子はブスが伸びたって言ってるんですよ。

山口　ブスが伸びてそんな身長になったの？（笑）。

ジャイ子　しつこいなぁ、もう！

ブチ　でも、両国でジャイ子に大声援が飛んだのは、何かが度を超えてたからだよ（笑）。

山口　そういうことだね、それをコイツは「普通の人でありたい」という格好つけた気持ちを持ってるんだよ。

ブチ　イッたこともないくせに（笑）。

ジャイ子　なんでそういうこと言うのー（怒）。

ブチ　絶頂知らず（笑）。

ジャイ子　ムォ～！　本が出る頃にはイッてるかもしれないでしょ！　……ああ、恥ずかしいぃ。

山口　そんなことくらいさらけ出せないでどうすんだよ！　プロとして！　オレだって〝超マッハ君〟だぞ！

ブチ　オレだって淋病にかかったことあるよォ！　つい最近ねェ（笑）

ノブ　僕はチ●コが肉割れですねぇ。

チョロ　僕はホモです！

豪　まっ、僕はレズですから（笑）。

◎プロレスが絶頂を極める方法

ノブ　え～と、告白が済んだところで絶頂ってことで話しを戻しますけど、プロレスが絶頂にいくにはどうしたらいいんですか？

山口　でも、絶頂を知っちゃったらそれまでだからね。落ちるしかないよ。

ノブ　今までで一番絶頂だったのは力道山の頃なんですよね。

山口　テレビの視聴率64％だよ！　猪木さんの頃だって、ゴールデンタイムで毎週20％以上でしょ。そりゃ、みんな選手のこと知ってるよね。

ノブ　だんだん落ちて行っちゃって。

山口　キミと一緒だよ（笑）。

ノブ　会長がプロレスを見て一番燃えたのはいつ頃ですか？

山口　真面目に答えなきゃいけないの？

ノブ　はい。

山口　第一次ＵＷＦの頃から、ＵＷＦ勢が新日本に戻った頃かなぁ。ホントに面白かった。何かが生まれる瞬間が蠢いてるのがいいね。

ノブ　新しいムーブメントだったと。

山口　それを言うと今のバーリ・トゥードの波とかも、確かにそうなんだよね。シューティングとかも含めて。なんかが蠢いてる感じはするよね。

豪　でも、格闘家同士でカード組んでも盛り上がらないっていうのは事実なんですよね。それで必死に格闘技幻想作っていっても格闘家同士じゃ因縁もなにも、そりゃあるんでしょうけど、話の流れにはならないわけですよ。だから打倒プロレスにもっていくしかないでしょ。

山口　プロレスはこれから何を打倒す

「３度目はない」というコピーが踊った高田vsヒクソンの世紀の再戦、高田は健闘するもヒクソンの牙城を崩せなかった。来年以降、正念場を迎える高田のアクションは見逃せない

ればいいのかだよね。

豪　打倒格闘技だとスケール小さくなちゃいますもんね。だから結局、対世間なんですよ。

山口　対世間という部分では、バトラーツは凄いよな。野望は世界征服だからね（笑）。

豪　ただ、前以上にプロレスへの偏見は出てきたと思うんですよ。格闘技の見方がわかる人が増えてくることで、前田バッシングとかがインターネット上で盛んになってくる状況がありますからね。

山口　UWFバッシングはあるね。

豪　前の偏見は、軽かったですもんね。「たぶん八百長」とか、「ロープ振ってるし」みたいな感じで。今はもっと具体的なバッシングが増えてますよね。もはや偏見でもないのかもしれないけど。誰々の関節技は極まってないとかいう論調ですからね。

山口　じゃあそういう人たちには何を突き刺していけばいいの？

豪　昔、雑誌に載った川田（利明）のインタビューが面白かったんですよ。「UWF好きだから関節技使ってるんだけど、UWFの人たちに申し訳ない」って言って（笑）。そういう部分を見なきゃダメでしょ、実際！　いわば、Uとかに光を当てるために関節技やったようなものなんですよ。それなのにプロレス界に噛みつくのはフェアじゃないっていうか、チンケっていうか、視野狭いですよね。川田がきっかけで「関節技ってなんだろう？」ってなるファンも確実にいますからね。

山口　お互いの相乗効果だもんね。でも、そういう声に対してはプロレスはどうしたらいいの？

チョロ　最低限の強さっていうのは必要ですよね。

今年はエンターテイメント・レスリングが大躍進した年でもあった。「プロレスが退化するとUWF、進化するとWWFになる」という冬木の発言は、名言・オブ・ジ・イヤーの最有力候補のひとつである

山口　なんだよ、最低限の強さって。どこでライン引くんだよ。

チョロ　プロレスラーが一番強いと思って見始めましたからね。

豪　それで、いまは菊田に乗ってんのか。タチ悪いなぁ（笑）。別に強さだけじゃなくていいんだよ。そもそもお前は馬場派なんだろ？

ノブ　まるで馬場が強くないような言い方ですね。

豪　強いの？　今。

ノブ　……いや、強さはいらないと思いますよ。いっそのことそういう見方を逆手に取って、（ビンス・）マクマホンみたいに車椅子に乗ってくるのもいいかなと思いますよ。

豪　失礼な！　お前、プロレスなめてんだろ！　馬場は強さ以外にいろんな幻想があるわけじゃん。

チョロ　16文はちゃんと吸い込まれていきますし。

山口　お前、受けたことあんのかよ！

チョロ　そういう幻想と強さがうまくミックスされて、インプットされたら立派な超人が生まれるんですよ。今27～30歳ぐらいのプロレスラーも格闘家も初代タイガーマスクに影響を受けた人が多いじゃないですか。強さも見えたし、華麗さもありましたよね。あの当時に、幻想と強さがうまく届いたってことですよね。

豪　要するに初代タイガーがベストだってことね。

チョロ　いまは憧れの対象になる人って少ないじゃないですか。

豪　時代的には流れとして『強さ』側が脚光を浴びてるけど。

山口　でも、それと同時にアメリカン・プロレスの視聴率メチャメチャ上がってるよね。

豪　で、FMWが新体制で頑張ってる。

山口　だから、可能性があるのは格闘技方面ばかりじゃないと思うよ。

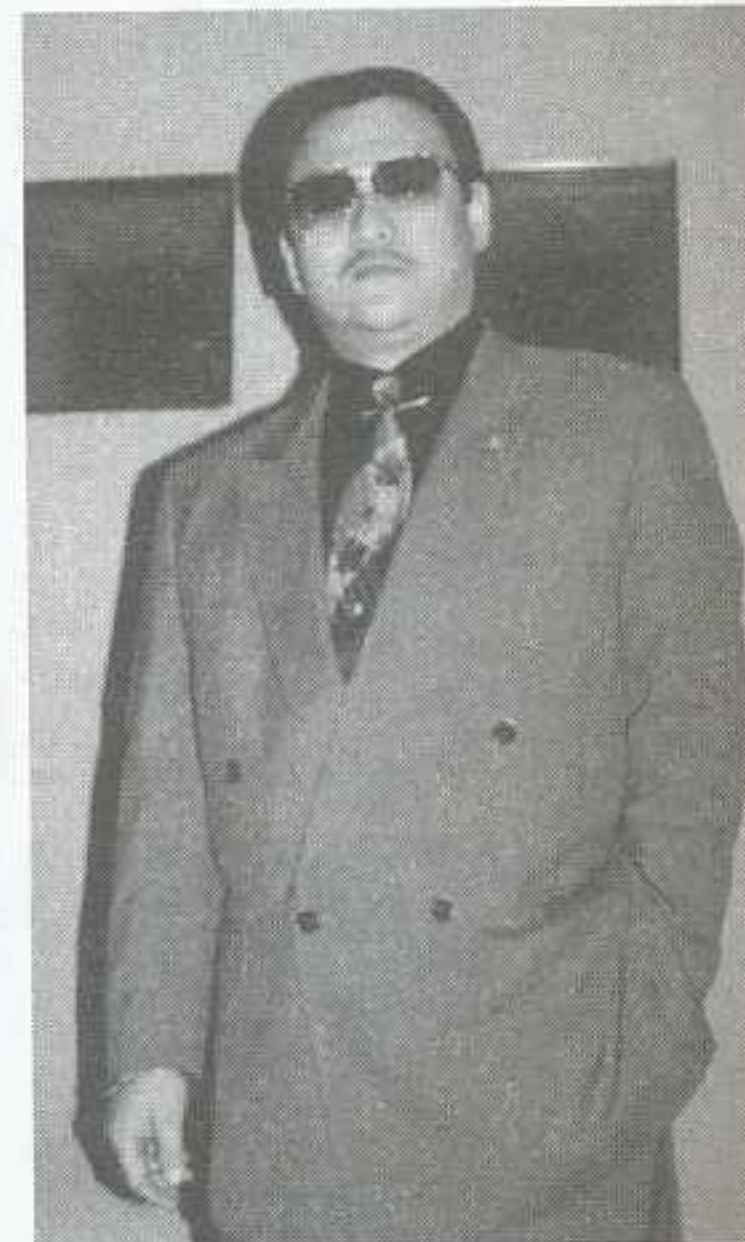
豪　両極化してるわけですよね。

山口　強さでもいろいろ種類があると思うしね。オレ、サスケは強いと思うもん。人として強いと思う。強さにもいろいろな角度があるんだよ。いろんな見方ができる、広いジャンルがプロレスだと思うんだよね。

ブチ　サスケさんはビデオ作りの時は、スゴい強いと思いましたね。頭割れてるのに壁にガンガンぶつけるんですからね。

山口　あの時、頭蓋骨骨折に脳挫傷でしょ。怪我して1ヶ月くらいの時でしょ、あれ。なのに徹夜してビデオの編集してね、居眠りしてるんだよ。壁にガンガン頭ぶつけながら（笑）。コイツは強い！と心の底から思った（笑）。

チョロ　ところで、SASUKE組ってどうやったら入れるんですか？

山口　断言します！　お前は入れない（笑）。オレ、SASUKE組だよ。こないだ「オレも入れて」って言ったら「もちろんですよ～、ノビー」って密約交わしてくれたもん。

ジャイ子大絶賛の二瓶組長。今後、その勢力はさらに強まっていくであろう来年以降、注目のインディー組織である

◎来年の話

ノブ　来年の話をしましょう。来年見たいカードってありますか？

山口　日本対ブラジル！　全面対抗戦。プロレスもシューティングもリングスもパンクラスも全部含んで日本選抜5人vsブラジル選抜5人。

豪　国別対抗戦ですか？

山口　そう。リングスの国別対抗戦には今回ブラジルが足りなかったね。

ノブ　あったら違ったでしょうね。

山口　長州が「マスコミを驚かすこともウチはどんどんやっていく、そうすればファンも驚くんだ」て言ってたじ

大巨人 ジャイ子選定 ジャイジャイスペシャル（ジャイスペ）'98

二瓶一将

今年のジャイスペは二瓶組長こと二瓶一将に決定！　組員が試合をすれば、スーツ姿で乱入を繰り返し、挙げ句の果てにはリングアナを拉致、自らリングアナまで務めてしまうといった暴挙をステキにこなす二瓶組長。キングダムの興行では客席から啖呵（ヤジ？）を切る男らしい組長も見れました。セコンドに付いてるだけも選手を喰ってしまうすごい存在感にジャイ子はうっとり。

そんな組長が天龍、ナガサキとタッグを結成。組長はボコボコにされながらもしっかり見せ場をつくり、男を上げたね。ジャイ子、惚れ直したよ。そこで二瓶組長率いる二瓶組が99年旗揚げするなんて聞いたらジャイ子は黙ってらんない。大化けを願いジャイスペをさしあげます。

RADICAL

座談会

マット界へ愛をこめて

オレは来年、WWF vs シューティングの対抗戦が見たいね（山口）

ゃない。どんどんやって欲しいよね。

ノブ　驚きたいですね。

豪　『U－DREAM』は驚いたね（笑）。

山口　アレは驚いたよ！　エンセン出場だもんな。

豪　せっかくグレイシーとの因縁が盛り上がってるんだから、利用すべきだよね。グレイシーって名前ついてりゃ、なんでもいいんだよ。柔術1年ぐらいしかやってないようなヤツでも引っ張り出せばいいんだよ（笑）。

ノブ　チョロは？

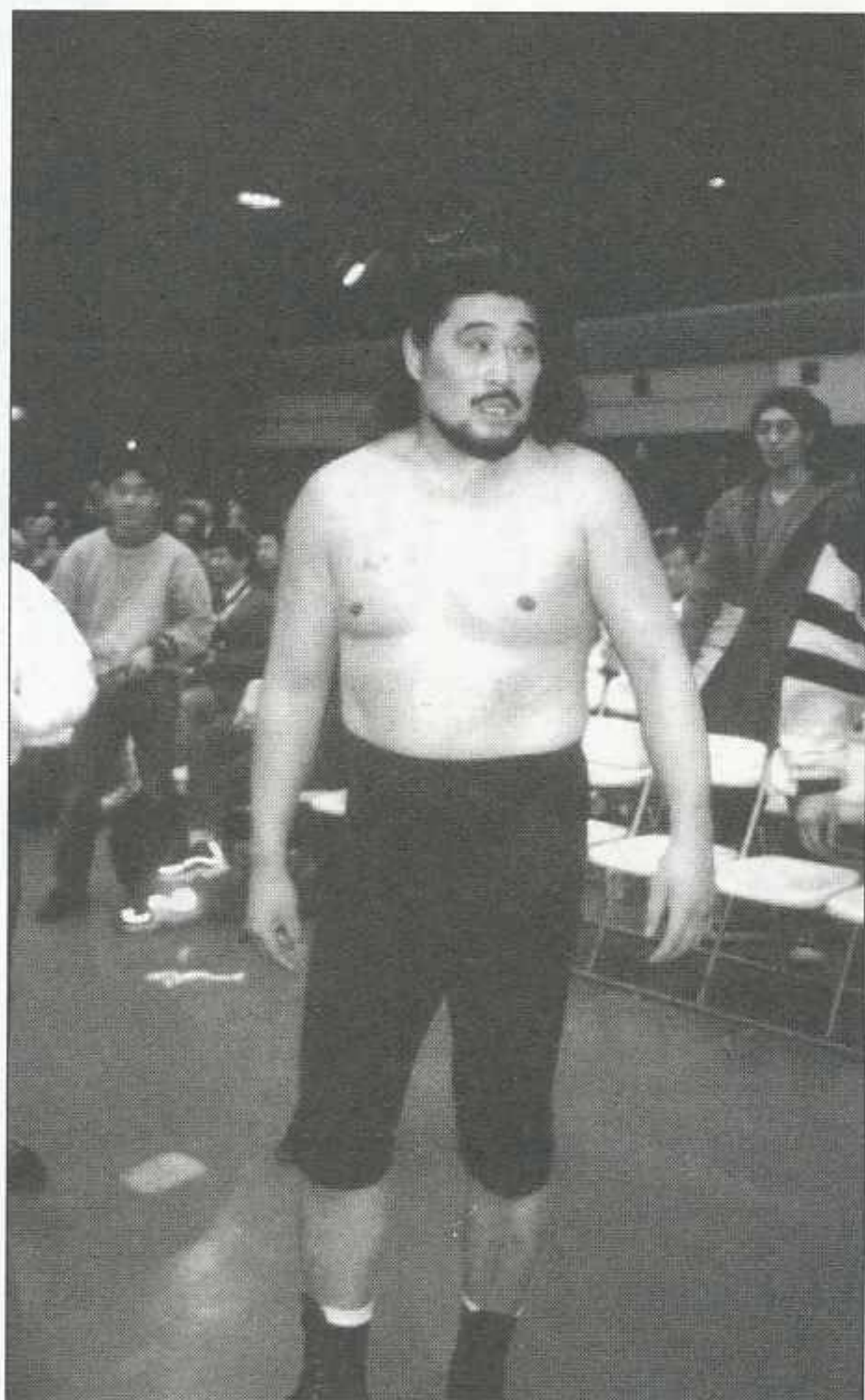
チョロ　小鹿社長のストリート・ファイトマッチが見たいですね。

豪　また池袋で乱闘するのか？

チョロ　これはマスコミも、ちっと驚いたじゃないですか。

豪　でも、相手が中牧じゃ駄目だね。小鹿vsナガサキとかだったら燃えるでしょ？　しかもスナック・ケンドー前の路上で（笑）。そりゃ、人集まるよ。ノブはなにが見たいの？

ノブ　WWFの日本上陸ですね。

豪　たぶん青柳（政司）が出るよ（笑）。

ブチ　リアリティのある闘いが見たいんだよね。

山口　ブチの言うリアリティって何？

ブチ　本気で燃える闘いですよ。

豪　例えば極真の初期の頃はリアリティあった？

ブチ　オレの中ではムチャクチャありましたよ。

豪　ウイリーvsクマとかにはリアリティあった？

ブチ　………リアリティを持ちたかったですよね。

チョロ　持てなかったわけですよね？

ブチ　でも必死になってすごいと思おうとしてた。だから、気持ちよく騙して欲しい、と……。

豪　結局、初期極真はいい意味でプロレスチックなことやってたわけでしょ。そういう面白さはあったけど、そこにリアリティがあったかどうかっていうとどうなんだろう？

山口　いや、いまから考えるとそうなっちゃうけど、リアリティって時代によって変わってくるからね。初期極真にもリアリティあったよ。その時代と添い寝してないとわかんない。

豪　でも梶原一騎の全盛期みたいには騙せなくなってますよね。

ブチ　情報がなかったからねェ。

山口　確かに今の時代にリアリティを出すのはしんどい作業だよね。

豪　インチキ外人連れてきたってハッタリかませないわけでしょ、みんな割れてるし。ヘタな外人を連れてきたらインターネットで流されるし。でもリアル・ファイトなのにリアリティがない試合もあるわけだよね。リスク背負ってるのに、全然リアルに見えない。全然違うのにリアリティ感じるのもあるし。猪木vsウイリー戦なんて、梶原一騎が「あれは八百長だった」って断言してるのに異常なリアリティがあった。それはなんですかね？

山口　リアリティとハプニングとドラマがあったからでしょう。その三つが三身一体になってないと、なかなか観る者の心に闘いを突き刺すことは出来ないよね。

豪　リアル・ファイトの団体で重要なのはハプニングですよね。K－1が伸びたのはハプニングが大きいからですよ。でも、最近ハプニングが見られない。トーナメントの参加選手を増やしたところで、実際、上にくるのはいつもの人だからね。シューティングもルミナとかが負けるハプニングでは盛り上がるよね。リアル・ファイトはハプニングが求められてるけど、実はそんなに起きるものでもないでしょ。それならプロレスの持ってるドラマチックな部分を見せていったほうが有利なわけだよね。

山口　プロレスラーにはやっぱり〝芸〟と〝術〟と〝性（さが）〟を持ってもらいたいけど、興行もそうだよね。バトの両国、そういう意味ではは芸と〝性〟だけあって、〝術〟はなかったでしょ。だから、3つ完璧に揃う贅沢なことって滅多にないと思うんだよ。

ブチ　だけどあの日はアレクが『PRIDE.4』で見せた術が観客の心に刺さってましたよね。

山口　そう！『PRIDE.4』とセットの物語で盛り上がったんだよね。だから、アレクを『PRIDE.4』にポンと出したバトラーツって団体はすごいよな。博打ですよ、博打。プロはやっぱり博打して欲しいね。思いきったところにポーンと札置いてほしいよ。

豪　来年は誰が博打を打ってくるんですかね。

チョロ　谷津（嘉章）は打ちます！

山口　ボクはもう1回、高田の博打見たいねぇ。

豪　いま高田側に張る人は相当減ってますよね。

山口　だからいいんじゃないの。張る人が少なくなればなるほど面白いね。

豪　博打の相手はヒクソンじゃなきゃダメなんですか？

山口　今のところはそうでしょう。だから、全面対抗戦5vs5で綱引きマッチにして、たまたま高田vsヒクソンになっちゃったらいいんだよ。

豪　たぶん巨大なブーイングが起きますよ（笑）。

山口　それに全面対抗戦の綱引きマッチにしとけばメインが桜庭vsヒクソンでも誰も文句言わないじゃん。興行的にもイケるだろうし。問題は日本勢がどうまとまるかなんだよね。高田、エンセン、桜庭、高阪、アレク。その5人vsブラジル勢5人だったら面白いよね。ヒクソン、ホイス、ホイラーとか、そこらへん全部入れてね。それ見たいなぁ。

チョロ　ノブさんはエンターテインメント方面で見たいカードとかはありますか？

ノブ　やっぱ直輸入を見たいね。そこにはあんまり日本人いらない。

山口　じゃあ、FMWの存在価値ってどうなっちゃうの？

ノブ　FMはどんどんいろんな日本人をあの土俵に乗せてほしいです。

山口　オレはWWF vsシューティングの対抗戦とか見たいね（笑）。あれだけ体重差があったらさ、朝日昇vsアンダーテイカーとか、（笑）。エンセンvsシャムロックはVTでもいけるし。ルミナvsゴールダストなんてどうよ？　よし！　来年も面白いプロレスを見るぞ！　頑張るぞ！（ちっちゃなガッツポーズ）。

ジャイ子　ジャイジャイ！（大っきなガッツポーズ）。

山口　お前は早く人間になれ！

【98年12月1日、ダブルクロス本社にて収録】

来年、どんな博打でボクらを楽しませてくれるか、いまから非常に楽しみな谷津

プロレスラーにも大好評！ 紙のプロレスRADICAL バックナンバーのお知らせ

よかったら『紙プロ』のバックナンバーを買って下さい。すでに持っているという方も『紙プロ』を知らない日本国民に『紙プロ』の素晴らしさを思い知らせてやりましょう。アメリカはジニアスに任せました。

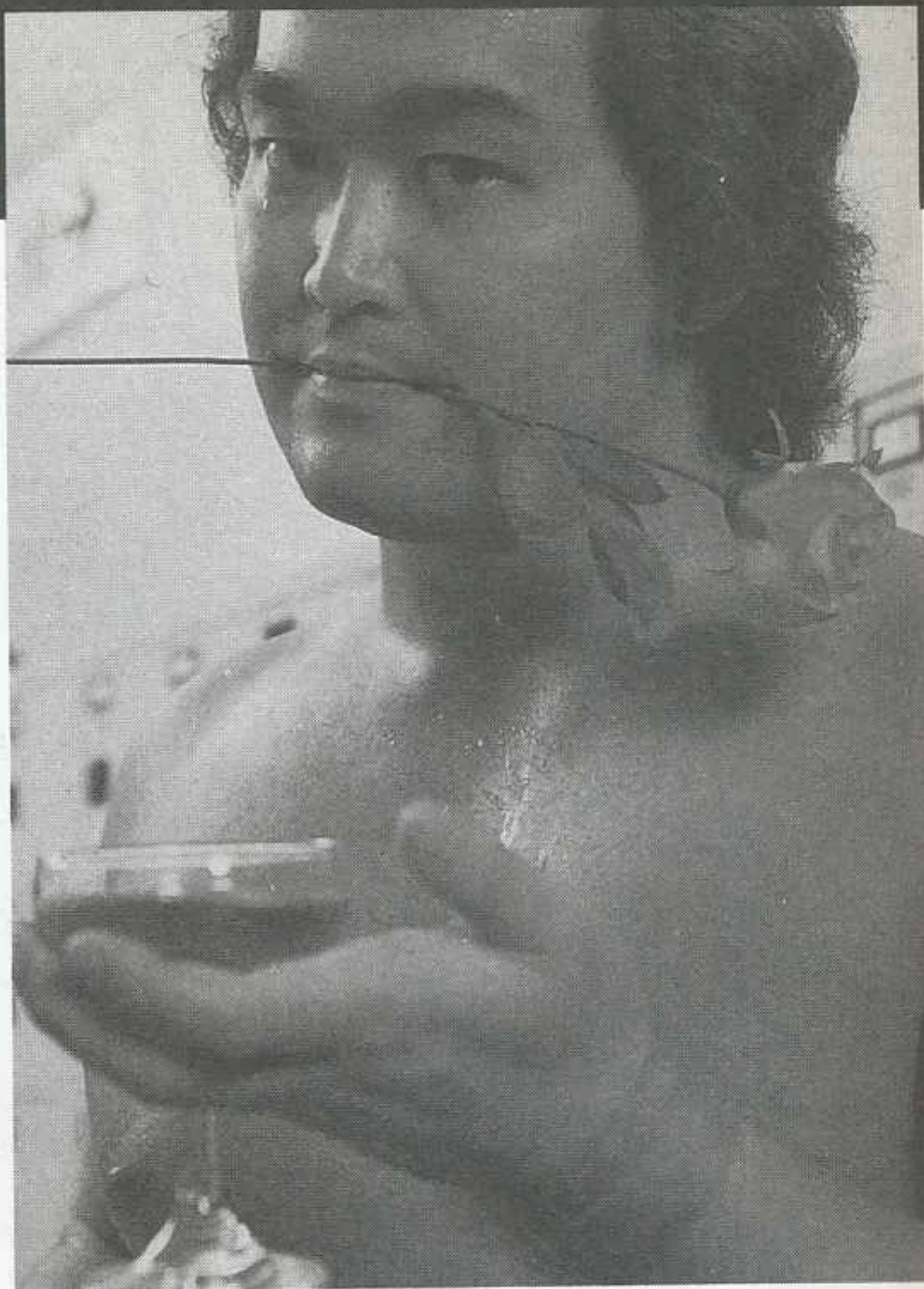
Dear Double Cross:

How are you doing? I am United Nations Wrestling Sad Genius.

・25日(水)より、所用でアメリカに行っちゃいます。(年内には帰国) けいたい電話明日で止めてしまうのであしからず。よかったら「紙プロ」アメリカに送って下さい。アメリカ国民に「紙プロ」の素晴らしさを思い知らせてやりましょう。

1998年10月吉日

本家悲しき天才 せっど じにあす

※セッド・ジニアス本人から送られてきた直筆ＦＡＸです。

注：『紙のプロレスRADICAL』創刊号からNO4まではめでたく完売となりました。どうもありがとうございました。コッ！

第5号

打倒ヒクソン・グレイシーに立ち上がった最後の刺客、高田延彦。『RADICALはいつだって高田延彦を応援するゼ!!』

◎猪木、Puffyほか有名人33人が高田vsヒクソンを大予想
◎読者人気爆発!! ストロング・スタイル対ひょうきんプロレスの頂上対決。伏せ字だらけの超過激対談パート2 ドン荒川vs藤原喜明
◎全てはここから始まった!開始前から話題騒然の新連載!前田日明のウルトラ・メガバトル人生相談『人生は語らず』
◎世界格闘技連盟を語りたおす!食い倒す?『ケーキウェイ』佐山聡（タイガーキング）インタビュー
◎"活字プロレスの悪魔（ターザン山本）"が語る高田vsヒクソンの意味!「今は高田延彦の方が前田より100倍魅力的ですよォ!」

第6号

「俺たちが世界を支える!!」と腕組みをしてRADICALに初登場したのがnWO・蝶野正洋! プロレス界、『紙プロ』の救世主となってくれ!

★特集「"プロ"と"レス"融合か分裂か!」
◎前田日明の人生相談&パンクラス問題に日明兄さんプチッインタビュー&前田のイラダチ頂点に達す!! リングス大会終了後の共同会見完全再録
◎ゴリさんことアレクサンダー大塚のみちのくひとり旅日記'97
◎「サスケがダメなのは『紙プロ』と付き合っているからだ!」TAKAみちのく毒舌爆発インタビュー
◎高田×ヒクソン戦直後、Puffyに独占インタビューを敢行!
◎打倒!八百長論議!ザ・グレート・サスケが素人相手にお説教!
◎井上京子／井上貴子／角掛留造／松永高司インタビュー

第7号

特集「反骨の剣」 堂々の読者人気1位奪取! 赤いパンツの頑固者・田村潔司 鮮烈ロング・インタビュー

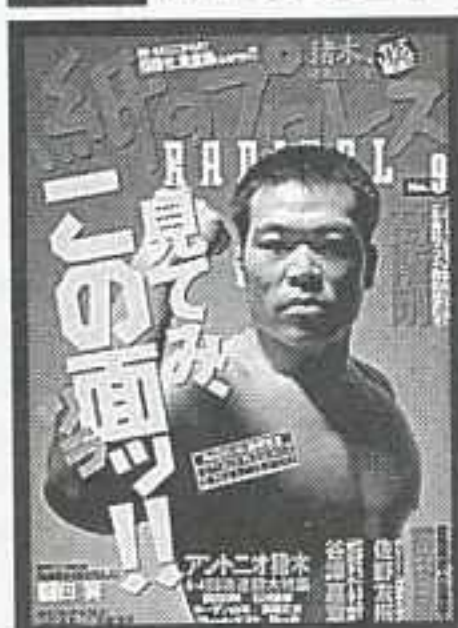
◎読者もシビレまくり!
黒いパンツの心意気・激白 木村健悟
◎酒、煙草、男、三禁なんてクソ食らえな大型不良新人!中原奈々インタビュー（現在失踪中）「凶器しか使わないプロレスをしたい!」
◎みちプロ経営危機の真実をザ・グレート・サスケが独占告白!「こんな経営をしていたら50年もつみちプロが5年で潰れてしまう!」
◎……ああ、好評すぎて怖い。
寸止めなしの殺戮連載!前田日明の"ワールド"メガバトル人生相談「人生は語らず」
◎祝! 復帰記念 モハメド・ヨネインタビュー
◎ラジカル初登場2連発!
冬木弘道／MEN'Sテイオー

第8号

「見てみ、この面!! 」シリーズ第1弾・桜庭和志の戦闘スマイル満開ショット「ヒクソンですか? いけそうな感じするんですけどねぇ」ズバリ永久保存版!

★特集『格闘技世界大戦前夜!!』
◎アントニオ猪木
「元気」と「気づき」のロングインタビュー
◎ヒクソンとの再戦が決定!
高田延彦の意気込みを聞け!
◎「プロレスラーはホントは強いんです記念」
格闘家から見たプロレス
エンセン井上／村浜武洋ロングインタビュー
◎波動砲! 前田日明の人生相談
『人生は語らず』
◎必読!黒いパンツの心意気PART2 猪木を裏切らなかったもうひとりの男木村健悟が猪木、坂口から八百長論まで大いに語る!
◎業界内外で話題騒然吉田豪の書評の星座PART2

第9号

「見てみ、この面!! 」シリーズ第2弾・高阪剛 この顔はマット界の宝だ!「ヒクソンに勝つのは自分も自信あるし誰もが狙ってると思う」もちろん保存版!

★「アントニオ猪木・闘魂連鎖!無礼講大特集!!」
前田日明／ザ・グレート・サスケ／高田文夫／春一番 久々に大炎上!ターザン山本／燃える情念!石川雄規
◎衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!
◎前田日明
ラス前ロングインタビュー&炸裂人生相談
◎日プロOB吉村道明&ユセフトルコ&遠藤幸吉&駿河海マット界時事放談
◎各方面で大反響!! [格闘家からみたプロレス!] 朝日昇
◎大ブレイク谷津嘉章最強宣言!「グレイシーよりアマレスの方が強い!」ハッキリ言ってこれを読まなきゃプロレスファンとはいえない!

第10号

「驚愕の表紙」シリーズ第1弾・前田日明vsエンセン井上 各方面に波紋を投げ掛けたスクープ対談がここに実現!! まさにプロレス者必携の一冊

★特集「灼熱の地殻変動'98」
大和魂は連鎖する!!
◎とにかく元気!高田延彦ロングインタビュー
◎「タイガーマスクのマスク取れって言ったの、俺じゃん?」等々またまた大爆発!
衝撃の谷津嘉章インタビューPART2
◎社長&会長対談
ザ・グレート・サスケvs松永高司全女会長
◎『紙のプレイボーイ』発進!! ダイアナ&宮内美穂
◎大噴火!! ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
◎『紙のプロレス』スーパースター列伝北沢幹之
◎冬木弘道（with金村ゆきひろ&伊藤豪）ロングインタビュー

第11号

「驚愕の表紙」シリーズ第2弾・格闘Viagra'98 高田延彦vsエンセン井上烈談!! こんな対談が出来るのは本誌だけ!お買得にもほどがある一冊

◎前田日明引退記念特集&
ラストマッチ後・初インタビュー 前田日明
◎良くも悪くも大反響!
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!
◎「格闘か?芸術か?それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）／福田雅一インタビュー
◎ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本インタビュー
◎バトラーツ両国進出記念特集
石川雄規／トンパチ・マシンガンズ（折原&小野）／岡本衛／マッハ純二／土方隆司
◎SWSの真実がいま初めて語られる!
「S多重アリバイ」アポロ菅原
◎他じゃできない!UFO大特集!!
&Mr・ウォーリーピンナップ

第12号

10・11「PRIDE.4」マルコ・ファスに激勝した、我らがアレクサンダー大塚! マット界の救世主アレクのマルコ戦直前の声を聴け! そして感じろ!!

★特集「格闘TEPODON!! '98」
◎ヒクソン戦直前!
なにかが違う高田延彦暴走ロングインタビュー
◎「プロレスファンよ踊れ!祭り囃子を鳴らせ!!」
浅草キッド登場
◎人気大炸裂!「S多重アリバイ」第2弾
アポロ菅原インタビュー
◎桜庭和志／アレクサンダー大塚／山本健一／神取&北尾／八木淳子／ダンプ松本／志生野温夫インタビュー
◎猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
◎格闘王から相談王へ前田日明人生相談
「人生は語らず」堂々復活!!
◎話題騒然!! What is プロ格闘家?
菊田早苗&郷野聡寛インタビュー

第13号

『10・11 PRIDE.4』アレクサンダー大塚が路上の王マルコ・ファスに激勝し一気にマット界の救世主に! もちろん表紙もアレク。んむはぁ。

★特集「四角いジャングルRADICAL」
◎実写版『1・2の三四郎』降臨!
アレクサンダー大塚インタビュー
◎『10・11 PRIDE.4』とは何か?
ザマアミロ雑談会!!
◎高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
◎前田日明・エンセン井上が語る
『高田vsヒクソン戦』!!
◎谷津嘉章（プロレスラー代表）・島田裕二（レフェリー代表）・浅草キッド（プロレスファン代表）から見た
『10.11 PRIDE.4（その他）』
◎大反響!SWSを徹底再検証『S多重アリバイ』第3弾ケンドー・ナガサキ
◎ボブ・バックランド／松永光弘／リッキー・フジ／堀辺正史インタビュー

【コッ！購入方法】

●現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。
●現金書留の場合
〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130−3−769154（株）ダブルクロスまで。
代金は創刊号＝610円 2号＝660円 3号〜10号＝680円 11〜13号＝780円 送料1冊＝310円 2冊＝340円 3冊〜4冊＝450円 5冊＝520円 6冊以上＝700円

●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバーを置いているリスペクトできるお店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ヘラクレス和歌山駅前店

おめでとう! おめでとう! おめでとう! おめでとう! おめでとう! おめでとう! おめでとう!

表彰させてよ!'99

武田いづみちゃん

『紙のプロレスRADICAL』読者投稿ページ
PRIDE.0 5戦勝ち抜き記念!

武田いづみちゃん
『紙プロ』殿堂入り記念表彰式&
「PRIDE」シリーズにおける武田いづみちゃんの
全5戦をここに完全プレイバック!

これだけのために、わざわざいづみちゃんに来社してもらっちゃいました。プレゼンテーターは本誌デブ大臣の坂井ノブ。杉作J太郎さんじゃありません。ちなみに、このときジャイ子はいづみちゃんの踏み台（ホントに踏まれてた）としてがんばってました〜。でも写真には写ってなかったの。ひどいよね、ジャイジャイ。

いづみちゃんのお言葉

ありがとうございます。おかげさまで、私のクラスである3年A組が、文化祭で大賞を穫ることができました。みんなで力を合わせて夜遅くまで準備したことは、とてもいい思い出です。あと、なんですか、「PRIDE-0」で5回勝ったので、殿堂とやらに入れられることになりました。ここには感想のようなものを書くらしいので書きますが、日記を5日分読まれているようで、ものすごく恥ずかしいから忘れてください。こんな木ッ端素人の文章など。

しかしながら、木ッ端は木ッ端なりに心掛けたのは、誰か1人の選手に的をしぼって書かないように、ぼんやり書くことでした。的をしぼって書けるほどプロレス観てないし、誰か1人に入れ込んでるわけでもないし。

そんな私が殿堂入り第1号となりました。私が大キライな方、たーくさんケチつけてくれた方には、「ケチつけるくらいなら、テメエが書け！」という言葉をプレゼントします♥ 言うだけ番長め！ 殿堂にて、相撲でも、くつとばしでも、早押しクイズでも、何でも勝負しますから、まずは書こうね。

それで殿堂からはいつになったら出られるんでしょうか。初詣には行ってもかまいませんか、ここから。

武田いづみ

※この原稿のタイトルのみチョロがつけました。ちなみにタイトルのいわれはプレゼント担当のチョロがいずみちゃんにどういうつもりかカラの封筒を送ったため、いずみちゃんから「これは"高原の空気"のお届けですか?」というナイスな返信が来たからです。(やるね、いずみちゃん)

第1戦『高原の空気』

"マット界"とは、どこからどこまでを指す言葉か。

団体内の人間までか。

マスコミを含むのか。

はたまたファンをも含むのか。

しかし、確実に言えることは、プロレスを観ない人、すなわち一般人は、マット界の「外」の人間だ、ということだ。

私は高校生である。世間で言うイメージ通り、ラルフのセーターに短いスカートで、ルーズソックスを履き、PHSを持つ、ごく普通の女子高生である。

「そんなヤツの書いたものは読めん」とおっしゃる方、まあ、お待ちください。

私が女子高生なら、友達も女子高生だ。その友達の一人に言われた言葉がある。

彼女は、なんとなくつけていたテレビで、「長州力の引退試合を観た」と言った。そのあと彼女は、「八百長なの？」とも言った。

私は、とても驚いた。八百長と言われたからではない。昨日、はじめてプロレスを観た女子高生の口から、「八百長」という言葉が出たからだ。それまで、私と彼女との会話にその言葉は一度も出たことはなかったというのに。

彼女が言うには、「5対1なのに、ほとんど勝った」ことが、全くリアリティーの無いものに見えた、ということらしい。

私は彼女の問いに、「八百長じゃないよ!!」とは答えたものの、なにか不安になってしまった。リアリティーのあるなしの問題ではない。その時の彼女の顔に、「違うの？ まあ、私にはどうでもいいけど」と書いてあったからだ。

考えてみれば、「中」の人間が大騒ぎするようなビックマッチも、「外」の人々にはどうでもいいこと――というか、その存在すら知られていない。どんなに意義のある試合も、「外」にいる女子高生にとっては、ドラマの次回の展開の方が大切で、主婦にとっては、今晩のおかずの方が大問題なのだろう。

ところであなた、風呂に入る時、見ただけで熱いかぬるいかわかるだろうか。わかります？ 私にはわかりません。きっと、お湯の温度――具合を知るためには、たとえ指先だけでも入ってみる必要があるのだ。

私が「プロレスが好きなの」と言えば、友達は必ず、「へぇー…、すごいね」と言う。

何が!? アタシが!? なんで!?

「へぇー…、すごいね。」の言葉と共にあるのはいつも、引いた態度である。

私はそんな態度をとられると、居心地の悪い気分になった。それはプロレスを軽視された怒りなどではなく、「もしかして、乱暴そうな女とか思われた!?」という気持ちからである。その後、その気持ちに気付いて、ハッとする。「ファンが乱暴そう」というのは、プロレスを「外」から見ていた頃の私のイメージだからだ。

今、どんな形にせよ、あなたの中にも、私の中にも、プロレスの存在がある。プロレスの温度を肌で知っているのだ。それがぬるいか、熱いか、もう出ようと思っているか、人それぞれだが。でもプロレス、いいでしょ？ 好きでしょ？

そして私は思い直した。引かれたら、一歩進んで、からみつくぐらいでないと!!と。

プロレスの外にいて、そこから見たイメージだけで判断した、つまり風呂を見ただけでお湯の温度がわかった気でいる人々がいる。危険である。

ここで、あなたも、私も、そういう人に対して言ってやらねばなるまい。例えば、引いた態度をとる人、プロレスという言葉だけで嘲笑する人、「レベルがちがいますよぉ――」と汚い笑顔を見せる、プロレス嫌いの格闘技信奉者に、だ!! ご唱和ください!

――入る前から風呂の温度のわかるヤツがいるかよ!! （バシーン!）入浴れ!!

（『紙のプロレスRADICAL.NO9より』）

第2戦『プロレスのこと？』

唐突だが、「全てのものは、プロレスに通じる」と思う。通じるから何だよっていうのも確かにそうだが、通じるものによっては、プロレスのいろんな部分が見えてくる。間違いない。

「ものによっては」と書いたが、それは例えば、ガチャガチャである。正式名称を知らないので、こういう呼び方しかできないが、100円入れて、レバーを回すと、丸いプラ容器に入ったオモチャが出てくる、あのシロモノ。私はついやってしまう。そして、顔の崩れたジャッキー・チェン……？のキーホルダーや、ACASIO（赤潮？）と書かれた、絶対防水しそうにないダイバーズウォッチを手に入れては喜んでいる。しかし、アレにもアタリハズレがある。ガチャガチャというものは、100円入れても、必ず欲しいものが手に入るわけではない。

ほら、このへんでガチャガチャとプロレスが通じていることを、少しおわかりいただけたかと思う。わかんないか？

プロレスにも同じことが言える。チケットを買ったところで、必ず自分が望む試合が観られるとは限らない。いくらあなたが、「感動させてよ！」と言っても、そこに絶対はない。つまらないハズレの試合になるかもしれないし、予想外の大アタリな試合が観られるかもしれない。しかし、それは始まってみるまでわからない。

再びガチャガチャの話になるが、最近ガチャガチャ業界（？）の方でも変動が起きているらしく、200円モノが登場した。この200円モノは文字通り200円なのだが、出てくるものも完全着色済みのガンダムや、仮面ライダーで、やたらクオリティーが高い。そりゃもちろんやってみるのだが、オモチャ自体はよくても、何か足りないと感じた。何か……？

100円モノと200円モノの大きな違いは、値段もそうだが、「ハズレがない」ことだ。言い換えれば、「全部アタリ」。

足りない「何か」の原因は、ここにあるらしい。出るものがわかっているので、スリルがない。ドキドキしたりもしない。これではまるでお買物ではないか。金を払って欲しいものを手に入れるだけでは、ガチャガチャの意味がない。

全部アタリなら損はしない。が、逆に言うと、損もしなければ得もしないことになる。200円入れて出てくるものは、予想通りで200円以上の価値はない。

なんせ「全てのものは、プロレスに通じる」のだから、無論この部分も通じている。

プロレスが"200円化"しつつある。チケットを買って、会場へ行き、「予想通りの試合」を観る。安心しきった流れ。闘いを観るにあるまじき空気。

昔から、「予想通りの試合」というのはあったと思う。しかし、全ての興行が損も得もないものになってしまったら、あなたはそれでも熱狂できるだろうか。

プロレスに金を出すのは、ある種のギャンブルだと思う。コンサートや演劇のように段取りの決まっているものではない。それでも観たい。それはアタリかハズレかわからなくても、ガチャガチャをやってしまうときの気持ちに似ている。

何が起こるかわからないのがプロレスなら、ハズレもあるが大アタリもあって、何がどう出るかわからないのが本来の姿ではないだろうか。プロレスは、お買物よりはギャンブルであってほしい。「いつでもアタリ」の試合が観たいのではなく、「大アタリ」が観たい。

私なら、アタリしか出ないものよりも、ハズレがあっても大アタリが出る可能性に金を出す。で、こんな感じ。

――ガチプロ？ それを含んだものが"ガチャプロ"だよ。

（『紙のプロレスRADICAL.NO10より』）

今までのプロレスの歴史で、世間に対するアピールの大きさという点では〝老人ショック死事件〟は5本の指に入る。その頃、私は生まれていないし、試合を観たわけでもないので、どんなふうだったか知らないが、「プロレス中継を観ていた人が死んだ」という事実だけ見ることにする。

しかし、よく考えたらこんなに不思議な事も少ない。直接誰かに攻撃されたわけでもないのに観ていただけで死んでしまうとは。人間が視覚と聴覚に受けた刺激だけで本当に死ねるもんなのか？

現代人にあの頃の映像を見せても、同じようにショック死する人はまずいないと断言できる。それはわずか40年足らずで日本人が変化したということだ。なんか話がでかくなってきた気もするが。

その理由の1つは、人に噛みついて流血させる人間よりも、もっと猟奇な人間をたくさん知っているということ。現実に猟奇殺人は増えていて、ニュースでいつも流れているし、ドラマや映画でもそういうものは多い。子供の読むマンガなんか、もう「血まみれ」だ。現代に生きる人は、そのへんが昔より確実に鋭くなってきている。

そんな環境で生きているのだから、ちょっとやそっとの事ではショックを受けないし、「噛みついて流血」というビジュアルだけではまさか死ぬはずもないんである。

まぁ、実際に亡くなった人もビジュアルだけが原因ではないと思うが、少なくとも今の人よりはショックの度合いは大きかったと思われる。

第3戦『あの世行きテレビプロレスのころ』

では、どうしたら人間はショック死するんだろうか。友達に「ねぇ、人間ってどうやったらショック死するかなぁ？」と聞いてみたが、「死なないよ」と一言で片付けられてしまった。さらに「何かあったの？」と私の心のことまで心配してくれた。仕方ないので自分で考えてみたが、〝ショック死〟というからには興奮状態になければならないということを忘れていた。こっちの方がビジュアルより大事だ。

なるほど、興奮が極限に達したら若者はともかく老人くらいは死にそうだ。これでショック死の理由はなんとなくわかったが、こんどはどうして極限に達してしまったのかがわからない。だってテレビ観戦である。他の人がどうやってテレビでのプロレス中継を観ているのか知らないけど、私はわりと冷静に観ている。たぶん試合会場で「この人には何か憑いているのでは」と思うほどはじけている人でも、テレビで観ているときはおとなしくしてるんじゃないだろうか。

テレビ中継の試合を観ていて「スゲェ!!」と感動して興奮したことは何度かあるが、ショック死した老人がブラッシーの噛みつきで感動したとも思えないし、感動したくらいで死んでいては、うっとおしくて仕方ない。

ということは、テレビでは会場のライブ感が伝わりきらないと思っていたが、あの頃のプロレス中継では試合会場と同じような興奮がおじいちゃんの座っている茶の間にまで伝わっていた、ということだろうか。

しかし、今とあの事件のあった頃を比べるのは無理があるかもしれない。そもそもプロレスの影響力が違いすぎる。力道山なんて、このまえ日本史の資料集を見ていたら写真入りで載っていた（なぜかガッツのコメント付き）。完全に歴史上の人物なんである。そんな、プロレスが日本史に残るような国家レベルの出来事だった時代だ。いろいろ理由を考えてみて「あの時代でなら死ぬかもしれないなぁ」という気になってきた。よくわかんないけど。

老人がショック死したということは、老人もプロレス中継を観ていたからこそである。今、地上波でのプロレス中継の地位はものすごく低い。この時間帯では老人はおろか、若い人だってなかなか目にしないだろう。あの事件の後、いろんな所からプロレスに対してクレームがつき、一般紙でも取り上げられたらしいが、今はプロレスが問題になることすらほとんど無い。それも全て含めた上で、昔はプロレスが、戦争をもくぐり抜けた心臓にムリヤリ引導をわたすほどのエネルギーをガンガン世間に放っていたということであろう。

それにしても、プロレス観てショック死なんてメチャメチャいい死に方じゃあないか。よし、私の死に方は決まった。あとは私が老人になるまでプロレスが存在していることと、ショック死するほどのエネルギーを放つプロレスが行われることを祈ろう。

（『紙のプロレスRADICAL.NO11より』）

例えばプロ野球。応援しているチームが大量得点。このまま行けば勝ちそうってときにあなた、相手のチーム応援します？ 普通はしない。自分が好きなチームが勝ちそうなんだもん、それでいいじゃん。じゃあ、陸上競技。ゴールまであと10m、応援している選手がトップってときに、その後ろから来る選手をわざわざ応援するかっての。そう、プロ野球や陸上にはないのだ。アレが。

プロレスの試合中、一方のレスラーAが攻勢になったとき沸き上がるコール。それは大抵、負けている方Bの名前である。当たり前だ。負けているなら応援しよう。……じゃあなんでさっき負けていたBが立場も逆転して勝ちそうってなったとき、今まで応援してなかったAを力一杯コールしているのだ、ついさっきまでBを応援していた君よ。結局どっちの味方なんだ、Aか？ Bか？——つまりこれが、野球や陸上にはない〝判官びいき〟である。

判官びいきの判官ってどういう意味か知っているだろうか。別に裁判官のくだけた呼び方ではなく、「九郎判官義経」のことらしい。「源義経のような不遇の英雄に世間が同情しひいきした」ことから判官びいきという言葉ができたそうだ。

うん、まぁ義経はいいとして、プロレス。日本とアメリカのプロレスでは観客の反応がちがう。アメリカのプロレスには判官びいきはない。ヒールとベビーフェイスの抗争を軸に展開するので、観客は忠実にキャラクターを観る。アメリカ人というのは基本的に愛国心が強いんだそうだ。だから初めてみる他国籍のレスラーにはとりあえずブーイングとUSAコールである。アメリカの観客は自分の応援するレスラーが気持ちよく勝つのを観に来るのだ。

対して日本の観客の大半は判官びいきをする。ヒールとベビーフェイスというのはあるものの、自分好みなプロレスをみせてくれるレスラーは誰であれ賞賛するよ、という姿勢だ。こうなると勝敗が第一ではなく、内容重視ということだろう。

このまえボクシングの試合を観ていたら、自分が1Rから最終Rまで無意識に一方の選手を追っていることに気付いた。攻めていれば力が入り、押されてくれば応援する、という具合である。これは私がプロレスラーの格闘技戦を観るときのスタンスと同じだ。去年の高田vsヒクソン戦も、プロレスファンの私は、まず高田ひとりの動きを追って観た。そうして「高田が攻められ、1Rで負けた」と認識する。その後、もう1回観て、「ヒクソンがこう来て高田がこうなって——で、ヒクソンが勝って高田が敗けたんだな」と全体的に認識しなおすのだ。わかりにくい？ アタシもわかんねぇや。

ともかく、プロレスラーの格闘技戦で、プロレスファンは「勝敗をみる」スタンスをとる。高田が負けたことに対して皆がこだわったのが何よりの証拠だ。格闘技戦にも判官びいきはない。

そもそもプロレスには、どうやっても人情がついてきてしまう。判官びいきなんて人情の仕業以外の何モノでもない。プロレスの判官びいきをどっちつかずの曖昧さと見る人も〝外〟にはたくさんいるが、人情なんてものはハナから曖昧なものである。

プロレスとは人の血の通った闘いなのだ。野球とか陸上とかボクシングが血の通っていない闘いだ、と言う訳じゃない。プロレスが特別過剰に血が通いすぎているだけの話だ。

第4戦『やさしさともあまさともいう』

プロレスファンが判官びいきするのは、レスラーも、レフェリーも、観客も、会場も、全て、その試合自体、プロレス自体を〝愛してしまっている〟ためだ。いつまでも観ていたい、終わらないでほしい、という気持ちから、つい分の悪い方を応援してしまうんである。

いいか悪いか別にして、判官びいきはプロレスを愛する人の正直な行動なのだろう。しかし、「どっかで本物じゃねぇんじゃねぇかな、愛というのは。ンムフフ」ということで、当然、裏切りもあるわけだ。

結局、どっちの味方なのって、たぶん私もプロレスの味方です。

（『紙のプロレスRADICAL.NO12より』）

第5戦『力不足!』

なんでプロレスと格闘技を区別したがる人が格闘技側には多いんだろうか。キックボクシングと柔術は、やってることが違っても同じ格闘技で、プロレスは「ショーだから」別モノってことがあるのか？ 人間同士が闘ってることに違いないのに。

しかし、区別はするが、メジャーなのはどうしてもプロレスの方である。一方でプロレス以外の格闘技は、ジャンルとしてメジャーなプロレスに対してコンプレックスを持ってきたのかもしれない。…って言うと、きっと格闘技やってる読者の人はムカつくんでしょうね。ウフフ。別にいいですぅ。

コンプレックスというのは烈闘…じゃないや、劣等感というような一見ネガティブなものだが、それを持つことは、とてもポジティブな行動だと思う。

現状に満足していないからこそ、コンプレックスを持つのであって、その人の視線は上を向いている。コンプレックスの無い人間の視線は、自分と同じか、自分より下しか見えないのだから、進歩も発展の可能性も始めからない。プロレス以外の格闘技は、このコンプレックスを力にしているのだ。

ではプロレスが今の状況に、あぐらをかいていられるかっつうと、もちろんそんなはずはない。プロレスだって何かにコンプレックスを持つべきだ。

だからと言って、ムリヤリ持てるものでもないが、プロレスが今、コンプレックスの対象にするならK—1がいい。ありきたりでなんだけど。

私は単なるファンなので、ファンのことしかわからないが、例えば「昨日のK—1見た—？」と友達に尋ねたら、誰かしら「見たよ、あの佐竹の試合！」とか答えてくれる。そう答えてくれた人も、特別、格闘技が好きという子じゃなかったりする。

それじゃあ、「昨日のプロレス見た—？」と聞いてみよう。答えは「何？ いつやってんの？」である。くやしいのでプロレスについてあれこれ説明しても「ふぅーん」と、またしても引いてしまうのだ。

プロレスを理解しようとしない人間には、からみついてでもわからせろ!! とか自分で言ったくせに、実際、友達の反応全てに強気な態度に出られるようになったかというと、そうでもない。まったく個人的なことだが、私は小学生の頃、ちょっとだけ乱暴者だったので、私にかなわなかった男の子は捨てゼリフとして「女子プロ行け！」と言った。大きくなるにつれて「このままでは恐ろしい女になってしまう」と考えた私は、自分の周りから攻撃というイメージを遠ざけたい、と思うようになった。それ以来プロレスという言葉は私の中でコンプレックスになってしまった。正直、今でも「プロレス」と口に出すのに、少し抵抗がある。ところが遠ざけたいと思ってはいても、気付いたらプロレスファンになってしまっているし、やられたら3倍やりかえす人間に育ってしまった。私にとって、コンプレックスであるからこそ、余計にプロレスについて考えるのかもしれない。

話を戻そう。「K—1ファンです」と自称する人の中には、他の格闘技の知識がゼロの人もけっこういる。彼らにとってプロレスとかは、好き嫌いの前に「わかんない」のだ。無視されちゃってる。なんかイヤ、その余裕。

ファンじゃなくても見ているくらいの状況なのだから、プロレスファンからもK—1は丸見えだ。

〝隣の芝は青い〟というが、確かに青い。盛り上がり具合がハデだ。せっかくプロレスにこんない芝が生えているというのに、お隣は、芝が青い上にガーデニングまで施されていてご近所でも評判、という感じだ。

プロレスが今のK—1のようになればいいかというと、ちょっと…。ただ、あれぐらいの勢いに乗れたらいいと思う。大勢の人に訴えかけるには、大勢の人が見ていなければいけない。そのために勢いに乗って上にいるK—1にコンプレックスを持ってほしいのだ。

コンプレックスを持ったら、それを力にしなければいけない。K—1は「素人にもわかりやすい」のがウリの1つなのだから、プロレスはK—1を、ファンじゃない人が格闘技に入ってくる入口として利用しちゃえばいい。

K—1から入ってきた人間をプロレスにひきずり込め!! 同じ格闘技ならできないはずがない。本当にそれができるのはプロレスラーだけである。特にファンはたいしたことはできない。できることと言ったらK—1に対して、憧れではなくコンプレックスを持ちながら、プロレスを見続けることくらいだ。

がんばれ、プロレスラー!! ガーンといけえ、カーン（本名・小沢正志）！

（『紙のプロレスRADICAL.NO13より』）

帰ってきた

紙のプロレス PRESENTS

池袋の地下道場ではこんなことが行われていた!!

青空プロレス道場 REPORT

リターン・オブ・ブルースカイ・プロレス・ドージョー！『青空プロレス道場』が帰ってきました。今回も豪華ゲストが目白押し！　ステキなお話を聞かせてくれました。ジャイ子がちょっぴり教えてあ・げ・る｜

『リアル版　格闘議界から見たプロレス』

【第1回　10月28日】

【ゲスト】エンセン井上先生

（PUREBREDシューティング大宮ジム）

「オレが負けるって言ったヤツ、くたばれ！」

みなさーん、お久しぶり。3ヵ月ぶりに『青空プロレス道場』が始まりました。今度はなんと全10回！　恐ろしいですねぇ。なにが？って聞かないでね。ジャイ子、お菓子のこと以外、なんにも考えてないの。

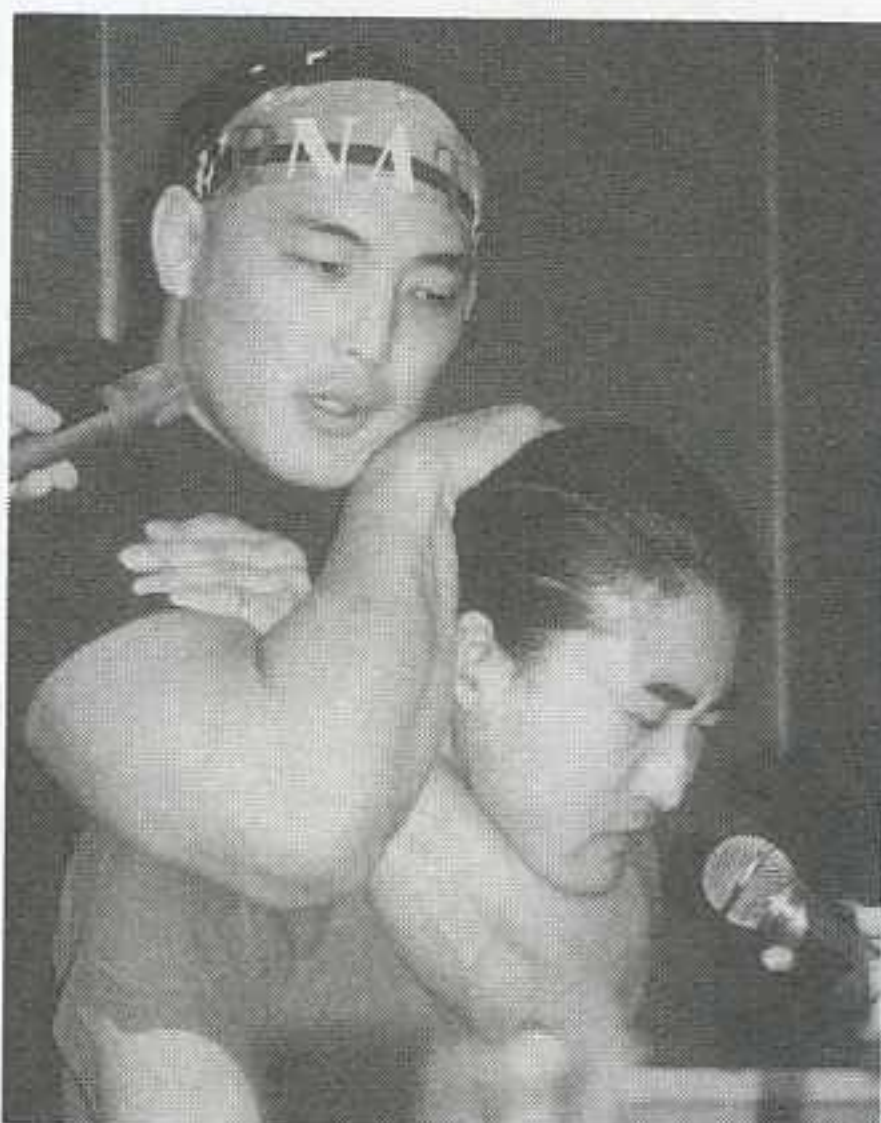
輝く第1回目のゲストはエンセン井上選手。なんと恋人（犬だけど）の修斗君を連れて登場！　やっぱりカルチャースクールにデカい犬連れた男（しかもエンセン）がいるっていうのはすごいよ。隣は手作りのカゴ教室とかやってんのに。

「オレが負けるって言ったヤツ、くたばれ！」エンセンは『VTJ'98』の試合後にリング上でこう言ったの。山口日昇にこの件でツッコまれると照れまくり「ザマアミロ！　って言おうと思ったら自然にくたばれ！って言ってたネ」。自然に「くたばれ！」と言える男、エンセン井上。ビバ！　賢い野蛮人。

この日は大和魂とは何か、『VTJ'98』の話、『PRIDE.4』の話、シューティングの話、プロレスラーとの対戦はあるのかなど、こう並べると『青空プロレス道場』っぽくない堅い話に見えるかもしれないけど、エンセンのトークはいちいちステキなのでノー問題！　もちろんケンカ話もあったし。エンセンいわく、「ルミナはハート強いネ、試合直前に髪の手入れしてるヨ。ワタシびっくりしたヨ。アッハッハ」とのこと。

ジャイ子が呑気に笑ってたところで大事件勃発！　ジャイ子、エンセンの愛犬、修斗君に強姦されちゃいました（涙）。修斗君さー、メチャメチャ力強くて抵抗してもダメなの。ここんとこ人間にも押し倒されたことないのに、まさか、犬に押し倒されるなんて夢にも思わなかったよ。マネージャーさん！　大笑いしながらビデオ撮ってる場合じゃないでしょ。「修斗はスタミナありますよぉ」ってさ、助けろっつーの。その頃、何も知らない壇上の恋人は「ワタシは殴って血が出るのとか好きネ」だって。アンタらお似合いだよ！　結局3回襲われ、ジャイ子は身も心もボロボロ。

「楽しくやらないとダメネ、楽しく殺すネ」

さすがの修斗君も3回襲って気が済んだのか、床でゴロゴロし始めたので、ホッとした瞬間、講座も終了。エンセングッズの即売会をしました。ジャイ子は横で翌日発売の『紙プロ』最新号を売ってたんだけどさ、寂しかったよ。みーんなエンセングッズしか買わないんだもん。やっぱり人気者は違うね。しょんぼりして早めに店じまいしちゃったよ。帰り際に修斗君に話しかけたら無視されるし。なんだよ、犬！　いじけモードで教室を後にして、道場生のみなさんとの飲み会に行きました。実は、この飲み会が縁でカップルも誕生してるの。今回参加しなかった恋人のいないアナタ、『青空プロレス道場』は、出会いの場でもあるんです！

エンセンの「技掛けて欲しい人、掛けるヨ」との呼びかけにビビった教室内は静まりかえる。しかし、勇気ある青年が！　一瞬で極まって声も出なくなってたんだけどね。

コレが証拠写真。修斗君、強そうでしょ、って、こんなの載せたら恥ずかしいじゃん。ジャイ子、また間違えちゃったよ。お父さん、お母さん、獣姦娘のジャイ子を許して。

紙のプロレス殿堂娘。

武田いづみの道場日記

大和魂ってなんですかね？　あたし、てっきり攻めて、攻めて、攻めまくることだと思ってたんですけど、エンセンいわく、「前に行く、攻めて行くことが大和魂ではない」んだそうです。では大和魂とはなにか？

「誰でも辛くないときや、体が痛くないときはがんばりたいって言えるでしょ？　でも、本当に辛いときにがんばることが大和魂」。なるほど。

この日は10月28日。ゲストのエンセン井上選手が出場した、『VTJ'98』は25日だったから、わずか3日後！　で、とりあえず、その新鮮なバリジャパでのエンセンvsクートゥアー戦を観ようということになりました。

バリジャパでも、他の試合はスポーツというか競技色ばかり強いものもありますけど、エンセンの試合はいつもケンカの匂いします。「スポーツじゃない。死ぬかもしれないって認めてるから、スポーツっぽくグローブつけたりしてるけど、ケンカだと思うネ」。やっぱり、やる側の心って観る側にも伝わる時はキッチリ伝わるもんです。

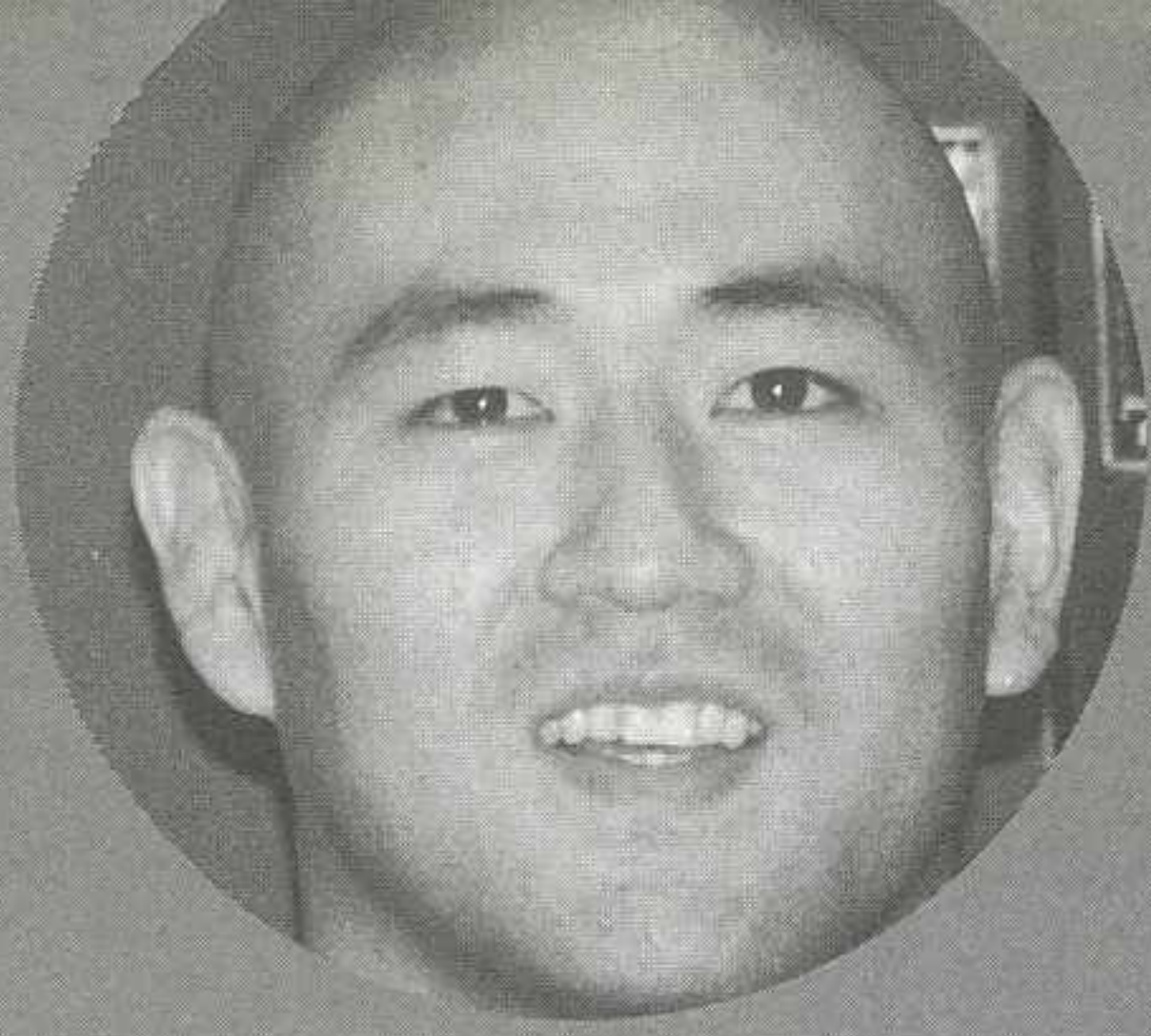
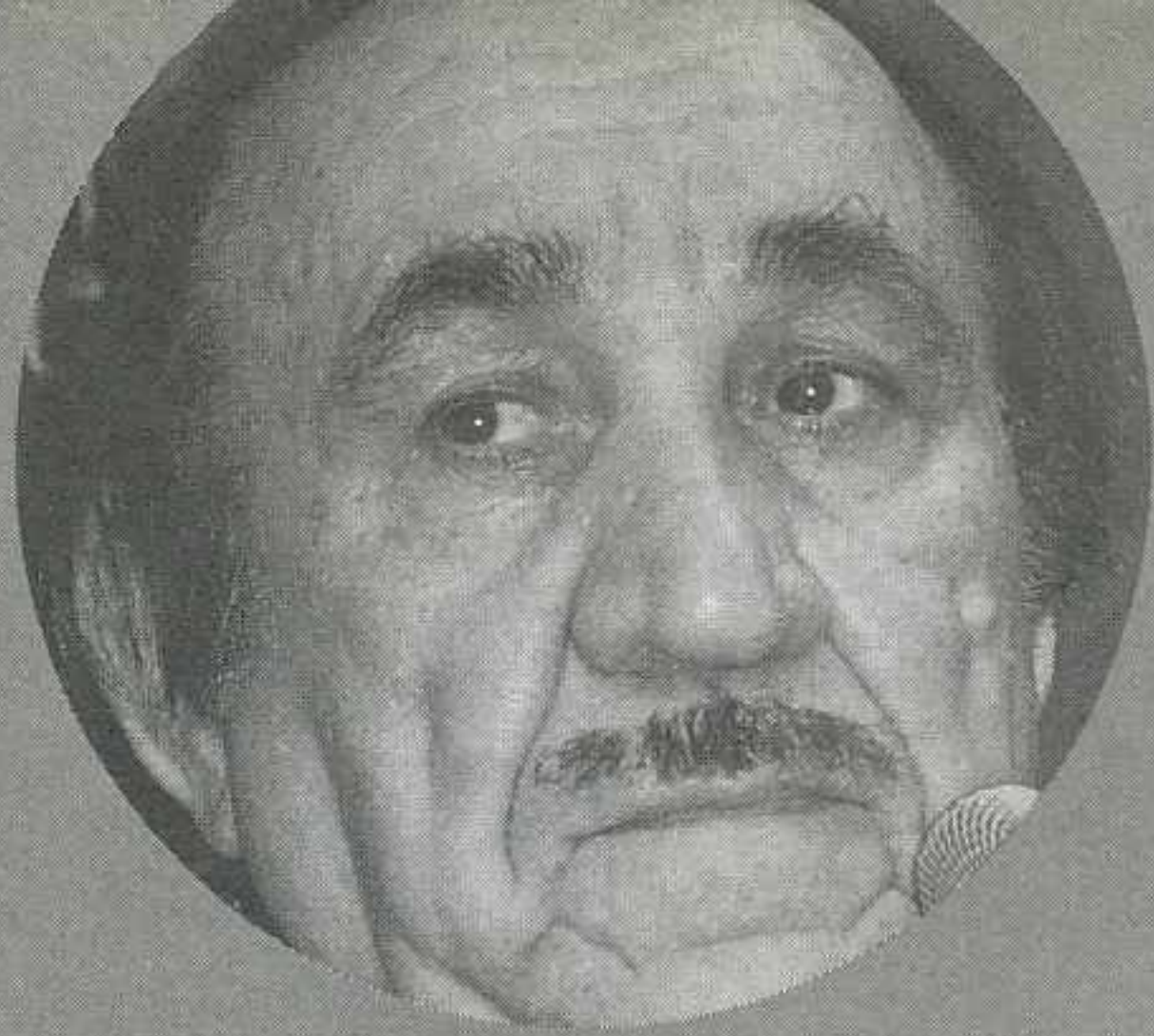
でもクートゥアー戦では「全然、大和魂みせられなかった」そうです。大和魂ナシであの試合?!　ってことは、エンセンの根っこにはケンカ魂があるんです。

ケンカといえば、この日、心から「ステキな人間のケンカ話はなんておもしろいんだろう」と思いました。でもね、エンセンは、ただ失礼な人間の頭はたいて帽子をすっ飛ばしたり、車へコましたり、警察に連行されたりしてるわけじゃないんです。失礼な人間がエンセンとケンカして痛い目見たら、その後「コイツもエンセンのようなヤツかもしれない」と思って他人に失礼なことをしなくなるだろうと思ってのことなんだって。どうよ、コレ?!もはや、エンセンのケンカは日本の世直しなんですよ！！

ところで格闘家（格闘技男でも可）というと、プロレス嫌いが多いけど、どうしてエンセンはプロレスとも仲良くできるのか疑問に思ってました。その答えはエンセンが2つの目を持ってるからなんです。「違う目で見たらプロレスも楽しいし、格闘技も楽しい」と。ただ区別してるだけじゃなくて、プロレスを認めた上で、違う目で見てるから、仲良くできるんです。この日来てた人の中にも2人だけプロレス嫌い（？）の格闘技ファンの方がいましたが、彼らも違う目を持てたらいいのに。格闘技男も。でもあんまりキッチリ分けられるようになったら、プロレスどうなっちゃうのかな。アメプロだらけになりそうな気も少しするんですけど……。

それにしても修斗くん、強そう。修斗くんとケンカしたらヒザ落としたって勝てそうにないです、ゴッチさん。でも全然コワくなくて、愛敬たっぷりでキュート♥　やっぱり犬は飼い主に似るっていうしね。

エンセン井上は正直者でした。いいものはいい、ダメなものはダメってキッパリすぎるほどキッパリ言ってました。確かに、問題になりそうだけど、非常に気持ちいいです。

だから、「大和魂とは何か？」と聞かれたら、私は「エンセン井上」と答えます！　正直者はバカを見ません！

『格闘パーマンが語るプロレス〜バーリトゥード』

【第2回 11月11日】

【ゲスト】アレクサンダー大塚先生（格闘探偵団バトラーツ）

アレクサンダー・トレインは3両編成だった

アーレークッ！　アーレークッ！　両国大会の青西高嗣氏（アレクのテーマ曲、『AO"corner』の歌い手さん）は熱かったね。その後の試合と同じぐらい熱かった。熱さだけはビンビン感じたんだけど、青西さん、どこで歌ってたの？　ジャイ子、わかんなかったぁ。

というわけで、この日のゲストはアレクサンダー大塚。ファミリー（のものも&愛ちゃん）withパンチ田原率いるリングスタッフの山口君（仕事もバリバリこなすナイスガイ）も来てくれました。

ゲスト誘導主任（たったいま決定）のジャイ子は『"AO"corner』が流れると同時にアレクに入場を促したところ、「まだダメだよ」と一蹴されちゃった。ごめんなさい、いつもサビのとこで入場するんだった。

まずは本人のコメント付きでマルコ・ファス戦のビデオを見ました。とっても贅沢。おかげでみんな、アレクのナマ毒舌トークも聞けましたね。これは貴重です。

この日はアレクに内緒のスペシャルゲストがたくさん。みんながビデオを見てる間に石川社長、モハメド・ヨネ、島田レフェリー、サウスポーがロビーに到着。サウスポーは偉い！　両国大会のPRだからあの衣裳で1日中走り回ってたの。石川社長はサウスポーの隣に座り、顔をのぞきこんでニヤニヤしてたよ。のぞきこまれてる女子はまったく動揺せず（or無視）ずっと携帯で電話してました。

『ファイト！　ファイト！　ファイト！』の曲とともにサウスポーが入場（もちろんジャイ子が誘導）。みんな、ビックリした〜？　サウスポーは道場生のみんなの前でも元気に踊ってくれました。ジャイ子もサウスポーに入りたいよ〜。『ジャイ！　ジャイ！　ジャイ！』なんてな。

サウスポーの歌が終わって、講座再開となったんですが、客席後方にスペシャルゲスト

サウスポーにもわかる？ "底力"の魅力

のみなさんが陣取ったから、収拾つかない。モハはガンガンツッコむし、石川社長はサウスポーに無理矢理質問させるしね。

終わったあとの飲み会の途中にもアレク一家&島田レフェリーが顔を出してくれました。なかなかいないよ、酒飲んだファンのとこにわざわざ顔出す人気者なんて。天狗にならず、こういうファンサービスができるのが"底力"っつーか。そーゆーことです。

アレクは『PRIDE.4』のときと同じTシャツで登場。さすが、お客さんのこと考えてる。おまけに山口君に着せる芳賀元太Tシャツまで持参。それはちょっと気ィ使いすぎ。

リングスタッフの一番星・山口君を囲んで「ファイッ！ ファイッ！　ファイッ！」この後親切なサウスポーは財布をなくした道場生にも「ファイッ！ファイッ！ファイッ！」

見て、見て。今回は今までで一番お客さんが来たの。DDTのマネージャー、ナオミ・スーザン嬢も日本語の勉強にきてたよ。「んむはぁ」って覚えたかなぁ？

紙のプロレス殿堂娘。

武田いづみの道場日記

第2回のゲストは、実は某大社長も注目していたアレクサンダー大塚選手です。

コミュニティ・カレッジの教室に入ったら、いつもと様子が違いました。だってイスだらけ。いつもなら机もあって塾の教室風なのに、今日はプロレスの会場みたいにダーッとイスだけ並んでて、目一杯、人が入れるようになってるんです。

そういえば『ゴング』にも今日やるってことが載ってたし、『紙プロ』読んでない人もわんさか来るんだ、きっと！　座りきれないくらい！　と思ったけどさすがに座れないほどわんさかは来ませんでした。イスがかなりあったしね。でも、それでもあきらかにいつもよりたくさんの人が来てました。イスが全部うまらなかったのはきっと、来るはずの人が渋滞にまきこまれたからでしょう。

今日も『AOコーナー』にのって、リングスタッフのニューフェイス、二代目芳賀元太こと、山口さん（高阪似のイイ顔）が愛ちゃんのベビーカーを押し、その後ろにアレク、というアレクサンダー・トレイン（3両だけ）で入場。それから『PRIDE.4』のあの試合を観ました。何度観てもいいというのに、さらに本人の解説付き。もちろん"スポーツ界のTK"の解説もみんなで楽しく聞きました。

ビデオを観ていて、あらためて感じたのはプロレスラーが外に出ていくときは、本人にもしそのつもりがなかったとしても、やっぱりプロレスを背負って行くんだなぁってことです。背負ってほしいし、背負ってくれるのがプロレスラーだと思うんです。1人の人間として闘うと言われても「応援できないよ……」と寂しい気分になります、私は。

その点、『PRIDE.4』でのアレクはプロレス界を、ファンごと全部背負いこんだ上で勝ってくれたから、とても幸せな気分になれました。背負いこんでくれたからこそ、「プロレスって、やっぱりいいなぁ」と思うことができました。もちろん「アレクって、やっぱりいいなぁ」と思ったのは言うまでもなし！

ビデオが終わると、謎の曲が。"サウスポー with モハメド・ヨネ"でした。さすがプロ。粒ぞろいでかわいかったです、4人とも。

今回はとってもゲストが多くて、石川社長、島田レフェリー、アレクの愛妻&愛娘の、のものもさんと愛ちゃんもいました。すごい！　豪華！　ストーン・コールド（？）もいた。

それからはバトラーツ今昔物語。私はウソみたいにふざけた団体だと思いました。毎日祭りをくりひろげる集団。それがバトラーツ。

両国大会とか、大きな大会は確かに祭りになるだろうけど、もうバトラーツ自体がなんとも言えず"祭り"なんだと思います。だから、ローカル興行でも、毎日"祭り"。そんな団体、観ないわけにはいかないでしょ。

私としては、レスラーや関係者の方にナマで書いちゃいけない話まで聞けるってだけで幸せだと思うんですけど、どうでしょう。直接質問もできるので、聞いてやろうじゃねぇかと思う人は池袋へ行くべきです。絶対！　……なんかCMみたい。まぁ、CMですが。

今回、「マルコに勝ったアレク」を見に来た人（いたか？）は、なにを見たんでしょう。とりあえずサウスポーは見たと思うけど。ファイト！　ファイト！　ガスト！

（アレク、タバスコ1本完食）

【第3回 11月25日】『YOUとは何か？』

【ゲスト】ユセフ・トルコ先生（プロレス界で一番強い人）

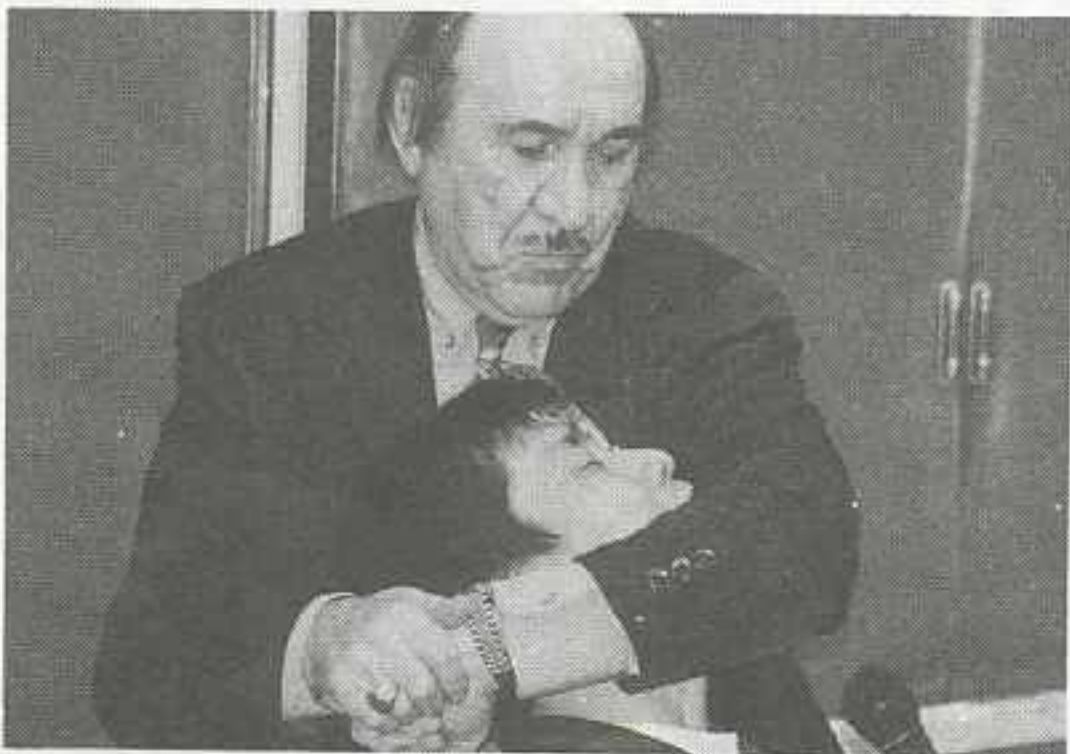
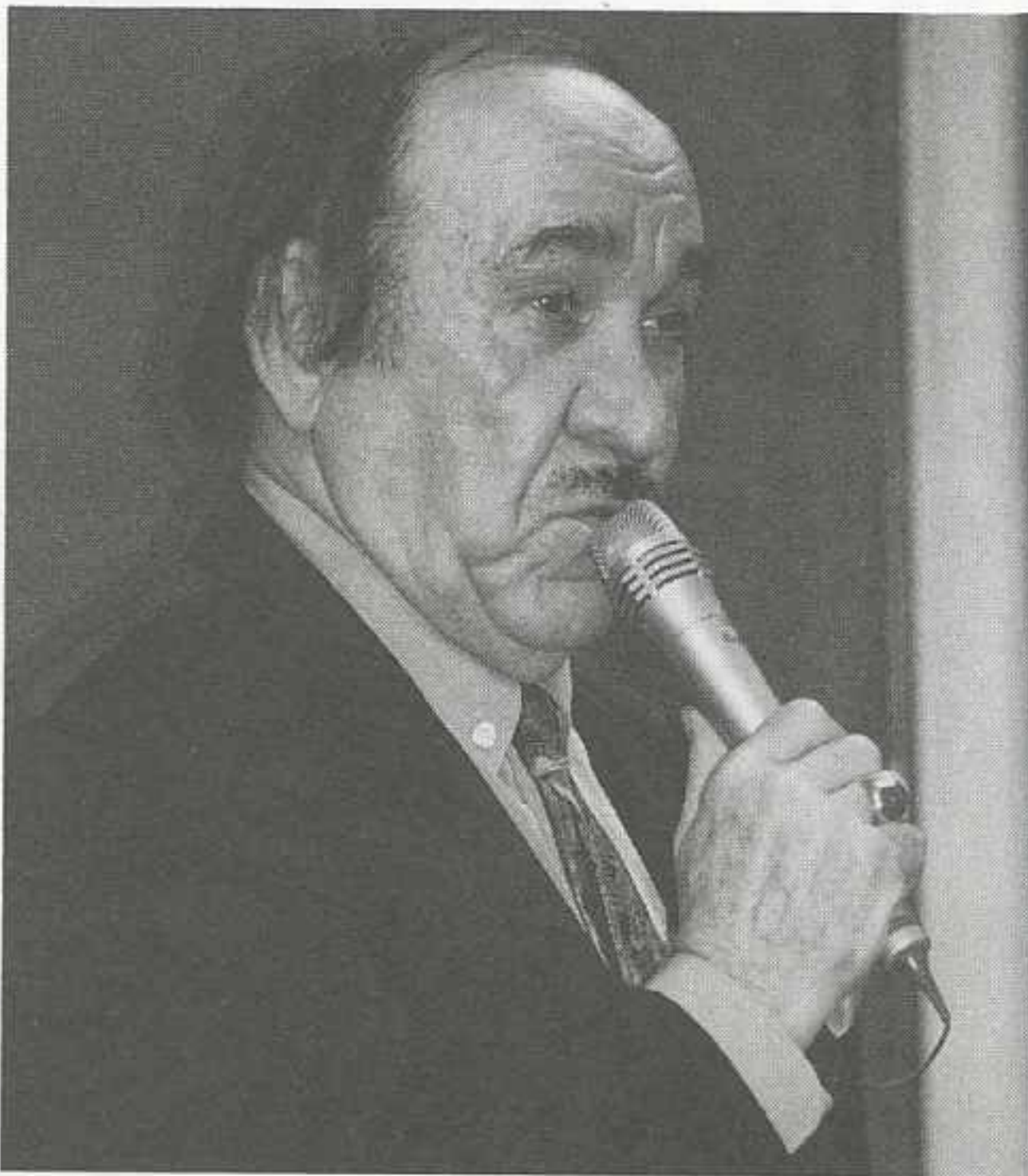
今でも新聞を死刑にしたいんだよ！

「生のトルコが見たい！」そんな道場生のみなさんの熱いメッセージを『紙プロ』が聞き逃すはずがねぇんです！　というわけで、今回はユセフ・トルコ先生にきていただきました。

トルコ情報をどこで聞きつけたか、落武者or恋する中年、ターザン山本氏も来校。トルコがくる前の『紙プロ・ここだけの話コーナー（仮）』に参加してもらいました。最近のターザンといえば恋愛。インターネットや一般誌上で25歳年下の彼女のことを書きまくり、業界（少なくとも『紙プロ』編集部）内の話題を独占中。なんでも年内に100通のラブレターを彼女に出す、というのが目標とか。この日の時点で88通だそうです。いいなぁ。ジャイ子も愛されたいよ。

飛び入りゲスト、ターザン。単行本化に向けて彼女へのラブレターを書きまくる毎日。インターネットの『マイナーパワー』ではターザンのホットなのろけ話が毎週読めます。

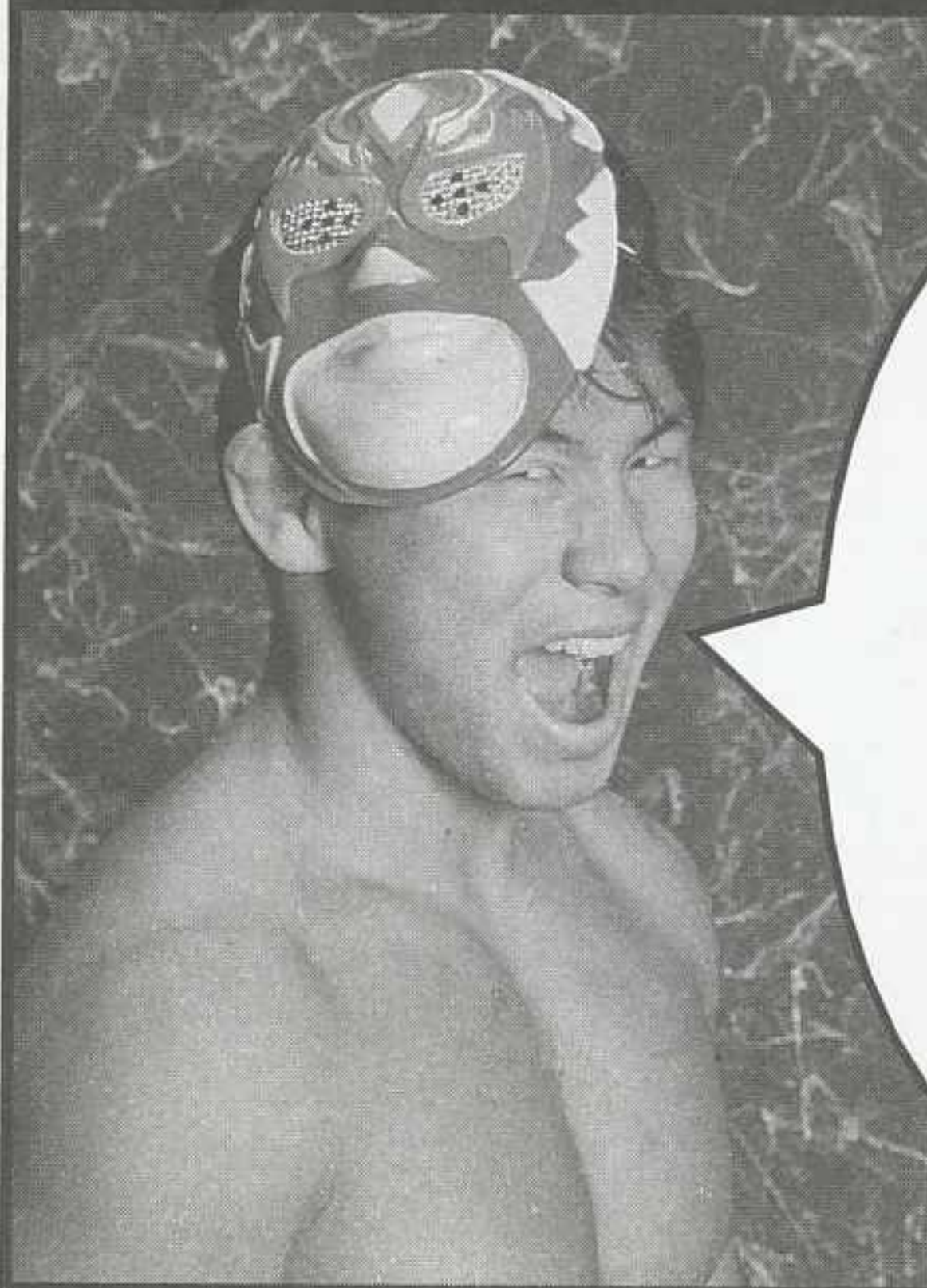
誰だっけ？ あのカウボーイ。あ、スタンセン、スタンセン！

そして、日本プロレスの残党、ユセフ・トルコ氏（フェイバリット・ソングはマイウェイ）の登場。年齢を聞かれるなり、「来年シックスナインだよ」と、心の準備なんて誰もできちゃいないうちから下ネタ攻撃。こんな爺さん初めて見た。ジャイ子は仕事の都合（お使い）で、このへんで帰ったの。結局、ビデオで見たんだけど、悔しい！　ナマで見たかった。山口日昇と吉田豪の話をまったく聞かず、教室内はオンリー・トルコ。大仁田のことは「ああ、電気屋ね」と言い放ち、猪木のことは「アントニオ花王石鹸」、「力道山に『朝鮮人』と言ったのは私だけ」等々、ギャグだかバグだか知らないけど（トルコ調）トルコ節炸裂！　もちろん、トルコならではの貴重な話も盛りだくさん。日本プロレス時代から、小川まで、マット界を語り尽くして（？）くれました。高見山と千代の富士を迎えて新団体つくろうとしてた話なんて、みんな知りたいでしょ。教えないけどね。あとね、グレート東郷をボコボコにしたときに警察に呼ばれたトルコは、壁に自分の拳を叩きつけ、その拳で自分の顔をも殴り、血まみれになって出頭したんだって。警察もびっくり。結局、ケンカ両成敗でトルコは無罪放免となったの。「私が殴った2年後にグレート東郷は死んじゃったよ、ガッハッハ」と呑気に笑い飛ばすトルコに犬殺し・山口日昇率いる東京シュガーベイブ魂を感じたね（『紙プロ』本誌参照）。

突然、山口日昇に思いつきの技を掛けるトルコ先生。「フェイスロックだか、チョークスリーパーだか、ツバかけられんだか、さっぱりわかんなかったよ」（山口日昇・談）

その昔、全日から新日へブッチャーを引き抜いた実績を持つトルコ先生。「引き抜くのうまいんだよ、オレ。センスあんだよな」（トルコ・談）でも報酬は踏み倒されたんだって。

紙のプロレス殿堂娘。

武田いづみの道場日記

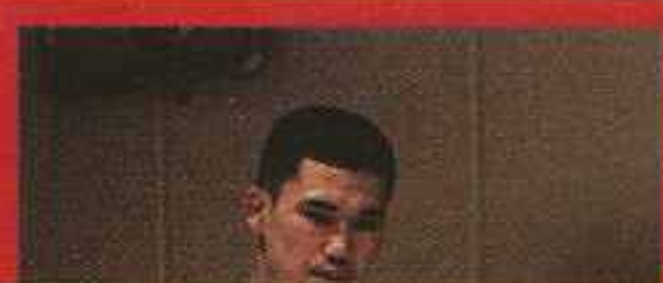
講座に行きたい気持ちはありますが、おかあさんが「あんた、いいかげんにしなさい」と、ついに言いました。確かに、受験勉強は誰が見ても「ヤバい」状況です。特に英語。それに加えて私がよく眠るので、いいかげんにしろということでしょう。そんなこと言っても寝るけど。目標は努力しないで合格することです。

谷津嘉章参戦決定！ 12月23日、池袋に集え！

俺も出して下さいよ。なんでもしゃべりますから。（ほっぽんとうですかぁ「紙プロ編集部」）

どーも、どーも。ジャイ子です。12月23日の『青空プロレス道場』には、なんと、あの谷津嘉章選手がゲストで登場します。どんな話が飛び出すか、ドキドキですねぇ。そして写真の村浜選手は自ら名乗りをあげてくれたの。男らしいぞ！村浜。でも詳細は未定。まあ、結局は次回のゲストしか決まってないんだけどね。だから告知することも、もうないの。告知コーナーなのに申し訳ないんだけど、日程は裏表紙に載ってるしさ。せっかくだからジャイ子がここ、いただいちゃいま～す。

まず、たったいま入ってきたニュース。12月7日、ターザン山本、ラブレター100通突破！　半年ぐらいでよく書いたもんだよね。ターザンは100通突破記念に彼女になんかもらえるそうです。アツアツなんだね。

ジャイ子、こないだ初めてアキラ兄さんに会ったの。「ジャイ子です」って言ってんのに、兄さんは「なんや、ジャミラか？」と延々ジャミラの説明してくれました。水に弱いらしいよ、ジャミラ。兄さんはジャイ子に、「ちょっと、メガネ取ってみぃ」「前髪上げてみぃ」と命令。ジャイ子、ちゃんと言うこときいたのに、ジャイ子の顔見て兄さんどっか行っちゃったの。しかも無言で。あとね、ジャイ子が立ってたら、「なんや、身体はデカいのに胸は小さいんやな」だってさ。いいじゃん！　でもちょっぴりショック。母親に買ってもらった豊胸マシーンでデッカくすることを決意したよ。ちなみに豊胸マシーンは、貧乳なジャイ子を嘆いた母親が、勝手に買ってきたの。いい母親でしょ。使ってみたところ、効果はまったくないんだけどね。

ジャイ子は今月もどこに行ってもいじめられてしまいました。でもね、全女に行ったときだけは別。高橋奈苗選手はジャイ子がなくしたカメラのキャップを寒い中、一緒に探してくれたよ。実はノブが持ってたんだけど。ありがとう、奈苗！　ジャイジャイ。

Professional Wrestling

噂のインディー団体 D²T の真相！

Dramatic Dream Team

高木三四郎 interview

スーパー宇宙パワー

仮面シュータースーパーライダー

木村浩一郎

三上恭平

佐々木貴

黒影

レフェリー ジャッジ金子

高井憲吾

勇作

大作

DDTマネージャー ナオミ・スーザン

Dramaticが DDT 止まらない！

菊澤光信（フリー）

DDT練習生 佐藤恵実

リングアナ 木村拓郎

聞き手／チョロ
Interview by Choro
撮影／ジャイ子
Photographs by Jai Jai

喧嘩プロレス 二瓶組組長 二瓶一将

鴨居長太郎（二瓶組）

タノムサク鳥羽（二瓶組）

西野勇喜（フリー）

アジアン・クーガー（フリー）

ファントム船越（フリー）

矢口壹琅（神格闘十字軍）

エキサイティング吉田（神格闘十字軍）

キミは『1・2の三四郎』を読んだことがあるか？　東三四郎をはじめとする愉快な男たちが繰り広げるベスト・オブ・プロレス漫画である。プロレス界でも、アレクサンダー大塚、桜庭和志、金本浩二など、この漫画に影響を受けたプロレスラーはごまんといる。そして『1・2の三四郎』に影響を受けたプロレスラーがここにも一人、彼の名は高木三四郎。東三四郎に憧れ、柔道を始め、レスラーデビューを果たすと、自ら三四郎を名乗り始める。そればかりか団体名まで『1・2の三四郎』に出てくるインディー団体『Dream Team』をさらに劇的に、『DDT（Dramatic Dream Team）』と名付けた。漫画の世界を見事なまでに立体化した男・高木三四郎が語る、噂のインディー団体『DDT』の真相！
さぁ皆さんも一緒に、イーチッ、ニーッ、サンシロ――ッ!!

今でも新
死刑にし

「生のト
みなさんの
き逃すはず
回はユセフ
た。
トルコ情
or恋する中
コがくる前
ー（仮）』に
ーザンとい
誌上で25歳
業界（少な
題を独占中
レターを彼
この日の時
ジャイ子も
飛び入りゲス
女へのラブレ
ットの『マイ
のろけ話が毎

——アレク（サンダー大塚）さんの「夢は東三四郎と闘うことです！」っていう発言が広まってから、ちょっとした『1・2の三四郎』ブームが巻き起こってるんですけど（笑）、やっぱり『1・2の三四郎』と言えば、高木さんじゃないかなって思って。

高木　ハッハッハッ！　やっぱり世代的に影響を受けましたからね。リングネームもそうですし、ウチの団体名も『1・2の三四郎』のドリームチームから来てますからね。でも『1・2の三四郎』って大塚さんっていうイメージが付いちゃいましたよね。これからは『プロレススーパースター列伝』でいこうかな（笑）。

——アハハハハ！　でも最近のDDTの会場は、ホント若い男子、女子が非常に多いですよね。それもクラブ系というか。今やシューティングかDDTかってくらいですけど（笑）。

高木　そうですかぁ（笑）。まあ自分がイベントとか結構やってたんで、その頃の知り合いとかがよく来てくれるんですよ。でも相談相手とかそういうノリですね（笑）。なんにもおいしいことは無いッスよ（笑）。

——アハハハハ！　でも高木さんのプロフィールには「女子高生キラー」とか書いてますよね（笑）。

高木　ハッハッハッ！　来年は「短大生殺し」にしました（笑）。

——捕まらないように気を付けて下さい（笑）。それで今日は噂のインディー団体DDTの真相を伺いに、はるばるやってまいりました。

高木　ハッハッハッ！『紙プロ』さんとウチの事務所はメチャメチャ近いじゃないですか。

——徒歩10分ですけどね（笑）。そういえば高木さんはSWSにハマってたって聞いたことあるんですけど（笑）。

高木　ホントSWSは何故かわからないですけどハマってたんですよ。

——今『紙プロ』ではSWSを再評価してるんですよ。あんな素晴らしい団体はなかったんじゃないかって。

高木　読みましたよ～「SWS多重アリバイ」。メチャメチャ面白かったですよ（笑）。今考えてもSWSは斬新なことたくさんしてましたからね。5カウントルールだとか。結局やらなかったですけど（笑）。あとワンナイト・トーナメントなんてSWSが一番最初じゃないですかね。そういうのを見て、面白いことやってるなぁって思って。

——高木さんは、レスラーとしての顔とともにプランナーとしても注目されてますけど、SWSもいろいろと参考になる部分があったわけですか？

高木　そうですねぇ（笑）。まあ当時と今は違いますからねぇ。でもホントSWSは衝撃的でしたよ。ボクなんかもお金が無限大にあれば、いくらでも面白いことをできるっていう自信はありますけどね。でも今の段階では、選手としてももっともっと認められなくちゃいけない段階ですからね。

——そういえばSWSには高木さんの師匠でもある高野（拳磁）さんも鶴見（五郎）さんもいましたよね。

高木　そうなんですよ（笑）。高野代表と鶴見さんがボクのプロレスの師匠だと思ってますし、凄く影響を受けましたね。代表はやっぱり新日出身なんで、「やるんだったらボコボコにやれ！」っていう教え方なんですよ。それと意外と思われるかも知れませんけど鶴見さんもそういう人なんですよ。

——それは意外でしたね（笑）。

高木　鶴見さんは伊達にプロレスのキャリアを積んでないですよ。SWSのコーチをやってたのも鶴見さんですし。手抜いたことしようもんなら、「そんなことやってたらプロじゃない。お前らがやってるのは遊びだよ！」って怒られちゃいますからね。あと鶴見さんは「プロレスは格闘技なんだよ！」っていつも言ってる人ですからね。今は怪奇派とかとやってますけどね（笑）。でも鶴見さんと代表のそういう部分を見てるんで、ボクも下の選手には「いいんだよ、いれちゃえ、いれちゃえ」って言っちゃうんですよ（笑）。

——「いれちゃえ、いれちゃえ」ですか。男らしくていいですね（笑）。

高木　技量がなくて、変なチョップとかやって笑われるんだったら、思いっきり殴って「オォ～」って思われる方がいいじゃないですか？

——それはそうですね。

高木　変な関節技やるんだったら、逆エビで反って絞ってっていう方がわかりやすいじゃないですか。最初イメージしていたDDTのスタイルっていうのは、昔の新日さんなんかの前座スタイルなんですよ。技術が足りない分、ボコボコに殴り合って、血が出ても吐いても、小手先のテクニックにとらわれずにやるっていう。

——確かに昔の新日の前座試合ってある種伝説になってますからね。前田さんと平田さんの殴り合いとか、とにかく凄かったらしいですからね。

高木　そうなんですよね。それが三上が出てきたりとか、野沢（一茂＝退団）がルチャを入れたりして。それでいて木村さんとかはガチガチの格闘技路線なんで、そういうのが混ざりあって今のスタイルになったんですよ（笑）。最初は前座スタイルをメインに持ってきたらこういうふうになるんだよって言うのをやってみたかったんですよ。

——今は新日に限らず、前座試合って昔と比べると変わってきましたよね。一試合目から空中殺法とかバンバン出ますからね。その中でバトラーツは、失われつつある前座スタイルをやっている団体として評価されてますよね。

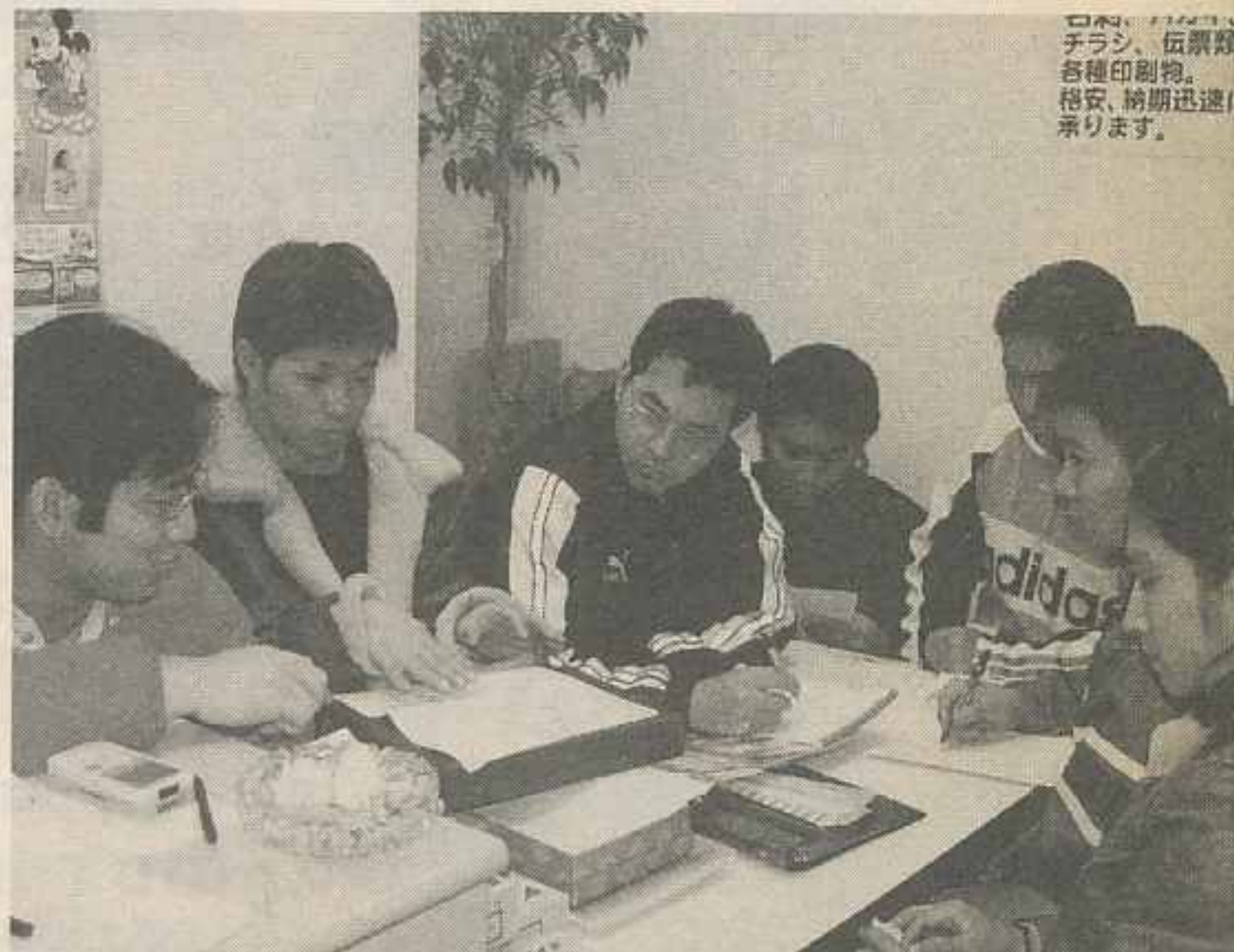
高木　そうですすよね。でもバトラーツさんのスタイルっていうのは、U系の確かな技術があってできることだと思うんですよ。それだったらウチはプロレスのプロとしての技術での前座スタイルですよね。関節じゃなく、腕取ってエビ固めにいったりっていう部分から入るっていう感じで、そういうのを目指した部分ってあったんですよ。今はそこからはちょっと離れてきましたけど、それは選手個々の技量が上がってきたってことだと思うんですよ。でもこれからは気迫以上の技術や強さも見せなきゃいけない段階ですからね。ボクは、全日スタイルっていうか、受けて受けてっていう、間を作っていうのが好きだったハズなのに、今は違うスタイルの方がしっくりきてますから、不思議なもんですよね。

——やっぱり鶴見さんや高野さんの影響が大きかったんでしょうね？

高木　レスラーとしては鶴見さんと、高野代表の影響が大きかったですね。それでDDTのプランナーとしては（笑）、テレビ局での制作会議のノリなんかを活かしてますね。

——そうか、高木さんはフジテレビでADをやってたんですよね。

高木　そうなんですよ。テレビの制作会議って結局アイディアの出し合いなんですよ。どんなくだらないことでもいいから、一時間、二時間の間に、「これやろう、あれやろう」って言い合うんですよ。それについていけなければ「もう来なくていい！」って言われますし、シビアな世界ですよォ。ウチの団体でも、ど

某団体の器物破損、及び使用料未払い等により、11・17DDT大会をもってプロレス団体は使用禁止となった北沢タウンホールが、急遽来年度も使用可能となった。一転して使用許可が下りたのも署名運動を行ったDDT側の熱意の賜物である。

劇的夢軍団DDTでは選手＆フロント参加のミーティングを頻繁に行っている。「マット界特有の派閥を生まないためには、このようなミーティングで議論を交わし、選手間での隠し事をなくすことが重要」と高木は言う。

んな小さなことでも、とりあえず意見を言い合って決めていこうって方向ですね。あと大事なのは、いいものはいいってハッキリ言うことですね。簡単なことですけど、それが言えない団体って多いですから。

——例えば全日本で、若手が馬場さんに意見を言っている光景ってあんまり想像できないですからね。

高木 そうですね。でもそういうミーティングとか必要ない団体もあると思うんですよ。特にメジャー団体とかは、フロントがそれをやればいいと思いますし。選手は選手としての意識を持って、面白いもの新しいものを考えればいいと思うんですよ。でも、インディー団体って、フロントを抱えてるところなんて少ないじゃないですか？

——少ないですよね。みんななんらかの業務を兼任してるっていう団体が多いですからね。

高木 ですよね。それだったら選手間でドンドン意見を言い合ってやっていかないと、いいものは生まれてこないと思うんですよ。それと大事なのは、やっぱりプロレスって〝仕事〟じゃなくて〝闘い〟だと思うんですよ。確かに〝仕事〟って言えば〝仕事〟なんでしょうけど。〝仕事〟って割り切ってる人って結構いるじゃないですか？

——冬木（弘道）さんとかは、プロレスは〝仕事〟って言い切ってますよね。

高木 ですよね。ボクはそれは良くないと思ってますし。プロレスは〝闘い〟だって思ってますから。冬木選手なんかは〝仕事〟って言ってても、やっぱりやってることは〝闘い〟じゃないですか。だけど技量のない選手とかが〝仕事〟って割り切っちゃうっていうのは、ボクから言わせれば冗談じゃないって思いますから。結構いるんですよ〝仕事〟でいいと思ってる選手って。

——そういう選手はやっぱり見ててわかっちゃいますからね。

高木 そうなんですよ。だからDDTの最初のコンセプトは〝気迫〟。〝気迫〟ってなにかって言ったら、ウチらは正直言って最初は技術もなかったですから、何を見せられるかっていったら、もう〝バチバチ〟。バチバチって言ったらバトラーツさんかぁ（笑）。ん〜、だからホント〝ボコボコ〟ですよね。

——それはしっくりきますね。

最初イメージしてたスタイルは昔の新日の前座スタイルなんです。

高木 〝ボコボコ〟の試合ですよ。宇宙パワーに目一杯の力で蹴られて、ボクらは目一杯痛い。痛がるんじゃなくて、痛いと。関節もギューってやられて、痛がるんじゃなくて、痛い！　悔しかったらこっちも殴り返せばいいだけの話なんですよ。それが最初のコンセプトでしたから。

——下手なプロレスを見せられるんだったら、気迫を前面に押し出した闘いの方が、観客の心には届きますからね。

高木 だと思うんですよ。ボクらは所詮デビューして2、3年なわけですから。それで〝仕事〟だっていう意識を持ったら、やっぱりおかしいと思うんですよ。それに今は嘘がつけない時代ですからね。関節技一つ取っても。

——やっぱりバーリ・トゥードとかが出てきてから、「あの関節技極まってないよ！」とかツッコミを入れるファンが増えてきましたよね。そういう意味では一昔前に比べるとファンの目も肥えてきたって感じるんですけど。

高木 ホントそうですよ。正直今はそういう時代なんで、やっぱり確かな技術を持ってなければお客さんを納得させられないんですよ。ボクらは最初ほんと〝ボコボコ〟にやられてるだけだったんですけど、ガードを覚えることによって捌けるようになる。それで反撃できるようになる。グラウンドでも最初は寝かされてヒーヒー言わされてたのが、そこから返していく技術を覚えていきましたし。でもウチはベースの部分はやっぱりプロレスなんで、そこは崩したくないんですよ。例えばそのベースの中でも要らないものとか変えてもいい部分ってありますよね？

——それはどういうところですか？

高木 例えば運営方法なんかでも、今まではフロントがカチッといて、選手がいてっていうやり方が多かったですけど、そんなのは別に変えちゃっていいじゃないかと。あとは、もっとマーケティングをちゃんとやろうとか。

——インディー団体なんかは特にソフト面の充実ばかり計る傾向が強かったじゃないですか。ハード面に目を付けるっていうのは、そんなになかったと思うんですよ。そこまで目を向ける余裕が無いってのもあるでしょうけど。

高木 そうですよね。でもボクなんかは、特別なことをやってるっていう感覚はあまりないんですよ。むしろ、やり足りないなって思ってますから。

——例えばDDTでやってる女性無料っていうのは、クラブとかテレクラとかでもよくありますけど（笑）、プロレス界では斬新でしたけどね。

高木 それはよく言われますね。あの企画なんかもそうなんですけど、ウチが凄く自信を持ってるのが、まあどこの団体さんもそうだと思うんですけど、一度試合さえ見に来てくれれば、次も見に来てもらえる自信があるんですよ。だけどそのキッカケがないじゃないですか。結局、「見に行こう！」って思わせる何かがないとダメですからね。そう思わせるには話題性が必要なんですけど、ウチなんて話題性っていったら弱いじゃないですか。「DDTなにそれ？」って言われたらそういうことをするしかないですから。とりあえず女性無料って聞けば女性は食いつくじゃないですか？

DDTマネージャー ナオミ・スーザン プチインタビュー

——ナオミちゃん、なんでDDTに入ったの？

ナオミ Because When I was walking on street in New York, Takagi asked me to be DDT manager.（ニューヨークを歩いてたら高木さんにスカウトされたの。）

——それですぐ来ちゃったの？

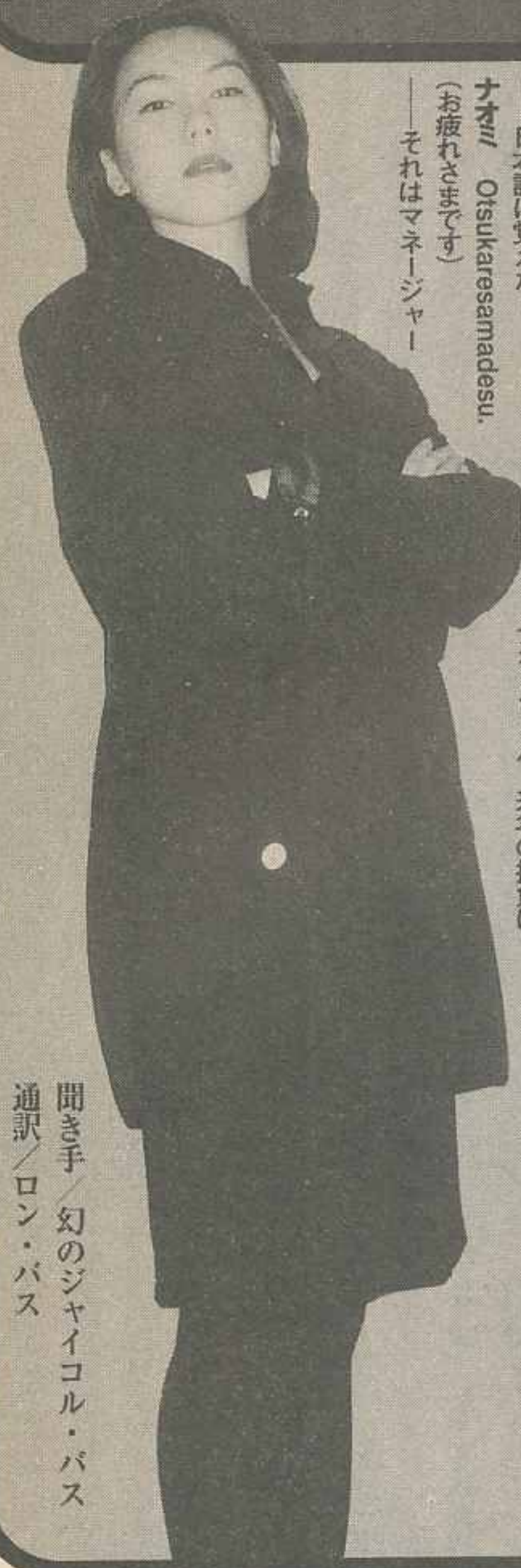
ナオミ Yes!（そうなの〜）

——え？　じゃあ、高木さんと付き合ってるんだ。

ナオミ No, We're just friend. I'm here, because I love DDT.（ノー！　彼はお友達よ。ワタシはDDTが好きなの－！）

——じゃあ、そのDDTの魅力は？

ナオミ I think that their passion & young power.（パッション、アーンドヤング・パワーね－！）

——日本語は覚えた？

ナオミ Otsukaresamadesu.（お疲れさまです）

——それはマネージャー的には大事だよね。他には？

ナオミ ………。

——じゃあ、ナオミちゃんのチャームポイントは？

ナオミ My Japanese. It's almost perfect.（ワタシの日本語かな。完璧よ－！）

——……アメリカン・ジョークも聞けたところでナオミちゃん、DDTの紅白闘合戦では紅組の司会なんだよね。

ナオミ Yes! I'm sure that red team will win a splendid Victory.（そう。絶対紅組が勝つわよ）

——じゃあ、DDTの来年の見どころは？

ナオミ They're going to get Dramatic Dream. I know it.（彼らはドラマティック・ドリームをゲットするのよ！　ワタシにはわかるの）

——ナオミちゃん、来年の抱負は？

ナオミ I want be like a every member's family of DDT. And I really want power which I can support them. Prease talk to me anytime.（DDTにナオミありって感じで、みんなに認知されたいですね。いつでも気軽に話しかけてね）

——あ、英語でね。

ナオミ Yes!

——最後に、ナオミちゃん、ジャイコル・バスって知ってる？

ナオミ Yes, Of course. Needless to say I know. I'm a Jaicol Bass fanatic.（もちろん！　ワタシはジャイコル・バスフリークよ）

——ナオミちゃん、私はフリークスじゃないよ〜。

聞き手／幻のジャイコル・バス
通訳／ロン・バス

——食いついて欲しいですね（笑）。

高木　それ目当て……、じゃないですけども、「女性無料なんだぁ。じゃあ女の子いっぱい来るのかな？」っていうキッカケでもいいんですよ。

——そういう不純な動機でも全然構わないんですよね、一発目は。

高木　構わないですよ。とにかく見に来てくれさえすればいいんですよ。そっから引っぱり込んじゃえば、こっちのもんだっていう自信がありますし。

——実際、女性無料の効果は出てますよね。ホントDDTの会場には女性ファンが多くて嬉しい限りです（笑）。

高木　多いんですよ（笑）。今は対象は女性だけなんですけど、今度はまた2、3違うのを考えてますけどね。そうやってドンドン新しいファンを開拓していかないと、もちろん古いファン……っていうワケじゃないですけども、旗揚げ当時から応援してくれた人たちも残して、惹き付けさせて。

——それって一番難しいことなんじゃないですか。団体が大きくなる過程には、どちらか切り捨てなきゃならないってよく言いますよね。

高木　難しいですよ～。すっんごい難しいですよ。ボクも今それで悩んでますから。でも、ボクはそれをやりたいんですよ。そのカギを握るのは、昔からずっと言ってるんですけど、選手個人個人の色が出るような、誰々のプロデュース興行っていうのを本興行とは別枠で考えてるんですよ。

——高木三四郎プロデュース興行っていう形を考えてるんですね。

高木　そうですそうです。そういうプロデュース興行を見て、また違ったファン層が生まれるじゃないですか。例えば木村（浩一郎）さんがプロデュースしたら、間違いなく……。

——格闘技色の強い興行にするでしょうね、木村プロデューサーは。

高木　格闘技色っていうより、格闘技そのものの試合になると思うんですよ。今のところ考えてるのがアマチュア格闘技の大会にしようと。その中にプロの試合を入れて。それでボクのプロデュースになると、今度はまた、オチャラケたいワケじゃないですけども、怪奇派出してみたりとか（笑）。

——高木さんは結構好きなんですよね、そういった試合も。

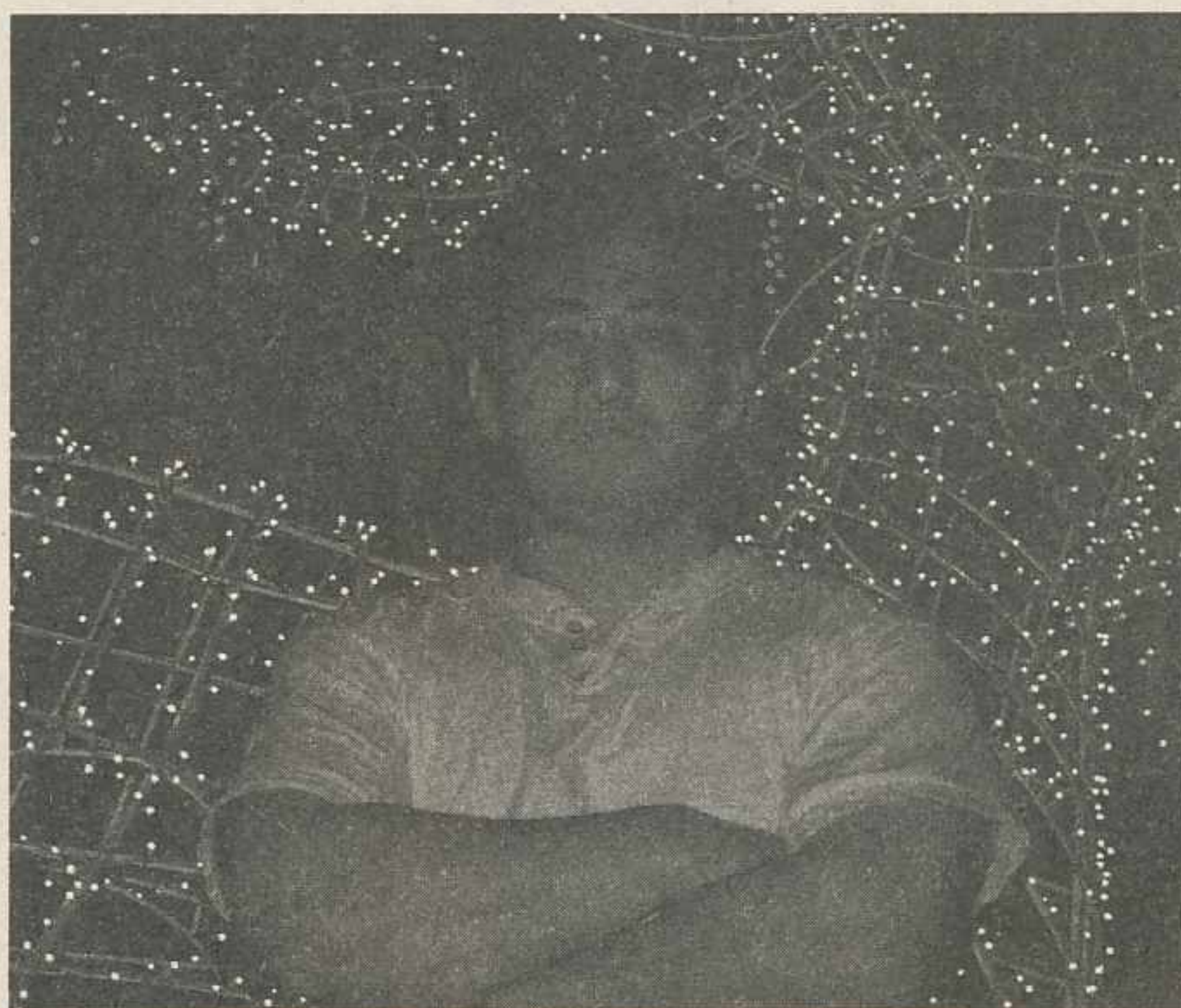
高木　怪しさ満点の試合（笑）っていうふうにやっていきたいなぁっていうのがあるんですよね。もしくはクラブで興行をやったりとか、ボクがやるとそうなりますね。三上（恭平）がやると、軽量級ばっか集まった試合。（ジャッジ）金子さんがやると、デスマッチ色の強い試合とか（笑）。あの人はガチガチのデスマッチ派ですからね。

——アハハハハ！　ガチガチのデスマッチ派（笑）。そういった各々プロデュース興行でお客さんを引っ張ってきて、DDTの本興行にも足を運んでもらえればベストと。

高木　そうなればベストですよ。ベースは新日に対する無我であったり平成維震軍なんですよ。やっぱりメジャーさんがやってることっていうのは勉強になることが多いんですよ。

——でも、それはよっぽど本隊がシッカリしてないと共倒れになってしまう可能性もありますよね？

高木　そうなんですよ。だから本興行はボクは今のところは月1ペースでいいと思うんですよ。それにプラス、2ヶ月に1回ぐらいプロデュース興行があって、その隙間を埋めるような形で地方が1ヶ月に1回あればいいなって。月に2回ぐらいのペースでやっていければいいと、今の段階では。だからシリーズ展開っていうのは考えてないですね。まあ大きいスポンサーがドーンと付いて地方興行をしきれる人がいれば、話は別ですけどね（笑）。

——スポンサーは常時募集中と（笑）。

高木三四郎【たかぎ・さんしろう】昭和45年1月13日、大阪府豊中市出身。178cm／90kg。平成7年、vsトラブルシューター・コウチ戦でデビュー。IWA格闘志塾～PWC～フリーを経て現在はDDTで活躍中の熱血男。同時にマット界に数々の斬新なアイディアを持ち込み、インディーマット界を席巻しているDDTの頭脳でもある。デンジャラス・ドラゴンスリーパー高木DDTという言葉の意味はわからんがとにかく凄い必殺技を持つ。

——あとDDTでは、インターネット、パソコン通信、会場アンケートなんかもそうですけど、マーケティング活動は盛んにやってますよね。

高木　会場アンケートとかはライブとかコンサートに行けば、よくあるじゃないですか？

——そうなんですけど、DDTのアンケート用紙には、「一番良くなかった選手」とか、「今日の興行はいくらの価値があるか」とか、結構シビアな項目がありますよね。

高木　良くない選手の項目を設けるか設けないかで凄く揉めたんですよ。でも「それの項目を設けないと、一生気付かないですよ」って言って入れたんですよ。今は入れて良かったと思ってますね。選手も気にしますからね。

——この間の興行でもアンケートを見て落ち込んでる選手がいました（笑）。

高木　フッハッハッ！　でもその結果によって向上心が出てきてくれればいいんですよ。それだけの話です。

——あと「今日の興行はいくら？」っていう項目もありますよね。

高木　ホントにシビアですからね～。千五百円とか平気で書かれたりしますからね（笑）。最近は5千円、6千円っていうのも多いんですよ。定価以上のものを見せられてるかなって。

——お客さんの満足度がストレートに伝わって来るんですね。ホント直球勝負って感じですけど（笑）。

高木　そうなんですよ。あの項目も入れて正解でしたね。プロレスのチケットってやっぱり高いじゃないですか？

——確かに内容以上のチケット代を取ってるところも結構ありますからね。

高木　ですよね。それもなんとかしたいなっていうのもあるんですよ。ウチのチケット代って多分一番安いと思いますよ。今度の駒沢大会も特別リングサイドの一列目は5千円ですからね。

——それは安い！　でもDDTの興行は赤字にはなってないんですよね？

高木　おかげ様で（笑）。出てもらっている選手に泣いてもらったりしてますから（苦笑）。かといってメチャメチャ黒字にもなってないんですけどね。トントンですよ。でも外では儲かってるって思われてる見たいなんですよ。儲かってれば事務所にしてもボクの店（DDTの事務所は高木が経営するプリント・オフィス内にある）の中に入れないし、興行ポスターとかビラとかもちゃんとしたものを作ってますし。そういった意味では今度の駒沢大会はDDTにとって大勝負ですよ。

——DDTは着実に力を付けてきてると思うんですけど、そこから先、一歩踏み出すには一か八かのバクチは絶対必要になってくると思うんですよ。

高木　そうなんですよ。そのバクチをいかに楽しめるかだと思いますね。駒沢も収容数が二千人ぐらいなんですけど、ハッキリ言ってウチで二千人っていったら本当ギャンブルですよ（笑）。

——年末ジャンボ宝くじみたいなもんですね（笑）。でもDDTの今の勢いなら満員も夢じゃないんじゃないですか。タウンホールも札止めにしてるし。

高木　頑張りますよォ！

——あとインディー団体がどうしても言われるのが練習面のことだと思うんですよ。実際DDTでも道場は持ってないわけですよね？

高木　そうですね。それはよく突っ込まれますね（笑）。今練習は、週に一度の合同練習と、それとは別に群馬の木村さんのところ（ST北関東ジム）での合同練習。他は各自での練習ですよね。ボク個人では知ってる連中と柔術をやったりしてるんですよ。

——エッ！　柔術やってるんですか？

高木　もう2年ぐらいやってるんですよ。でもホントに道場は持ちたいなとは思ってるんですけどね。それが今ウチの抱えている問題でもありますね。

本音を言えば、ビル一個丸ごとブッ壊して見せたいし

——あとDDTではエンターテインメント性も強化していきたいっていうことでしたけど、それこそエンターテインメントの世界では、どうやってもWWFにはかないませんよね。

高木　WWFにはかなわないですよね～。自分らがやるっていったらどうしてもゲリラ的なモノになっちゃいますね。本当はゲート作ったり、おねえちゃん横にはべらかせたり（笑）、衣裳とかにもこだわりたいんですけどね。だから取りあえず、試合の中身で本物の部分を見せていくと。結局見て楽しんでもらえるものは全部エンターテインメントだと思うんですよ。楽しんでもらう為には、まずわかりやすくないとダメだと思うんですよ。二瓶組なんて一発で分かるじゃないですか、この人たちは悪い人たちなんだなって（笑）。

——ボクでも分かりました（笑）。

高木　ナオミ・スーザンとかにしてもね、なんで出てきてるんだろうって思わせるくらいのバカバカしさってあると思うんですよ。今ウチはそこまでの演出しかできないんで、その中で見せていくしかないんですよ。本音を言えば、キャディラックどころか、ビル一個丸ごとブッ壊して見せたいし。

——それは是非みたいです（笑）。高木さんは、一日の間でどれぐらいプロレス頭を働かせているんですか？

高木　どれぐらいっていうか、なんでもプロレスに結びつけて見ちゃうんですよ。テレビで安西ひろこを見てたら、DDTで使えないかなとか。

——エッ！　安西ひろこマネージャーデビューとか考えてるんですか？

高木　いややるんだったら当然選手としてですよ（笑）。肩幅広いですし。柔道やってたらしいですからね。申し分ないですよ。身長だって158センチありますからね。

——さすが高木さん、しっかりリサーチしてますね（笑）。

高木　なんでもかんでもプロレスに繋げちゃうんですよ。歌番組とか見てて、なんでリングアナって1人なんだろうなぁって、赤コーナー、青コーナーと2人いてもいいんじゃないかと思っちゃうんですよ（12・16駒沢大会で採用）。そういったくだらな～いことでもプロレスに繋げて考えますね。もちろんそういう脱線する部分だけじゃなくて、この選手とウチの選手が絡んだらどういう試合するかなとか、よくシュミレーションしてますね。できる選手なのに真価を発揮できてない選手ってインディー界にも結構いますからね。そういう選手を活かしてあげたいとか、その選手のいい部分を押し出してあげられればって思ってるんですよ。

——（アジアン・）クーガー選手やタノムサク（鳥羽）選手とかもDDTでのファンの評価は高いですからね。矢口（壹琅）さんも熱狂的な信者がいますし。この間初参戦した、たにぐち（ゆういち）さんも「また呼んで下さいよ」って言ってましたし、ファンだけじゃなく選手間でもDDTに惹き付けられる何かがあるんでしょうね。

高木　そう思ってくれると嬉しいですよね。いろんな選手の違う部分、隠れている部分を引っ張れればと思いますからね。そういう部分も含めていろんなことを考えてますよ。ホントやりたいことはいくらでもありますからね。

——ファンだけじゃなく、マスコミも驚かせるようなことを期待してます。

高木　頑張りますよォ。あと……、やっぱり「S多重アリバイ」に鶴見さんを出して欲しいですね（笑）。絶対面白いと思いますよ、鶴見さんは。アマレスでもある程度名を残してるし。プロ入りしてからも全世界を廻ってて、確か行ってないのが南アフリカだけとか言ってましたからね。それで遠征先でのビデオとか、とにかく一杯持ってるんですよ、鶴見さんは。

——コレクターなんですか？

高木　自宅にあるんですよォ。鶴見五郎ライブラリーってスゴイですから。そういう映像資料はスゴイですよ。いろいろ見せられましたからねぇ（笑）。

——それは見てみたいなぁ。そういえば鶴見さんは国際プロレスの会場でも自らビデオ売ってますからね。

高木　でもその割には、国際のビデオを見ると最後にドラえもんが入ってたりとか、そういう伝説にも事欠かない人なんですよ、鶴見さんは（笑）。

——アハハハ！　それじゃさっそく鶴見青果市場に行ってきます（笑）。

【11月18日／千駄ヶ谷ルノアールにて収録】

予定通りの大反響!　『紙のプロレス　RADICAL』御意見番

谷津嘉章の マット界、目えつぶって30秒!!

構成&撮影／チョロ
Text & Photographs by Choro

超大型連載 第2弾

'98年マット界総括編

予定通りの大反響を巻き起こしているマット界の大型台風！　谷津嘉章のマット界一刀両断！　連載2回目の今回は、ロングランシリーズ（『SPWF革命！　維新伝新』）の真っ直中の谷津親分をなんとかキャッチ！　1998年のマット界をズバッと総括していただきました。オリャ！

辞めた人間がホイホイ戻ってくるからプロレス界がバカにされるんだよ

まあ俺は、今日は評論家として言うんだけどな、評論家としては、今年の前半戦でプロレスを代表することっていったらなぁ、やっぱり選手の引退だわな。一番ショックだったのは今年の1月4日に、長州の引退セレモニーをやって、もう出ないかなぁと思ってたら、出るっていう話じゃん。まあ出るって本人はまだ言ってないけど、アレはもう出たようなもんだからな（笑）。どっちかっていったら長州はUFOの方に出ると思ったんだけどな。

それで中盤は次の時代を担う、蝶野だとか、武藤とか、三沢もそうだけどな。奴等がこれからいくかなって時にまた年寄りたちが出てきただろ。公の場で引退した人間が出てきて、大仁田なんて邪道から聖域に入ったなんて言ってるけどな、俺から言わせればどっちも邪道だ！　辞めた人間がやってることは邪道なんだよ。なッ！　聖域も何もないんだよ。長州も邪道！　そうだろッ！　京王プラザで引退パーティーまでやってるんだからな。冗談じゃないわなッ。

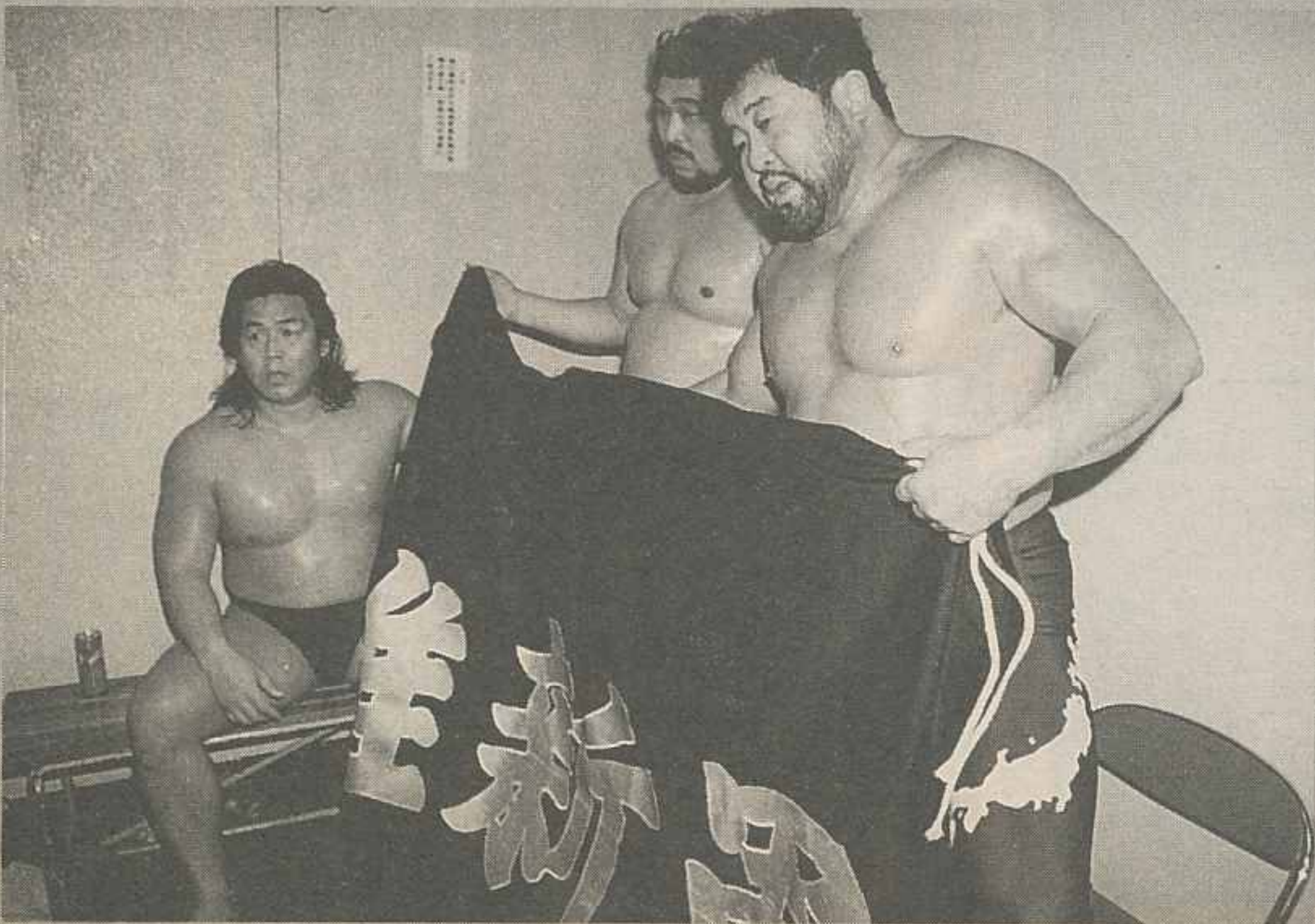
大仁田だってあれだけ大騒ぎして引退したわけだろ。何回もなッ。俺から言わせればどっちも邪道だわな。辞めた人間がホイホイ戻ってくるからプロレス界がバカにされるんだよ。

結局またしても、若手が伸びようとした時に、年寄り連中に芽を摘まれたってことだよな。まあプロレス界はその繰り返しだけどなッ。やっぱり我が身が可愛くなっちゃうワケだよ。

一方、総合格闘技に目を向ければな、熟してきたのは、やっぱり修斗だよな。修斗はまだまだ伸びると思うぞ。見てみな！

それでプロレス界で言えば、結局上手く両刀使いやったのは、やっぱりバトラーツだろ。プロレスも上手くやっていったし、アレクサンダーがPRIDEでも結果出してるしなぁ。

それでSP（WF）から見たらな、自分とこの団体は、その中でも成長は見えにくいかもしれないけど、それぞれに業界から認知されて、今年は大きなバクチも打たずに、少しづつだけど七転び八起き精神でやってこれたよなぁ。

まあ今はプロレス団体ってひしめき合ってるからな、今年の後半戦はどこも業績は良くないわなぁ。どっかのフレーズじゃないけど、日本の経済がくし

長州力、谷津嘉章、マサ斎藤。彼らはオリンピック代表にも選ばれたアマレス界のエリートである。長州は引退（復帰か？）し、マサはすっかり解説者としてのイメージが強くなった。こんな時代だからこそ谷津の何でもありが見たい。

NOBUHIKO

罪と夢だよ！罪と夢は裏腹なんだよ！

ゃみすれば業界は風邪ひくだけじゃなく瀕死の状態だな。実際どこも苦しいと思うぞ！

でも新日本も「大仁田、東京ドームで待ってろよ！」っていうのは、逆にドームのチケットが売れてないから、大仁田の名前を出してるってとこがあるんだろうからな。俺から言わせれば「大仁田さん、お願いします！」って感じだよな、どっちかっていったら。

それでいつもの如くジャイアント馬場が利用されたってことだよ。一応、馬場さんにもふっておくんだよ。それで新日本は、全日本が大仁田の挑戦を受けないならウチが受けるって感じにしたわけだろッ。それによって新日本が懐の大きいところを見せてるわけだろ。そのパターンは昔から同じだよ、新日本は！馬場さんなんかは、どっちかっていったら常識人だからな。そういうヤマッケのある新日本にはどうしたってかなわないわけだよ！ わかる？

でも新日本プロレスも、ちょっと蝶野が中だるみしたなってとこに、上手い具合に大仁田なんかを起用するってところはさすがだな。その辺のやり方は新日本らしいよな。逆に言えば、そういうところが新日本プロレスの罪でもあるし、逆に新日本プロレスが与えた夢でもあるわけだよなッ。罪と夢だよ。罪と夢は裏腹なんだよ！ 罪だと思ってたことが夢になることもあるし、夢だと思ってたことが罪にだってなっちゃうんだよ。ホントそうだよ。

藤田にしても、中西にしても、橋本でも、カ・シンにしてもな、新日本にはガチンコの強い選手は一杯いるわけだよ。ああいう選手が例えばPRIDEに出ていって勝って、文字通り新日本プロレスはキング・オブ・スポーツだと、証明しなくちゃならない時期に来てるんじゃないかと思うんだよ。それをやってくれたらプロレス界はもっと活性すると思うよォ。俺はそう思うんだけどな。どう思うよ？

そういう夢のあるカードを新日本プロレスさんもファンに対して与えてやって欲しいよな。業界のために！ 自分たちがイニシアティブ握ってるって言うならば、業界全体のことを考えてもらいたいと思うよな。

まあ結局新日本プロレスの選手が出ても、せいぜいUFO止まりじゃないの。でもそれだったらプロレスと同じじゃんなぁ。ファンに対する夢なんか与えられないよな、UFOに関しては。アレをやるんだったら地道にプロレスをやれって感じがするよな、俺なんかは。猪木さんが作ったUFOはな、純粋に総合格闘技っていうよりも、プロレスに近い、新日本プロレスの延長にある別団体みたいなもんだと思ってるからな。

俺もバーリ・トゥードとかも考えてるんだけどな、今はこのご時世だからな、今は様子を見て静観してるんだよ。ただ静観をしながらでもエネルギーを蓄えておく必要はあるよな。その時が突然来るかもわかんないしな。まあ俺が出るってなったら、その闘いには意味があるから、出るからには、ケジメを付けてから出て行かなくちゃならないからな。やるからには身体もオーバーホールしなくちゃならないしな。プロレスの技術とは違うからな、バーリ・トゥードの技術は。だから思い付きでやっちゃいけないんだよな。その辺は俺は勝負師だからな！ やるからには対戦相手も自分も、ある程度データを出さなくちゃならないし、あとは気力が続くかっていうのもあるしなッ。

来年は取りあえずな、自分がそういう闘いに出てくこともあるし、自分のとこの新弟子も出してみようかと思ってんだよ。俺が出てもいいし、俺の弟子が出てもいいしな。そういう形を絶対採るから来年は。なんらかの形を採ってやるから！

あと前田対カレリンってあるんだろ。前田なんかは格闘家の身体じゃないよ、ハッキリ言って。ヒザはガタガタだしね、軸足がずれちゃってるから、靭帯に来ちゃってるでしょ。回し蹴りなんかやっても身体動いてるつもりでも軸足がずれちゃってるしな。

太田（章）とかが「前田はカレリンとはやらない方がいい」って言ってるみたいだけど、太田はアマチュアだからそういうこと言うんだよ。俺たちの業界

俺が代わりにヒクソンでもハドソンでもやってやるよ（笑）

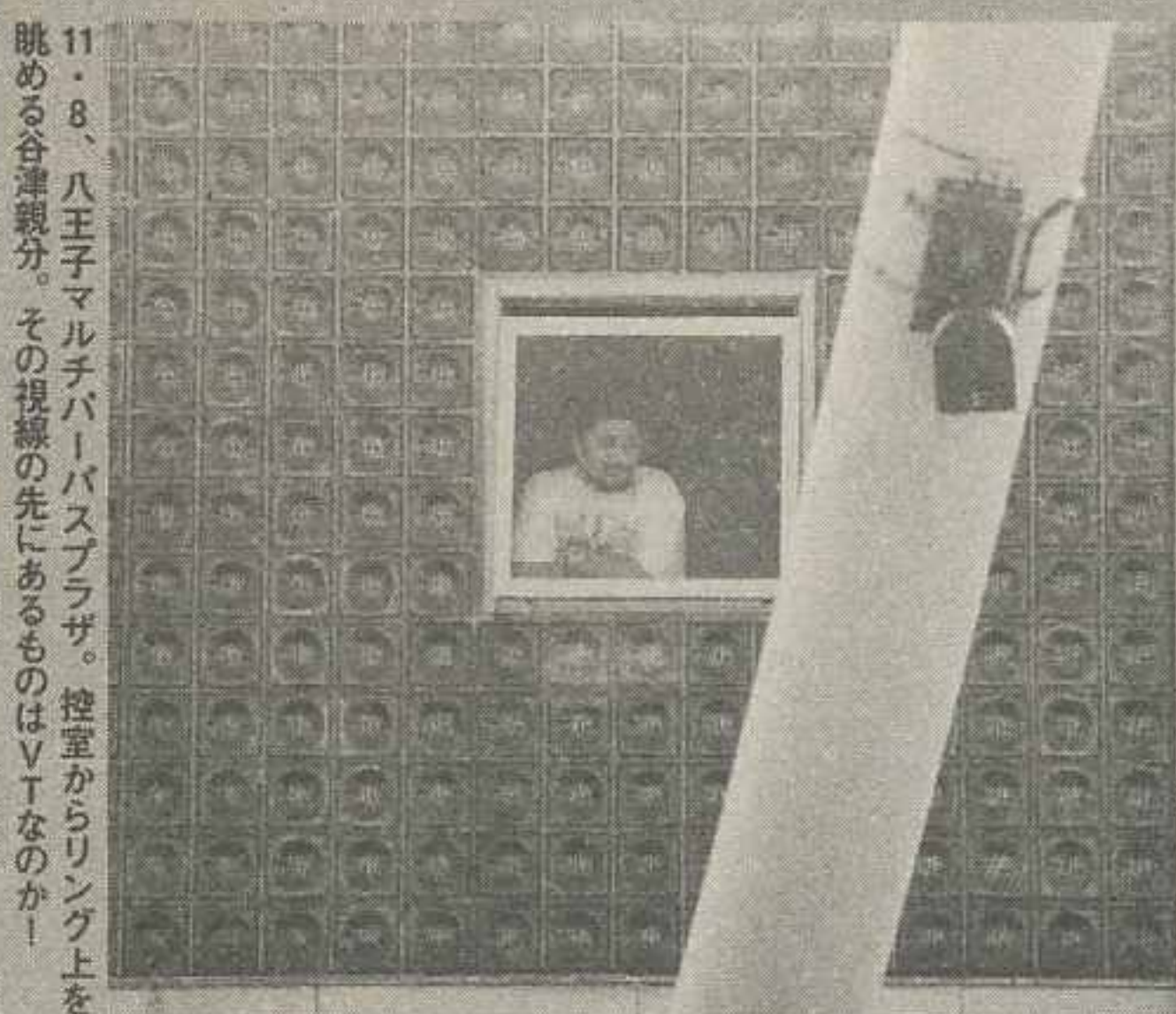
は金がモノを言うからなぁ（笑）。太田なんかある意味ではショーマンで生きてないからね、この世界のことはわかんないんだよ。太田は俺の一個後輩だし、アマレスをずっとやってるんだからな。大学の先生はそんなことはわかんないんだから、おとなしくしてればいいんだよ。俺たちは泥沼の中で生きてるからな。ビジネスだからな、プロの世界は。それで夢を与えていくんだからな。

だからカレリンなんて、今までプロのリングには上がんなかったんだから。プロのリングに上がるんだったらハッキリ言ってカレリンじゃなくてカネリンなんだよォ。わかる？　ロシアは金がないんだからよォ、日本の物価指数でいえば5分の1どころか10分の1だからなッ。インフレーションで。だからみんな金が欲しいわけだよ。だからアイツはある意味では栄光よりもプロとして金を選んだんだよ。だから俺はカレリンじゃなくてカネリンって言ってんだよ。ただしやってみないとどっちが勝つかわかんないけどな。

結局、千両役者が前田だってことなんだよ。千両役者は高田だってことなんだよ。前田、高田っていうのはそれまでファンに夢を与え続けて、そこまで膨らましてきた貯金を吐くワケでしょ。スーパースターなんだよ。

カレリンだろうがなんだろうが、前田とやるっていったらそのカードだけで夢があるじゃんかよ。その夢をお客さんは買うわけでしょ。それでいいじゃん。役者は揃ってるんだからよ。

今の前田にだったらウチの選手ともやらせてみたいよな。ウチにもいるからな、そっち方面でも強い選手が。今はまだ秘密だけどな。秘密兵器がいるんだよ。仕込んでいくからなドンドン。実力では絶対負けないと思ってるから、俺は。これから仕込むからな。

ただ俺たちは金がないからよォ（笑）。ネームバリューのある奴もいないからよぉ（笑）。それはしょうがないんだけど。だから今ドサ回りしてるんだよ。やっぱり一流の前田選手とか高田選手とウチは違うからよ（笑）。ドサ回りをやりながら、いろんな人達と地域密着しながら、四六時中いい空気を吸って頑張ってるんだよ。

11・8、八王子マルチバーバスプラザ。控室からリング上を眺める谷津親分。その視線の先にあるものはVTなのか！

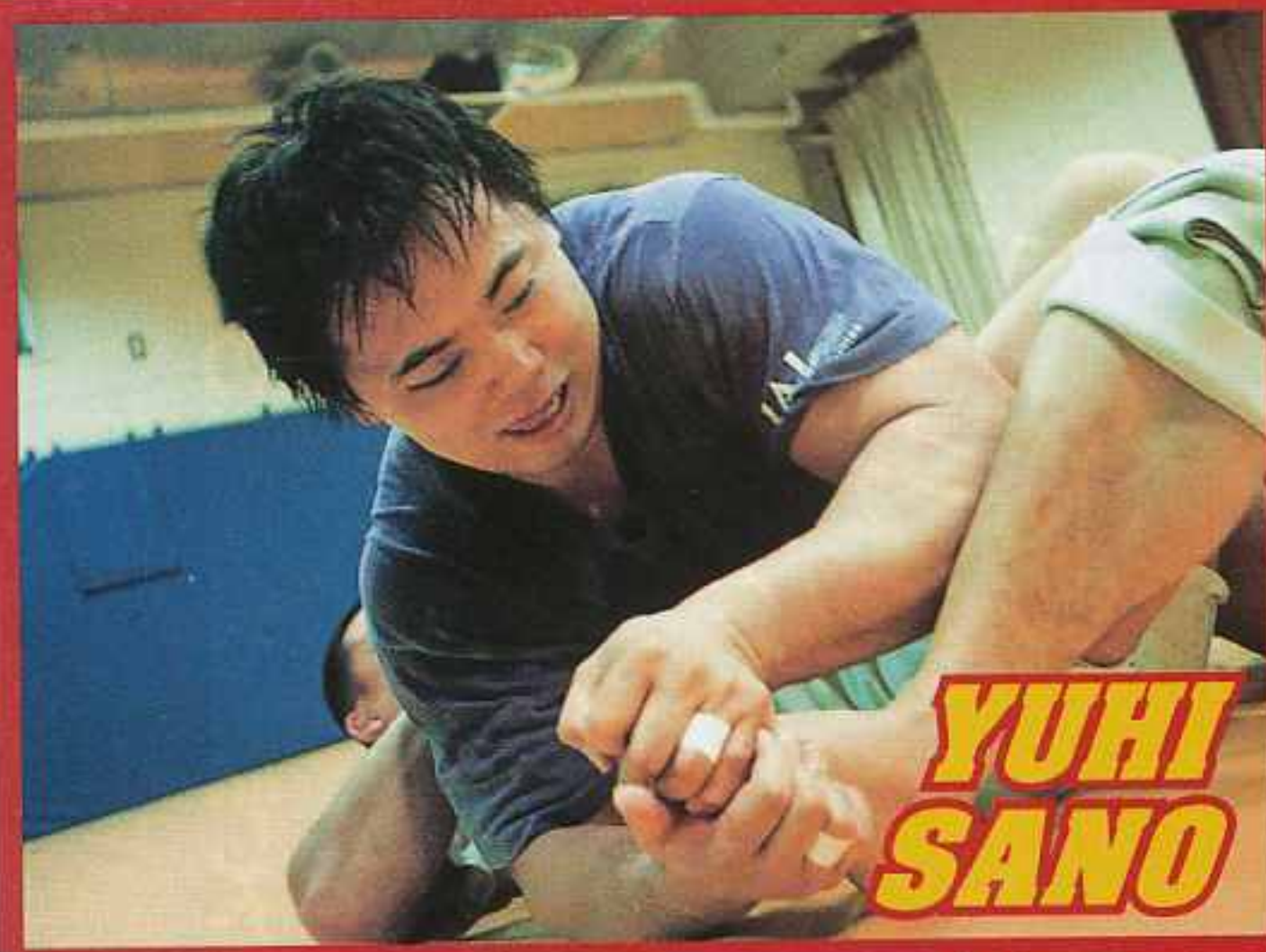
まあ最後に今年のプロレス界を総括すれば、いいとこもあったし、悪いとこもあったし、全体的に見て前進はしてないよな。プロレス界での成長株ってのは、やっぱり高橋（義生）のところとアレクサンダー（大塚）のところだと思うしな。それが果たして来年までどれぐらい続くかっていうのが、あの連中の手腕に掛かってるわけだからな。

ある意味ではビジネス的に見れば新日本の独占禁止法みたいな感じで（笑）、相変わらずシフトされちゃったなと。一方の全日本プロレスは何やってるって感じだよな。相変わらず馬場さんは新日本プロレスに利用されちゃったなと。

あとは高田選手の不甲斐なさ。そんなに高田に金払うなら俺にも金くれって言いたいよ（笑）。俺が代わりにヒクソンでもハドソンでもやってやるよ（笑）。なぁ。そういう意味では外人選手が喜んだ年でもあったしな。

今年のマット界を総評するとなると、成長率はマイナス2％ぐらいだなッ。1％もないわな、マイナス2％ぐらいだな。やっぱり団体を名乗ってもね、ほとんどみんな赤字だから。ごく一部だけだよ、マスコミとくっついて上手くやってるのは。

マスコミの書き方一つで、それがファンにとって魅力的になっちゃうしな。マスコミがまったく無視して書かなければそれはある意味では墓場で試合やってるようなもんだしな。花道街道でやるのと墓場街道でやるのとの違いぐらいあるんだよ。そういうこと！

少なくても『紙プロ』さんはいろんな意味でね、業界から締め出しくっちゃっても、俺たちは公正の立場で書くんだというスピリットを貫いて欲しいっていうことを山口編集長に言っておくよ！

NOBUHIKO TAKADA

YUHI SANO

SHUNSUKE MATSUI

MINORU TOYONAGA

KAZUSHI SAKURABA

格闘 DREAM CAST 高田道場1999

98年、確かな足跡を残した彼らは
99年、一体何をしでかすか――。

豊永稔 パンクラス参戦! マット界の蝶番(ちょうつがい)を追え!!

インタビュー特集

高田道場1999!

98・10・11『PRIDE. 4』では戦績的に芳しくなかった高田道場勢。しかし、環境づくりといったハード面、リング上のソフト面の両面で、マット界の蝶番として今後とも台風の目になっていきそうだ。というわけで、豊永稔のパンクラス参戦を機会に「プロレス」と「格闘技」について"隠し味"を加えながら考えてみました。ね?(こんな特集、2度目はない……ことはない)。

髙田道場の道場長と話した「ヒクソン」「プロレス」「UWF」「マット界」の話

髙田延彦

「華やかに行って、華やかに散る」それが定着しちゃうとそろそろマズイからね（笑）

ヒクソンにリベンジできなかった高田延彦に対しても、概ねファンの声は温かかった。しかし、その裏では「敗者には何もやるな！」という言葉が示す通り、冷たい視線があるのも確かだ。そういった状況の中で高田延彦の視線はどこを捉えているのか——。「ソッとしておいてやれ」という声もあるが、高田はソッとしておく“タマ”でもなければ、ジッとしている“タマ”でもない。『紙プロ』読者よ、いまこそ高田の“タマ”を見よ！

聞き手／山口日昇
Interview by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
Photographs by Masafumi Endo

――今日はまず、〝爆破の人〟が新日本プロレスのリングに上がるということについてコメントをください。

高田　爆破野郎？　人様のことは言えない方だから。ね？（笑）。

――マット界はこの先、果たしてどうなって行くんでしょうか？

高田　新日本の決断に関してはガッカリだね。アレは上げちゃいけない。そこらへんのプライドだけは持ってもらいたかったな。新日本あたりが率先して切り離していくというか、エリアからどんどん除外していくような姿勢を取らないとよくないと思うね。何か刺激になるものが落ちてると、拾っちゃいけないものまで拾い上げて材料にしちゃうっていうね。何でもいいのか？って感じだよね。節操がない！

――でも、高田さんが絡んでいた頃の新日本にも節操がない部分はありましたよね。海賊男やTPGが出てきたり（笑）。だからマット界全体に活力を与える方向にエネルギーが向いてれば文句はないんですけどね。

高田　自分は新日本は嫌いじゃない。好きだよ（キッパリ）。だけど、こういう決断をしたことに対して、もっとハッキリ拒絶するレスラーがいてほしいよね。大仁田（厚）は1回辞めた人間なんだからさ。そんなヤツにもう1回〝男を売る〟材料を与えるような場をなんで提供しなきゃいけないの？　素の部分で嫌悪感を持つね。ガッカリしたよ。

――大仁田厚が『PRIDE』にでも名乗りを挙げてくれたら拍手を送るんですけどね（笑）。

高田　挙げるわけないだろ！

――仮にそうなったら、ボコボコにしますか？

高田　いや、同じリングに上がりたくないね！　邪道でも外道でも別に何でもいいよ。でも、嘘はつくなって言ってんだよ。

――そういえば、今年の「高田vsヒクソン戦」については、馬場さんはコメントしてないようですね。

高田　してないの？　ちゃんと耳に入ってるのかね？

――入ってないわけがないと思いますよ。コメントを聞く人がいないのかもしれないですけど。今度、機会があったら聞いてみたいですね。

高田　馬場に？

――ガハハハ！　ま、今日は馬場さんの話はともかく（笑）

高田　うん（笑）。

――10・11から2ヶ月近く経ちますけど、ヒクソンと3度目をやりたいという気持ちは変わらないですか？　それとも別の目標ができたとか？

高田　まぁ、3度目をやりたいっていうのは変わらない。別の目標はできてない！　大変だよ、今から目標見つけるのは。このぐらいの年代になってくるとね、目標っていうのはゴロゴロ転がってない。安易に探せないし、見つからない。よっぽど自分の中に踏ん切りとか納得がないと、目標という一点にピントは合わないよね。

――3度目に向けて、あるいは他の動きで具体的な進展はあるんですか？

高田　ない！

――今の段階では……。

高田　まったくない！

――発表できるものは……。

高田　ま〜ったくない！

――ないないづくしですね（笑）。今日は練習を見させてもらったんですけど、日々の練習の最中にヒクソンの顔が浮かんだりしますか？

高田　全然浮かばないよ！

――サンドバッグ叩くとき、ヒクソンの顔が浮かび上がってくるとか（笑）。

高田　一切、浮かばない！

――漫画だとあるじゃないですか、そういうの。

高田　そりゃ漫画だもん（笑）。

――単純にもっと試合をやりたいという気持ちにはならないですか？

高田　年間？　年間に何試合もやりたいっていう気持ちにはならないね。1試合1試合がある意味で最後かもしれないという気持ちでやってるから。例えば、この前の試合も、「この試合がコケれば、もう終わってしまう」というものが背中にあるわけですよ。そのギリギリのところで、いつもやってるからね。

――ギリギリのところにテーマとプランを置くというのは猪木イズムですね。ところでヒクソンが今、ゲームのCM出てるの知ってます？　あんな傷作っちゃって（笑）。3度目をやったとしたら、あれくらいの傷をつけてやりたいですね。

高田　あれくらいじゃ済まないね！　そうすることによって心に大きな傷がつくからね。

――心を潰したいということですね！

高田　もし3度目があったら、勝つというより叩きのめすね！

――おぉ！　やっぱ、それですよ。

高田　それしかない！

――ただ、「この試合がコケれば、もう終わってしまう」という気持ちで行ったにも関わらず結果が出せなかった。そうなると、3度目をやるには、今後バーリ・トゥードで結果を出していくしかないとも思うんですけど。

高田　うーん、まあ基本的には俺はこういう試合（バーリ・トゥード）は好きじゃないと前にも言ったよね。にも関わらず、そのリングに上がってる。でも、ヒクソンを倒すということを目標にするならば、もっともっとこういう試合に出なきゃいけないんだよ、実際の話。

――経験を積まなきゃならない。

高田　そう。もっと実戦で経験を積んで行きたいという気持ちはある。だけど、それも両刃の剣で、実戦を3つ4つこなしたときに、自分の中で果たしていい経験になるのか、自分を粉砕するような結果になるのかって考えたときにね、今の自分の年齢では、ただ試合を積み重ねて行くだけで吸収できるエリアは超えつつあると思うんだよ。そこが凄いジレンマだよね。だから、常に言ってるけ

2度目のヒクソン戦（98・10・11）。立ち上がりから「ブン殴りあいに持っていきたかった」高田は、パンチでもヒクソンをたじろかせたが、1度目と同じ逆十字で敗れた。試合後に強気な発言をしたヒクソンだが、かなり疲れが見え隠れしていた

ろあるよね（笑）。

ど、〝あと10年早かったらな〟という悔しさがあるわけ。そのへんの判断が、年間の試合数を少なくしてる。あとは練習と少ない試合数でどれだけのものを吸収していくか。一つの賭けとしか言いようがない。

――顔面パンチのないスタイルの試合は、もうやる気はないんですか？

高田　いや、そんなことはないよ。やりたい相手がいればね。自分のレスラー人生は「スタイル」にこだわって過ごしてないから。自分が闘いたい選手がそういうスタイルをやってるから、っていうのできてるから。他にヒクソンに準ずる人が出てくれば、その人がやってるルールに合わせざるを得ないし、目標にしてる人間を追いかけるんなら、そのルールでやらなきゃ意味がないところもあるしね。

――相手が弓矢を持ってきたら、自分も弓矢を持って闘う。そこでピストルを持つ方法は取らないということですね。

高田　だって相手がそれしかやらないと言うんなら、しゃーないよね。

――新日本、ＵＷＦ、バーリ・トゥードという三つのスタイルを、高田延彦という一人の競技者が一本のライン上でやってきたわけですけど、その三つは同じエリアにあるんですか。

高田　俺から見てってこと？

――ええ。

高田　その三つっていうのは自分が今まで受け入れられたものであるわけ。だから、『高田延彦』の枠の中に入ってるものでしょ。それがもし、今回ヒクソンとやりたかったけど、「バーリ・トゥードだから、や〜めた」って避けて通ってたら、その競技は俺の枠の中に入ってこないということだよね。

――『プロレス』とか『バーリ・トゥード』とかよりも、まず『高田延彦』というものがあるわけですか。

高田　そう！　例えば、その延長線上で、また違う人間と闘いたくなったとするでしょ。どうしてもそいつと闘うためにはオリンピックに出なきゃ闘えないってことになれば、アマチュア・レスリングというものが自分の枠の中に入ってくるかもしれないってことだよね。極論だけど。

――じゃあ、ニュース・キャスターだとか、今までリング以外でやってきたものも、『高田延彦』の枠の中で自分を表現するための手段だったと。

高田　そういうことだよね。

――じゃあ、「高田延彦、突然歌手転向！」なんてこともあり得るわけですね？（笑）。

高田　だから、前に選挙にも出たでしょ（笑）。

――ガハハハ！　ああ、そうか。面白い！

高田　今でも思うけど、本当にそのときは、こいつら（当時の政治家）に任せてたらダメだ、と思ったんだよね。それでアクションをしてしまった。でもアクションを起こす要素は誰でもどっかに持ってるわけでしょ。

――またアクションの起こし方が派手なんですよね、高田さんの場合。

高田　派手にやってるつもりはないけど、なぜかなっちゃうね（爽やかに）。

――それがスター性ってことですよ。何やるにしても華やかに出て行きますからね。

高田　それで華やかに散るよね（笑）。

――ガハハハ！　最近、言うことが自虐的ですね。数年前までは、カッコよくバシッと決めてたのに。

高田　その数年前まではっていうのはやめろよ！　もっと自虐的になるじゃない。ね？

――ああ、言葉って難しいですね（笑）。高田さんは大きな試合が終わったばかりというのもあるけど、今はアクションを起こしてない状態ですね。

高田　忘れられちゃうね。でも、いいと思うけどね、そうやって忘れられるっていうのも。

――ああ、それは面白いですね。

高田　名前を覚えてもらう、いつも注目してもらうというのは「プロ」として凄く大事だし、それは必要なことだけども、そっちに比重を置くのは、俺の今のスタンスからはできない。要するに、さっきも言ったけど、自分に欲するものが出てこない限り、無理して出て行きたくないんだよね。

――それは臆病になったとか、億劫になったっていうのとはまた違うんですよね？

高田　違うね。いや、俺だって忘れられたいとは思ってないんだよ。要するに今の自分のスタンスは、自然に忘れられてしまう状況になりつつあるというだけだよ（笑）。

――忘れられないようにするには、日刊紙を使って対戦相手をコキ下ろしたり、いろんなこと仕掛けなきゃいけないですからね。

高田　道路で裸でブン殴り合いしたりね。いろい

取材に行った日はタックル、下からの関節の入り方などを豊永に指導しながら、自らも確認するかのように反復していた高田。この日は約２時間以上にわたってそれをこなしていった。来年は何をしでかしてくれるんだ、ノブ！

NOBUHIKO TAKADA

ろあるよね（笑）。
——それは、いい意味でも悪い意味でも、プロレスに限らず、「プロの世界」の範疇でメディアを使っていくというのはそういうことですからね。
高田 そういう意味では大事なことだね。でも今現在の俺のスタンスにはあんまり必要ない。
——現在の高田さんは、そういう部分での話題もないし、次の試合もまだ決まらない。だから、ファンも高田さんの動向が気になると同時に、「高田はいったい何を考えているんだろう?」という思いもあると思いますよ。
高田 そういえば、最近「なに考えてるんだ」ってよく言われるよね（笑）。
——ガハハハハ！ 言われますか。
高田 なに考えてるんだって言われたって、俺はよくわかってるもんね、自分のことを。明確にね。
——来年の試合はすでに決まってるなんてことはないでしょうね（笑）。
高田 まだ決まってない（キッパリ）。
——では、明確に決まってる話題として、12・19には豊永稔選手が、パンクラスの石井大輔選手と当たりますね。
高田 うん、そうだね。むしろ若い豊永なんかは実戦で経験を積んでいくのが一番の栄養、肥やしになるからね。そういう意味では、出て行ける場を提供してもらったっていうのは非常にありがたいと思ってます。でも、出て行く以上は、彼を応援してくれる人たちの期待に応えられるように試合に勝つ。「力試ししよう」とか「いい試合しよう」とかは必要ないと思うんだよ。100％勝つことだけを考えてね。そうしたら彼にとっては大きなものが開けてくるでしょ。
——注目度はデカいですからね。
高田 うん、一発目（高田道場とパンクラスの対抗戦は初）だからね。自ずとその日のカードの中で一番リードする試合になると思うし、プロとしてのチャンスだからね。
——豊永選手は、6月にはリングス・マットで滑川（康仁）選手と当たった。図らずもリングスとパンクラスの蝶番になってますね。
高田 面白い現象だよね。
——豊永vs滑川戦もヒートしたし、今度も期待大ですね。リングスにまた高田道場勢が上がる話はあるんですか?
高田 現段階では具体的な話はないね。追々そういう話をしたいと思ってます。そういうのは必要なことだしね。若い選手のためにも、マット界のためにも。
——で、道場主の高田さんはこれからどういう出方をしていくんですか?
高田 来た！ そんなこと聞かれるの一番難しいよなぁ（笑）。まあ、行くときはまた派手に、華やかにパァ～ッとね。それで今度はカッコよく帰ってこれるようにしたいね。このままじゃ「高田は行くときはいいけど、帰りがよくない」って、そろそろ定着しちゃうからさ。それが定着しちゃうとマズイからね（笑）。
——華やかに散るということが定着しちゃマズイですね（笑）。
高田 ね? 習慣になっちゃうと困るから、俺の

理想的な環境にある高田道場では、一般会員が出入りする前には、課長・桜庭を始めとするプロ選手が連日、苦しくて激しい、そして楽しくもある練習が行われている。道場長・高田ももちろん汗を流している

もし3度目があったら、「勝つ」というより叩きのめすね！ それしかない！

NOBUHIKO TAKADA

中で。

──そうすると、全然ファイターとしての火は消えてないと。

高田　消えてないよ！　消えてたら、もうとっくに辞めてる。だから、まず自分自身が夢を見れないとファンの人も見れないと思う。そういった夢を見られるような、元気が出るような、緊張感を持てるような、そういうものを今探してる状態だよね。

──10・11のあとにウチでアンケートを取ったら、「（ヒクソンとの）3度目があるなら見たい」という声が圧倒的に数としては多かったんですよ。

高田　逆に「もういい」という声もあっただろうしね。

──それプラス、「もう2度と見たくない！」という迫力ある反対派もいるわけです。

高田　それはいて当然でしょ。いなきゃ逆におかしいよ。

──でも、それだけ「高田vsヒクソン戦」は「プロレスと格闘技の関係」を考える上でも、勝負論や観客論を語る上でも大きな問題提起をしてるんですよね。また来年、高田さんにはデカイ問題提起をしてほしいですね。

高田　なにしようかなぁ（微笑）。

──何をしでかしてくれるんですか！

高田　どうしようかなぁ（微笑）。

──なんか、いつもその含み笑いに騙されるんですよね。

高田　騙してる、俺？　騙すの好きだからね（微笑）。

──ガハハハ。その含み笑いの向こうに、「それ以上は聞くなよ」という強い意志がありそうで怖いですね。

高田　よくわかってんね〜。読めてきたね〜。

──でも、ここらで来年の具体的なプランでも聞いていかないと怒られますからね。会社に。

高田　誰に怒られるんだよ！　アンタが編集長じゃない！

──あ、「読者に怒られます」ってことにします。

高田　ズルイね。ホントにズルイ男だよ、相変わらず（笑）。

──シャ乱Qじゃないんですから。あれは『ズルイ女』か（笑）。

高田　いや、さすがプロレス業界の嫌われ者だよ。プロレス業界から追い出されたプロレス・マスコミ！

──いや、下品だから高尚なプロレス業界からは相手にされないだけです（笑）。高田さんは、「プロレス界から追い出されたプロレスラー」ですからね。考えてみれば凄いことですよ。

高田　それでも「プロレスラー」と呼ばれてるんだからね。

──「プロレス」って不思議ですね。

高田　「プロレス」っていう4文字は、本当に掴みきれない。一生のテーマだね。ときにはいいヤツであり、ときには憎らしくてしょうがないっていうね。例えば、綺麗な円形だったのに、ときには触ったら痛いギザギザの形に変化したりとかさ、いろんな許容を持ってるね。

──高田さんは、「プロレス」という名称を変えればいいとか、そういうレベルでは考えてないわけですね。

高田　考えてない。好きだもん！　武藤（敬司）とか橋本（真也）とか、（佐々木）健介とかの試合、面白いもんね。ときどきテレビで見るけどね。ただ、プロレスでも〝どっからどこまでがプロレスなの？〟っていうのはあると思う。〝大仁田なんかプロレスに入れちゃうの？〟っていうのはね。もっとハッキリした方がいいよね。

──ところが今度は「格闘技」という言葉に置き換えたところで、「格闘技とは何か？」という定義も曖昧なんですよね。K－1もアマレスも合気道も、「格闘技」ですからね。

高田　ムチャクチャ曖昧だよね。なんなの？「総合格闘技」って。「総合系」とかさ。もっと、ジャンル一つ一つに名前があっていいよね。それを「組み技系」とか「総合系」とか、わけわかんないよね。

──そういう中で最近特に感じることは、リング上から闘いを観客に突き刺すには、『プロレス』であれ『格闘技』であれ、その闘いにテーマがなかったり、選手に闘いの哲学がないと届かないということですね。

高田　もちろんだよね。それがなければ『題名の

試合にテーマや闘いの哲学がなかったら、『題名のない音楽会』みたいなもんだよ

格闘 DREAM CAST 高田道場 1999

ない音楽会』みたいなもんだよ！（キッパリ）。

——「プロレス」は、「真剣勝負」やら「格闘技」という言葉にわけもなく踊らされてたというのも実際あると思うんですよ。

高田　真剣勝負なんて、そこらへんにゴロゴロ転がってるんだから。町の少年柔道大会だって立派な真剣勝負なんだよ。だから、プロとして、その闘いにテーマを見い出して、なおかつ見てる人に夢を与えられるかだよね。

——例えばＵＷＦには、その時代なりのテーマなり哲学がありましたね。

高田　ＵＷＦは月1回であぁいう試合形式でやってきた。何かを削りながら、あるいは肉付けしながら、〝これが理想なんじゃないか？〟ってことでね。スポーツとして他のジャンルに負けないようなものをつくっていこう、っていう理念のもとにつくりだしたものだよね。それが崩れた。崩れたら今度は何が必要なのか？っていう繰り返しの中で、この先どう変化していくかわからないけれど、今までの経験を通してみると、俺にとっては、この高田道場が現在はベストなんですよ。

——それは十分わかります。高田道場は確実に波を起こしてますからね。団体形式から道場制へのシフトの中で、リング上も確実に変化してきてるし。でも、圧倒的な〝ギラつき〟みたいなものが、俗にいうU系のマットには足りない気がするんですよ。

高田　足りないね。でも、何がその〝ギラつき〟を吸い取ってるのかがわかんないね。イデオロギーとアンチテーゼが強くないと、〝ギラつき〟って出てこないよね。それが〝ギラつき〟を出すエネルギーでしょ。だから、その〝ギラつき〟の真骨頂は、ＵＷＦが新日本に戻ったときにはあったよね。イデオロギーとイデオロギーのぶつかり合いというかさ。今のマット界って、いい選手やいい試合がたくさんあるにも関わらず、どっかで身内で楽しく愉快にやってる感じがするよね。外に向けてのアンチテーゼとか必要ない感じでね。そうなると、やっぱりそういうアクみたいなものは出てこないよね。

——恐らくそのアクの部分ですよね、欠けてるのは。

高田　でも例えば、特定のファンがついてくれて、シモキタなんかの小さな舞台で演技してる人たち。小劇団っていうの？　あぁいう人たちって結構ギラギラしてるじゃない。でも、そういう規模でいいのかなってなると、また違うよね。マット界を大きくしていくには。

——そうですね。一般世間を大きく巻き込みつつも、自分たちの理念を突き刺していく。その両輪を転がしていかないと大爆発は起こらないですよね。

高田　今、アメリカではプロレスの地位がすごい上がってるんだって。

——視聴率が凄いらしいですね。

高田　プロレスラーの扱いも、ＮＢＡの選手とか、メジャーリーグの選手とかと同じようになってるみたいだね。昔はプロレスというと、乞食のちょっと上ぐらいの人間がやってるようなもんだって言われてたのに。

——ガハハハ、乞食のちょっと上！　日本にも「エンターテインメント・プロレス」なんて言葉が出てきたように、そっち方面はそっち方面で活気づく予兆はあるんですよ。ＵＷＦがムーブメントを起こしてた頃では、こういう波が来るのは想像もつかなかったですけど。

高田　時代は巡ってくるのかね？　でも、俺は俺で自分の行く道を信じてね、自分の理念なり表現したいものをリングにぶつけていきたいね。

——で、来年は何をしでかしてくれるんですか？

高田　だから来年はパァーッと行くよ！　すごい抽象的？　ハハハハ。

——植木等じゃないんですから（笑）。

高田　来年は「いたの？」って言われないように頑張るゾ！　見とけよ！

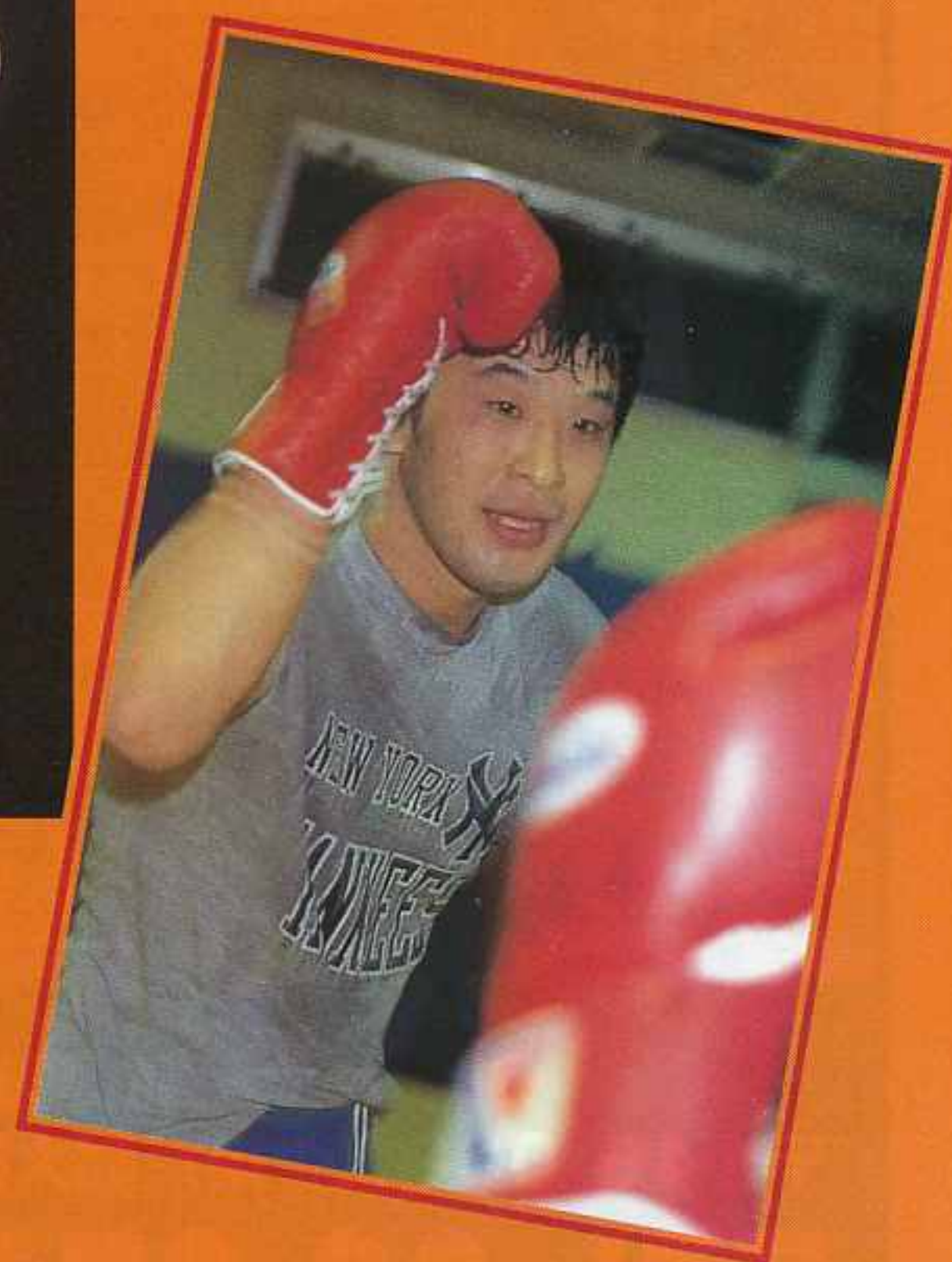
——高田道場のロゴのように両手を上げたガッツポーズですね。ところでホントに水面下で何かが決まってるなんてことはないでしょうね？

高田　ないない！　決まってたってプロレス界の嫌われ者には教えられないよ（笑）。

【98年11月24日、東京池上・高田道場にて収録】

髙田道場の課長と話した「プロレス」「Uインター」「バーリ・トゥード」「ゴム長」の話

桜庭和志

「バーリ・トゥード」と「プロレス」の線引きは「点線」くらいじゃないですかねぇ

桜庭和志の試合と人となりが抜群に面白いのは先刻ご承知の通りだと思う。でもって、やっぱり練習も面白いんです。ソバ屋の出前のような格好でヒョイと来ては、ヒョイヒョイと練習に打ち込む。見事なその練習ぶりは、身体に染み着いたマット捌きと同時に頭脳をフル回転させているから驚くばかり。練習は見せるものではないながら、見る者を飽きさせないのだ。今回は、そんな桜庭和志と「プロレス」をテーマに話してみました。ヒョイヒョイ。

聞き手／山口日昇
Interview by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
Photographs by Masafumi Endo

格闘 DREAM CAST 高田道場 1999

—この2日間、練習を見させてもらったんですけど、桜庭さんの練習って銭取れますね。見てて面白い。

桜庭 じゃあ、今度から入場料払ってください。

—嫌です（笑）。練習中はキツそうな反面、実に楽しそうに見えますね。

桜庭 嫌々やったら伸びないですからね。楽しくやらないと。

—そういえば、昨日、道場に入ってきた姿はバツグンでしたね。ロングのダウン・ジャケットにヘルメット持って。どこの出前持ちかと思いましたよ。「毎度〜」って感じで（笑）。

桜庭 雨降ってるともっとすごいですよ。カッパ着て長靴履いてきますから。

—ガハハハ、ゴム長ってやつですか。

桜庭 あれ、けっこういいですよ。

—ファッションの最先端。来年はラバーがきますよ。ウソですけど。

桜庭 ヒャハハハ。

—というわけで（笑）、今度、豊永（稔）選手がパンクラスに出ますけど、桜庭さんがパンクラス・マットに上がる可能性も出てきましたよね。

桜庭 はい。セコンドで。

—セコンドで（笑）。実際、桜庭さんがもし上がったとしたら？

桜庭 上がったら？ 頑張ります（ニコニコ）。

—ガハハハ、またスリ抜けますか。刺激はありますよね。対抗戦としては負けられないだろうし。

桜庭 でも、やるとしたら1対1だから。パンクラスって会社とやるわけじゃないから。

—面白いですね。「パンクラスvs桜庭和志」。単位が違うだろって（笑）。

桜庭 そうなったら厳しいですよねぇ。バトルロイヤルみたいになって最初に集中攻撃受けちゃいますよ。イチ抜けですよ（笑）。

—ところでこの前、95年10月9日の東京ドーム、Uインターと新日本の対抗戦となった「桜庭＆金原（弘光）組vs石沢（常光）、永田（裕志）組」というタッグマッチを見たんですよ。いま見直すと面白いですね〜、あれ。

桜庭 （対抗戦の）1発目だからですよね。

—桜庭さんのあんな精一杯な顔は貴重ですよ。こ〜んな顔して張り手やってましたよね（笑）。いまでも、あぁいうスタイルのプロレスをやってもいいという気持ちはあるんですか？

桜庭 いいですよ。まったくやらないってことはないです。いまの時点ではやりたいとは思わないですけどね。

—何がなんでもバーリ・トゥード、というわけでもない。

桜庭 ボクの中ではその2つは同じもんなんですよ。

—いまマット界を見渡すと元Uインター勢の活躍がめざましいじゃないですか。高田道場勢は『PRIDE』のリングで暴れ、リングスでは金原（弘光）選手が連勝中だし、ヤマケン（山本健一）はジムを持ったし。

桜庭 田村（潔司）さんもUインターですからね。もともとは。

—そうですね。K-1に安生洋二が上がり、全日本では高山（善廣）、カッキー（垣原賢人）が頑張ってる。気がつくとマット界を席巻してますよ。

桜庭 昔話で、矢を3本まとめると強くなるっていうじゃないですか。でもボクらはバラバラになった方が強かったっていう（笑）。

—でもUインターっていま考えると確実に個々の基盤もあったし、ギラつきもあって凄く面白い団体でしたね。

桜庭 やっぱりちゃんと練習やってましたから。体型が同じような感じの人がいっぱいいたじゃないですか。そうすると、心の中で負けたくないっちゅうのがあって。それでみんな練習やってましたからね。その成果がいまになって出始めてきたんじゃないですか。

—その、元Uインター勢と相まみえる可能性もありそうですね。

桜庭 基本的にはガイジンの方がいいですけどね。

—日本人同士だとやりづらい？

桜庭 金原さんとは一緒に練習してますし。

—ここらで田村vs桜庭の名勝負再現っていうのも見たいですね。

桜庭 できればいいですねぇ。

—しかし、マット界というか仕事の話をしてると、見事につまんなそうですね（笑）。雑談してるときと違って。

桜庭 ヒャハハハ。あんまりそういうことを深く考えすぎると頭がこんがらがってきちゃうんですよ（ニコニコ）。

—桜庭さんはファンから話しかけられたりしないんですか？

桜庭 この周辺で話しかけられても深い話はしないですからね。「握手してください」とか「グレイシー倒してください」とか。

—となるとファンは「打倒グレイシー」を桜庭さんに期待してるんですね。

桜庭 その人だけかもしれないですけどね（笑）。

—で、桜庭さん自身の来年の目標を言ってほしいんですけど。

桜庭 目標ですか？……誰々を倒すとかそういうのですか？

—何でもいいです（笑）。

桜庭 ボクの目標としては、もっとうまくチョコチョコ動けるようになりたいですね。あとスタミナつけないと。

—スタミナ。バーリ・トゥードのような闘いって、実際いくつぐらいがピークなんですかね。

桜庭 ピークですか？ 35歳前後じゃないですか。

—じゃあ、高田さんはピークじゃないですか。

桜庭 高田さんはバーリ・トゥードをやり始めたのが年齢的に遅かったじゃないですか。

—そういえば、高田道場にゆかりのあるマルコ・ファスは37歳ですけど、マルコさんが敗れてしまった10・11のマルコ・ファスvsアレクサンダー大塚戦を見た率直な感想は？

桜庭 ボクとかうちの道場の人は、マルコさんを

『PRIDE.4』ではアラン・ゴエス相手に痛恨のドロー。「セコンドのオヤジの顔が腹立ったんですよ。引き分けたのに喜んでガッツポーズして。『なんだよ！』と思って。嬉しそうに握手されたのが悔しくって」ゴエスとはもう一度やりたいという桜庭和志だった

「ウチの若い選手がちょっと練習すれば……」っていう言い方は、ボクよくないと思います

よく知ってるし、どっちを応援するかっていったら……複雑な気持ちですね。それと、あんなに強かった人も、いずれはこういうふうに負けることもあるんだなぁって。若い人がトップの人を倒すっていうのはこういうことじゃないかっていうのを見せられた感じがしましたね。

——アレク選手の勝利によって、世代交代というか、地殻変動が一気に爆発しましたよね。

桜庭　みんな言ってるように、マルコさんは気持ちで負けたんですよ。最初は負けてなかったと思うけど、やっぱり歳とるとあきらめも早いですからね。あと、あの人はああいう試合を始めて長いから、気持ち的に弱くなってくるんじゃないですか？　例えば10年チャンピオンでいたら、目標にする選手がいなくなっちゃいますから。普段の練習もダラダラやって結果的にスタミナがつかなくなる。ボクらはそうならないようにスタミナつけたいですね。

——マルコの試合は、これからを見据える上でいい材料になったわけですね。

桜庭　あのくらいの歳でもあきらめの入らない、気持ちをしっかり持っていたいですから。

——桜庭さんは気持ちが強いですからね。

桜庭　そんなことはないですよ。居酒屋とかで注文するとき、ボク、あんまり自分で頼まないですからね。

——ガハハハ、居酒屋の話か（笑）。

桜庭　大きい声出すのがなんか嫌っていうか。「スイマセーンッ!!!!!!」っていうのが。

——元・中央大のレスリング部主将とは思えない言葉ですね（笑）。

桜庭　ボクが「すいませーん……」って2～3回呼んでもだいたい振り向かないですね。その時はもう自分で気持ちが小さくなってるから、たぶん声も大きく出てないと思うんですけど。

——それだと歌手に向かないね（笑）。

桜庭　そりゃ、だめですね（笑）。頼めねぇんだよな～、なんか。

——どんな「格闘家（29歳）」だ（笑）。でもリング上ではそういう部分は見事にうまく隠しますよね。

桜庭　リングに上がったらイッちゃいますから、一応。

——どっちが本当の桜庭和志なのかっていうのも興味深い問題ですよね。

桜庭　どっちも本当です。二重人格。

——ガハハハ。「桜庭和志とは何者か？」というのは、『紙プロ』にとって一生のテーマですね。

桜庭　ヒャハハハハ。

——さっきの話に出た新日との対抗戦で闘った石沢選手や永田選手は、バーリ・トゥードでも面白そうですね。

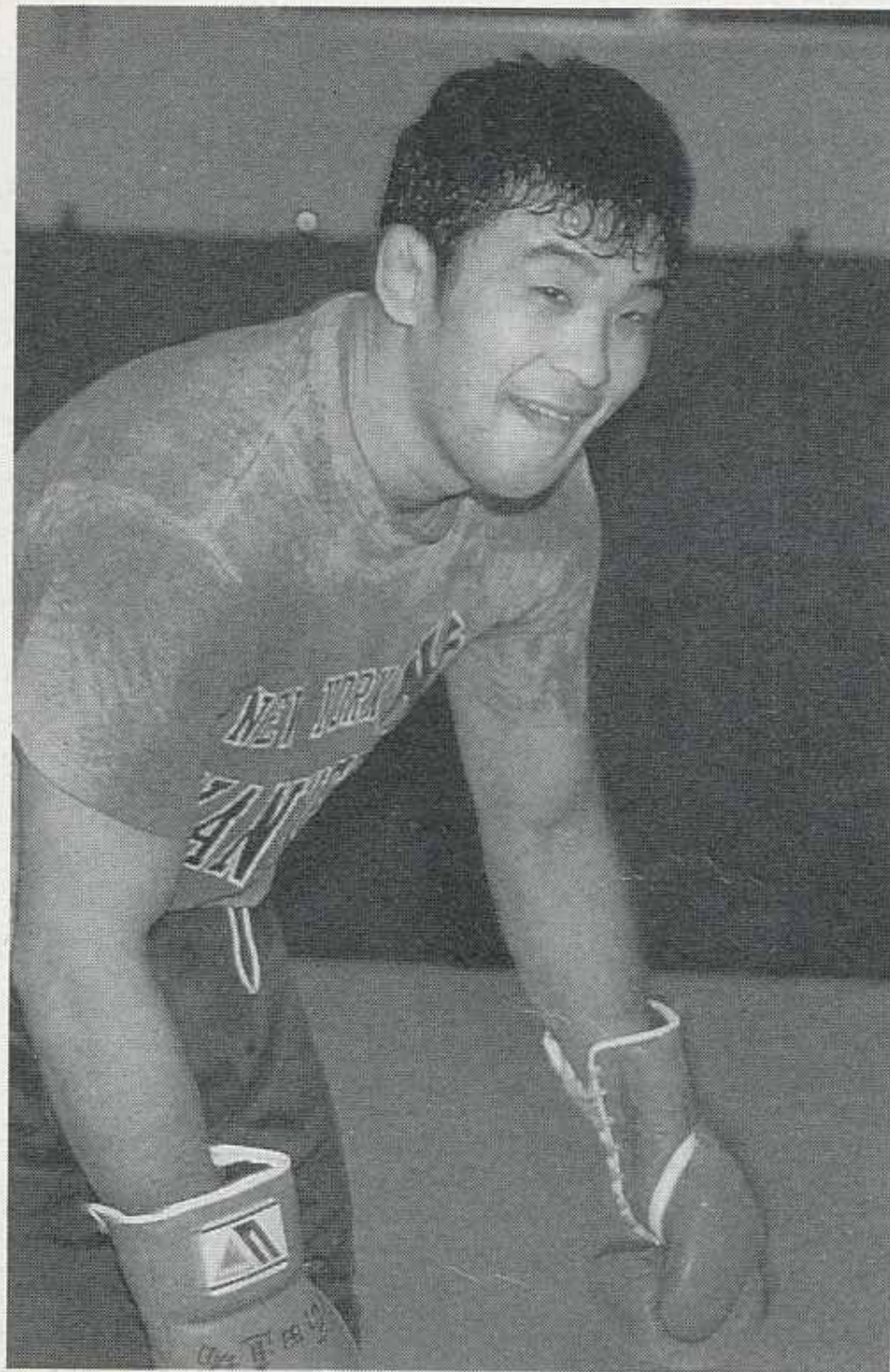
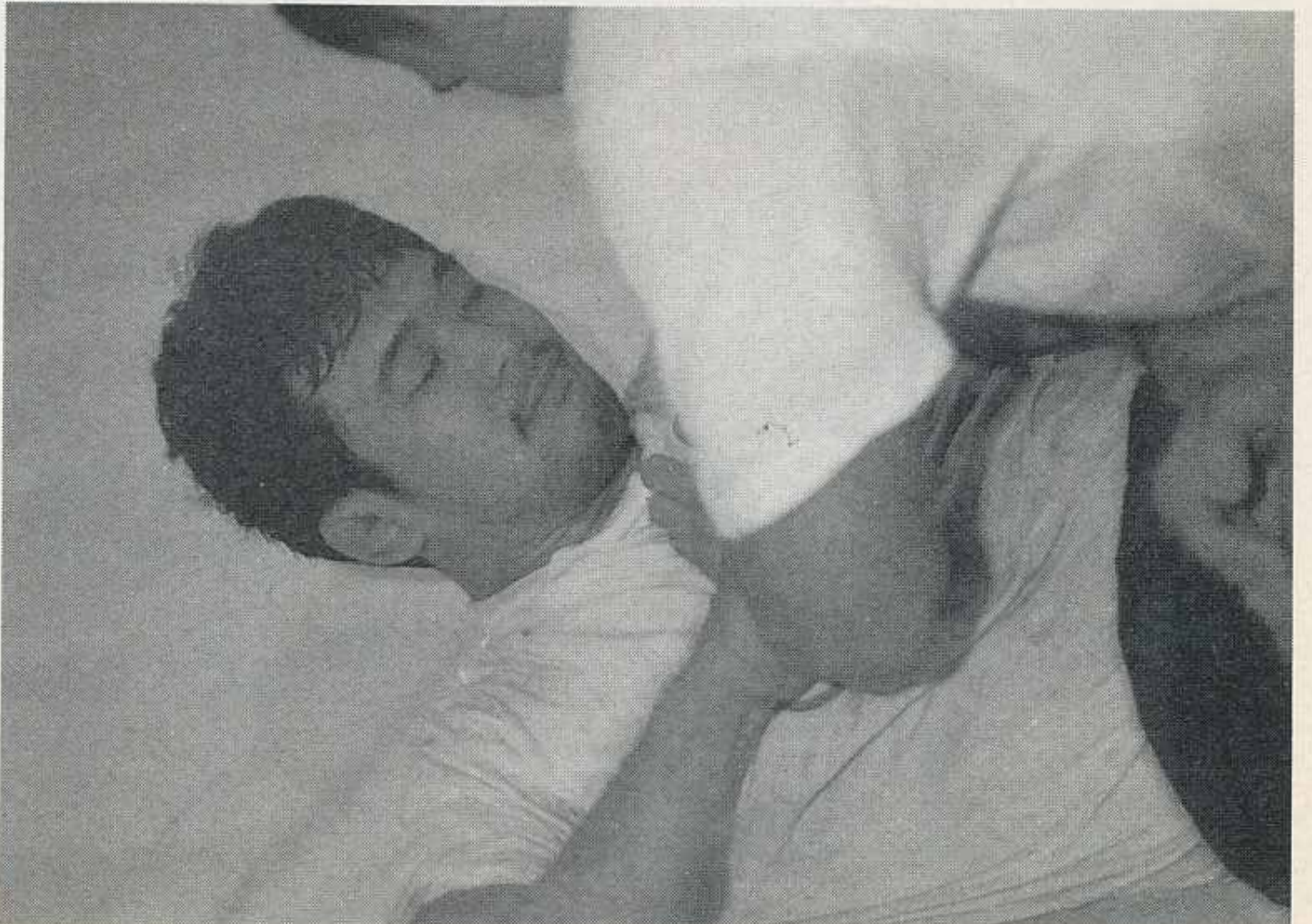
桜庭　面白いと思いますよ。その話になったから言いますけど、ボク嫌いなことがあるんですよ。

——なんですか！

桜庭　「ウチの若い選手が1年練習すればあんな試合はいける」みたいなこと言うじゃないですか。

——長州力監督とかが言いますね。

桜庭　それは逆に「1年間プロレスを勉強すればプロレスの試合なんか十分できます」ってバーリ・トゥードの選手が言うのと同じですよね。

——あ、そうか。それはコロンブスの卵ですね！

2日間見た練習の1日目は打撃なし、2日目はグラウンドなしのスパー。週に5日ないし6日練習を積んでいる。5分のスパーリングを10Rこなすが、1分のインターバルになると、間髪入れず『バイオ・ハザード』の話をふってくる桜庭。その頭の切り替えには松井もしきりに感心していた

「うちのキッズ・ファイターが1年間プロレス練習すれば誰でもトップに立てる」って言ってるのと同じですもんね（笑）。

桜庭　そこまではいかないですけど（笑）。こないだの大塚選手みたく、すぐにやるんならまったく文句はないんですけど、「ちょっと練習すれば……」っていう言い方は、逃げみたいでよくないと思います。

——そうすると、さっきバーリ・トゥードとプロレスは一緒と言ってたけど、従来のプロレスの世界といまいる世界は、桜庭さんにとってはある種の線引きがあるということですね。

桜庭　……点線ぐらいは。

——隙間があるんですね。

桜庭　まったく綺麗に分けることはできないと思います。例えばサッカー選手とか野球選手がバーリ・トゥードやるわけではないんで、点線の隙間がないとはいえないですよ。

——例えばK—1とも点線で区切られてる？

桜庭　K—1は長い点線じゃないですか？　長い棒のあとに短い棒があって、また長い棒があるっていう点線。隙間の狭い。

——K—1は立ち技限定ですからね。でも、そこらへんまで含めて『マット界』って言わないと広がりがないですからねぇ。それぞれのリング上からそれぞれの主張を突き刺してくれればいいんですよ。あ、そういえば新日本に大仁田厚が上がるんですよね。

桜庭　その人、何回引退してるんですか？

——まだ1回です（笑）。興味ないんですか？

桜庭　全然ないです。だったらボクはアメリカでやった（ケン・）シャムロックvsベイダーの方が見たいです。

——ああ。桜庭和志がＷＷＦに上がる姿も見てみ

たいですね（笑）。

桜庭 それは無理ですよ（笑）。

——たまには超ヘビー級との対戦も見てみたいなあ。バーリ・トゥードではゲーリー・グッドリッジ戦とか。

桜庭 殺されますよ！ 顔と黒さに殺される。怖いっスよ。ボクももっと日焼けしてったらいいのかな？ 色が白いと弱そうに見えるじゃないですか。

——桜庭さん、そう見られる典型でしたもんね（笑）。

桜庭 色が黒いと凄い強そうに見えるじゃないですか。グッドリッジはいい人なんだけど、目が怖いんですよ。松井（駿介）と目が似てる。

——じゃあ、松井選手も怖い？

桜庭 怖いですよぉ！ 10・11の試合前に控室で横になってたら、頭の上から「クソーッ！ クソーッ!!」って聞こえるんですよ。何かと思ったら松井がコーフンしてるんですよ。ウロウロしながら「ハッ！ ハッ！ クソーッ！ クソーッ!!」って。

——ガハハハ、松井選手らしいですね。

桜庭 で、「なに松井コーフンしてんの？ コーフンするなよ」っていったら、もの凄く大きな声で「ハイッ!!」って言ってまたコーフンしてるんですよ。（笑）。試合前に自分で意識して興奮しようと思って、やってるんですよ。あのインタビュー読んで。

——菊田（早苗）選手の？（本誌No12参照）

桜庭 そう、あれ思い出したりして。

——松井選手は入場時から気合い入りまくってましたからね。

桜庭 マンガで書くと、黒目の中に赤いのが……。

——ヘタすると炎があるような（笑）。

桜庭 怖かったですよ（笑）。

——さすがの桜庭和志も（笑）。

桜庭 だってボクが寝てる周りを「クソーッ、クソーッ」っていいながら歩いてるんですよぉ（笑）。

——桜庭選手とは対照的ですね。

桜庭 ボクは「コーフンしちゃダメだ」って言ってるんですけどね。普段練習してることが出せなくなっちゃうから。エンセン（井上）さんもこないだの試合（10・25／VTJ'98／vsランディー・クートゥアー戦に勝利）は、あんまり興奮してなかったって言ってましたよね。

——でもエンセンは「まだ冷静に行けなかった」とも言ってた。前に出ていくのはエンセンの持ち味ですけどね。

桜庭 あの人とだけは絶対試合したくないですよ！

——いや～、エンセン井上vs桜庭和志なんてドリーム・カードですよ。

桜庭 ヤですよ！！

——ガハハハ、桜庭さん、コーフンしちゃダメです（笑）。

桜庭 でも（エンセンのことをよく）知ってるから怖いのかもしれないですね。知らない奴があぁいう状態だったら、別になんとも思わないですけど。

——そういえばさっきの石沢＆永田組との試合では桜庭さんは気迫を前面に出していったけど、どこか不自然な桜庭和志でしたよね。

桜庭 試合前に「気迫を出せ」とか言われましたから。「気迫なんか出ねぇよ」と思って（微笑）。

——ガハハハ。試合もプロレスなのにバーリ・トゥードぽかった。逆に今年の6月のカーロス・ニュートン戦はバーリ・トゥードなのにプロレスの試合に見えるんですよね。

桜庭 それはありますよね（微笑）。

——だから、このところの桜庭さんの試合は「術を極めれば芸になる」典型なんですよ。

桜庭 いやぁ（照）。練習と一緒で動きが身体に染み着いてますから。

——桜庭さんの試合は「プロレスと格闘技の関係」を考える上で非常に重要な材料ですよ。最後に来年の抱負はなんかないですか？『PRIDE』だけでなく、どこのリングにでも上がるぜ、とか。

桜庭 う～ん、そんな感じです（笑）。

——そんな感じですか（笑）。

桜庭 WWFには上がりたくないですけど（ニコニコ）。

【98年11月25日／東京池上・高田道場にて収録】

KAZUSHI SAKURABA

髙田道場のザ・プロレスラーと話した「敗戦」「リベンジ」「暗さ」の話

佐野友飛

パンクラスのリングをもっと暗くしてあげます

『PRIDE.4』のVS本間聡戦で、大流血の惨敗を喫した「ザ・プロレスラー」こと佐野友飛。試合後に敢行した観客アンケートでも、最も弱いと思ったレスラーとして1位にランクインするという不名誉な結果となってしまった。佐野はいったい、どこのリングで、どういった形で雪辱を晴らしてくれるのか？ 闇の中から佐野友飛が再起動する！

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影／遠藤政文
Photographs by Masafumi Endo

——髙田道場はみなさん「元気っ!!」ですよね。

佐野 元気っちゃあ元気だね。

——佐野さんは元気ですか？

佐野 まあ、なんとか元気だね。昔だったら殻に閉じこもってしまってるんだろうけど、最近は落ち込んだときこそ人と会うようにしてるからね。

——今日は『PRIDE.4』の本間聡戦の話からうかがいたいんですけど、ズバリ言わせてもらうと見ていて辛かったなというのが正直な感想だったんですよ。試合後のコメントもなかったんで、佐野さん自身もショックは大きかったと思うんですけど、いかがでしょうか？

佐野 そうですね。まあ、負けたときはいつもショックですから。

——試合でも大流血したので、見てるボクらは凄惨なイメージがあったんですけど。ご本人としてみれば、あの試合は惨敗ということになるんでしょうか？

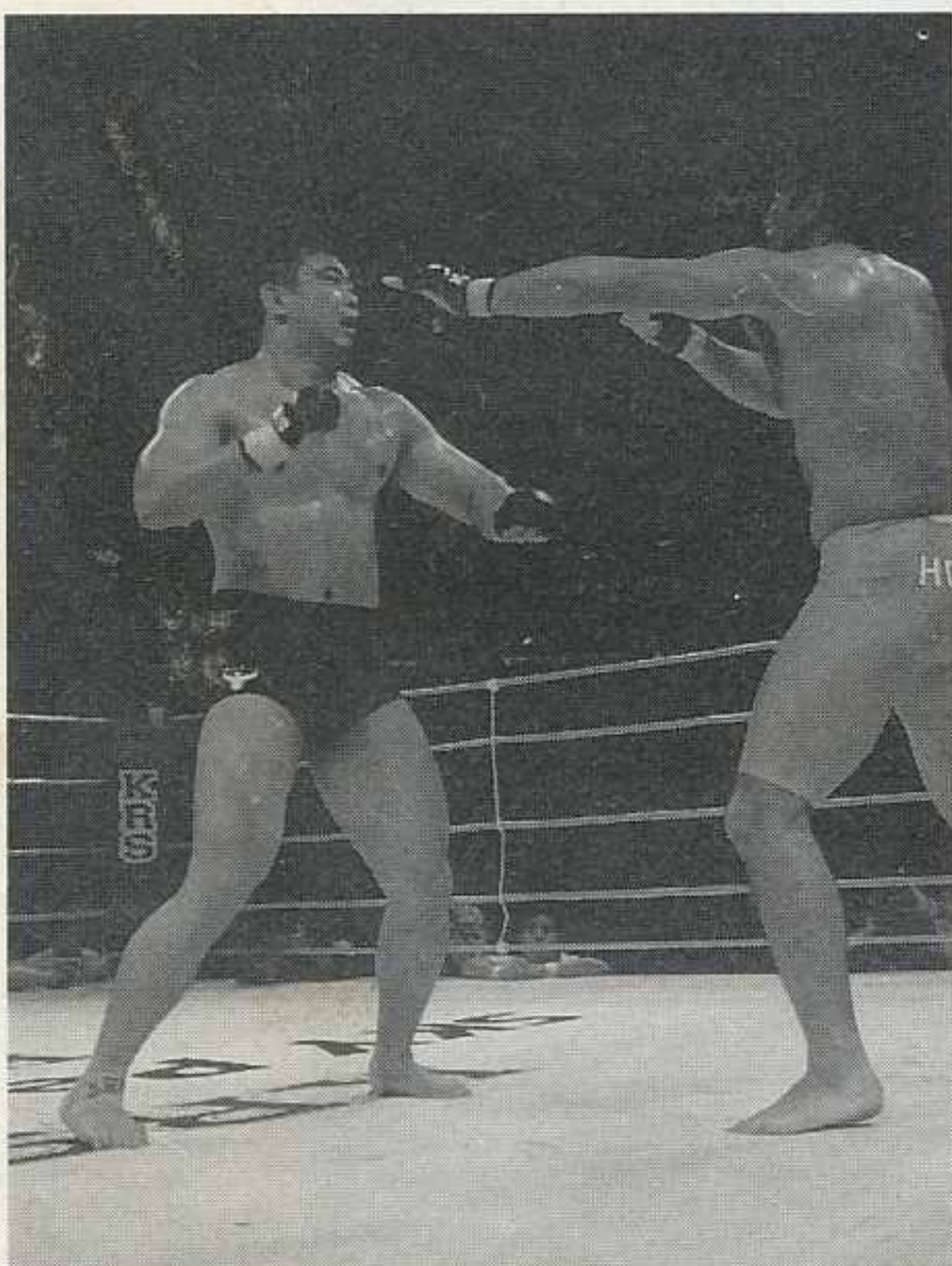
佐野 そうですね。いちばん大きかったのは、身体が動かなかったことだね。

——コンディションが悪かったんですか？

佐野 いや、悪くはなかったんだけど……直前に風邪ひいちゃって。脇腹も痛めてたんで、思うように練習出来ない中で、やらなきゃいけない。そういう焦りがあって。まあ、当日はコンディションがいいなと思ってたんだけど、身体が硬かったというか……固まってたね。

——ほぐれてなかったということですね。

佐野 試合前の練習で、ほぐれるかなと思ったら、逆に固まっちゃってね。それが一番大きかったんじゃないかな。

——試合は打撃中心の展開でしたけど。

98・10・11東京ドームで行われた『PRIDE.4』でリングスにも参戦経験のある本間聡と対戦。ほとんどなす術なく、一方的に打撃を受けてしまい、プロレスファンのタメ息で東京ドーム内の二酸化炭素の濃度が上がったという。

佐野 そうだね。あの日は、うちの選手の試合がずっとグランドで長引いた試合になっていたから……それでどっかでプロ意識が働いちゃったのかな（笑）。

——ここは一発スタンドでやれば盛り上がるだろうという、計算があったわけですね。

佐野 そう。打撃でいければなっていう計算もあったしね。

——でも、相手の選手は正道会館出身で、打撃が得意分野だというのは？

佐野 試合前にも聞いてたし、リングスでやってた頃よりも成長してるだろうなというのも頭の中にはあったし。でも、いざ試合になったらそういう気持ちになっちゃったからね。

——あっ、「立ち技で勝負する」と自分の中で決めちゃってたということですね。でも、プロレスラーはどう考えたって、寝技の方が得意なはずですよね。以前、本誌でインタビューしたときも佐野さんは「極めっこ」だけならホイラーには絶対負けないとおっしゃってましたけど。

佐野 まあ、どちらかと言えば、そうだね。

——なんでそっちで試合しなかったのかな、という単純な疑問が残ってしまったんです。

佐野 あれはあれで良かったんじゃないのかな。

しょうがないよね、ああいうふうに自分の中で決めちゃったんだからね。あの展開でも、勝つつもりで行ったんだけど。あの試合が「いい経験だったな」って思えるようにしたいね。

――試合中も、佐野さんの感覚の中ではこのままじゃダメだと考えていたわけですか。

佐野 そう。殴られながら、ヤバいなと思ったりもしたんだけど……寝技に持ち込んでズルズル試合することも、やれば出来るんだけど。途中で作戦を変えることは出来なかったね。

――『PRIDE.2』でホイラー・グレイシーと30分以上に渡って、グランド状態で狙いにいきましたよね。今回は、その教訓をいかして短期決着を狙ったというわけでもないんですか？

佐野 それは関係ないね。

――バーリ・トゥード路線よりUスタイルの方がやり易いなという感覚はないですか？

佐野 まだ2試合しかやってないからね。それはないね。

――新しいターゲットはいないですか？　以前は「キモと闘いたい」とおっしゃってましたけど。

佐野 う〜ん、いま探してるところだね。でも、これぱっかりはインスピレーションだからね。まあ、チャンスを頂ければ、本間選手にリベンジは狙ってますよ。

――今年はバーリ・トゥードでの闘いしかやっていない佐野さんですけど、いま高田道場とパンクラスの交流戦が取り沙汰されてますね。

佐野 実際に生で見たことは少ないんですよね。ビデオやテレビでは見たことはあるんですけど。

――選手の印象はいかがですか？

佐野 細いですよね。絞れてる。

――ハイブリッド・ボディーですからね。高田道場のみなさんは、極限まで落とすということはしないですよね。

佐野 そう、自然な感じがするでしょ（笑）。

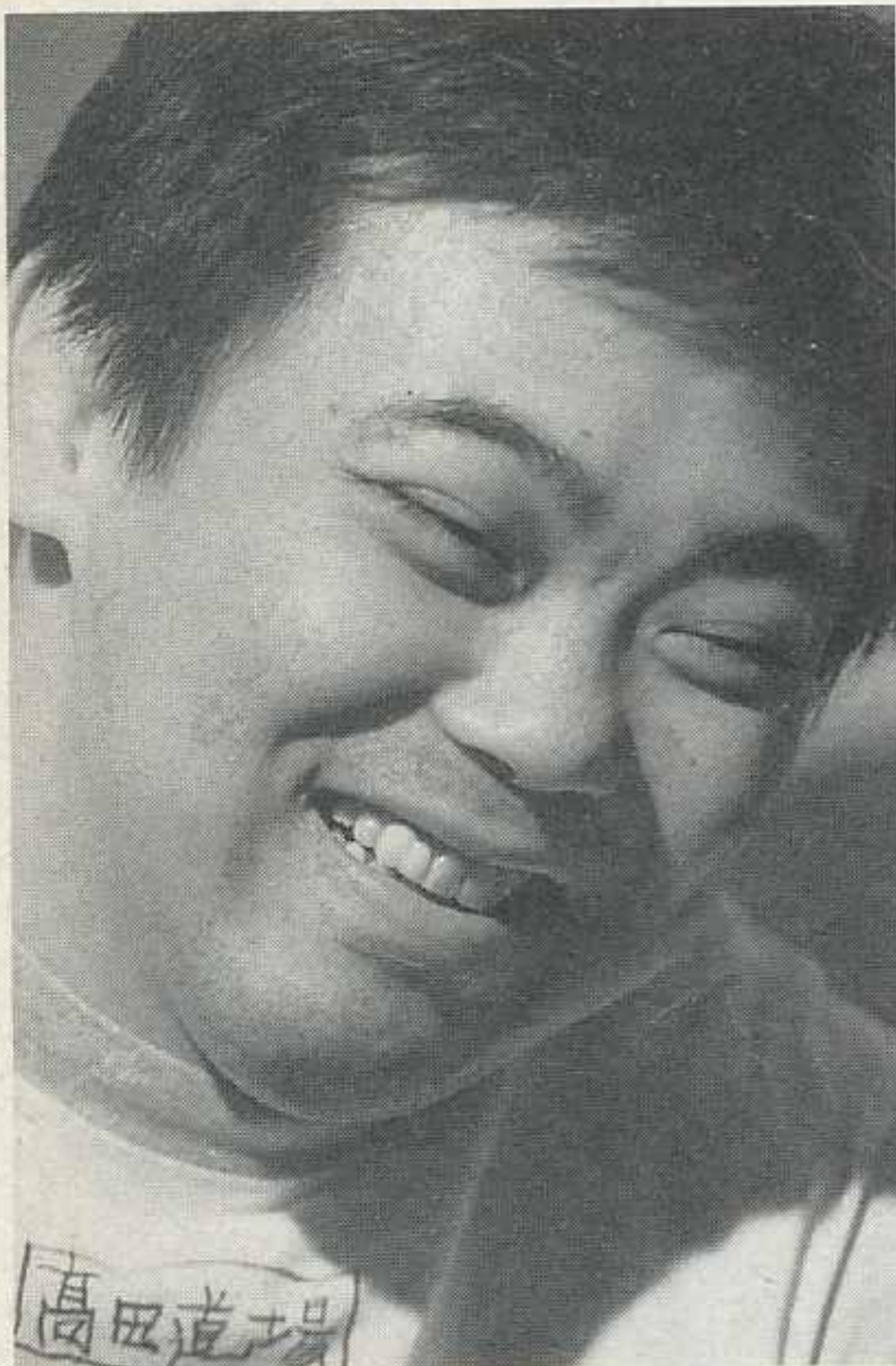
――そういう部分でカラーの違いがはっきりしてるから、リング上で対戦したら面白いでしょうね。佐野さんの中にパンクラスという団体に対するイメージはありますか？

佐野 う〜ん、暗いイメージかな。

――ガハハハハ！

佐野 暗いですよね？

――というか、ストイックなんですよ、きっと。

試合がなかなか組まれない状況ではあるが、常にコンディション調整を欠かさない。スパーリングと共に、ウェート・トレーニングにも余念がないのが佐野のスタイルである。

さの・ゆうひ■昭和40年2月2日、北海道苫小牧市出身、A型。昭和59年に新日本プロレスでデビュー。高田と共に酔った勢いで六本木のど真ん中で殴り合った伝説を持つ。ライガーの好敵手としてジュニアヘビー級で幾多の名勝負を残してきたが、平成2年にSWSへ移籍。当時、Sと提携していた藤原組の船木や鈴木と好試合を展開。S崩壊後はUインター、キングダムを経て、高田道場に参加している。180センチ、100キロ。

YUHI SANO

ね？

佐野 たまたま試合を見たのが9月の武道館大会だったんですけど、暗かったんだよなあ……。普段は明るいんでしょ？

――それは照明が暗いとかいう意味じゃないですよね（笑）。

佐野 雰囲気がねえ。他人のこと言えないんだけどね。

――ガハハハハハ！　自分で言わないでくださいよ（笑）。

佐野 選手がリングに上がったときに開放感がないというか、明るさがないというか。

――高田道場勢のような「元気っ!!」っていう部分がないですよね。

佐野 ちょっとびっくりしたね。

――船木（誠勝）選手や鈴木（みのる）選手は、かつて同じ釜のメシを食った仲ですからね。その頃とは、だいぶ変わってると思うんですよ。

佐野 もっと明るい光を放って欲しいね。

――佐野さんが対戦してみたい選手がいましたか？

佐野 う〜ん……（熟考）。

――対戦相手として、船木選手なんかはどうですか？

佐野 昔とは変わっているんだろうけど、なんとなく想像がつくんでね（笑）。そうだね、鈴木とやってみたいというのは、あるね。

――武道館でやった鈴木選手の試合にはいろいろ思うところあったんじゃないですか？　試合前に自分からレガースを脱ぐシーンは猪木さんを彷彿とさせるものがありましたけど。

佐野 面白いよね、あんなに嫌がってたのに。

――えっ！　鈴木さんは猪木信者だと思ってたけど、違うんですか？

佐野 プロレスのああいう部分を嫌がってたのに面白いなと思って。

――単純に興味ありますよね、佐野友飛vs鈴木みのるが実現したら「暗いリングを明るくしてやるぜ！」みたいな狙いはあるんですよね。

佐野 いやいや、もっと暗くします（笑）。

――ガハハハハ、「オレが暗くしてやるぜ！」と（笑）。一時期、鈴木みのる選手が「相手の光を消すプロレスをやりたい」と言ってましたけど。

佐野 ほんとうにみんな消えちゃったみたいだね（笑）。

――あれも団体のカラーですからね。そこを佐野さんが暗く塗りつぶすと。

佐野 やりたいねえ。

――ああいう暗い空間が好きなんですか？

佐野 好きだね。あの暗い空間に入ってみたいよね。

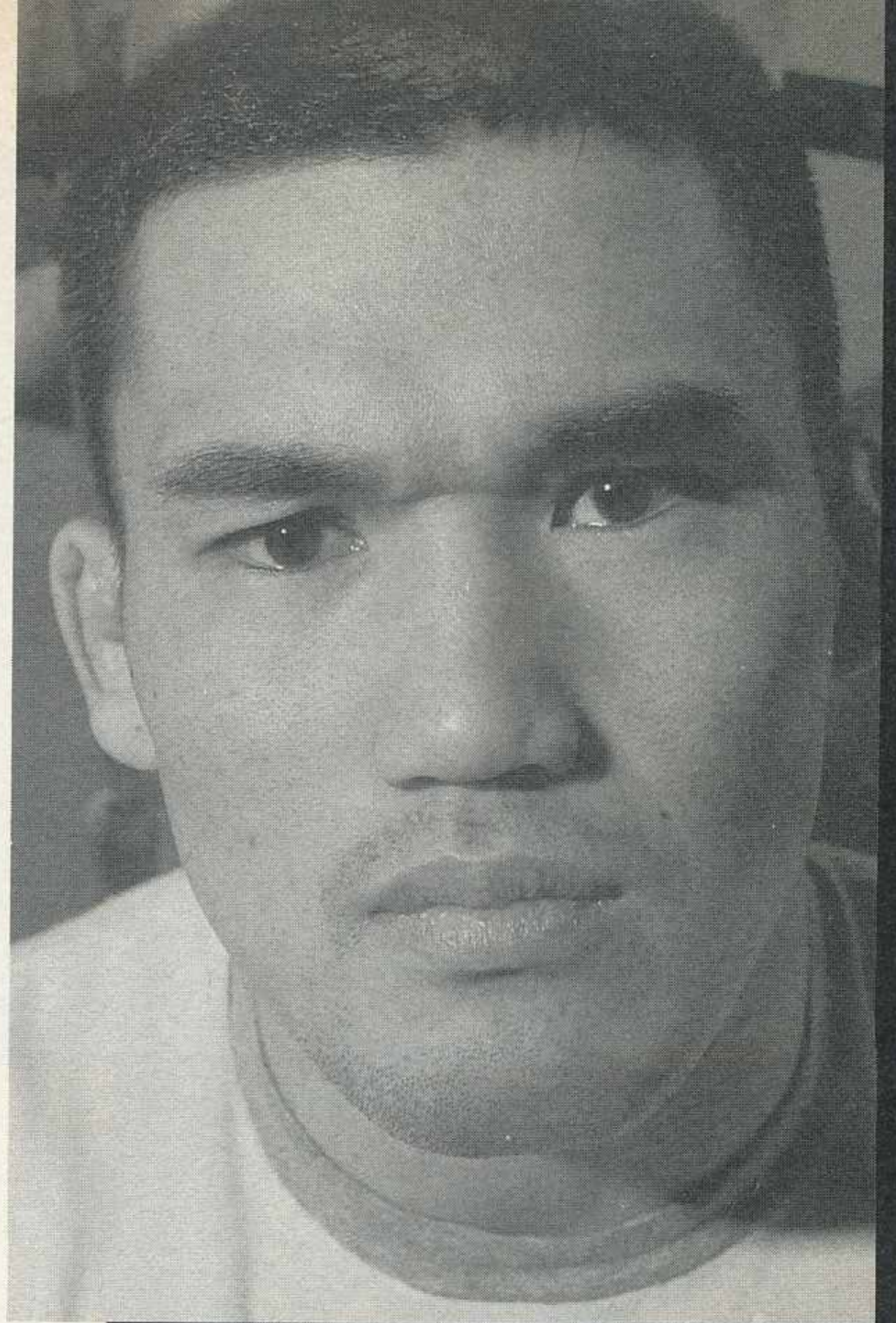
――そんな自虐的にならないでくださいよ。

佐野 まあ、なんとかもっと暗くしてあげたいよ。

――ガハハハハ！　頑張ってください！

【98年11月25日、大田区・高田道場にて収録】

「相手の光を消す男」鈴木みのるvs「暗くしたい男」佐野友飛のキング・オブ・ダークネス決定戦は是非、実現させて欲しい！

次回予告！　『S多重アリバイ』第5回目のゲストに佐野友飛の登場（予定）　乞うご期待！

高田道場の炎のファイターと話した「プロ格闘家」「キッズファイター」の話

松井駿介

あのPRIDE.4の試合ですからね！
あれだけ強気な発言をしておいて

エンセン井上も大絶賛した「炎の男」松井駿介。PRIDE.4では試合前に舌戦を仕掛けてきた菊田早苗を相手に、気迫のこもりまくったファイトでドローに持ち込み、戦前の評価をひっくり返す大奮闘。燃える男の導火線には火がついた。後は爆発するだけだ!!

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影／遠藤政文
Photographs by Masafumi Endo

――『PRIDE.4』の菊田早苗戦は、ホント良かったですね！

松井 そうですか？　自分では攻められなかったんで、全然満足してないですけど。

――『PRIDE.4』直前に出したウチの雑誌で、菊田選手が松井さんのことをボロクソに言ってたんですけど、読みましたか？

松井 もちろん！　読んだ瞬間にメチャクチャ腹立ちましたね！　まず桜庭さんが読んだんですよ。「菊田、何か言ってるよ！」って騒いで、見たらあの通りでしたからね。

――あの記事は、いろいろな方面で波紋を呼んで某団体からは取材拒否をくらいましたからね。

松井 菊田選手も柔道やってた人だから、もっと礼儀正しい人かなと思ったんですけど……。彼、新日の人に対しても「ろくな死に方しないと思います」とか言ってましたよね！　ボクのことも「柔道は弱い」とか言って。彼がどれだけ強いか知りませんけど、あれだけ強気な発言をしておいて、『PRIDE.4』のあの試合ですからね。抑え込むだけ！

――松井さんの美学の中では有言実行よりも、「男は黙って勝負！」みたいなものがあるんですね。

松井 グダグダ言うのは嫌ですね。言われるのも好きじゃないですから。この世界、結果出せば何も言われないじゃないですか？

――言った以上は、やるのが男ですからね。

松井 カッコ悪いですよ、あんなの。

――でも、試合内容には全然満足してないんですよね？

松井 全っ然！

――試合後のコメントで「ボクには、まだ極める技術がない」と言ってましたけど、すさまじい気迫は見えましたよ。

松井 ホントっスか？

――試合後に高田さんからは何か言われましたか？

松井 「勝たなきゃダメだぞ。だけど、落ち込むことはない。戦前の評価は菊田選手の方が上だったんだし、負けなかったわけだから、次は勝てよ」ということを言われましたね。

――試合後の控室に菊田選手が来たらしいですね。

松井 ええ、「もう一度お願いします」って。「ああ、はいはい」って感じでした。

――軽くいなしますね（笑）。「嫌だ！」とは言わなかったんですか？

松井 そんなこと言ったら何言われるかわからないですからね。

――ああいうふうに口で仕掛けてきた相手に対しての松井さんの返答が、入場時の表情であり、試合後のそっけない態度だったわけですね。あれは痛快でしたよ。

松井 いまでも再戦はしたくないですね。その気持ちは変わりません。

――ああいう菊田選手のコメントがあったから、松井選手の普段にはない気迫や表情や生の感情をを見ることが出来たんだと思うんです。あれはあれで面白くなったと思いますよ。

松井 最近の『格通』で菊田選手が、「ライバルは誰ですか？」って聞かれて、「桜庭さんと小路

試合直前、本誌12号で掲載した菊田早苗のインタビューを思い出したのか、気合いが入りまくった表情で入場してきた松井。試合は10分3Rの間、膠着し続け、結局ドロー。戦前は圧倒的有利と言われていた菊田に対する観客のブーイングは痛烈を極めたものだった。

『PRIDE.3』でバーリ・トゥードでデビューを果たした松井。元・誠軍団1号の小路晃と引き分けたが、お互い通じ合うものがあったようだ。数年後に、この再戦は見てみたい。

（晃）さんです」って答えてるんですよ。ボクにも勝てないヤツが何言ってるんだ？　って思いましたけどね（笑）。対戦していて、彼に対する野次はホントよく聞こえました。

―聞いてて気持ちよかったんじゃないですか？

松井　はい、気持ちよかったです（笑）。

―松井さんは『PRIDE.3』でも『PRIDE.4』でも下馬評は低かったですよね？　まずは『PRIDE.3』でバーリ・トゥードデビューだったからしょうがないのかもしれないけど。

松井　ボクの勝ちを予想した人はいなかったんですよね。『PRIDE.4』では一人だけいましたけど。『PRIDE.3』のときは仕方ないと思います。小路選手は『PRIDE.1』と『PRIDE.2』で素晴らしい成績を残してますからね。でも、あのパンフレットの予想を見て、逆にやる気になりましたね。「ヨッシャー、いまに見てろよ！」って。

―小路戦は自分自身では、どうだったんですか？

松井　ラウンドの開始ごとに「お願いします！」って言ってたら、ちゃんと同じ言葉が返ってきましたから。いい人でしたね。内容的には熱くなりすぎました。

―今号で、小路選手にインタビューしてるんで、メッセージをもらってきたんですよ。「松井さんも、ボクらと目指す方向が一緒だと思うんで、一緒に頑張りましょう」ということでした。

松井　おっ！　はい、頑張りましょう。人間的には小路さんの方が全然……。

―こういうコメントにも人間性がにじみ出てますね。

松井　いい人ですね。小路さんの方がいろいろ言ってくる人かと思ってましたけど、違いましたね。

―『PRIDE.4』のときは、小路選手と控室が一緒だったんですよね？

松井　そうですね。でっかいミッキー・マウスが置いてありました（笑）。

―松井さんと小路選手は顔似てますよね？

松井　よく言われます。

―そのうち松井ミッキー・マウスが出るかもしれないですね（笑）。

松井　誰も買わないですよ（笑）。

―ところで、理想とする選手っていますか？

松井　エンセン井上さんみたいになりたいですね！　かっこいいし、強いですから！

―エンセンさんも松井さんのこと褒めてましたからね。「目に大和魂があるヨ！」って。

松井　素直に嬉しいですね！　練習は2回ぐらいしかやったことないんですけど、木っ端にされます。

―自分で「これが足りないんだよ」って箇所はありますか？

松井　技術です。

―道場でスパーリングとかやってても「自分が強くなったな」って思う瞬間はないですか？

松井　「しぶとくなったな」とは思いますけど、「強くなった」とは思いません。そんな簡単には強くなれないですよ。

―昔の新日で藤原（喜明）さんに鍛えられた人はよく言ってましたよ。まずはクチャクチャに極められて、そこから逃げ方を覚えて、そして極め方を覚えていくもんだって。

松井　ボクはまだ逃げ方を覚えてる段階ですよ。そんな1年2年でトップになれるほど甘くないですから。光輝く未来は、だいぶ先です（笑）。

―で、前を見るとパンクラスとの対戦が迫ってきてるんですが。

松井　パンクラスは魅力のある団体だと思いますよ。

―話は変わりますが日常生活でも、菊田戦ぐらい燃える場面はありますか？

松井　ないです、穏やかなもんスよ。会員にも、キッズ・ファイターの子にも優しいですから（笑）。

―優しい先生なんですか？

松井　そう。「優しい松井さん」って言われてますから（笑）。子供たちと無邪気に遊ぶのが好きなんですよねえ。ポケモンの話とか、学校の話の話で盛り上がるんですよねえ。

―小学生と波長が合うんですね。

松井　キッズ・ファイターって小学校1～6年生までなんですけど、特に小学校1年生とは話が合うんですよ（笑）。かわいいんですよ、みんな。

―菊田選手みたいな口撃が嫌いで、キッズ・ファイターと遊ぶのが好き（笑）。なんか一本の線でつながりましたね。松井さんはピュアなハートの持ち主なんですよ（笑）。

松井　似合わないっスね（笑）。

―じゃあ、自分の性格を自己分析すると、どうなりますか？

松井　猪突猛進！ですかね。燃えちゃうと他のことが見えなくなって、一カ所ばかり目指しちゃうんですよ。

―例えば、「無理だ」って周りから言われても、ムキになって取り組んでしまうようなことってないですか？

松井　ありますね！　小さい頃、兄貴には出来てボクには出来ないことがあると、すごい悔しくてムキになってやってましたから。

―例えば？

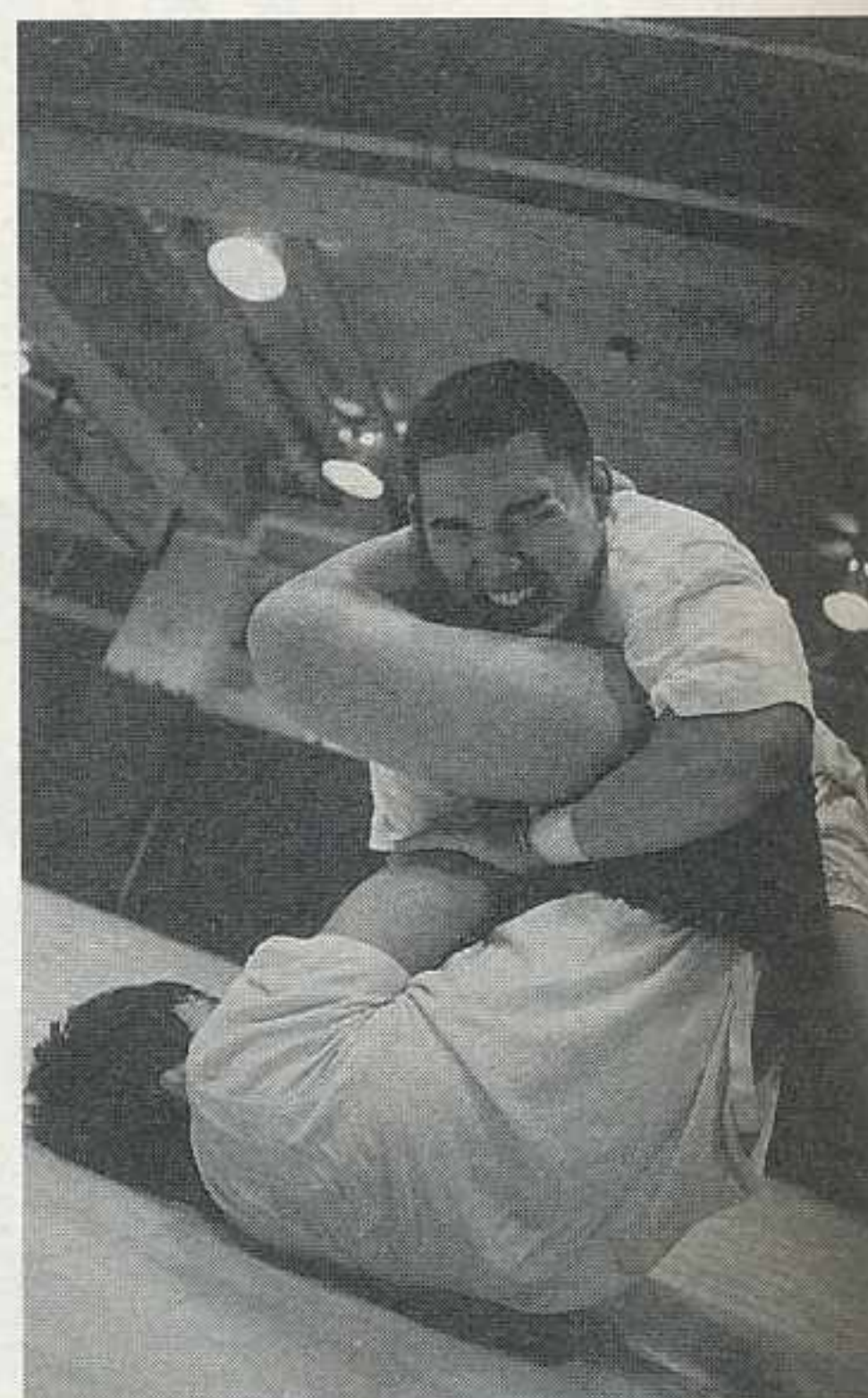
松井　風船に息を吹き込んでパンパンに膨らませるのが出来なかったんですよ（笑）。恥ずかしいなあ。ボクのストーリーは風船からですか（笑）。

―そう、風船のようにでかくなっていくはずですよ。くれぐれもヒモの切れたアドバルーンにならないように気を付けてください（笑）。

松井　はい。息を入れすぎて割れないようにも気をつけます（笑）。

【98年11月24日、大田区・高田道場にて収録】

SHUNSUKE MATSUI

まつい・しゅんすけ■昭和47年12月5日、岡山県岡山市出身、O型。国際武道大で柔道に打ち込み、Uインターに入門。平成8年9月30日、岩手県営体育館でvs上山龍紀戦でデビュー。キングダムを経て、今年2月高田道場に参加。熱くなるとどうにも止まらない『こち亀』好きのナイスガイ。178センチ、88キロ。

練習、雑用、コーチング、いろんなことをしながら強くなるのがプロレスラー。強くなるための環境は整っているので、あとは結果を出すのみ！

格闘 DREAM CAST 高田道場 1999

高田道場の鉄砲玉と話した「パンクラス」「リングス」「危機感」の話

豊永稔

ボクなんかいい試合して勝たないとチャンスがどんどん減りますよ

豊永稔は今年、2つの団体に上がる。リングスとパンクラスである。犬猿状態の両団体を行き来する、U系夢の懸け橋となったのだ。いよいよ12月はパンクラスに初参戦、注目を浴びる晴れ舞台での試合である。この晴れ舞台で豊永は何を狙っているのか？

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影／遠藤政文
Photographs by Masafumi Endo

——豊永さんは、本誌初登場なんでプロフィールからうかがいたいんですが、サッカーとラグビーをやってたんですよね。

豊永　そうですね。運動神経は悪い方じゃないと思います。あと、父親が警察で逮捕術を教えてたんで、そこで機動隊と柔道の練習もしてましたよ。

——格闘技未経験ではないと。キングダム入門が97年ですね。

豊永　そうです。高校を卒業して、すぐですね。

——あの頃、キングダムには安生さんをはじめ、山本健一さん、桜庭さん、金原さん、安達（巧）コーチ、試合には出てなかったけど高田さんがいて、エンセン井上さんが出稽古に来てたという、いま考えると錚々たるメンバーですよね。

豊永　やられながら覚えていくっていう感じですね。練習生だった頃は、あんまり教えてもらえないんですよ。扱いも全然違いますから。

——豊永さんのデビュー戦は、いまでも強烈に記憶に残ってるんですけど、サンバの曲に合わせて手拍子しながら入ってきてリング上で前転しましたよね？　会場は盛り上がってましたよ。

豊永　怒られましたね。「気迫を出していけ」と言われて……どうすればいいのかわからなくて。

——桜庭さんは入場のときニコニコしてますけど。

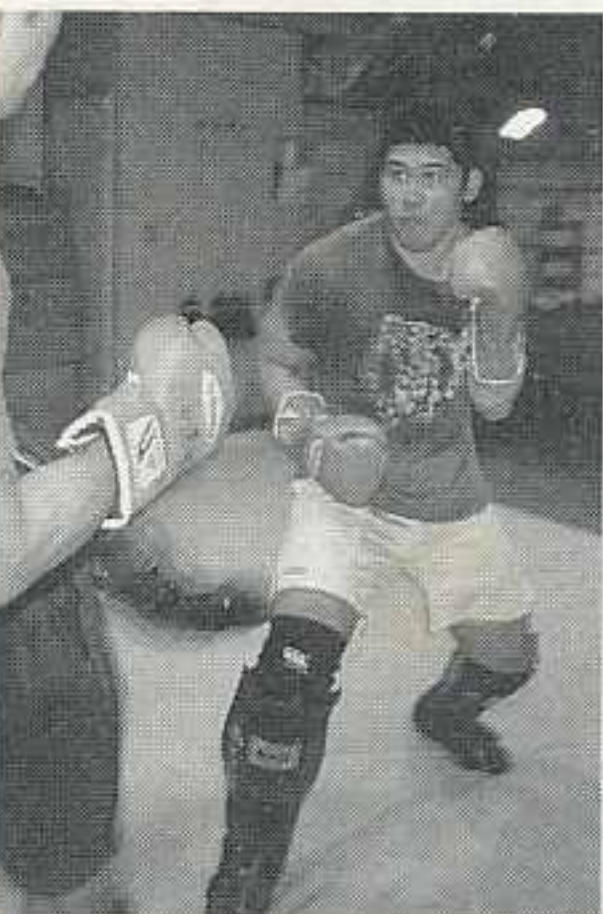
豊永　桜庭さんはあれが普通じゃないですか？　松井さんも燃えてるのが普通なんです。ボクも普通にしていたいんですよ。つくるのは嫌いです。

——どういう状態が普通なんですか？

豊永　心がけてるのは「人に優しく！」ということですね。

——そんなのリング上で出せないじゃないですか（笑）。

豊永　いや、別なんですよ。リング上では、相手の裏をかきたいです。

——豊永さんが注目を浴びた試合といえば、何と言ってもリングス滑川選手との試合ですよね。

とよなが・みのる■昭和53年6月12日、鹿児島県出身の20歳。平成9年11月3日後楽園ホール大会のvs松井駿介戦でデビュー。キングダムの生え抜き第一号選手だが、今年2月からは高田道場に移り練習と雑用と道場生の指導で忙しい日々を送る。原チャリ通勤＆ゲーム（バイオハザード）好きという高田道場イズム（？）を受け継いだ期待の切り込み隊長である。チャンコは黒帯（マルコ・ファス認定）の腕前を持つ。180センチ、87キロ。

豊永　あの試合は滑川選手の気迫に圧倒されたというか、未熟でしたね。

——いや、あの試合は意地の張り合いが素晴らしかったですよ。あの試合はセコンドも盛り上がってましたよね。そして再び、団体対抗戦ですね。高田道場の鉄砲玉として、また出撃するわけですが。

豊永　チャンスは頂いてるんで、頑張ります。とにかく勝ちたいですね。楽しみです。

——ビデオで対戦相手の石井選手のことを研究してるんですか？

豊永　まだデビュー戦と第2戦目のビデオしか見てないんですよ。ハートも力も強そうですからね。試合のイメージは頭の中にあるんですけど……。

——その一戦に向けて、抱負をガツンと聞かせてください！

豊永　とにかく勝ちたいです！　ボクなんか、いい試合して勝たないとどんどん試合が少なくなっちゃいますから、勝たないとダメなんです。

【11月25日、大田区・高田道場にて収録】

今年6月20日リングス後楽園大会では、滑川康仁相手に白熱の好勝負を展開し、観客席を揺るがした!!

前田日明の
田楽刺し人生相談

第9回

人生は譲らず

構成／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

年忘れ&賀正祭り

12月はその年をおさめる月。巷では忘年会のシーズンだ。1年間の間にはいろんなことがあっただろう。忘年会とは、その1年の間に打ったヘタを、酒とともに飲み込んでしまう儀式。

ところで、酒癖の悪い俺の言い訳ではないが、酒はアルコールである以上、酔うのは当たり前。だから、酔わないとつまらんと思うのは俺だけだろうか。

つい最近見つけた漢詩におもしろいものがあった。

興志一来　興志ひと度来たらば
可狂起耳　狂気すべきのみ
侠情一往　侠情ひと度往かば
可乱酔耳　乱酔すべきのみ

これを噛み砕いた意味に直すとこういうことだ。

「酒に呑まれないという程度の酒だったら飲むな！」

――なるほど……。

しかしこの場合重要なのは、興志と飲む時だったらというところ。

この辺に哀しい酒飲みの問題がある。

興志はなかなかいない。

興志とは、すべてを理解しあえた同じ理想を持つ同志。

せめて忘年会までに探しに行こうと思っている。

♪こうし戸をくぐり抜け　見上げる夕～焼けの空に～

興志はこうして探すはずだ。

あとは、それぞれ身体を壊さないように。暮れましてごきげんよう。

悪徳の中に全存在をさらけ出しても
なおかつ求道的精神を失わぬ
図太い男より

Q 前田さん、はじめまして。私は来年には45歳を迎える、俗にいうオヤジです。

先日、高校1年生の娘と妻と初めて親子3人でカラオケに行きました。その時に私の醜態を娘に晒す瞬間が訪れてしまったのです。私は極端に酒が弱い。いや、酒癖が悪い。ゆえに会社の飲み会や接待でも何度か醜態を晒してはいました。

しかし、今のいままで家族の前では何があってもそんな姿は見せませんでした。ところが、娘と初めてカラオケに行った嬉しさと恥ずかしさも手伝って、歌う度にビールをガブ飲みしてしまい、とうとう〝その瞬間〟は訪れてしまいました。

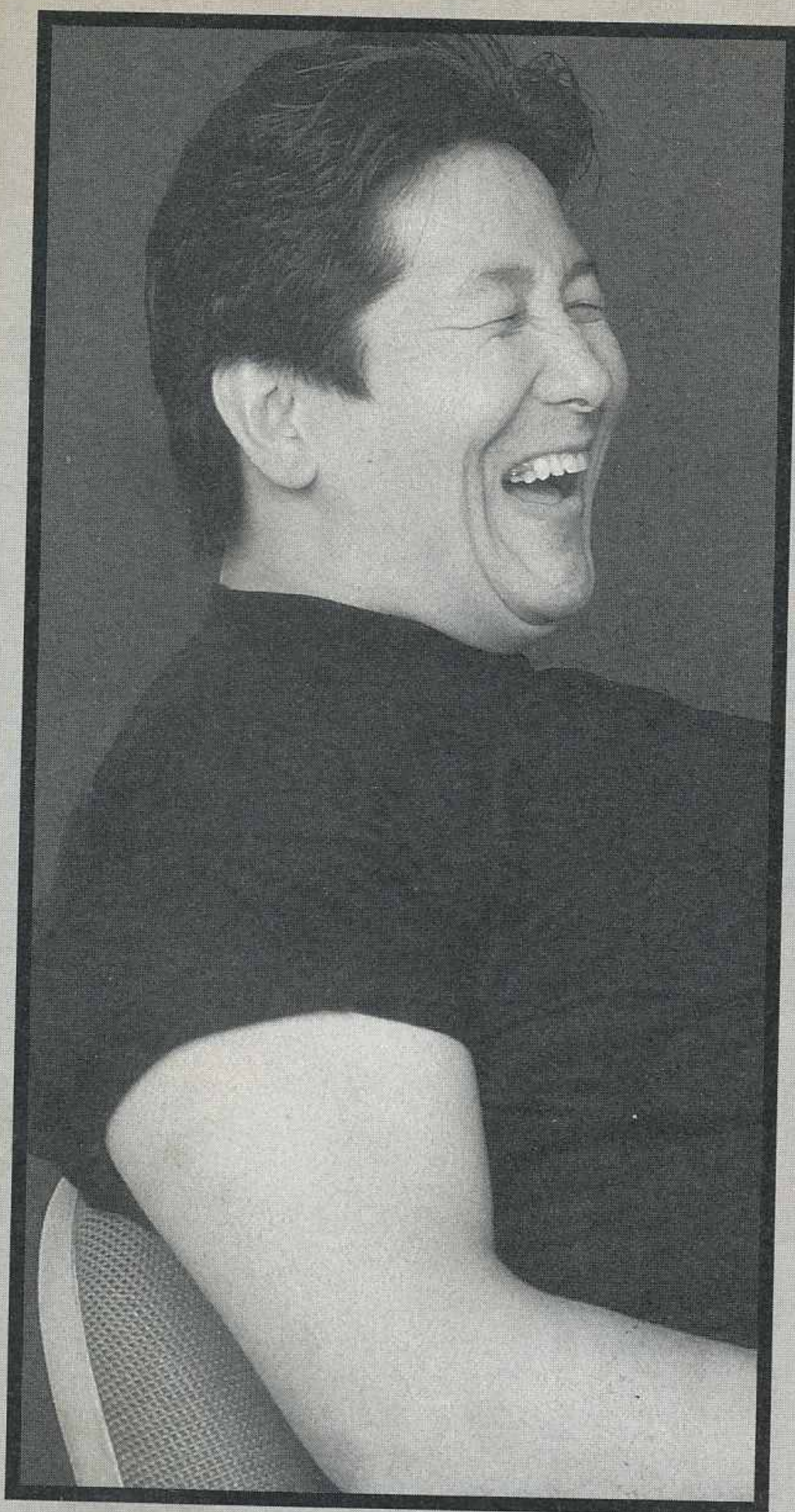
私はあろうことか、思いきり泥酔してしまいました。そして、テーブルの上に乗り自分のイチモツをブンブン振り回し、なおかつその場で小便までしてしまったのです！

他にも数々の狼藉を働いた模様ですが、私にはその記憶はまったくありません。ああ、心の底から穴があったら入りたい。

店側に平謝りに謝った妻も、年頃の娘も、それ以来口をきいてはくれません。口をきくのは時間が経てばなんとかなるでしょうが、私が取り戻したいのは〝父親の威厳〟です。彼女たちの態度の端々に私に対する軽蔑の態度が見えてしまうんです。家族から軽蔑されることがこんなにも辛いことだとは思いませんでした。

前田さん、どうか〝父親の威厳〟を取り戻す良き方法を伝授してください。本当によろしくお願いいたします。

（札幌市・だるま男・44歳・某会社総務部勤務・男）

A トンマなオヤジやなぁ。でも反対に、この事件によって現状よりは威厳を持てる可能性が膨らむかもしれへんで。将来、「うちのお父さんは豪傑だった」っていう話になるかもわからない。そんなもんですよ、酒で酔っぱらうなんて。まったく気にする必要はなしっちゅーこっちゃね。

こんなんで落ち込んでたら俺なんか1千回ぐらい落ち込んでるよ。俺は、正道会館の角田信朗の結婚式の時に、両親への花束贈呈という一番感動的な場面で「オマ●コ～！」って10回ぐらい叫んでしまったからね。さすがに向こうの親族からは、人を殺す時にしかしないような目で睨まれたし、一番最後の主賓のスピーチの時には「本日は慶事にもかかわらず、一人狼藉者がいましたが……」とか言われたけどな。それ以外にも、角田の友達のジャズ・ピアニストの演奏の時に「なんじゃこれは！　わけわからんゾー!!」とか、わけもなく陽気にわめいていたらしいんだよね。

それに、ちょっとこの時は、俺にとってのハプニングがあってね。俺は結婚式に出席すると、新郎を酒で潰すのが趣味で、その時も「角田を潰そう」と思って、水差しにウイスキーをガーッと注いで持っていこうとしたわけ。

そうしたら、横にいた極真の元世界チャンピオンの佐藤勝昭さんが、「前田さん、酒飲まれるんですか。豪気ですね」って言うが早いか、それをグーッと一気に飲み干して、「ご返杯！」ときたんだよ。それで引くに引けなくなって俺もガーッと一気に飲んだ。おまけに角田の方も潰しに行かなきゃならないから、2人の間を往復しつつ相手にするハンディキャップマッチになってしまった。何とか2人を酔わせたあと、そうこうするうちにわけがわかんなくなって、気がついたらゲロだらけのホテルの部屋の中で寝てたということがあったんだよ。

その俺の酔っぱらい方に比べたら、このオヤジの醜態なんて全～然、どうってことない。家族の前やろ。恥ずかしいことあらへんやんけ。娘にチンチン見られたくらい構わん（「なんじゃい、おまえはここから生まれてきたんやど」と教えたれ！）。

酔っぱらいの話ではこんな話もある。囲碁の昔の名人で、今も実力者で有名な藤沢秀行という豪傑がいる。この人は酔うと「オマ●コ～！」と叫ぶ癖が有名な人で、ある時、囲碁ファンを集めて名人戦の解説会みたいなものを開いた。その時に進行役として参加していたNHKの女性アナウンサーが、「藤沢秀行先生です」って紹介したら、ベロンベロンになって出てきた秀行は、「よぉ、お姉ちゃん！　いいケツしてるな！　オマ●コさせろ。ガハハハハ！」って言ったらしい。

まわりは真っ青になって、会場はやんやの大騒ぎ。でも面白いのは、「なんて不謹慎なことを言うヤツだ」と憤慨する客と、藤沢秀行の有名な〝オマ●コ発言〟を生で聞けたって喜ぶ客と二つに割れたらしいねん。

前にも言ったけど、藤沢秀行は親交のある、棋士の米長邦雄のチャレンジする将棋の名人戦のNHKの生中継の現場で「オマ●コ～！」って叫んだ聖なる酔っぱらいだからね。その伝説の〝生オマ●コ発言〟を聞けただけで喜んだ人がいるんだよ。「この入場料で秀行の〝オマ●コ〟が聞ければ安い」ってね。

だけど、藤沢秀行は囲碁界では正真

正銘の偉人でね、韓国や中国とかにも交流を持って実力のある弟子がいるような

ものさしで尻をひっぱたいてしまいます。そしてフと気づくのが「そんな小さなこと

A

号を送ってあげる。そういう風に怖がらせておいてチョコンと叩くと、実際に痛

手の様子を読む訓練になる。顔色を伺わせる訓練をするためにも、さっき言

か2人を酔わせたあと、そうこう

だけど、藤沢秀行は囲碁界では正真

正銘の偉人でね、韓国や中国とかにも交流を持って実力のある弟子がいるような人で、向こうの弟子は彼のことを例えて、「藤沢先生は諸葛孔明みたいな凄い人です」と答えるらしい。

だから、ふだんの生き方で帳消しになるような強い光りを発してれば、酒の席の失敗くらいご愛敬で、どうってことない。

失敗を気にすればするほどドツボにハマるだけやで。「俺、そんなことしちゃったの?」なんて言ってたらダメ。女々しくこだわったら弱味を見せるだけやんけ。何事もなかったように「俺、なんかした? あれは俺の双子の弟でね、酒癖がちょっと悪いけどよろしくね。うふ」みたいな態度でごまかしたらええやんけ。

早い話が、威厳を保とうとすることに頭が行きすぎて、「威厳、威厳、威厳……」とか考えてると、逆にイケンことになるというこっちゃ。

前田日明の
ノンプレゼンテーション人生相談
人生は語らず

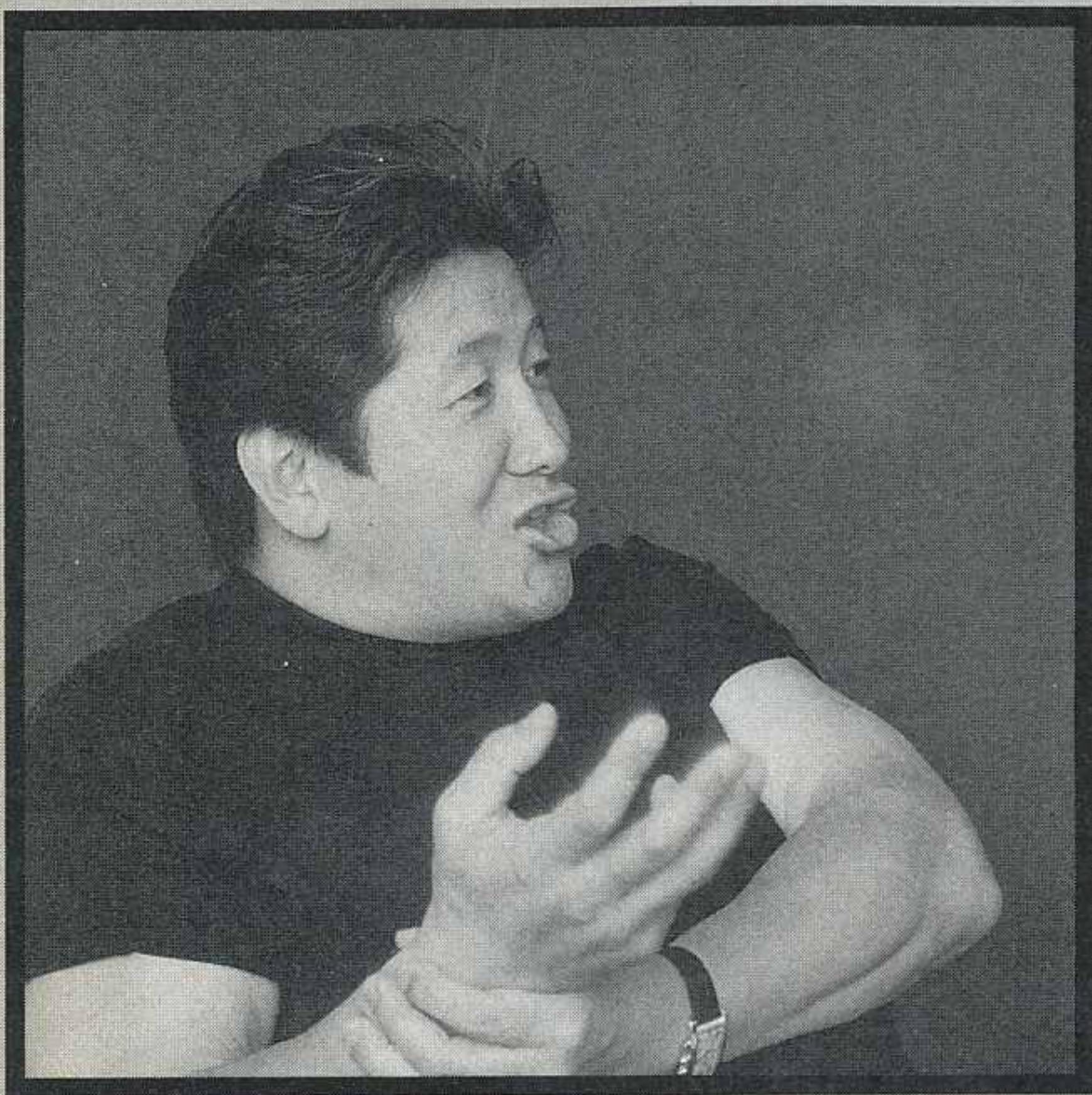
Q **前略。前田さん、はじめまして。ご相談申し上げます。**

私には21歳の時に産み落とした現在小学2年生の娘がおりますが、とにかくその娘を私は叱ってばかりいます。箸の上げ下げから学習のこと、何から何まで気に入りません。

特に持ち物（ハンカチやえんぴつ等）を無くしてこようものなら、パンツひっぺがして、ものさしで尻をひっぱたいてしまいます。そしてフと気づくのが「そんな小さなことでノドが痛くなるまで、小さな子供を怒鳴りつけるアヌスの小さな自分」です。

子供を育てる上で大切なことを教えてやっているつもりでも、結局は自分のエゴで子供を押さえつけているのか…？ そんな事を思いながらも、今日もまたえんぴつを無くしてきた娘にデコピン5発をお見舞いしました。私は間違っているのでしょうか？

最近、娘は私が咳払いをしたくらいでビクつくようになりました。

（愛知県・命の母A・28歳・母親業）

A うちのおふくろもメチャメチャ怖かったけど、いま考えればカワイがられる時はナメるようにカワイがってもらったね。このお母さんは、その部分でのバランスがないんだろうね。「怒るために怒る」のは良くない。

子供が親の顔を見るだけでビクつくっていうのは怒り方が不器用な証拠でしょ。パシンッと殴ることはいつでもできる。それよりも「これ以上やったら危ないよ」っていう信号を送る方が肝心なんだよ。睨んだりしながら、「怒ったらヒドいよ、怖いよ」っていう信号を送ってあげる。そういう風に怖がらせておいてチョコンと叩くと、実際に痛くなくても「ギャ〜」ってなるでしょ、子供は。その信号の送り方さえ間違えなければ必要以上に過剰な暴力を加えるなんてことにはならへんねん。

子供には見破られないようにオーバーにホメて、オーバーに怒ってやる。その使い分けが必要だね。

こういうお母さんはホメ方も不器用なはずだよ。思春期迎えるまでは肌と肌を擦り合わせるスキンシップが必要ですよ。抱いてやったり、頭をなでてやったり、ホメる時は徹底的にホメる。

子供からしてみれば得体が知れないところが親にあるから怖いんでしょ。優しいのか怒ってるのかわからないから怖いんだよ。怒ってる時は怒ってる顔をして、カワイがってる時はカワイがってる顔をする。まずは、このお母さん自身が喜怒哀楽をハッキリ出して、子供にわかりやすいように伝えないといけないよね。シンプル・イズ・ベストですよ。

それから“子供が大人の顔色を伺うからダメだ”っていうように、それが悪いことに捉えられがちだけど、小さい頃から親の顔色を伺うのはある意味で大切なことでね。それが長じて人間関係作りに役立ったり、他人とケアするときに必要な相手の様子を読む訓練になる。顔色を伺わせる訓練をするためにも、さっき言った信号を送ってあげることが肝心なんですよ。

最後に。「アヌスの小さい私です」って書いてあるけど、女の人の場合はハッキリ言って、穴という穴はすべて小さい方がいい。この場合は、スモール・イズ・ベスト。穴は身を助くってね。

AKIRA MAEDA

Q **前田さんの信念を教えてください。（大阪府・けろゆうこ・17歳・女子高生）**

A そんなもん知んねえよ！

Q **日明兄さん、ボクは本宮ひろ志の漫画『俺の空』が大好きで、主人公の安田一平のようにスケールの大きなデカイ人生を送りたいです。**

でもボクは、最近何をやってもつまらないし、何をやっても力が入りません（大学での講義はもちろん、友達と遊んでても、比較的好きなことをやってる時でもそうなんです）。自分の人生に対してやる気が起きないんです。

自分では「このままではいけない」と思いつつも、まったくやる気が起こりません。でも、「やる気をもっていたい」という気持ちはあるんです。心と体がついていかないみたいな感じです。原因もよくわからないし。

このままでは『俺の空』どころか、ボクの人生は『上の空』になってしまいます。根本的に「やる気」を起こすにはどうしたらいいのでしょうか？ そして、

「やる気」を持って生きていくには何が必要なんでしょうか。ゼヒ教えてください。（東京都・ナイトクラバー・18歳・大学生・男）

A まず、この質問を40歳とか50歳とかのオッサンが言ってるんだったら「なるほど人生の節目に来て模索してるんでしょうねぇ」とか答えられるんだけど、18歳のハナタレがこんなこと言うのは1千年早い！　こんなヤツに限って何もやってないし、中途半端なんだよ。
やる気っていうのは最初から持つものじゃなくて、何かをやってるうちにだんだんと身につくもの。そういうもんですよ。いまの若い連中は「何をやったらいいかわかんない」「好きなことしかやりたくない」とかよく言うけど、それはアホな子が言うことや！　そんな奴は大体、「本当は面倒くさい」とか「つまらない」という感覚と混同してるだけで、何もわかってないクルクルパーが多い。ケツの青いうちは何でもやってみんとわからん。面白くないことでもやってるうちに面白くなったり、やってるうちに少しずついろんなものがわかってきたり考えられるようになってくることが多い。人生ってそういうことの積み重ねやんけ。
好きとか嫌いとかは関係なしに、実体験を積み重ねることによって自分の感覚や感性が初めてモノサシになり得るんだよ。自分に向いてる向いてないっていうことがわかるのもそれからの話や。
それにね、人間って自分のことなんか全然わかってないんだよ。特に10代ぐらいじゃ本当の自分なんて全然わかってない。わかってないからこそ、自分っていうものを知るために、人間関係やら哲学やらの自分を取り巻く環境が必要であったりするわけでしょ。
簡単な話、「俺はこのエロ本は好きだけど、このエロ本は嫌いだ」みたいな単純な好みの取捨選択から、「ニーチェは好きだけどサルトルはイマイチ」みたいなことの積み重ねで自分の感覚を作り上げていったり、毎日の生活の積み上げによって自分の全体像がわかってくるもんや。
だから、このぐらいの年代っていうのは自分であって実は自分ではないんだよ。なんでかって言ったら、自分っていうものの全体像を作り上げるだけの経験が足りないから。いろんなことを経験して、それに対して意見を持ったり同意したり批評したり批判したりしながら、それに「反対する自分がいる」「賛成する自分がいる」っていう自己認識が発達するわけや。
そうして少しずつ肉を付け足していくうちに自分の実像っていうものがハッキリ作り上げられてくるわけや。それができてきて「俺はこういうことがやりたいんだな」ってやっとわかってくるもんですよ。
ケツが青くてクチバシが黄色いうちから「やる気がない」とか言ってちゃダメですよ。
でも最近困るのは、どこぞのターザン山某みたいに、50歳過ぎても小便臭い小僧みたいなのがいるからね。あれは小僧っていうより北京原人かジャワ原人やね。あと50万年から100万年ぐらい進化して、やっと俺と同じぐらいの大きさの脳ミソになる。脳ミソが進化してないんやね。
つまり、脳ミソを進化させるために大事なのは、年齢じゃなくて経験！　ここを勘違いすると、ターザン山某のような醜いオヤジになる。そうなると、ワケのわからんラブレターを、ストーカーのようにいろんな若い子に出してしまうからね。くれぐれも注意するように。
そして、いろいろ経験する前にまず考えなきゃいけないことは、自分で認識した自分の劣等感と向き合うこと。いまある自分のいいところも悪いところも全部認めて、そこをスタートラインにすることやね。
それからね、「ドデカイ人生」なんて言葉にダマされちゃいけない。そんなもんは当事者にはわからない。自分のやってることなんか、自分でわからないもんだよ。例えドデカイ人生を送ってる人でも「俺はドデカイ人生を送ってるんだ」なんて、寂しいオカマが勘違いしたような実感なんてないはずや。ある日、気がついたらまわりの人間からそう言われるようになって「そうなんかな?」って思う。
そういうもんですよ、本当のドデカイ人生っていうのは。
うちらの業界にも「俺はデカイことやってるぜ！」とか言ってる連中がおるけど、そういう奴に限って簡単にひっくり返されるもんや。
昔、川上澄男っていう知る人ぞ知る版画家がいてね。その人はしがないサラリーマンだったんだけど、趣味で版画をコツコツと彫ってた。でもね、その人の弟子の中には、あの有名な宗像志功がいたくらいの凄い人で、あとになって評価が上がって、川上澄男の生まれた土地で彼の作品を集めて美術館を作ろうとした。
それである日、未発見の作品を探しに彼が住んでいた実家に学芸員が尋ねていったら、実家の方ではその版木を風呂の焚き木に使ってたっていうからね。つまり、女房とか家族は、自分の亭主であり父親でもある川上澄男の趣味の版画の価値なんか全然わかってなかったわけや。本人も自分が死んだあとにこんなに評価されるなんて気がつかなかったと思うで。本当に凄い人生ってそういうもんでしょ。死んだあとに凄いって言われるのが一番凄い！
だから、ゴチャゴチャ考える前に目の前のことを確実にこなしなさい、ということっちゃ。
見る前に飛べ！
穴があったら入れろ！
わかったか、このハナタレ小僧!!

AKIRA MAEDA

Q **前略。アキラ兄さん、こんにちは。私の悩みは気が強すぎるというか生意気というか……。頭では人に何か言われたら〝ハイハイ〟**

と言ってれば良いってわかるんですけど、どーしてもロごたえしてしまうんです。

A じゃまかしい！寝言は寝て言え!!

前田日明の
ノンプレゼンテーション人生相談

人生は語らず

と言ってれば良いってわかるんですけど、どーしても口ごたえしてしまうんです。

落ちついた性格になるにはどうしたら良いでしょうか？

ご教授よろしくお願いします。乱筆乱文失礼しました。草々。

（埼玉県・グラン浜子・24歳・女）

A わざわざ俺に聞かんでも、この子はわかってるやんけ。

ええか、よーく聞きなさいよ。

一匹の精子の中に一人の人間の人生の可能性のすべてが詰まってるように、あなたのこの短いチンケな質問の中に答えはすべて詰まってます。くれぐれもその可能性をティッシュペーパーの中にこぼさないように。なんか文句あっか？ この小娘！

Q **ズバリ聞きます！ 日明兄さんは結婚しないんですか？ 彼女はいないんですか？「I・Eさん」とは今も続いているんですか？ 日明兄さんは女の子のことになると、いつも話しをはぐらかすので、今回はバシッと答えてください！ オレの悩みは兄さんのことが好きすぎることです！（オレにもチャンスありますか？）**

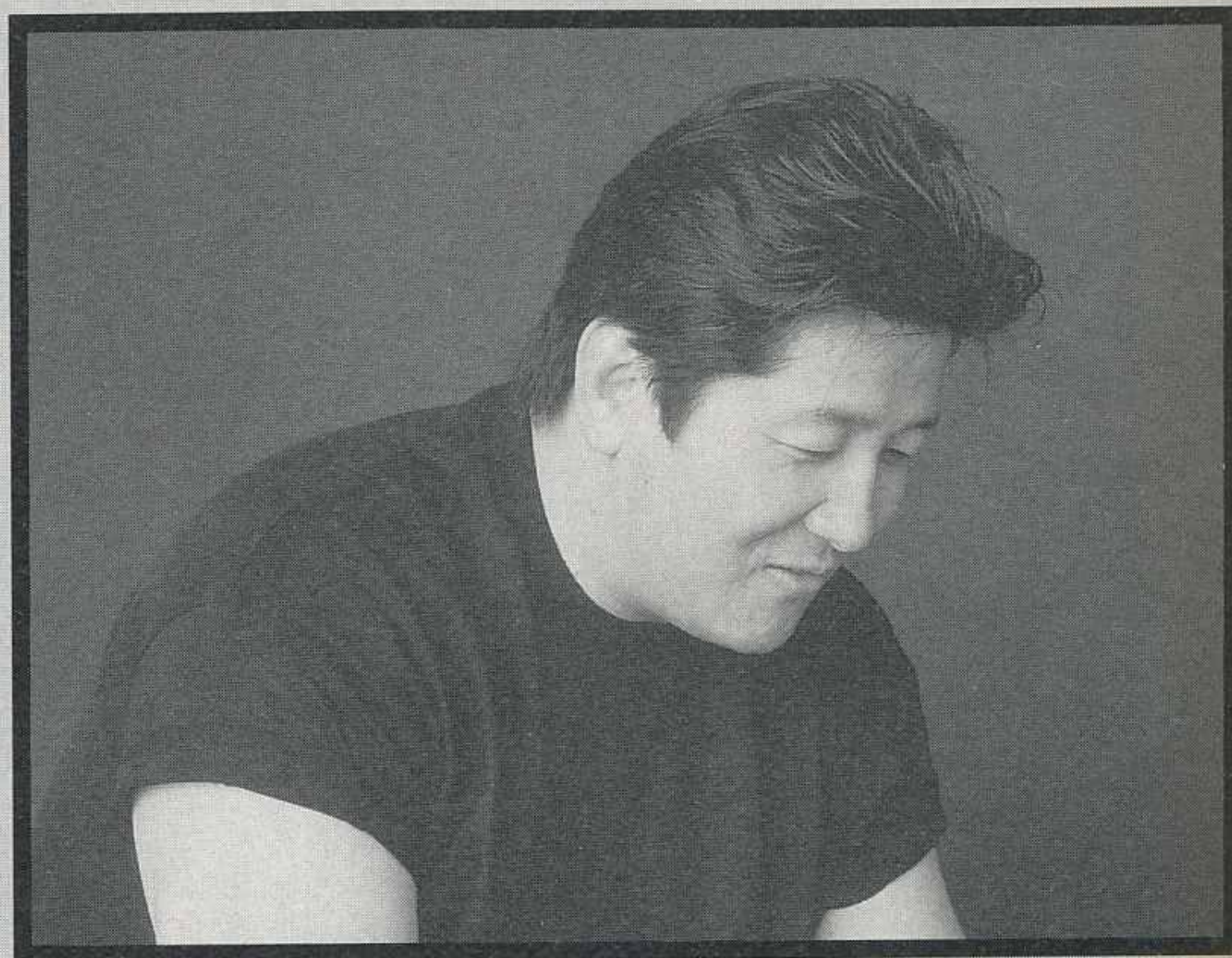
（千葉県・一度でいいから日明兄さんに抱かれたい男・24歳独身・会社員・男？）

A じゃまかしい！ 寝言は寝て言え!!

からかってんのか、このノータリンオカマ！ 人をよく見てモノをヌカせ！

あのな、よく聞けよ。この勘違いパープリン。俺が、何が悲しくて男のケツを追っかけなきゃいけないんだ。

こういうバカな奴がいるから、うちのオフクロまで、大仁田厚の言葉（あるTV番組で、俺のことをホモだと言いやがった）にビックリして、余計な心配をしてしまうんだよ。大仁田、首を洗って待っとれよ！

こういう勘違いしたハガキは2度と送ってこないように。今度送ってきたら、どんなホモ男のマラよりも熱く真っ赤に焼けた鉄柱を、ケツから口に田楽刺しにして見せ物にしてやるからそう思え！ このボケナス！

興志ひと度読んだらば狂起すべきのみ
侠情ひと度読んだら相談すべきのみ！

上記の言葉を噛み砕いた意味に直すとこういうことだ。「悩むほどのことはないという程度の相談だったら相談するな」（ウソ）。相談したかったら、いますぐ日明兄さんに相談しろっちゅーこっちゃ。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3―11―3―702
（株）ダブルクロス　RADICAL編集部
『日明兄さんの田楽刺し祭りはもうすぐや』係まで。

うものを知るために、人間関係やら哲学

そうして少しずつ肉を付け足していく

になって「そうなんかな?」って思う。

頭では人に何か言われたら"ハイハイ"

ミスター・レフェリング

島田裕二

（バトラーツレフェリー＆広報）

オレ様が語る「レフェリーとは？・完全版」＆「11・23両国大会（その後）」

聞き手／バカチョロ
interview by Choro Baka

【お詫び】

『紙のプロレスRADICAL・第13号』44ページから46ページの島田裕二氏の記事内において、島田裕二氏に掲載内容の確認を怠り、島田裕二氏の発言主旨に添わない不適切な内容、島田裕二氏および関係者の名誉を著しく傷つける過剰な表現がありました。担当者の不手際で島田裕二氏ご本人並びに関係者各位に多大なるご迷惑をお掛け致しましたことを謹んでお詫び申し上げます。

株式会社 ダブルクロス
『紙のプロレスRADICAL』 松澤修二

レフェリーが試合の流れを止めたらアカンねん！

――前回の島田さんのページで、あることあること書いてしまって……。

島田 何だよお前、全然反省してねぇじゃねぇかよぉ！（怒）

――アアッ、すいません。間違えました……。原稿チェックを怠って、あることないこと書いてしまいまして、大変ご迷惑をお掛けしました。

島田 そうだよォ。夢ファクからもほされたじゃねぇか！

――エッ！ 夢ファクからですか！ 本当にすいません！

島田 これは作りだけどなッ（笑）。

――アハハハハ！ でもその一件で編集長から思いっきりブン殴られたんですよ。前歯もフッ飛んじゃったし。

島田 当たり前だよ！ オレ様も殴られたよ！

――アハハハ！ 島田さんもですか？

島田 なんでオレ様が殴られるんだよ！ 冗談だよ。しかも笑うな！

――アウッ！ 失礼しました。具体的にどの部分が一番問題があったわけですか？

島田 一番問題なのはキサマの文章力だよ！ ああいう書かれ方をしたらオレ様がバカだと思われるだろ？

――申し訳……、読者に凄く評判が良かったんですよ、島田さんのページは。「言ってることがいちいち正論だ」とか「大笑いさせてもらいました」とか多かったんですよ。

島田 まず第一の問題は、向井（亜紀）さんのところだけど、クレームがこなかったから高田道場はさすがビッグ・ハートだと思ったけど、向井さんに関しての事は載せなくてもいいって言ったじゃん。ねッ。オレ様が言いたかったのは『T多重ＷＡＶＥ（スコラ）』って本が勝手にやったことなんだから、それと『紙プロ』が並んじゃダメだってことだよね。あとね、シューティング（95年4・20バーリ・トゥードジャパン）については、（中井祐樹選手の）目を負傷させたのはレフェリーじゃないんだよ。目を潰したのは確かにファイターだけど、それを主催者側がどこで止めるか、主催者側が出している選手だからっていって、やらせてるから事故が起きたっていうことですよ。観客が見ても危ないっていうのは明らかなんだから、それはやっぱりレフェリーが止めないと。逆に試合を止めるのが早い試合もあったのに、どうして顔面があんなに腫れてるのに試合させるの？ そういうところをオレは言いたかったんだよ。いくら自分たちのとこの選手が出てるからっていってね、やらせちゃダメですよ。あれが他のとこの選手だったら止めてるわけだから。レフェリーが主催者側のこと考えてたらダメなんですよ。選手は命預けてるからね。早め、早めに止めないと。主催者側に楯突いてでも、止めるぐらいの勇気がないと。例えレフェリーほされてもね。今後ああいう事故が起きないようにしっかりレフェリングを勉強してほしいね！

――そんな話を3行ぐらいにまとめてしまって……申し訳ないです。

島田 ホントだよ！ あとパンクラスについては、俺が言ってることと全く違うんだよ！ 俺が言いたかったのは若いレフェリーが青いんだよってこと。廣戸（聡一）さんはグッドレフェリーだよ。っていうのは、バス・ルッテンと渡部謙吾なんて注目が集まる試合なのに、キャリアが浅い若いレフェリーを出すから、初歩的なミスが起きてパニクっちゃうんだよ。みんな注目している試合だからっていう時点で、彼はマジメにレフェリーしなきゃって、あがっちゃってるんだよ。だから自分がアドバンテージできてないんだよね。せっかく試合が盛り上がってるのにさ、ちょっとルッテンがなんかやったら「あー、反則！」って。それをやっちゃったらダメなんだよ。実際、廣戸さんは「いいから、やらせろ、やらせろ」とか言ってるじゃん。そこなんですよ～。レフェリーが試合の流れを止めたらアカンねん！

――なんでいきなり大阪弁なんですか（笑）。やっぱりキャリアの問題もあるんですか？

島田 そりゃ、そうさ～！ オレ様が何万人の前で試合してると思ってるんだよ。

――トータルだったらスゴい数ですよねぇ。ドームも何回も上がってますし。

島田 多古町からドームまで！ その時に、4万人のファンがいれば、8万個の目が見てるわけだよ。4万人から一斉にブーイング浴びても自分が正しいと言えるかどうか。それがキャリアの浅いレフェリーだと、サブレフェリーとかに仰いじゃうわけだよ。だから注目されてる試合はね、廣戸さんとかがメインレフェリーをやらないと。高橋義生とか、船木（誠勝）さん自ら「ルッテン対渡部謙吾は見たいカードのイチ押しですよ！」って言ってるんだから、それなりのレフェリングを考えてあげないとね。そうしないと選手もお客さんも可哀想なんだよ。

――はぁ～、そう言われるとレフェリーの重要さがよくわかります。キャリアはもちろん、レフェリーにはセンスも必要ですよね？

島田 そりゃ、そうさ～！ センスもあるね。何年やっても、ダメなヤツはダメだね。オレが尊敬するレフェリーは全日本の西永（秀一）さんだね。西永さんはうまいね。和田（京平＝全日本）さんは別格だけどね。和田さんはベスト・オブ・スーパーレフェリーだから。まあオレが同じ世代で負けられないな、と思うのは西永さんだね。もう馬場さんの域に入ってるって感じだね。オレはまだまだあの世界には入れないな。あとは、田山（正雄＝新日本）君も好きだね。

――好き嫌いの問題なんですか（笑）。

島田 あとね～、安達（巧＝高田道場）さんと和田さんはフレンド・オブ・マインっていうか、オレたちチーム作ったんだよ。

――ガハハハ、チーム名は何ですか？

島田 チーム・ウルフっていうんだけどな。オレたちは狼みたいな宿なしのレフェリーだからな。そのうち歌手デビューとか、考えてるんだけどね。安達さんは、やっぱりうまいね。場慣れしてるし、止めるのも的確だしね。ちっちゃいっていうのがいいね。

――選手がデカく見えるからですか？

島田 小回りがきくじゃん。スッと入って

その点オレたちチーム・ウルフは貪欲だからね。いつ何時どこへでも出掛けるよ。

――じゃあ五種言って下さいよ。

島田 縄跳び、幅跳び、ヨーヨー、お手

試合だけ裁いたってダメだよ。

――選手がデカく見えるからですか？

島田　小回りがきくじゃん。スッと入って行けるからね。あと今度脅威になるレフェリーはマーティー浅見（ＩＷＡ）だね。

――アマチュア・リングスで優勝して、今、大人気ですからね。

島田　マーティーはオレの牙城を脅かしてるね。来年バトラーツのメインを張るのは間違いないね。

――ガハハハ、選手として。

島田　違うよ、バカチョロ！　レフェリーとしてだよ！　でもマーティーは、ちょっとライバル視させてもらってるね。

――やっぱりレフェリーも格闘技の経験があった方がいいんでしょうか？

島田　関係ないでしょ。プロレスを好きか嫌いかだから。あとは研究することだね。よその団体行ったりとか。格闘技団体だからって、格闘技ばっかり見てるようじゃダメだね。女子プロ見たり、デスマッチ見たり、インディー団体見たりしないと。オレ様もいろいろ見に行くじゃん。

――会場でよく見かけますよね。

島田　行っちゃ悪いのかよ、チョロ！　それはレフェリーの勉強してるんだよ。いろんなところに頼まれた時に、客のニーズに合ったレフェリングしないといけないからね。そのためには日々勉強なんですよォ。

――レフェリーも引き出しをいくつも持ってなきゃいけないんですね。

島田　その通りだよ！　そのためには、試合を見てファンの心を掴むことが必要だね。ただ単に試合を裁くだけならちょっと練習すればできるんですよ。だけどね、プロとして会場の雰囲気を察知しながら、なおかつ試合もきちんと裁けなければ本物のレフェリーとは呼べないんだよ。そこに気付かないヤツが多いな。試合だけ裁いたってダメだよ。魚屋じゃないんだから！

――ガハハハ、さばいてばっかり。

島田　それじゃダメなんだよ。オレ様はいつも考えてるよ。ウロコまで食えるぐらいね、鯛だって、皮のムチムチのとこが美味しいんだから。そういうのを見落としてるレフェリーが多いね。身ばっかり食おうとして。選手は魚なんだよ。その魚をどう裁くか。洋食屋が洋食ばっかり食ってちゃいけないんだよ。中華も食ったり、和食も食ったり、たまにはゲテモノ食ったりしないと。

その点オレたちチーム・ウルフは貪欲だからね。いつ何時どこへでも出掛けるよ。

――チーム・ウルフって昔、木村浩一郎さんとかが……。

島田　ん～、変えよう。狼軍団にした。

――それも昔……。

島田　これはパクリでもいい！

――やっぱり、どんなグッドレフェリーであっても、試合を止めるタイミング次第でブーイングって起こるじゃないですか？

島田　それは自己演出だね。オレ様の場合、わざとブーイング浴びようとすることもあるけどね。（ＰＲＩＤＥ．１の）ラルフ・ホワイト対（ブランコ・）シカティック戦もそう。オレ様がタンコブ作ってつけたんだよ。

――気付きませんでした（笑）。そういえば島田さんは、パフィーにインチキレフェリー呼ばわりされましたね。

島田　チョロ！　お前にインチキレフェリーと呼ばれる筋合いはない！　パフィーは許す！　まあでもそれぐらいやらないとね。興行っていうのは毒が必要なんだよ。８試合同じような試合が続いたらつまんないんだよ。ちょっとは反則負けとか、そういうのがないと、興行が盛り上がらないんだよ。アレもオレ様の演出だよ。

――ＵＦＯでドン・フライにからまれたのも演出ですか？

島田　あれは、ちょっと計算外。

――ガハハハ！　計算外でしたか。

島田　ドン・フライは怖いな。でもね、リングの上では怖くないんだよ。降りると怖い。それと小川（直也）さんは好きだね。おーちゃんはいいよね。なんといってもオリンピックスだからね、ボクらは。

――アハハハ、オリンピックス。

島田　いずれは、オレ様と安達さんと３人でチーム・オリンピックスを作りたいね。

――狼軍団は解散ですか？

島田　狼軍団とは別ユニットだよ。小室哲哉だっていろんなユニットやってるじゃん。

――すいません。

島田　バトラーツがあり～の、狼軍団があり～の、オリンピックスだな。

――オリンピックスって出た人が…。

島田　出たヤツしか入る資格はない！

――ガハハハハハ！　初耳ですけど、島田さん何の競技で出たんですか？

島田　オレは、近代五種。

――じゃあ五種言って下さいよ。

島田　縄跳び、幅跳び、ヨーヨー、お手玉、蹴鞠。これだよ！

――アハハハハハ！　完璧だ！

島田　でもね、レフェリーっていうのは大変な職業なんだよ。格闘技の方が難しいって言われるけど、そうでもないしね。プロレスの方が難しいと思うよ。格闘技は客が出来上がってるから、簡単なんだよ。

――出来上がってるというと？

島田　本当に好きな人が集まってるんだよ。「ここで喜ばないとバカにされる」とか。ホントはつまんねぇな、と思ってても、隣のヤツが、「アレで十字来るんじゃねぇか」とか言うと惑わされちゃうんだよ。それで、誰か一人がブーイングすると、一斉にブーイングが始まるんだよ。

――みんながみんな、「見方わかってるぞ」って思われたいんですね。

島田　「オレも知ってるんだぞ」っていうね。技の名前だけは一応知ってる、そういうのはダメなんだよ。でもね彼らはプロレスファンより熱狂的だよ。だから、いかにプロレスで沸かせるか。レスラーも大変だけど、レフェリーも大変なんだよ。格闘技は沸くタイミングがわかるんだよ。ちょっと、技を切り返したら、「オォ～ッ」、エスケープしたら「オォ～ッ」、ダウン取ったら「オォ～ッ」ってね。そういう意味では、プロレスファンの方がシビアだね。

――そうですね、最近はマウント取っただけでとりあえず歓声は起きますよね。

島田　そうだろ、わかるんだよ。だからダメなんだよ。違うところで誰かが「オォ～ッ」って言うぐらいにならないと。休憩中に「オォ～ッ」とかね。やっぱり主催者側に大分責任があるね。ファンをもっと突き放してね、「喋るな！」「見るな！」って。

――試合中はおしゃべり禁止！

島田　そう、禁止。紙に書くんだよ。「いいぞ！」とか。何枚上がるか。

――アメプロみたいにデカい紙掲げて。

島田　それですよ～。そうしたら本当の意味でのファンが増えてくると思うんだよ。今はみんな「右へならえ」じゃん。それがよくないね。ダウン取っても「シーン」、一本勝ちでも「シーン」とかね。で、膠着したら「オォ～ッ」とかね。そうなればいいんですよ。ホントそれぐらいにならないと格闘技ファンも成長しないと思うよ。

――あと近藤隆夫さんのことでは何か言われたりしましたか？

島田　業界でも評判になったね。でもオレ様のとこには言ってこないし。言ってこないから、ダメなんだよ！　来い！　オレ様なんか、アイツにバッテンされたら、すぐ電話したじゃん（『ヒクソン×高田戦の真実』メディアファクトリー刊）。

――本人に電話したんですか？

島田　したよ！　「デザイナーが勝手にやったんです」って。「お前、最終的にチェックしねぇのかよ！」って言ったら、「いや、しました。デザイン的にいいと思って」だって（笑）。お前がいいって言ったんじゃないか！ただ一つ近藤隆夫に謝らなきゃいけないのは、テレビ用に茶髪にしたのかと思ってさんざん悪口言ったんだけど、普段から茶髪だったらしいんだよ。これはオレ様の情報ミス。ゴメン、隆夫。

――でもＵＦＯのテレビ中継の解説の時は、名前変えてましたね。いつもは隆夫なんですけど、隆生になってました。

島田　まぁ、岡本魂みたいなモンだね。

――ガハハハハハ！

試合だけ裁いたってダメだよ。魚屋じゃないんだから！

【11・23バトラーツ両国大会について】

――両国大会の時はかなり体調が悪くて、直前まで寝込んでたらしいですね？

島田　そうなんだよ～。インフルエンザにやられたんだよ～。いや、ここだけの話だけど、馬に打つ注射５本打ってもらってね。

――ケツですか（笑）。で、（ロード・）ウォリアーズなんですけど、ボディーチェックする暇もなかったですね。

島田　オレもフッ飛ばされると思って心配したよ。でもウォリアーズは良かったね～。「目立った選手がロード・ウォリアーズとボブしかいなかった」とか書かれたけど、違うん

圧倒的肉体をひっさげ日本再上陸を果たしたウォリアーズ。久々に見るホークはアニマルと区別が付かない程のマッチョボディー。相当いいネズミを食っているに違いない。

ビッグバン・クルーガーとともに試合後ポーズを決めるＫＰＧ（キッド・プロレス軍団）。暴動どころか大歓声で迎えられたＫＰＧに対し、島田広報も一言「パーフェクト！」

試合後、両国国技館内の大広間で打ち上げパーティーが行われた。リッキーフジと高阪、高阪とボブ、ボブとアルシオン勢など興味深い顔合わせが続々と見られた。

ボブさんは最高だね〜。リアル・マンだね。

だよ。こういう演出してるところがウチの団体の懐の大きさなんだよ。高い金払って外人呼んでるんだから、彼らが喜んで、「また来たい」と思わせるようなおもてなしだよ！　みんなわかってないんだよ！

——グレッグ・バレンタインも「また来たい」って言ってましたからね。気持ちよく試合をさせるためには、おもてなしが必要なんですね。

島田　そう、おもてなしなんですよ〜。グレッグだって誰も負けたと思ってないでしょ。ウォリアーズは、アレク（サンダー・大塚）と（モハメド・）ヨネが最高のおもてなしをしたんですよ。あの2人がちゃんとおもてなしをしたから、観客の心に残るいい試合になったんだよ。それはアレクとヨネの大功績ですよ。それが印象に残らないっていうのはおかしいんだよ。あれでアレクとヨネが目立っちゃダメなんだよ。そしたら逆のこと言われるんだよ。「ロード・ウォリアーズ呼んだのに、活かしきれない」とかね。欲を言えばヨネとアレクに勝って欲しかったな。やっぱりネズミ食ってるヤツにはかなわないな。ヨシ！　今度、のものに言ってアレクの晩メシにネズミを入れてもらおう。

——唯一不満をあげるとすると、コスチュームと、モヒカンだったんですけど。

島田　アレはアレでいいんですよ。完璧であれば完璧であるほど、今度は逆にあの動きができないんだよ。もちろん、来た瞬間にビッグ・プロモーターのオレ様が「コスチュームは！　ヘアースタイルは！」ってカミナリ落としてやったんだよ。「今すぐ取りに帰れ！」ってガツンとね。その時の怒りが試合に出たんだろうね。それが、その場でモヒカンにしたり、トゲトゲとかつけると、適当に試合を流してしまうんだよ。オレ様は、あえてスラムの気持ちを思い出させようとして怒ったんだよ。スラムでネズミ食ってるヤツらだからね。上からモノを言ってやったんですよ。だから彼らも「いい試合しなきゃダメだ」と思って頑張ったんだよ。

アレは何かが足りないから良かったんだと思うよ。「あれっ？　髪型ちょっと……、でもいいや」「入場が早すぎる？……、でもいいや」「コスチュームがちょっと……、でもいいや」ってね。全部「いいや」にしたのがあの試合の全てだよ。そう持っていったのはプロモーターのオレ様の腕だよ。

——そうですね。ボブ（・バックランド）さんはどうでした？

島田　ボブさんは最高だね〜。リアル・マンだね。本当の男だよ。出来ればウチの合宿所に常時泊まって指導して欲しいね。キミみたいなダメ人間も、ああいう人に会って心を洗われないとダメだね。やっぱり外人さんが来たら、日本流のおもてなしをしないと。ウチの団体はお金はないけど誠意はあるから。お金払ってる分だけはしっかり仕事してくれよって言わないとね。

——バトラーツに上がる選手は貰ったお金以上のファイトしてますよね。

島田　いくらか知ってんのかよ、チョロ！

——……すいません、知りません。

島田　そういういい加減なこと言うからダメなんだよ！　まあいいや、ウォリアーズなんかは「また来年も来るから呼んでくれよ」って。そういう気持ちにさせないとね。

——試合後のパーティーには他団体の選手もたくさんきてましたよね。

島田　すべておもてなしだよ。高飛車にならず。バトラーツは　これからですよ！　苦労あり、楽しさあり、そういうことですよ。

——両国大会は島田さん的には大成功だったんですか？　後楽園の方が良かったとか、いろんな声がありますけど。

島田　8888人の客がいて、みんながみんな良かったって言うのはダメなんだよ。賛否両論ないとダメなんだよ。プロレスファンとバトファンは喜んだなぁって感じだね。バトを見たことなくて、期待し過ぎた人には「バトラーツは何をやりたいのか」って言われると思うんだけど、両国は祭りなんですよ。お祭りに来てさぁ「金魚なんかすくっても面白くないじゃん」って言うようなヤツは、祭りなんか来ない方がいいじゃん！　楽しめないヤツはお祭りに参加する資格はない！　ということですよ。でも来年はもっと大きいトコでやるよ〜！　国立競技場とか狙ってるからね。

——エエッ！　本当ですか？

島田　あえて台風直撃の日に！

——それはまたどうしてですか？

島田　使用料安くなるかもしれないじゃん。でもオレ様のライバルは今はマラソンだからね。ファンの人がいっぱい集まって旗振ってくれるじゃん。視聴率もいいしね。ああいうスポーツにしたいね。マラソンってずっと走ってるだけじゃん。でも、みんなチャンネル替えずに見てるんだよ。何の演出もないのに見るじゃん。興味深いよね。ああいうプロレスをやりたいね。

——マラソンは、途中で見るのやめても意味ないですもんね。

島田　あと野球は目の上のたんこぶだね。

——野球が目の上のたんこぶ？

島田　バトラーツも、ドラフト会議に参加するんだよ。13番目の団体として、それで交渉権をもらって松坂とかをバトラーツに入れるんだよ。

——コーション権ならもらえそうですけどね、島田さんは。

島田　そんなんじゃダメだよ！　ウチの選手にして、三角トレードで横浜（ベイスターズ）とかにやって金をもらうんですよ〜。

——アハハハ！　考えましたね（笑）。

島田　あとWWFデビューも狙ってるしね。夢はMSGでレフェリングだね。

——アレクさんもWWFに上がりたいって言ってますけど、島田さんとどっちが先になりそうですか？

島田　まあ、オレ様だね。オレ様の方がビンス（・マクマホン）に太いパイプがあるからね。

——それは知りませんでした（笑）。

【12月16日開幕のバトラーツタッグバトル98について】

島田　大事件勃発なんだよ。池田（大輔）が緊急入院してな、タッグバトルに出れないかもしれないんだよ。

——エッ！　それじゃあ参加チームも変更になるんですか？

島田　そうだね。でもハッキリ言ってタッグバトルの優勝は、日高（郁人）＆藤田（稔）に間違いないだろう。

——ヘッ！　日高＆藤田組の優勝？

島田　社長はヤンジェネ、B-CUPと連続優勝して、今フヌケだし。社長はタッグリーグのことは頭にないから多分5連敗だな。ヨネと大塚も、ウォリアーズ戦の後遺症で、ちょっとギクシャクするんじゃない？　このシリーズで成果を出さねばってなると、「オレが、オレが」になっちゃう気がするね。このチームは空中分解もありえるね！　フヌケというより不仲だね！　だから結局、社長は疲れきってフヌケになってるし、（田中）稔はJYBで完全燃焼して疲れてるし、トンパチはKPGとの対戦で疲れてるし、ラブ・ウォリアーズも不仲になりそうだし、唯一疲れてないのは日高＆藤田だけなんだよ。トンパチも確かに連係はいいけど、試合時間20分っていうのがどう響いてくるかだよ。そんなに身体がある方じゃないからね。ウチは何と言っても巨漢揃いだから。

——バトラーツで巨漢と言えば？

島田　そりゃ日高＆藤田だよ！　小さな巨漢だよ！　日高＆藤田は念願のTAKA＆船木とやったから、一皮剥けたし、彼らは来るね。間違いない！

——年明けの後楽園大会は『BATI-BATI』と銘打ってますけど。

島田　最近都内でシングルが続いてたんで、たまにはバチバチタッグが見たいという声が多いんで、タッグやろうか、ってことなんだよ。今回は採算度外視だね。一万円取ってもいいぐらいの試合をやるよォ！

——両国大会がお祭りとすれば、後楽園大会は？

島田　ん〜、元気！　原点回帰、略して元気。上手いこと言うな、オレ様は。そうみんなを元気にさせる、そういう興行にしたいね。それと来年はタッグ戦線は、マッハ（純二）＆越後（雪之丞＝大日本）のアニマルタッグがバトラーツをおもしろくする、かもな。あと2月ぐらいからは、パ〜ッと派手にね、WWFとの提携も始まるから。

——それはビッグニュースですね！

島田　オレ様の心の中では。

——ガハハハ！　心の中で提携（笑）。

島田　だから、地方でも、花火とか、カクテル光線とかやるよォ！　億の金が動くよ。

——動きますか（笑）。それじゃあ美人マネージャーも呼んで下さいね。

島田　呼ぶよォ！　さよなら〜。

【11月28日／バトラーツ事務所にて収録】

両国でT・みちのく＆船木勝一組に破れ、しかも試合後には辛らつな言葉を突きつけられた日高＆藤田。この試合をバネにしてタッグバトルでの優勝を狙って欲しいところだ。

今年はヤングジェネレーションバトル、そしてB-CUPを制し、今年のバトラーツの顔となった石川社長。試合後、「来年は日本武道館でやりたい」と早くも来年の抱負を語った。

ヨネの額にはLOVE、アレクの額には愛、2人合わせてラヴ・ウォリアーズ。ラヴインパクトが見られるのはいつか？　ウォリアーズへの雪辱のチャンスは訪れるのか？

全女には捨て身の野生とケレン身がある!!

全女の強さを知りたければこれを読め!!

ザ・脱走伝説

「先輩が黒と言えば、白いモノでも黒くなる」のが女子プロレスの世界である。そのへんの女子高生から見れば、まるで異次元空間のようなとんでもない世界で日夜、若手の選手たちは練習と試合と雑用に追われている。
そこで若手は2つの選択を迫られる。強くなるか、逃げるか。
イヤというほどに自分と向き合って、結論を出さなければならない究極の選択である。
あえて今回、本誌は「逃げる人」（正確には逃げて、戻ってきた経験のある現役選手）にテーマを絞り、いままでタブーとされてきた「脱走」にスポットを当てた。女子プロレスラーはなぜ脱走するのか？
そして、なぜ脱走したのに帰還するのか？　プロレスラーというよりも、女としての性の強さをじっくり読み込んで下さい!

リアル・マンだね

夢はMSGでレフェリングだね。

脱走伝説 ①

これが全女のゴミ（新人）焼却システムです

ザ・脱走伝説

文・初代中村カタブツ君（35歳）

『紙プロ』元脱走者のオレこと、カタブツ的には見捨てておけない衝撃の番組がフジテレビで放送された。11月15日放送の『ザ・ノンフィクション～荒野の女子プロレスラー』という番組である。そこで松永会長が練習生を称して「ありゃゴミだ（笑）」と言い放っていた。松永会長の聞き手を意識したケレン味たっぷりの「ゴミ発言」は関係者にはよく知られた話だが、僕に言わせていただいても人間はみなゴミです。

なぜなら人間というものは大抵自分が見えないからだ。例を挙げれば本誌の〝巨大ゴミ〟ジャイ子。この大女のことを編集部では「ブス！」と見た目通りに断言してるわけだが、本人に自覚はない。ジャイ子にしてみれば「こいつらは口の悪い非常識な人ばかり」って思ってるだろうが、ほかにもジャイ子を「ブス」と呼ぶ人間がいる。それは誰あろう、ジャイ子の母親。編集部に用もないのに入り浸り、家に寄り付かない娘との久方ぶりの対面で「あんたブスねぇ」としみじみと言われたという。母の言葉にウソはない。「私、背は大きくても心は純なの。可愛がって」という傲慢な精神を「ブス」というムキ出しの親心でいさめる切ない母の気持ちがわからないのがジャイ子であり、人間というもの。

本人がいくら否定しても「ブス」に見えれば「ブス」だし「バカ」に見えれば「バカ」。〝そう見える〟ということは見る者にとってのまぎれもない真実。「本当の自分はこうだ」と言っても無意味なのだ。つまり他者の目の中にしか本当の自分というものは存在しない。そもそも本当の自分なんてものがあると思い上がってること自体がゴミなのだ。

松永会長は同番組内でこうも言っていた。「オレらはゴミの中からダイヤモンドを探すしかないやね」と。自意識というゴミを取り払い、その人間が生れながらにして持つ個性、つまりは独特のいびつさを実際以上に光らせてあげますよ、と言っているのだ。

それが全女システム。先の番組が全女関係者、視聴者の反感を買ったのはゴミの方ばかりをクローズアップしたからだ。だが〝女子プロの魅力は捨身の野性とケレン味である〟という番組テーマには本誌は心から賛同し、この『脱走伝説』という企画を立ち上げた。

全プロレス中継&レスラー出演番組読みチェック!

全女の求める物が光を消し去る!

フジTV『ザ・ノンフィクション』

週刊 吉田七瀬の テレビ時評

『週刊プロレス』No.887で吉田七瀬氏は『ザ・ノンフィクション』を事実であっても全女の本質を伝えてないと斬った。

先述の番組内で脱走後に連れ戻された新人が全女のトップの一人、豊田真奈美の前で泣きながら謝るシーンがある。豊田はその悲惨な姿を見ても微動だにしない。なぜならリングで輝くプロとしての不動のスタンスがあるからだ。そのスタンスを獲得するためにはたとえ脱走であっても必要不可欠な行程の一つだということを頭ではなく肌で理解してるからだ。

中原奈々にせよ、張替美佳にせよ、そしてほかの脱走者にせよ、みんな行程の途中。それは全女を逃げた現在においても途中であることに変わりはない。君たちはゴミです。そのままならゴミのままです。全女にいるのは辛かったでしょう。だが、逃げたままでも辛いでしょう。リングで人々の視線を浴びまくってみたいでしょう、もう一度!! もう一度!!

20歳そこそこの若造たちに企画力、筆力で負け、すべての自信を失い、家庭生活も破綻させた『紙プロ』の元脱走者のオレだって戻るのは心底嫌だった。だが、彼らの言うことを否も応もなく、丸ごと素直に受け入れたら道だけはとりあえず開けた。戻りなさい。全女に戻りなさい。いままで通りの辛辣な辛さがあなたたちを暖かく迎えてくれます。輝くための辛さが迎えてくれます。

いま編集部内で目覚まし時計のベルが鳴り始めた。ここにもゴミがいる。最近ブクブク太って動きものろければ仕事ものろい坂井ノブの目覚ましの音だ。ジャイ子が起こしに行く。だが、起きない。5分後、もう一度起こしに行く。今度は起きる。だが、イスに座った途端に居眠りだ。目覚ましのベルの音どころか、自分自身に鳴り響く非常ベルの音にも気づかないポンコツ野郎。本来、この原稿もノブが書く予定だったのだ。だが、居眠り。2代目カタブツ君の名はいつでも譲る。

起きろ！　粗大ゴミ!!

そう。〝起きろ、粗大ゴミ〟だ。その起き上がる姿が女子プロレスなのだ。見事に起き上がり、リング上でまさに〝本当の自分〟をさらけ出そうとしている若手女子プロレスラーたちの声を心して聞け!!

全女の見解

【今井良晴広報のコメント】

もう、あの番組が放送された後は抗議の電話があっちこっちからかかってきましたよ。「ひどい内容だ」って。これは、ボクの責任でもあるんですよ。放送前にチェックできなかったことが、最大の原因ですから。横浜アリーナ大会の準備で追われてたもので、もうスイマセン。

でもね！　あの作りはひどいですよ。あんなの見たら、全女に悪い印象しか持たれないですよ。「撮らないで」って言ってるのに平気でカメラを回してるし、寮には無断で入って撮影してるし。よりによっていちばん汚い部屋の映像しか使ってないじゃないですか！　ああいう踏み込んだ映像を撮るのに、選手やスタッフとろくにコミュニケーションを取ろうとしなかったんですから。最後の方は選手も怒ってましたよ。

うちだって倒産したけど、みんなバカみたいに明るく頑張ってるんですよ。そういう面は一切取り上げないですからね。ウチの若手のバカさを見ろっていうんですよ!!（怒）。

フジテレビ側の制作スタッフに話を聞こうとしたところ「これから全女さんと、そのことについて話し合うのでコメントを出すのは時間がかかる」ということでした。締切の都合上、取材不可能なので今回、掲載は見送ります。

脱走伝説 ②

脱走経験者の声を聞け!!

先輩のお声

脱走伝説②

脱走経験者の声を聞け!!

[脱走者列伝パート1]

高橋奈苗

私はけっこう何度も逃げました。初めて脱走が成功したのは3回目ですね。会場から逃げて、1回寮に戻ってすぐそこのデニーズに行ったんですよ。それで寝ようと思ったら店の人に怒られて、近くのロイヤルホストに行ったらそこは24時間営業じゃなかったんですよ（笑）。だからロイヤルホストの隣のビルの階段で寝てたんです。でも、それもしんどくて、朝方になって先輩ももういないだろうって時間に寮に帰って寝て、次の日から行かなくなっちゃったんですよ。

先輩に怒られると辞めたいと思うんだけど、怒られてすぐ辞めるとその人に負けたことになるじゃないですか！　自分はそういうのが嫌いなんで、それだけはしなかった。

実家に帰ってからは、しばらくは戻りたいとも思わなかったですね。なんか、全女に入ったことが悔やまれて。「私の時間を返せ！」って感じで、「なんであんなトコロに憧れてたんだろう？」とか考えて、しばらく暗くなっちゃって、何ヶ月間もなにもしなかったんですよ。で、バイトとか始めて普通の生活に戻ったときにやっと戻りたいと思ったんですよ。

そのときに玉田（凛映）さんが電話をくれたんです。辞める前もよく相談にのってくれて。そのときはいまの同期がオーディション受かって、ちょうど入寮する時期だったんですよ。で、会長にお願いして、「もう逃げないならやってもいい」って話になったんです。すべてのタイミングが丁度合いましたね。今はこの、プロレスができる生活があることがホントによかったと思います。

[脱走者列伝パート2]

納見佳容

自分は横浜アリーナ大会の直前に逃げたんですけど、それまでに5回やりました。一番最初は、プロになったばっかりの頃です。仕事が一気に増えて、なにがなんだかわかんなくてパニクっちゃって……。それで逃げちゃいました。その日は後楽園ホールで試合があって、向かってたんですけど、同期と2人で逃げちゃいました。寮でじっとしてて、先輩が帰ってきて色々話して。その日は1日だけで済みました。

逃げたときの理由ですか？　同期も少なくて、寝る時間も一気になくなっちゃって、わけがわからなくなって。

辞めたのは、大場所の横浜アリーナの当日ですね。リングネームを「水無月えりさ」に変える日だったんですけど、結局その名前では1回も試合してないんですよ。その名前になるのが嫌で逃げたとかってよくいわれるんですけど、それは関係ない（笑）。ただの挫折です。その前から毎日「いつ辞めよう、いつ辞めよう」って思ってましたから。

でも実家に帰ったらすぐ後悔しましたよ。挫折したことを一年半引きずってて、イライラした日が続きましたね。なんとかプロレスのこと忘れようと思っても無理だった。あのときを思ったら、いま辛いことがあってもやりたいことをやってるから耐えられます。

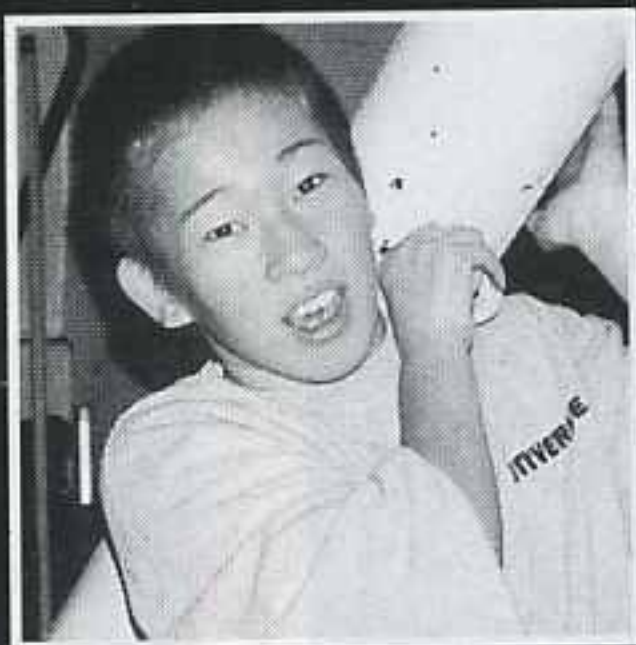
[脱走者列伝パート3]

ZAP磯崎

1日になんかひとつはミスしてましたからね。わけのわからない理由で怒られたわけじゃなかったんです。自分がダメだったんです。そんな状態が毎日続いてたんですけど、愛知県岡崎市で興行があった日、ガツンと怒られたんです。それで「ここだったら兵庫の実家まで新幹線で1時間で帰れるや」って思って、メインの試合中に「え〜い、逃げろ！」と思って逃げちゃったんですよ、「今しかない！」と思って。ゆっくり考えて気持ちの整理を付けたかったんです。パッと鈍行に飛び乗ったら、三重県の田舎に出ちゃったんですよ。コンビニの前で体育座りして一晩過ごしました（笑）。でも、逃げたお陰でスッキリしたし、気持ちを入れ替えることができました。雑用が出来なくて、プロレスだけ出来るなんて、ホンモノのプロレスラーちゃいますよ。そんなのは機転が利かないからダメです。

あのドキュメント番組ですか？　面白かったです。ホンマにドキュメントやった！　そんなところまで撮らんでええのにっていうところまで撮ってましたから。でも、あれが全部ってわけでもないですからね（笑）。あそこに映っていることより辛いことなんて、そりゃあもう……ね（笑）。ヒールの先輩は、怒り方も半端じゃないですから。たまに「お前は竹刀で叩かれないからええなあ」って言われるんですけど、そんなもん控室で叩かれてますがな（笑）。ヒールの道は険しいですわ。

ザ・脱走伝説

逃げる者あれば、止める者アリ!　脱走未経験者の声

藤井巳幸

自分は逃げたことはないんですよね。逃げたいと思ったことは何回もあるんですけど、逃げたら後悔すると思うんですよ。1回逃げて、また戻ってくる人とか見てるじゃないですか。そういうのを見てると、逃げるに逃げれなかった。あとは辞める勇気がなかった。自分、小心者なんですよ。

同期の仲間がいなくなったときは複雑な気持ちなんですよね、気持ちがわかるだけに。「こないだ怒られてたからな」とか思っちゃう。怒られすぎて、逆に元気になるのが中西（百重）なんです（笑）。落ち込む人はたいてい逃げるんですけど、明るくなる人は、前向きに考えられるんだと思うんですけど。自分もそうなのかな？　わかんないですけど。「こないだの方がよっぽどおこられたやん」とか思って。免疫がついちゃってるんですよね（笑）。

中西百重

自分もみんなと同じ位辛い経験はしてると思うんですよ。たぶん同期の中でもウチが一番怒られてたと思う。厳しいとか、家に帰りたいとか思うことはありますけど、やっぱり、逃げても怒られるだけですから。

怒られると元気でるように、自分で言い聞かしとったんです。みんな、怒られたら暗〜くなっていつ逃げるかってこっちがハラハラして、逃げる人をウチが「今日は巡業参加しぃや」って家から引きずって来たりしますよ（笑）。気を付けてはいるんですけど、やっぱり用事多いじゃないですか。一度に用事を言いつけられると同じ失敗も繰り返してしまうんですよ。人間、物事を忘れるし、それはそれで仕方ないと考えてはいるんですけど。

何回言うても辞めたい人は、ウチがそういうふうに言うたってしょうがないじゃないですか。その人の人生だし。だから1回、2回言うてダメな人は、「じゃあ、頑張って」って感じです。でも、ウチも、今の同期がいなかったらホント、辛かったですね。この人たちがいてよかったです。

先輩のお声

豊田真奈美（ちなみに脱走経験アリ）

後輩についてですか？　私は、「自分は自分」という感じなんであんまり他人のことはわからないんですけど（笑）。後輩はよくやってますよ。でも、やっぱり上下関係は当たり前のことですからね。いまと同じで、私も昔は「はい」と「すいません」しか言えませんでした。「話し方教室に通った方がいい」とか言われてしたから（笑）。

ただ、ホントにこの世界でやっていきたいのかなと疑問に思ってしまうことはありますね。いまは女子プロレス団体の数が多いから、全女以外でやれればいいやと考えてるのかもしれないですね。私たちの頃は、そうじゃなかったですからね。ちょっと怒られると、すぐ逃げる子がいるのも仕方ないことかもしれませんね。たまにホントに人間として許されないような、道徳的にとんでもないことをやる子がいるときは殴ったりもしますよ。そういう子に限って、親にも殴られずに育ってるんですよね。礼儀作法を知らない子が増えてきてるのは確かですけどね。ただ辞めさせたくて怒ったことなんか一度もないですよ。レスラーとして、人間として何か問題があるときは怒りますけどね。

ただ、一度逃げても戻って来れるように籍を抜かないのはウチだけですよ。他よりも、そういう意味では寛容なのかもしれないですね。

最近は、先輩後輩の間に、昔みたいな壁を作らないようにはしてるんですよ。私から話しかけたりもしますしね。

私（ワッキー）はお風呂にはいってます

れることである。表面だけカッコつけて
ても人から注目されるわけがない。ズバ

を幸せにさせる顔です。
まだ、理解しちゃあもらえませんね、

脱走伝説 3

『紙プロ』脱走経験者が見る女子プロレス

脇澤美穂への極私的オマージュ

脱走はスター街道の滑走路

愛敬は最強!!

いま、全女でいちばん元気っ!! 登場する各メディアで、狂った太陽のような笑顔で愛敬を振りまいているのがワッキーこと脇澤美穂だ。破壊的な明るさで、莫大な借金を抱えた全女のリング内外を引っかき回している注目の若手である。そんないまをときめくワッキーもじつは過去に一度、精神的に追い詰められて全女から脱走している。そんな彼女に魅かれたのが最近実力もないのにエラぶるのが非常にハナにつくロクデナシのカタブツ。
「ワッキーと脱走ならオレだろ!」との言葉を信じたわけじゃないが編集部唯一の脱走経験者だからやむなし。書きたきゃ書けや!

構成＆取材／中村カタブツ君（脱走経験者）
text by Katabutsukun Nakamura
撮影／藤見道隆
photographs by Michitaka Fujimi

私（ワッキー）はお風呂にはいってます 納見（佳容）くんが入ってないんです

20億とも言われた莫大な借金はなかなかのことじゃあ、返せないはず。そこで必要になってくるのが愛敬！

債権者がやってくる。「返せ、返せ、返せ」。だが、現金はない。最後の方法は愛敬を振りまいて、帰っていただくただそれだけ。「しょうがねぇやな。ねぇもんはねぇんだから」である。

愛敬は最強！　人間にとって一番必要で最も頼りになる、破壊力抜群の武器である。全女が図太く生き残っているのは選手やフロントに、そんな捨身の愛敬があるからだ。

脇澤美穂、19歳。どうですか、この笑顔！　そんじょそこらの笑顔とはモノが違う。高校を中退して全女に入門、一度は脱走を経験し、会社の倒産にも遭遇。精神的にも金銭的にも、とことん追い詰められた境遇を持つ女子プロレスラーが放つ、極上の笑顔。借金苦に、のた打ち回る現在の全女において、これだけ抜け切った顔ができるのは全女自身が持つ圧倒的な生活力、つまり“生”の活力の象徴以外のなにものでもない。

まさに銭の取れる顔。

それだけではない。女子プロバラエティー番組『格闘女神ATHENA』ではタッグパートナーの納見佳容から「風呂に入れ」と言われた汚れたアイドル・レスラーでもあるわけだ。

「私はお風呂に入ってます。納見くんが入ってないんです（笑）」

タッグパートナー同士で「風呂に入ってない」と言い合う、さらけ出すにもほどがある、いい仕事っぷり。ちなみに納見佳容、「夏は毎日入ります。冬は3日は我慢できます」と前述の番組で言い放ち、スタジオを震撼させた。

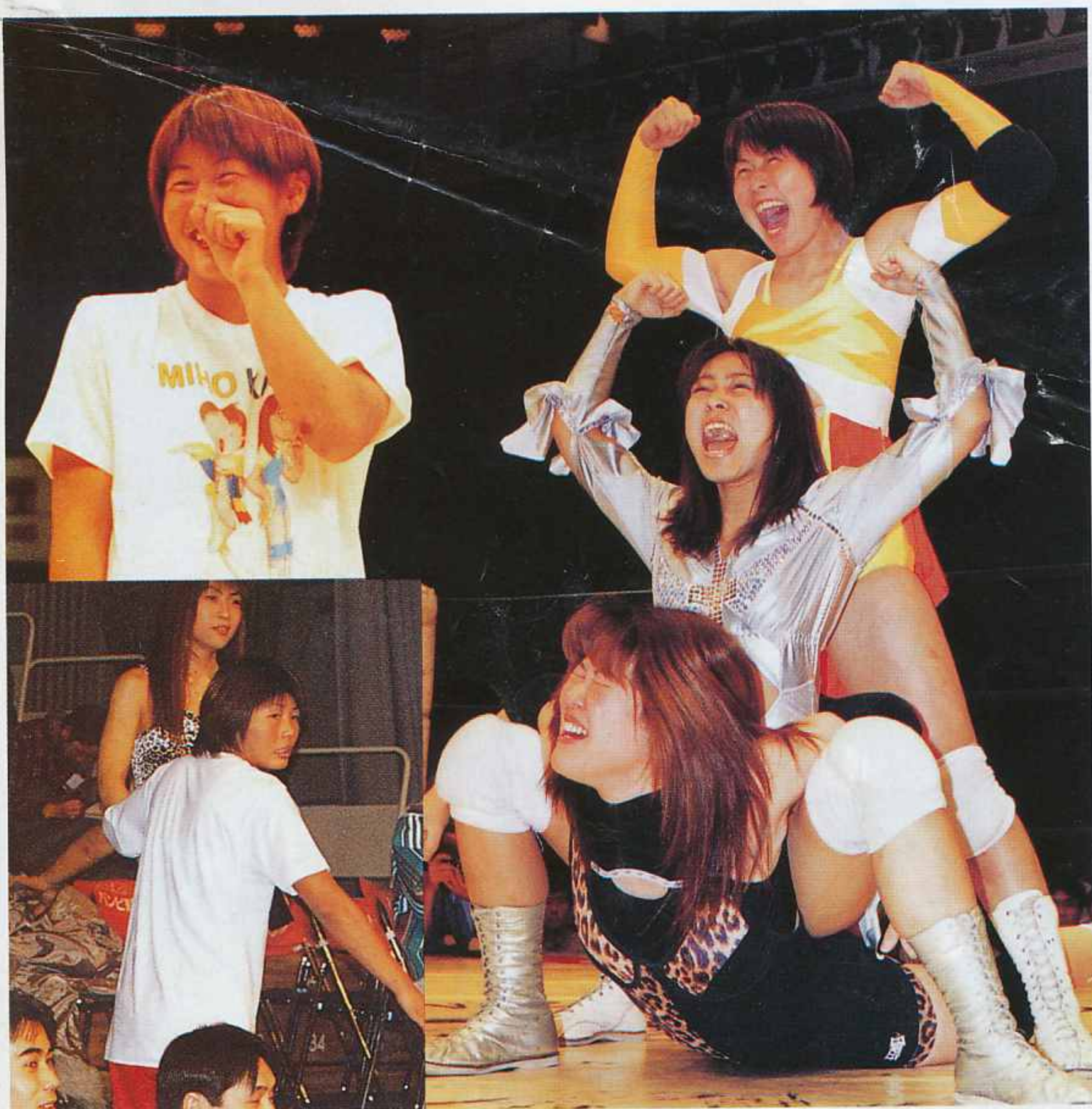
プロである以上、大事なのは注目されることである。表面だけカッコつけても人から注目されるわけがない。ズバリ言って試合での注目度は同期の高橋奈苗・中西百重の方が現時点では上であろう。僕が見た数少ない（平成8年組の試合は2、3試合しか見ていない）試合の中で言っているんで間違っていたらごめんなさいだけど。だが、少なくとも11・10 Jr.オールスターは脇澤美穂が見たくて会場に足を運んだのだ。それもこれもリング外でのアピール度が、すべての女子レスラーの中でズバ抜けて光っているからだ。これが愛敬です。見るものを幸せにさせる顔です。

まだ、理解しちゃあもらえませんね、たぶん。じゃあ、彼女の笑い顔の奥行について語りましょう。

「天に伸びる木は地獄に根をおろす」（前田日明談）。脇澤美穂の笑顔は薄っぺらじゃないってことです。

「新人のころ、もう失敗ばっかりして。先輩のリングシューズを忘れたりとか。洗濯とかでも伊藤（薫）さんのジャージの中にペンが入ってるのを気がつかないで洗っちゃったから真っ黒になってたりとか……。『なんでペンなんか入ってるんだろう、なんで黒くなってるんだろう』って。しかも伊藤さんに言われるまで、気がつかなくて。それで呼ばれて『黒くなってるけど』って言われて『もうおしまいだぁ』って。死にたくなった」

これらの失敗が重なって彼女は脱走した。バカバカしい理由だ。バカバカしいからこそ、本人にとってはより深刻なのだ。洗濯に失敗しただけで死にたくなったことのある人生。同じ年ごろの女子がルーズソックスのゴム抜きしながら男子のこととか考えてる頃、彼女はジャージのシミ抜きしながら死にかけていたのだ。伊藤選手にしたってジャージが黒くなっていれば「どうしたの？」って聞くのはごく当たり前。そんな普通の会話にも過剰に反応してしまう苛酷な生活。精神的にとことん追い詰められていたわけだ。だからこそ、こまごまとしたバカバカしい理由の積み重ねで逃げたのだ。

笑いたきゃ、笑えだ。逃げる者の気持ちは逃げたことのある者にしか絶対に

ロード・ウォリアーズにはびっくりしました
強さって感動ですね

わからない！ いかに辛かったかなど誰にも理解できない。理解されてたまるか！だ。女房に逃げられ、この『紙プロ』からも脱走するようにして去ったことのある僕にしたって彼女の本当の気持ちはわからない。そう誰にもわからない。自分で解決するしかないわけだ。

失敗したら誰かのせいにしたくなる。あるいは本当に自分のミスではないのかもしれない。だが、そんなことは第三者にはわからない。わからないなら諦めるしかない。いくら訴えたところで無意味だからだ。

そもそも悪いのは自分なのだ。「この失敗はあいつだろ」と疑われる日頃の行いが悪いのだ。そういう地位にいる自分が悪いのだ。すべてを受け入れ、振っ切るしか道はない。だからこそ、地獄に根を張る木は天を目指すのだ。

彼女の振っ切れた笑顔が魅力的なのは、そういうことです。バカバカしいことで死にそうになるくらい苦しんだからだ。

Jr.オールスター戦の時、脇澤・納見組は全日本タッグのベルトをJd'の小杉夕子・坂井澄江組に取られた。試合後の記者会見で納見は泣いていた。だが、脇澤は泣いていなかった。

「私だって泣きたいほど悔しかった。凄い悔しかった。だけど、Jdには涙を見せたくないんです」

ここまではよくある風景。湿った空気の中で記者たちは言葉少なだ。「オイオイ。記者が黙ってどうするの？」と僕は内心笑ってました。ふと見ると彼女も笑ってました。

「記者の人でジッと見つめると目をそらしてしまう人がいるって聞いたことがあるんですね。あんまり黙っているんで、つい見つめてたら、その人が目をそらしたんで面白くて（笑）」

この精神です。ブルーな場面、心境であっても面白い出来事があれば素直に反応するハートの柔軟さです。強いというのはこういうことを言うんです。笑顔に愛敬という凄味が加わるにはこのハートの柔軟さが不可欠なのです。どこに行っても何をしてもメシを食っていける顔。これが最強の愛敬ってことです。

では、脇澤美穂が考えるプロレスとは何か？

「お客さんを楽しませるプロレス。強さもなにもかも全部含めてお客さんを楽しませるプロレスをしたいです」

では強さとは？

「強さって感動ですね。昨日、バトラーツの両国大会（11・23）を見たんですよ。もう感動しました。良かったのは船木（勝一）さんとかウォリアーズの試合ですね。ウォリアーズはびっくりしました（笑）。全然違いました」

強さとは感動。感動によってお客さんを楽しませるプロレス。ズバリ言ってプロレスはよく知らない僕だが、期待感はあるんじゃねえんですか？

脇澤美穂、19歳。これからどう変わっていくかはわかりゃしないが、見といて損はねぇんです。

さて、それでは最後に告白しますか。彼女の愛敬のある顔に魅かれて、企画を思い立った僕ですが、資料集めや取材をする中で気づいたことが一つあるんです。それは非常に根源的な真実。

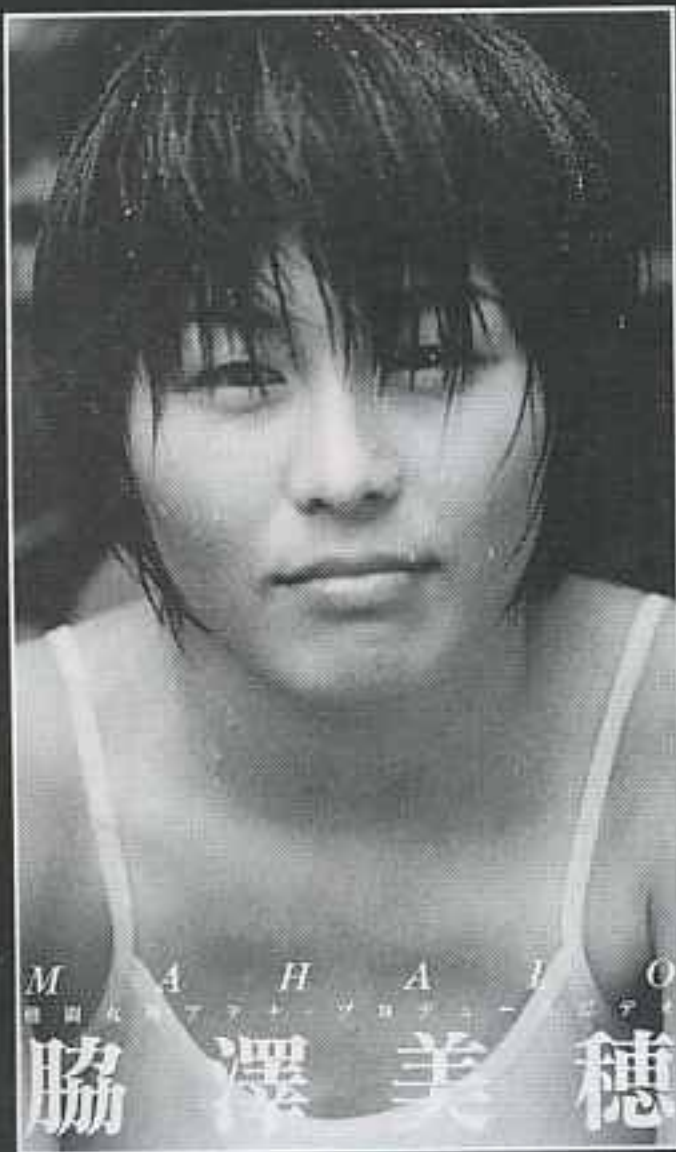
脇澤美穂ことワッキーは実に逃げた女房に似てるのだァァァ！

「公私混同するな！」とお叱りの声が聞こえてくるようです。だが、ワッキーを原稿の上とはいえ、一人占めできるなんてことは一度は脱走して戻ってきた者の特権です。逃げてもいいんです、戻ってくれば。いいことあるんです。さぁ、それではいきますかぁ〜！

ビバ！ カタブツ！
ビバ！ 全女！
ビバ！ ワッキー！

わきざわ・みほ■昭和54年10月9日、千葉県夷隅郡出身、O型。平成8年7月28日後楽園ホールにてvs川本八千代戦でデビュー。現在は全日本タッグチャンピオン（パートナーは納見佳代。通称ワッキー。変態アイドルとしてその名を轟かせ、本誌ビジュアル・クィーン・オブ・ジ・イヤー受賞がたったいま決定!! 賞品はないけどね。カメラを向ければすてきな顔を瞬時につくるセンスは最高!! かわいすぎる!! 164cm 58kg

ミホミホ
「全女とは「脱走」の

30周年記念大会も無事終了、我らがワッキー（と納見佳容）もJd'若手コンビに快勝し、

全女とは「脱走」の歴史である

～全女創立30周年記念大会を見て～

文・坂井ノブ

30周年記念大会も無事終了、我らがワッキー（と納見佳容）もJd'若手コンビに快勝し、太陽のような笑顔を見せてくれた。

そこではちょっとしたハプニングも起きた。いままでお互い避け合ってきた長与千種とライオネス飛鳥が2SHOTを見せたのだ。この2人も飛鳥が芸能仕事を「脱走」して以来、関係がこじれていた。クラッシュ時代に、飛鳥は自殺未遂までしていたことを本誌NO・5で告白してくれた。まさに人生から「脱走」しようとしていたのである。追い込まれ方も半端ではない。

「脱走」というとネガティブなイメージしかないが、そうではない。全女の弱い者がスターになっていくというシステムは厳しいものだ。派閥同士でいがみ合うから、試合には殺伐とした緊張感が生まれてくる。その空気に耐えられなくなったら逃げればいい。しかし、全女は逃げた選手を再び受け入れるだけの度量がある。ここが他の団体とは大きく違う。それをやっている団体は日本で全女だけだろう。

〟強いものが集まるより　弱いものが集まるほうが　真実がある〟

これは松永会長の座右の銘である。「強いものは1人でいればいいんです。弱い者が集まるからみんなで努力するし、競い合うでしょ？はっきり言ってウチに強いヤツはいらねえんだ」と松永会長はいつもの笑顔で語ってくれた。

「強いヤツはいらねえ」という言葉で目からウロコが100枚ぐらい落ちた。そう、全女は弱い者の集まりなのである。だから「脱走」もするし、逆に強くなれる。数年前まではブル中野、北斗晶、豊田真奈美など脱走経験者が輝いていたのも、弱かったからである。

「脱走」を経験して、女子プロレスラーは強くなっていく。全女という団体が、なぜあれだけ数々のスターを産み出してきたのか、それは弱い者が強くなっていく過程を見せていく団体だからである。

ジャイジャイ日記

ジャイ子じゃ〜！　大仁田、新日参戦記念に大仁田口調にしてみました。だけどそんなことよりも、ジャイ子はお菓子食べたいんジャイ！

11月12日

バトラーツ・石川社長&島田レフェリー来社。昨日出た『FOCUS』を見た石川社長、「ルミナが藤原紀香なら、オレはジャイ子だ！」と爆弾発言。みんなはイカレ社長っぷりを再認識してました。ジャイ子ですら「この人、ホンモノだ」と思っちゃったよ。ジャイジャイ。

11月14日

SB武道館大会。会場に入るなり顔面殴られちゃいました。誰かと思えばジャイ子が前号で「ニックネーム・マボマボ」って書いたことにお怒りの幻（片岡亮）。みんな、もともとそう呼んでるのに、なんで怒るのかなぁ？　へんなの、ジャイジャイ。

11月17日

DDT北沢大会。今号のDDT特集用の写真をジャイ子が撮りました。控室で撮影してたら二瓶組の皆さん（鴨居長太郎、タノムサク鳥羽、幻）に袋叩きにされちゃった。きっとジャイ子が可愛くてしょうがないんだね。近くにいた二瓶組長に助けを求めたんだけど、組長も照れちゃって来ないの。可愛いね。ジャイジャイ。

やっぱり写真は失敗。ドコ見て撮ったのか自分でもわからず。しかもなぜかパノラマ。ごめんね、タノムサク。

11月22日

明日のバトラーツ両国大会を見るために原タコヤキ君（元『紙プロ』ダミー編集長）が大阪から来ました。ジャイ子はタコ兄さんが来るのを楽しみにしてたのに「今すぐテレクラに電話せい」だの、「性感帯はどこや」だの言われ、しょんぼり。ジャイ子の好きなタコ兄さんじゃない！　どうしてみんな大場所の前日はこうなるのかな？　みんなもそう？　ジャイジャイ。

物販クイーン・ジャイ子&物販プリンセス・ハナちゃん&ヨソの商品勝手に売ってるカタブツ君。

11月23日

バトラーツ両国大会。今日は『紙プロ』特製バトTシャツの物販をやったよ。物販クイーン、ジャイ子的には両国は夢の会場。Tシャツは大人気で、すぐに完売しちゃった。それはそうと岡やん！　もとい、魂！　またケガしてしまったのね。「岡本ぉ〜だましいぃ〜」ってコールされるとこ見たかったのに。首にコルセットを巻いてる魂に話しかけると「医者に60代の身体だって言われちゃいました〜」だって。20代のプロレスラーがジジイの身体でどうする！　って思ったけど、首だけだよね、きっと。ジャイ子早とちりしちゃったよ。ジャイジャイ。

●12月3日、パンチ田原&里奈子夫妻に長男誕生！　おめでとうございます。昇龍（のぼる）君、ジャイ子のように大きくなるんだよ。日昇（のぼる）君のようになっちゃダメだよ。

11月26日

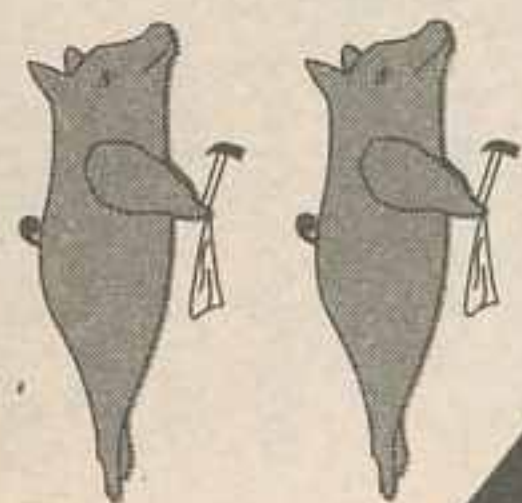
WAR川崎大会。今日は二瓶組長が天龍とタッグを組んだの。初の大物とのタッグに組長はどう見てもビビってた。試合中に水ガブガブ飲んでるし。組長は思ったことができなかったらしく、試合後は大号泣。全然ダメじゃなかったのに。ジャイ子、ガラにもなく感動しちゃったもん。でもね、泣いちゃダメよ、組長。試合終わったらハッタリかまさなきゃ。組長なんだからさ。ジャイ子のプチ・アドバイスでした〜。ジャイジャイ。

11月29日

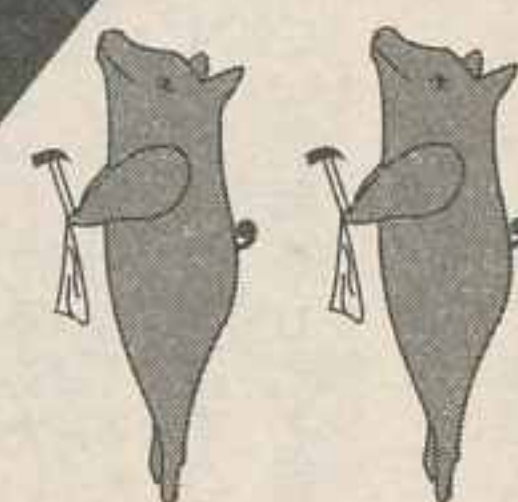
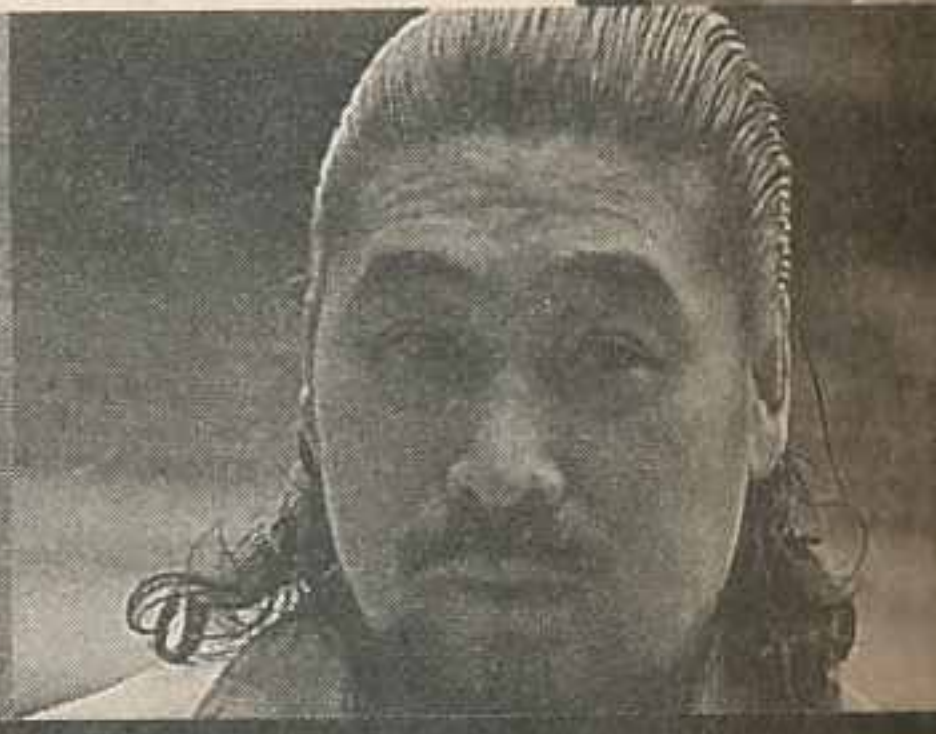
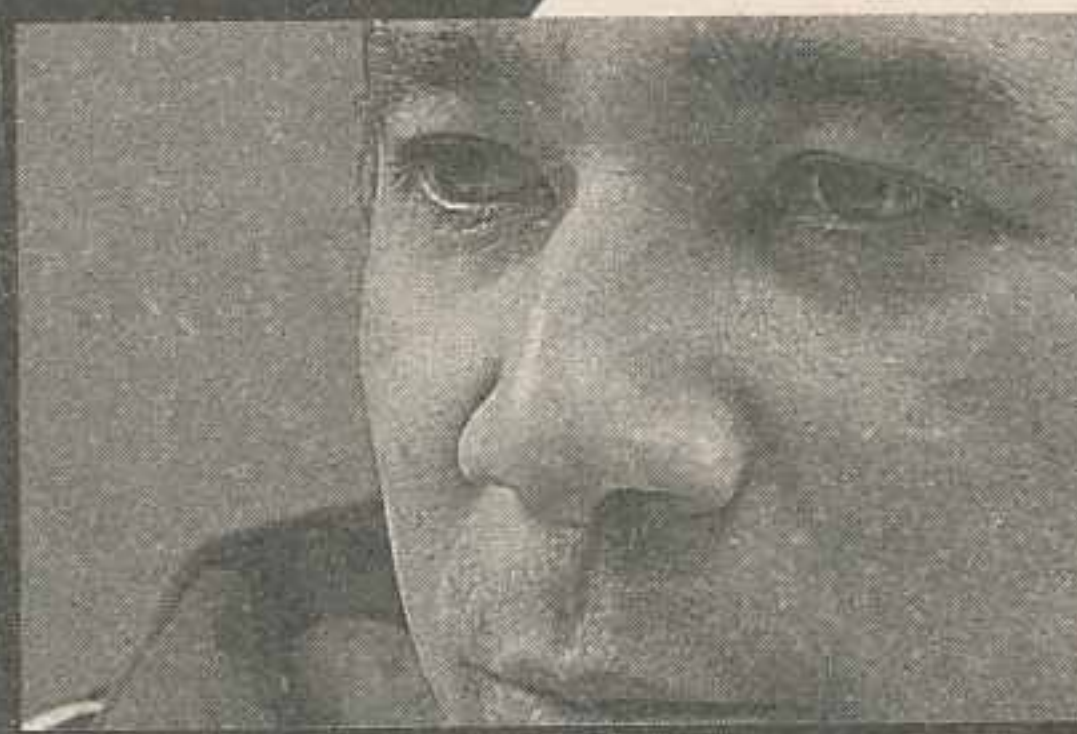
全女横浜アリーナ大会。ビバ！　30周年。今日は休憩時間にテッド・タナベレフェリーに遭遇。会うなり「あ、柱かと思った。それにしてもデケエなあ。あ、身体はデカいくせに胸ないじゃん。オレの方が巨乳、悔しかったら触らせろよ。でもさー、『紙プロ』見てるとジャイ子かわいそうって思うんだけど、会うと、どうしてもいじめたくなるんだよ。なんかムカつくんだよね。あと、オレさー、家で寝てたら親にコタツと間違えられたんだよね〜。俺がコタツなら、お前は角材だ！　じゃーな」と一人で喋りまくった挙げ句、どっか行っちゃった。ジャイ子はほとんど口を挟めなかったの。負けたよ、テッド。ジャイジャイ。

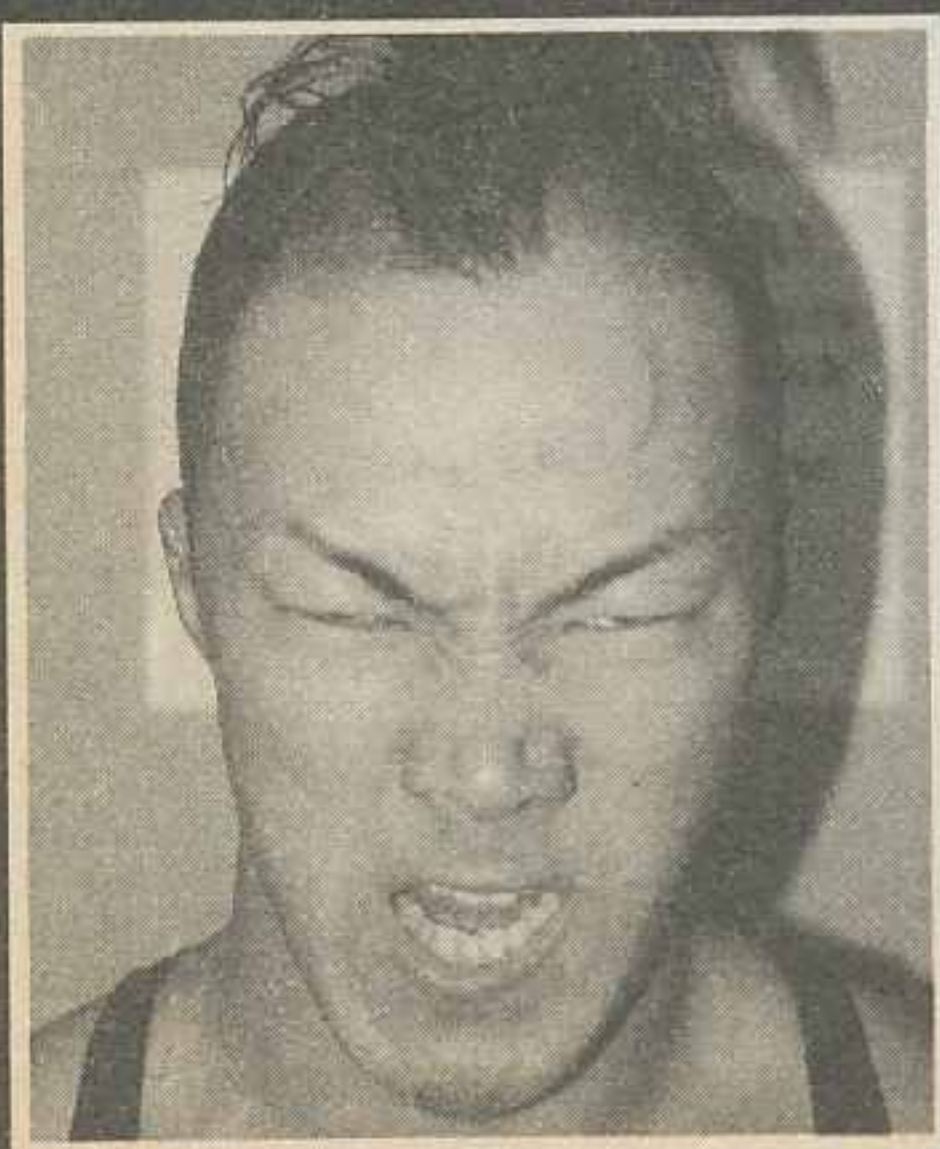
パンチパーマに普段着姿で殿堂入りの小畑千代さん。この日出場のどの選手よりも目立ちまくる。

ジャイ子、あまりのデカさに角掛さんのリングインを阻止。お詫びに指に乗っけてみました。

RADICAL

多重トンパチ S

multiple TONPACHI "S"

1992.
5.22

1990.
9.29

聞き手／吉田豪
Interview by Go Yoshida
撮影／ビッグ・ザ・ノブドー
Photographs by Big The Nobu

第4回 折原昌夫

聞けば聞くほど味が出るSWSの裏話の連載も今回で4回目。今回は、リング内外で暴れまくった「SWSの鬼寮長」こと折原昌夫を直撃！ 身軽な立場から歯に衣着せぬトンパチ発言で、プロレス史上最強の経営を誇ったSWSの内部事情をブッた斬ります！

折原といえば、以前、大槻ケンヂ＆『紙プロ』が監修した狂気の哲学書『トンパチ』（芸文社刊）で夢と希望とファンタジーが溢れまくったプロレス裏話を披露し、いちやくSの語り部として名を馳せたのは記憶に新しいところ。最近『紙プロ』を読み始めた人は、急いで買って10回読むように！ というわけで、今回はその後の『トンパチ』と、本誌大好評連載の『S多重アリバイ』を合体させた特別編でお届けします!!

●12月3日、パンチ田原＆里奈子夫妻に長男誕生！ おめでとうございます。昇龍（のぼる）君、ジャイ子のように大きくなるんだよ。日昇（のぼる）君のようになっちゃダメだよ。

月～土曜日までは一日中練習!!
土日は私もソープの鬼になりました！

STRAIGHT AND STRONG
SWS

――ボクが取材させていただくのは『トンパチ』以来なんですけど、噂によるとあの本が出てから大変なことになっちゃってたみたいですね（笑）。

折原　まわりが「大変、大変」って言ってるだけで、ボクは別に普通なんで（笑）。むしろ、そのときを境にしてトンパチぶりを発揮してないですね。最近、いろんなところで試合してますけど、自分のキャラクター以外のキャラクターが多いんで、トンパチぶりが出せないっていうか。

――だけどあれ以来、キャラクターとしては一応「トンパチ」っていう冠が付くようになったわけですよね。

折原　なんのキャラクターやっても悪役にはなるんですけどね（笑）。危ないとか。いま一番感じてるのは、トンパチから脱出しちゃったかな、自分でもおとなしいなと思って。

――ある意味「トンパチ」というのもギミックになりつつあるというか。

折原　そうですね。会場行こうとして、街を歩いてても、あまり声かけられないですから。「怖い」とか、「危ない」とか、「頭おかしい」とか言われて。実際そんなんじゃないし、普通なんで。新しく友達になる人はガッカリしちゃうみたいで。「もっと面白い人かと思った」って。

――ダハハハハハ！　ところで『トンパチ』のときは、やっぱり折原さんのSWSに関する話が抜群に面白かったと思うんですよね。

折原　しましたっけ？

――しましたよ。道場の話と、ジョージさん話。その辺のネタ持ってるのは寮長の折原さんだけですからね。

折原　ああ。まあ先輩たちの話を面白おかしく話すこともできますけど、先輩たちをネタにして自分を上げてもしょうがないんでね。だから寮長をやってたのはボクなんで、その合宿所なり、個人的なSの心臓部、田中八郎氏とのこととかを話しましょうか。まあ、言ったらビックリしちゃうでしょうね。

――ビックリしちゃいますか！

折原　でも、若くして、そういうものを感じとれたっていうのはすごく幸せだったんじゃないですかね。先輩の中で、そこに入れなかった人もいるし、そういう人たちを押しのけて入ったんですから。世間の目はかなり厳しかったですけど、ホントにプロスポーツとはこうあるべきだと、ボクはすごく感じましたよ。たとえ他人がなんと言おうと！

――同感です！　SWSは団体として正しい姿勢だったと思うんですよ。

折原　ええ。田中八郎氏の考え方自体はボクは好きだったし、なにより選手のことを一番に考えてやってた人じゃないかな、と。ただ、プロレスのことがどれだけわかっていたのかなと考えると、そこにSの欠点があったと思うんですよ。

――噂によると、ファンと同じレベルの意識だったみたいなんですよね。

折原　プロレスラーが好きだってとこから始まって、プロレスが面白くない、だったら私が面白くしよう、プロレスファンを集めよう、ということでしょ。そのために自分の力を使った。そこまでできる人はいませんよね。そこまでは希望に燃えてたというか、いわば成りたての教師みたいな（笑）。

――田中社長も選手も、みんな理想に燃えてたんですね（笑）。

折原　選手も「これがプロだ！」「これでオレは生計を立てる！」「街を堂々と歩ける！」って、そんな気持ちにはなってたと思うんですよ。ただそこからね、田中社長もプロレスを知っていくじゃないですか、プロレス関係者になれば。そういう細かいところが、やっぱりプロレスファンだったんだな、という部分ですよね。結局、ただのプロレスファンがすごく力を持ってたというだけで実現しちゃったものがSですね。

――ある意味、夢のような話ですよね。

折原　そうですねえ……。ファンの人が一番聞きたいと思うんですけど、ギャラのこととか、どれだけ稼いだとかね。そのときの蓄えで折原昌夫はいろんなとこ転々としてるみたいなことを言われてるんですけど、ボクはすごくいい経験をしたと思うんですよ……。人間、大金を掴むと、やっぱり変わりますからね（キッパリ）。

――ダハハハハハ、変わりますか！

折原　変わります！　ボクは変わりました、ハッキリいって（笑）。

――ハッキリいいますねえ（笑）。

折原　ただ、そのときに天龍さんの一言があってね、「お前の実力じゃないよ」と。ギャラに関しても、扱いに関してもですね。「お前はいま、ここにいるけども、そんな実力もないし勘違いしちゃいけないよ」と言われて。要は金に関してはアブク銭ですよ。「いつまで続くかわからないし、まわりをよく見て使うところに使え」と。……だから使いましたねぇ（笑）。

――どこに使ったんですか？

折原　あのとき、寮長やってたんで、月曜日から土曜日まで1週間、朝から晩まで練習はしてました。だからね、土日は私も鬼になりました！

――ダハハハハハ！　一気に飛ばしまくるわけですね（笑）。

折原　もう、ソープの鬼！　ハシゴしました（笑）。これは嘘じゃなくて。

――いや～、男らしいなぁ（笑）。じゃあ、みんなに奢ったりして。

折原　でもね、天龍さんにそこまでいい言葉をかけてもらいながら、金の使い方間違ってたなあっていうのが、いまありますけどね（笑）。

――ダハハハハハ！　でもプロレスラーらしい使い方ですよね。

折原　天龍さんを全日本時代からずっと見てたんで、試合が終わると記者の人とかみんな連れて飲みに行って、全部使っちゃうんですよね、すごいことしてたんですよ。ボクは絶対真似できないですけど。だけど、朝から晩まで夢に向かって一生懸命練習してる奴に「土日は遊びに行ってこい」って言ってもね、身体が疲れて行けないわけですよ。寝ちゃうんですよ、月曜日の朝の練習のことを考えると。だから強制的に遊ばせる。Sのバンがあって、平井（伸和）かヤス（安良岡裕二）に運転させて「行くぞ！」って、まずファミレスに行くんですよ。テーブルに料理全部並べて「食べろ！」って。これから体力を使うからって取りあえず食べさせるんですよ。ときには「顔じゃない」って先輩方には言われましたけど、寿司も奢りましたねぇ。

――値段のところが「時価」になってる店に行くわけですね。

折原　行きましたねぇ。寿司屋に行って「食え！」っていうのは気持ちよかったですよ（しみじみ）。

――いい話ですねぇ（笑）。

折原　それで、男ですから1週間、

11/29 TOKYO DOME
U-COSMOS
メガネスーパー PRESENTS

後援メッセージ

田中八郎

挑戦しつづける王者U.W.F.に期待します。

バブル絶頂期、プロレス界に怒涛の勢いで殴り込んできた史上最強のタニマチが田中八郎メガネスーパー社長（現・会長）。同じく破竹の勢いでのし上がったUWFの東京ドーム大会もメガネが後援したものだったのだ。図版は『U-COSMOS』のパンフである。この辺からSがUを取り込もうとした背景が見えて来るではないか。

【お詫びと訂正】本誌前号で掲載した『スナック・ケンドー』の住所及び電話番号が誤っていました。お詫びさせていただくと共に、以下のとおり訂正させていただきます。（編集部／坂井ノブ）
スナック・ケンドー：神奈川県小田原市東町4-4-8　TEL.0465-35-5070

多面トンパチS

multiple TONPACHI "S"

溜まりに溜まったものがあるんで、朝まで爆発させて。ボクが遊びたかっただけなんですけどね（笑）。そのとき、男として「ちょっと軟弱だな」と思ったのは安良岡ですね。2軒目で涙流してましたよ。

——それは嬉しくて？　それとも悲しくて？　もしかして辛くて？

折原　辛くて（笑）。

——ダハハハハハハハ！

折原　「先輩、もうダメです」って。他の奴は「もう1軒行きましょうよ！」って感じなのに、1人で「もう勘弁してください」って。

——連日の練習だけでも疲れてるのに、ってとこですかね（笑）。

折原　男として情けないな、と。あのときいたのが、畠中（現・グレート・センセイ）、川畑（輝鎮）、平井、安良岡……。いまも活動してるのはそんなもんですか。メチャクチャでしたね。

——メチャクチャですか（笑）。

折原　結論から先に言っちゃいますけど、ボクにとってのSっていうのは恐竜がピッタリだったっていうか。

——つまり、滅びるべくして滅びた？

折原　恐竜の看板が道場にあったんですけど、酔っぱらって朝帰りしてあれを見るたびにどうしてこのマークになったのかと思いましたよ。

——つまり、恐竜なみの巨大さとパワーがあったわけですよね。

折原　やりたい放題でしたからね。

——会社一丸となって（笑）。

折原　世間がどんなに白い目でボクたちを見てようが、ボクはやりたい放題でしたから。そのへんから『トンパチ爆発』みたいな感じはありましたよね。でも、普段から銀座で遊ぶとか、六本木に行くとか、みんな噂してたけど、そういうことはなかったんですよ。みんなしてないと思います。意外とスポーツマンって真面目なんですよ。だから地方行ったときにその真面目さが爆発して血が騒いで、今日ぐらいはハメ外そうってね。わかるでしょ？

——まあ、土日ぐらいはね（笑）。

折原　そうそう。ボクなんかは土日だけね（笑）。（メキシコ修業時代の資料を見ながら）うわっ、これオレじゃん！　見て下さいよ、これ。メキシコでベッドは買うし、絨毯は取り替えるし。

——長居する予定だったんですよね。

折原　2年とちょっと。ヘタすると3年位行って来いって。いまだから明かしますけど捨てられたようなもんなんですよ。要は田中八郎って人がジュニアの選手を好きじゃなかったんですね。マッチョで身体の大きいヘビー級しか好きじゃなかったんです。それで、早くて2年て言われて、全てのものを引き払って行ったわけです。本当に淋しかったですよ、言葉も何もわからなくて。それで、やっと落ち着いたところで「帰って来い」と。

——つまり、折原さんが遠征するまでは団体も2年や3年は平気でもつっていう雰囲気だったんですよね。

折原　誰も潰れるなんて思ってなかったでしょうね。

——そうじゃなきゃ、2年も行って来いなんて言わないはずですからね。折原さんはメキシコに行っていたのでわからないんでしょうけど、Sが崩壊するに至った理由っていうのがボクなんかは単純に興味があるんですよ。

折原　もともとSには『レボリューション』『パライストラ』『道場・檄』と3つあって、ボクは『レボリューション』の選手だったんで、ホントに派閥というか、他の道場のトップの選手の言うことはまったく聞かないっていう態勢はありましたね。

——完全にバラバラだったんですか？

折原　完全にバラバラ。縦の社会ですから、会場で挨拶とかはちゃんとしましたけど、ジョージさんのいうことは聞かない。

——それは自発的になんですか？

折原　そうですね。一緒にいちゃいけないんじゃないかなっていうムードもありました。

——それでも道場内では、若手同士が繋がってはいたんですよね。

折原　繋がってました。ただ、ボクがメキシコ行ってる間に……まあ3ヶ月と3週間ぐらいで帰って来たら、天龍さんがトップに立ってWARやるって言うんで、ボクは天龍さんに付いていっただけなんですけどね。そのときには、あんなにみんな朝から晩まで練習して、みんなで遊びに行って、バカなことしてた奴らが、完全に目つきも態度も違いましたね。一つの寮に住みながらも空気が違ってね。だから人間、大金掴んだときもかなり変わるけど、選択を迫られたときっていうのも本当に怖いですね。Sではいい思いもいっぱいしたし、人間というものをよく感じとれたなというか。普通、何年もかかって手に入れるものとかが、ほんの1年ぐらいで全部体験できちゃったんだなぁ。

——密度の濃い時間だったんですね。

折原　濃いですねぇ〜（笑）。でも、プロスポーツっていうのはああでなきゃダメなんじゃないですかねぇ。ボクもお金が欲しくてプロレスラーになりたいと思ったわけじゃないですけど、だけどやっぱり金ですよ！　これ、間違ってないでしょ？

——同感です！　これっぽっちも間違っちゃいないですよ！

折原　これはね、みんな「そうじゃない」とか格好つけて言うけど、プロなんだから、やっぱり金ですよ。

——そりゃあ当然の話ですよね。

折原　試合して、たとえお客さんが10人でも100人でも1万人でも、その人たちに同じ夢を与えるわけですから、それだけの代償があるわけですよ。骨折ったり、ケガが悪化したりとかするわけですよね。だったら、あとで個人的に喜べる部分があってもいいんじゃないですか。チャンピオンベルト貰ったとか表彰されて賞状貰ったとか、そんなんじゃなくて、お客さんは時間を作ってお金を払って来てるわけですから、選手にそれに見合った報酬は必ず必要だと思います。それがなぜかわからないんですけど、プロレスだけがプロスポーツとしてできてないんじゃないかな、と思うんですよ。

——他の競技を見れば、待遇がいい所に移るのは当たり前なんですけどね。

折原　そうですね。上の人たちはたまに集まってミーティングをしてたんですけど、ボクはそれには参加できてないんで、そこで何が行われて、どういうふうにこれから先、Sを流していこうかっていうことは、ボクは知らないんです。ただ、やっぱりその人たちとかが体験してないことで面白かったこととか、つまんなかったこと、そういうことがボクは寮長の立場だったから、いろいろあると思いますよ。

——それも興味深い話ですよね（笑）。

折原　寮長やってれば、朝から晩まで若手の面倒見なきゃいけないんで、誰が誰と仲がいいとかね、誰と誰が朝方一緒にシャワー浴びてたとか（笑）、あんなに広くて大浴場まであ

SWSの母体は超有名チェーン店のメガネスーパー。Sが通称「メガネ」と呼ばれていたのは、そこに由来している。折原はいまでも「メガネにはいい印象しか残っていない」と言う。プロレス史上の蜃気楼としてしか、その名を残せなかったのが非常に悔やまれる。

北海道に逃げちゃう人はよくわからないです（笑）

STRAIGHT AND STRONG SWS

仲野信市（フリー）
高木功（現・嵐／フリー）
高野俊二（現・拳磁／PWC）
佐野直喜（現・友飛／高田道場）
サムソン冬木（現・弘道／冬木軍）
鶴見五郎（国際プロモーション）
谷津嘉章（SPWF）
ケンドー・ナガサキ（NEWNOW）
将軍KYワカマツ
天龍源一郎（WAR）

る風呂でシャワー室5個も6個もあるんですよ、それをなんで1つの狭いシャワー室に2人で入るんだっていうね。

——寮長であればそういうところまで見ちゃうんですね（笑）。

折原　見て注意するべきか、それともムードを盛り上げるために有線でもかけてあげるべきか迷いましたねぇ（笑）。迷った揚げ句、イタズラしちゃいましたけどね。

——ダハハハハハ！　やっぱりSは、寮まで面白そうですからね（笑）。

折原　若手にもいろんな奴がいて●●レフェリーって人がいたんですよ。彼はレスラーになりたくて入ってきたんですけど、どうしても身体が基準に達しなくてレフェリーの修行してたんです。で、あのとき宗教の勧誘が結構あったんですよ。ボクは宗教をバカにするつもりはないですけど、彼は●●●●●●●●●の一員でした。それがまた、会員証をしまっときゃあいいのに、練習中ポケットからポロッと落ちて、拾うじゃないですか。朝、どこいってんのか、脱走するのかと思ってつけてったら、朝の集いに参加してるんですよ。近くの公園に行って歌を歌ったりね（笑）。いろいろ大変でしたよ。

——はあ……。そういえば昨日、佐野（直喜／現・友飛）さんにインタビューしたんですよ。

折原　ん？　ゲホッ、ゲホッ！

——大丈夫ですか？　そこでむせないで下さいよ（笑）。

折原　すごい思い出がいっぱいあるんですよ。佐野さんが今後行動できなくなるようなことを、いっぱい知ってるんですよ（ニヤニヤ）。

——さすがは寮長ですね（笑）。

折原　ウワッ！（旗揚げ戦のパンフを見て）もしかしてこれ……。ボクの眉毛を見て下さい。これはツルツルに剃られちゃって、書いてるんですよ。

——誰にやられたんですか？

折原　これはですね～、（パンフに載っている高野俊二（現・拳磁）と仲野信市を指さしつつ）これとこれです。この前に伊豆で合宿を開いたんですよ。ここでみんな酔っ払っちゃってね。

——それで酒癖の悪いこの人が、眉毛を剃ったってことですかね（笑）。

折原　朝起きたら何もないんですよ。（パンフを見ながら）この三ヶ田さんっていうトレーナー。彼も面白い人でね、自分がいままでやってきた経歴とかいっぱい話すんですよ。「アメリカでアーノルド・シュワルツネッガーを教えてたのは私だ！」とか、「何年間仮面ライダーの中に入ってたのも私だ！」とか、「ウルトラマンのなんとかの中に入ってたのも私だ！」とか。期間まで細かく。「自衛隊で特殊部隊にいて、脱退するときにすごい大変だった。人も2秒で殺せる」って言ってましたからね。そういうのを全部計算して、「三ヶ田さん、いま何歳でしたっけ？」って聞くと全然歳合わないんです。

——それは本気で言ってるんですか？　それともギャグとして？

折原　いや、本気で言ってるんですよ（笑）。ちょっとキてましたね。

——考えてみればSには、そういうコクのある人がいっぱい集まってたわけじゃないですか。当時、寄せ集めだ、なんだって言われてましたけどね。

折原　そうですよ！　いま見るとすごいメンバーですよね。

——まとまるわけないですよね（笑）。

折原　（パンフを見ながら）このメンバーが集まったらどう考えてもまとまらないでしょう。あっ、維新力は「オレに殺される」って言ってね

え（しみじみ）。

——なんですか、それ（笑）。

いたものを持ってたんですよ。オレはもう、あっけらかんとしてました

RADICAL

ウルティモドラゴン（闘龍門）　アポロ菅原（フリー）　北尾光司（武輝道場→引退）

維新力（どりんくばぁ～）　大矢剛功（FMW）　三ケ田トレーナー　海野宏之（WAR）　片山明（引退）　折原昌夫（メビウス）　北原辰巳（現・光騎／キャプチャー）　石川孝志（大日本で復帰）　ザ・グレート・カブキ（串焼屋）　ジョージ高野（FSR）　天龍源一郎（WAR）

多重トンパチS

multiple TONPACHI "S"

を見て」もしかしてこれ……。ボクの

は「オレに殺される」って言ってね

え（しみじみ）。

——なんですか、それ（笑）。

折原　この人の結婚式に行ってね。そのときに、ピンクのスーツ着て、モヒカン立てていったんですよ。それで最後に挨拶しに行ったら、維新力のお母さんが、「あ、いつもいつも、ケガさせないで下さいね」って（笑）。多分、ボクにいじめられてると思ってたんでしょうね。相撲でホントに強かったのかなと思いましたよ（笑）。よくこんなんで相撲界のトップ行けたなぁと思って。

——ガハハハ！　要するにハートの部分が足りなかったんですかね。

折原　かなりトンパチ発言でしたね。いま、格闘界の争いになりそうなことをいってしまいました（笑）。

——相撲対プロレスですね（笑）。相撲といえば前号でナガサキさんの取材したんですけど、面白かったですよ。

折原　ナガサキさんはね、ボクもこの前旗揚げ戦（98年10月31日、NEW　NOW小田原大会）に参加しましたけどね。

——あっ、折原さんのあのときの試合はすごかったらしいですね（笑）。

折原　あれからどこ行っても「やっちゃったんだって？」って聞かれて（笑）。プロレス界、こんなにあっても1つのようなもんですからね。次の日にはみんな知ってましたね。

——因縁のある夢ファク勢との久しぶりの絡みだったわけじゃないですか。

折原　アイツらね、初めから因縁めいたものを持ってたんですよ。オレはもう、あっけらかんとしてましたけどね。やっちゃいましたよ（笑）。今度会ったらブッ潰してやりますよ！

——ガハハハ！　さすがですね（笑）。

折原　（パンフを見ながら）しかしこれ、すごいですね、メビウス、キャプチャー、新東京、串焼き屋、WAR、FSR、道場元気、SPWF、国際プロモーション、冬木軍、高田道場、FMW、闘龍門、大日本、NEW　NOW。

——そして、（ドン）荒川さんは、いまもメガネ・スーパー（笑）。

折原　ゴルフ事業部でしたっけ？でも、これっていま考えたら、時が流れてSWSが求めてたことに到着しそうな感じしませんか？　各選手が道場持って。

——なるほど！　まあ、ほとんど交流してないんですけどね（笑）。しかし、ここまでバラバラになる団体っていうのも珍しいわけですけど、結局のところSはなぜ壊れちゃったんですかね。

折原　どうしてダメになったとかはわかんないんですよ。ただの噂話しか耳に入ってこなかったから。田中社長の息子さんがプロレス好きで、その誕生日プレゼントとしてSを作ったって噂もありましたけど（笑）。

——ダハハハハ！　それもまたスケールのデカすぎる話ですねぇ（笑）。

折原　崩壊したのも、その息子さんがF-1も好きで車の方にお金をかけることになったからだとかね（笑）。まあ、あくまでも噂ですけど。

——信憑性は高そうですけどね（笑）。

折原　だからボクも気になって、上の人に聞いたんですよ。でも聞く人、聞く人みんな違うこと言うんで、それはもう、わからないですよ。ただ、Sは短期間だったけど思い出に残っ

プロはお金。それがプロスポーツの正当な当たり前の形だよ!!

STRAIGHT AND STRONG
SWS

てるし、内容も濃かったし、いいものだったんですよね。プロスポーツの一員になれた瞬間というか。いま、ボクいろんな団体出てますけど、全然プロじゃないなと思ってますからね。ボクはいろんな団体に参加させてもらってて、それで生活も賄って、好きなことしてますけど、だけどやっぱりお客さんを大事にしてるな、とかオレたちはこれで飯を食ってるんだぞっていう気持ちのあるところが少ないですよね。

——まだまだ少ないですか。

折原 少ない。格好つけてるだけっていうか、その日集まったお客さんだけを中心として盛り上げていくっていうか。明日に繋げて行くって気持ちがないですね。天龍さんはね、試合が終わって飲んでる席でも、今日があるから明日があるんだっていうね。ボクたちレスラーは試合ではお客さんに夢を与えて、その後でやっぱり仕事があるんですよ。お客さんを満員にするにあたって、興行主の人とか、いろんな関係の人のアフターケアっていうか、選手も一緒になって、試合以外の付き合いをするわけです。

——いわゆる接待ですね。

折原 正直言って一番キツいですけど、それをホントに大切にしてたのが天龍さんなんですよ。

——そして、SWSがああなるとも思わなかったわけですよね。

折原 う〜ん……。Sができたことでプロレスの流れも変わったし、選手、個人個人の考えも変わっちゃいましたね。で、Sがなくなったときに、また考えも変わりましたよね。Sはいいとこもあれば、悪いとこもあるんですけど、どっちが大きかったって、やっぱり……。ボクは、ね、すごく良かったと思いますよ。

——良かったはずなんですよね。それは各自の言い分を聞いても、わかるんですよ。ただ、その各自の考えることがバラバラだったってことですよね。

折原 プロレスに対する熱いものがバラバラだったってことと、あと、みんな格好つけて言わないんですけど、もっとお金が欲しいとか、Sの中で偉くなりたいとかね、そういうものを持ってる奴が多かったからダメになっちゃったんですよ、結局。

——いまメンバーを見ても、他はともかくレボリューションが団結するのはよくわかるんですよね。だから団体を立ち上げる時点で、最初に声をかけたのが若松さんっていうのはちょっとおかしいかな、って気もするんですけどね。最近は若松さんも、手から金粉出てきたりとかしてるみたいですが（笑）。

折原 だいたい北海道の方に逃げちゃう人は、よくわからないです（笑）。若松さんって、（スーパー・ストロング）マシーンですか？　あのイメージしかないからね。あの人、プロレスラーじゃないでしょ？　でも嫌ってる人とか、この人にはついて行けないって人は、正直言っていませんね。レボリューション以外は眼中なかったですから。それぐらい別れてたんですよ、ホントに。ボクが寮長やってて、若手もいっぱいいましたけど、ほとんど全員がレボリューションに上がりたがってましたよ。

——その気持ちはわかりますねぇ。

折原 道場で練習してると、ジョージ高野さんが酔っ払って一升瓶抱えてくるんですよ。で、酔った勢いで若手に向かって「オマエら、どこに入りてえんだ！」って言ってましたよ。ボクから見てて、「この人焦ってんなぁ」っていうのはありましたね。若手が全然こっちを向いてくれないっていうのがあったんじゃないですか？　ボクだけが感じてたんじゃなくて、他のみんなが見ても、「ここで練習してる若手はレボリューションに入りたいんだな」っていうのがわかってたんですよ。SWSっていったらボクはレボリューション1つだと思ってますから。

——まあ、ジョージさんはSWSに入る直前、自分でもどうしていいのかわからくなって酒乱になっていたとかって自分でも言われてましたからね。

折原 そうですよね、ジョージさん、練習してても、キックやったら「止めた！」とか言ってアマレスやってみたりとか、「これも違う！」とか言って受け身の練習を1時間ぐらい始めてたりとか、なにやっても違うみたいで。

——練習熱心なんですけどね。

折原 見てて怖かったですね。まわりは付き合わなきゃいけないし。でもみんな真剣なんですよ。一人、一人は本当に一生懸命だったんですよ。どうしてこうなっちゃったんでしょうね。もっと早く3つの道場が別れて、Sって名前を外に置いて、3つの道場がそれぞれ興行を打ってばよかったんじゃないですか？

——当時は全国10カ所に道場を作って、それぞれ練習しつつそこで興行もやるとかいう話だったんですよね。

折原 だから、『レボリューション』の中は天龍さんの考えについて行こうっていう人たちばっかりだったんですけど、田中八郎は天龍さんだけじゃなくて、『レボリューション』の中で天龍さん、カブキさん、石川さんからボクまで、それぞれが部屋を持っていいようにするって言ってたんですよ。

——つまり、折原部屋とかですね。

折原 そう、そういうものを持って、だから甲子園みたいなものですよ！そこで例えば折原部屋が一番強かったとしたら、折原部屋は『道場・檄』の中の一番強い部屋と闘う、っていう。そんな話もでてましたよ。

——いちいち発想が面白いですよね。

折原 そういうふうに進んで行けば、尽きることのない興行があったんですよねぇ。お客さんも飽きないじゃないですか。同じ選手の対戦がほと

93年9月12日、WARのリング上で行われた。とにかく張り合える相手を欲しがっている折原にとって、新日のジュニア戦線はピッタリだと思うのだが。

92年7月14日、WAR旗揚げ戦の控室にて。大事な旗揚げ戦のメインイベントで天龍のパートナーとして折原は起用されている。天龍の期待の高さもうかがえる。

んどないですから。もっと早くSの道場がそれぞれに興行打ってればよかったんじゃないかな、って思うんですけどね。

——つまり、あの時代に折原さんにとってメビウスみたいなものができたかもしれないわけですかね。

折原 メビウスは、あの時代はできないです。いろんなことを体験して、入り込んじゃって……プロレス界って脱出不可能じゃないですか。ボクも1回辞めたけど。1回デビューして、プロレスの味を知っちゃうと脱出不可能なんですよ。お金云々も悩みの一つですけど、やっぱりみんな、お金が欲しくて入ってきたわけじゃないし。その中でいいときもあれば、悪いときもあるし。その繰り返しじゃないですか。そういう中でできたんでね……。

——ところで折原さんは、田中社長とはどうだったんですか？

折原 初めはボクから天龍さんに頼み込んで「Sに入れて下さい」って言ったんですよ。Sに入りたかったんじゃなくて、天龍さんと一緒にいたかったんですよ。で、天龍さんが田中八郎に頼んでくれたんだけど、「ダメだ」ってなって。まだ、全日本でデビューしたばっかりだったし、たいして人気もないし、身体も細いし、小さいし。でもそこを天龍さんが頼み込んでくれて、どうにかボクが入れたんですよ。だから天龍さんとかカブキさんにはすごく助けられたんですよ。だから田中の八っつあんは、ボクと初めて会ったときは、もう、顔も見ないですよ。ボクも「やたらちっこいオッサンだな」と思って。

——しかし、当時からとんでもないことを思いますね（笑）。

折原 「この人金持ってんだなぁ」って、それしかなかったですね。で、浅井（嘉浩／現・ウルティモ・ドラゴン）さんが来るっていうことを噂で聞いて、ボクはタイガーマスクの次に憧れたのが浅井さんだったからね。あの人のやってる技とかも道場で内緒で練習してたんですよ。ケブラーダやる人が日本で浅井さん以外にまだいなかったんですよ。なんでみんなやんねえのかな、と思ってて。そうしたらカブキさんがある日突然「今日でお前、クビだぞ」って言うんですよ。

——唐突ですねえ（笑）。

折原 「八っつあんに言われたから」って。やっぱりつまんなかったんでしょうね。あの頃片山（明）さんとか大矢（剛功）さんと試合してましたけど、ホント、つまんないですね。

——そんなことないですよ（苦笑）。

折原 オーソドックスな若手の試合。身体がデカければ見応えもありますけど、ガリガリだったしね。「飛んだり跳ねたりできないのか、オマエら！」ってカブキさんに言われてね。その目があまりに真剣だったんで、本気だなと思って「できますよ」「じゃあ、今日やれ」ってなって、ぶっつけ本番でやったんですよ。その日は八っつあんも見てて、気がついたら八っつあんも立ってるんですよ。まあ立っても座っても同じぐらいなんですけど（笑）。その日すぐ、両手で握手されましたよ。

——ピュアな反応ですね（笑）。

折原 ギャラも倍、倍で。契約書も結びましたよ。それまでは小遣い程度しかもらってなかったんですけど。だからホントにプロレスファンなんです。そこから脱出して欲しかったですね。

——裏で聞いた話だと、最初から田中社長はプロレスは全部いわゆる●●●●だと思ってて、ホントに心から素直に全日とUが闘ったらどうなるのか見たいっていうだけでSWSを作ったとか言われてますよね。

折原 全くそうですね。だから、試合が終わってから、さっきリングの上では血を流し合って、イスで顔叩いてた選手同士が一緒に打ち上げにいたりとか、そういうのを八っつあんが初めて見たときには衝撃的だったんじゃないですか？ 「なんで一緒に酒飲むんだ！ 奴ら」みたいな（笑）。

——「裏切られた！」みたいな（笑）。

折原 だから、あれだけ多額のお金を出してるし、自分の持ってるもの全てを投資してるわけですから、裏切られたって気持ちは大きいでしょうね。ただ、ボクたちは殺し合いじゃないですから、殴り合いの中でもルールがありますからね。お互いの信頼関係というか、これ以上やったらホントに殺人になっちゃうっていうのがありますからね。リングの中で、素手で相手を殴って相手が死んだときは殺人じゃない。その代わり、イスでもなんでも凶器を使って相手を殴ったときに間違って死んだ場合には、殺人ですからね。そういうことをレスラーはちゃんとわかってますから。だから、ホントに素直にプロレスを見てたっていうか、それだから、なおかつ裏切られたっていう瞬間が多かったでしょうね、八っつあんは。

——寮長として見た田中社長っていうのは、どうだったんですか？

折原 お金持ってる人っていうのが全てですね。やっぱり寮長だから、

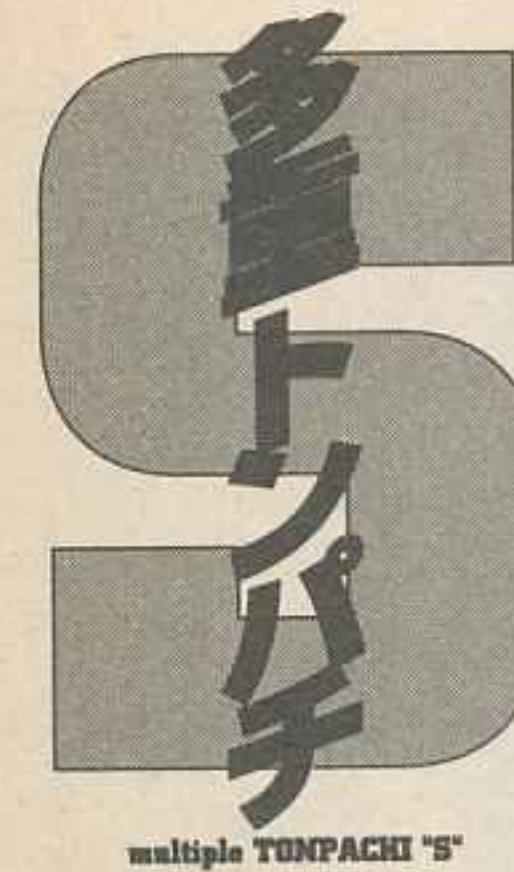
いまをときめく「プロレス界の救世主」とも対戦している。折原は昨年、キングダムに参戦して顔面パンチありルールも経験している。

多重トンパチS
multiple TONPACHI "S"

折原昌夫 髪型コレクション

WAR後期は、まるで何かに反抗するかのように突発的に髪形を変えていた

これが最近のごくオーソドックスな髪形。これを立てれば大変な髪形になる

ペイントと髪逆立てで折原史上最も極悪な出で立ちとなった11月23日のバトラーツ両国大会

これがオリのもう一つの顔、月光である。メビウスの海賊版・「ジョリー・ロジャー・メビウス」所属

93年9月12日、WARのリング上で行われた。とにかく張り合える相手を欲しがっている折原にとって、新日のジュニア戦線はピッタリだと思うのだが。

11月17日　11月14日　11月12日

Sで見た夢が忘れられないから いま頑張れるんですよ!!

STRAIGHT AND STRONG
SWS

月の食事代とか、光熱費とか、全部領収書を書くんですよ。全日本のときも1ヶ月いくら預かって、領収書をまとめて、自分のハンコ押して、明細書いて提出してたわけですよ。「今回使いすぎたなぁ、怒られるなぁ」っていうのがあったんですけど、Sではそういうのを1回も感じなかったですね。余分なものも全部買ってましたよ。お菓子とかも。

——それも経費で落ちるわけですね。

折原　それでも「食べ方が足りないねぇ」とか言われて、「いや、これ以上食べれないです」って言っても「あ、そう。冷蔵庫足りないんじゃない？」って人が入るような大きいの買っちゃったりとかね。

——素晴らしい姿勢ですよね（笑）。

折原　たまに八っつあんが冷蔵庫開けるじゃないですか。肉とかが余ってると、デカい塊をですよ、「今日中にこれ、なくしなさい！」って。背は小さいけど、冷蔵庫も考え方も大きいんですよ（笑）。

——文句なしですね。いま考えると、本当に夢のような話ですよ。

折原　ホントにプロの世界ですよね。

多重トンパチS

multiple TONPACHI "S"

おりはら・まさお■本名同じ。昭和44年6月16日、群馬県邑楽郡生まれ。175センチ、92キロ。A型。H1年全日本プロレス入団。小川良成や百田光雄に思いっきり鍛えられる。翌年SWSに移籍し、プロレス界と人間の陰の部分を思いっきり見ることとなる。そしてSWS崩壊後は、天龍の後を追ってWARへ。その後、腰痛の悪化で一度は引退するが、東京プロレスのリングで復帰。東プロ崩壊後はFFFへ移るがFFFも崩壊。自身では新軍団『メビウス』を結成して、若手の育成も手掛ける。各団体のマットで『トンパチ野郎』として遠慮のないファイトで怯えさせている。バトラーツでは小野武志と「トンパチ・マシンガンズ」を結成。2人でDDTやIWA　JAPANや国際プロレスへも殴り込みを掛けている。

食べること、練習することには本当に何の不自由もなかったです。でも、とにかくボク、Sにいるときは、どこいってても天龍さんについてましたから、田中の八っつあんはその次ですね。で、その次はいないです。2人だけ！

——ダハハハ！　それはともかく、いまの折原さんのキャラクターに至る根っこにはSがあるわけですね。

折原　やっぱりやりたい放題やったのはSしかないですからね。私生活もこれから一生のことを考えてもSにいたときはやりたい放題でしたね。

——あそこまでハメは外せない、と。

折原　あんなことはもう絶対できないでしょう。できないね、ホントに。だって、毎年宝くじ買うじゃないですか。

——「買うじゃないですか」って言われても困りますけど（笑）。

折原　買うんですよ。当たったらどうしようかな、って考えるんですよ。当たったらもう1回Sみたいな生活できるかなと思って（笑）。

——ダハハハハ！　楽しかったあの頃に戻れるんじゃないか、と。

折原　ホント、贅沢しましたよ。ただ、その後貧乏もしたしね。

——もしマスコミに叩かれなければ、Sはもう少し続いたと思います？

折原　マスコミには叩かれたけど、ボクはそういう恨みとかはないですね。それが原因って言う人も中にはいますけど、それは言い訳ですよ。やっぱり、みんなが一番になりたがってたのがいけないんですよ。頭おかしいんですよ。みんな勘違いしちゃうんですね。

——「俺が俺がじゃ駄目だっちゅうの！」って上田馬之助さんも言ってましたしね（笑）。

折原　そういえばハワイにS全員で行ったときですよ。選手がみんな出て待ってたんですけど、なんか、誰か引っかかってると思って見たら、田中の八っつあんが金持ってきすぎて、入国できないんですよ（笑）。

——ダハハハハハ！　それもすごいですね、お金がありすぎて（笑）。

折原　しかも、入国するときに金取られちゃってるの（笑）。

——いつものように持ってきちゃったんですね（笑）。つくづくたまらない団体ですよね、SWSは。当時はみんな冷たすぎたんですよ。暖かい目で見たらこんなに面白い団体ないですから！

折原　羨ましかったのかなぁ？　あんなメンバーだったらみんなもっと期待してもいいじゃないですか。ちゃんと練習もしてたし、みんな、それぞれに考えもあったのに。

——実際に話聞いてみたら、裏でもこんなに暴走してるし（笑）。羨ましいですよ、さすが恐竜って感じで（笑）。

折原　でも、楽しかったですよ。Sにいなかったら、いまの自分はないですね。ここまでの度胸もつかないし、人間、1回グーンと上がるとそのときの喜びを覚えてるから、また、ああなりたいっていうのは絶対ありますもん。ボクの中ではSの金銭感覚と、あの生活がトップなんですよ。

——いい意味でムチャクチャな部分もかなりあったわけでしょうからね。

折原　いい意味でね。夢見ましたもん。

——その夢が忘れられない、と。

折原　それと一番落ちたときとの落差が激しい程、頑張れるじゃないですか。だからボクはいま頑張れるんです！

【98年11月26日クラブチッタ川崎の横の喫茶店にて収録】

RADICAL BOUT REVIEW
紙プロ的観戦記

『HALL OF FAME～女子プロレス殿堂への招待状～』

11/29（横浜アリーナ）
全日本女子プロレス

極私的ベストバウト

1位　マッハ文朱
2位　小畑千代
3位　ミホカヨvs小杉夕子&坂井澄江

OG元気大爆発!! 凄玉揃いのお祭り興行

現役引退して何10年も経つというのに、全女のOGはメチャクチャ威勢がいい!! 「とにかく目立ってやろう」という世代を越えた闘いが非常に興味深い興行だった。試合挟みながら、計3回のセレモニーが行われるという流れでセレモニー重視構成だったのも、30周年記念興行のお祭りを盛り上げるには効果的だった。

まず、観客の目を釘付けにしたのは小畑千代だった。パンチ・パーマ、独特のダミ声、そのファッション、どこをとってもすさまじい出で立ちで観衆を唸らせた。今回、殿堂入りしたレスラーの中、ひとりだけ国際プロレス（女子部）出身という背景もあって、全女とは異なる時間を積み重ねてきた者が持つ凄みがかった光を放っていた。男の中で磨かれていく女子プロレスラーの「捨て身の野性」がビンビン伝わってくる凄玉である。

次のセレモニー・タイムに出てきたのはマッハ文朱&ビューティー・ペア。1vs2でもマッハはお構いなしに約2、3分の間でこの日いちばん輝いてみせた。デカイし、姿勢はいいし、明るいし、ハキハキしてる。隣に並んだビューティー・ペアがインタビューを受けている最中でもお構いなしに、自分の子供をリングに上げ、「マッハJr.で～す」と声高らかに紹介してみたりと、リング上でキッチリと「マッハ文朱」をアピール。ケタ違いのケレン味と、天才的なオーバーアクションは「やれ」と言われても、他の誰にも出せないマッハの味であろう。

試合後、寂しげな顔で立っていた松永会長と話をした。客の入りが芳しくなかったことを聞いてみると「お客が入らねえのが、いちばんつれえや。ギャラ払うのが大変だよ、まいったよ!」とのこと。それでも、声は元気だった。ガンバレ、会長!　（ノブ）

『骨法完成』

11/28（後楽園ホール）
日本武道傳骨法會

極私的ベストバウト

1位　高山献児対中山雄一郎
2位　小柳津弘対大原学
3位　堀辺師範の共同会見の言葉

狂ってる!

この日披露された〝骨法98手〟は、離れても組んでも倒れても全曲面で打撃がOKの競技。しかも素手で頭突きもアリ、さらに驚くことに「金的」までがアリだ。

「武道の根本は、危険とどれだけ直面していくかってことに尽きるんです! その危険な中で度胸をつけるってことなんです」

前号のインタビューで、堀辺正史師範はこう言っていた。危険な中で度胸をつけるために「金的」をブッ叩きあう?

狂ってる!

「何事にも動じない精神と、何回やられたってもう一回立ち上がるという精神さえあれば、生きていけるんですよ。だから簡単に言って、肝の力というか度胸を作るっていうことですね」

肝の力をつけるために「金的」をブッ叩きあう?

狂ってる!

95年の『UVF』では大原学がペドロ・オタービオに200発以上のマウント・パンチを食らってもタップしなかった。その大原の敗戦を境に「いままで骨法に多くのページを割きすぎてました」とある専門誌は言い放った。

こっちは正真正銘狂ってる!

生まれて初めて見た「金的全肯定試合」に、まさにド肝を抜かれながら、人が玉をド突きあってるのを見て俺は喜んでいる。

俺も狂ってる! のか?

堀辺師範が見据えているのは、「ノールールの芸術」だという。そしてそれこそが武道だと定義をしていた。

狂ってるかもしれない俺は、「ノールールの芸術」の全貌を見てみたいと思った。　（日昇）

『WORLD MEGA-BATTLE TORNAMENT 1998』

11/20（大阪府立体育会館）
RINGS

極私的ベストバウト

1位　ジャパンBvsグルジア
（田村、高阪、成瀬vs コピィロフ、ズーエフ、クレメンチェフ）

2位　グルジアvsオーストラリア
（タリエル、ザザ、アミランvs ヘイズマン、イッテンソン、ヒギンズ）

3位　滑川康仁vsリー・ハスデル

ゲーム性に富んだ国別対抗戦 リングスの新たなる〝肝〟が見たい

穴があったら入れろ！

本誌に好評連載中の人生相談で前田日明総帥がよく（でもないが）言うセリフである。その総帥の地元・大阪決戦。

総帥は当然出場しない。山本（宜）、ヤマケン、坂田もいなければ、ハンのスケジュールはOFFだ。

国別対抗戦。アルティメットからの凱旋試合となるシアトル在住、TKが目を見張る動きを見せたが、ジャパンBチームがまさかの1回戦敗退を喫してしまった。もう一つの国別対抗はグルジアvsオーストラリア。タリエルのド迫力ラッシュはこういった短時間勝負になると迫力の伝わり方が倍増する。

初めての試みとなる3vs3の国別対抗戦トーナメントは、前田総帥の「ルールというデザインによって面白いゲーム性をつける」という考えを具現化したものだろう。さすがにスピードに富んでいて、新鮮でバツグンに面白かった。

しかし、興行全体を見ると、穴がボコボコ空いている感じなのだ。欠場者が多いとかそういった理由ではない。

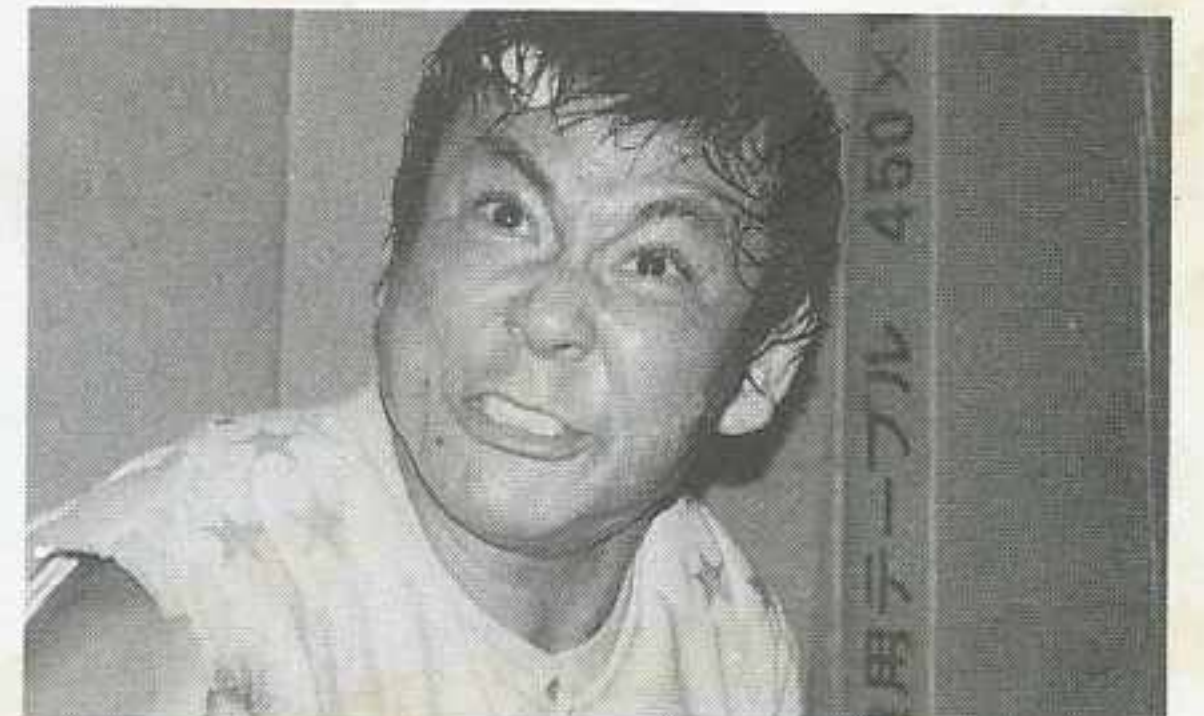
何かしら漠然とした見えない穴が空いている。

前田日明も含めて、田村、TK、ヤマケン、金原、滑川――個人個人についてはいくらでも書けるのだが、ことリングス全体のことになると筆が進まなくなってしまう。

肝だ。いまは「面白いゲーム性をつける」試合を肝として据える時期じゃない。もっと重厚な肝、つまりリングスがやるべきテーマがあるはずなのだ。

穴があったら入れろ！

見えない穴を埋めて激しく動け、リングス！

（日昇）

『ENTERTAINMENT WRESTLING SUPER LIVE』

11/20（横浜文化体育館）
FMW

極私的ベストバウト

1位　大仁田厚vs 某クラスマガジン

2位　サブゥーvsワンマン・ギャングvs金村ゆきひろ

3位　冬木弘道vsハヤブサ
（途中から見たので）

報道陣の前で行われた大仁田vs某クラスマガジン編集長!!

「撮るなぁぁぁぁー!!」某クラスマガジン（＝専門誌）の表紙になった、あの血判状を書きながら、大仁田は絶叫した。この日のメインイベントの真っ最中に、大勢の報道陣（ボクを含む）を前にして、大仁田vs某クラスマガジンの編集長戦は開戦した。

一斉にカメラマンがカメラを降ろすのにあわせて、ボクも慌てて降ろした。「アンタに恥をかかそうというわけじゃないから」と某クラスマガジンの編集長に向かって言うと、大仁田は周囲を取り囲む記者とカメラマンを見渡した。ゆっくり立ち上がると目をひんむいてビデオカメラを回していた男の前に立ちふさがった。カメラを止めるカメラマン。記者も慌てて、テレコを止める。

「止めましたよ」と、カメラを下へ向けているにも関わらず一向に立ち去ろうとしない大仁田に対してカメラマンは言った。

バチーン!!

大仁田はカメラマンの顔面を勢いよく張り飛ばした！

不良生徒をいままさに殴ろうと竹刀を構えた体育教師のように大仁田は周囲の記者の顔を見ている。見渡せば、菊池孝先生、竹内宏介先生を始めとしたビッグ・ネームに混じって、360度どこから見ても若僧なボクが、一人で浮いている。いや〜な空気が流れたが、結局、威嚇の一発はそのカメラマンだけにとどまった。

大仁田は血判状の続きを泣きながら書き始めた。某クラスマガジンの編集長は「台詞のない相手役に仕立てられた」と自身でも書いていたように、ただ大仁田の姿を見つめていた。「ケンカ覚悟で横浜に出向いた」と後で書いていたが、ケンカの前に勝負が決まってしまったというのが、ボクの感想である。

（ノブ）

『GROUND ZERO TOKYO』

11/14（日本武道館）
シュートボクシング

極私的ベストバウト

1位　京子の頑丈さ

2位　井上京子vs パリンヤー・ギアッブザバー
（試合後のコメント込み）

3位なし

SBルールの世紀の一戦！「あんなのSBじゃないですよ」（村浜）

女子プロレス創生期――松永四兄弟が、柔道の経験を生かして女子プロレスのコーチを始めた頃、選手には常にこう言い聞かせたという。

「女子とはいえプロレスラーなんだから、普通の男ぐらい倒せないとダメだよ！」

その松永兄弟のもとで育ってきた女子プロレスラー・井上京子は、「プロレスラーは強くなきゃいけないんです」といままで何度も主張してきた、女子プロレスラーとしてはかなり異色な存在だった。ボクが本誌6号で取材した際にも、「強くなくても、お客を呼べた人がいちばんだと思う」という井上貴子の発言に激怒していたのも、ボクは強烈に記憶に残っていた。

実際、ウソかマコトかわからないが新宿の路上で男をボコボコにしていたという噂もまことしやかに流れていたくらいだ。小さい頃から、父親にしごかれ、超スパルタ教育で身体を鍛え抜いてきたという井上京子のナチュラル・パワーには幻想が持てた。

そしてvsオカマ戦。体重差もあるし、最初シーザー（武志）会長が言っていた「ムエタイとプロレスの両方のいいところをいかしたルールを」と発言したが、結局大モメにもめた……。

結論から言えばルールが悪かった。寝技のないSBルールでは分が悪すぎた。プロレスラーの打たれ強さ、頑丈さは確実に見せつけたが、どうにも身も蓋もない敗戦だった。

試合後、村浜に感想を聞いた。土壇場でSBルールに落ち着いたという点について聞いたら……「あんなのシュート・ボクシングじゃないですよ」。京子は頑丈だったし、打たれ強かった。それ以上にパリンヤーが強かったということである。

（ノブ）

見えない穴を埋めて激しく動け、リングス！

（日昇）

『みちのくにまいったか!』

11／1（幕張メッセ・イベントホール）

みちのくプロレス

極私的ベストバウト

- 1位　SASUKEのちゃぶ台独り語り
- 2位　時間差バトルロイヤル
- 3位　多聞とカ・シンの立ち話盗み聞き

いや、みちのく潰したらまずいんだよ(SASUKE)

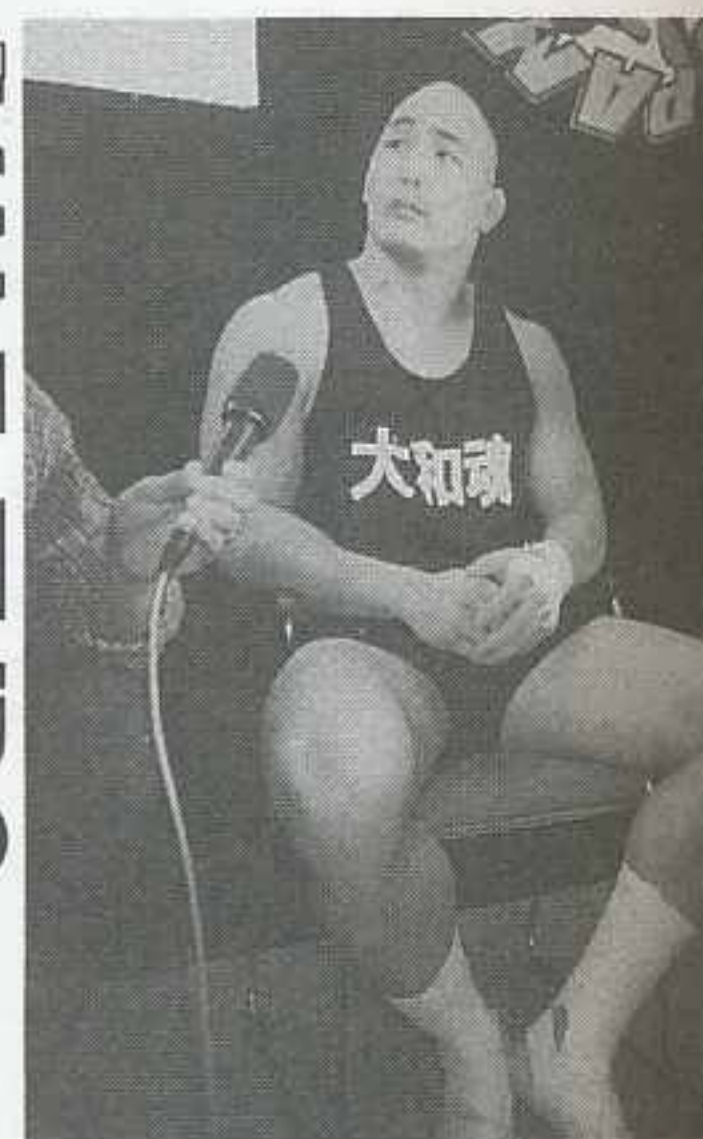
今日は誰がなんと言おうが、ＯＶＮＩ（スペイン語でＵＦＯ）の旗揚げ戦だ。誰も言わなかったら俺が言う。オブニ、オブニ！

これより1週間程前、本家ＵＦＯが離陸した。「バーリ・トゥードのプロレスはよくないネ」とエンセンはＵＦＯ批判をしていたが、確かにドン・フライやブライアン・ジョンストン、ジェラルド・ゴルドー、そしてジョー・チャールズ（おまけ）など、バーリ・トゥード界では名立たる男たちの、バーリ・トゥードとは一風変わった格闘芸術らしきモノがリング上から発進された。

ＯＶＮＩにも気が付けばＵＦＯに負けじ劣らず、ビッグネームが乗り込んだ。ゼブラ、多聞、カ・シン、花子（おばけ）。マット界では名立たる男（女）たちによる従来のプロレスとはひと味違った格闘芸術らしきモノがリング上から伝わってきた。ゴルドーがジョンストンを追いかけた。リレー少年が追いかけた。猪木が本部席に座る。ＳＡＳＵＫＥがちゃぶ台の前に座る。葉巻！ビール！　ちゃぶ台！　オブニ！　みちのくにまいったか！

フライが猪木に噛み付いた。それはバーリ・トゥードのプロレスである。デルフィン率いる選手組合組のＳＡＳＵＫＥ批判の方がよっぽどバーリ・トゥードである。ＳＡＳＵＫＥのちゃぶ台トークの方がよっぽどノールールである。宇宙人グレイの方がよっぽどＵＦＯである。誰が何と言おうが、ＯＶＮＩ最高！

この日のＯＶＮＩは「プロレスのバーリ・トゥード」であった。バーリ・トゥードの名を借りたナマの感情のブツかりあいであった。「バーリ・トゥードのプロレス」か「プロレスのバーリ・トゥード」か。どっちだっていいよ、おもしろきゃ。迷わずゆけよとばかりに、掛け持ちをしてた佐山も最高！　オブニ！

（チョロ）

『VALE TUDO JAPAN,98』

10／25（東京ベイＮＫホール）

WORLD SHOOTO

極私的ベストバウト

- 1位　エンセン井上vs ランディー・クートゥアー
- 2位　桜井速人vs セルゲイ・ヴィチコフ
- 3位　佐藤ルミナvs アンドレ・ペデネイラス

贅沢なハード面の上をいく強力で賢い野蛮な魂

エンセン井上はもちろん野蛮人である。かつてヒクソンを最も苦しめた男と言われた伝説の格闘家であり50歳のおじいちゃんでもあるズールをボコボコに殴りまくっておきながら、試合後に「今日は自分に野蛮人が足りなかった」と極めて野蛮人的発言したことでもわかる通り、エンセン井上はまぎれもなく野蛮だ。今回の興行では、選手がステージの奈落からせり上がって登場したわけだが、皆わりと淡々と上がってくる中、エンセンは下を向き片膝をついて出てきた。それだけで「かっこいいエンセン！」とか「なんか勘違いしてんじゃねぇか」とか、いろんな感情が瞬時に吹き出したんだね、こちらは。それだけじゃない。その後の『ゴン格』インタビューでは舞台に上がってくる時の心境を「エレベーターが上がる瞬間、顔も気にしたよ。みんな絶対〝エンセンがまた気合いが入りすぎてる〟と思ったから下を向いた」と答えている。気合いが入りすぎた顔をお客に見せしていらぬ心配かけないように下を向いたってことらしいのだが、その直後の発言で「あの入場曲（ハワイの歌でイデデイデデ、イデデェオーってやつ）にね、『イノウエ～、イノウエ～、ガンバッテ～』という歌詞があるよ（笑）」とダジャレか？　こう聞くと「ホントはあの時、下向いて笑ってたんじゃねぇのか？」って一瞬思いたくなる。強引？……わかってんだよ、そんなこたァ！（逆ギレ）

まぁ要するに入場で自分自身を見事に演出し、試合で凄味を見せ、試合後の誌面では自らの演出を増幅させる言葉を発することができる男だってことですよ。あれだけ充実したＶＴＪのハード面の上をいく、プロの凄味を試合後も堪能できたってことを黙っているにはチト寂しかったわけですよ。

（ブチ）

『TAKE OFF』

10／24（両国国技館）

U.F.O

極私的ベストバウト

- 1位　マーク・ホールvs ジョー・チャールズ
- 2位　初代タイガーマスクvs ケビン・ローズイヤー
- 3位　村上一成vs リー・ヤングガン

いいえ、違いま～す。真剣勝負じゃありませ～ん(佐山聡)

どうせ手が合うのは四代目と日高っちょが闘う第一試合ぐらいだと勝手に推測していたため正直言ってこれっぽっちも期待していなかったのだが、爆発的に面白すぎる素晴らしい興行であった。

緊張感がないおかげで、ビール＆菓子が異常に進む。つまりポップコーン片手に「やっちまえ～！」と叫ぶＵＦＣの客のごとく楽しめたというか、よく知らない外人同士の闘いを思い入れもなく眺めてＫ－１を楽しむ女子の気持ちが理解できたわけなのだ。

強いんだろうがよく知らない外人格闘家が外人リングアナに招き入れられて登場するため、背景もよくわからないまま試合に突入。そこで佐山が「ガチガチの真剣勝負とは全然違います」「膠着するような試合をする選手は以後リングに上げない」と公言してきた通りに膠着のない、ちょっとでも間があけばブン投げる派手な試合を繰り広げる。いわば、いい意味でゲームなのである。

特に素晴らしかったのは、この二人。浴びせ蹴りで会場を沸かせるが、いきなり戦意喪失。理由は入場早々の開脚パフォーマンスで足の筋を痛めていたためだったジョー・チャールズ（ＴＶではカット）。そしてポジション取りなどの概念を全て無にするかのごとく、佐山のヒザ十字を腕立て伏せとマットへの頭突きで脱出し、マッチョポーズを決めるケビン・ローズイヤー。「本当に強い奴がやる、危なっかしいプロレス」に心から乾杯なのである。

ついでに言えば幼児や怖い人の多い謎の客層や、猪木の挨拶の途中に入る、「オギャー、オギャー」という謎のＳＥ（赤ん坊の泣き声）にもシビレたし、「小川のフライ襲撃」「村上一成の道場破り失敗」などの映像を近藤隆夫君の解説付きで見せるＴＢＳのＴＶ版も最高だ。謎の円盤ＵＦＯに期待はするな。だけど見ろ！（豪）

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

前回、『格魂』というムックの書評でShow氏のダメ仕事っぷりを叩いたのだが、Show氏によると「『格魂』編集部は喜んでましたよ。そもそも僕を使えば書評に載るはずだって企んでいたから」とのこと。まさに完敗である。しかし、そういう情けない話を自分で伝えるShow氏って？　というわけで『格魂』の掌の上ですっかり踊らされてしまった書評コーナー。

プロレス、至近距離の真実

（ミスター高橋／講談社）

ミスター高橋
レフェリーだけが知っている表と裏
プロレス 至近距離の真実

これまでに「色が人間の運命を変える！」と主張する『幸福の守護色』や、「レスラーはいい車に乗っていい女を捕まえてビッグマネーを稼いで煙草を吸え！」と主張する『プロレスラーをめざして夢を勝ちとる方法』などをリリースしてきた新日の名レフェリー、ピーターことミスター高橋の新刊。

やっぱり**「人間には各人のパーソナリティに合った守護色がある」**だの**「ホーガンを導いた幸福の黄色いタイツ」**だのといつものように主張していたりもするんだが、この本のキモはそんなことではない。

帯に**「門外不出の掟をすべて語る」**と銘打っているだけあって、なんと今度は**「プロレス界の内部にいたら、尻込みして書けなかったようなことも勇気を出して」**書き、試合の中の**「演出」**や**「彩り」**、ついでに**「いわゆるセメント」**についても言及しまくるという**「ファンのみなさんを驚かせたり、ショックを与えるような事実もあるかもしれない」**恐るべき内容なのだ。凄え！

まあ、**「私が最終的に伝えたいのは、プロレスの素晴らしさであり、プロレスというジャンルが持っている大きな可能性」**とのことなので、まったくのノー問題。**「坂口征二最強論」**を主張するその姿勢の正しさが痛感できる、素晴らしき名著なのである。

なにしろ物騒なエピソード**「前座時代の橋本が破った厳正なる『裏のルール』」**をいきなり紹介するのだから、さすがだろう。

要するに、猪木とブッチャーのシングルマッチをリング下で見ていたヤングライオン時代の破壊王が純朴さゆえブッチャーの無法振りに激怒し、試合中だというのに裏のルールも無視して重爆キックをブチ込んでしまった、と。そのため当時マッチメイク担当だったピーターがしばらく破壊王をカードから外すこととなったのだそうだ。

そして**「長い年月が過ぎて、橋本選手が押しも押されぬトップレスラーになってから」**。破壊王は**「あのときはすいませんでした」**と、ようやくピーターに謝ってきたわけである。もしかしてそれまで何が悪いのか全く気付いていなかったのか、破壊王！

まあ、いい。破壊王はこの手の素晴らしすぎる逸話を多数持ったとんでもなく素晴らしい男であり、本書では知られざる名勝負**「ジャイアント・グスタフ対後藤達俊&橋本真也のハンディキャップ・シュートファイト（結果は試合放棄）」**についても紹介されているのだが、マニアの間では「ジャパンプロ勢がカムバックしてきたときに破壊王がヒロ斉藤をボコボコにして、指の骨をヘシ折った」ことで広く知られている。

その真相もピーターによると、**「ジャパン勢に反発していた一人の先輩が、血の気が多くて一本気な橋本選手を焚付けた」**ためであり、**「橋本選手の蹴りに、ライバル心ではなく憎しみを見た長州選手とマサ斎藤選手が、（控室で）橋本選手に厳しい制裁を加えた」**のだそうである。恐るべし、マサ！

なお、マッチメイカーの変遷といった未知の情報も満載されていて、**「蝶野選手は東京・三鷹の不良高校生上がりで、入門した日から煙草を吸っていたらしい。しかも自分が吸うだけでなく、同期の橋本選手にも煙草を教えてしまった」**などと、やっぱり煙草話を暴露するのもピーターならではだろう。

喧嘩話になっても**「道場で最悪の喧嘩師といえる奴は、サモア出身の元大相撲幕内力士、南海竜だ」**と断言し、ドラゴンボンバーズの隠し玉・南海竜幻想を膨らませてくれるから、さすがはピーター。

しかし南海竜は暴走が過ぎて、**「若手の間では『今度何かやらかしたら、みんなで潰しちまえ』ということになり、木刀まで用意」**したそうだが、**「リンチ事件勃発の直前というときに、南海竜が50ccのオートバイに無免許で乗って六本木に出かけ酒を飲み、呼び止めた警察官にオートバイを投げつける事件を起こした」**わけである。不祥事までいちいちスケールがデカいから最高だ！

これらのプロレス幻想を伝えるエピソードのみならず、プロレス史に残る出来事の裏話もピーターは次々と暴露してくれる。

それはべつに**「寛水流の道場開き」**の際、**「来賓の（ファイティング）原田さんに（寛水流の）水谷さんが対戦を迫っていた」**ことや、将軍KYワカマツが**「おい猪木、てめえの首をへし折るのに三分といらねえ。五分もあれば十分だ」**という時間軸を無視した謎のマイクアピールをしたことだけではなくて、たとえば猪木対アリ戦の場合。

なぜか**「アリやアリのバックにいたドン・キング氏と旧知の間柄」**だったというベアキャット・ライトがピーターの依頼で新日との間に入って最初に猪木戦をアリに持ちかけたから、おかげでアリが**「俺に挑戦する日本人はいないのか？」**と大口を叩いたという衝撃事実を、まずは披露してくれる。

続いて猪木対グレート・アントニオ戦の場合。**「エンペラー・ヒロヒト（昭和天皇）も、きっとオレ様に会いたいはずだ。ピーター、エンペラーを会場に招待しろ」**とバカなことを言い出したアントニオが試合中も呑気に天皇を捜し続けていたため、猪木が鉄拳制裁を加えたことも、ついでに披露。

そしてブロディ刺殺事件の場合なんて、この調子だ。**「血を流し、のたうちまわっているブロディを、周囲のレスラーたちは大笑いして見下ろしていた」**というヘヴィ極まりないことまで披露するわけなのである。

さらに**「私は自分のトレーニングを兼ねて、地元横浜でボディビルのジムを主宰するようになった。新しい格闘技の実験もしていた」**などと、伝説の格闘技・日本プロビルダーファイトのことまで披露しているから、ビルダー幻想も膨らみまくるのだ。

古代ギリシャ～ローマ時代の拳闘士風コスチューム着用、メリケンサック装備という物騒なスタイルで闘い、時間内でのギブアップ数で勝敗を決めるというパンクラチオンをヒントにした**「いうならばU系スタイルに近い」**格闘技を、なんと日本プロレス時代に生み出したピーター。そんな男の書く本が、つまらないわけもないのである。

劇画バカ一代　梶原一騎読本

（日本スポーツ新聞社）

劇画バカ一代
梶原一騎読本

ハッキリ言えば、全くお話にならない一冊である。ゴングには貴重な資料や写真が山ほどあるのに、こんなボンクラ本が誕生してしまうというのは本当に悲しい限り。

ここでインタビューされている島田十九八氏や真樹日佐夫先生、高森篤子夫人に対して、なぜか読んでるこっちが申し訳なくなってくるほどで、ぶっちゃけた話が「知らないなら作るな！」ということでしかないのだ。まあ、知らなくたって面白いものを作れるのなら一切ノー問題なんだが。

何が駄目なのかズバリ言わせていただくと、まずは冒頭の影丸譲也先生インタビューでも第一声が**「梶原先生と知り合ったのは『空手バカ一代』の仕事がきっかけだったんですか？」**だったりする底の浅さ（ボクが『マンガ地獄変』で書いた影丸&真樹先生論を読めば、二人の流れはわかるはず）。

続いての『虹を呼ぶ拳』レベルまでしか紹介しない**「必殺技大全集」**コーナー&格言コーナーの作りの緩さ（しかも「必殺技」の扉では**「えっ!?　こんな技できるわけがないって？『そんな奴は殴れ！　俺が許可する！』」**などと『マンガ地獄変』のネタを引用しているくせして、異常に底が浅すぎ）。

さらに、なぜか「やる側」に立ってしまった**「第2の梶原一騎を目指せ！　劇画作家への道」**なる章の無意味さ&中身のなさ。

『柔道讃歌』や『キックの鬼』すら持っていない男を**「日本一の梶原劇画コレクター」**として紹介する誇大表現ぶり（これより凄いのなんてボクも含めてザラにいる）。

そしてズバ抜けて無知な稲垣収とかいうインタビュアーも大問題で、村浜が**「そんなことも知らないで本を作るんですか？」**と思わず口にする気持ちも非常にわかるというか。その結果、村浜が無知なこいつに梶原末期の駄作『悪役ブルース』のあらすじを説明し続けるという無意味なインタビューになった上、そこに無意味な（ウェイターがビールを持ってくる）などの描写を折り込むから、本当に腹が立ってくるのである。

佐竹雅昭のページでも彼の大好きな傑作『カラテ地獄変』を『**空手地獄変**』と誤記していたりと、やっぱり稲垣君よりインタビューされる側の方が詳しかったりするし、ついでに言えば山田学に取材する意味もサッパリ理解できない。ここはやっぱり先生と親交のあった佐山だろ、どう考えても。

真樹先生がトップ屋をしていたことすら知らない吉倉拓見とかいうインタビュアーも同罪で、**「おい、そんなにビックリしないでくれよ（笑）」**と真樹先生に突っ込ませてしまうのだから、とんでもない。挙げ句の果てには、ジョーの幻のラスト（ジョーは試合には負けたけどケンカには勝ったという、あれ）を聞いてもビックリしていたりと、結局は下調べ不足の一言でしかないのである。

そんなの全部、斎藤貴夫先生の名著『夕焼けを見ていた男』に出てる程度のことであり、本を作るんならせめてそれぐらい読んでおくのが一般常識だと思うんだが、この製作者側はわかっちゃいないようだ。

『ハリス無段』について**「ちばてつやの『ハリスの風』ってのがありましたよね。てっきり、ちばさんが対抗して作ったと思ったら社名なんですね」**という吉倉とやらの発言にはつくづく言葉をなくしたね、ボクは。

朝潮をスポ根アニメでやる構想があったことや、正木亜都（梶原先生と真樹牧先生の合作ペンネーム）の幻の四作目『少年Aえれじい』が完成していたこと。梶原先生が『じゃりン子チエ』好きだったこと（最近、梶原先生が晩年に手掛けたギャグ漫画を発掘したボクとしては、非常に興味深い事実である）など、初めて明かされるいい情報もあるにはあるんだから本当にもったいない。

……などとボロクソに書いてしまったが、ボクが必死に集めた『一騎回想録・我が眼中の裸の男たち』という週刊ゴングの傑作連載を再録しているだけでも全部チャラだ。

猪木対力道山のセメントマッチ。幻の大日本プロレス。ブッチャー引き抜き。ウィリー戦の真実。大木金太郎対極真。ミスターXの正体。幻の三代目タイガーマスク。

そんな梶原先生の持ちネタや、**「あまり他人には明かさぬが実はジャンボ鶴田ファン」「付記すれば坂口も鶴田の次に私好み」**という衝撃発言も含む文章の独自のリズムは、何度読んでもたまらない。ついでに、これまたレアな王貞治との対談まで収録されてるから、もう文句なし。どうせなら、これだけでリリースしてほしかったものなのである。

マンガの本4

（三本美治／ミニコミ）

12号で紹介した『プロレスから学ぶ　一撃！必殺技完全マニュアル』の著者でもある漫画家の三本先生から、自作のミニコミを送っていただいた。「ファンクラブの会報を書評欄に載せる神経はマスコミとして『?・』」と『T多重ウェィブ』で『週プロ』浜部編集長は発言されていたようだが、ウォーリーでありピラニアでありヤマグチサンでもある山口雄介氏のインタビューが掲載されている上、会報ではなく単なるミニコミなので気にせず紹介させていただくとしよう。

肝心のインタビュー自体は全く噛み合ってないのだが、**「馬場さんの所でピンポン玉として働いていた」「馬場さんは俺に、毎月5万づつくれてた」「新日本でも新間のお父さんにお小遣い貰ったりもしてた」**などと金銭関係について素直にカミングアウトしてたりするのは、まさにミニコミならでは。

ついでに、ヤマグチサンの叔父が小説家・山口瞳だということや、ニュージーランドでの知られざるレスラー活動についても告白。

そして別のコーナーでは元「JJジャックスの変な髪型の方」ことノガちゃんも参戦する謎の劇団『うわの空・藤志郎一座』の詳細までわかるから、嬉しい一冊だろう。

プロレス虚泡団体の真実

（竹内宏介／日本スポーツ新聞社）

竹内さんがインディーの歴史を総括した、便利でためになる連載（週刊ゴング）の単行本化。SWS関連の記述が少ないのは残念だが、nWoを何度もNOWと誤記していたり（まあ、これは連載時からそうだったんだが）、取材協力団体に思いっきり**「バトラーズ」**と書かれていたり（正確には格闘探偵団バトラーツ）するだけでも個人的には満足である。

無冠　前田日明

（佐々木徹／集英社）

「アキラ兄さん、ちょっといい話」が毎週出てきた『週刊プレイボーイ』誌上の連載については、スタート早々に初めての国籍公式カミングアウトによって話題となったこともあるので、説明する必要もないだろう。

「ベニー・ユキーデを倒すのは俺だ」と誓ってアリの下でボクサーになるためプロレス入りしたり、10年振りに会いにきた母親を**「どのツラさげて俺に会いに来たんや！　今さら母親ヅラするつもりか！」**と怒鳴りつけ、母はショックで自殺未遂をしたりする（母親に頭が上がらなくなったのは、これが原因だろう）というヘヴィかつパワフルな人生を、キッチリ取材して描いた一冊である。

単行本版では**「田中正悟」**兄ィの名前が登場していること。そしてUWF末期にアキラ兄さんが自腹を切って払った給料を返してきたのは一人だけだったと『アウトロー』（神山典士／情報センター出版局）で書かれていたのが誰なのかわかるのもポイントだろう。おそらく山ちゃんだとボクも推測してはいたのだが、**「お金を戻してきたのは高田延彦と山崎一夫のふたりだけだった」**というように、一人増えながらもやっぱり予想は当たっていたのであった。

必殺！　プロレス激本2

（双葉社）

一号目は「表紙がダメだ！」と炎上していたターザンだったが、二号目はこれ……。しかも裏表紙なんて編集長の黒須田君と執筆チーフの須田君という、誰も興味ないブサイクなデブ二人の似顔絵なのだから、本当に不快極まりない。これがこいつらが主張する「挑発」なのか？

一号の書評ではボクもこの二人のダメっぷりについてキッチリ書かせていただいたし、読者もまた**「欠点が多すぎます」「全ライター・フリーハンデというのがあれば、皆さん30～40くらいじゃないでしょうか」**などと巻末ページで文句を言っているのだが、二号目になっても相変わらずなのである。

まあ、「太田章はプロレスとの接点もろくになければ現役の選手（＝自分の発言に自分で責任を取れる立場）でもないため、単なる別の業界の人間」というボクの批判に対して、**「前回は太田氏がどれだけプロレスを見ているのか、どれだけプロレスに関わってきたのか、まったく明らかにしないまま稿を終えてしまっていた。それは筆者の責任である」**と編集長の黒須田君が非を認めているのは、とりあえず良しとしよう。

だが、前号で「僕はプロレスラーになりたくて新日や全日に願書を出したのに、背が低くて通らなかったんですよ。ところが僕より小さくてもどんどんレスラーになって……」という理由だけでチンケなプロレス批判を繰り広げていた黒須田君が、今号では**「僕は学生プロレス経験者なのだが、どう見たって僕が学生時代にやっていたことと次元が同じレスラーがゴマンといる」**などと爆弾発言をブチかましているのは問題だ。こんな奴にプロレス批判させてちゃ駄目だろ、実際。お前が言うな！　である。

ついでに爆弾発言といえば、「（**パンクラスより）リングスの方が本気っぽい**」と太田章が言い放ってたりもするんだが、**「太田さんはプロレス好きなんです！」**とフォローする馳にボクは猪木イズムを感じたね。

プロレス界の問題点は**「新間寿がいなくなったというのも大きい」「（猪木に花束を渡させるような）礼儀の知らない奴らがやってるK・1なんてねえ！　こういうものがいつまでも陽の目を見るなんて思わないよっ！」**と、やっぱり爆弾発言をブチかます新間もいいが、なぜか本書の中で最も斬れ味のいい視点を披露しているのが、漫画家のバトルロイヤル風間氏なのであった。

カムバック以降のミスター・ライヤー、USOといった嘘つきギミックを**「みんなカムバックすると思ってたし、もう忘れてる。怒るほどには覚えちゃいない。そのことを思い出すだけでエネルギーがいる。僕が大仁田を嫌いになったのはカムバックが嘘だったからではなく、『じゃあ、お前ら嘘ついたことないのか!?』とか言ってた態度が見苦しかったから」**と斬って捨てたり、現実的なJWP改革案なども含めて、正直言って彼氏を見直させていただいたのだが、そもそもバトルロイヤル風間氏がズバ抜けて見える誌面というのも大問題なのである。

必読連載第12回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは「別れがあれば出会いもあるさ」

「なぁ石川、おまえのサインあるやろ。あれって自分で考えたんか？　それとも誰か作ってくれる人おるんか？」「自分で考えたんですけど……、どうしたんですか？」「そうか……。いや、なんでもない。ありがと、ありがと」

一週間前、「至急電話をくれ」という伝言を聞いて急いで空中さんに電話をした際に交わした会話である。話はそれだけで終わったのだが、聞いてみれば急ぐほどの内容ではなかったので、「何だったのだろう？」となんとなく不思議な感じがした。今になって思えばそれが、生前空中さんと交わした最後の会話となってしまった。まだまだ話したい事がたくさんあったのに、やっとデビューしたばかりで、もっとこれから試合を見てほしかったのに……。なにより一度も試合を裁いてもらう機会がなかったのが残念でならなかった。空中さんは、島田のレフェリーデビューと私のデビューを見届けた後、突然逝ってしまった。

ちょうど2年前タンパに滞在したあの頃と同じ季節だった。空はどこまでも広く、日差しは相変わらず強かった。マレンコ夫妻、そしてカールとの再会も心の底から喜べない。まさかこんな形で再会するなんて思いもよらなかった。教会に着くと、喪服に身を包んだ人々が集まっており、懐かしい面々と言葉を交わす。ここに空中さんがいないのがいまだに信じられない。案内に従い教会に入ると、パイプオルガンの荘厳な響きが高い天井とステンドグラスから醸し出される独特の空間を静かに満たしていた。親族席にはゴッチさんが座っており、私の姿を見つけるとそっとウインクをして寂しそうに俯いた。

参列者たちは列をつくり、祭壇に眠る空中さんに最後のお別れをした。列が進み、自分の番が近づくにつれ緊張が高まる。心のどこかに存在する「夢であってほしい」という願いが、実際に献花に囲まれて眠る空中さんの姿を目にすることによって脆くも消し去られてしまう。それが怖かった。自分の番になりお棺をのぞき込むと、そこには献花に囲まれた空中さんが静かに眠っていた。手術の際に頭髪を剃ってしまったため、頭にはバンダナが巻かれていた。「また新弟子に戻ったみたいや」手術前の空中さんはそう言って笑ったという。この土地で出会ってからの様々な思い出が胸をよぎり、涙が溢れてきた。

賛美歌に送られ、出棺の儀式によってメモリアルセレモニーに締めくくられた。次は、空中さんを乗せた車を先頭にお墓まで移動である。タンパの街をゆっくりと走行する一行を、警官が乗ったポリスカーが前へ後ろへ護送してくれる。赤信号も交差点も車の合流も、その日は全て空中さんのものだった。そして道を譲る車は皆、胸で十字をきって祈りを捧げてくれた。郊外に抜けると、美しい緑に囲まれた墓地が点在するエリアが視界に入ってきた。

鐘を携えた真っ白な塔を中心とした広大な敷地の入り口には「GARDEN OF MEMORIES（思い出の園）」と書かれていた。敷地に広がる鮮やかな芝生の緑と空の青、そして墓石の白のコントラストが目に眩しい。空中さんが眠る場所は、その美しい庭園の一角に用意されていた。皆で墓石を囲み神父様と共に祈りを捧げると、それはまるで映画のいちシーンのようであった。「どうか安らかに眠ってください。私たちは貴方に授けて頂いたものをずっと忘れずに、きっとプロレス界に名を残して見せます」そう誓い、我々はその場所をあとにした。

日本に帰ると、私にはデビュー3戦目が待っていた。そして島田裕二が正式にレフェリーとして藤原組に入社し、空中さんの代わりに外人招聘などを任されることになった。藤原組長は頼りにしていた参謀を失い、一人で藤原組を引っ張っていかねばならなくなった。

親会社のメガネスーパーや藤原組長と主力選手達との溝が深くなりはじめたのもこの頃からだったのであろうか。半年後の東京ドーム大会が終わった頃には、その溝は修復不可能なものになっていた。そして年明けを待たずに、船木誠勝さんをはじめ私以外の全ての選手が道場を出ていった。残ったのは藤原組長と私石川雄規、島田裕二、営業の川崎氏の4人だった。当時、事あるごとに聞かれたのが「どうして残ったの？」という質問。これは当たり前のようにインタビューで聞かれたが、よく考えるとこんな無意味な質問はなかった。私は普段と同じでいるだけであって、別に出て行かねばならない理由がなかっただけの事だ。それをどうしてだと聞かれても答えようがないではないか。

なんだかわからないうちに新しい仲間が集まっていった

当時まだデビュー一年目の私には、藤原組長と船木さんたちに何があったのか深いところはわからなかった。何かがあったのかもしれない、なかったのかもしれない。ただ一つ言えるのことは、当時の私にとって出ていくほどの問題、不満はなかった。それだけである。「俺たちは出て行くけど、石川はどうする？」ロッカールームで私は船木さんにそう聞かれた。私は自分の気持ちを正直に話し、残留の意志を伝えると、「そうか、わかった。頑張れよ」そう言ってくださった。別れは寂しいけれど、そういった形できちんと話をしてくれた船木さんの気持ちがとても嬉しかった。

年が明け、分裂前に決まっていた後楽園ホール大会は、藤原組長と私以外全員外人選手という大会になった。メインイベントが終わり〝最終試合〟とコールされ、私は藤原さんと特別試合をおこなった。5分ほどでギブアップを取られた後、私は再び組長に挑んで行き、特別試合はそのまま特別スパーリングとなった。何度極められても立ち上がってくる私を、組長は顔をクシャクシャにしながら何度も極めてゆく。気付くと、ホールの客席はいつしか涙に包まれていた。終了のゴングが鳴って、ベイルやシャムロックたちが私と組長を肩車してくれた。シャムロックの肩の上からリングサイドの空中さんの遺影を見たら、なんだか胸が一杯になって涙があふれてきた。

大会が終わり、ホールの駐車場に降りて行くとそこには船木勝一が立っていた。当時アニマル浜口ジムに所属していた船木との初めての出会いである。新生藤原組に入りたいと言った彼は後日あらためて道場を訪れ、正式に新弟子となった。ある日道場に細身の高校生（卒業したばかり）が漬物を手土産に入門を志願してやってきた。体重があまりにも軽いので断ったら、翌日もやってきた。仕方がないので〝諦めさせるための厳しいメニュー〟でテストをすることにしたのだが、なんと彼はそれをしっかりとこなしてしまったのだ。その男の名は小野武志。二人目の新弟子が誕生した。次に来たのが田中稔だった。私が道場に行くと、前にリーゼント系の髪型をしたツッパリ野郎系の男が待ち構えてきた（本人は否定。これは半分以上作りであると主張）。

「さっき島田さんにも言ったんですけど、ちょっと待ってろって中に入ったきり出てきてくれないんですよ」

そういう彼を連れて道場に入り、簡単なテストの後、そのまま合同練習に参加させた。以前テストを受けにきた際体重を増やしてこいと言われ、無理に増やして来た彼はスタミナがなかった。現在の彼のシェイプアップボディーしか知らない人は想像できないかもしれないが、当時はムチムチボディーだったのだ。なんとか練習についてきた彼だったがついに限界を迎え、嘔吐してしまった。「あの人、続くんでしょうか？」そう言って武志はそれをモップで片付けをした。

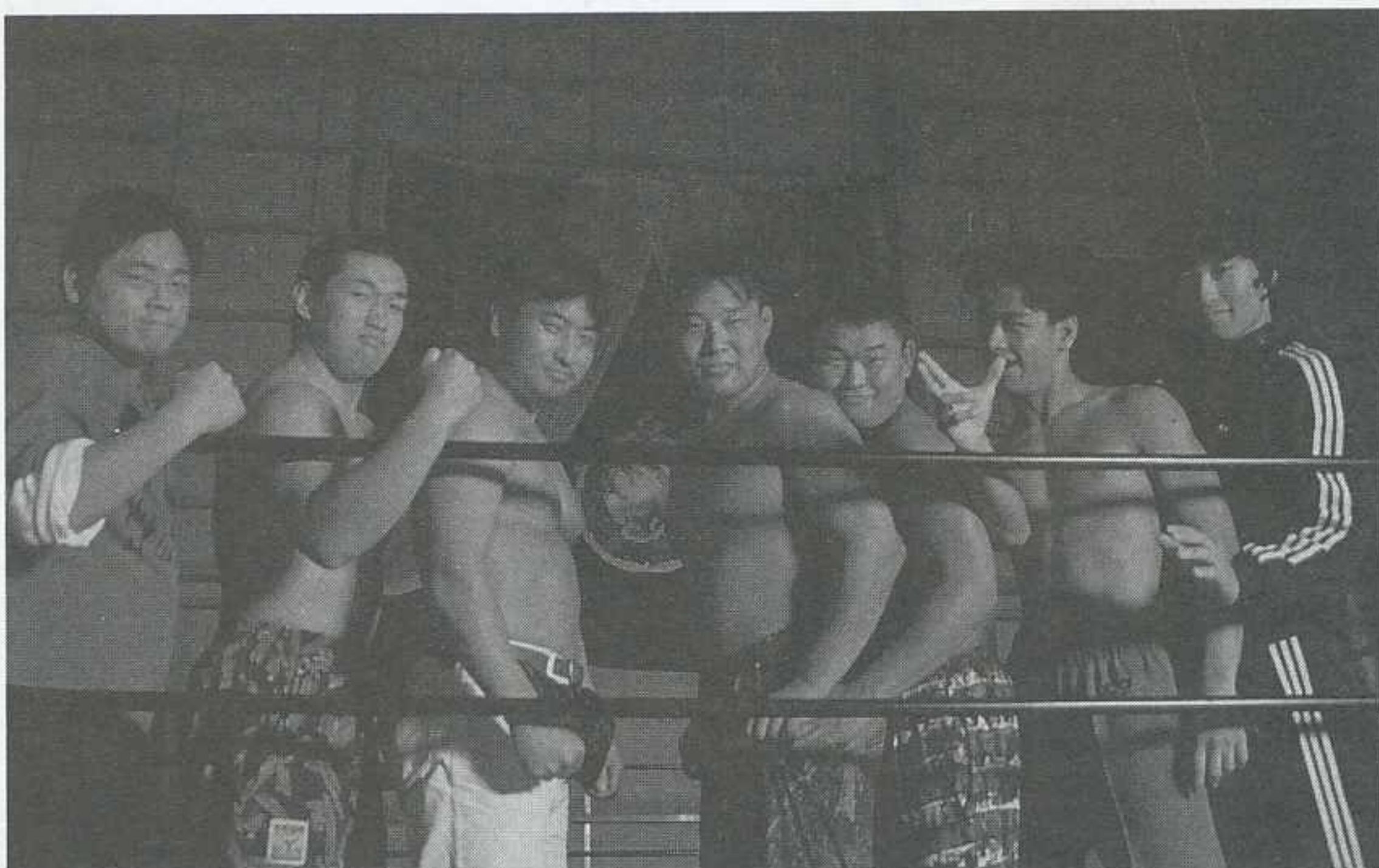
トーア杯に参戦した際に再会した臼田勝美は、組長も彼のことを覚えていたこともあって、即戦力として入門することになった。私がテストで落とした小坪弘良（現・フリー）などは、「帰る前に組長に挨拶をしていけ」と言ったら、「今日からお世話になります！」と挨拶をして、組長の勘違いを誘ってちゃっかり入門にこぎつけたりしていた。池田大輔は知らない間に入門していたし、なんだかわからないうちに新しい仲間が集まっていった。

（つづく）

最強最後のレスラー降臨!!

本格格闘プロレス小説

無比人

Mubito

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン

Illustration/中川雅博

天性の格闘センスを持つ男、万無比人。その素質をいち早く見抜き、マット界へと引きずり込んだのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。異種格闘技戦路線を突き進む無比人のもとに、一枚の果たし状が送られてきた。差出人は的場毅一郎率いる的場塾塾生有志からであった。黒豹のマスクを被った無比人は、物の十分もしないうちに三十人余りもの塾生を残らず倒してのけたのである。無比人はそのマスクを被り、ダーク・ジャガーとしてのデビュー戦を迎えた。結果は悪役としては栄えある反則負けであった。

(30)

3R開始のゴングが鳴った。

青コーナーから大塚が放たれた矢にも似て、一直線にリング中央へ。

対する赤コーナーのファスは、しかし椅子に肩を落として坐り込んだまま起ってくるぶりとてない。レフェリーが、促すジェスチャーを示すとともに高声を張ったが、それでも身じろぎしなかった。

白衣の医師がコーナーへ上がり、ファスの顎に手を触れ顔を仰向かせた。ドクターチェックを経て、リング内へセコンドからタオルが投ぜられた。

ファスが試合放棄したとの場内アナウンスが追って流れ、ここに大塚の2RTKO勝ちが動かぬものとなった。

十月十一日、東京ドームでのプライド4(フォー)。メーンイベントは言わずと知れたヒクソン・グレイシーと高田延彦の再戦であるが、都合八試合が組まれたうちの五試合までを消化した時点で、四万近い大観衆を呑み込んだドームは半ば眠ったような状態にあった。

それほどにどの試合も盛り上がりに欠けていたのが、そうして迎えたマルコ・ファス対アレクサンダー大塚の第六戦。1Rこそマウントを取られ苦戦を強いられたものの、2Rには大塚の方も捨て身の反撃に出て血を噴いたファスの顔がオーロラビジョンに映し出された瞬間、一転して熱狂の坩堝(るつぼ)と化した。

そしてそれだけに止まらず、大塚がファスをTKOに下したのだ。ファスといえば第七回アルティメット大会の覇者であり、大塚はプロレスのインディーズにあっても弱小な格闘探偵団バトラーツ所属の新鋭。大番狂わせに満場は総立ちとなり、リング上で勝利のVサインを極(き)めるプロレス界の新たなる救世主へ惜しみない拍手を送るのであった。

この歴史的ともいうべき場面(シーン)を、千堂は、VIPルームのテレビで見やりつつ苦いものが胸中に広がるのを抑えかねていた。バーリ・トゥード大会『ザ・U—ジャパン』で、かのビガロをはじめとするプロレス勢がキモ以下のアルティメッターらにいいように翻弄され、さらにまた丁度一年前のドーム初対決で最後の切り札である高田がヒクソンに一蹴されるなどもして久しく冬の時代にあったのが、ここでその宿敵バーリ・トゥード有数の実力者を破ってのニュー・ヒーロー誕生はプロレス専門誌『四角いジャングル』発行人としては慶賀すべきだが、大塚の役どころをもし無比人がこなしてくれていたなら……。

VIPルームはドーム三階部分のスタンド沿いにぐるり半円を描く形に配されており、その一つに千堂といるのは真澄、無比人、徳永を含む社の編集スタッフ三名。豪華なソファ・セットがあって料理なども用意され、そこで飲食をしながら実況放送が愉しめるが、各室には専用のスタンドも付いていて、そちらへ出て直に観戦してもよかった。

第六試合が終了した折、テレビの前に腰を落ち着けているのは千堂と真澄だけで、無比人たち四人はスタンドへ出ていた。一年前にも千堂は招待されて無比人を誘い、ほかに用事があるとのことで同道はならなかったが、それが今回、高田のリベンジ・マッチを見てやるかと彼の方から言い出した。そこで主催者側に断りを入れたところ、定員八名のVIPルームを一室『四角いジャングル』社用として使わせてもらえることになり、それならばと徳永にも声をかけ総勢六人で出かけてきたのである。

「あのマルコ・ファスって選手、路上の王なる通り名があるとパンフレットに紹介されていたけれど、ねえ、どういう意味なのかしら、路上の王とは」

憔悴しきった模様でコーナーの椅子を動こうとしない画面のファスへ目を向けたまま、思い出したように真澄が言った。

千堂も改めて視線をそそぎ、

「路上——つまりストリートマッチのキングってことじゃないのかな。プロ・デビュー前はそっちの方で鳴らしていた、と。彼もヒクソンと同じブラジルの選手だが、そのヒクソンが対戦を避けてきたとも言われているほどだし、それくらいの前歴があっ

巨匠入魂 第13回 真樹日佐夫

本格格闘プロレス小説 無比人

ても不思議はないのでは」

「なるほど、路上の対決の王、即ち喧嘩無敵だったというわけね。それが日本でもまだ無名に近い相手に血だらけにされてしまい、まるで襤褸雑巾……哀れを催すというか、なんというか」

「ファスは今回、膝に故障を抱えて練習も儘ならなかったとの情報もあり、これを彼の地力と視るのはどうかと思うが」

「自慢の鼻をへし折られて――ねえ、見様によってはなんだかとてもエロチックじゃないこと？」

　周りに人がいないのを幸いとばかりに、あからさまに真澄は流し目を使った。

「さて」

「似た光景を前にもどこかで見たことがあるんじゃなくって？」

　そこまで言われて、千堂にもぴんとくるものがあった。

（あの夜の氷見子のことを言ってる……）

　真澄の三十八歳の誕生日の夜、正確には翌未明、絹子も加え三人して手ぐすね引いて待つ千堂のマンションへ氷見子は四時を少し過ぎてやってきた。

　そのとき居間には千堂一人がリキといて、女二人はベッドを置いた隣室にて待機させていた。

――靴はあったけど、氏家は、真澄はどこなのさ。

　居間へ通るなり氷見子は不興げに言った。立ったままだ。期待の程が窺い知れ、わけもなく千堂は胸が高鳴った。

――ベッドで横にならせているの。眠いと言うもので。

　リキをソファの脇の寝箱へと追いながら用意の科白を口にのぼせると、氷見子は機嫌を直した様子で踵を回した。絹子の履物は千堂が指示し、下駄箱にしまわせていた。

　隣室で真澄と絹子は、ベッドの縁に肩を並べて坐ったまま氷見子を迎えた。そこは書斎を兼ねており、ほかに机と椅子、本棚、パソコンにファクシミリ。

――ご免なさいね、横になっていなくて。紹介させていただくわ。こちら、わたくしの親友の芳賀絹子さん。

――初めまして、芳賀でございます。小さな食品会社をなんとか切り盛りしてやっておりますの。あなたのお噂は、真澄さんよりかねがね。

　小馬鹿にしたような二人の口上に、氷見子は一歩を踏み入れたところで眉を寄せ加減に立ち尽くしたが、束の間、

――三人揃って面倒を見てもらいたいと、そういうことなのかい。

と表情を繕いつつ応じた。

――そう、4Pプレーをお願いしたくって。

　真澄が言い、絹子と顔を見合って微笑みを交わした。

　氷見子は、ふとまた訝るごとくに眉を寄せて、

――でも、だったらなぜ靴を隠す必要が。

――だから4Pプレーがしたいって言ってるじゃないの。

と俄かに蓮っ葉な口付きに変じて言いかぶせると、やおら真澄は腰を上げた。わざとのようにゆっくり歩を進めた。

　それでもなお、氷見子はどうにも信じかねるといった面持ちのうちに、

――まさか、おまえたち……。

――そのまさかよぅ。おつむの巡りの悪いこと。

と笑みを絶やさずに真澄。

――このわたしに指一本でも触れてご覧、只じゃすまないから！

　反射的に氷見子は身構え、提げていた広口のショルダーバッグから一本鞭を掴み出そうとした。

　おっつかっつに真澄の平手打ちが飛んだ。

――いつまでも女王さま面をしてるんじゃないよ！

　頬への一撃は小気味よい音を立て、氷見子の躰は捻じれたような格好で腰から沈ん

だ。尻餅を突き、その拍子にロングの巻きスカートの裾が大きく割れた。下に着込んだ女王さまルックの下肢が、いとも無防備な感じで露わにされた。

千堂はドアが開いたままの戸口の手前に佇み、息詰まる思いで見守っていたが、この瞬間、自身の裡に勝手に構築した妄念の塔が音を立てて崩れ落ちるのを感じた。同時にまた真澄の平手打ちの烈しさに、氷見子との関係については疾うに察していたに違いない、そこのところも改めて悟り知らされたことであった。

真澄は床に落ちたバッグへ手を伸べ、鞭を抜き出すとそれを氷見子へ向けて、

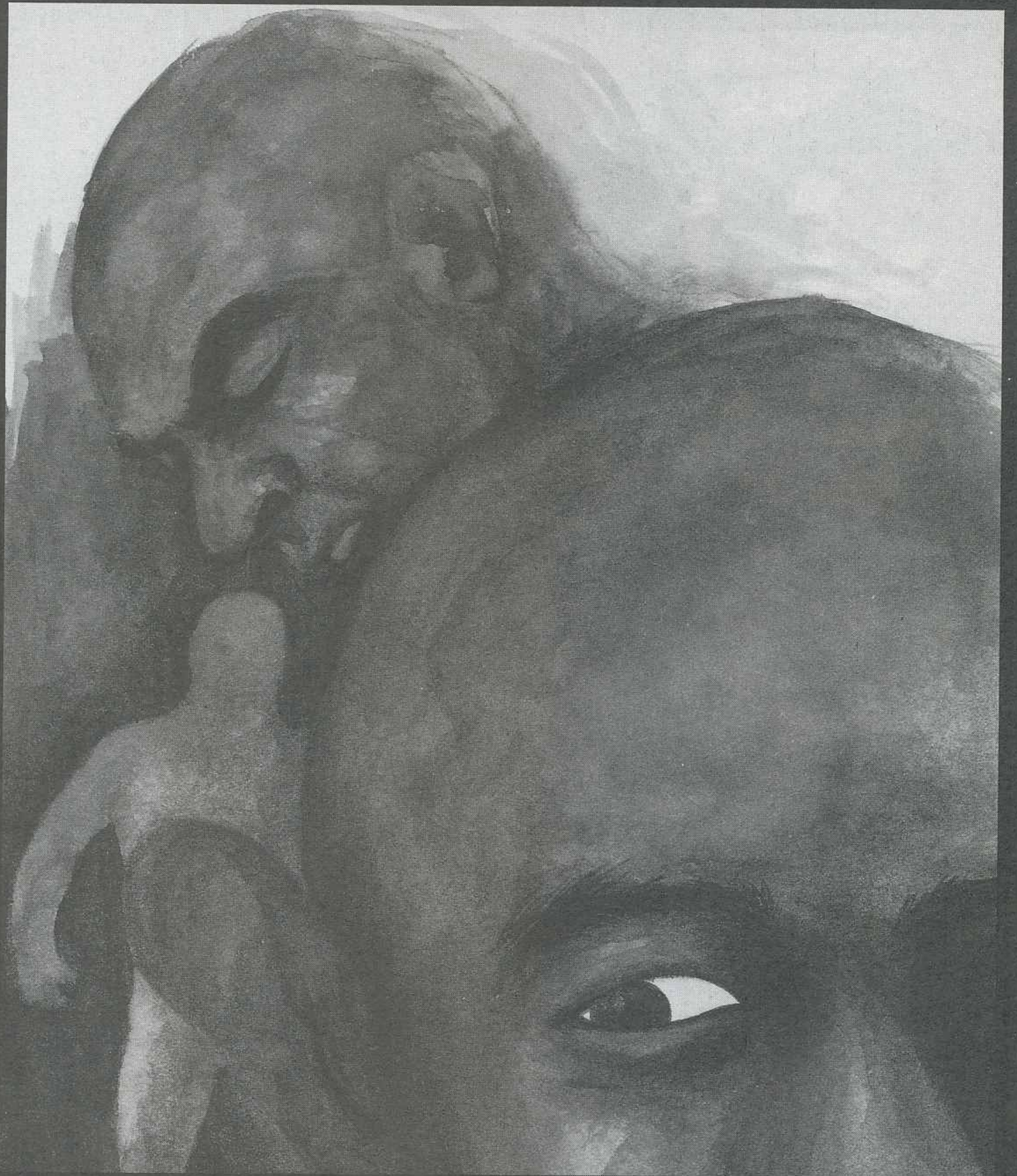
——這ってベッドへお行き！

——誰が、そんな！

氷見子は打たれた頬を手で押さえ、半身を起こした。途中に振り返って千堂を一瞥。双眸に瞋恚が滲んでいた。這う代わりに、どんと胡坐をかいた。

——打たれ足りないということなのね、要するに。

真澄は言うと、空いた方の手でいきなり氷見子の短い髪を鷲掴みにした。

——馬鹿！　放せ、放せったら！

——駄目。這うのよ、犬のように。

真澄はハイヒールを履けば一メートル八十の千堂と同等の上背があり、小柄な氷見子とは大人と子供だ。必死に抗ったが、力負けしてか犬の歩行を余儀なくされた。

ベッドの際までくると、そこからは絹子も手を藉し抱え上げて俯せに氷見子を引き据えた。スカートはすでに取れてしまっている。絹子が首根っこを押さえたところで、真澄がビニールのコスチュームを脱がせにかかる。予め役割分担を決めていたわけでもないのに、と見ていて千堂は、その水の流れのような事の運びように舌を巻かずにはおれなかった。絹子のところで3Pプレーを重ねたことが役立っているのでは、とも思われた。

——死んでやる！　死んでやるから！

氷見子は余力のありったけを振り絞るかのように四肢をばたつかせたが、絹子も真澄同様に大柄な上、肉付きの方も尋常一様ではない。因幡の白兎にも似て全裸に剥かれ、造物主の傑作といっても過言ではない小振りで形よく引き締まったヒップに一本鞭の打擲を受ける羽目となったのだ。

結局、腰も抜けんばかりにしばかれて泣きが入り、その後に裸になった二人にレズのテクニックで攻められて喜悦の声を上げさせられる始末。そこで、真澄に、

——ご主人さま、そろそろ箸をお付け遊ばせ。

と促されて千堂も服を脱ぎ、ぐったりした氷見子の足許へ回ると無惨に蚯蚓腫れの走る臀部を抱え込んだ。猛り立つ一物を深く埋めた。脱け殻も同然、真性であるはずのSの女王さまの変わり果てた姿に梶を破壊し尽くした光景を重ね合わせ、頭がくらくらした。無比人のことも胸をよぎった——。

巨匠入魂 第13回

真樹日佐夫

本格格闘プロレス小説

無比人

続いて真澄と絹子にもバッグにあったペニスバンドを着けて氷見子を犯させ、さらにアヌスを奪い、息も絶え絶えの彼女をベッドの下に転がして置いて二人を抱いたのだった、と思い返すうち、スタンドとの境のガラス戸が開いて無比人が入来。千堂は、

「きみ、アレクをどう視る？」

と水を向けてみた。

無比人は、しかし耳にないかのようにソファの方を顧みることもしないまま、そそくさと通路側のドアを押して出て行った。

トイレかと千堂は思ったが、次の第七試合、ウゴ・デュアルチ対マーク・ケアー戦がはじまっても戻らなかった。

（31）

十一月に入っても暖かい日が続いた。

高田がヒクソンに屈辱の連敗を喫して丸一ヵ月が経った十日の夜、千堂が社に一人居残って署名原稿に取り組んでいると電話が鳴った。十一時を少し回っていた。

「よかった。携帯の方が繋がらないんで、いなかったらどうしようかと――」

氷見子だった。受話器の底に男女の声が入り交じって流れており、店からと思われた。

「仕事中は携帯は切っていることが多いんだ。なにか？」

「無比人よ、彼が」

「万がどうかしたのか」

「少し前にふらりと現れて、いま帰ったとこなんだけど、どうも様子が変なの」

「変って、どんなふうに」

「店の経営が軌道に乗ってよかったな、これでなにがあろうとにかく食っていけるよなとか、いろんな面で支えになってくれて感謝しているだとか――。なんだか、それとなく別れを告げにきたみたいで、送り出した途端に気になっちゃって」

「別れねえ……。ほかにはなにか言ってなかったか」

「うん、そう、ヒクソン、ヒクソン・グレイシー」

「ヒクソン？　ヒクソンのことをどう――」

「あいつは旅先で街中にいるときでも夜晩くランニングするのが好きだって、どうせなら朝走りゃいいものを、馬鹿だよな、車の排気ガスが充満してるときをわざわざ選ぶなんて、というような」

「わかった、とにかく捜してみる。行き合えたら電話するから、余り心配しなさんな」

そう言って電話を切ると、千堂は仕事を中断することにして社を出、駐車場へ行ってワンボックス・カーに乗り込んだ。

ヒクソンの名前が出たところで、閃くものがあった。氷見子は4Pプレーの最後に、全裸のまま部屋から閉め出すと威されて涙ながらに赦しを乞い、千堂をSMの世界へ引っ張り込んだのは無比人の意向ではなく、自家薬籠中のものとした方がなにかと好都合なのではとのマネージャーの一存でと告白していたが、その無比人が氷見子のところへ寄り別れを告げにきたとなれば、ヒクソンとのストリートマッチを念頭に置いてのこと、それ以外には考えられない。

ヒクソンがCM撮影のために来日し、都内のホテルに滞在中であることは千堂の耳にも入っていた。

（ドームで彼はメーンイベントの直前になってやっと戻り、急に腹具合が可笑しくなってと言い訳していたが、あそこでもヒクソンに場外勝負を仕掛けようとしてチャンスが得られなかったのでは……。低迷するプロレスの救い主たらんとし、大塚に先を越されかねない展開となってきたことで尻に火が、ということではないのか）

九十分後、千堂の姿は千代田区内の公園の樹間に見られた。

木立沿いに周回コースが設けられ、そこを広い肩幅の男が月光を浴びて揺るぎない走法でやってくる。ヒクソンだ。少し後方、追い上げるがごとく急ピッチで無比人が続く。

〈以下次号〉

ハガキ道場

POST CARD
151-0051
渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
（株）ダブルクロス
ハガキ道場行

ハガキ道場
SAKAI NOBU

イエ～イ！　ボク最近、失敗ばっかりしてま～す。会社に入って早二年。ブクブクと太り続け、55kgだった体重が、ついに70kg突破しちゃいました。夢の80kgに向けてバク進します！　ハァ～、デブはつらいっスね。動きは鈍るし、やる気は落ちるし、気分も何だか屈折してきたし……楽して10キロ痩せる方法があったら教えてください。

代表＝SAKAI NOBU

（山口県　つらいんだ・18歳・男）5点
きめ細かな色使い！　文句なし！　圧倒的な質！　怒涛の迫力！　お前、一体何者だ？　というか、いつもの山口県・18歳なんだけど、強すぎる！　お絵かき道場王を襲名です。

（大阪府　英加直純・男）
5点
版画です。今回はみんなレベル高いよ、特にあなた。

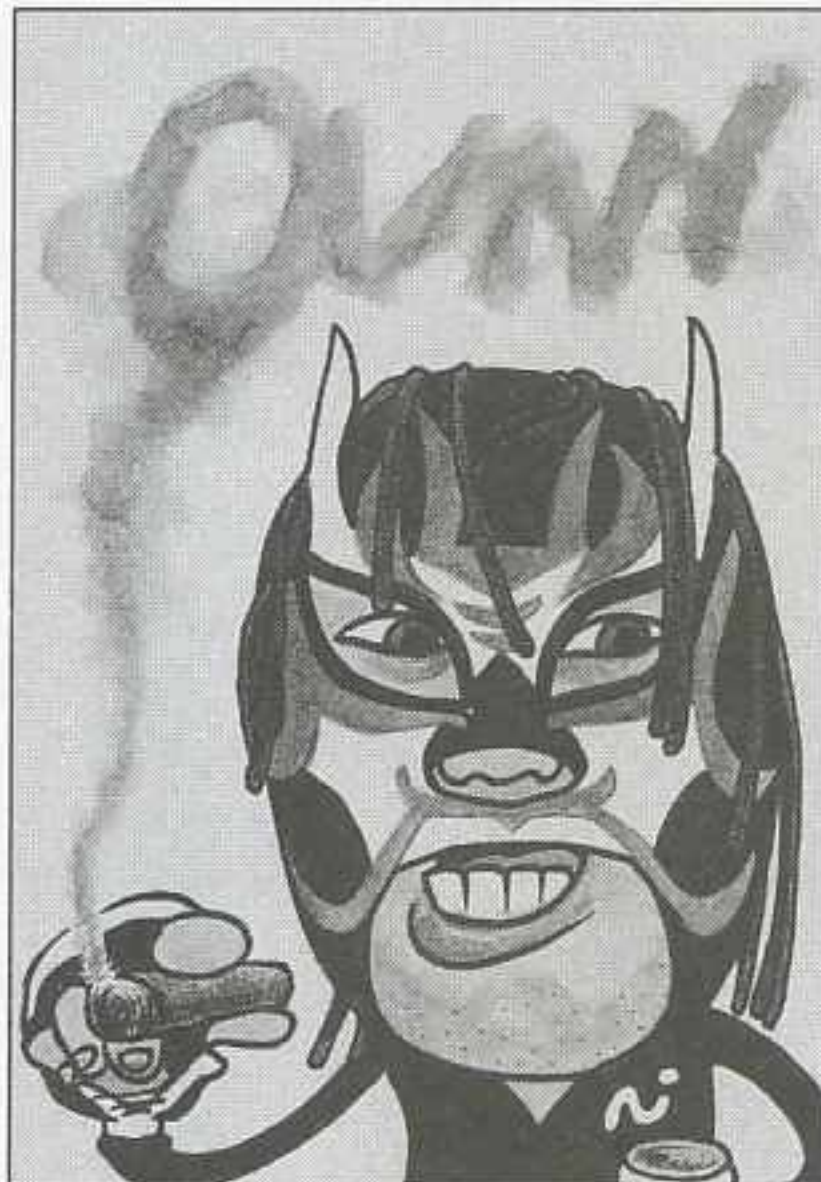
（東京都　松尾信明・男）
5点
これは今号のスマッシュ・ヒット作。

（埼玉県　中川雅博・21歳・男）4点
1、2年前の『ボム』やら『マガジン・ウォー』を見てると中川画伯のイラストを発掘できます。

（岐阜県　今井麻美・22歳・女）4点
かわいいんだ、愛ちゃん!!　あのホッペは天下捕れるよ、絶対!!

アレクサンダー大塚インタビューは痛快だった！　アレクを知らなかったんだけど、『PRIDE.4』を見て一気にファンになっちゃいました！
（東京都　ワンダボ・女・15歳）
2点
☆若い女の子から、56歳のお年寄りまで、とにかくアレクが大人気！　ブッちぎりで人気NO.1でした。今年のMVP決定だ!!

アレクのインタビューが凄い！　島田レフェリーとアレクの本音がここまで爆発するのは『紙プロ』だけ!!
（秋田県　打矢鉄山・男・28歳）
2点

☆石川社長の『闘いの美術館』が読めるのは『RADICAL』だけ!!　真樹先生の『無比人』も本誌でしか読めません！　どっちも必読！

前号はもう最高!!　殆ど素晴らしかったのですが、その中から涙ながらに良かったものを選ぶとすると『アレク・インタビュー』は行間が「ザマアミロ！」の空気でギュウギュウだった。両国行くぞ!!　一番安い席ですけどね……泣。
（江戸川区　佐藤耳男・男・20歳）
4点
☆安くたっていいんだよ、足を運ぶことがいいんです！　ところで紙プロTシャツ買った？

最初のアレクの記事とザマアミロ座談会は素晴らしかった！　格闘技側の見方のアホさ加減をよくぞいってくれた、評価できるよ。
（富山県　西村重徳・男・22歳）
5点
☆あんまり他人のことをアホとかデブとか言っちゃいけねえんです！　ボクも耳と心が痛くて、腹が減ります。

13号のインタビューで島田さんの面白い人間性とプロらしさ、そして10・11の舞台ウラを垣間みました。
（東京都　超過激なオジン・男・

【ルール】
私SAKAI NOBUが道場主を務める投稿コーナー『ハガキ道場』では、世界に通用するハガキファイターを育てるべく、みなさんに頑張って頂きます。当然、ハガキファイターもランク分けします。毎号、面白いハガキを書いてきた人に段位をさしあげます。
●採用されたハガキには、面白さに合わせて1～5点差し上げます。どんどんポイントを取って段位を上げましょう。
▽そこそこ面白い人＝キッズ・ファイター
▽けっこう面白い人＝シニア・ファイター
▽めちゃんこ面白い人＝プロフェッショナル・ファイターとなります。
●それぞれ採用されると
◇キッズ・ファイターにはそこそこいい粗品
◇シニア・ファイターにはけっこういい粗品
◇プロフェッショナル・ファイターには超豪華粗品を進呈します。

<ハガキ道場システムチャート>

つまらない ━━━▶ おもしろい

呼び方	キッズファイター	シニアファイター	プロフェッショナルファイター
賞品	イージーな粗品	ワンダフルな粗品	トレビア～ンな粗品
昇段資格	✕	20点以上	40点以上

ハガキ道場

SAKAI NOBU

40歳） 5点

☆バトラーツ快進撃の原動力・ミスター島田のインタビューも大好評。それよりもキミはペンネームをどうにかしなさい。

「チッ！」とか「んむはぁ」とか「コッ」とか「ぷぁ～」って、バトラーツで流行ってるんですか？ 実際に言ってみたけど、ちょっと難しいです。もっと簡単な口癖を流行らせてください。

（鳥取県　ギガンテス・男・17歳）4点

☆っつうか、これは全部、隠語だから。意味？ それは言えな……ハッ、ハッ、ハッ、ハドドゥッ!! これも隠語だから。「お前、処女じゃないだろう！」っていう意味なんだ。忘れてください。

月刊にしてください。多少の値上げは無職のボクでも受け入れます。もう失業保険でイメクラに行きませんから！

（東京都　伊藤健太郎・男・24歳）5点

☆無職バンザイ！ イメクラ行く金があったら20冊まとめて買え。誰も怒んねえから。イメクラ行く金があるんだったら、値上げするぞ！ ちなみにイメクラ「ジャイ子」なら交渉次第でタダでもOK？ ジャイ子に聞いてみて。

リッキー・フジのインタビューを読んで「プロレス＝お客を楽しませること」という単純な定義で、プロレスにおける最強論に頭を悩ませていた私の目からウロコが全部落ちた。

（福島県　川崎新太郎・男・24歳）1点

☆個人的には楽しきゃOK！ 最近、某TV局の人に「プロレスって宗教だと思うんですよ」と言われました。

骨法バンザイ！ 堀辺師範の話はやっぱり面白いね。そういえば昔、ガードポジションを取った大原に対し、小柳津が上から「金的、金的い！」とか言いながら金的攻撃を繰り出していたのを思い出した。

（静岡県　伊藤勇希・男・？歳）4点

☆永い沈黙を破ってついに骨法が浮上してきた！ 現代人が忘れかけている武道心を思い出させてくれる存在ですね。プロレスファンも要チェックだ！

平成新日が嫌いな私は、少し古い話ですが4・4イノキドームのとき、アンケートで闘魂SHOPについて要望を一言というところに「倒産しろ！」と書いたのに入会案内が送られてきた。さすが新日は懐が深いと改めて感心した。

（東京都　豊島雄二郎・男・24歳）5点

☆懐深すぎですよ。今度、自社ビルが建つらしいからね。大仁田がリングに上がっちゃうんだから、そりゃ深いよ。個人的には全日の三沢革命も、かなりおもしれえ！

極めの技術はわかりませんが、レスリングの技術は間違いなく一級品の谷津ならば、ポジション取って殴れば勝ててしまう競技に出れば十分に勝てると思う。

（東京都　三村幸治・男・28歳）5点

☆谷津の毒舌マット界時評『目ぇつぶって30秒』が読めるのは本誌だけ！ どこにも出来ないよ、あの企画は。谷津も来年は打って出るらしいから、ますます目が離せないっスよ。ついに重鎮、出撃か!? ってどこに？

今回も高田はヒクソンに敗れたが、内容があったからOK。でも、もし3回目があるならば必ず勝って欲しい。

（京都府　G・I・ANT・BAPA・男・38歳）4点

高田のインタビューつまらん。かってにしろ、さわやかヤロー!!

（東京都　小林紀博・男・33歳）4点

☆というわけで、高田へのご意見二連発でお届け！ とても載せられない罵詈雑言から、熱い応援メッセージまで、他にもいろんな意見は来てましたよ。高田vsヒクソンの「三度目」を単純に見てえのか、見たくねえのかを調査したのが左のグラフ。

激突 RADICAL版 カウントアップ・グル～ヴ

カウント4.5！ 反則ギリギリRADICALランキング

高田vsヒクソン、3度目は見たい？ 見たくない？

見たい 105票

見たくない 78票

再戦支持派が上回った!! やっぱり見たいよね。じゃあ、見たくない派の人はどうかと言うとエンセンや日明兄さんの対戦も見たいとのこと。誰でもいいからヒクソンに「10年早いんだよ!!」って言ってください。

（熊本県　塩本祐介・33歳・男）5点
数少ない小さい「紙プロ」時代からの常連さん、ベテラン健在って感じですね。

（愛知県　キャプテン名倉・29歳・男）4点
相変わらずいい味出してるキャプテン。しかし、アレクは絵になるレスラーだと痛感します。

（大阪府　佐々喜章・20歳・男）2点
WWFがヒクソンを引っ張りあげたら最高なんだけどね。来年のWWFは楽しみ～。

（北海道　三路徹・男）4点
バト両国成功記念の4コマ漫画。いいね、4コマ!! どんどん送って!!

（熊本県　塩本祐介・33歳・男）5点
マスコミ人2連発の塩本。どこまでもこの路線でつっぱしってください。

（三重県　アスキム宮田・24歳・男）3点
もっとオリジナルの作風を出しましょう。素晴らしいですけどね。

（岡山県　宮崎亮・14歳・男）3点
力の抜けた切ったナイス・イラスト。大好きです、手抜き感覚。

Le salon de «Coutchy guènqu'à...»

サロン・ド・口(くち)ゲンカ

前号の『おたよりさせてよ』に掲載した『紙プロ』批判のお便りはじつに衝笑撃的だったね! 鈴木靖隆さん（掲載時は「鈴木靖」になってました。ごめんなさい）のハガキに賛同、異論、反論、便乗、その他諸々……とにかくいろんなリアクションがあってプチ論争が巻き起こってます。そんだったら、読者のみなさんには思う存分やり合ってもらおうじゃねえかというわけで、今月から素人参加型口(くち)ゲンカコーナーが新発進します!!

☆小橋、三沢、秋山、川田以外は一生懸命やってねえのか? ボクらが大好きな田上の立場は? という素朴な疑問もあるが、そんなことはどうだっていいじゃねえか! まずは殿堂入りを果たしたライティング・クィーン武田いづみちゃんの反論だ!

千葉県　武田いづみ（18歳）♀5点

怒ってるんですからぁー。作文書いてる女子高生ってあたしのこと? 他人様の御息女つかまえて「歪んだ考えになってる」なんて失礼しちゃう。「前回と今回の作文でもよく分かります」だなんて、ますます失礼しちゃう。乙女心をそんなに簡単にわかられてたまるかっつうの。歪んできているというのはたぶん間違いです。私はNBA（ナチュラル・ボーン・あまのじゃく）なんです。お母さんも「始めから歪んでるよ」って言ってるもん。でも、実の娘に言うなよ、そういうことを。

きっと鈴木靖隆氏（25歳）と『紙プロ』は純粋さの向きが違うんです。ひねくれてるとか言っちゃダメ。なんでも自分の物差しに合うわけじゃないんです。『紙プロ』に対して金払って雑誌を買ったわけですから文句を付ける権利はあるかもしれないけど、他の読者を「曲がったファン」呼ばわりするのはどうかな? その上、あたしは「歪んだ考え」らしいし。傷ついちゃった。でも、「買わなければよかった」ってところが、「出逢わなければよかった」とタメ息をつく女のようで色っぽいから許します。

兵庫県　井村哲弘（33歳）♂5点

『おたよりさせてよ』の鈴木靖隆さんのハガキに惚れさせていただきました。混沌に慣れていた私たち読者も認識を新たにして『紙プロ』と付き合っていきたいと考えさせられました。

熊本県　塩本祐介（33歳）♂4点

今号はあまりにもおもしろすぎます。内容も濃いが、それ以上に『PRIDE.4関連の企画』あれは何ですか? おもしろいのもいい加減にしてください。読者を楽しませ過ぎです。安っちゃんとコンちゃんをバカにして、ふざけるアントンファンの作った、ちんちんの曲がったファン向け雑誌だとよくわかりました。もう1冊買えばよかった。当てる気もないんでしょうが、一応「ハンセンとブロディ」もとい「格闘王・前田日明1&2」希望。ダメなら雑誌代を返してもらって、バトラーツに寄付したいぐらいです。

これが話題のおハガキだぁ~!!

鈴木靖隆（25歳）

今号（12号）はあまりにもひどすぎます。内容も薄いが、それ以上に「人参ジュース」（中村カタブツ君がA・猪木にならい人参ジュースをジョッキ6杯飲み干して、その滋養強壮効果を検証した）の企画。あれは何ですか? 読者を軽く見過ぎです。ふざけるのもいい加減にしてください。プロレスへの愛なんてない、プロレスをバカにして、ふざける、ひねくれたプロレスファンの作った曲がったファン向けの雑誌だとよく分かりました。買わなければよかった。みなさんの売り込んでいる高校生の女の子も悪影響を受けて、徐々に歪んだ考えになっているのが前回と今回の作文でもよく分かります。ふざけた雑誌作りをするのはやめてください。プロレスを侮辱しているようにとられてもおかしくないし、一生懸命やっている人たちに失礼です。真剣に取り組んでいる全日の小橋選手や三沢、秋山、川田選手に取材して少し感銘を受けたらよいのではないですか。それと自分たちの嫌な文章は載せないし、当てる気もないんでしょうが、一応『ハンセンとブロディのTシャツ』希望。ダメなら雑誌代返してほしいぐらいです。

☆というわけで、『紙プロ』へのお叱りのハガキでもいいし、ここに載ってる人への反論でもいいんで生の感情をぶつけてください。ようするに、「ケンカ、売ります&買います」のコーナーなんで、お気軽にどうぞっ!!

茨城県　武富浩二（26歳）♂

まちがっている記事

（その1）「ハガキ道場」ランキング6位の今井麻実さんは、13号で「最近の坂田……」という文章が4点、桜庭の絵が3点、前号までの合計が9点、つまり合計16点だ。でも番付表を見ると13点になってる。ノブは計算が出来ないようだ。だからアレクのグローブくれ。

（その2）「前田日明の人生は語らず」のコーナーでは22歳のピチピチママさんの相談で、〝前略〟で始めて〝敬具〟で終わるような常識のないような人が出てくる。『紙プロRADICAL NO.2』を見ると坂井結核という人の恋文で〝拝啓〟で始まり〝草々〟で終わっている。普通は〝前略〟なら〝草々〟で、〝拝啓〟なら〝敬具〟である。ノブは常識もないようだ。だからアレクのグローブくれ!

ちなみに『PRIDE.0』の勝者は、ノブがアホで足し算が出来ず、「ハガキ道場ランキング」の5位の座をキープした武田いづみさん。だからアレクのグローブくれ!

☆もう、誤植や間違いに関しては、ホントに申し訳ないと謝るしかない。ホントごめんなさい。こんな足し算は二度と間違えません。ガンバリマス! というわけで、武富さんには5点差し上げます。すると前12号までの合計が点だから、5点足すと……あれ? ナニがナンだか……7点かな? 武富さんもご指摘のように、どうやらボクは足し算できない大バカ野郎でした。ということで、武富さんの今号の総得点は、ボクの計算ミスにより7点となります。あしからずご了承ください。

デカいくせにキティちゃんのジャージ着てんじゃねー。

（広島県　室井和男・28歳・男）3点
ジャイ子やその他の編集部の人間への個人攻撃もお待ちしております。

おたよりさせてよ The Letter

埼玉県　ノブロード・男

『紙プロRADICAL』になる前から買ってます。けど、『ゴング』派なボクはプロレスを食い物にする「ゲスな同人誌」という感じで見てました。だけど、ボクの負けです。今となっては発売日が待ち遠しい。しかし、最近のは悪意全開の記事が目に付きます。菊田や『S多重アリバイ』以上に触れてはならない記事……すなわち11号から始まった（?）『RADICAL キッズ・コレクション』。世間的には許されないTシャツ&グッズを身につけた愛すべき男たちを茶化すのは問題ありです。

ボクの思い過ごしか? ファンの服装チェックよりもまず『紙プロ』がやらなければいけないのは、プロレスラーの私服検査だと思う。最近のプロレスラーの服装の乱れは目に余る。半ズボンなんか履きやがる、中学生レベルのセンスしかない。プロレスラーの王道ファッションは当然デカ襟のシャツにデカいバックル、そしてウエスタン・ブーツだと思います。アニマル浜口のように。人間は外見よりも中身と言われるが、プロレスラーだったら中身は当然、外見にも気を配ってもらいたい。むしろ外見（服装）で他を寄せつけないくらいで丁度いい。

昭和のプロレスラーの服装は、プロレスラー以外の何者でもない。海外武者修行から帰ってくると、身体も服装もプロレスラーになって帰ってきた気がする。そこで『紙プロ』ではレスラーの私服検査をしてもらいたい。編集部にはヒマそうなデカ女や35歳のポンコツがいるようだし。ちなみに、ボクの中のファッションリーダーは80年代のアメリカンレスラー。特にドリー・ファンクJrは本当にカッコいい服を着ている。今でも「彼は60年代の人?」

追伸
NO．11のキューティー賞の二人を見ていると何故か心がなごみます。

☆（スコラ氏風に）プロレスTシャツ&トレーナーをあんまりナメないほうがいいよ。ちなみに本誌編集部のファッションリーダーで、以前はヤクザ・ファッションを好んでいたが、最近は若返ってシャカパンを愛用している本誌編集長も黙っちゃいないよ。本誌は編集部全員、かっこよけりゃあプロレスTシャツだって着てるしね。「RADICAL キッズ・コレクション」だって、ファッション教則本だから。

ここまで言うなら、まずはキミのキメキメの80年代レスラー・ファッションを写真で送ってくれ。夢ファクの高田龍Tシャツあげます。

（埼玉県　ノブロード・男）5点
いろんな80年代を集めてみたのがこのイラスト。こう見ると、ステキだよな、80年代って。

ハガキ道場 SAKAI NOBU

今号もジャイ子しか出ないので改題します

デカ日誌 RADICAL ×××××××

目立ちたがり屋さん大爆発の巻

セッド・ジニアスにつっこまれるぐらいだからジャイ子の目立ちたがり電波は確実に世間の皆様に届いているようだ。最近では三度のメシよりお金が好きというトンデモない守銭奴であることが判明した。つい先日などは、
「いつ貸したか、なんで貸したか覚えてないけど、とにかく千円返して！」
と、筆者に対していわれのない法外な請求を突然してきたからビックリ。
「そんなもん借りた覚えもないし、払えねえ！」とつっぱねると、
「むー！　ノブりんがお金くれないんだよぉ〜」
とアチコチで言いまわる始末。その手口は総会屋よりも怖ろしい。払ったよ、払ったさ、しかたないもん。
他にもおつかい頼めばいきなり手を突き出して、
「お金、お金！　お金くれなきゃ行かないもん！　タダで動くのは地震だけだもん!!」
とシュプレヒコールを繰り返す、そんなジャイ子が今月もプロレス会場を賑わせてきた。
その中でも特に、バトラーツの両国大会では、おいしい場面を一瞬だけかっさらったので、会場に来ていない全国に10人いないと思われるジャイ子マニアと一千万人の『紙プロ』ファンに、その模様を報告しよう。
『紙のプロレスRADICAL』から第一試合の勝利チームに勝利者賞を出すことになったのだが、これは普通のプロレス誌だったら団体の担当者もしくは編集長が仰せつかる大役である。ところが本誌の場合、それは下っ端の仕事。つまりジャイ子の仕事なのである。
「ジャイ子しか出さない」
と強硬に言い張ったところ、バトラーツもこれを渋々ながら了承。これにより史上最高（身長が）の女プレゼンテーターが誕生してた。
さて、当日。わざわざ実家までスーツを取りに帰って、おめかししてきたジャイ子。試合開始直前になるとやけに落ち着かない。
「あたしってキレイ？」
と、曲がった口で聞いてきやがるので適当に、
「ホントにブサイク！」
という言葉をローキックと一緒に返してあげると、真剣に落ち込んでいた。それほど緊張していたということである。
本部席で試合を観戦したジャイ子は、試合が終わるとそそくさと、転んだり、ロープに頭を引っかけたりという見せ場も作らないまま、ボケ〜っとリングに上がった。
今井リングアナの名調子に乗って、いよいよ運命の瞬間がやってきた。
「『紙のプロレス』より勝利者賞の『紙のプロレス』定期購読三年分ならびに金一封が贈呈されます。プレゼンテーターは編集部の寺島ジャイ子さん」
と流された途端、意外にも怒涛のような大歓声が巻き起こってしまった。客席からは、
「ジャイジャイ！」
という声援まで飛んだほど。いったいここは何の会場だ？　と思ってしまうほど魅惑の異次元世界に一瞬だけ塗り替えてしまった。おそるべきはジャイジャイ・パワー。
「あ〜、恥ずかしかったぁ。でも、またやりたいもん、ジャイジャイ！」
と早くも頭に乗って、早くも次の舞台への意気込みを語るジャイ子。誰か、リングにこのデカ女を引きずり上げてカチ食らわせてやってください。

（熊本県　山崎英紀・32歳・男）5点
こうやってみるとどっちもどっちだね。読者的にはどっちがいいの？

（北海道　Blue Angel・女）5点
ちなみにこのイラストは、ジャイ子の怨敵・恵美ちゃんが書いたもの。冷たい戦争は引き続き継続中である。

読者プレゼント当選者からのお礼のハガキです。いいですね、こういう気の利いたことが出来る読者さんって。もう人のアゲ足ばっかり取ってるようなチンカス野郎には、応募もなく、編集部で眠っている過去の読プレを嫌がらせとして送りつけます。まあ、「適当になんか書いて返事をおくれ」ってことです。
（北海道　佐々木祐）4点

礼はいらねえぜ!!

次号からハガキ道場改め、史上初のヒールな読者コーナーとして生まれ変わるHAGAKI道場は、こんなハガキを待っちゃうゾ、バカヤロゥ〜!!

- ●本誌へのご意見、ご感想
- ●楽しいイラスト
- ●マヌケなダジャレ
- ●ぜひやってもらいたいカウントアップ・グル〜ヴのテーマ
- ●紹介してほしい同人誌
- ●長いおたより
- ●サロン・ド・くちゲンカ参戦希望者
- ●編集部に遊びに来たい美女

などを送ってください。ちなみに不評だった前号の合言葉の反省を踏まえて、**「このカロリーマン！」**というわりかしおとなしめの合言葉にします。これを明記するのがルールです。ハガキ＆手紙の宛先は……

〒151－0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3－11－3－702
（株）ダブルクロス「ハガキ道場」係まで

点数間違えりゃオレのせい
誤字脱字もオレのせい
ハガキが来なけりゃオレのせい
ハガキが増えてもオレのせい
こんなポンコツ編集者
どこにいる？
オレだよ、オレエエエ!!!
まいったな、オイ！
なおハガキ募集！

ドスコイ ハガキ道場番付表

順位	名前	点数
1位	中川雅博	72点P
2位	塩本祐介	43点P
3位	つらいんだ	41点P
4位	今井麻実	20点S
5位	武田いづみ	19点
6位	うしえもん	18点
7位	サル・ザ・マン	9点
7位	佐藤耳夫	9点
7位	キャプテン名倉	9点
10位	栗野幸次	8点
11位	武富浩二	7点

Pはプロフェッショナル・ファイター　Sはシニア・ファイターの略です

このページは『紙のプロレスRADICAL』にジャイ子が出現する以前、小社がこっそり発行していた世の中とプロレスする雑誌『紙のプロレス』本誌のお知らせです！

本誌・眠り姫もオススメする『小さい紙プロ』バックナンバー

「ムニュ、ムニュ、ムニュ
小さい版型の『紙プロ』本誌はおもしろいよ、ジャイジャイ！
あたしの寝顔もおもしろいでしょ？
ジャイ子、お仕事中でも眠くなると寝ちゃうんだ
グゥ〜、グゥ〜、グゥ〜」

モデル：寝顔もショッキングなジャイ子さん

特選！素敵な顔の人大集合の『紙のプロレス』本誌 BEST4

NO.13

見れば見るほど味が出る！　スルメのような表情が素敵な安生の道場破りを徹底討論！

NO.16

ヒーリング系笑顔！　笑顔が素敵ングな後藤達俊の顔に多角的に迫る！

NO.19

早すぎた団体だった後期・藤原組（現・バトラーツ）の面々を徹底クローズアップ！

NO.22

見てみい、この面！　トーナメント・オブ・J優勝直後の高阪剛インタビューを収録！

涙の洪水!!　爆笑の嵐!!　活字プロレスファン必読の邪悪な聖書（バイブル）
現在、発売中の『紙プロ』本誌&『紙プロ』公式読本リスト

5号：特集「たたかいグランプリ」／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番
8号：特集「さらば新日本プロレス」／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー
11号：特集「狂気とは何か？」怒涛の6人インタビュー／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か？」
12号：特集「色気とは何か？」村松友視が前田日明を語る！／蝶野正洋も登場！
13号：特集「道場破りとは何か？」山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー
14号：特集「神秘とは何か？」佐山聡、大槻ケンヂ、清水伯鳳が神秘を語る！
15号：特集「インディペンデントの逆襲」インディー10人斬り／巻末特集「K-1とは何か？」
16号：特集「新日本凸凹大学校」『紙プロ』的昭和新日総力検証／ユセフ・トルコvs由利徹対談
17号：特集「実況パワフル北朝鮮」／巻末特集「藤原組の逆襲」バトラーツの源流を読め!!
18号：特集「高田延彦さんへ愛をこめて」／サブ特集「すてきな奥さん」レスラーの嫁を直撃！
19号：特集「さようなら紙のプロレス」『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生！
20号：特集「劇的格闘技」真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー
21号：特集「幻的格闘技」古武道を通じてプロレスを考えよう！
22号：特集「この人が喝っ!!」／巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!
猪木とは何か？：スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃！　猪木節爆発！
極真とは何か？：不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃！／F・フィリョ、黒澤らインタビュー
パンクラス公式読本〜矛〜：97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成！
パンクラス公式読本〜盾〜：97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成！

※現在は1号〜4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か？』『猪木とは何か？　キラー編』は完売しました　残念でした
※定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号〜22号は780円となります
※『猪木とは何か？』は1320円、『極真とは何か？』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円となります
※送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊〜4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります
※10号、『大山倍達とは何か？』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです　頑張って探しましょう

〈申し込み方法〉

●現金書留
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「本誌バックナンバーなっ！係」まで

●郵便振替
00130-3-769154（株）ダブルクロス

紙のプロレス RADICAL
No.14
1999年1月10日発行
定価：本体743円＋税

発売元：株式会社ワニマガジン社
〒160-0014　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元：株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）
編集兼発行人：山口日昇
編集スタッフ：坂井ノブ／松澤チョロ／吉田豪／八木賢太郎（CDデビューで忙しいので非番）
助っ人：ジャイ子／恒遠バカツネ
デザイン：ツー・スリー（出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、古川シチュー）
カメラマン：斉藤ユーリ／戸成ぶつぞう／遠藤政文／藤見道隆／森鷹博
お勘定：林ヘックション一枝
ご飯ドンブリ2杯：中村カタブツ君（35歳）
フィニッシュ：ツー・スリー
印刷：図書印刷株式会社
印刷人：大杉すぎすぎ昌也

編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにしてチョンマゲ！

紙のプロレス RADICAL No.15は99年1月下旬発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます　許してクリクリ！

踊るアホウに見るアホウ——同じアホでも見つめていたい

プロレス狂の詩

イラスト／マスクド・店長

誰も言わないならワシが言う! やっぱり高田延彦は最強である
中田 潤

リングの汁
花くまゆうさく

今回から新規スタートの読者参加型投稿コーナーなっ!
PRIDE.0

ザ・検証
椎名基樹&せきしろ

なんだかんだとやってる間に本誌も創刊2周年。別に記念してるわけじゃないけど、コラムページもリニューアルして新発進! プロレス業界の内外を問わずズバ抜けちゃってる人たちを集めて、プロレスバカの祭典を毎号お届けします! 危険じゃないコラムなんかないので、読者のみなさんにはくれぐれも……"殉職"だけはご免ですぞ。(浜部調)

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

ヒクソン戦後の高田のコメント&インタビューに心底失望した作文

試合して くらさい。 エリクソン

いやもう今年のVTJは最高でしたね。エンセンが十字したとき、子供のように飛びあがっちゃいましたよ、31才のこの私。中井さんが出場したとき以来ですね、VTJの帰り道がこんなに晴れ晴れとしてたのは。負けちゃったけどマチャドにはシビレたし。

しかしそんなウキウキした心も、この大会をまったく無視した翌日の『日刊スポーツ』や『東京スポーツ』を見てしぼんでしまいました。はぁ〜。

話変わってヒクソンですが、まだ引退せずにあと1回でいいですから、強い人とやって堂々と引退してほしいです。たとえば、来年の春までにいつもの『PRIDE』参加選手に、高阪・エリクソン・エンセン・船木を加えた強力メンツで文字通り最強の男を決め、そんで半年後の10・11ドームでその最強の男に、ヒクソンがチャレンジャーとして挑戦する。勝っても負けても最後に一番強い人に挑戦して堂々と引退、それならみんな納得するのではないでしょうか。どうせ見果てぬ夢ですけどね、実現したとしてもスケールは1／10に落ちてるんだろうな……。

来年引退といえば、もうひとつ大事なことがありますね。木戸選手の新日契約です。

いまの新日がつまらないとぼやいていても、毎週TV放送のチェックは欠かせません。それはカ・シン、藤田を見るためでもあり、フライやUFO絡みもそうだし、理想の男・マサ斉藤のトークを味わうのもそうですが、木戸を見るためでもあります。

思えば、プロレスを見ていくといつも節々に木戸がいました。

あれはたしか高1の夏の終わり頃かな、レスリング部の合宿で学校に泊まっていたボーズジャージ姿のボンクラ16歳の私たちは、校長室のフカフカソファを陣取り金曜8時のワールドプロレスリングをかぶりついて見ていました。画面には全日のグレート・マーシャルボーグ以来の不思議ガイジン、ヘラクレス・ローンホークが、実況席も困るほどおそまつな試合をしています。相手は木戸でした。どこが効いてるのか判らないような単なる逆さ吊りに、木戸はギブアップ。大人になるとはなにか？　社会に出るとはなにか？　ボンクラ16歳どもに、木戸さんが無言で授業してくれたような気がします。

1年後、ゴッチに誘われ第一次UWFに木戸はやってくると、スーパータイガーをロープに振ってドロップキックをスカされたりする一方で、前田のすくい投げを拒否してその場に叩きつけたり、記念すべき第1回目のリーグ戦で優勝しちゃったり、マイウェイしてました。

UWFが新日に出戻り、猪木挑戦者決定リーグ戦が行われれば、いきなり藤原と両者リングアウトしたり、前田と不思議な試合したり（柴田レフェリー絶叫「俺は見たぞ〜」）、初のvs新日TVマッチで藤原と組み坂口&星野組との対戦ではUの木戸のほうから星野をロープに振ったり（それもスカされる）、場外でアームロックしたりして、当時フラストレーションが溜まりにたまっていた旧UWFファン（私含む）の頭をますますかかえさせてくれました。しかしいまから思うと、木戸マイウェイ爆走で素晴らしい！

その後は、なんといってもドームプロレス二大名勝負（ひとつは天龍vsサベージ）のvs鶴田組との試合でしょ。誰が近づこうといつだって鶴田な鶴田と、これまたいつだってマイウェイな木戸、この2人が交わり絶妙なハーモニーを生み、我々をどこか知らない世界へ連れていってくれました。

プロレス裏ビデオベストセラーといえばこの試合と、前田長州顔面襲撃や前田アンドレですが、その3試合のうち2つも絡んでいるのは木戸マジックでしょうか？

そんな木戸選手ですが、いまだに彼の本音が見られたインタビューは存在してないような気がします。『ロッキングオン』の2万字インタビューばりの木戸本音トーク、『紙プロ』に期待したい。

プロレス狂の詩

サウナトーク

マサや 木戸は UFOに 乗るのかな

乗ったら サイコー

無重力の 宇宙でも 木戸さんの 髪形 ビシッと してんのかな

どこ いったって 木戸は 木戸だよ

はなくまゆうさく■バンバンビガロの新作マサTシャツが素晴らしい。高阪やウゴなども作ってほしいなあ。最新単行本『大人チョップ』マガジンハウスより12月中旬発売。

誰も言わないならワシが言う! やっぱり高田延彦は最強である

中田潤

高田延彦最強説。

と文字にしてみて、そんな時代もあったのね、としみじみ思う。100人のプロレスファンにそう言ったら、100人から「そんなわきゃねえ」と怒鳴られるだろう。

私がプロレスの記事を書き始めた頃。新生UWF旗揚げの時代から、私はいきなり「高田最強論者」だった。

生まれて始めてプロレスの道場に足を踏み入れる。まず、前田日明から「なんや、このガキ」といったような、不良中学生のような目で睨まれる。それも強烈だったが、なによりも驚いたのは高田延彦がたてる「音」だった。ミットを蹴る音がすごいことになっている。その日は、山崎一夫のインタビューだったのだが、なぜか「高田さん、強いっスよ」という話になった。キックの威力は一番。相撲を取ったら前田も藤原喜明もかなわない。初めての取材で、こういう裏話を聞けるとなぜか嬉しい。で。

最強の高田延彦。

そういうことになった。

お人柄も最高である。前田と長州力、山崎と後藤達俊がセメントになったときにも、間に入って騒ぎを治めたのは高田だった。UWFと新日本の親睦会のはずが大乱闘になった「人吉旅館ぶっ壊し事件」の際にも、高田は一人、正論を吐いていたという。

武藤敬司と前田と高田が、勝った人が負けた人をぶん殴る、という素晴らしすぎるルールでジャンケンをする。案の定、前田は全部後出しでスペースローンウルフを殴りまくる。ついに高田が立ち上がる。

「前田さん! ずるいじゃないですか。武藤、前田さんを殴れ!」

先輩を殴れなかった武藤が、障子にローリングエルボーをぶちかましてから、宴会は700万円を弁償する大惨事に発展したという。

高田はいつもさわやかに笑っている。笑いながら、ごくごく当たり前のことを言う。「最強の高田延彦」から「プロレスファンの夢を壊した高田のバカ」ということになっても、高田はさわやかに笑っていた。

内心は忸怩(じくじ)たるものがあったに違いない。97年春、私は一度だけ、リング以外で高田がキレる瞬間に出くわしたことがある。スタジオでインタビューの前、マネージャーがこう言った。

「『週刊プロレス』があとで写真撮影だけお願いしますって来てるんですが」『週刊プロレス』という誌名を聞いた途端に高田は地獄目になった。

「そんなもん追い返せ!」

ヒクソンとの再戦の前にも、高田は「負けたらもう一度。いや10回でも20回でも挑戦しますよ」とさわやかに語っていた。しかし、こうも言っていた。

「マスコミの一部の諸君。俺が勝ったらタダじゃおかねえからおぼえとけ!」

「最強の高田」から「A級戦犯」になって、今度は「よく頑張った高田」ということになっているらしい。どうしてそうなったのかは私にはよくわからない。ヒクソンの上になっているのにどうして何もしなかったのか。それもよくわからない。

しかし、高田vsヒクソン戦は、去年のプロレスの試合の中で一番興奮した闘いだったことだけは確かである。記者席にいて叫び出しそうになったのはこの試合だけだった。

誰も言わないので言わせてもらう。

やっぱり高田は最強である。

ここ数年、たった一人で野球場を満杯にしたレスラーが他にいたか。アントニオ猪木が一線を退いた、明るいだけのうら寂しいリングの中で、高田だけは勝敗の行方が見えない無謀な闘いをやり抜いた。

おそらく、いまも高田はさわやかに笑っている。「打倒! ヒクソン」という当たり前すぎるスローガンを掲げている。

誰がなんと言おうと高田延彦は最強である。

なかたじゅん■1959年岡山県生まれ。フリーライター。著書に『愚直列伝』(マガジンハウス刊)。共著に『ナンバー ベスト・セレクションⅢ』(文藝春秋社刊)など。ジャンボ鶴田、アンドレ・ザ・ジャイアントを偏愛する。

一度だけの人生投稿選手権!

プロレス詩の狂 PRIDE.0(ゼロ)

『PRIDE.0』が生んだスーパービジュアルライター・武田いづみちゃんが見事5戦勝ち抜きを果たし、このコーナーから卒業することとなりました(P44参照)。めでたくもあり悲しくもあり。これからの『PRIDE.0』にはあなたの力が必要なんです。一度っきりの人生じゃないか! 恥も外聞も捨て書いてみよう! 一度だけの人生投稿選手権!(byU-DREAMER鈴木健)『PRIDE.0』RE-START!

前号の結果発表!

前々号の最終結果!

■ライセンスナンバー3
武田いづみさん
『やさしさともあまさともいう』164票

■ライセンスナンバー8
原田幸治さん
『松永光弘とは何か?』61票

■ライセンスナンバー1
武上康夫さん
『虎の穴とは何か』69票

ライセンスナンバー	投稿者	タイトル	得票
ライセンスナンバー3	武田いづみさん	『力不足!』	145票
ライセンスナンバー9	WCRあまぐりさん	『デーブ・スペクターはクセ毛か?』	51票
ライセンスナンバー10	俺はジャイアンガキ大将さん	『大物新人、武道館見参!』	62票

見てみぃ上の棒線! 最後の最後まで他を圧倒する得票数を獲得した武田いづみちゃんが見事5戦勝ち抜きとなりました。「いづみちゃんの5週勝ち抜き決定! コッ!」(横浜市/榎本暁伸)「私もプロレスを好きになる前は、とりあえずK−1は好きだったので、なるほど……と思いました」(秋田県/清水幸子)「マスクをかぶった時点でもう勝負はついたというか」(鶴ヶ島市/小鮒芳行)「いづみちゃんの文章が読めなくなっちゃうと思うと寂しんぼ」(帯広市/大村次正)「つきぬけた現実と圧倒的な存在感(NYタイムズ)」(千葉市/石田喬士)「同年齢とは思えない」(松原市/村田忠陽)「まぁ、しゃあないな。凄い」(大阪府/藤本直治)ということで、新たなる伝説はキミにまかせましたぞ!

いづみちゃん5週勝ち抜きおめでとう! そして今まで以上に大きくなってくれ!(異常に大きいのはジャイ子) でも、これで終わりじゃない! これからが始まりだよ!

ライセンスナンバー11

『猪木と乾杯した日』

真下純子(29歳)

© Touchstone Pictures

皆さんは友人知人の結婚披露宴に出席し、「この式は生涯忘れられないなぁ」などと思った事がおありか。自分のではなく他人ので、である。とりわけ私などは「これが名古屋の嫁入りだぎゃー!!」と植木等が絶叫する尾張名古屋の人間である。新郎新婦がゴンドラから降りてこようが気球から降りて来ようが象から降りてこようが「最近はこんなんもありか」程度の感想しかない。だが私にはモノ凄い結婚披露宴に出席した思い出がある。

さてその前に。平成六年一月四日・東京ドーム。この日、天龍源一郎対アントニオ猪木戦が実現した。その時私は、当時新聞&美人秘書の告発により絶賛イメージダウン中の猪木がどんなファイトをするのか注目していた。きっと「クリーンな猪木」をアピールするような試合になるであろうと。ところがこの日の猪木は「超キラー」。しつこい程のチョークスリーパー、顔面へのヘッドバッド、ロープブレイクにも腕ひしぎ逆十字を離さず、ついでに天龍の指をへし折りにかかるしまつ。で、結局パワーボムにて敗戦。スキャンダルの泥沼をバタフライで泳ぐ猪木の心の中が覗けるようなちょっぴり涙の味がする、でも最高に猪木らしい試合だった。

その約一ヶ月後、平成六年二月某日・大安吉日。E・K御両家結婚披露宴。私は新婦側友人として宴の席にいた。そこに何と!! 同じく新婦側来賓として参議院議員・スポーツ平和党の猪木寛至氏も参列したのである。

後に新婦であるその友人に訳を聞いてみると、彼女のお父さんはかねてから猪木と親交があり、羨ましい事に一緒に焼肉を食べたりボーリングをしたりするような仲、ということらしい。ちなみにそのお父さんは名古屋では名の通った企業の社長さんである(ここらへんの事を突つくとヤボになるが)。

この日はアホほど雪が降り、新幹線のダイヤも乱れ猪木は少し遅れてやって来た。大きな扉が開き、猪木が入場してきた衝撃は忘れられない。誰もが心の中で『炎のファイター』を響かせたであろう。モーニングに身を包み黒い蝶ネクタイをした猪木。ざわめき、色めきまくる会場。

そして猪木がマイクを握るひとときがやって来た。

「一言お祝いを申し上げる前に――私は最近、週刊誌・テレビ等で色々賑わしておりましたが、まあ余り言い訳をするつもりは無いんですが、一切そういった事は無いと!!」

「これから飛び立っていく若いふたりに教訓というか…自分の人生を振り返ってみれば何回か出直しをしておる訳でして……」

「月並みな言葉ではありますが、ふたりの信頼といいますか、強い絆でもって荒波を越えて行ってもらいたいと。私も二十二歳年下の妻がおりまして…この一連の問題で身体が半分になってしまうような大変な苦労をさせてしまいまして。これから一生大事にしてあげないとけないな、ということで共に夫婦の道を歩んでいってるわけですが……」

「私も夢多き男というか、夢を果たそうと思えば思うほど女房に苦労をかけてしまうわけでして…先月も四日に東京ドームで試合をやりまして、六万人が声援を送ってくれました。そういったプロレスファンに対してもリングで夢を果たしていきたいと思っております」

「何かおふたりにもっと素晴らしいお祝いの言葉を、と思ったんですが、つい自分の人生を振り返ってしまいました。つたない私の経験ですが何か参考になるかと思いまして……」(なるか!!)とまぁ自分の事を語ったからとはいえ、さりげなく忌み言葉を折り混ぜた素晴らしいスピーチを贈り、宴は最高に盛り上がった。

ここは名古屋、娘が嫁に行く時は出来る限りのことをしてやらなければならない地域だ。その晴れの舞台に猪木を呼ぶ。凄いインパクトである。「今はちょっと時期が悪いかなぁ」とも思ったかもしれない。しかし猪木のスキャンダルは忘れても自分が参列した式に猪木が一緒だったという事は皆簡単には忘れないだろう。誰もが「こないだの結婚式、猪木が来てさぁ」などと語ったであろう。皆の記憶に残る披露宴。これを「親心」と言ったら語弊があるだろうか? ないね。

そういえばスピーチの中で「ジョージ・フォアマンとの異種格闘技戦を……」と言っていた猪木だったが、今UFOに乗って遠〜い処に行ってしまったし、もう忘れちゃったかなぁ。

さて「ここんちに生まれたかった…」と私を羨ませたこの友人、猪木はおろかプロレスには全く興味がないそうである。ぎゃふん。

ライセンスナンバー4

『バラと刺青(タトゥー)と二●ロの夢を』

岡崎昌士（29歳）

さて今年も残すところあとわずか。プロレス界も「今年の十代トップニュース」を選ぶ季節となってきた。

早速私も「プロレス界三大ニュース」を選んでみた。ジャカジャン！

1位　ジニアス、猪木への対戦迫る爆弾発言

2位　マイティ井上レフリーデビュー

3位　ボロ負けで大絶賛？　渡部謙吾の謎

といったところであろうか。

まずジニアスの爆弾発言についてだが、現在の段階では猪木はもちろん、プロレスマスコミにもほとんど無視されているというのが悲しい現実である。さすが「悲しき天才」。『紙プロR12号』コラムを読んで、呆れた人も多いであろう。まったく何を書いている事やら……。

しかしジニアスは、猪木への対戦要求をぶちあげた事によって、カルトレスラーの枠を越え、「何だか良く解らないとしか言いようの無い存在」にまで成長したのは確かである。来年は、さらなる局地的爆弾発言に期待が高まる次第である。

そして第2位、マイティ井上レフリーデビュー。まだレフリー姿のマイティを見た事が無い人も多いだろう。絶対見てほしい！　マイティレフリーを見ずに二十世紀が終わるなんて…そんな事じゃ、いい二十一世紀の正月は迎えられないぜ！　とにかく凄いんだ！　動きが違うんだよマイティは！　レフリーという殻を打ち破ったスーパーレフリーなのである。まあ一度ナマで見たその日には、マイティの素晴らしさの虜になる事受け合いだ。是非Tシャツ、フィギィアといったマイティグッズの充実も望みたい！　欲しいぜっ！

続いて第3位、渡部謙吾の謎。デビューして2試合ともボロ負け。しかしマスコミは大絶賛。ボコボコにされただけなのに、「ハートが強い」だの「打撃が強い」だの…。でかくて刺青入れて金髪。パッと見は確かに強そうだが？

試合後の対戦相手のコメントもヤケに謙吾を持ち上げ気味。パンクラス内部の声も謙吾に優しい。「まだ新人だから」「グラウンドは教えてないから」…ハッ？　パンクラスは完全実力主義ではなかったの？　ボロ負けする事必至の新人に、メインを務めさすその姿勢は厳しく糾弾されるべきではないのか。相変わらず選手は欠場だらけ、死闘とはかけ離れた時間切れ引き分けが目立つパンクラス。「パンクラスは真剣勝負。プロレスと違ってそう都合良く面白くならないの」そんな馬鹿げた「真剣勝負幻想」にしがみつくファンによって支えられているのが、今のつまらないパンクラスである。

新人の技術無き猪突猛進に頼っているようじゃダメだろう！　まったく何が何やらである。パンクラスは甘すぎる！

さて三大ニュースをまとめたところで、今世紀ラストを飾るにふさわしい夢の対決がスコーンと閃いた！

1999年12月31日後楽園ホール

特別試合・30分3本勝負

「セッド・ジニアス vs 渡部謙吾」※レフリー　マイティ井上

どーですかお客さん！　これほど展開の予測がつかないカードはないでしょう！　30分3本勝負というのは、ジニアスとパンクラスのルール折衷の結果。中途半端さ加減が何とも刺激的な予感。マイティの動きにも要注目！　一瞬たりとも目が離せないぜっ！

ジニアスのセコンドには因縁のルー・テーズ。謙吾のセコンドには将軍K・Y若松！　拡声器を持って堂々の入場だ。もちろん試合中にも大騒ぎして頂く。立会人はチェアマン猪木。解説は御大・ジャイアント馬場。そして客席で炎上するターザン山本！　ウオオオー！　絶対見てー！

こんな夢が炸裂する1999年であって欲しい！　プロレス大爆発だー！ド、ドカーン！

（おしまい）

ライセンスナンバー12

『新・万里の長城伝説』

荒木裕司（24歳）

富山県は北陸地方ですジャイ子さん（前職が巨人の選手はおろか、木こりでもないのにジャイアントを名乗るのは個人的に不快です。巨根斬りの男性経験があるのなら許します）。寺西一ZAM、馳浩、村光代、小路晃、村上一成という玄人好みのレスラー&格闘家を輩出し、日プロ時代の馬場と猪木が初対決を行った（はず）住みやすさナンバー1の県（らしい）です。同県出身の有名人は西村雅彦、野際陽子、立川志の輔、室井滋、アントラーズの柳沢、〝完全無欠のロックンローラー〟アラジンなどがいます。

名物はマスの寿司と薬売り。マス&ドラッグ乱用のパンクな街……じゃなくて、ガチガチの教育県にしてド田舎なんですけどね。

僕の住むそんな富山にU-DREAMがやって来ます。キングダムのようでキングダムではないU-DREAM。TMネットワーク好きじゃない方の鈴木健氏がプロデュースするストレンジ・プロジェクトの旗揚げが、なんで富山なのかさっぱり分からないのですが、（たぶんターザンの「高田vsヒクソンは山奥の体育館でやれば伝説になったんですよぉ！」にインスパイアされたと僕は予想する）旗揚げ戦なんて、めったに見られるものじゃないので、絶対に見に行こうと思います。

UFOに多大なインスピレーションを受けたと思わしきU-DREAM。あっちのエースが小川なら、こっちのエースは入江。この格段にスケール・ダウンしたプチUFOを僕たちはいかに楽しむべきか？　まあ「べき論」はあんまり好きじゃないんだけど。

小川の荒鷲襲撃が新日フロント&マスコミにもみ消され、UFOの伏線が小川とフライの因縁に落ち着いてしまったとすれば、U-DREAMの伏線というのは、じつはいろんなところに張られています。安生vsヒクソンの因縁（K—1ラインで正道会館系フリーファイターも可）。Uインター崩壊後、様々な団体をさまよいシュートボクシングでヤーブローと戦った中野。常々「中国進出」をアピールしている剛竜馬との結束を固めた藤原組長。キングダムと縁のある修斗、高田道場及び「いつ何時誰にでも挑戦する」喧嘩ファイターたち。この伏線をフル活用すればUFOといい勝負になるんじゃないかと僕は思います。

ブラジリアン柔術、本間や平、シーザーさん系測定不可能（by格闘マガジンK山田）ファイター、中国からの未知の強豪（猪木も未だ見ぬ北京原人!?）、修斗、高田道場、バトラーツ、カマクラ、パトスミ、折原……。で誰が一番強いか決めてエース候補の入江と戦わせる。そして入江がチャンピオンになった時点で「最強」と言われているファイターに喧嘩を売る…とかなりファンタジーが膨らみます（入江が、テーズと戦った草津のようになる可能性もあり）。猪木の闘魂外交と佐山のインターネットというサイバーパンクな選手発掘方法も素敵ですが、現実味はU-DREAMのほうがありそうなのだからビックリ。桜庭を引っぱり出した日には人気爆発でしょう。

想像力のない僕でもこれだけファンタジーを膨らませられるU-DREAMなのに、UFO同様マスコミは無視を決めこんでいます（ま、『紙プロ』は後援してるんですけどね）。それもこれも、この興行が富山という辺境の地で行われること以上に、高田ファンクラブ会長だった方の鈴木健氏に、お金がないことをみんなが知っているからです。しかし、自分のことを侍と言うんならお金、お金、と言わずに、UFOでも、U—DREAMでも夢のあるリングに上がったらいいんですよ！

U系（Uインター系？）ファイターの「仕事場」じゃなくて、「遊び場」を確保した健ちゃんバンザイ！　12月11日は田舎のジジイやババアにも伝わるアーリー昭和な「元気」な戦いを希望します。

「文句があるなら書いてこい!」

休憩時間の一服の清涼剤だった「バトラーツ」リング・ガールの宮内美穂ちゃんが両国大会を最後にバトラーツから巣立っていきました。そして「紙のプロレスRADICAL」の一服の清涼剤『PRIDEガール』武田いづみちゃんも怒涛の5戦勝ち抜きで『PRIDE.0』から旅立っていきました。ホント淋しくなっちゃいますね。だからって、いつまでも淋しがってちゃいられない。これで終わりじゃない。これからが始まりだよってことで、気分も新たに「RE-START（リスタート）」した『PRIDE.0』。今回の三選手の中からアナタが一番気に入った作品を一つ選んで下さい（応募方法はP144参照）。一番人気の選手は勝ち抜きとなり、引き続き次号参戦が決定します。さらに見事5戦勝ち抜くと『紙プロ』認定超読者として殿堂入りとなります。さて、いづみちゃんに続き殿堂入りを果たすのは一体誰だ？　なお掲載者全員にアンタッチャブルなプレゼントを差し上げますので、ふるって投稿してきて下さい。参戦希望選手は、400字詰原稿用紙3～5枚程度、あなたのプロレス・格闘技に対する熱い思いをブチまけて下さい。住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真（自画像でも可）を同封の上、

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部「ん～、なるほどね!」係まで送って下さい。

●明るく、飽きず、締め切らず。ずっと待ってます。（ぴのこ）

どうでもいいことを　どうでもいい角度から　どうでもいい態度でメスを入れる

ザ・検証

[今月の名言]

「勝とうと思えば、いつでも勝てる」
～日本キック連盟フェザー級チャンピオン・大塚一也～
ということで、今回も公私混同で、親を安心させるために仕事のフリしま～す!

構成／椎名基樹　撮影／藤見道隆

[今回のテーマ]

プロレス愛

おれたちのプロレス愛はワッキーに届くか!?
ラブレターで愛を表現せよ!!

中村カタブツ君

脇澤様へ
ビデオ「Ore」見ました。
「格闘女神アテナ」見ました。
そして宣言します。
俺はワッキーの犬になろう。
犬汁になろう。
もちろん風呂にも入らない。
ワッキーがクサイなら
俺はもっとクサイ。
そんな器の大きい優しい
男に俺はなろう。
そして断言します。
キミは風呂にも入らず、
リング募金の金をくすねて
ジュースを買うような、若い女子
としては最低のクズかも
しれませんが、その
笑顔は極上です。
すべての男を幸せにします。
女子としての輝きのすべてを
持っています。
これからもあなたを見続けます。
なぜなら それが愛だから。
以上

椎名基樹

脇澤美穂 様へ
僕は、あなたのことが大好きです。
僕は、1968年生まれのB型、おひつじ座です。
静岡生まれです。
現在、文筆業でナリワイをたてています。
車は持っていません。もちろん家も持っていません。
と、自己紹介できることはこれくらいです。
で、とにかく僕は美穂さんのことが
大好きなので、今度の休みにデート
してください（スイスへ）。
椎名基樹

せきしろ

脇澤美穂 様
あなたのことを一目見た時から、
好きになってしまいました。
あなたの試合を見ると、
なぜだろう、
僕は勇気づけられます。
でも、もっと勇気づけて
ほしいので、
つきあって下さい。
せきしろ

←これが問題のハガキだ!!

今号はあまりにもひどすぎます。内容も
薄いが、それ以上に「人参ジュース」の企画
あれは何なんですか。ふざけるのもいい加
減にして下さい。読者を軽く見すぎです。
プロレスへの愛なんて無く、プロレスをバカに
して、ふざける、ひねくれたプロレスファンの
作った曲がったファン向けへの雑誌だと
よく分かりました。買わなければ良かった。
みなさんの売り込んでいる高校生の女の子も
悪影響を受けて、除々にゆがんだ考えに
なってるのが、前回と今回の作文でもよく分か
ります。ふざけた雑誌作りをするのはやめて
下さい。プロレスを侮じょくしている様にとられ
てもおかしくないし、一生懸命やっている人達
に失礼です。真剣に取りくんでいる全日の
小橋選手や三沢、秋山、川田選手に取
材して少し感銘を受けたらよいのではないで
すか。それと自分達の嫌な文章は載せ
ないし、当てる気もないんでしょうが、
一応、「ハンセンとブロディのTシャツ」希望
だめなら、雑誌代返して欲しいくらいです

上のハガキは、前号に掲載されたモノです。読んでいただければわかるように、我々『ザ・検証』のスタッフ（椎名・せきしろ・海老原・牛山）は、鈴木靖隆くんの怒りにふれてしまったようです。

鈴木くんごめんなさい。すべてあなたと前園さんの言うとおり!!　我々（椎名・せきしろ・ザイモク・モンキー）が全面的に悪いです。あやまります。もう一度、ごめん……なんてワケねえだろ!!　このタコ!!　25歳にもなって何がプロレス愛だ、この童貞野郎が!!　ねむてえこと言ってんじゃねえ!!　いい年こいて愛だなんて、恥ずかしげもなくよく言えるなあ。テメエ達みたいのが徒党を組んで、それ自体が楽しいって感じで、「1、2、ワ～～～!」なんて足踏みならしてんだろ。かと思えば、試合そっちのけで、いついつのどの試合はこうだったなんて、浅い知識をひけらかしたオタクトークに花咲かせてんだろ。で、試合の後、感極まって「感動をありがとう」だとか「夢をありがとう」だとか、オカマのピロートークみてえなこと叫んでんだろ。で、最後は「フリューゲルスを潰すなぁ～」だって。このイチロー人間がっ!!

怒ったついでに、一体ありゃどういうつもりだ?　バーリ・トゥード・ジャパン'98!!　照明暗くて見えねえんだよ!!　おまけにいまにも落ちそうな、変なライトのせいで、オーロラビジョンも全然見えねえんだよ!!　会場ではまったく伝わらなかったけど、家に帰って見たら、メチャクチャ面白いじゃねえか。あれじゃあ、選手がかわいそうだ。それと、なんだ?　あのDJブースは!!　客席のド真ん中に金網ブチ立てて、DJブースなんぞ作りやがって。見えない客が、案の定怒って「試合始める前に金網はずせ～!!　いつからここは金網デスマッチやるようになったんだよ～」ってナイスな野次を飛ばして、撤去してやんの。じゃあ、一体なんのためにあんなもんつくったんだ?　え?　オシャレだから?　お前はオヤジか!!　それにいいか。オシャレっていうのは突き詰めて考えれば、ピーコさんのことを言うんだよ!!　お前達の目指すものは毒舌ファッションチェックかってんだ!!

さらに、ついでに怒らせてもらえば、K闘技通信!!　気色悪いんだよ!!　どうして高阪のUFCブラジルでの試合が1ページなんだ!!　俺はそれが見たくて買ったんだぞ。日本人がチャンピオンの挑戦権を賭けて闘ってんだぞ。どう考えても、あの扱いはおかしいだろ。記事も、文末と見出しだけはほめて、後はボロクソという文章マジック使っちゃって、薄気味悪いわ、セコいわで、もう。つまり、あれかい!!　K通は、修斗を推すからリングスは大きく扱えないってか。で、やってることがH編集長とSプロデューサー（黒点の部分を声に出して笑わずに読めるかな?）の連続対談か。まるで数年前のターザン山本と堀辺骨法創始師範の対談をそのまんまやってるだけじゃねえか!!

修斗は、アマチュアからプロへと、理にかなったルールとシステムを持った、世界で唯一無比の団体だと思う。俺は真顔で修斗が将来、総合格闘技のWBAやWBCになれるんじゃないかと、デッカく期待している。なのにたかだか数万部程度の雑誌のページを奪い合うなんて、夢も希望もねえじゃねえか!!　とにかく、Hとかいうのは、鼻の下の溝が深すぎて、360度どっから見ても●●面なんだよ!

と、いうことで、一通りブチまけたところで、今回の検証テーマは「プロレス愛」。愛とはつまり、異性に告白すること。よってボクは、大好きなプロレスラー脇澤美穂選手に告白しま～す。

〝ちょっと待った～!!〟

その声は、せきしろ!!　カタブツ!!

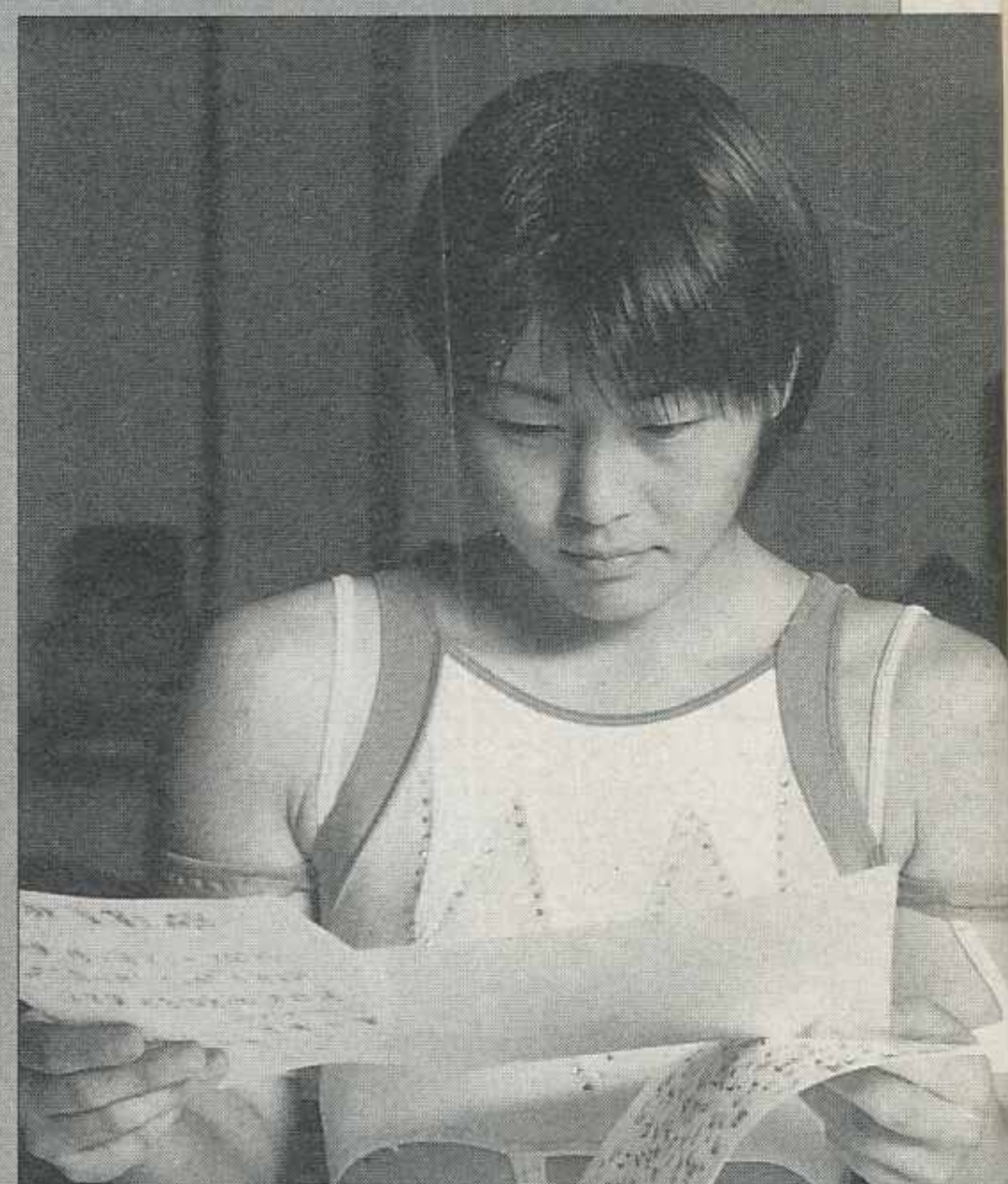
検証開始!!

ねるとん方式（大学生の間で現在流行中）で、オレたちのプロレス愛を告白。顔を伏せているとき、3人とも歯をくいしばり、涙をこらえ、ぷるぷると震えるのみ!!

ゲスト
脇澤美穂
（全日本女子プロレス）

か、かわいすぎる〜！　彼女をプロレス愛と言わずして、何と言えばいいのだろう。オレたちのプロレス愛を確認してもらうために、いまをときめく変態アイドルにラブレターを渡した。

なんと、選ばれたのはオ〜レ〜（椎名）!!　ちなみに脇澤さん、選んだ理由は？　「スイスに連れてってくれるんでしょ？　行きた〜い！」（脇澤美穂・談）とのこと。

プロレス狂の詩

真剣な表情で、ラブレターを読む、プロレス愛・脇澤美穂選手。この間、オレたち3人はつかみあいのケンカに。「美穂ちゃん、美穂ちゃん」と言いながら、カタブツにマウント・パンチを浴びせる。

肩を抱いて記念撮影。じつはこの前にものすごく緊張しながら「肩抱いてもいいですか？」と懇願。もう一生手を洗わないゾ！

今回の検証結果

この仕事をしていて良かった〜!!

プロレスは甘くない!!

と、思いきや、プロレス愛をナメるな〜!!　と全女お約束の公開制裁。他のマスコミのカメラマンやファンがいたのも気にならず、とっても嬉しかったです。この仕事していてよかった〜!!

どうでもいいことを　どうでもいい角度から　どうでもいい態度でメスを入れる

ザ・検証

［今回のテーマ］

レスラーヘア

～憧れのレスラーと同じ髪型にチャレンジ！～

プロレスの詩狂

「憧れのレスラーと同じ髪型にしたい！」そんな読者の声（幻聴）に応えるべく、今回はレスラーのヘアスタイルを大特集！　このページでお気に入りの髪型を見つけたら、さっそく美容院へGO！　帰りにヒクソン・ブランドかパンクラスの服を買って、オシャレにキメてね！

構成／せきしろ

「こんな髪型していたら10人いる友達が3人しかいなくなってしまう」（アントニオ猪木・談？）

フリー／ドリー・ファンクJrさん（56）

RADICAL HAIR CATALOGUE

最近、頭髪が寂しくなってきたキミ、キャップ（新日のDONTAKUのヤツ）を被ってごまかしてはいないかな？　そんな消極的じゃオシャレのレベルアップは望めないぞ！　もっと積極的に北米タッグ級のオシャレをしなきゃダメ。そこでお薦めなのが、このドリーのヘアスタイル。ポイントはなんといっても頭髪部を薄くすること。ただし、頭頂部付近にヒヨコっぽくいくらか毛を残すのを忘れずに。後は全体的に短く刈り込み、ブリーチで仕上げ。テキサスブロンコ魂の注入も忘れずにね！

★切り取って美容院に持っていこう

WWF／ホーク・ウォリアーさん（40）

プロレスも好きだけど、パンクロックも好き（中途半端な気持ちじゃなく）、後楽園ホールにも行くけど、消毒GIGにも行く、そんな暴走族スタイルのキミにはホーク・ウォリアーのヘアスタイルがお薦め。まず全体を数センチ程度に刈り込み、次にバリカンで中央及び耳まわりを２度刈りしましょう。この際、残す部分を尖らせる感じでバリカンを入れ、より荒削りなバイオレンスさを強調すること。人目が気にならない人はメイクにも挑戦してみるといいかもよ！

★切り取って美容院に持っていこう

RADICAL HAIR CATALOGUE

WCW／クラッシャー・バンバン・ビガロさん（37）

中途半端に髪の毛が残っていて「ハゲ」と馬鹿にされるくらいなら、いっそのこと全部剃ってしまう。これって、オシャレの上級者テクのひとつだよね。髪の毛を剃るだけでも独特の近寄りがたい雰囲気はかもしだせるんだけど、もっと社会から隔離されたいキミはビガロヘアでキメてみよう。カットのポイントは、スキンヘッドにすること。残念ながら美容室でできるのはここまで。あとは彫り師を探し、自分なりの入れ墨（歴代NWAのチャンピオンの名前を全部など）を入れましょう。

★切り取って美容院に持っていこう

RADICAL HAIR CATALOGUE

新日本プロレス／佐々木健介さん（31）

プロレスファンにはおなじみのヘアスタイルがこれ。一目見ただけでプロレスファンとわかるので、自己主張が苦手で、かつ交友関係やバイトできる場所をできるだけ狭めたいキミにはぴったりのヘアだ。ポイントは襟足部分と側頭部。側頭部を短く刈り込み、必要以上に後ろ髪を伸ばすだけ。個性を主張したいときは、側頭部の刈り込みを工夫（シマシマやギザギザに）してみよう。いろんな意味で周りの人に衝撃を与えられるぞ！　星条旗柄のパンツとゴールドジムのTシャツ等の定番に良くあうヘアだ！

★切り取って美容院に持っていこう

RADICAL HAIR CATALOGUE

今号の検証結果

今回の検証を読んで、さっそくヘアスタイルをかえたくなった人も多いんじゃないかな。基本的に上の写真を切りぬいて「これと同じくしてください」と美容師さんに言えば、嫌々そして渋々カットしてくれるはず。

というわけで、本当に上のレスラーと同じ髪型にした人を大募集！　顔写真を送ってください。またレスラーの髪型と同じ人も大募集！　長州と同じ髪型のお母さん、ハーリー・レイスと同じ髪型の親戚のおじさん（土建業）、近所の公園にすむブロディと同じ髪型の人の写真なんかを送ってください。

●送り先は……
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙のプロレスRADICAL』編集部
ザ・検証「バーバー・ラジカル」係

Treading on a
Tiger Tail

虎の尾を踏む男たち '99

みちのくプロレス
四代目 **タイガーマスク**

国際柔術連盟順道会館・館長
UFO（世界格闘技連盟）
村上一成

A³-Gym
小路 晃

和術慧舟會
宇野 薫

白い稲妻

小路晃参上!

(A³-Gym)

あの頃、オレは弱かった!

グレイシー柔術の強豪ヘンゾ・グレイシーと引き分け、カーウソン・グレイシー柔術の狂犬ヴァリッジ・イズマイウを左フックで吹っ飛ばしたミスター・プライド小路晃。打倒グレイシーに執念を燃やす小路晃がプロレスラーとして活躍していたということは意外と知られていない。小路さん小路さん、ちっと、プロレスラー時代の話を聞かせて下さい。

聞き手&撮影/チョロ
interview & photographs by Choro

『なあ〜みんなぁ〜……』

“ミスタープライド”
小路晃 衝撃の告白!!

「コレかぶれ」ってマスク渡されて（笑）

――もう大分経っちゃいましたけど（ヴァリッジ・）イズマイウ戦は見事な勝利でしたね。

小路　結果的には満足してますけど、まだまだもうちょっと長くやりたかったなぁっていうのがあります。

――試合後に言い訳させないように極めたかったわけですね。

小路　はい。言い訳できないよう極めたかったです。

――それにしても小路さんは『PRIDE』では結果を残しているし、着実に名を上げていってますよね。イズマイウを倒して、次に狙うはやっぱりヘンゾ（・グレイシー）の首ですか？

小路　はい。そうです。これ以上もう日本に、のさばらせておくワケにはいかないんで。ボクらの血はボクらで守ります。……何か古いですかね？（笑）

――アハハハ！　イヤイヤ古くはないです。実に頼もしいセリフです。

――最近プロレスマスコミからの取材は、『ファイト』ぐらいですよね？

小路　そうですね（笑）。『PRIDE.2』でジュアン・モットに勝った後に取材を受けました。

――小路さんは小さい頃からプロレスファンだったんですよね？

小路　はい。新日派です。猪木さん、タイガーマスクのファンでした。

――小路さんが柔道を始めたキッカケには、将来的にプロレスラーになりたかったていう部分はあったんですか？

小路　ありました（キッパリ）。

――アッ、やっぱりそうでしたか。プロレスラー志望で始めた柔道はどれぐらいの戦績を収めたんですか？

小路　全日本学生大会で三回戦までいったくらいですかね。

――本人いわく「柔道ではそこそこの成績だった」っていうことでしたけど、大学は柔道推薦で入ってるんですよね。中京大学ですよね。まあ………、愛知県の大学に行って知り合うわけですよね、青柳（政司）館長と（笑）。

小路　ハハハハ！　いよいよ本編に入るわけですね（笑）。

――思い切って本編に入らせていただきます（笑）。小路さんは誠軍団1号としてプロレスをやってましたよね。

小路　はい、やってました（微笑）。

――まずは青柳館長との出会いから伺いたいんですけど。

小路　はい。愛知県の豊田市っていうところに、大学の柔道部の寮がありまして、たまたま市のトレーニング場でトレーニングをしてたんですけど、そこを館長が利用してまして、ちょっと顔見知りになったんですけど。それで館長に「お前いい体格してるなぁ」とか言われたんですよ。「柔道の成績はどれぐらいなんだ？」って聞かれて、東海地区では一応優勝してましたから、「全日本大会で何回戦ぐらいです」って話をしてて……。

――館長も思ったんでしょうね、これは使えるなと（笑）。

小路　それで「プロレスは好きか？」って聞かれて、「はい、好きです」って答えたんですよ。でもその時はそれで別れて。で、一週間ぐらい経ってから、今度はパチンコ屋で。

――やってましたか、館長が（笑）。

小路　館長が10箱ぐらい積んでて、「アッ、館長だ！」って思って、「こんなにパチンコ勝ってるんだったら、奢ってくださいよ」って話をしてたら、「お前ちょっとプロレスやってみない？」って言われまして。

――そこで小路さんは即答したわけですか？

小路　「自分でも出来るんですか？」って聞いたら、「まあ異種格闘技戦みたいな感覚で、お前は柔道の選手なんだから」ってそういう感じで言われたんですよ。当時僕の中で館長は凄い人だっていうのがあって、実際凄かったですけど。

――その頃、青柳館長はどこのリングに上がってた頃ですか？

小路　その時はフリーでいろんなところへ上がってました。僕が大学の四年生の頃でした。ちょうど就職活動をしなきゃいけないくらいだったんですけど（笑）。

――内定をもらったわけですね（笑）。

小路　はい（微笑）。

――誠軍団1号というアイディアはどなたが考えたんですか？

小路　行ったら「コレかぶれ」ってマスクを渡されて（笑）。

――アハハハ！　そういうことだったんですか（笑）。それでコレなんですけど（誠軍団1号のデビュー戦の模様を報じる雑誌を差し出す）。

小路　ウワッ！　すごいッスね〜。（雑誌を覗き込み）懐かし〜、涙出そうです

98・10・11『PRIDE－4』。小路はヴァリッジ・イズマイウを相手に、キック、パンチでガンガン攻め込み、2ラウンド1分26秒、左フックでレフェリーストップに追い込んだ。試合後、お約束のマイクアピールは「なあ、みんなぁ〜、夢はあるかい」という、小路が尊敬してやまない尾崎豊の歌詞から取ったものだった。

Akira Shouji

97・10・11『PRIDE－1』。大方の予想を裏切り、ヘンゾ・グレイシー相手に引き分けに持ち込んだ小路。一夜にしてミスター・プライドの称号を手に入れた。試合前の「俺は噛ませ犬にはならねぇぞ！」というコメントは、本人いわく「長州選手の言葉を使わせてもらいました（微笑）」とのこと。実に好感が持てる格闘技男である。

よ。ウウゥ〜。

——アハハハ！　泣かないで下さいよ。

小路　でもホントに懐かしいですよ。大分前のことのような気がします。

——でもそんなに昔の話でもないんですよね。3年ぐらい前の出来事ですね。

小路　はい。

——『ゴング』にも誠軍団1号の事が載ってて、「実戦キャリアを積めば大化けするかも……」って書いてあるんですよ。見る目がありますね、『ゴング』は。実際プロレス界でキャリアを積んで大化けしましたよね、小路さんは。化けたところはプロレス界じゃなかったですけどね（笑）。

小路　はい、大化けしました（笑）。

——ボクはビデオでしか誠軍団1号を見てないんですけど、どういうファイトスタイルだったんですか？

小路　基本的には柔道をベースにしてたんですけど……。

——ムーンサルトとか、あとコーナポストからニールキックとかも出してましたよね（笑）。

小路　はい（微笑）。僕は闘うんだったらジュニアだなって思ってたんで、やっぱりライガー選手とか、あとはルチャ系も凄く好きなんで。

——バク宙は昔からできたんですか？

小路　ええ。昔からやってました。ラ・ケブラーダもやったんですよ。

——ケブラーダもやったんですか。イズマイウに勝った男が（笑）。

——小路さんは振り返ってみると錚々たるプロレスラーと闘ってますね。

小路　はい（苦笑）。

——やっぱりデビュー戦は緊張したんですか？

小路　緊張しましたね、やっぱり。館長から、「お前は格闘技路線で行け！」って言われて。

——館長も柔道スタイルで行くと思ってたら、いきなりムーンサルトとか出すもんだから驚いたでしょうね（笑）。

小路　館長には「やるじゃねえか」って言われましたね（笑）。でも結局、何がなんだかわからないままガツンとやられましたね（笑）。

——誰にガツンとやられたんですか？

小路　（アポロ）菅原さんと松崎駿馬さんです。

——そうだ、デビュー戦がアポロさんだったんですよね。プロレスでは柔道のキャリアは役に立ったんですか？

小路　自分ががやってきた柔道の力でどこまで出来るんだろうって、自分を試してみたかったっていうのはありましたけど。ガツンとやられました（笑）。

——実際対戦してみてどうでした、アポロさんは？

小路　菅原さんは、ザ・プロレスラーって感じでした（笑）。凄く力が強かったですし、腕とかもすっごい太くって、うわ〜これがプロレスラーなんだなぁって思いました。

——そういえば小路さん、側転エルボーもやってましたね。

小路　ハハハハ！　はぁい、やってました（笑）。見てるんですか（笑）。

——ビデオでですけど。ちょっと、しょっぱかったです（笑）。ロープワークとかも練習してたんですか？

小路　やりました。プロレスの練習はカブキさんに教わってました。

——エッ！　カブキさんに習ってたんですか？

小路　はい。合同練習みたいなのがあって、カブキさんに教えていただいてました。プロレスのちょっとした一つの動きでも、カブキさんは何十年もやってる方ですから、凄く勉強になりました。あの人にプロレスを習えば間違いないなぁって、上手い選手にはなれるだろうなぁって感じました。あと僕は（ケンドー・）ナガサキさんともやってるんですよ。

——もしかしてやられたんですか、ナガサキさんのイス攻撃！

小路　はい（涙目）。メチャメチャ痛かったです。次から次へとイスが飛んできてイスに埋もれてしまいました（涙目）。ナガサキさんのイスも痛かったですけど、栗栖さんのイスもメチャクチャ痛かったです（涙目）。体中電気が走りました。死ぬんじゃないかと思いました。

——アハハハハ！　情け容赦ないですからね、ナガサキさんと栗栖さんは。

小路　頭に食らったのも痛かったですけど、背中はも〜うホント電気が走りましたね。ああああああぁぁぁ〜って。ホントッ痛いですよ。受けたことのない人にはあの痛みはわからないと思います。

——もちろんボクはわからないですけど、アレはホント、プロレスでなきゃ体験できない痛みなんでしょうね。

小路　出来ないです（キッパリ）。格闘技

Akira Shouji

誠軍団1号&マスクド1号全戦績（ほぼ）

［東京プロレス］

【平成7年10月3日　青森県営体育館】
○45分1本勝負
誠軍団1号　1−0　松崎駿馬
青柳政司　アポロ菅原
◎青柳（片エビ固め、11分59秒）松崎

【平成7年10月6日　千葉公園体育館】
○30分1本勝負
伊藤力雄　ムサシ大山
アポロ菅原　1−0　誠軍団1号
◎菅原（片エビ固め9分42秒）大山

【平成7年10月24日　静岡産業館】
○30分1本勝負
伊藤力雄（カナダ式背骨折り、9分50秒）誠軍団1号

【平成7年10月25日　石川県産業展示館】
○30分1本勝負
川畑輝鎮（体固め、10分5秒）誠軍団1号

【平成7年10月30日　東京・駒沢オリンピック公園体育館】
○30分1本勝負
アポロ菅原（片エビ固め、7分49秒）誠軍団1号

【平成7年12月23日　東京・後楽園ホール】
○30分1本勝負
伊藤力雄（カナダ式背骨折り、7分57秒）誠軍団1号

【平成7年12月29日　東京・後楽園ホール】
○30分1本勝負
ムサシ大山（横入りしきエビ固め、9分15秒）誠軍団1号

［大日本プロレス］

【平成7年12月29日　東京・後楽園ホール】
○30分1本勝負
ケンドー・ナガサキ　1−0　青柳政司
山川征二　誠軍団1号
ナガサキ（体固め、11分52秒）1号

［東京プロレス］

【平成8年1月22日　福岡・博多スターレーン】
○15分1本勝負
伊藤力雄（エビ固め、10分24秒）誠軍団1号

【平成8年1月24日　福岡・大牟田市民体育館】
○15分1本勝負
増田明彦（時間切れ引き分け）誠軍団1号

【平成8年1月25日　長崎・出島ホール】
○60分1本勝負
石川敬士　1−0　青柳政司
畠中浩旭　誠軍団1号
石川（サソリ固め、14分18秒）

【平成8年1月26日　広島・呉市体育館】
○30分1本勝負
天一坊一慶（体固め、15分7秒）誠軍団1号

【平成8年1月28日　山口・由宇町文化スポーツセンター】
○30分1本勝負
アポロ菅原　1−0　青柳政司
畠中浩旭　誠軍団1号
畠中（片エビ固め、11分30秒）1号

【平成8年1月30日　三重・松阪市総合体育館】
○20分1本勝負
伊藤力雄（エビ固め、13分29秒）誠軍団1号

【平成8年2月3日　千葉・佐原市民体育館】
○15分1本勝負
増田明彦（時間切れ引き分け）誠軍団1号

【平成8年2月5日　東京・後楽園ホール】
○20分1本勝負
アポロ菅原（片エビ固め、13分7秒）誠軍団1号

【平成8年2月23日　高知県民体育館】
○15分1本勝負
増田明彦（時間切れ引き分け）誠軍団1号

【平成8年2月24日　愛媛・今治市公会堂】
○20分1本勝負
ブラディA　1−0　誠軍団1号
ブルースB　闘龍
B（北斗原爆固め、10分24秒）闘龍

菅原さんは、ザ・プロレスラーって感じでした

【平成8年2月26日　高知・中村市民スポーツセンター】
○20分1本勝負
増田明彦　誠軍団1号
川畑輝鎮　1－0　闘龍
川畑（片エビ固め、12分37秒）1号

【平成8年2月28日　三重・四日市オーストラリア記念館】
○20分1本勝負
ブラディA　誠軍団1号
ブルースB　1－0　増田明彦
A（網打ち原爆固め、12分38秒）増田

【平成8年3月2日　栃木・大田原市民体育館】
○20分1本勝負
栗栖正伸（STF、10分50秒）誠軍団1号

【平成8年3月4日　群馬・伊勢崎市民体育館】
15分1本勝負
B．ブルースB（横入り式エビ固め、9分1秒）誠軍団1号
○バトルロイヤル
増田明彦（逆エビ固め、6分19秒）川畑輝鎮
■退場順……栗栖、闘龍、ブルースB、菅原、誠軍団1号

【平成8年3月5日　福島・郡山セントラルホール】
○20分1本勝負
B・ブルースA（膝十字固め、10分20秒）誠軍団1号

【平成8年3月22日　山形県体育館】
○60分1本勝負
天一坊一慶　マスクド1号
大黒坊弁慶　1－0　ブラディB
G・カブキ　ブルースA
弁慶（体固め　13分24秒）マスクド1号

【平成8年3月23日　青森・東北町B&G海洋センター】
○20分1本勝負
増田明彦（時間切れ引き分け）マスクド1号

【平成8年3月24日　福島・会津若松市鶴ヶ城体育館】
○45分1本勝負
奥村茂雄　天一坊一慶
マスクド1号　1－0　大黒坊弁慶
ガルーダ　G・カブキ
奥村（エビ固め、18分41秒）天一坊

【平成8年3月27日　岩手・一関文化センター】
○20分1本勝負
ブラディB　マスクド1号
ブルースA　1－0　ガルーダ
A（体固め、11分15秒）マスクド1号

【平成8年3月28日　宮城・多賀城市総合体育館】
○20分1本勝負
奥村茂雄（原爆固め、12分49秒）マスクド1号

【平成8年4月2日　東京・駒沢オリンピック公園体育館】
○15分1本勝負
増田明彦（腕ひしぎ逆十字固め、11分15秒）マスクド1号

石川社長から闘魂を注入していただきました

やっていたら、あの痛みは経験できないですよォ。

――さすがにイス攻撃はバーリ・トゥードでもないですからね（笑）。

小路　あとは（大黒坊）弁慶さんとも試合しました。

――今考えると（エマニュエル・）ヤーブローみたいなもんですからね、弁慶さんは。何をされたんですか（笑）。

小路　ボディープレスです。それもトップロープからです。

――アハハハハ！　160キロに圧殺されちゃったわけですか（笑）。まあ笑い事じゃないでしょうけど。

小路　ケツから実が出るかと思いました（苦笑）。

――アハハハハハ！

小路　それぐらいの重圧感がありました。

プロレスラー時代の話をしてもらったついでに、雑誌『Cawaii!』特製マスク（提供＝本誌・吉田豪）を被ってもらいました。小路は嫌がる顔一つ見せず、逆にポーズまでとってくれた。更に『PRIDE.3』で対戦した松井について、「松井さんは凄い紳士的で男を感じました。好きなタイプの選手です。僕と通じるものを持ってるような感じがします」と絶賛発言。

――やっぱり階級制にして欲しいと？

小路　はい（苦笑）。……でもプロレスをやっていて一番凄かったのは、……こういう話から急にどう話を持っていけばいいのかわからないんですけど、石川さんとたまたま一緒になった時があって、スパーリングをやらせていただく機会があったんですよ……。

――エッ！　石川敬士さんとですか？

小路　敬士さんじゃなくて今バトラーツの社長をなさっている石川（雄規）さんです。

――スパーリングをしてたんですか、石川社長と小路さんが。

小路　はい。試合はしてないんですけども。石川社長には凄くかわいがってもらいまして、初めてスパーリングをしたときに、これが本物のプロレスラーだと思って感激しました。石川社長には関節も何回も何回も極められました。

――小路さんにとって、プロレスラーの凄みを感じさせてくれたのが石川社長だったわけですね。

小路　はい。それでトレーニングとかも一緒に付き合っていただきまして、スッゴイ体力してるなぁ、この人はって思いました。すっごいんですよ、腕立て一つとっても。

――ゴッチ仕込みのトレーニングだったわけですね。

小路　はい。腕立てとかも教えていただいて、ホントに凄いなぁって思って、「いろいろ話を聞かせて下さい」って言って、お酒を付き合ってもらって、「プロレスラーとはどういうものだ」「猪木さんはこういう人だ」とか、猪木さんの話で、朝までお話ししていただいて。

――それは二人っきりですか？

小路　はい。二人っきりで。その時に闘魂を注入していただきました。

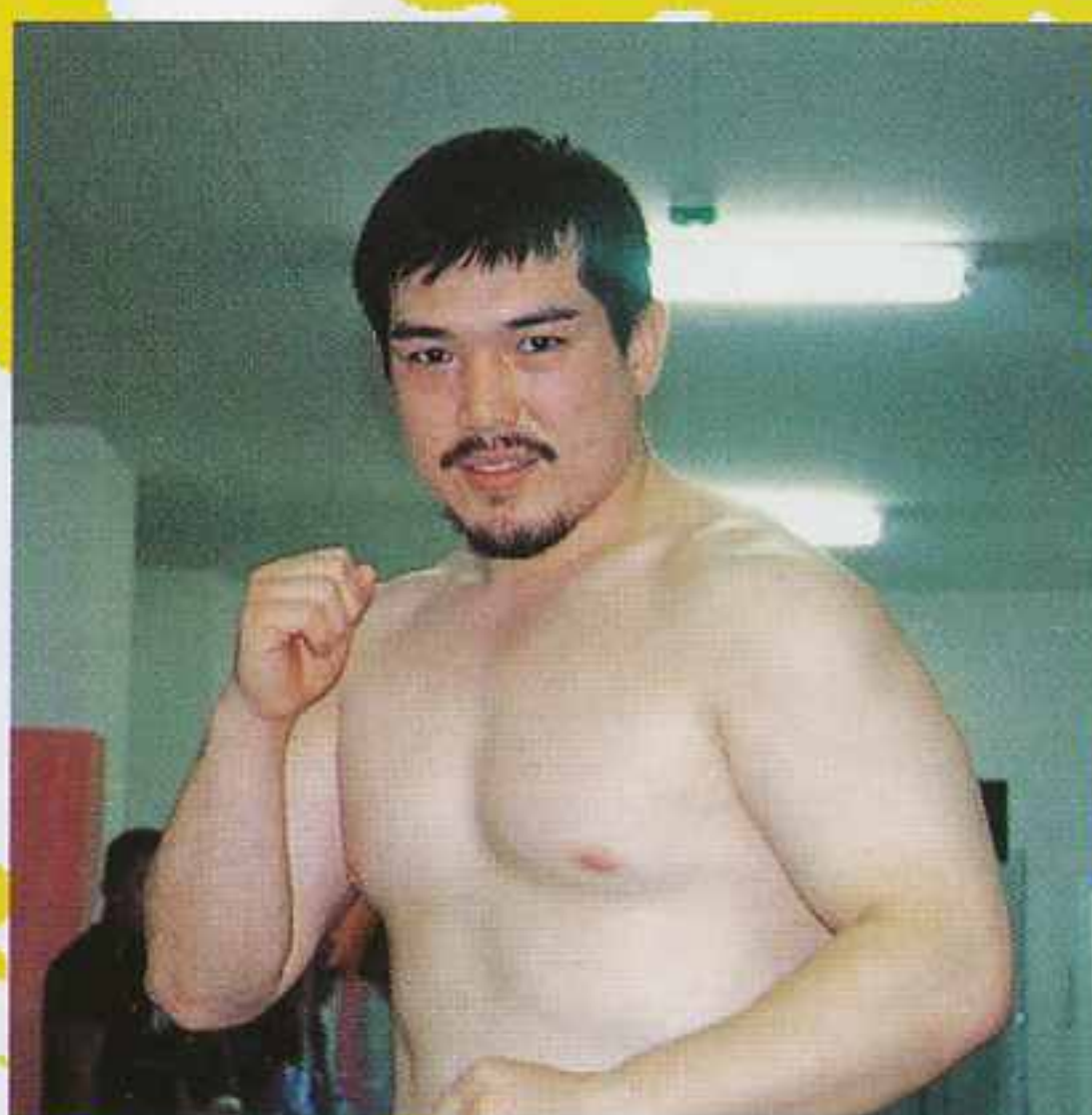
――アハハハハ！

小路　猪木さんの闘魂を石川さんが受け継いで、その石川社長の闘魂を僕が受け継ぎました（笑）。

――そんな素敵な一夜があったんですか。

小路　はい。

――石川社長は常々、「人の人生に影響を与えるようなレスラーになりたい」って言ってるんですけど、小路さんは影響されたわけですね、石川社長と出会って。

小路　はい。石川社長には本当に影響を受けました。それで『PRIDE.3』の時も石川社長に控室に来ていただいて、闘魂を注入していただきました。人間的にも尊敬していますし、なにか機会があれば、またお話ししたいなあって思ってます。

小路晃【しょうじ・あきら】1974年1月31日、富山県魚津市出身。172cm、85kg。誠軍団1号時代は、ブッチャーのセコンドに付き、試合後ブッチャーの体を拭きながら、おでこの傷をジーッと見て感動したり、トンパチマシンガンズ・リーダー折原にプロレスを教えてもらったり、ダイエーから鳴り物入りで入団した山之内健一と励まし合ったりと、いいエピソードを山のように持っているナイスガイである。

――いやー、それは実にいい話を聞かせていただきました。

小路　ただ僕がプロレスをやってたっていうことは今まで特に内緒にしていたわけじゃないんですよ。聞かれれば答えてましたし。

――その件について聞いてくる人がいなかったんですね。

小路　特別聞かれることはなかったですね。僕がプロレスをやってたっていうのも、僕の中ではやってるうちに入らないですし、プロレスラーって呼べるまでの選手じゃなかったんで、僕が半年ぐらいプロレスやってたっていうのでプロレスラーって言われたら、本当のプロレスラーの方に失礼だなっていうのがあって、一応自分から言うのは避けてました。でもプロレスをやっていたおかげで、今があると思ってます。

――プロレス界でキャリアを積んで大化けしたんですね、小路さんは。マイクパフォーマンスもそこで学んだのかもしれないですしね。

小路　はい（笑）。また機会があれば、やってみたいなって思います（微笑）。あと菅原さんには、「マスク着けるんだったらいつでも勝負してやる！」って言われました。

――アハハハ！　「誠軍団1号で来るんだったら負けないぞ！」っていうことなんですね。さすがアポロさん、トンチが効いてますね。

小路　僕も、誠軍団1号だったら菅原さんには勝てないと思います（笑）。

――アハハハハ！　今はバーリ・トゥードとかに出ていくプロレスラーって増えてきてるじゃないですか。逆っていない

虎の尾を踏む男たち '99

じゃないですか？

小路　いないですよね。

―プロレスラーは弱いって言う格闘家が「じゃあ俺がプロレスのリングで闘ってやるよ！」って言う人が出てきたら拍手喝采しますけどね。それを期待できるのが小路さんだと思ってるんですけど、いかがでしょうか？（笑）

小路　そうですか（微笑）。そうなると、僕の中で青柳館長を陽の当たる場所に復活させたいっていうのがあるんで、館長と一緒に殴り込みをかけたいですね。

―そうなったらリングネームは変えないとまずいですよね（笑）。

小路　名前は……、そろそろマスクを取って、出させていただきたいです。

―そんなこと言ってたら、いろんな団体から話が来ちゃいますよ（笑）。

小路　どうしましょう（微笑）。

―アハハハ！　プロレスのリングだったら、小路さんの得意としているマイクパフォーマンスも思う存分出来ますよね。

小路　はぁい（笑）。

―プロレスやってる時も、シューティングとか総合（格闘技）の方もずっと興味があったんですか？

小路　いや見てなかったです。でも北尾さんが負けたとか、ナガサキさんが負けたとか、そういうのは見てました。

―やっぱりそこでもプロレスラーが絡んでくるんですね（笑）。

小路　はい（微笑）。上京してからも、強くなったらプロレスに帰ろうと。

―アハハハ！　強くなってアポロさんを倒してやるって思ってたんですか？

小路　はい（微笑）。思ってたんですけど、総合の世界の方が面白くなってきちゃって。今は総合の方が好きですね。…ですけどプロレスも好きです（微笑）。

―両方好きだって言うんだったら是非とも二股かけて欲しいですね、小路さんには（笑）。得意技がムーンサルトの小路見っていうのも見てみたいです（笑）。

小路　はぁ（苦笑）。プロレスラーは弱いとか言う人もいますけど、僕はそんなに弱くはないと思いますよ、実際。

―小路さんが言うと説得力がありますね（笑）。もちろんこれだけ団体が乱立していて、中にはそんなに強くはないレスラーもいるとは思うんですけどね。

小路　はい（笑）。ところで村上（一成）は12月のUFOでは誰とやるんですか？

―まだ相手はわかりませんけど、新日の東京ドームにもおそらく出ることになると思いますよ。

小路　あぁ、多分出るでしょうね。絶対出ると思いますね（笑）。

―新日のリングに上がった村上さんの試合は見てみたいですか？

小路　見たいッスね（笑）。どこまで村上がプロレスが出来るのか（笑）。

―小路さんから見て、村上さんはプロレスセンスはあると思いますか？

小路　ん～、まあやれば出来ると思います。結構派手好きなんで（笑）。

―アハハハハ！

小路　僕も、プロレスはすこ～しだけやったことがあるんで、一応プロレスの世界じゃ僕が先輩ですから（笑）。

―アハハハハ！　そういうことになりますね。

小路　格闘技の世界じゃ村上の方が先輩ですけど、プロレスは僕が先輩です（笑）。でも本当に機会があればプロレスのリングにも上がりたいですね。やっぱりどっちも出来るのが一番理想ですよね。

―そうですね。プロレスラーも強さって絶対に必要なものだし、プロのリングに上がっている格闘家も強さだけじゃダメだと思いますからね。

小路　ホントそう思います。

―小路さん的には〝プロレス〟と〝格闘技〟って別物なんですか？

小路　いや、僕の中では一緒です。そんな垣根とかは僕の中ではないです。多少の違いはありますけど、根本的な部分は一緒だと思ってます。例えば菅原さんは当然ですけど凄く実力を持った人ですし、僕も三回か四回負けてますし。

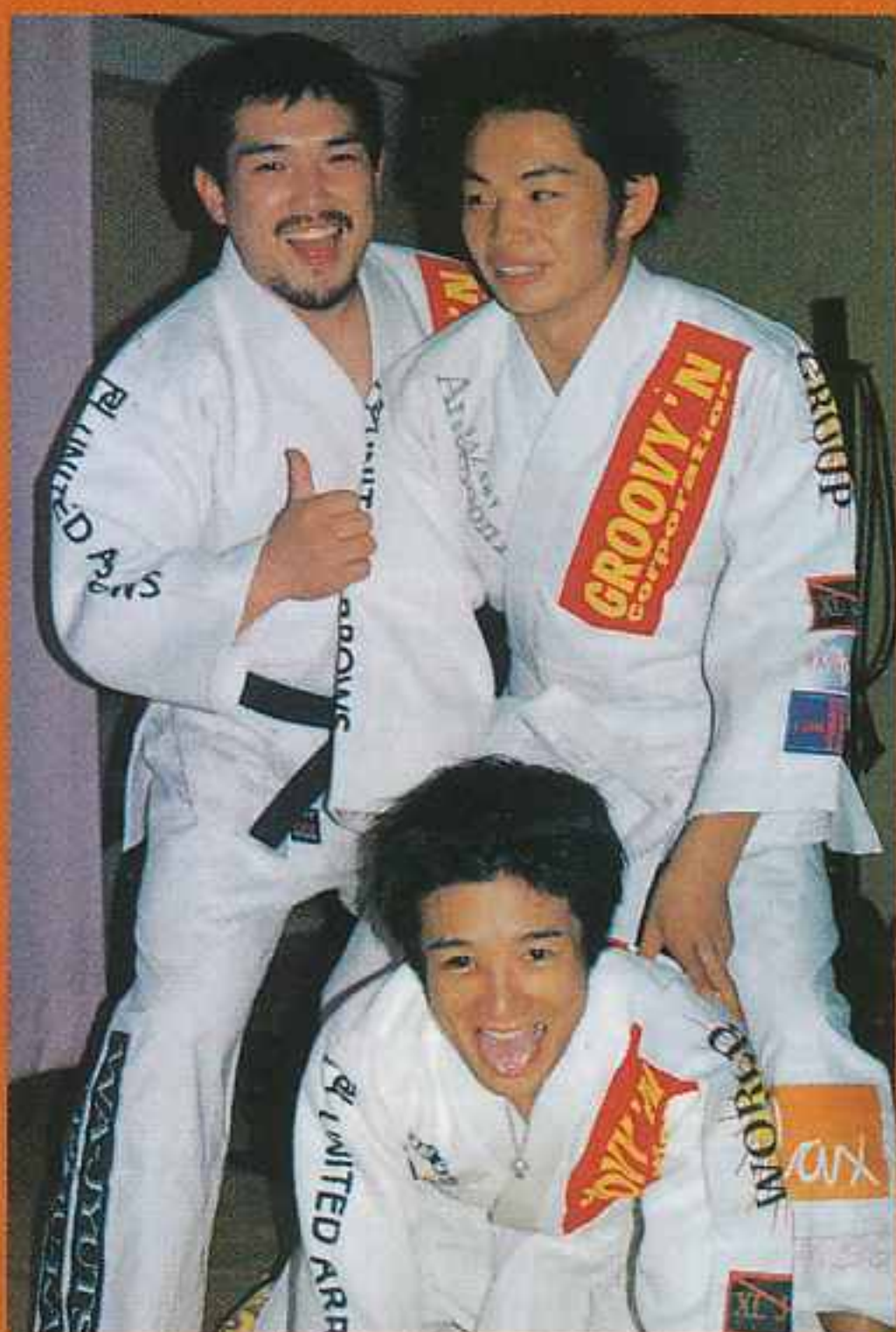
―プロの厳しさを叩き込まれたわけですね。三段論法で言うと……。

小路　はい（微笑）。菅原さんがイズマイウにも勝つ可能性も十分あると思いますし。菅原選手のラリアットって凄いキツイっすよ。でもあの頃はホントに面白かったですねぇ～。ホントに凄くいい思い出です。それしか残ってないですね。

―最後に言っておきたいことってなにかありますか？

小路　プロレスラーは、本当に、強いと思います。格闘技側の選手が言うほど弱くはないと思います。機会があったらやりたいと思っています。館長とタッグを組んでどっかに上がりたいです。

―やっぱり館長ですか（笑）。

【11月20日／A³－Gymにて収録】

PRIDE.4でイズマイウを下した翌日より正式にオープンした、小路が代表を務める「A³－Gym」（所在地＝東京・成増）。ジム名の由来は「明るく、飽きず、あきらめず」または「アキラ参上」というから素敵である。地下にあるGymは清潔感に溢れており、取材当日もジム生たちの激しいスパーリングが繰り広げられていた。入門希望者、及び、見学してみたいという人は同ジム（TEL03－3939－2509）までガンガン（イタズラ電話は禁止）。

Akira Shouji

虎のイライラの正体は？

プロレスラーはファイターなんですよ

4代目タイガーマスク！

吼える!!

（みちのくプロレス）

虎が吼えた!! 両国国技館で行われたUFO旗揚げ戦の第1試合でバトラーツの日高郁人と対戦した4代目タイガーマスクは、素晴らしい闘いを見せてくれた。ところが控室に戻る前の通路で虎はいきなり牙を剥いた。「あんなことを書くんだったら、ボクの試合は一切載せなくて結構!!」突然ブチ切れたコメントを出し始めたので、報道陣は一様に困惑した。
いましかない！というわけで、本誌を取材拒否中だった虎をなんとか口説いてインタビューを敢行。ニコニコ顔からポンポン飛び出す過激な咆哮に、あの男の強烈な遺伝子を見た！

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai

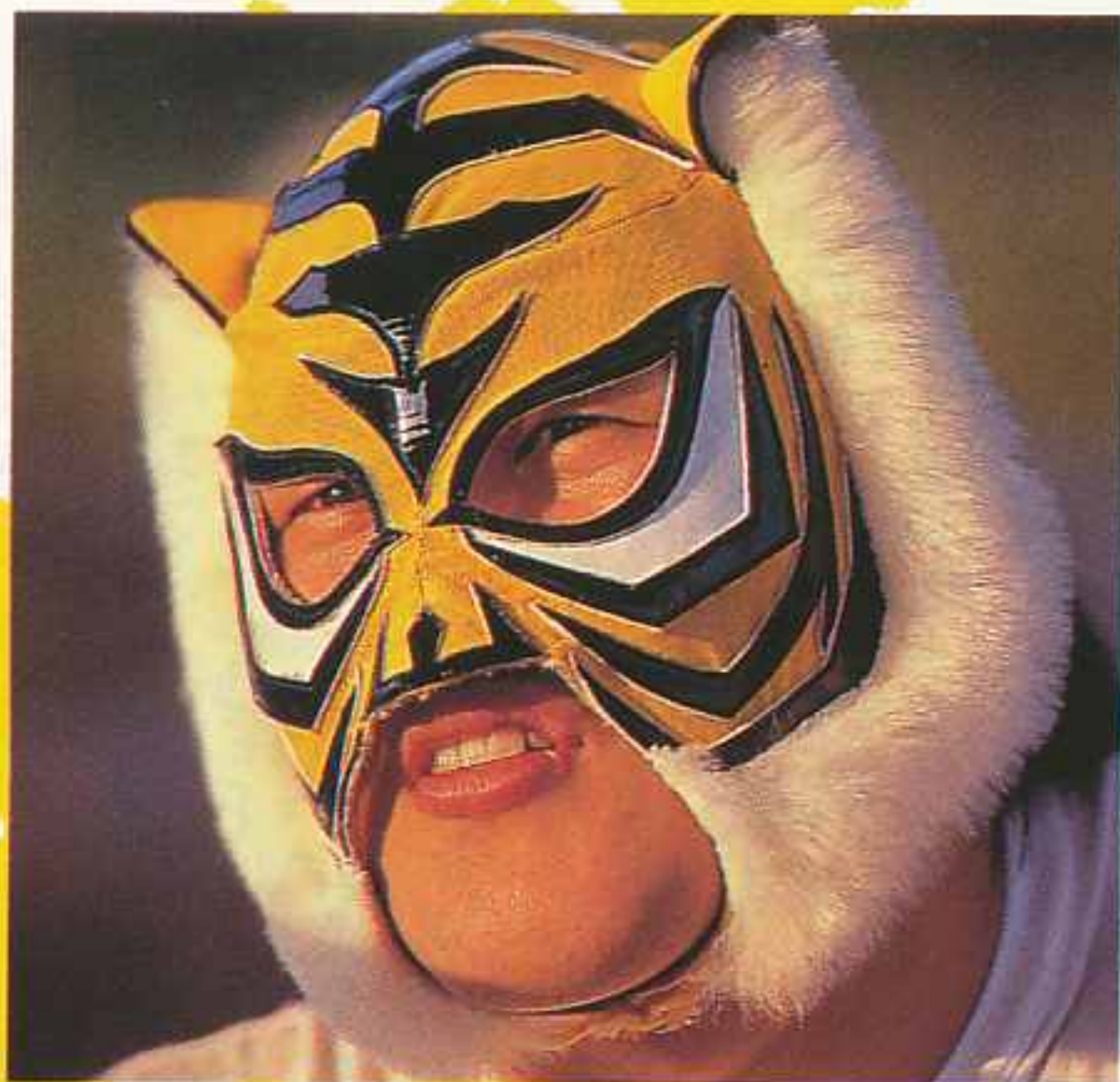
撮影／和智正夫
photographs by Masao Kazutomo

虎の尾を踏む男たち'99

――最近、タイガー選手は怒ってますね。

4代目　そうですね、いろいろと。どのへんから聞きたいですか（笑）。

――マスコミに対して火がついたのは、『PRIDE.4』の報道ですか？

4代目　いや、後楽園ホール（98・7・17）でやったvs土方隆司戦ですね。ホントはあいう格闘技マッチは本当はやりたくなかったんですけど。真樹（日佐夫）先生から、梶原（一騎）先生のためにやってくれないかと言われて。やったんですけど……オレはやれと言われれば出来ますよ、別に学生プロレスやってたわけじゃないし、格闘技やってましたから。ただ、許せないなと思うのは、やったことをマスコミの人もキッチリ書いてくれればいいのに「タイガーマスクが出たから、しょせんショーじゃないか」と思われるのが嫌なんですよ。

昨年10月、本誌元編集員のものもが、４代目タイガーマスクに執拗にインタビューをさせてくれと迫ったことがあった。しかし、どんなに頼んでみても「『紙プロ』だから」と、なかなか取材を受けてもらえず、結局「ほえ～、ダメでしたぁぁ」（のものも・談）となったいきさつがあったのだ。これは、その際に撮影したものの、結局お蔵入りとなっていた写真である。こんなニコニコしてるのに、受けてくれないとはねえ。ちなみに、今回、取材が解禁となった理由は「もう１年以上経つから大人げないなと思って。アハハハァ」とのこと。

――頭の固い人たちに言わせると、「格闘技は格闘技なんだから、面白おかしくするんじゃない。タイガーマスクは必要ないだろ」と思ってるんでしょうね。偏見の対象になってますよ。

4代目　オレ自身はどうでもいいんですよ。マスクを被ったタイガーマスクは、もちろんプロレスラーなんだけど、その中身はシューティングをやってきた人間だから。オレはプロレスも知ってるし、格闘技も知ってる。オレが言いたいのは、「やれば出来るよ！」ってことなんです。

――それが『PRIDE.4』のアレクのセコンドについたことにつながってくるわけですね。

4代目　あのことを書いた週刊誌の記事で、いちばん火がつきましたね。「4代目タイガーマスクがセコンドについてちょっとキテレツ感もあったが……。いや冗談です」って書いてありましたけどね、お前の方がキテレツで冗談だろう!!

――アハハハ、気持ちいいですねぇ。

4代目　オレはあの試合の前に、バトラーツの島田さんから「セコンドついてくれるかな」って言われたんですけど、断ってたんですよ。

――えっ、そうなんですか。

4代目　ああいうふうに書かれるのはだいたいわかってましたから。オレがお客さんだったとしたら、タイガーがセコンドについたら面白いと思いますけどね。ギャップが激しいっていうのは、ボクもわかりますよ。そこでアレクが気を悪くしないかなと思ってね。

――逆にアレクは、そういうギャップもしっかり楽しめるし、どんどん自分からやっちゃう方ですよね。

4代目　アレクが気を悪くしないならということでセコンドについたら、『週P』にあの記事が出ましたからね。

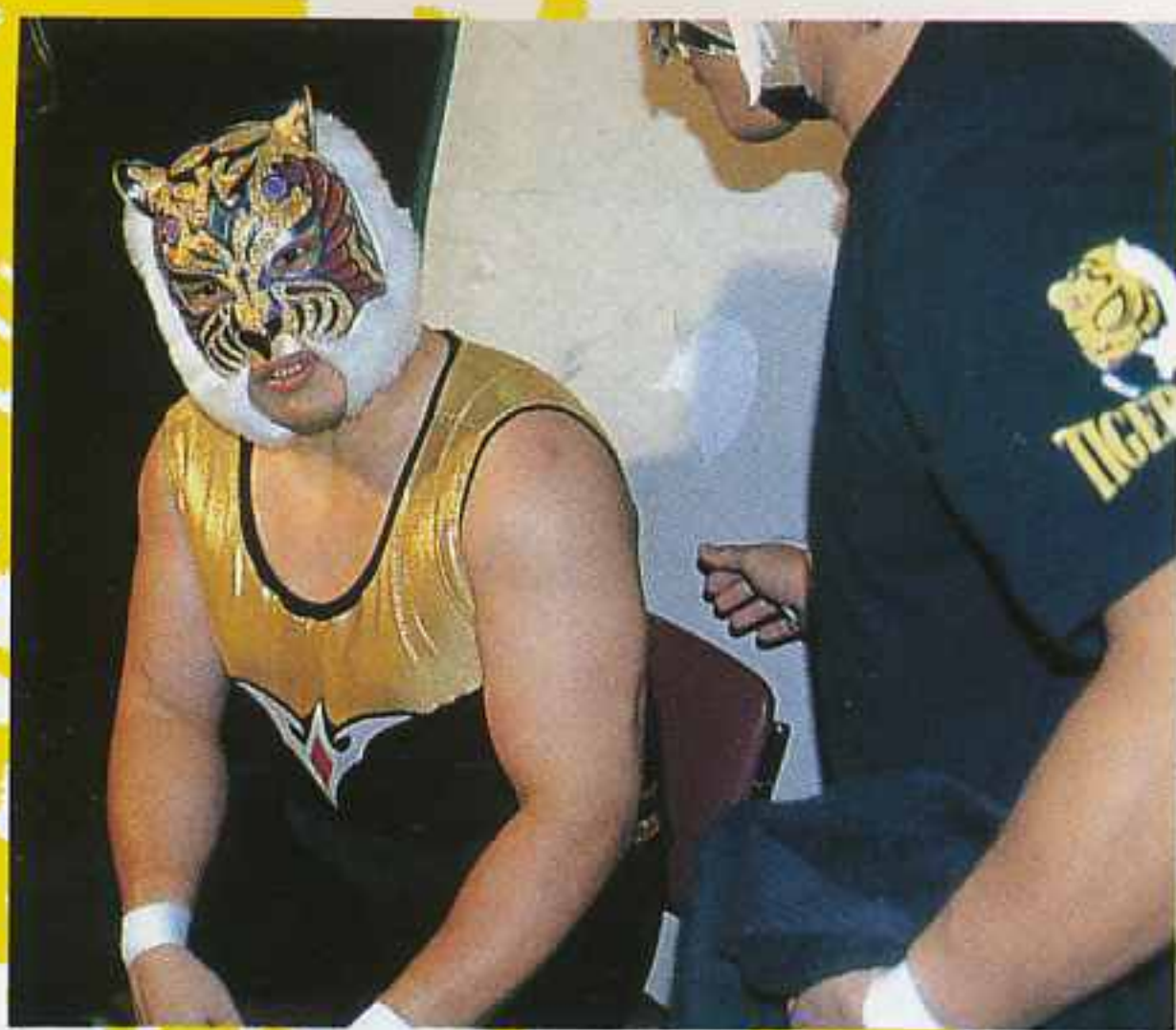
――それがUFOの第一試合（vs日高郁人戦）後のコメントで大爆発したと。あの試合は素晴らしかったですよ。あれでUFOの何たるかが、わかりました。

4代目　でも、試合が終わった後、たまたまそれを書いた安田拡了がいたからああいうことになったんです（笑）。

――あっ、あれはヤスカクさんだったんですか（笑）！

4代目　そうだ、この前の福島大会にパンクラスの山田（学）さんが来て、一緒に食事に行ったんですよ。そしたら「なんで（安田さんに）怒ってるの？　オレは仲がいいぜ」って言ってたんですよ。それは知ってますけど、「オレは嫌いです」ってはっきり言いました（笑）。

――気持ちいいですね（笑）。ウチでも、その人に関しては、「問題ありますよ」ということを言い続けてきましたから、思う存分言ってもらって結構です（笑）。

4代目　マスコミの力は大きいのはわかってるから、文句は言いたくないですけどね。なぜオレがあそこについたかと言

Tiger Mask

10・24でUFOで4代目タイガー・マスクが激怒した真相!!

10月24日、ＵＦＯ旗揚げ戦で第一試合に登場したタイガーマスクは特製マスクを着用して、大事な一戦に臨んだ。バトラーツの日高郁人相手に、打、投、極、マウントと止まることなく動き続け、勝利を飾った。その見事な試合ぶりで、ＵＦＯスタイルを見事に観客に伝えることに成功した。しかしＵＦＯを取り扱った専門誌は、タイガーの試合後のコメントを黙殺した。

その場では、何のことやらさっぱり意味不明だったが、よく見てみると、『週プロ』ＮＯ．880のアレクvsマルコの試合レポート中に、問題の文章を発見！　そのページの左下には（拡了）の文字がっ!!

そして、『ゴン格』（12月号）では「数日前、朝日昇がかつての仲間である４代目タイガーマスクにこと細かくマルコ対策を電話で授けた」と、アレクの勝利にブレーンがいたという後日談を披露。話しが細かくなりすぎて、朝日以上に大きな影響を及ぼしているであろう高阪の存在には触れられていなかった。勝ったのはアレクでしょ。

えば、オレがもともとシューティングにいて、格闘技というものを知ってるからですよ。なぜ、それを素直に書けないのかな!! 最後に「冗談です」とか書く、ああいうふざけたことをするからオレは嫌なんですよ。「これは画期的なことです」みたいなことだったら、まだいいですよ。冗談なら書くな!! 冗談で仕事するか!? 「タイガーマスクを見るんじゃなくて、マスクの中のオレを見ろ!」って言いたいんですよ。なぜ、山田さんには「昔、シューティングやってて……」ということを書けて、オレには書かないんだろう? オレが通って来た道なんですから、過去は消せないですもん。

――「プロレス」を持ち上げようとして、「シューティング」という言葉を意図的に使わないようにしてるとしたらバカですよね。

4代目 うん! 冗談書きたいんだったら、オレの試合を見ないでほしいですよ、オレの個人的な感情ですけどね。

――ウチも長いことタイガー選手に取材を持ちかけてましたけど、受けてもらえませんでしたよね。昨年、さかんにアタックしてたんですけど、どうしてもダメだった。

4代目 取材拒否じゃないんですよ、関わりたくなかっただけ（笑）。いいんですか、こんなこと言っちゃって?

――ガンガン言っちゃってください!

4代目 まずね、問題ありますよ、おたくの編集長の山口日昇さんは!!

――あ、山口日昇も問題ありますよ。

4代目 下の選手は小馬鹿にしてる感じがしますね。

――社長やってる人間に、下の人間の気持ちなんてわかりゃしないんです。

4代目 のものもには悪いことしましたけどね、個人的には何の恨みもないし。山口日昇には会場で会っても、お互いに挨拶しないけど（笑）。

――いいんですよ、出会い頭にクソぶっかけてやってください（笑）。

4代目 戦争しますか?（笑）。言い合いが出来る関係のマスコミの人っていないですからね。あんまりこういうことを言うと、生意気だと思われるからなかなか言えないですけど。

――それ、おもしろいですね! ボクはタイガーさんを応援しますよ!

4代目 何で『紙プロ』嫌いになったか、よく覚えてないんですけどね（笑）。ちょうどその頃、「さよならタイガーマスク、永遠に」みたいな記事を見たんですよ。「『さよなら』って、初代も何もついてないから、オレのことかよ?」って思って。それを『紙プロ』の記事だと思ってましてね（笑）。

――うちの雑誌をくまなく探したけど、そういう記事はないんですよね。

4代目 山口日昇をムカつく気持ちと、その記事がリンクしちゃったんでしょうね（笑）。

――もう、山口日昇に挑戦状を叩きつてやってください!

4代目 オレの勘違いもあったかもしれないけど、あなたはプロレスと選手をナメてる! もうちょっと、選手との接し方に真剣になりなさい!! 今度はタイマンでインタビューしましょう。やる気があるならね（笑）。

――その出所不明の記事にしても、ヤスカクさんにしても、格闘技とタイガーマスクの両方を背負ってしまうと、どちらかのプライドを傷つけられる場合も多いから大変でしょうね。

4代目 それが頭に来るんですよ!! 格闘技とプロレス両方の記事を書いてる記者なら、余計にわかるはずでしょ? 何をそこまでマスクにこだわりを持ってるんだって!!

――タイガーさんのこだわりの持ち方もおもしろいですよね。

4代目 とにかくオレはね、プライドを傷つけられたら黙ってないですよ。UFOについても、そうですよね。

――旗揚げ前に『週刊プレイボーイ』のインタビューで佐山さんが「ガチガチの真剣勝負ではない」「単なる総合格闘技とはまったく違う」「かといってプロレスのグレーゾーンを排除するというのとも違う」と言ってたんです。

4代目 佐山先生がそう言ってるんだから、それをそのまま書けばいいじゃないですか。それは、いちばんマスコミがわかるはずじゃないですか!!

――マスコミって、どっちかに針を振り切ってしまいたいんですよね。

4代目 そうなんですよ! それがいけないんですよ。だからオレがバーリ・トゥードをやったときも「プロレスなのかな?」って思ったんでしょうし、アレクのセコンドについたときも「場違いなんじゃないの?」って思ったんでしょうね。

――最近、エンセンさんが『ゴング格闘技』誌上で「バーリ・トゥードのプロレスはよくない」って暗にUFO批判をし

「オレの格闘技の先生であり、人生の先生」初代タイガーマスク＝佐山聡のセコンドについた4代目。シューティング大宮ジムで、ときにはやさしくときにはボコボコにされながら、格闘技と人生の厳しさを教わったという。4代目は、シューティング史上最長の約2年付き人を務めた。

4代目にはもう一人先生がいる。プロレスの手ほどきをした、いまはヒールとして暴れまくっているザ・グレート・サスケ（現・SASUKE）である。

Tiger Mask

★本誌編集長は、このインタビューを読み、こう叫んだ「よろしくお願いしま〜す」

オレはプロレスラーだけど強くないですよ

てましたけど。

4代目 ありましたねえ。佐山先生も「ガチガチの真剣勝負ではない」って言ってますから。わかる人にはわかりますよ。ボクはエンセンとも普通に話すし、揉めてないですよ。

—デビュー前は一緒にスパーリングもやってたんですよね。

4代目 そうです。大宮ジムで練習してましたけど、オレは劣等生なんですよ。佐山先生は「4代目はトップ・クラスの才能がある」って言ってくれますけど、そんなことないです。

—タイガーさんが在籍してた頃のシューティングには、「プロレス嫌い」の風潮が残ってたと思うんですけど。

4代目 いまでも（佐藤）ルミナ君なんかプロレス嫌いですよ。でも、オレがいるからみちのくプロレスは大好きだって言ってくれるしね。エンセンや他の選手も見に来てくれる。オレも格闘技だかプロレスだかわからないような中途半端なことはしないし。サスケさんのファンも多いんです。いまシューティングは、ほとんどみちのくプロレスのファンですよ。

—逆に、去年から格闘技側の「ガチプロ」批判がすごく増えてきてますよね。

4代目 そういう声が出るのも知ってるから、格闘技系の試合はあんまりしたくないんですよ。これは胸張って言いますけど、オレはプロレスラーだけど強くないですよ!!

—上には上がいる、と。

4代目 そんなの当たり前。素直に認めなきゃダメですよ。じゃなきゃ、向上心なんて、出るわけないですもん。

—たしかにプロレスラーが胸張って「最強」っていう時代は、もうとっくに終わってますよね。

4代目 だから、プロレスラーが格闘技の試合に出るのはよくないと思いますよ。

—逆に、変なプライド持たずに取り組んでいった人たちが結果を出したと。それが、高阪（剛）選手や桜庭（和志）選手やアレク選手ですよね。

4代目 そう!! オレが言いたいのは、そういう試合に出るんだったら少なくとも3ヶ月でもいいから、そういう練習をやるべきだってことですよ。他の競技に挑戦するんだったら、プロレスラーのプライドを捨てて……プライドはいいけど、悪い方に行っちゃうとダメですよ。

—なかなか難しいですけどね。

4代目 それが初めて出来たのが佐山先生なんですよ。先生は、プロレスラーだったけど頭を下げて、お願いしてたじゃないですか。オレだってキックのジムに行ったら、向こうの練習生にだって「お願いします！」って言いますよ。それが礼儀です！ それが男ですよ！ 本物の格闘家ですよ！

—「実るほど頭を垂れる稲穂かな」って感じですね。

4代目 そう、稲穂ですよ!! オレがタイガーマスクだっていっても、偉くなんかないですよ。もちろん、プロレスラーだっていうプライドは持ってますよ。でも、違う競技をやるんだったら、頭を下げるべきですよ。

—佐山さんはいろんな要素を貪欲に吸収していきましたもんね。

4代目 それがレスラーですよ。プロレスだけやって、「レスラーです」って言ってるのはおかしいですよ!! 先生は「お前はよくプロレスを理解した」って言ってくれますけどね。たしかに、受け身や試合の組立が上手いのは重要ですよ。プロレスラーですもん。ただ、「プロレスラーって何？」って聞かれたら、まずファイターなんですよ!!

—猪木さんも「プロレスとは闘いである」って言ってましたよね。

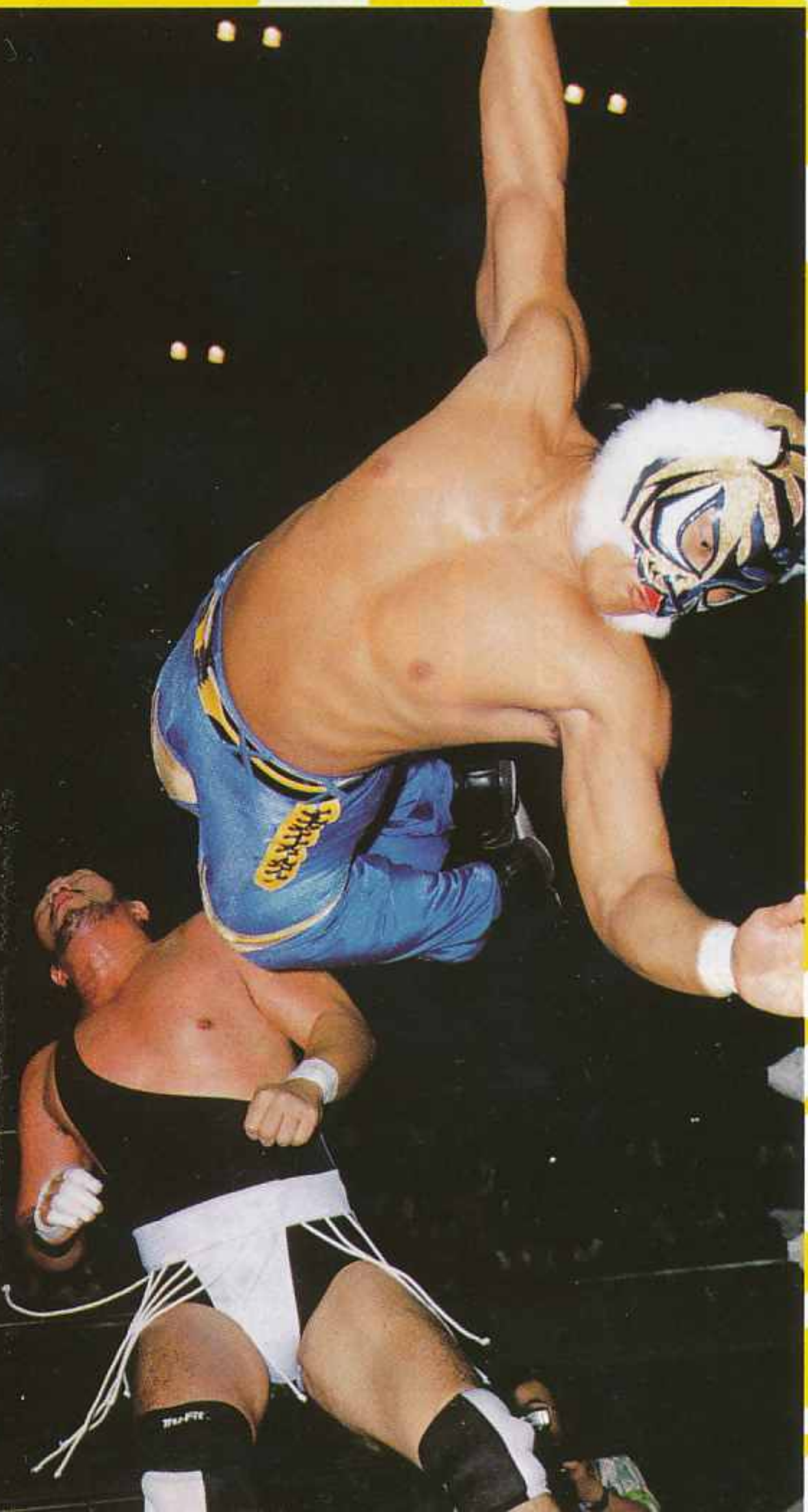
4代目 でしょ？ 何を頭に入れて試合をしなきゃいけないかといったら……受け身？ そうじゃないでしょ？ 相手を倒すことでしょう。それなりの技術が必要なんですよ。その次にケガをやわらげる受け身を覚えたり、身体を作らなければいけないと思うんですよ。それが出来ないのに、プロレスはこうあるべきみたいな講釈だけたれるヤツもいますけどね。そんなことしてると、ナメられますよ!!

—ナメられてはいけない、と。

4代目 オレ昔、あんまり頭に来る観客がいたもんだから、その野郎に向かっていったことがあるんですよ！ ブン殴ってやろうと思って!!

—変な野次でも飛ばしたんですか？

4代目 そうそう。あんまりひどい野次だとやる気なくなるんですよ、ファンの正直な気持ちなんでしょうけど。会社や先輩にも、「タイガーマスクはそういうこ

みちプロマットでは目立った活躍はしていないが、独特の存在感を醸し出す存在となったタイガー。全パンタロン選手がライバルというモハメド・ヨネの視界にも、きっとタイガーは入っていることだろう。

佐山先生を見てたからこうなっちゃったのかな？

とやっちゃだめだよ。子供たちのアイドルなんだから」って怒られますけど、プライドなんですよ!! オレは心の広い人間じゃないし。

――結局、殴ったんですか？

4代目 いや、逃げちゃいました。で、この前、そのファンがオレの前に来たんですよ。最初ブン殴ろうと思ったんだけど「タイガーさん、いままでボクは野次ばっかり飛ばしてました。すいませんでした」って、言ってきて。素直に来られちゃった（笑）。で、「いいですよ」って答えたんです。そしたら「ボク、UFOの雑誌の記事を読みました。ボク、タイガーさんにそういう試合をしてもらいたいんです！ そういう強いの見たいんです！」って言われたんですよ。そのときは、UFOに出て良かったなって思いましたよ。株は上がったなって。だから、佐山先生は先を見る目があるんですよ!!

――たまに先過ぎて、ホントに見えないこととかありますけどね（笑）。

4代目 たった1人のファンかもしれないですけど、オレにとってはデカイですよ。ましてや東北で言われたんですから。

――それまでわかってもらえない部分が多すぎたということですね。

4代目 でも、オレにはオレのやりたいスタイルがあるんですよ!! なんで客やマスコミに媚びなきゃいけないんだって思いも心の中には残ってるし。

――タイガーさんにとってのやりたいスタイルってどういう試合なんですか？

4代目 UFOみたいなスタイルでしょうね。オレがいつも言ってるように、タイガーマスクとスーパータイガーが交ざればいちばんいいと思う。

――ほどよく格闘技路線というか。

4代目 ファジーですよ。

――飛び技重視のスタイルは……。

4代目 だって、出来ないもん!!

――そう言われちゃうと、身も蓋もないんですけど（笑）。

4代目 いまさら、このプロレス界でどの技やるんですか？ 下手したら死にますよ。場外で10回転ぐらいしないと認めてもらえないじゃないですか。

――去年は、実際に死亡事故がありましたからね。

4代目 そうでしょ？ 俺がなぜシューティングをやってたかっていったら、オレがシューティングをベースにするからでしょ。なんでパンタロン履いてるか、わかりますか？

――ベニー・ユキーデを意識したとか？

4代目 あれは佐山先生が履いてた赤いパンタロンのイメージなんですよ。オレは格闘技色を強くしたいから!! でも、格闘技色だって危険なことには変わりないですよ。オレが蹴って、相手の首が折れちゃうかもしれないし。オレはそれだけ、技に磨きをかけたい。自分の器ってものをわかってますから、その中でいろいろ引き出しをつくればいいんじゃないかなって思いますよ。ナイフを常にチラつかせて、出さなくていいんですけど、そういうのがオレの持ち味ですからね。

――タイガーさんは自分の性格を自分で分析するとどんな感じですか？

4代目 ……寅さん。

――うまいですねえ（笑）。

4代目 いやいや、ホントに。自由に生きたいんですよ。ゴーイング・マイ・ウェイしたくて。

――ヒーロー願望ってないんですか？

4代目 ないんですよねぇ。マスク被ると恥ずかしいんですもん。

――普通、マスク被れば平気なはずですよね（笑）。

4代目 何でだろう？ 欲がないんですよね。

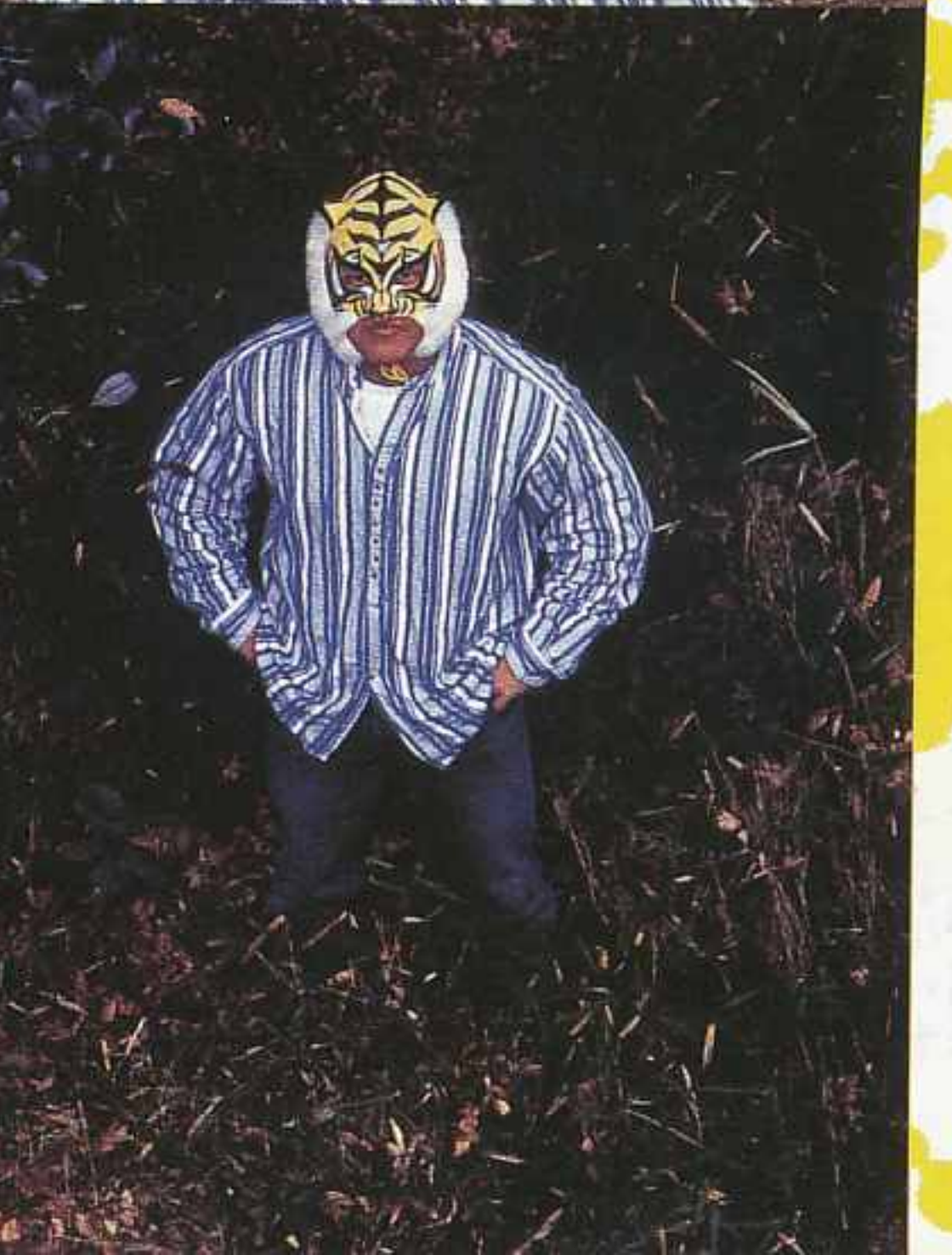
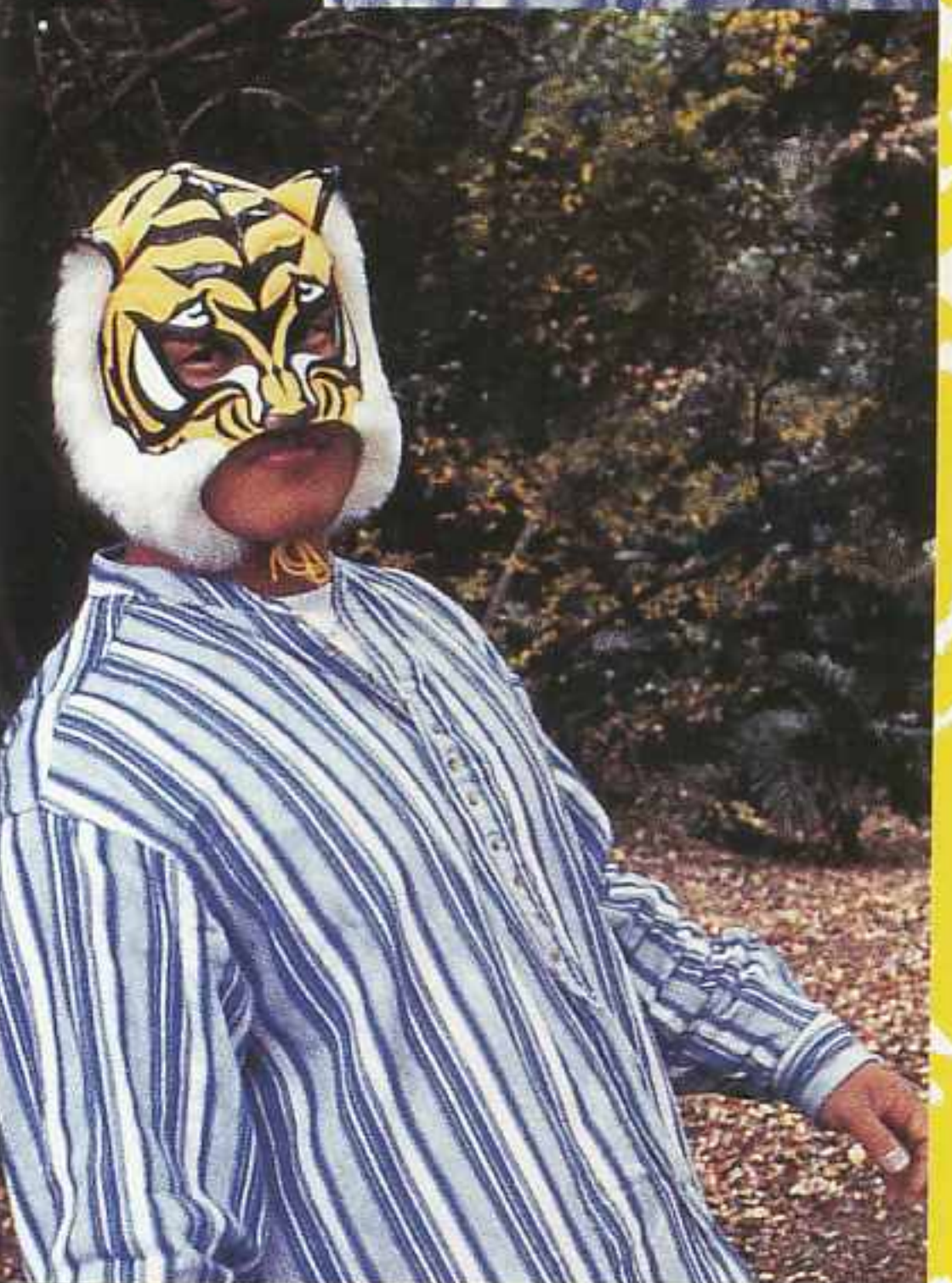
――リング上で、「トップ取ってやろう」という欲は出してないですよね。

4代目 わかる人が見てわかってくれればいいと思ってますから。試合を見て、わかる人が増えればいいです。あんまり口でプロレスしたくないから。

――他団体に打って出たいという欲はないんですか？ 例えばリングスとかパンクラスとか。

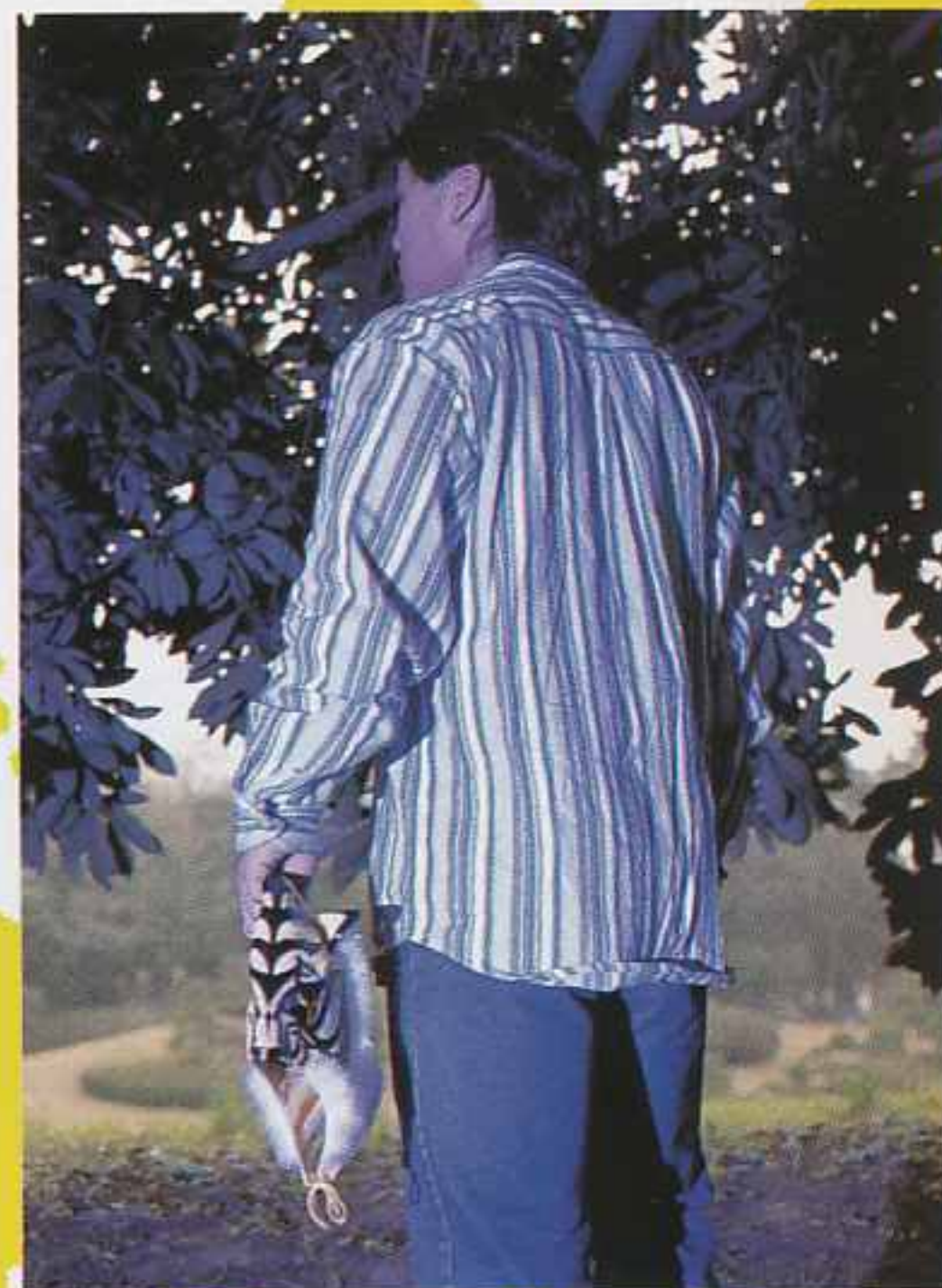
4代目 ないですねえ。UFOに上がったのも佐山先生がいたからですから。バトラーツはいいなあと思いますけどね。もっと上がりたいです。

――話しを聞いてると、義理とか筋とかを重んじる性格みたいですね。

4代目 小さいことでも、筋はキッチリ通しますよ。オレはそういうことを佐山先生に習ってきたし、格闘技は礼に始まり、礼に終わるんですよ。佐山先生見れ

Tiger Mask

ばわかるでしょ？　あんなに日本中を席巻してた人が「すいませ〜ん」って言ってるんですよ（笑）。
──巨大な隠れ蓑のような気もしますけどね（笑）。
4代目　あれもわざとじゃないですから。それが強い人なんです。オレは洗脳されちゃったかな（笑）。
──いまだ洗脳は解けず（笑）。
4代目　一生解けなくていいですけど。佐山先生が困ったら何かしたいし。
──サスケ社長はいかがですか？
4代目　いま、ヒールになっちゃいましたけど、オレのプロレスの先生ですからね。

虎の尾を踏む男たち'99

私生活でも助けて頂いてましたからね。
──佐山さんは理想の格闘技を作るというゴール設定がある。サスケ社長もみちのくプロレスを世界に広げるというゴールがある。タイガーさんのゴールはどこに設定してるんですか？
4代目　ハワイ。
──へ？
4代目　ハワイかフロリダかアカプルコでもいいですよ。何も考えないでのんびりしたいね。多少、お金は持って。
──贅沢なゴールですね（笑）。

よんだいめ・たいがー・ますく■昭和45年10月20日生まれ。出身地不明。A型。プロレスラー志望でメキシコへ渡ろうとしていた当時、憧れの初代タイガーマスクを紹介される。やがてシューティングに入門。エンセン井上、朝日昇らと練習に打ち込みながら、2年後にプロレスラーへの道が開ける。平成7年7月15日、後楽園ホールで行われた『格闘技の祭典』vsザ・グレート・サスケ戦で4代目タイガーマスクとしてデビュー。TAKAみちのくとのライバル抗争はみちプロマットを燃え上がらせた。最近は、UFOのオープニングマッチで好勝負を披露した。12月30日のUFO大阪大会にも出場を予定中。173センチ、84キロ。

4代目　消極的で、欲がない、だけど我を通す（笑）。
──タチ悪いですねえ（笑）。中学生の頃、頭の中にぼんやり描きがちな夢をそのまま持ち続けてるんですね（笑）。
4代目　中学生の頃は、ちゃんと夢がありましたよ！
──何ですか？
4代目　電車の運転士。もちろんプロレスラーにもなりたかったんですよ。
──プロレスラーになってみたら、夢がでかくなりましたね。
4代目　何やっていいんだかわからなくなっちゃって（笑）。なるようになりますよ!!　たぶん来年、みんな死にますもん。
──ノストラダムスの大予言ですか。
4代目　そう！　死ぬ。死ぬもん。もう、とにかく疲れること嫌いなんですよ。佐山先生を見てたからこうなっちゃったのかな？
──佐山遺伝子ですね、おそらく（笑）。
4代目　先生も疲れること嫌いだし。
──ちなみにタイガーさんは甘いもの好きですか？
4代目　大大好き（笑）。
【98年11月30日、東京・虎の穴にて収録】

みちのくプロレス 出稼ぎシリーズ
ルチャの国から'98-'99 〜未来と闘え〜

12月15日(火) 新潟・新潟フェイズ (18:30)
12月16日(水) 神奈川・小田原アリーナ・サブ (18:30)
12月17日(木) 新潟・越路町民体育館 (19:00)
12月18日(金) 富山・魚津市ありそドーム (18:30)
12月19日(土) 神奈川・クラブチッタ川崎 (18:30)
12月20日(日) 京都・KBSホール (18:30)
12月21日(月) 静岡・アクトシティ浜松 (18:30)
12月22日(火) 千葉・ポートアリーナ・サブ (18:30)
12月23日(水・祝) 静岡・ツインメッセ静岡 (15:00)【最終戦】
'99年
1月 8日(金) 北海道・札幌中島体育センター (18:30)
1月10日(日) 宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ (15:00)
1月13日(水) 東京・後楽園ホール (18:30)

詳しいお問い合せは
TEL.019-626-1333　みちのくプロレスまで

みんな誤解してます 佐山さんは温かい人です

村上一成

国際柔術連盟順道会館館長

UFO（世界格闘技連盟）

旗揚げ前は海のものとも山のものともつかず旗揚げ後もやっぱりなんだかわからない格闘芸術団体『UFO』。そんなUFOに軽々と乗り込み、アメリカ道場破り修業などを嬉々として敢行する村上一成。綿密な計算か？ 呑気なだけか？ まあどっちでもいいや！ UFOに乗っかった以上、夜空に燦然と輝くデッカイ星となれ！

聞き手&撮影／中村カタブツ君
interview & photographs by Katabutsukun Nakamura

慧舟會のエースとして昨年『PRIDE1』に出場した村上一成。その後一時は格闘技界から遠ざかるが今年7月柔術道場・順道会館設立、さらにはUFOにも参戦。この男は一体何を考えてるのか？ 何がしたいのか？ その素顔とは？

――そもそもなんでUFOに入ったんですか。

村上 順道会館の名を上げるためには僕がレールを引いていかないと下の人間が上がっていけないですから。それで以前、スーパータイガージム大宮で佐山（聡）さんと練習したことがあったんで電話したんですよ。それでトントン拍子に話が進んで（笑）。

――UFO参戦にはやっぱりビジネス的な考え方ってあったんですか。

村上 うーん。ないとは言えないですよね。

――ただ、ビジネスだけで考えた場合、別にUFOを選ぶ必要はないじゃないですか。例えば『PRIDE』のリングを選ぶ道とかもあったと思うんですよ。なぜUFOなのかなんですよ、疑問なのは。

村上 佐山さんですね（笑）。人間的に一緒にやっていける人っていうか。あとは小川（直也）さんの存在です。

――ちょっと待ってください！ 佐山さんのことをいまなんとおっしゃいましたか。

村上 だから、自分の身を投げうって僕のことを考えてくれる人ですから（笑）。

――自分の身を投げうって？ すいません。大宮での佐山さんの印象をぜひとも聞かせてください。

村上 僕が道場に行った時は練習開始時

佐山さんは自分を捨てて僕のことを考えてくれます

虎の尾を踏む男たち'99

間よりも早かったんで、道場生が誰もいなくて佐山さんとマンツーマンだったんですよ。まったく面識がなかったのに2時間ぐらい教えてもらったんですよ（笑）。

——なにか言葉をかけられました？

村上「今後も強くなりたいって気持ちだけは絶対に忘れちゃダメだよ」って初対面の僕に言ってくれて（笑）。当時僕はまだ慧舟會だったんですけど「え！　なんで他団体の選手にこんな言葉を言われるんだろう」って。出稽古の時って結構適当にあしらわれたりすることが多かったんですけど、そういう言葉を言われたんで、いい人だなって（笑）。

——佐山さんは温かったんですか？

村上　そうですねぇ（笑）。

——佐山さんって自分より大きい人を見ると殴りたくなるって聞いてるんですけど、舘長は佐山さんよりデカイですよね。殴られたりとかはなかったんですか。

村上　なかったですね。

——全然？

村上　ええ。だから僕も佐山さんについての話はいろいろ聞いてたんですけど、僕の時はそんなことなかったんですよ（笑）。

——じゃあ、話は聞いてたんですね。

村上「冷たいよ」とか「厳しすぎる」とかって声も聞いてたんですけど、僕は「いやぁ。手取り足取り教えてもらったんだけどな」って思ったんですよ（笑）。

——じゃあ、佐山さんの印象をズバリ一言で言うとなんですかね。

村上　こういう人がそばでコーチしてくれればいいなっていう。厳しさは感じましたけど、でもいいなっていう（笑）。

——凄い好印象だったんですね（笑）。

村上　温かいですね（笑）。ほんの2時間ぐらいですけど。

——その後、UFO参戦までの間に交流とかはなかったんですか。

村上　その後も小川さんの練習相手をしてくれないかみたいな電話はもらいましたね。

——ただ、その頃って舘長はプロレスとか一切嫌いだったんですよね。

村上　はい。

——じゃあ、優しかった佐山さんがですよ、「強くなりたい気持ちは忘れちゃいけませんよ」って言ってくれた佐山さんがプロレスに戻った時はどう感じました？

村上　なんかあるんだろうなって思いましたけど。それぐらいにしか僕は取らなかったですね。

——それで現在、その佐山さんと実際に行動をともにするようになってるわけですが、温かいイメージは変わらないんですよね。

村上　変わらないですねぇ（笑）。

——う〜ん……。力道山先生の墓の前で猪木さんが坊主になった時がありましたよね。あの時は舘長もいましたよね。なんで舘長は坊主にならなかったんですか。

村上　僕は全然聞いてなかったんですよ（笑）。小川さんも聞いてなくて佐山さんが「今日は面白いですからぁ、面白いですからぁ」としか言わないんですよ（笑）。まあ、それで行ったんですけど、突然バリカンを出して猪木さんも佐山さんも坊主になるんですね（笑）。小川さんは「坊主がどうのこうの」ってことだけは聞いていたらしくて、前日に坊主に近い頭にしてたんですよ（笑）。

——キタナイですね（笑）。

村上　僕はその時、髪の毛が長かったんで「やばいよ！　次だよ！」ってなるじゃないですか（笑）。

——はい（笑）。

村上　隣では小川さんが「俺は切ってもインパクトがないから」って言ってるし（笑）。そしたら、佐山さんが「いいから。いいから。切らなくていいから」って。

——温かいっちゃあ温かいですよね（笑）。

村上　それでも「やっぱりやらなきゃダメですよね」って小川さんに言ったら『いい』っていうならいいよォ」って。「それじゃあ」ってことで切らなかったんですよ（笑）。だけど、あの時はかなり焦りましたよ。前触れもないことでしたから。もう度胆を抜かれたことで笑いがこみあげてくるんですよ。それで小川さんと二人で陰に隠れて笑ってました（笑）。

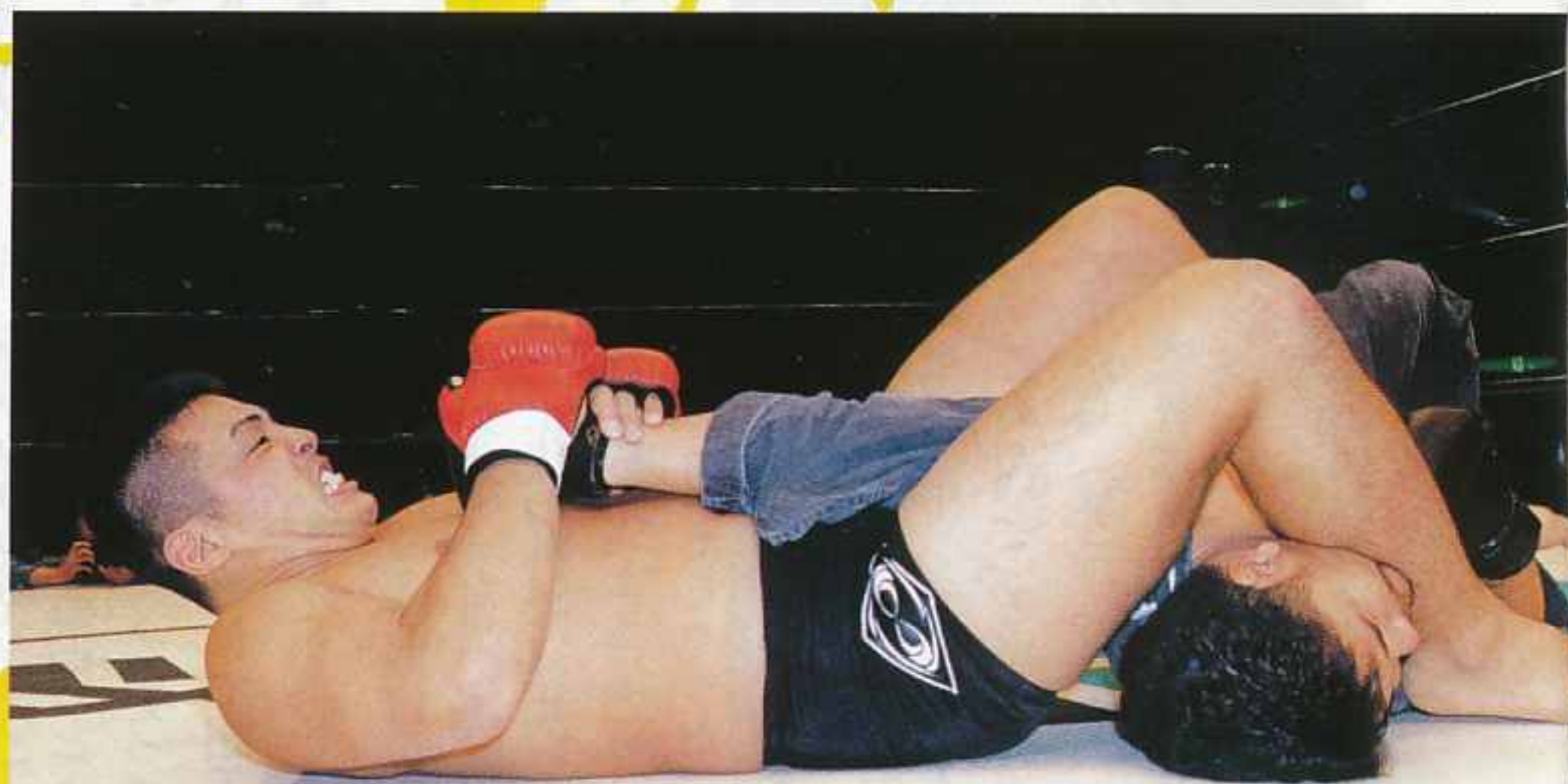
——とても楽しそうなのは確かにわかります（笑）。ところで柔道出身の舘長は小川さんのプロレス入りをどう感じてたんですか。

村上　ビックリしましたね。「なんで?」って思いました。世界一の実力があって実績もあって、引退しても柔道界で偉くなれるわけだし、「どうして?」っていうのはありましたよね。

——それは舘長が柔道出身だからですよね。

村上　そうですねぇ。

——じゃあ、猪木さんについての印象は？

村上　もともとUFOには佐山さんのところに入っていくって気持ちだったんで、「佐山さんの上に会長がいらっしゃるん

Kazunari Murakami

アメリカ道場破り修業中、唯一の黒星を喫したリー・ヤングガンに10月25日『UFO』旗揚げ戦（両国国技館）で1分21秒腕十字で雪辱。ところがTV中継では道場破りでヤングガンにボコボコにされた、こっ恥ずかしい映像を流され、「なんであんなみっともない姿を流したんだ！」と、このことに関してはUFO上層部に激怒している村上。今後の展開が非常に気になるところ。

師匠が極悪な人ばかり？ですね、でも楽しいですよ

だな」っていう感覚だったんですよね。もう雲の上の人で年に一回会えればいいだろって感じの人だったんで。僕の中では小川さんに会えることの方が凄いっていうのがあったんですけど。でも違うんですよ。小川さんよりも感じるものがあったというか、「奥深いものを持ってらっしゃる方だな」っていうのが一発目の印象でしたね。

——その時は憧れの小川さんのそばにいる喜びを超えるものだったんですか。

村上　喜びとはまた違う、カリスマ性を感じましたね。小川さんは実力という部分で感じてたんですけど、会長の場合は「人間的な面でデカイな」っていうのを感じましたね。

——結構緊張しちゃう感じ？

村上　いえ。面白いですね。しょっちゅう冗談を言うんですけど、佐山さんが「ここは笑うとこ」とか言うんですよ（笑）。

——UFOに馴染んでますねぇ（笑）。

村上　僕は人を信じやすいところがあって、いろいろダマされたりしてきたんで人を引いて見るところがあったんですけど引き込まれましたね（笑）。

——今、人を信じやすいって言いましたけど、館長ってオッチョコチョイというか、呑気というかそういうところってありませんか（笑）。

村上　ありますよぉ（笑）。メチャクチャおっちょこちょいですよぉ（笑）。

——ちなみにどんな子供だったんですか。

村上　小学生の頃は毎日イタズラしてましたね（笑）。

——どんなイタズラだったんですか（笑）。

村上「あそこのバアチャンは身体が弱いから畑仕事をさせるのは可哀相だ」って言ってみんなを集めて、バアチャンちの畑のネギを抜いて束ねておいたりとか。

——それはイイことじゃないですか。

村上　それが全然収穫時期じゃなくて（笑）。

——ワハハハ！　善意が空回りしたんですね（笑）。

村上　畑を荒らしたって怒られて（笑）。

——先生にはどんなことで怒られたんですか。

村上　僕、近所で身体が一番大きかったんで、なにかあっても全部僕のせいにされましたね（笑）。ガキ大将だったってこともあったんですけど、父兄が自分の子供をかばうために「あの子がやった」っていうんですよ（笑）。

——損な役回りですね（笑）。

村上　実際にやってたことも多かったんで（笑）。

——ほかにはどんなイタズラしてたんですか（笑）。

村上　人ン家の柿を盗んだりしましたね（笑）。だから、授業も全然受けられなかったんですね。

——すいません。イタズラと授業を受けられないというのは、あまりつながらないと思いますが。

村上　教室に入れてくれないんですよ（笑）。だから、小学校の1年から3年まで校長室で勉強してましたね。校長先生と二人で（笑）。

——問題児もいいところじゃないですか。お母さんは悩んだんじゃないんですか。

村上　施設に入れようかどうしようか悩んだみたいですね（笑）。

——大変だったんですねぇ（笑）。じゃあ、なにかスポーツをやらせて体力を発散させようっていう方向にはならなかったんですか。

村上　その時はもう柔道の道場に通ってたんですよ（笑）。小学2年の時からですね。

——スポーツで発散もしてたと（笑）。だけど中学では相撲部だったんですよね。

村上　いや、最初は柔道部だったんですよ。だけど監督が相撲部と柔道部の兼任だったんですよ。それで柔道部の仮入部の時に「いまから名前を言うヤツは相撲部だ」って言われたんですね（笑）。

——そこでも大きいから目立っちゃったんですね（笑）。

村上　僕は「イヤだ」って言ったんですけど頭を殴られて「ガタガタ言わずにマワシを締めろ」と言われたんですね（笑）。なんで柔道部の仮入部なのにマワシを締めて練習しなきゃならないんだろうなって（笑）。それもただ見学に行っただけですよ。

——クククク（笑）。どんな監督なんですか。

村上　笑いながら人を殴ったりするんですよ（笑）。

——ワハハハハ！

村上　僕が肩を脱臼してるのに「はい。五番勝負やれ」って笑って言ってくるんですよ（笑）。それで相手には「ドーンと肩にぶつかっていってやれよ」って笑いながら（笑）。

——ワハハハ！　ヒドイ人だ（笑）。

村上　土俵の外で〝正〟って字を書いて数を数えるんですけどワザと足で払って「ゴメン、消えちゃった。最初から取り直し」って言って笑ってるんですよ。竹刀の割れたヤツを持ってきて脱臼したところをバシーンって叩くんですよ。「ごめん、ごめん。ここ痛いの？」って言うんですから（笑）。

——監督は楽しそうですね（笑）。

村上　ぶつかり稽古でも「さぁ来い」って胸を出すんでぶつかるでしょ。そした

昨年10・11『ＰＲＩＤＥ１』では喧嘩屋ジョン・ディクソンに快勝！　だが、高田延彦がヒクソン・グレイシーに負け、小路晃がヘンゾ・グレイシーと引き分けたため、その勝利の印象はえらく薄くなってしまう。どちらかといえばワリと貧乏クジを引くタイプっていうの？　ただこの勝利で村上自身の中では、ひと区切りがつき、一時格闘技界から遠退くことになる。

虎の尾を踏む男たち'99

らグーで殴ってきて「ごめん。気合いが入ってなかったから。オレが」って（笑）。

――ワハハハハ！ オレが（笑）。

村上 自分が気合い入ってないのになんでオレが殴られなきゃいけないんだって（笑）。だけど凄い怖かったですから。そんなのを3年間耐えました（笑）。

――その相撲部って強かったんですか。

村上 僕が入った当時は全国大会で予選落ちぐらいの実力だったんですが、僕らの時に全国で3位になったんですよ。

――じゃあ、性格的には非常に問題があるけれど、人を強くさせることはできた人なんですねぇ〜。

村上 練習が終わるといきなりフルチンになって高校生でいっぱいの道を走ってみたり（笑）。

――当時はそういう行動をどういう目で見てたんですか。

村上 練習が終われば全然厳しくない人だったんで楽でしたし、普通にしゃべれたし。でも、いまだに目を見て話せないですね（笑）。僕らにとっては楽しい監督でも、そう思わない父兄もいて、僕らの卒業後に転任させられましたね（笑）。

――抜群に面白い先生ですね（笑）。不思議とそういう人と出会いますね。ところで中学・高校時代はモテたんですか。

村上 全然ダメですよ。女なんかクソくらえって思ってましたからね。

――硬派だったんですか。じゃあ、大学に入ってから色気づいてきたと？

村上 初めは全然ダメだったんですけど、仲のいい先輩が女好きでよくコンパとかはしましたね。

――それは運動部同士のコンパ？

村上 いえいえ。ひいきにしてる飲み屋があって、そこに行くとすぐに女の隣に座らせてくれるんですよ。で、僕らすぐに脱ぎだすんですね（笑）。

――ワハハハハ！ 運動部芸だ（笑）。だけどそれって女的には引きませんか。

村上 楽しんでましたね（笑）。もう飲み屋の客全員が一体となって盛り上がるんですよ（笑）。店の人からは「お前らが来ると客が増えるから助かるよ」って言われて（笑）。

――そのノリで、お持ち帰りも（笑）。

村上 しましたね。だけど途中でアキちゃいましたね（笑）。

――そういうことばかりしてると女をモノとしか思えなくなりません？

村上 一緒に遊んでた先輩は「女は家畜」っていうんですよ（笑）。

――ワハハハハハハ！

村上 その先輩と3年ぐらい一緒だったんで移っちゃった感じですね（笑）。最近はさすがに変わりましたけど（笑）。

――いまの先輩にしても、相撲部の監督にしても、佐山さんにしても世間的には極悪とか言われるような人ばかりを師匠にしてますね（笑）。

村上 そうなんですよねぇ（笑）。よく言われます。それでも僕自身は楽しいと思ってるのがまた面白いですねぇ（笑）。

――他人事みたいに（笑）。損な役回りと本人が思ってないっていうのがまたね（笑）。

村上 やりがいがあると思ってますからね（笑）。おかしなもんですねぇ（笑）。

――いまUFOについてどんな印象をもってますか。

村上 なにをするかわかんないし、どこにどうやって降り立つのかも、どういう展開になるのかもわからないし。でも、そういう状態で僕は行ってほしいと思うし（笑）。

――ホントに不思議な人ですねぇ（笑）。

【11月21日・順道会館道場内にて】

Kazunari Murakami

1997年米国で開催された『エクストリーム・ファイティング 4』でモーリス・スミスと対戦。序盤、パンチでダウンを奪うものの惜しくも敗退。だが、そのファイトは関係者の絶賛を浴び、次の大会も出場を要請されるがエクストリーム大会自体が同大会を最後に消滅。村上、まったくついてないぜ！

村上一成【むらかみ・かずなり】1973年11月29日、富山県出身。拓大柔道部在籍中に慧舟會主催の格闘技大会に出場。アマチュア時代は郷野聡寛との因縁マッチが話題になり、対郷野戦の戦績は1勝1敗。当時のバイトは石屋。渋谷・丸井のピンクハウスの床石は村上自らひいたもの。エクストリーム大会やPRIDE1で活躍し、今年UFO参戦。

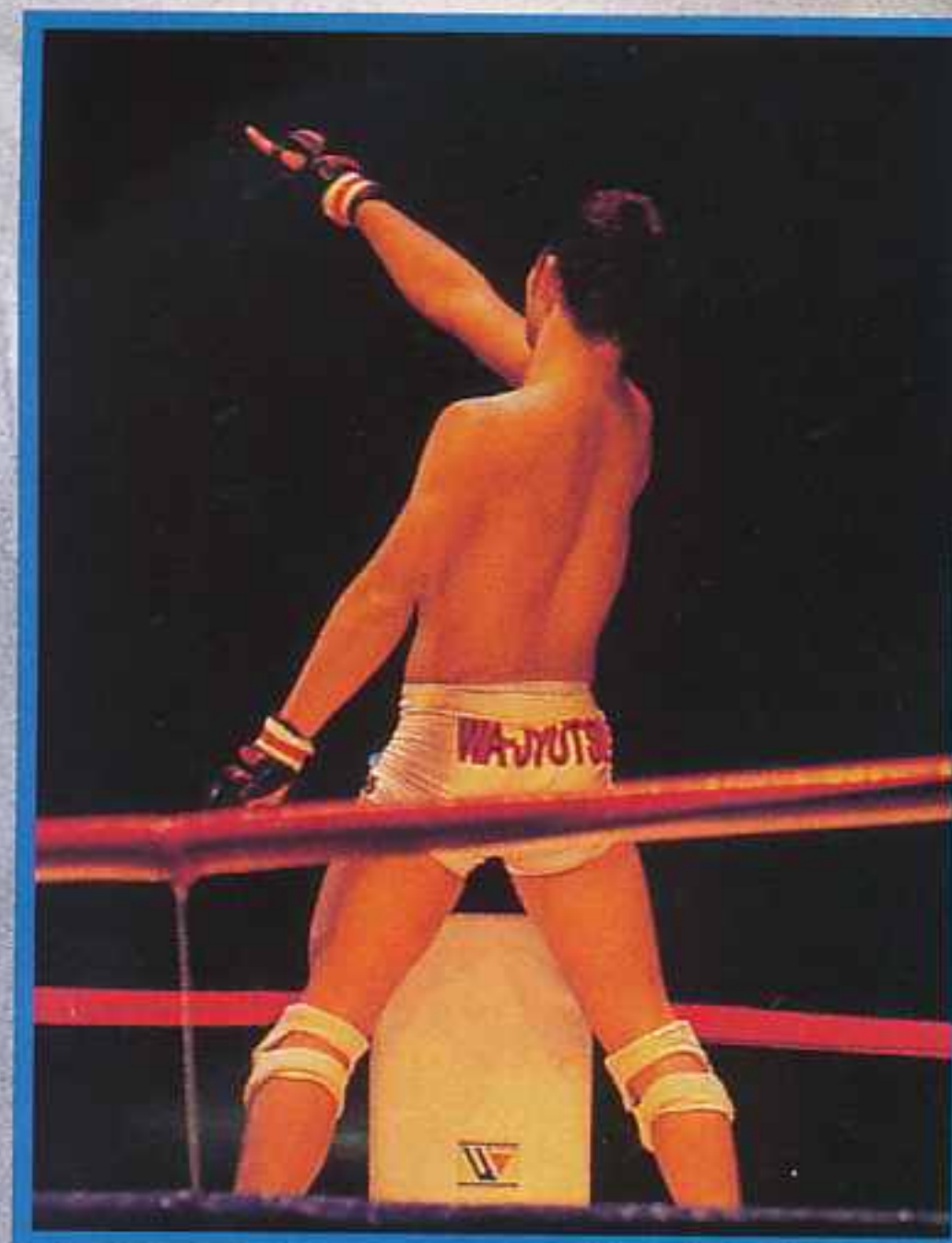
虎の尾を踏む男たち'99

流星王子（シューティングプリンス）宇野薫

UNOCA●L

ボクはシューティングはやらないと思ってました

宇野薫。今年のシューティングマットを大いに盛り上げた立役者である。積極的な試合内容を評価され大抜擢されたVTJ98では、柔術界の強豪ヒカルド・ボテーリョを相手に完璧な勝利を飾った。話を聞いてみると彼は熱狂的なプロレスファンであることが判明。総合格闘技界の未来を支えるシューティングスター宇野薫のプロレス観とは?

聞き手&撮影／チョロ
interview & photographs by Choro

――唐突ですけど、宇野さんは、渋谷（修身）選手と一緒にパンクラスの入団テストを受けてるんですよね?

宇野　一緒に行きましたね。確か身長規程が175センチ以上で、ボクは足りなかったんですけど（笑）。

――サバ読んだりしたんですか?（笑）

宇野　ボクも書類選考で落ちると思ったんですけど、パスしたんですよ。やっぱり横浜高校っていうのがあったんじゃないですかね。（鈴木）みのるさんが先輩にいましたから。

――あぁ、試験官に鈴木（みのる）さんとかいたんですね。

宇野　全員いましたね。テストは結構キツかったですね。渋谷は合格しましたけど、ボクは落ちちゃったんで、専門学校に進みました（笑）。

――他のプロレス団体は受けようとは思わなかったんですか?

本当にカッコイイですよ、天龍選手！絶対強いですよ！

宇野　ボクは船木（誠勝）選手が好きだったんで。船木さんって若くしてプロレス入りしたじゃないですか。ボクもなれるかなと思って、親に言ったんですけど、「高校は行け」ってことで、「基礎になることやればいいじゃないか」って言われてレスリングを始めたんですよ。それで何気なく入った高校の先輩にみのるさんがいて、同じレスリング部に渋谷選手がいたんですよ。

――パンクラスのテストを受けた時は修斗とかにも興味を持ってたんですか？

宇野　いや、全く見てないです。ボクはシューティングはやらないと思ってました（キッパリ）。

――それはどうしてですか？

宇野　（即座に）レガースが付けたかったからです。色は黒です（キッパリ）。

――アハハハ！　レガース付けたいってのはありますね、確かに。当時からファッションにはうるさかったんですね。

宇野　ハハハハ！　そうですね（笑）。

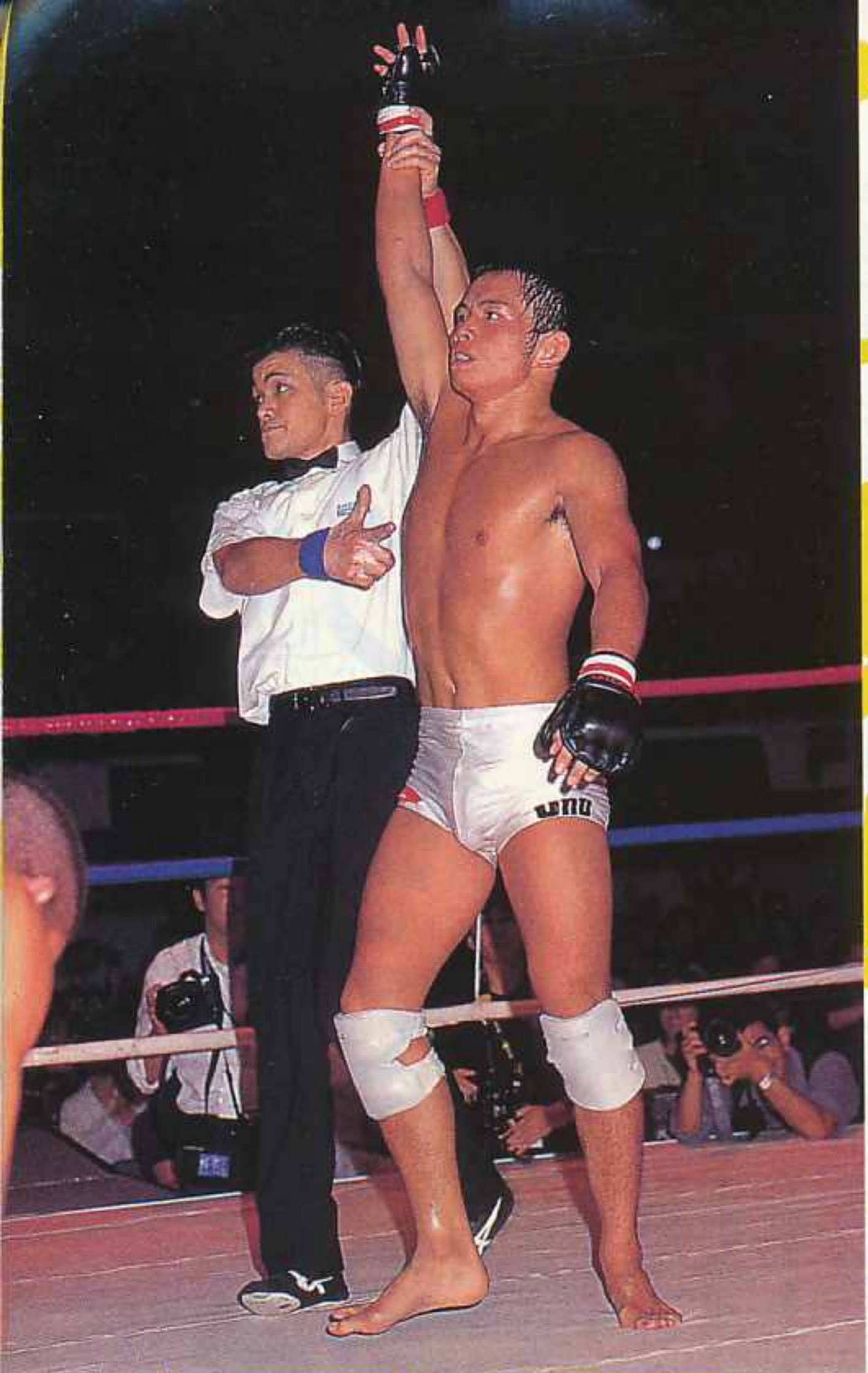
――宇野さんは、パンクラスとかだけでなくWARも好きなんですよね？

宇野　そうなんですよ（笑）。旗揚げ戦から渋谷とかと見に行ってますからね。結構旗揚げ戦に行くのって、後々自慢できるじゃないですか。

――今は頻繁に旗揚げ戦があるんで、有難味が薄くなってきてますけどね。

宇野　そうですよね。当時はまだ今みたいに団体もなかったですし、……藤原組も旗揚げからずっと行ってましたよ。それとインターも行ってましたね。でも、リングスは行ってないです（キッパリ）。

――リングスはあまり好きじゃなかったんですか？

宇野　WOWOWに入ってたからですよ（キッパリ）。リングスを見るためにWOWOWに入ったみたいなもんですからね。

10・25ＶＴＪ98。ブラジリアン柔術黒帯、ヒカルド“リッキー”ボテーリョを相手にこれでもかとパンチを叩き込み戦意を喪失させた宇野。戦前の予想では圧倒的にボテーリョ有利であったが、その予想を覆し、気合いの入ったガッツポーズを決めた宇野。試合後、涙ながらに、サポートしてくれた人へ対し感謝のコメントを残した。

Kaoru Uno

ボクはプロレスだったら天龍選手が好きで、U系だったら船木選手とかが好きでしたね。でも本当にカッコイイですよ、天龍選手！　渋いッスよ。絶対強いですよ、天龍選手は！　ですよねぇ？

――もちろん！　宇野さんは、「プロレスに騙された！」とか、「俺の方が強いよ！」って思ったことあります？

宇野　ボクはどうなんでしょう。わからないですね。……でも、プロレスは、ボンボンボン簡単にプロレスラーとしてデビューするじゃないですか。何か昔ほど重みがなくなったというのがありますね。昔はプロレスラーって雲の上の存在だったんですけど……。それで技も昔の方がなんか……。どっちかというと昔のプロレスの方が好きなんですよ。新日とかで昔あったような、抗争とか。

――やっぱりWAR対新日本ですか？

宇野　そうですね（笑）。それでボクの心のベストバウトは、10・25、大阪城ホール、船木vs前田戦です。

――アハハ！　よく覚えてますね（笑）。試合後、前田さんが船木選手に話しかける試合でしたっけ？

宇野　あ、違います、武道館のじゃなくて大阪城ホールの試合です。前田選手が出場停止になった時の試合です。

――その後に松本大会で前田さんを迎えてのバンザイシーンがあるんですね。

宇野　そうですそうです。アレが今見てもU系でのベストバウトですね。ホント凄かったですから、あの試合は。あの時の船木さんはカッコ良かったですねぇ。まあ、今でもカッコイイですけど。それでプロレスだったら、WARが新日に初めて上がった時。天龍&北原組vs越中&木村組です！（キッパリ）

――メチャメチャ渋いカードですね。ホントに好きなんですね。

宇野　あとはアレですよ、11・1日本武道館『超実力派宣言』。新日がずっと武道館を使えなくて、久しぶりの武道館での三大IWGP戦。アレは印象に残ってますね。

――最近は三大IWGP戦ってよくやりますけどね（笑）。

宇野　そうですね。でもその時はまだ全然画期的で、確か年間ベストバウトになった試合だったと思うんですけど、武藤&蝶野組vs馳健がやった時です。

――あ～ハイハイ、ありましたね。

宇野　え～ホントに覚えてます？（笑）

――すいません。バレました？

宇野　ハハハ！　アレは今でもビデオがあったら見たいですね。ないですかね？

――うちの会社にありますよ、探せば。

宇野　（嬉しそうに）ホントですかッ！

――持ってきましょうか？

宇野　ホントですかッ！　じゃあ、それとWAR関係も（笑）。後は猪木vs天龍

98・7・29修斗、後楽園大会。ブランコ・シカティックが送り込んだティガージムのズボンコ・セコリエビッチと対戦した宇野。クロアチアの軍隊に所属するセコリエビッチは、ちょっとのことではタップしなかった。完璧に伸びきった腕十字も耐え抜いて脱出。しかし最後は宇野が腕ひしぎ三角固めで勝利を飾った。会場は大爆発！

『ゴング』が読みたくて、朝五時にローソン行って買ってました

戦も面白かったんで、また見たいですね。

―やっぱり天龍さんですね（笑）。

宇野　はい（笑）。ドームってあんまり面白くない試合が多いと思うんですけど、あの試合はスゴイ面白かったです。

―でも日付まで覚えてるっていのは立派なプロレスファンですよね。

宇野　ボクほんとスゴイ覚えてましたから。『ゴング』が読みたくて、朝五時にローソンに行って買ってましたから。

―それぐらい熱心なプロレスファンだった宇野さんが、慧舟會を選んだ決め手って何なんですか？

宇野　プロレスラーは体がそんなに大きくなかったから無理だったけど、シューティングとかは階級があるんで、せっかく好きでレスリングをやってきたんで、それを活かせるんじゃないかなぁって思って、最初は違うジムに入ったんですよ。その後に、何回か慧舟會で練習してみて、雰囲気もスゴイ良かったし、慧舟會だったら自分を伸ばせるんじゃないかって思って入りましたね。プロレスファンも多いし（笑）。ホント多いですよ。それで
　ボクが慧舟會に入った頃は、大宮ジムとか修斗のオフィシャルジムの方が圧倒的に強かったんですよ。今はそんな差がなくなってきた感じがありますけど、それで慧舟會に入ってた友達から「他団体が修斗を倒すのも面白いんじゃないか」って言われたのがスゴイ心に残ってて。

―他団体から修斗を倒そうっていうのは、宇野さんが好きな、抗争とか、団体対抗戦に通じますね（笑）。この間のVTJ98での（ヒカルド・リッキー・）ボテーリョ戦は見事な勝利をでしたけど宇野さん的には満足してますか？

宇野　そうですね。あとでビデオ見たんですけど……、勝ったことには満足してますけどォ、あまり練習したことが出てないんじゃないかと思ったし。

―やっぱりタップを取りたかったっていうのもあったんですか？

宇野　そうですね。終わったから言えることですけどね。もうちょっと寝技にトライしても良かったんじゃないかなって思いましたね。

―前評判では、ボテーリョ勝利っていう予想が圧倒的だったんですけど、宇野さんは勝つ自信はあったんですか？

宇野　あまりないっていうか、ボクは自信があるとかっていうのもあまり思わないんですよ。試合には絶対勝てるってないですから、どんな相手にも勝てるとは思わないです。負けるとも思わないし、勝てるとも思わない。絶対勝てるとはなおさら思わないです。試合でも勝とうとは思わないし。

―勝とうとは思わないんですか？

宇野　はい。普段通りの動きを出そうっていうのを一番に思ってますから。イメージ通りの動きが出来ればいいと。

―宇野さんは、勝っても負けても試合後は「満足できない。仮題は山積みです。あのチャンスで極められなかったからまだまだです」といった発言が多いですけど、今まで100％思い通りの試合っていうと誰との試合になるんですか？

宇野　ボクは、まだまだ一人前になるのは十年早いんで、〝勝って兜の緒を締めよ〟じゃないですけど、そこで天狗になっちゃ、その後練習も疎かになっちゃうと思うんで、パーフェクトに満足できる試合ってないと思います。何かしらのミスを探して、それを次出さないように気をつけるようにしてますね。

―謙虚なんですね（笑）。でもリングに上がると変わりますよね。船木選手がやったバッテンマークを真似してみたり（笑）。やっぱり観客は意識します？

宇野　昔親父によく言われてた言葉があ

虎の尾を踏む男たち '99

取材日に急遽実現した、宇野vs小路の一戦。自慢の武藤Tシャツを着て入場してきた宇野は開始早々がっちりコブラツイストを極め、さらに、足4の字固めでギブアップを迫った。しかしプロレスラーとしてのキャリアで優る小路は、STFでガンガン絞り上げ形勢を逆転させた。

宇野薫【うの・かおる】1975年5月8日神奈川県横須賀市出身。高校時代は、横浜高校レスリング部に所属しインターハイに出場。その後、和術慧舟會に入會し、プロとなってからも、積極的にアマチュア大会にも出場している。初出場のVTJ98ではヒカルド・ボテーリョを相手にTKO勝ち。来年はさらなる飛躍と佐藤ルミナ戦が期待される慧舟會の星の王子様。現在修斗ウェルター級5位。

りまして、「一円でもお金を貰ってる以上はプロであるってことを常に心に留めておけ」っていうことなんですけど。お客さんはスゴイ意識してますね。どんな試合でも満足させようと思ってるし、全力を尽くしてやってます。やっぱりお金を払って見に来てもらってますし、選ばれた人しか出来ないことですからね。

――そういう意味で、ボテーリョ戦も不満が残ったところがあるんですか？

宇野　そうですね。寝技に思うようにいけなかったんで、もっといきたかったんですけど、もし負けたらどうしようって心が働いたりもして、ホント言えば、リスクを負ってでもドンドン攻めなきゃいけないんですよね。それがプロだと思いますね。試合のビデオを見ても結構、猪木vsアリ状態が長すぎたなとボクは思いましたね。お客さんも膠着した試合を見に来てるわけじゃないですからね。全員が全員、膠着が大変だってことをわかってるわけじゃないですから、もっとリスクを背負ってでも、寝技にいっても良かったんじゃないかなって。ホントもっともっと動いていかなきゃと思いました。

――でも宇野さんは積極的に自分から動くタイプじゃないですか？

宇野　そうですよね（笑）。ボク結構動くタイプだと思うんで、我ながら（笑）。でもお客さんに、よりよいものを魅せるにはそれだけの練習を積まないとダメだと思いますね。大事なのはキャリアと練習ですね（笑）。

――それはプロレスラーと一緒ですよね。強さっていうのは、ある程度練習の積み重ねで補えるところがあると思うんですけど、魅せる部分っていうか、プロとしての部分は生まれ持ったものが大きいと思うんですよ。

宇野　そうですね。後は練習を積んでいけば体が勝手に動くようになれば、そういう部分で余裕が出るようになると思うんですよ。それが本当の技っていうか。狙いにいくんじゃなくて、そういう場面になったら勝手に技が出るようになればいいんですよ。ボクは試合中は落ち着くことばっか、考えてるんですよ。

――試合でキレたことってありますか？

宇野　ボクはキレないです（キッパリ）。練習でも私生活でもキレないです。

――ケンカとかはしないんですか？

宇野　やったことないです（キッパリ）。でも最近、お客さんも目が肥えてきたっていうのを感じますね。ちょっとポジション取った取らないかの位置でも沸きますし、でもなんか『PRIDE』のお客さんって……。

――プロレスファンが多いですよね。

宇野　やっぱりそうですよね。多分『PRIDE』のリングでボクのVTJでの試合をやったらブーイング飛んだと思うんですよ。猪木vsアリ状態が続いたし。プロレスファンに失礼かも知れないですけど。

――修斗のファンも、プロレスファンから流れていった人って結構多いと思うんですよ。選手もそうだと思うし。プロレスから入っていく人って、やる側も見る側も多いじゃないですか。

宇野　今は後楽園も満員になってますけど、やっぱり修斗の選手も危機感を持ってやってますよ。今来てくれてるお客さんを離さないためにも、試合レベルも落とせないし、何連敗もすると呼ばれないですし。勝ったからってポンポン上がれるわけじゃないし。ボクも今年はたまたま連勝できましたけど、来年はどうなるかわからないですし、絶対に連勝が続くわけでもないですから。驕ったりすると練習も疎かになりますし、普段の行動もちゃんとしなきゃいけないですし（笑）。そういうことを注意してくれる親や友達がいるんで、スゴクありがたいです。

――宇野さんもそうですけど、小路（晃）さんや高瀬（大樹）さんをはじめ慧舟會勢には強さはもちろんですけど、パフォーマンスでも大いに期待してます（笑）。

宇野　アキラ兄さんはスゴイですよね（笑）。アキラ兄さんのマイクが始まるとセコンドに付いていても、なるべく遠くまでみんな走って行くんですよ（笑）。

――一緒にされたくないんですか（笑）。

宇野　ハハハ、そうですそうです（笑）。

【11月13日／和術慧舟會東京道場にて収録】

なんとか体勢を持ち直した宇野の起死回生の天龍チョップが小路の胸板に炸裂！ダウンを奪うとすぐさまWARスペシャルを極め強引に勝利をモノにした。しかし試合内容に納得がいかなかったのか宇野はバッテンマークを出し、サポーターを観客席へ放り投げはじめた。

Kaoru Uno

宇野商店店長　宇野薫からの Tシャツ PRESENT!

休日はフリーマーケットで宇野商店を開いている、フリママスター宇野薫。枚数限定のこの超レアTシャツを1名様にプレゼント。ご希望の方はP144の読者プレゼントと同じところまで送って下さい。希望者には、宇野薫さんから直接サインを入れてもらいますのでドシドシ送ってきてください！

※12-23川崎球場内フリーマーケットに宇野商店参戦決定！

格闘探偵団バトラーツ のクリプレだよ!!

クリスマスだよ!!

超巨大読者プレゼント!!

みんな欲しいんでしょ～？

♪ジングルベ～ル ジングルベ～ル クリ●リ●～、あ!! 間違えちゃった!! いろんな団体さんからのクリスマスプレゼント（略してクリプレ）だよ!!

モデル・ジャイジャイサンタ

両国開催記念グッズの超大目玉商品!! バトバト革ジャン　1名

FRONT

BACK

両国大会記念でバトラーツがつくった超限定商品。見てみ、この色っ!! 艶っ!! バトの会場では8万円で売ってます。バトからこんな高額商品が出てくるなんて、スゲエ！ 会場売店で発売中!!

【格闘探偵団バトラーツ提供】

ANTOYグッズ　その2 アントイ・バト茶　2名

幻の猪木グッズの数々が、両国で蘇った!! アントンがアントイに変わっても闘魂は不滅だ！

【アドブレーン・ピアス提供】

ANTOYグッズ　その1 ひまわりナッツ　2名

11・23の会場だけの限定商品として登場したお祭りバカ商品。ここでしか入手不可能な逸品！

【アドブレーン・ピアス提供】

ANTOYグッズ　その3 どうですかーっ、お客さん!! ANTOY Tシャツ　2名

究極のバッタもん！ ゴールデンタイム伝説はTシャツでも蘇ります。色はグレーと白。希望を明記すること！

【アドブレーン・ピアス提供】

ラヴ・ウォリアーズvsロード・ウォリアーズ DBSS特製Tシャツ　2名

ダイエット・ブッチャーが両国のアレク＆ヨネの特製Tシャツを出した！ レア!!

【DBSS提供】

ヨネ・ボンバイエ！ モハメド米　2名

イカしてる！ イっちゃってる！ 読んで字の如くモハメド・コメで元気になろう！

【アドブレーン・ピアス提供】

ギガ渋！ マジヤバ！ バトラーツ '99カレンダー　3名

来年以降も下を切り取ればポスターになりそうな、かっこいいカレンダー。今年のカレンダー大本命！

【格闘探偵団バトラーツ提供】

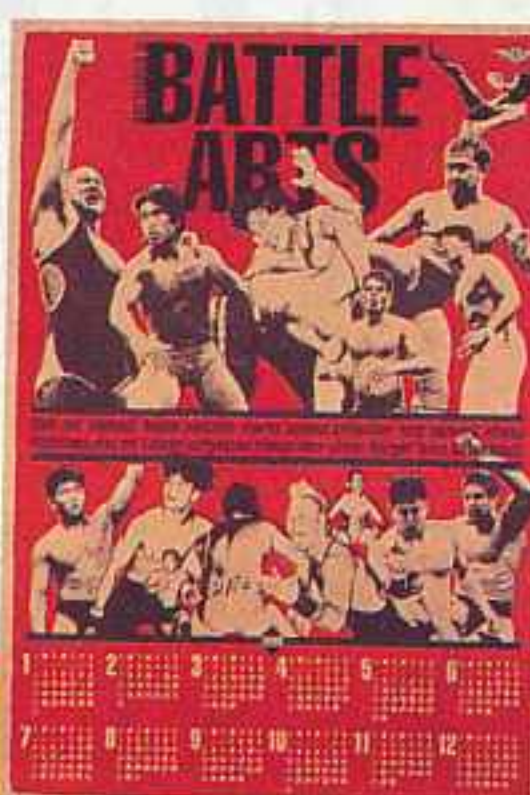
珠玉の名勝負を収録 THE B-FILES　5名

今年の夏の名勝負19試合を選りすぐったベスト版。￥5000で発売中！ 通販のお問い合せはTOKYO U.T ☎03-3418-0425まで。

【TOKYO U.T提供】

昭和の匂いがプンプン！ バト両国パンフ　5名

バトラーツのすべてがわかる特製パンフ。小林まこと先生や浅草キッドや藤原組長も特別寄稿したバトの集大成！

【格闘探偵団バトラーツ提供】

話題をかっさらったバトラーツ両国大会興行用ポスター　10名

各地で、剥がして持ち逃げする輩が続出したかっこいいポスター。感謝を込めて10名にあげちゃう！

【格闘探偵団バトラーツ提供】

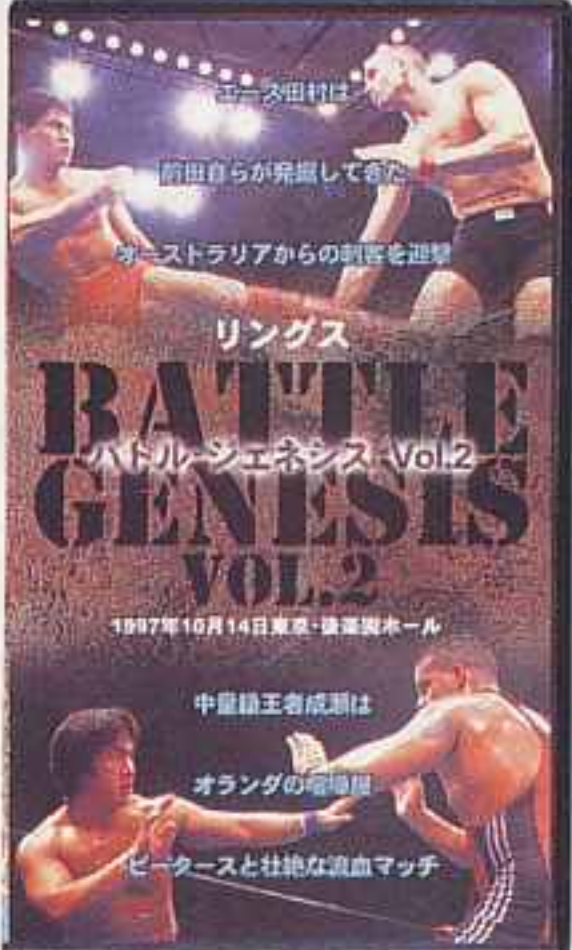
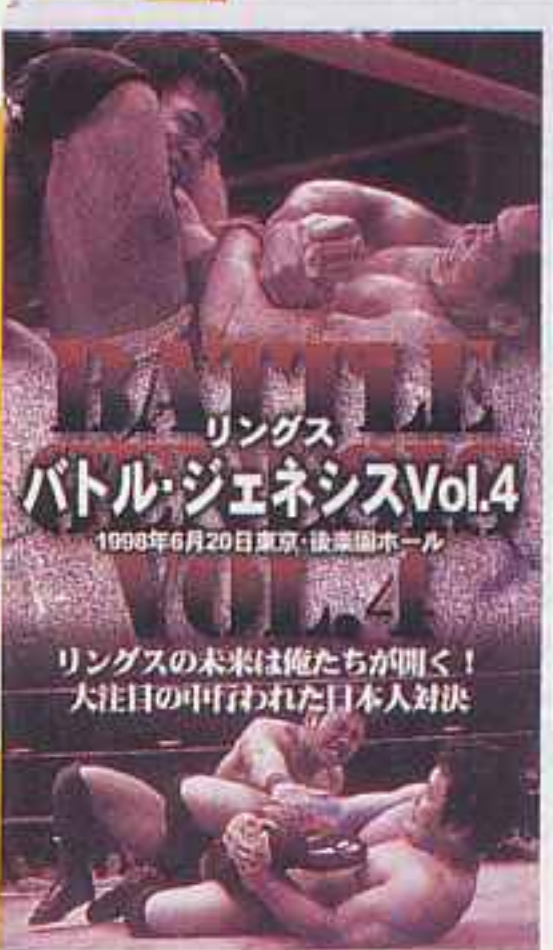
紙プロTシャツ 堂々新発進

FRONT

BACK

来年、『紙プロ』はオリジナルTシャツで打って出るから。なっ!

『紙プロ』がTシャツを作りました。第1弾は11月23日両国で完売！ 残念！ しかし、これからも通販やバトラーツの会場などでゲリラ的に販売するので、見かけたら買ってね！ 第二弾はバトラーツ12月25日TFM大会で発売予定です。数が少ないのでお早めに！ 打倒ヒク●ンブランド!!

日明兄さんガンバレ！　もうすぐカレリン戦記念 RINGSのクリプレだよ!!

新しいリングスの風景にも刮目!! 日明兄さんが出場しない実験的興行は刺激がいっぱい！ BATTLE GENESIS VOL.1～4　セットで1名

昨年から行われている後楽園大会『BATTLE GENESIS』の試合を完全収録。リングス史上最高と前田が褒めたたえた山本（宜）vs 高阪、アレクvs坂田など隠れた名勝負が満載。絶賛発売中。

【クエスト提供】

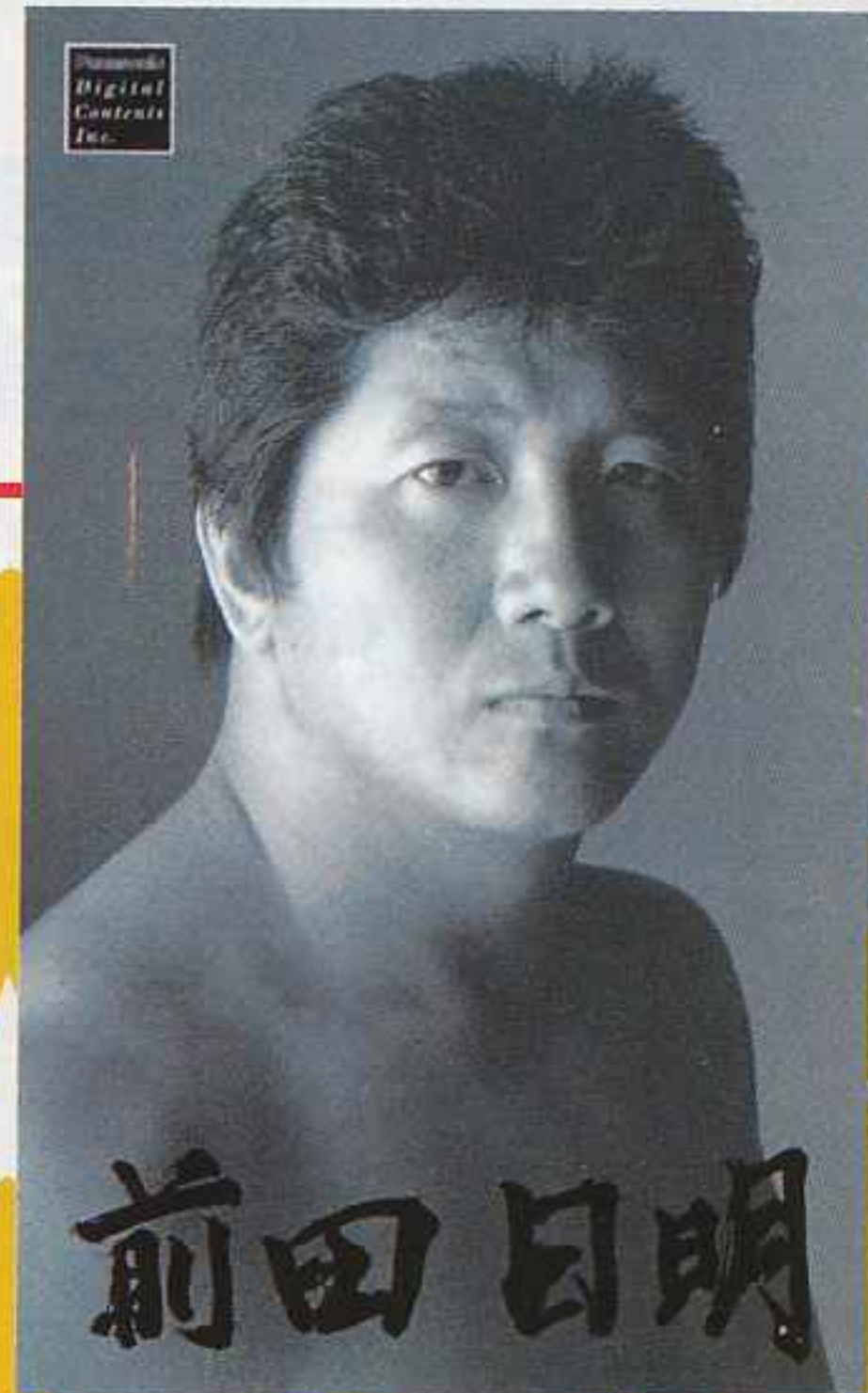
反響大爆発！　前田日明引退記念リリース『前田日明メモリアル』黎明篇&神話篇　セットで2名

凛々しい日明兄さんの顔が素敵な引退記念ビデオ。あまりの反響の大きさに再度、読プレ登場が決定！　黎明篇では新弟子時代～第一次UWFの最後まで貴重な映像を収録。神話篇では新日Uターン～第二次UWFの最後までを収録。絶賛発売中！

【クエスト提供】

前田日明完全版DVD発売記念テレカ（非売品）プレゼント　3名

前田日明の試合を完全保存した4枚組DVDセットが2本発売される。『前田日明　戦いの証―天の章―』ではユニバーサル時代17試合+UWF全29試合を収録。『前田日明　戦いの証―地の章―』ではリングスでの全60試合を収録。おまけに全試合ノーカットです。どちらも素敵な未放映映像満載！　各29,800円。『天の章』は98年12月25日、『地の章』は99年1月25日に発売。

【発売元：パナソニックデジタルコンテンツ（株）☎03-5469-5485】【販売元：（株）クエスト☎03-3360-3810】

総合格闘技系のクリプレだよ!!

U-DREAM開催記念 鈴木健サイン色紙 2名

一度だけの人生選手権で奮闘する鈴木健氏の心の叫びを色紙に込めてみました。

【市屋苑提供】

見参上！　A³-gym Tシャツ　1名

なぁ～、みんなぁ！　このTシャツを着ようじゃねえか！

【A³-gym提供】

堀辺正史創始師範著『骨法の完成』3名

遂にベールを脱いだ未来武道『骨法』の完成を記した記念碑的一冊。

【二見書房提供】

エンセン印のピュアブレッドグッズだよ!!

大和魂（黒×赤）Tシャツ　3名

今年のVTJでセコンド陣が着てたNEWカラー。日本男児のユニフォームだ！

【イーフォース・ジャパン提供】

『紙プロ』チーム大和魂入り記念!! 大和魂ロングTシャツ（白×黒）2名

本誌編集部員用に頂いたロングTシャツ。見えにくいかもしれないが、『紙プロ』のロゴも背中に入ってます!!エンセン&朝日昇グッズのお問い合せは、すべてイーフォース・ジャパン☎047-378-6400まで。

【イーフォース・ジャパン提供】

いいぞ！　JIU-JITSU Tシャツ　3名

エンセンの柔術クラスのTシャツ。ここに載ってる3着はすべて定価¥3000だ。

【イーフォース・ジャパン提供】

脅威の奇人ファッション！ 朝日昇の新作Tシャツ　3名

会場でもすっかりお馴染みとなった奇人印の素敵なTシャツ。

【イーフォース・ジャパン提供】

PURE BRED 柔術&SHOOTO ステッカー セットで5名

男なら貼りまくれ!!　タンスに冷蔵庫に車だってOKだ!!

【イーフォース・ジャパン提供】

娯楽の王様　新日本プロレスのクリプレ!!

『RISING THE NEXT GENERATIONS in OSAKA DOME』PART1&2 セットで2名
破壊王vs天龍、蝶野vsドラゴン、など世代交代で真夏の大阪が揺れた！
【東芝EMI提供】

必見！ 9月23日の変『Big Wednesday'98』 3名
今年9月23日横浜アリーナ大会を全試合ノーカットで収録。
【東芝EMI提供】

『NWO TYPHOON'98』 3名
今年10月シリーズのダイジェスト版。小島nWo電撃加入の模様も収録。
【VALiS提供】

超名作再び！『闘魂炎導2』 3名
デモ画面で猪木と長州の引退式の模様を収録した激ヤバ新作NINTENDO64用ソフト。
【HUDSON提供】

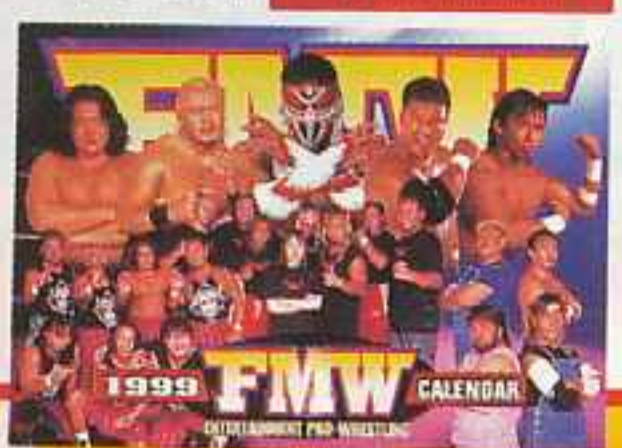
『格闘技世界一決定戦 A・猪木vsミスターX&vsレフトフック・デイトン』 2名
'79年に行われた異種格闘技戦の中でも評価の高い試合と低い試合を一本にまとめたもの。必見！
【東芝EMI提供】

作りが細かい新作フィギュア アリストトリスト蝶野正洋 1名
身長30センチで関節可動、しかもコスチュームは脱着可能な蝶野フィギュア。定価¥12000（税抜）。アリストトリストのペンダント&サングラスの小物付き。
【(株)タカラ提供】

「1998 © NJPW」

FMWからのクリプレだよ!!

ハヤブサTシャツ チーム・ノーリスペクトTシャツ 1名
希望のTシャツを忘れずに書いて！ ハガキを出せば未来は開ける！
【FMW提供】

FMWの新作グッズ 新作パンフ&'99カレンダー セットで1名
来年こそ、本格的にエンターテイメント・レスリングの年になる！ というわけでこの2つをセットにしてあげちゃう！
【FMW提供】

荒井社長レスラーデビュー!!『夏色のナンシー'98』 2名
この夏のFMWの流れが全部わかるビデオ。ディレクTVスタジオマッチも収録。
【東芝EMI提供】

バンバンビガロのクリプレだよ!!

稲妻レッグラリアットTシャツ

ブロディ・フル装備Tシャツ

ブロディ・ギロチンTシャツ

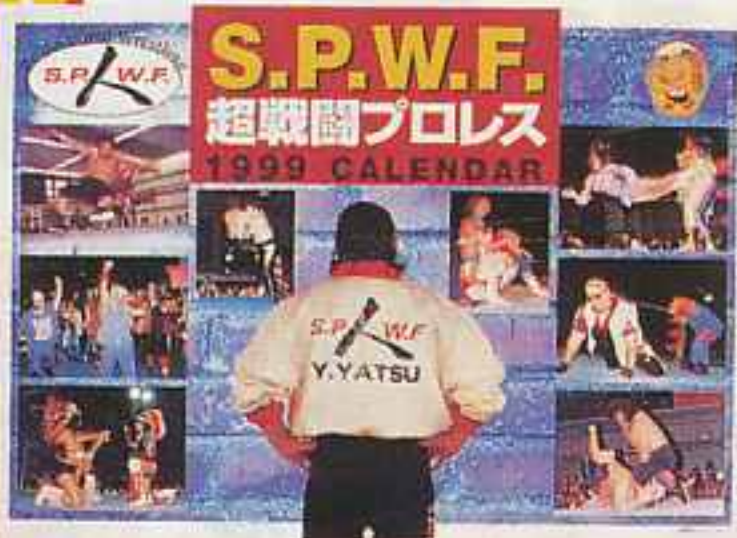
ケンカキックTシャツ

でっかくブロディTシャツ

小さくブロディTシャツ

毎度おなじみバンバンビガロ（☎03-3460-1145 東京都世田谷区北沢2-33-11-2F）。ブロディの新作と、新路線の文字Tシャツが登場！ 今回登場したTシャツはすべて、1名にプレゼント。希望の商品名を忘れずに書くように。
【バンバンビガロ提供】

新作グッズもドド～ンとクリプレだよ!!

「来年は打って出る!!」by谷津親分率いるSPWFカレンダー 5名
超戦闘プロレスとして生まれ変わったSPWFの'99カレンダー。何かが起こるよ！ もらっておいて損はない！
【SPWF提供】

本場メキシコ直輸入!! マスクマン財布 各1名
サント、ドクトル・ワグナー、カネック、ブルーデモンのマスクをあしらった小銭入れ。
【ギャトラックセールス提供】

肌身離さずサスケを持とう サスケ携帯ストラップ 赤or黒 各1名
ヒール転向を果たしてもサスケはSASUKE。ワルSASUKEのグッズも欲しい！
【みちのくプロレス提供】

スゲエかっこいいよ！ ね？ 高田延彦NEWポスター 1名
本誌読者にはおなじみの「虎のガウン」がかっこいいポスター。お問い合せは高田道場（☎03-3755-1444）まで。
【高田道場提供】

NOBUHIKO TAKADA

応募要項

要するに右の要領でハガキを出して、あとはプレゼントが届くのを待つだけ!! なんて簡単なんでしょう？ なお、プレゼントの当選者は発表の商品をもって、発送と？ あれ？ させて？ なんだっけ？ まあ、そういうことです。応募券を貼り忘れないように！ これがないと無効になりますんで、注意してください。で、何だったっけ？ そう、宛先だよ、宛先！

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株) ダブルクロス
『紙のプロレスRADICAL』編集部
「オレがディスコだよ」係まで

応募券

1.住所　2.氏名
3.年齢
4.プレゼント希望商品
5.面白かった記事&理由
6.つまらなかった記事&理由
7.『PRIDE-0』（P116～）の勝者は誰？
8.紙プロで取り上げてほしい団体を1つ挙げて
9.「ぜひ、この人のTシャツを紙プロで作ってほしい」というリクエストを書いて下さい
10.本誌でプロレスコラムを書いてほしいライター

EX『紙プロ』スタッフ活躍中!

金満血統馬券王国 1名
追悼 サイレンススズカ 1名
『紙プロ』本誌のお目付役・斉藤雄一さんが共著した単行本が左。元デザイナーの早乙女トメオ兄さんがデザインで参加したのが右の本。
【『サラブレ』編集部提供】

320ページ大ボリュームで読者の経験を徹底伝授!!
読んだとたんに競馬が待ち遠しくなる。大金が目に浮かんでくる。

帰ってきた

紙のプロレス PRESENTS

青空プロレス道場

「俺がしゃべると大変なことになっちゃうぞ覚悟しとけよ！ なっ!!」

12/23

第5回

アマレスから見たプロレス

ゲスト講師 谷津嘉章先生(SPWF)

興味があるならかかって来い!!

講師:『紙プロ』編集長／山口日昇＋『紙プロ』編集スタッフ(吉田豪、坂井ノブ、松澤チョロ、中村カタブツ君他)＋毎回スペシャル・ゲストが登場!

何が飛び出すかわからない狂乱のプロレス講座『青空プロレス道場』は、早くも中盤に差し掛かりました。本誌でおなじみのプロレス&格闘技界のビッグ・ネームあるいは無名の選手たちが、あなたの目の前で生講義をしちゃいます! 右が今後の予定表ですが、これはあくまでも予定です。

こんなに濃い内容でこのお値段?
納得のバリュー・プライスでご奉仕します!

■受講料:【1回券】3.500円※消費税別

■申込み方法:池袋コミュニティ・カレッジ8F総合受付にて受け付けます。
申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。
定員になり次第締め切らせていただきます。

受付時間は10:00〜18:20 日曜日は18:00まで。
本来、祝祭日は休館ですが12／23は特別にやります!

第2、第4水曜日は『青空プロレス道場』の日!

【青空プロレス道場日程】

内容はあくまでも予定です。当日になって変わってるなんてことは、『紙のプロレス』ならよくあることなので、あらかじめ電話で講義内容を確認してください。もう一度、念を押しときますよ! あ・ら・か・じ・め、電話で講義内容を問い合わせてください。この表を鵜呑みにして、当日になって「話が違う!」って怒られても、受け付けませ〜ん。ま、楽しませる自信はありますけどね。飛び入りで豪華なゲストが来るかもしれないので、気を付けてしてください。

1／13 新春・マット界BIG3そろい踏み
おとそ気分も抜けきらないうちに、『紙プロ』から超ビッグなお年玉爆弾が落とされます。この人たちがいる限りプロレスは永遠に不滅です!

2／24 甦る道場王伝説
超人的なトレーニングをこなし、浴びるほど酒を飲み、道場破りを半殺しにしてきたあの男が、レスラーのあり方とファンタジー溢れる昔話を披露します!

1／27 プロレスファン実力世界一決定戦
どうしてこんなにプロレスファンが冷めてしまったのだろう? 超一流の批評眼とギャグの二刀流を持った、あの人が遂に登場!

3／10 プロレスマスコミの通信簿
「問題多すぎますよ!」とマエダアキラに言われてますが、マスコミ界の元祖問題児が本音で語るマスコミ論! 誰が悪いのか、はっきりさせろ!

2／10 格闘技とプロレスの表裏一体
「強くて、面白いヤツこそが真のプロレスラー」と本誌は定義してみましたが、要するにこの人こそが真のプロレスラーなんですよ!

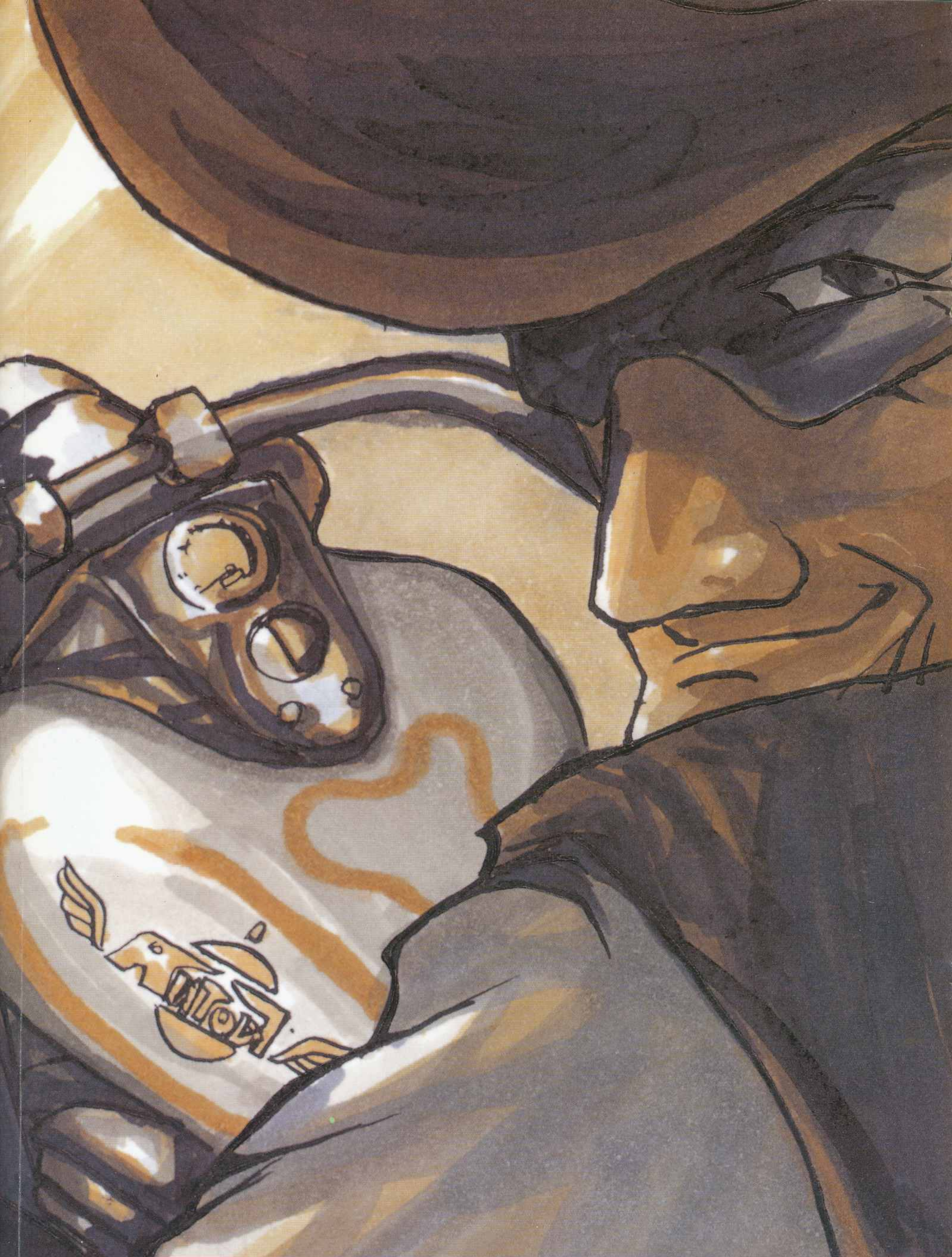
講義時間(18:30〜20:30)
話が盛り上がれば、場所を移して二次会に突入する可能性もアリ! 必ず楽しませてみせます!

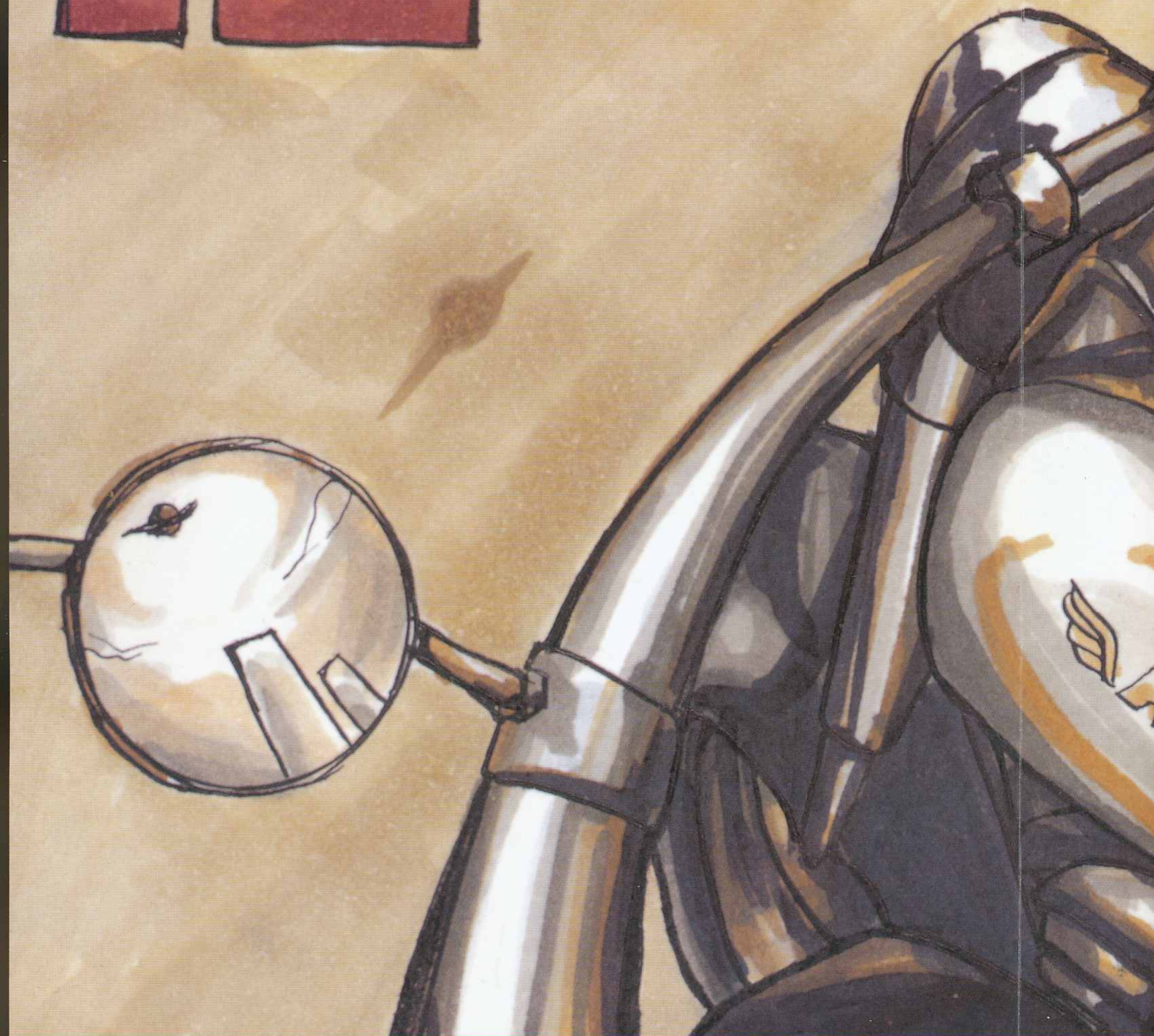
★お問い合わせ池袋コミュニティ・カレッジ TEL.03-3988-9281

紙のプロレス RADICAL
WANI MAGAZIN MOOK 96
1999 No.14
前田日明、最後の大航海!!
世にも元気なプロレス雑誌
平成11年1月10日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体743円＋税

雑誌 69861-96
ISBN4-89829-547-9
C9476 ¥743E
9784898295472
1929476007438
印刷：図書印刷株式会社

祝 バトラーヅ 両国大会大成功記念ポートレート

【モデル：「B—CUP」1回戦を闘ったボブさんと大ちゃんをはべらす、「B—CUP応援ガールズ」のサウスポーの皆さん。♪ファイッ、ファイッ、ファ〜イッ!!（98・11・23両国大会。試合後のフェアウェル・パーティーにて）】

も観音開き）にする**コーナー**

【かつてシルクロードをバイク（無免許）で疾走したこともあるUFO総帥・アントンをモデルにしたと思われる山口県・シャドウ乗り君（17）のイラストから。ンムフフフ】

読者のイラストを勝手にポスター（しかも観音開き